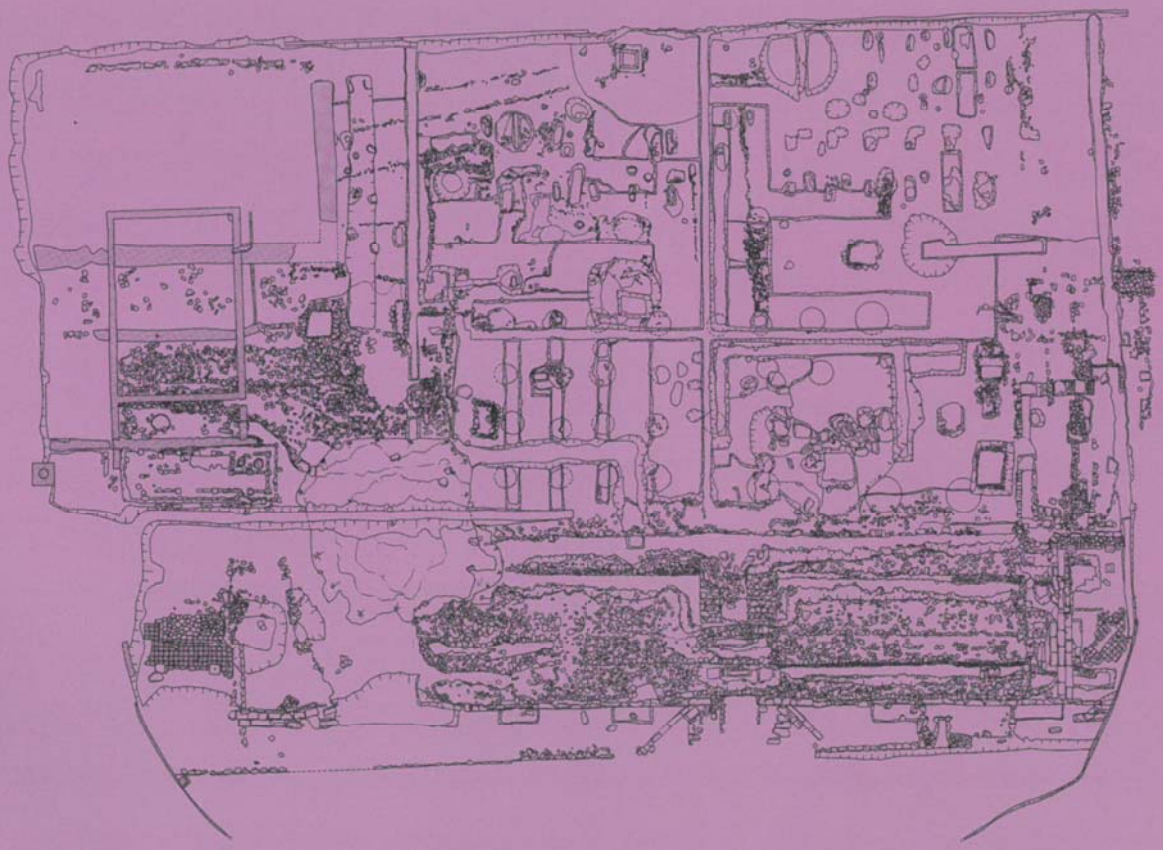
沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第82集

首　里　城　跡

― 正殿地区発掘調査報告書―



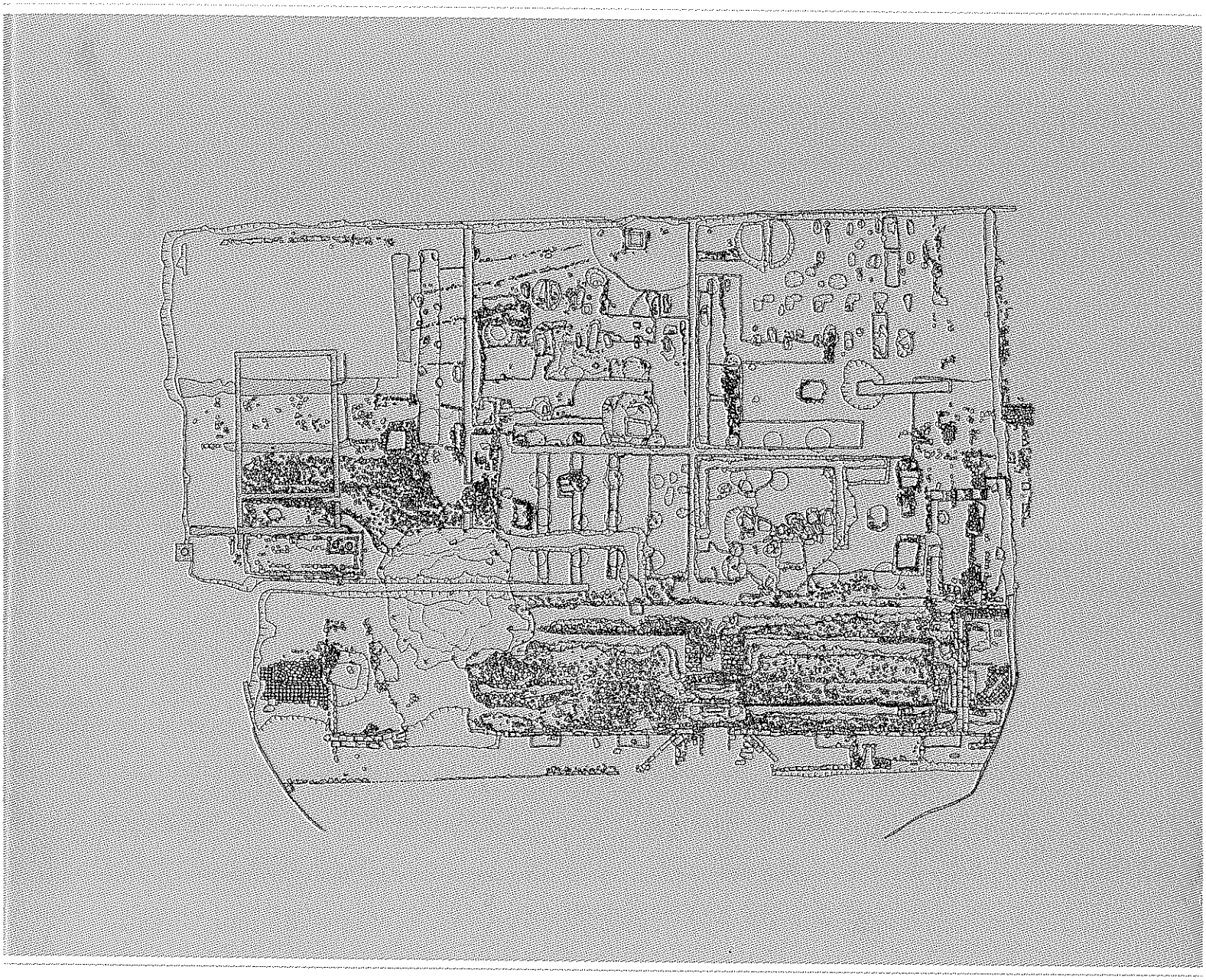
平成28（2016）年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第82集

首　里　城　跡

― 正殿地区発掘調査報告書―



平成28（2016）年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第82集

首　里　城　跡

－正殿地区発掘調査報告書－

平成28（2016）年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

序

本報告書は、沖縄県教育庁文化課が昭和60・61年度に実施した、首里城跡正殿地区の発掘調査の成果をまとめたものです。

本調査における特筆すべき成果としては、正殿建物の基壇を構成する石積みを複数確認したことが挙げられます。この遺構の存在により、正殿は第一尚氏王代から沖縄戦前までの間に少なくとも７回建て替えられ、また建て替えの度に建物の規模が西側へ拡張していったことが明らかになりました。その他にも、雑石を積み上げた方形石組みや、軟弱な地盤を改良するための蝋燭地業、熊本鎮台沖縄分遣隊が駐留した際に構築された厠跡など、様々な遺構が検出されました。

遺物についても、多種多様な資料が大量に出土しました。これらは、首里城で最も重要な施設であった正殿の様相だけでなく、琉球王国の政治及び文化の一端を窺うことができる貴重な発見といえます。

このような成果を掲載した今回の報告書が、首里城はもちろん沖縄県の歴史・文化を理解する資料として活用されるとともに、地域における文化財の保存活用のために役立てば幸いです。

最後に、様々な御指導・御助言・御協力を戴きました諸機関及び関係各位に心から感謝申し上げます。

２０１６（平成２８）年３月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所長　　下地　英輝

例　言

1．本報告書は、沖縄県那覇市首里当蔵町に所在する「史跡　首里城跡」正殿地区の発掘調査及び資料整理の成果をまとめたものである。

2．発掘調査は昭和60・61年度に実施し、資料整理及び報告書作成は昭和62～平成3年度、平成21・22・27年度に実施した。

3．本業務は、昭和60～平成3年度までは沖縄県の単独事業として沖縄県教育庁文化課が実施し、平成21・22・27年度は内閣府沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所が沖縄県と委託契約を交わし、沖縄県教育委員会の指導のもと、沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した。

4．発掘調査及び資料整理に際して、以下の諸氏や機関に協力・指導・助言等を戴いた。記して謝意を表する。
（五十音順、敬称略　※所属名は当時）
上原　静（沖縄国際大学）、大橋　康二（佐賀県立九州陶磁文化館）、久保　智康（京都国立博物館）、
新郷　英弘（芦屋釜の里）、當眞　嗣一（グスク研究所）、向井　亙（金沢大学国際文化資源学研究センター）、
森　達也（愛知県陶磁美術館）、矢島　律子（町田市立博物館）、渡辺芳郎（鹿児島大学）
史跡首里城跡整備委員会、内閣府沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所、首里城復元検討委員会

5．本書の編集は、当センター職員の協力を得て新垣力が行った。執筆分担は下記の通りである。なお、第3章第3節については當眞嗣一・上原静両氏の報告（1986年「首里城正殿跡の調査」『月刊文化財№269』、1987年「首里城正殿跡の発掘調査」『紀要第4号』、1988年「51　沖縄県首里城正殿跡」『日本考古学年報39』）に多くを依拠しているが、解釈等に誤りがある場合は編集担当の責任である。
新垣　力…第1章、第2章、第3章第1節・第3節・第4節1③～⑥・2～4・9・18、第4章
山本　正昭…第3章第4節1①・②・13
亀島　慎吾…第3章第4節5・6
新垣　有一郎…第3章第4節7・8
大堀　皓平…第3章第4節10～12・14～17
上原　静…第3章第2節・第3節、第4節7・8・13
當眞　嗣一…第3章第3節

6．本書に掲載した写真は、発掘調査状況を當眞嗣一・上原静が、遺物を矢船章浩・領家範夫が主に撮影した。

7．発掘調査で得られた遺物及び実測図・写真等の記録は、全て沖縄県立埋蔵文化財センターにて保管している。

目　次

序
例言
第１章　経緯と経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査・整理の体制 …… 1
　第３節　調査・整理の経過 …… 2
第２章　遺跡の位置と環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　調査の方法と成果 …… 11
　第１節　調査の方法 …… 11
　第２節　層序 …… 11
　第３節　遺構 …… 21
　第４節　遺物 …… 37
　　１　中国産陶磁器・土器 …… 37
　　①青磁 …… 37　④褐釉陶器 …… 90
　　②白磁 …… 61　⑤無釉陶器 …… 90
　　③青花 …… 66　⑥その他の陶磁器・土器 …… 95
　　２　その他の輸入陶磁器・土器 …… 102
　　①タイ産陶磁器・土器 …… 102　③朝鮮産陶磁器 …… 102
　　②ベトナム産陶磁器 …… 102
　　３　本土産陶磁器 …… 111
　　４　沖縄産陶器・土器 …… 126
　　①施釉陶器 …… 126　③陶質土器 …… 159
　　②無釉陶器 …… 143　④瓦質土器 …… 159
　　５　カムィヤキ …… 159
　　６　土器 …… 159
　　７　瓦 …… 168
　　８　塼 …… 172
　　９　銭貨 …… 234
　　10　煙管 …… 234
　　11　玉類 …… 257
　　12　円盤状製品 …… 258
　　13　金属製品 …… 261
　　14　石製品 …… 290
　　15　骨製品 …… 319
　　16　土製品 …… 320
　　17　ガラス製品 …… 321
　　18　自然遺物 …… 322
　　①貝類遺体 …… 322　②脊椎動物遺体 …… 326
第４章　総括 …… 333
報告書抄録

図目次

第1図　沖縄本島の位置……5
第2図　首里城跡の位置と周辺の遺跡……6
第3図　首里城跡の史跡指定範囲と調査区……7
第4図　首里城絵図(17世紀後半～18世紀前半作成)にみる調査区……8
第5図　首里古地図(18世紀初頭作成)にみる調査区……8
第6図　沖縄県首里旧城図(明治初期作成)にみる調査区……9
第7図　旧首里城熊本鎮台沖縄分遣隊配置図にみる調査区……9
第8図　旧首里城図(昭和6年頃作成)にみる調査区……10
第9図　旧琉球大学校舎配置図(1950～1984年)にみる調査区……10
第10図　グリッド設定図……13
第11図　層序……15
第12図　見通し断面図1……17
第13図　見通し断面図2……19
第14図　遺構配置図……20
第15図　Ⅰ～Ⅶ期基壇重ね図……23
第16図　Ⅰ期基壇……24
第17図　Ⅱ期基壇……25
第18図　Ⅲ期基壇……26
第19図　Ⅳ期基壇……27
第20図　Ⅴ期基壇……28
第21図　Ⅵ期基壇……29
第22図　Ⅶ期基壇……30
第23図　その他の遺構1(SW1・2)……31
第24図　その他の遺構2(SW3～6)……32
第25図　その他の遺構3(SW7～10)……33
第26図　その他の遺構4(SW11～13)……34
第27図　その他の遺構5(SW17・SP3)……35
第28図　その他の遺構6(SP1・2)……36
第29図　中国産陶磁器・土器1(青磁1)……39
第30図　中国産陶磁器・土器2(青磁2)……41
第31図　中国産陶磁器・土器3(青磁3)……43
第32図　中国産陶磁器・土器4(青磁4)……45
第33図　中国産陶磁器・土器5(青磁5)……47
第34図　中国産陶磁器・土器6(青磁6)……49
第35図　中国産陶磁器・土器7(青磁7)……51
第36図　中国産陶磁器・土器8(青磁8)……53
第37図　中国産陶磁器・土器9(青磁9)……55
第38図　中国産陶磁器・土器10(青磁10)……57
第39図　中国産陶磁器・土器11(青磁11)……59
第40図　中国産陶磁器・土器12(白磁1)……62
第41図　中国産陶磁器・土器13(白磁2)……64
第42図　中国産陶磁器・土器14(青花1)……67
第43図　中国産陶磁器・土器15(青花2)……69
第44図　中国産陶磁器・土器16(青花3)……71
第45図　中国産陶磁器・土器17(青花4)……73
第46図　中国産陶磁器・土器18(青花5)……75
第47図　中国産陶磁器・土器19(青花6)……77
第48図　中国産陶磁器・土器20(青花7)……79
第49図　中国産陶磁器・土器21(青花8)……81
第50図　中国産陶磁器・土器22(青花9)……83
第51図　中国産陶磁器・土器23(青花10)……85
第52図　中国産陶磁器・土器24(青花11)……87
第53図　中国産陶磁器・土器25(青花12)……89
第54図　中国産陶磁器・土器26(褐釉陶器1)……91
第55図　中国産陶磁器・土器27(褐釉陶器2、無釉陶器)……93
第56図　中国産陶磁器・土器28(その他の陶磁器・土器1)……96
第57図　中国産陶磁器・土器29(その他の陶磁器・土器2)……98
第58図　中国産陶磁器・土器30(その他の陶磁器・土器3)……100
第59図　その他の輸入陶磁器1(タイ産陶磁器・土器1)……103
第60図　その他の輸入陶磁器2(タイ産陶磁器・土器2)……105
第61図　その他の輸入陶磁器3(ベトナム産陶磁器、朝鮮産陶磁器1)……107
第62図　その他の輸入陶磁器4(朝鮮産陶磁器2)……109
第63図　本土産陶磁器1……112
第64図　本土産陶磁器2……114
第65図　本土産陶磁器3……116
第66図　本土産陶磁器4……118
第67図　本土産陶磁器5……120
第68図　本土産陶磁器6……122
第69図　本土産陶磁器7……124
第70図　沖縄産陶器・土器1(施釉陶器1)……127
第71図　沖縄産陶器・土器2(施釉陶器2)……129
第72図　沖縄産陶器・土器3(施釉陶器3)……131
第73図　沖縄産陶器・土器4(施釉陶器4)……133
第74図　沖縄産陶器・土器5(施釉陶器5)……135
第75図　沖縄産陶器・土器6(施釉陶器6)……137
第76図　沖縄産陶器・土器7(施釉陶器7)……139
第77図　沖縄産陶器・土器8(施釉陶器8)……141
第78図　沖縄産陶器・土器9(無釉陶器1)……144
第79図　沖縄産陶器・土器10(無釉陶器2)……146
第80図　沖縄産陶器・土器11(無釉陶器3)……148
第81図　沖縄産陶器・土器12(無釉陶器4)……150
第82図　沖縄産陶器・土器13(無釉陶器5)……152
第83図　沖縄産陶器・土器14(無釉陶器6)……154
第84図　沖縄産陶器・土器15(無釉陶器7)……156
第85図　沖縄産陶器・土器16(無釉陶器8)……157
第86図　沖縄産陶器・土器17(陶質土器)……160
第87図　沖縄産陶器・土器18(瓦質土器1)……162
第88図　沖縄産陶器・土器19(瓦質土器2)……164
第89図　沖縄産陶器・土器20(瓦質土器3)、カムイヤキ、土器……166
第90図　明朝系軒丸瓦分類一覧……170
第91図　明朝系軒平瓦分類一覧……170
第92図　瓦1(明朝系瓦1)……175
第93図　瓦2(明朝系瓦2)……177
第94図　瓦3(明朝系瓦3)……179
第95図　瓦4(明朝系瓦4)……181
第96図　瓦5(明朝系瓦5)……182
第97図　瓦6(明朝系瓦6)……183
第98図　瓦7(明朝系瓦7)……185
第99図　瓦8(明朝系瓦8)……187
第100図　瓦9(明朝系瓦9)……189
第101図　瓦10(明朝系瓦10)……191
第102図　瓦11(明朝系瓦11・大和系瓦1)……193
第103図　瓦12(大和系瓦2)……195
第104図　瓦13(大和系瓦3)……197
第105図　瓦14(大和系瓦4)……199
第106図　瓦15(大和系瓦5)……201
第107図　瓦16(大和系瓦6)……203
第108図　瓦17(大和系瓦7)……205
第109図　瓦18(大和系瓦8)……207
第110図　瓦19(大和系瓦9)……209
第111図　瓦20(大和系瓦10)……211
第112図　瓦21(大和系瓦11)……213
第113図　瓦22(大和系瓦12・高麗系瓦1)……215
第114図　瓦23(高麗系瓦2・明朝系12)……217
第115図　瓦24(明朝系瓦13)……219
第116図　塼1……221
第117図　塼2……223
第118図　塼3……225
第119図　塼4……227
第120図　塼5……229
第121図　塼6……231
第122図　塼7……233
第123図　煙管の部位名称……234
第124図　煙管の分類……234
第125図　銭貨1……235
第126図　銭貨2……237
第127図　銭貨3……239
第128図　銭貨4……241
第129図　銭貨5……243
第130図　銭貨6……245
第131図　銭貨7……247
第132図　銭貨8……249
第133図　銭貨9……251
第134図　銭貨10……253
第135図　煙管……255
第136図　玉類……257
第137図　円盤状製品1……258
第138図　円盤状製品2……259
第139図　金属製品1……264
第140図　金属製品2……266
第141図　金属製品3……268
第142図　金属製品4……270
第143図　金属製品5……272
第144図　金属製品6……274
第145図　金属製品7……276
第146図　金属製品8……278
第147図　金属製品9……280
第148図　金属製品10……282
第149図　金属製品11……284
第150図　金属製品12……286
第151図　金属製品13……288
第152図　石製品1……291
第153図　石製品2……293
第154図　石製品3……295
第155図　石製品4……297
第156図　石製品5……299

図目次

第157図 石製品6 …… 301
第158図 石製品7 …… 303
第159図 石製品8 …… 305
第160図 石製品9 …… 307
第161図 石製品10 …… 309
第162図 石製品11 …… 311
第163図 石製品12 …… 313
第164図 石製品13 …… 316
第165図 石製品14・弾 …… 318
第166図 骨製品 …… 319
第167図 土製品 …… 320
第168図 ガラス製品 …… 321

図版目次

図版1 中国産陶磁器・七器1(青磁1) …… 40
図版2 中国産陶磁器・土器2(青磁2) …… 42
図版3 中国産陶磁器・土器3(青磁3) …… 44
図版4 中国産陶磁器・土器4(青磁4) …… 46
図版5 中国産陶磁器・土器5(青磁5) …… 48
図版6 中国産陶磁器・土器6(青磁6) …… 50
図版7 中国産陶磁器・土器7(青磁7) …… 52
図版8 中国産陶磁器・土器8(青磁8) …… 54
図版9 中国産陶磁器・土器9(青磁9) …… 56
図版10 中国産陶磁器・土器10(青磁10) …… 58
図版11 中国産陶磁器・土器11(青磁11) …… 60
図版12 中国産陶磁器・土器12(白磁1) …… 63
図版13 中国産陶磁器・土器13(白磁2) …… 65
図版14 中国産陶磁器・土器14(青花1) …… 68
図版15 中国産陶磁器・土器15(青花2) …… 70
図版16 中国産陶磁器・土器16(青花3) …… 72
図版17 中国産陶磁器・土器17(青花4) …… 74
図版18 中国産陶磁器・土器18(青花5) …… 76
図版19 中国産陶磁器・土器19(青花6) …… 78
図版20 中国産陶磁器・土器20(青花7) …… 80
図版21 中国産陶磁器・土器21(青花8) …… 82
図版22 中国産陶磁器・土器22(青花9) …… 84
図版23 中国産陶磁器・土器23(青花10) …… 86
図版24 中国産陶磁器・土器24(青花11) …… 88
図版25 中国産陶磁器・土器25(青花12) …… 89
図版26 中国産陶磁器・土器26(褐釉陶器1) …… 92
図版27 中国産陶磁器・土器27(褐釉陶器2、無釉陶器) …… 94
図版28 中国産陶磁器・土器28(その他の陶磁器・土器1) …… 97
図版29 中国産陶磁器・土器29(その他の陶磁器・土器2) …… 99
図版30 中国産陶磁器・土器30(その他の陶磁器・土器3) …… 101
図版31 その他の輸入陶磁器1(タイ産陶磁器・土器1) …… 104
図版32 その他の輸入陶磁器2(タイ産陶磁器・土器2) …… 106
図版33 その他の輸入陶磁器3(ベトナム産陶磁器、朝鮮産陶磁器1) …… 108
図版34 その他の輸入陶磁器4(朝鮮産陶磁器2) …… 110
図版35 本土産陶磁器1 …… 113
図版36 本土産陶磁器2 …… 115
図版37 本土産陶磁器3 …… 117
図版38 本土産陶磁器4 …… 119
図版39 本土産陶磁器5 …… 121
図版40 本土産陶磁器6 …… 123
図版41 本土産陶磁器7 …… 125
図版42 沖縄産陶器・土器1(施釉陶器1) …… 128
図版43 沖縄産陶器・土器2(施釉陶器2) …… 130
図版44 沖縄産陶器・土器3(施釉陶器3) …… 132
図版45 沖縄産陶器・土器4(施釉陶器4) …… 134
図版46 沖縄産陶器・土器5(施釉陶器5) …… 136
図版47 沖縄産陶器・土器6(施釉陶器6) …… 138
図版48 沖縄産陶器・土器7(施釉陶器7) …… 140
図版49 沖縄産陶器・土器8(施釉陶器8) …… 142
図版50 沖縄産陶器・土器9(無釉陶器1) …… 145
図版51 沖縄産陶器・土器10(無釉陶器2) …… 147
図版52 沖縄産陶器・土器11(無釉陶器3) …… 149
図版53 沖縄産陶器・土器12(無釉陶器4) …… 151
図版54 沖縄産陶器・土器13(無釉陶器5) …… 153
図版55 沖縄産陶器・土器14(無釉陶器6) …… 155
図版56 沖縄産陶器・土器15(無釉陶器7) …… 158
図版57 沖縄産陶器・土器16(陶質土器) …… 161
図版58 沖縄産陶器・土器17(瓦質土器1) …… 163
図版59 沖縄産陶器・土器18(瓦質土器2) …… 165
図版60 沖縄産陶器・土器19(瓦質土器3)、カムイヤキ、土器 …… 167
図版61 瓦1(明朝系瓦1) …… 176
図版62 瓦2(明朝系瓦2) …… 178
図版63 瓦3(明朝系瓦3) …… 180
図版64 瓦4(明朝系瓦4) …… 184
図版65 瓦5(明朝系瓦5) …… 186
図版66 瓦6(明朝系瓦6) …… 188
図版67 瓦7(明朝系瓦7) …… 190
図版68 瓦8(明朝系瓦8) …… 192
図版69 瓦9(明朝系瓦9・大和系瓦1) …… 194
図版70 瓦10(大和系瓦2) …… 196
図版71 瓦11(大和系瓦3) …… 198
図版72 瓦12(大和系瓦4) …… 200
図版73 瓦13(大和系瓦5) …… 202
図版74 瓦14(大和系瓦6) …… 204
図版75 瓦15(大和系瓦7) …… 206
図版76 瓦16(大和系瓦8) …… 208
図版77 瓦17(大和系瓦9) …… 210
図版78 瓦18(大和系瓦10) …… 212
図版79 瓦19(大和系瓦11) …… 214
図版80 瓦20(大和系瓦12・高麗系瓦1) …… 216
図版81 瓦21(高麗系瓦2・明朝系瓦10) …… 218
図版82 瓦22(明朝系瓦11) …… 220
図版83 塼1 …… 222
図版84 塼2 …… 224
図版85 塼3 …… 226
図版86 塼4 …… 228
図版87 塼5 …… 230
図版88 塼6 …… 232
図版89 塼7 …… 233
図版90 銭貨1 …… 236
図版91 銭貨2 …… 238
図版92 銭貨3 …… 240
図版93 銭貨4 …… 242
図版94 銭貨5 …… 244
図版95 銭貨6 …… 246
図版96 銭貨7 …… 248
図版97 銭貨8 …… 250
図版98 銭貨9 …… 252
図版99 銭貨10 …… 254
図版100 煙管 …… 256
図版101 玉類 …… 257
図版102 円盤状製品1 …… 258
図版103 円盤状製品2 …… 260
図版104 金属製品1 …… 265
図版105 金属製品2 …… 267
図版106 金属製品3 …… 269
図版107 金属製品4 …… 271
図版108 金属製品5 …… 273
図版109 金属製品6 …… 275
図版110 金属製品7 …… 277
図版111 金属製品8 …… 279
図版112 金属製品9 …… 281
図版113 金属製品10 …… 283
図版114 金属製品11 …… 285
図版115 金属製品12 …… 287
図版116 金属製品13 …… 289
図版117 石製品1 …… 292
図版118 石製品2 …… 294
図版119 石製品3 …… 296
図版120 石製品4 …… 298
図版121 石製品5 …… 300
図版122 石製品6 …… 302
図版123 石製品7 …… 304
図版124 石製品8 …… 306
図版125 石製品9 …… 308
図版126 石製品10 …… 310
図版127 石製品11 …… 312
図版128 石製品12 …… 314
図版129 石製品13 …… 315
図版130 石製品14 …… 317
図版131 石製品15、弾 …… 318
図版132 骨製品 …… 319
図版133 土製品 …… 320
図版134 ガラス製品 …… 321

図版目次

図版135 貝類遺体1……323
図版136 貝類遺体2……324
図版137 貝類遺体3……325
図版138 脊椎動物遺体1……327
図版139 脊椎動物遺体2……328
図版140 脊椎動物遺体3……329
図版141 脊椎動物遺体4……330
図版142 脊椎動物遺体5……331
図版143 脊椎動物遺体6……332
図版144 空中写真1……339
図版145 空中写真2……340
図版146 空中写真3……341
図版147 空中写真4……342
図版148 着手前状況1……343
図版149 着手前状況2……344
図版150 発掘調査状況1……345
図版151 発掘調査状況2……346
図版152 発掘調査状況3……347
図版153 発掘調査状況4……348
図版154 発掘調査状況5……349
図版155 発掘調査状況6……350
図版156 発掘調査状況7……351
図版157 発掘調査状況8……352
図版158 発掘調査状況9……353
図版159 発掘調査状況10……354
図版160 発掘調査状況11……355
図版161 発掘調査状況12……356
図版162 発掘調査状況13……357
図版163 発掘調査状況14……358
図版164 発掘調査状況15……359
図版165 発掘調査状況16……360
図版166 発掘調査状況17……361
図版167 発掘調査状況18……362
図版168 発掘調査状況19……363
図版169 発掘調査状況20……364
図版170 発掘調査状況21……365
図版171 発掘調査状況22……366
図版172 発掘調査状況23……367
図版173 発掘調査状況24……368
図版174 発掘調査状況25……369
図版175 発掘調査状況26……370
図版176 発掘調査状況27……371
図版177 発掘調査状況28……372
図版178 発掘調査状況29……373
図版179 発掘調査状況30……374
図版180 発掘調査状況31……375
図版181 発掘調査状況32……376
図版182 発掘調査状況33……377
図版183 発掘調査状況34……378
図版184 発掘調査状況35……379
図版185 発掘調査状況36……380
図版186 発掘調査状況37……381
図版187 発掘調査状況38……382
図版188 発掘調査状況39……383
図版189 発掘調査状況40……384
図版190 発掘調査状況41……385
図版191 発掘調査状況42……386
図版192 発掘調査状況43……387
図版193 発掘調査状況44……388
図版194 発掘調査状況45……389
図版195 発掘調査状況46……390
図版196 発掘調査状況47……391
図版197 発掘調査状況48……392
図版198 発掘調査状況49……393
図版199 発掘調査状況50……394
図版200 発掘調査状況51……395
図版201 発掘調査状況52……396
図版202 発掘調査状況53……397

表目次

第1表 青磁集計表……CD収録
第2表 青磁観察一覧……CD収録
第3表 白磁集計表……CD収録
第4表 白磁観察一覧……CD収録
第5表 青花集計表……CD収録
第6表 青花観察一覧……CD収録
第7表 褐釉陶器集計表……CD収録
第8表 褐釉陶器観察一覧……CD収録
第9表 無釉陶器集計表……CD収録
第10表 無釉陶器観察一覧……CD収録
第11表 その他の中国産陶磁器・土器集計表……CD収録
第12表 その他の中国産陶磁器・土器観察一覧……CD収録
第13表 タイ産陶磁器・土器集計表……CD収録
第14表 タイ産陶磁器・土器観察一覧……CD収録
第15表 ベトナム産陶磁器集計表……CD収録
第16表 ベトナム産陶磁器観察一覧……CD収録
第17表 朝鮮産陶磁器集計表……CD収録
第18表 朝鮮産陶磁器観察一覧……CD収録
第19表 本土産陶磁器集計表……CD収録
第20表 本土産陶磁器観察一覧……CD収録
第21表 沖縄産施釉陶器集計表……CD収録
第22表 沖縄産施釉陶器観察一覧……CD収録
第23表 沖縄産無釉陶器集計表……CD収録
第24表 沖縄産無釉陶器観察一覧……CD収録
第25表 陶質土器集計表……CD収録
第26表 陶質土器観察一覧……CD収録
第27表 瓦質土器集計表……CD収録
第28表 瓦質土器観察一覧……CD収録
第29表 カムイヤキ集計表……CD収録
第30表 カムイヤキ観察一覧……CD収録
第31表 土器集計表……CD収録
第32表 土器観察一覧……CD収録
第33表 瓦集計表……CD収録
第34表 瓦観察一覧……CD収録
第35表 塼集計表……CD収録
第36表 塼観察一覧……CD収録
第37表 銭貨集計表……CD収録
第38表 銭貨観察一覧……CD収録
第39表 煙管集計表……CD収録
第40表 煙管観察一覧……CD収録
第41表 煙管の形状・素材別数量一覧……CD収録
第42表 玉類集計表……CD収録
第43表 玉類観察一覧……CD収録
第44表 円盤状製品集計表……CD収録
第45表 円盤状製品の分類別出土点数及び割合一覧…… 258
第46表 円盤状製品観察一覧……CD収録
第47表 金属製品集計表……CD収録
第48表 金属製品観察一覧……CD収録
第49表 石製品集計表……CD収録
第50表 石製品観察一覧……CD収録
第51表 骨製品集計表……CD収録
第52表 骨製品観察一覧……CD収録
第53表 土製品集計表……CD収録
第54表 土製品観察一覧……CD収録
第55表 ガラス製品集計表……CD収録
第56表 ガラス製品観察一覧……CD収録
第57表 貝類遺体等集計表……CD収録
第58表 貝類遺体等種別一覧…… 322
第59表 貝類の生息場所類型(黒住1987より作成)…… 322
第60表 脊椎動物遺体集計表……CD収録
第61表 脊椎動物遺体種別一覧…… 326

第１章　経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

首里城跡の復元整備は、沖縄県本土復帰の年である昭和47（1972）年に、沖縄県教育庁文化課（以下、文化課）が戦災文化財復元整備事業として歓会門及び周辺城壁の整備に着手したことを嚆矢とする。沖縄戦で灰燼に帰した首里城の復元は県民の悲願であり、以後も官民の連携した取り組みで久慶門などの復元及び修理工事が進められたが、沖縄戦後に建設された琉球大学の移転に伴い、その跡地利用法として首里城一帯の公園化が有力となったため、これまでの城門や城壁に加えて、正殿を含む城郭内側区域の復元整備を行う気運が高まった。国も昭和57（1982）年に決定した第二次沖縄振興開発計画の中で、「首里城跡一帯の歴史的風土を生かしつつ、公園としてふさわしい範囲について整備を検討する」と提言し、それを受けて沖縄県土木建築部は昭和59（1984）年に復元整備の指針となる「首里城公園基本計画」を策定した（首里城公園基本計画調査委員会1984）。

文化課も上記の流れに呼応するように、同年度に発足した史跡首里城跡整備委員会（以下、整備委員会）で整備基本構想の検討に着手した。整備委員会では正殿の復元や首里城跡の遺構調査を含む様々な事項を調査・審議し、特に後者に関しては、事前の発掘調査に基づく復元整備を行うこととの基本的条件を示した（史跡首里城跡整備委員会1998）。この提言に沿う形で、文化課は昭和60（1985）年度から県単独事業による首里城跡正殿地区（以下、正殿地区）の発掘調査を開始した。

第２節　調査・整理の体制

発掘調査は昭和60・61年度に文化課が実施した。資料整理は発掘調査終了後の昭和62年度から文化課により断続的に進められてきたが、報告書作成に係る本格的な業務は、沖縄県教育庁文化財課の指導のもと、平成27年度に沖縄県立埋蔵文化財センター（以下、当センター）が実施した。以下に体制の詳細を記す。

発掘調査（昭和60・61年度）

事業主体：沖縄県教育委員会　教育長　米村幸政（昭和60年度）、池田光男（昭和61年度）
事業所管：沖縄県教育庁文化課長　比嘉賀幸（昭和60・61年度）
課長補佐　西平守勝（昭和60・61年度）、糸数兼治（昭和60年度）
文化振興係長　大城真幸（昭和60年度）、小橋川順市（昭和61年度）
調査担当…文化財班　主任専門員　當眞嗣一（昭和60年度）、専門員　上原靜（昭和60年度）
文化財係長　當眞嗣一（昭和61年度）、専門員　上原靜（昭和61年度）
調査補助…文化財調査嘱託員　島袋聖子（昭和60・61年度）

資料整理・報告書作成（昭和62・63年度、平成元～３・21・22・27年度）

事業主体：沖縄県教育委員会　教育長　池田光男（昭和62年度）、高良清敏（昭和63～平成２年度）、
津留健二（平成３年度）、金武正八郎（平成21・22年度）、
諸見里明（平成27年度）
沖縄県教育庁文化課長　比嘉賀幸（昭和62年度）、宜保榮次郎（昭和63～平成３年度）、
大城慧（平成21・22年度）
課長補佐　当間一郎（昭和62・63年度）、平田與進（平成元年度）、
上江洲均（平成元・２年度）、伊佐眞一（平成２・３年度）、
知念勇（平成３年度）
文化振興係長　小橋川順市（昭和62・63年度）、仲里哲雄（平成元～３年度）

総括…主幹兼文化財係長　當眞嗣一（昭和62・63年度）、
主幹兼埋蔵文化財係長　安里嗣淳（平成元・２年度）、埋蔵文化財係長　大城慧（平成３年度）
資料整理担当…専門員　上原靜（昭和62～平成元年度）、主任専門員　上原靜（平成２・３年度）
沖縄県教育庁文化財課長　萩尾俊章（平成27年度）
記念物班　班長　島袋洋（平成21・22年度）、
副参事兼班長　金城亀信（平成27年度）
指導主事　久高健（平成21・22年度）、主任専門員　長嶺均（平成27年度）
事業所管：沖縄県立埋蔵文化財センター　参事兼所長　玉栄直（平成21年度）、
所長　守内泰三（平成22年度）、下地英輝（平成27年度）、
副参事　盛本勲（平成27年度）
総務班　班長　嘉手苅勤（平成21・22年度）、新垣勝弘（平成27年度）
主任　村吉由美子（平成21年度）、主査　本永恵（平成22年度）、
新里靖・比嘉睦（平成27年度）
総括…調査班　班長　金城亀信（平成21・22年度）、上地博（平成27年度）
資料整理担当…主任　新垣力（平成21・22・27年度）・知念隆博（平成21・22年度）
主任専門員　山本正昭、主任　大堀皓平、専門員　亀島慎吾（平成27年度）
資料整理補助…臨時的任用専門員　新垣有一郎（平成27年度）
資料整理作業員・埋蔵文化財資料整理嘱託員（平成21・22・27年度）
安里綾子・新垣利津代・新垣裕子・伊佐えりな・喜屋武朋子・久貝祐子・砂川みなみ・平良貴子・
玉城実子・知花香織・仲村綾乃・並里千佳・比嘉紗恵里・譜久村泰子・又吉純子・宮城友美・
宮里美也子・矢舟章浩・山城由紀子・領家範夫
印刷製本　有限会社金城印刷

第３節　調査・整理の経過

発掘調査

前節で述べたように、正殿地区の発掘調査は昭和 60・61 年度の２ヶ年にわたって進められた。調査予定範囲1,350 ㎡のうち、昭和60年度は正殿正面側270 ㎡、昭和61年度は残りの1,080 ㎡を対象とし、期間は前者が７月～10 月までの約４ヶ月間、後者が７月～翌年３月までの約９ヶ月間をそれぞれ要した。また昭和60年度は一般県民にも発掘調査への参加を募り、最終的に延べ400人（うち大人102人・児童生徒298人）が現場での作業に従事した。その他、昭和60年度には本調査と並行して、正殿建物の位置把握を目的に調査予定地の四隅で確認調査も実施した。

資料整理・報告書作成

遺構図面や写真の整理を先行して進め、平成３（1991）年度に遺構写真を主体とする調査記録を刊行したが、膨大な量の出土遺物については将来に向けて洗浄・注記・分類等の基礎整理や実測及びトレース作業を断続的に行っていた。その後、内閣府沖縄総合事務局沖縄記念公園事務所の協力により、平成27年度から本格的な資料整理が実施できることとなった。業務内容は編集及び原稿執筆を主とし、これまでに作成した実測図の修正・追加等は最低限に留めた。文字原稿や写真も含めてパソコンの編集ソフト（インデザイン）にてＤＴＰ印刷用の編集を行い、最終的には全てＰＤＦファイルとして作成し、印刷製本業者へ入稿した。

印刷製本業務は、当センターにおいて県内印刷業者の割り振りを行ったうえで、12社による指名競争入札を実施し、落札した有限会社金城印刷が担当した。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

首里城は那覇市の東側、首里当蔵町３丁目１番地に所在する。首里台地と称される標高 100m前後の琉球石灰岩丘陵上に築かれており、東西 410m、南北 273m、面積 46,167 ㎡を誇る県下最大規模のグスクである。東側に那覇市の最高所（標高 165.7m）である弁ヶ嶽がそびえ、多くの河川が首里城を取り巻くように配されるなど、すぐれた風水思想に基づいた王都に相応しい環境が整えられている。この丘陵の南側には、安里川の浸食により比高差 70～80mの比較的急な斜面が形成され、地形を利用した掘り込み式の古墓が点在している。

首里城周辺の地質の特徴として、前述した琉球石灰岩の下層に新第三紀鮮新世の砂岩・泥岩からなる島尻層群が基盤となっている点が挙げられる。スポンジ状の構造で高い透水性を有する琉球石灰岩と、不透水層である島尻層群が組み合わされることにより、首里の各地では両者の不整合部分からの湧水が多数確認されている。

首里城内の基盤層も例に漏れず、琉球石灰岩や赤土（島尻マージ）と島尻層群に大別される。今回調査区の「正殿地区」は琉球石灰岩を基盤層に持つと考えられるが、現況の地表面はグスク時代に客土で平場を造成した結果であることが判明している。

第２節　歴史的環境

現在のところ、首里城の創建について明確に触れている史料は確認されていない。察度 43（1392）年に察度王が建造したと伝わる数十丈の高楼（高世層理殿）を首里城内の施設とする説もあるが、より信頼性の高いものとしては「安国山樹華木之記碑」が挙げられる。尚巴志６（1427）年に建てられたこの碑文には、首里城北西側で人工池の龍潭を掘り安国山に華樹を植えたとの記述がみられるため、尚巴志王代（1422～1439 年）に周辺の整備を行えるような状況であったこと、つまり当該期に王城としての基本的な構造が確立していた可能性は高い。そして尚真・尚清王代（1477～1555 年）には外郭の拡張や周辺施設の整備が進み、現在のような姿に近づいていったと推定される。

今回調査区の「正殿地区」は、かつて琉球国の政治及び儀礼を司る中枢施設「正殿」が存在した場所である。正殿の規模は『首里城正殿実施設計報告書』によると、約 1.9mの基壇上に築かれた正面約 29m×側面約 17m・二層三階の高さ約 16mの木造建物で、正面約 14.4m・奥行約２mの玄関部分を取り付け、さらにその中央に唐破風様式の向拝（正面約 9.2m・奥行約 2.3m）が敷設される。これらは尚育 12（1846）年に実施された最後の正殿重修記録をまとめた尚家文書を参考にしているが、『李朝実録』にみられる朝鮮人梁成等の見聞録（高良 1988・1996、池谷・内田・高瀬 2005）や、明代の鄭若曾が著した『鄭開陽雑著』所収の琉球国図（沖縄県史料編集室 2003）にも同様の建物が登場するため、二層三階の木造建築という基本的な構造は 15 世紀後半から継続していることが理解できる。この建物がいつから存在したかは判然としないが、後述するⅠ期基壇の時期が 15 世紀中葉以前と考えられることから、遅くとも尚巴志王代（1422～1439 年）頃には当地区に一定規模の建物があったと想定される。ちなみに、首里城はかつて正殿が南面し、美福門を正門としていたとの伝承もあるため、Ⅰ期基壇に伴う建物が南面する正殿に相当する可能性も考慮する必要があろう。また、隣接する淑順門西地区では 13 世紀後半～14 世紀初頭の遺物包含層が確認され（沖縄県埋文 2013b）、察度王代以前の様相を示唆する成果として興味深い。

正殿は史料によると、４度の火災に遭遇している。最初は尚金福４（1453）年に勃発したとされる王位継承に伴う内乱（いわゆる志魯・布里の乱）で、後述するⅡ期基壇の化粧石に認められる被熱がこれに由来すると考えられる。また城内の他地区でも、同時期の火災に関係するとみられる発掘調査成果が複数得られている（沖縄県文化課 1998a、沖縄県埋文 2005・2010・2013c・2014 など）。２度目と３度目は尚質 13（1660）年と尚貞 41（1709）

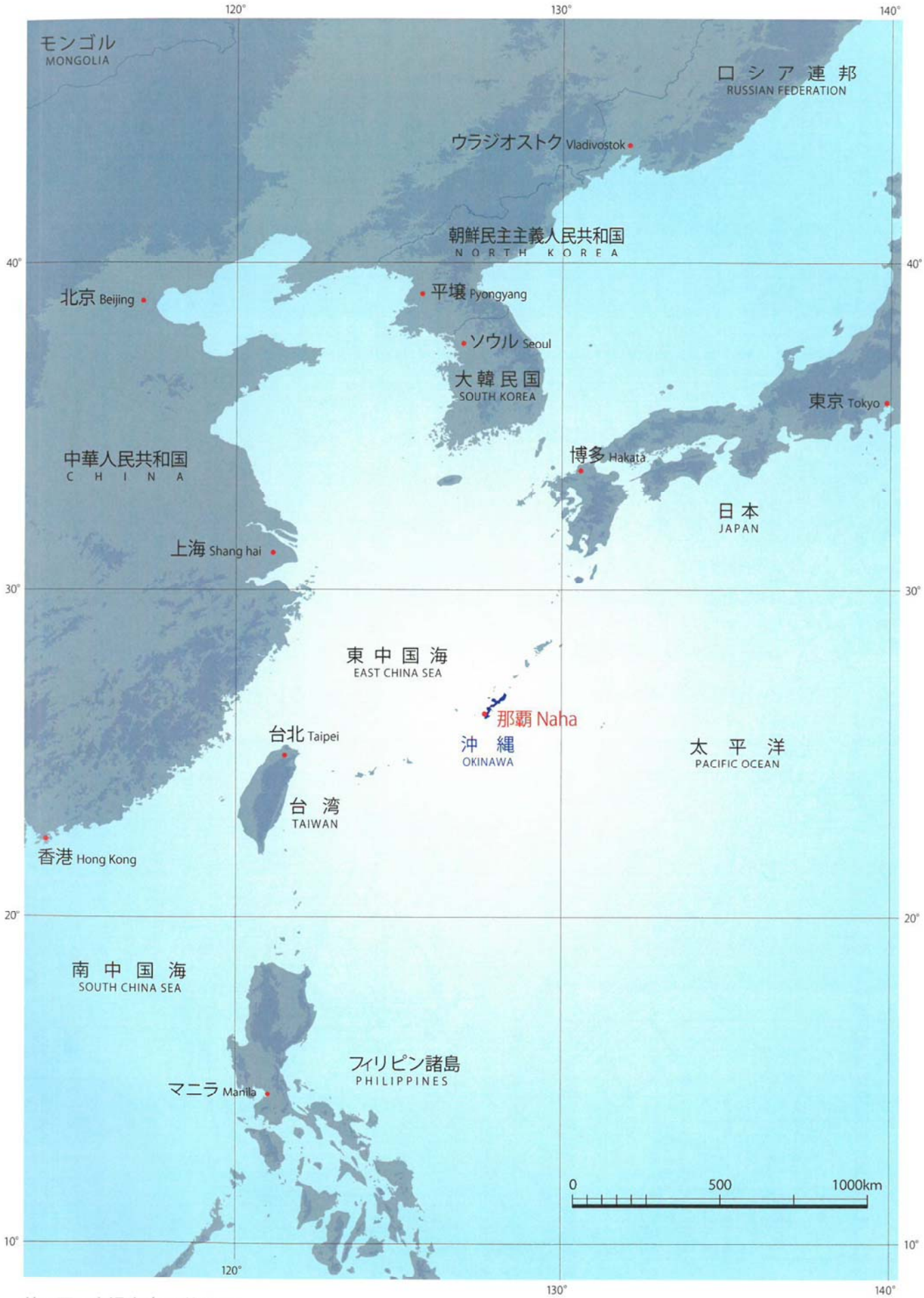
年の失火がこれに相当する。御内原西地区（沖縄県埋文 2007a）では両時期のいずれかと想定される焼土面を検出しているが、正殿地区では現在のところ当該火災の所産と思しき痕跡は不明である。４度目は沖縄戦時に受けた米軍の砲撃によるもので、Ⅶ期基壇を含む首里城全体が甚大な被害を被った。これについては後述する。

上記のように、正殿は首里城内の中枢施設として、琉球国が存続する間は再建や重修を繰り返し、その機能を維持してきた。しかし、明治12（1879）年に沖縄県の設置及び琉球王府の解体が断行されると、首里城も歴史の荒波に翻弄されていく。まず、琉球処分の同年から首里城に駐屯した熊本鎮台沖縄分遣隊（以下、分遣隊）は、城内の建物や石垣などを各所で改変した。この頃首里城は建物・土地とも陸軍省の管轄となり、軍事施設であった同所へは容易に立ち入ることができず、分遣隊が撤退する明治29（1896）年までの間に城内がどのように改変されたか、その詳細は現在も判然としない。正殿については世添殿や寄満とあわせて兵卒の寝室に使用され、また正殿と北殿を繋ぐ廊下には厠（便所）が設けられたとされる。このうち、かわや跡は今回の発掘調査で確認されている。ちなみに、分遣隊が撤退時に龍柱を持ち帰ろうとした話は有名だが、切断痕の残る龍柱片や再設置に用いたと考えられる金属製鎹も出土しており、当時の様相を理解するうえで重要な資料といえる。

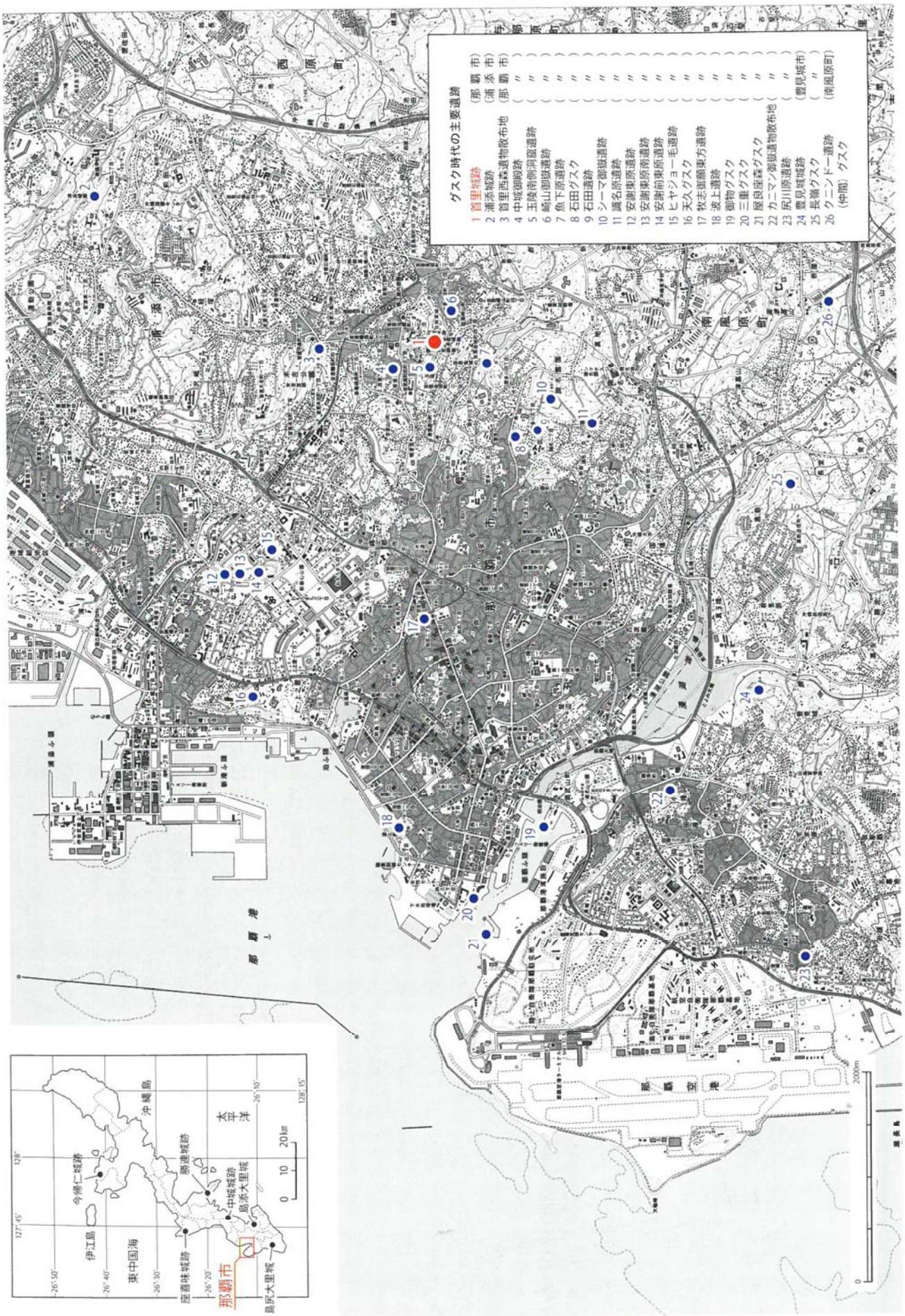
分遣隊が撤退した後、首里城は学校や役所施設として使用されるようになる。同年11月から翌年９月まで沖縄県師範学校が城内の建物を仮校舎として使用したのを契機に、師範学校付属小学校の移転（明治31年４月～翌年４月）、沖縄県臨時土地整理局の設置（明治33年８月～同37年３月３日）、校舎火災に伴う沖縄県師範学校の再移転（明治37年１月14日～同41年７月）、首里区立工業徒弟学校の移転（明治37年４月～大正７年１月）、首里区立女子工芸学校の移転（明治41年～昭和９年）、首里尋常高等小学校五学年三学級の移転（明治42年４月～同45年４月）、沖縄県立中学校分校の設置（明治43年４月～翌年４月）、首里尋常高等小学校三年以上高等科まで14学級の移転（明治44年～翌年４月）、首里女子尋常高等小学校分教場の移転（明治45年４月～）などが確認されている。この時、首里城は昭和30年代後半に首里区が願い出た「建物及び敷地の払い下げ」が許可されていたが、老朽化していく建物や施設の修理及び管理を行う財政力が不足しており、明治・大正の２度にわたって正殿の取り壊しが協議された。特に大正12（1923）年には正式に決議されたものの、末吉麥門冬・鎌倉芳太郎・伊東忠太の尽力により、内務省神社局長から県庁へ取り壊し中止を命じた電報が打たれ、首里城は破壊の危機を免れた。その後、大正13（1924）年に沖縄神社の拝殿となった正殿は、大正15（1925）年国宝に指定され、昭和９（1934）年３～４月頃には解体修理が落成した。

このようにして、正殿は往時の威容を幾分か取り戻したのだが、戦争の時代に突入していたこともあり、首里城はまたも軍隊の駐屯地となった。昭和19（1944）年、城内にあった首里第一国民学校校舎の一部を第９師団（武部隊）が兵舎に使用したのを皮切りに、南風原から移動してきた第32軍司令部が地下に壕の構築を開始した。十・十空襲で那覇が焼土と化したため、首里城も偽装の必要性が指摘され、正殿屋根の一部をオオタニワタリで偽装する試みもあったとされるが、翌年には米軍の砲撃を浴びて灰燼に帰した。今回の調査で複数確認された爆弾破壊跡は、この時に生じたものである。

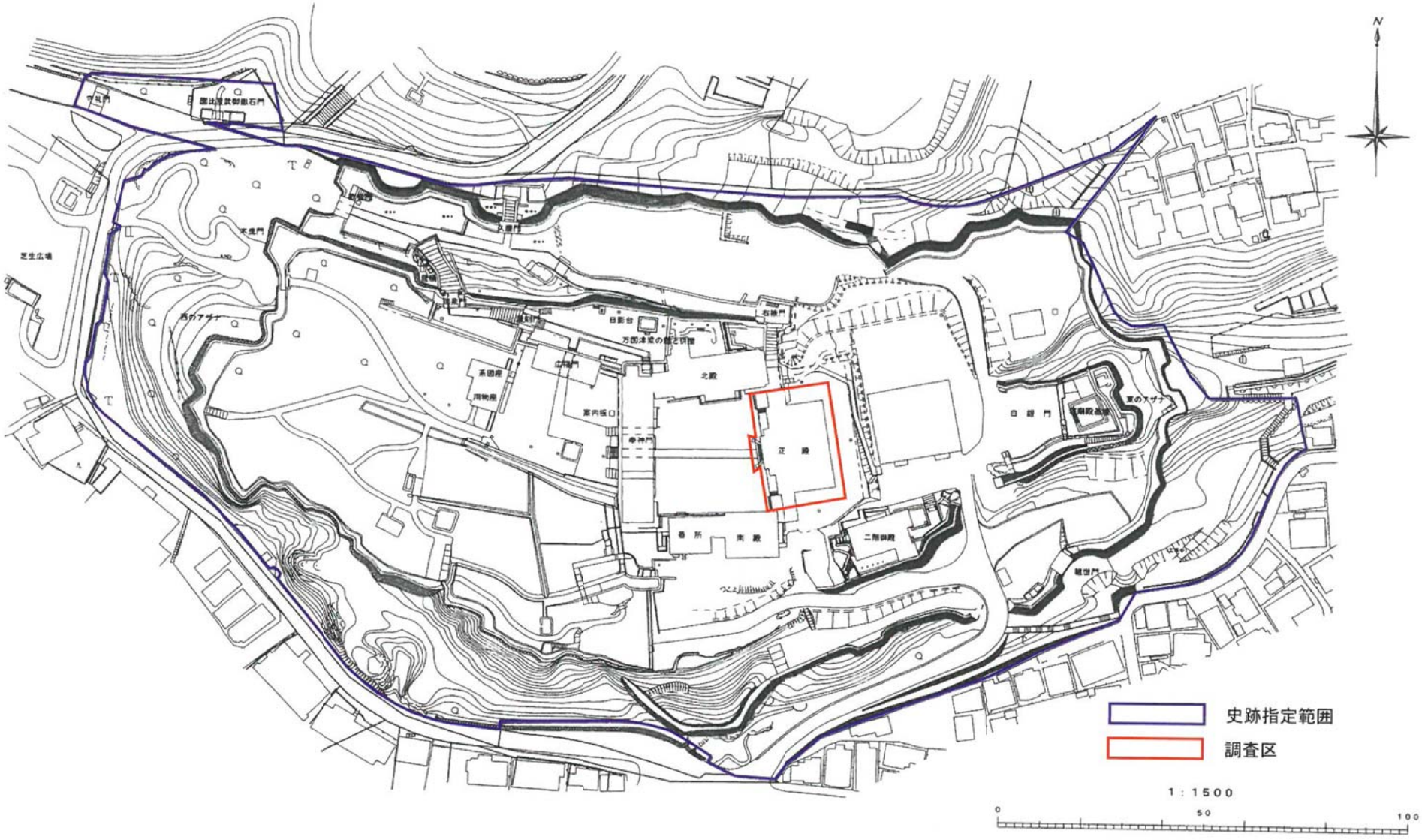
戦後、跡地には昭和25（1950）年に琉球大学が開学した。その際、校舎の建設やそれに伴う大量の土砂移動などが進み、一帯は旧地形の面影がわずかに偲ばれる状態にまで変貌を遂げた。しかし、正殿地区には主に駐車場として利用され、建物の工事で掘削された範囲は一部にとどまる。今回の調査で多くの成果を得ることができたのは、結果として当時の状況が功を奏したといえよう。その後、首里城は昭和47（1972）年の沖縄県本土復帰と同時に国の史跡に指定されたが、昭和59（1984）年に琉球大学の移転が完了した跡地を公園として利用することが決定したため、現在も復元整備が進められている。ちなみに、平成12（2000）年には「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として、９件の資産とともに世界文化遺産に登録されている。また首里城公園は平成26（2014）年度実績で2,522,395人が訪れており、平成27（2015）年４月25日には開園から数えて入園者5,000万人を達成するなど、沖縄有数の観光地でもある。



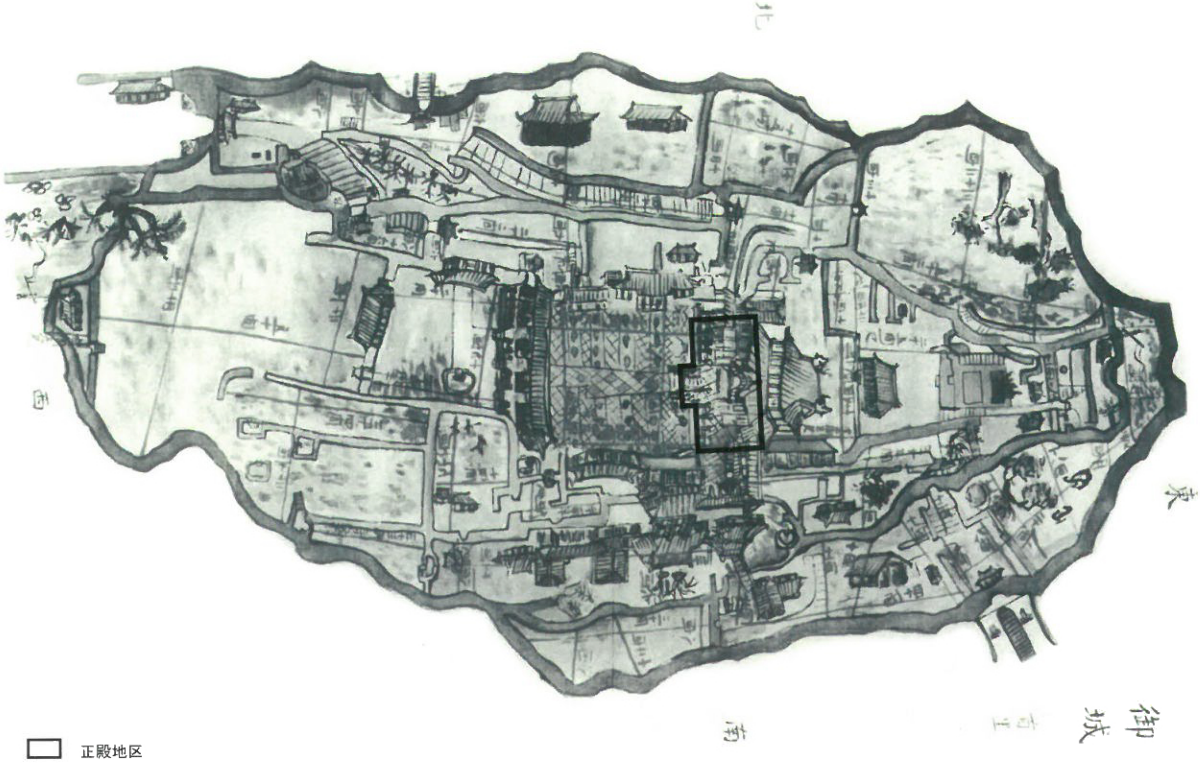
第1図　沖縄本島の位置図



第2図　首里城跡の位置と周辺の遺跡

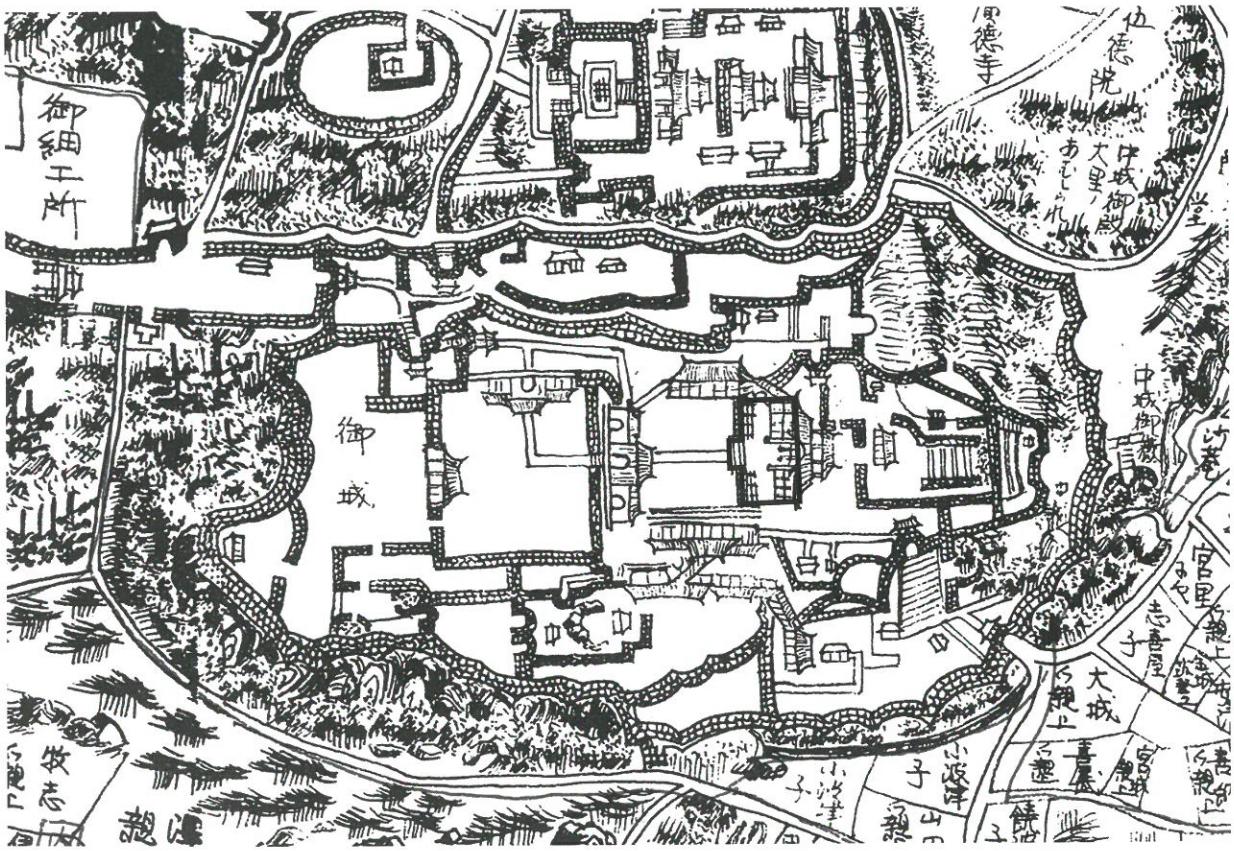


第3図　首里城跡の史跡指定範囲と調査区



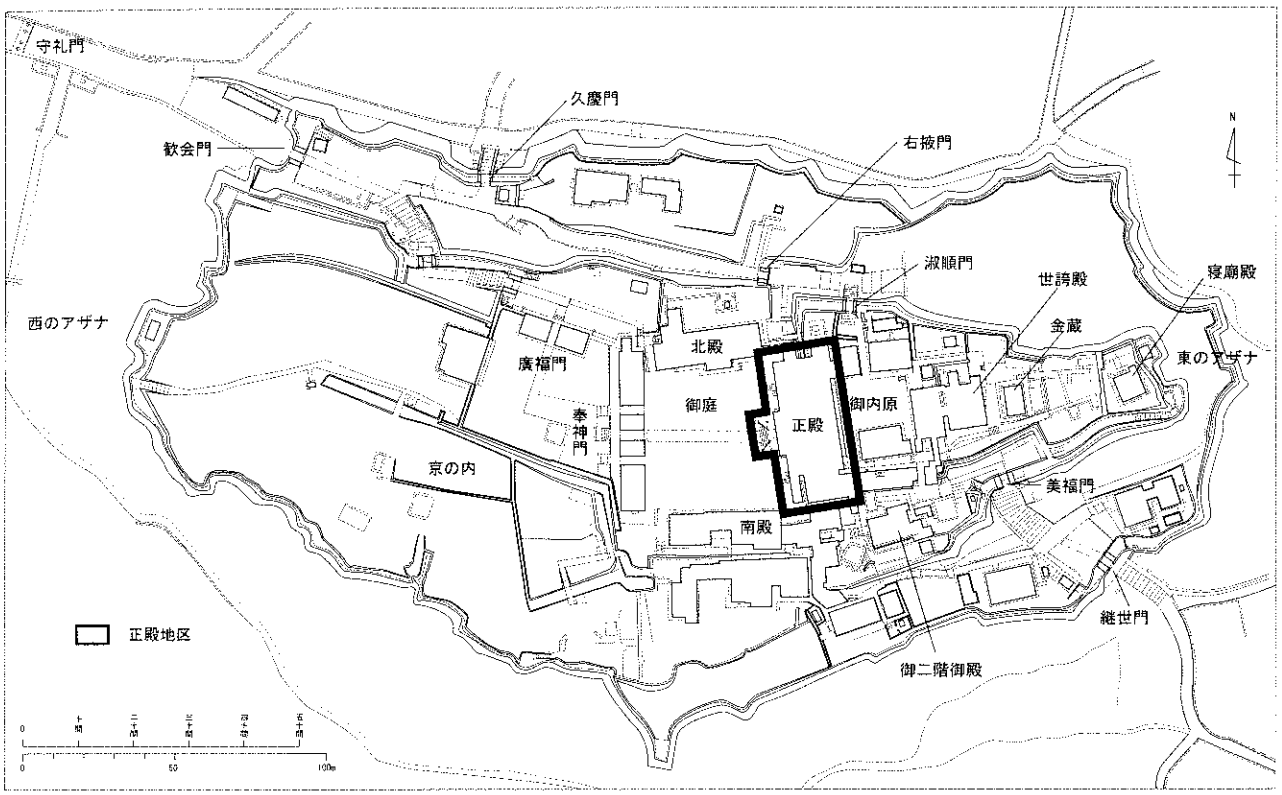
第4図　首里城絵図（17 世紀後半～ 18 世紀前半作成）にみる調査区

※東京大学史料編纂所蔵、安里 2013 に加筆



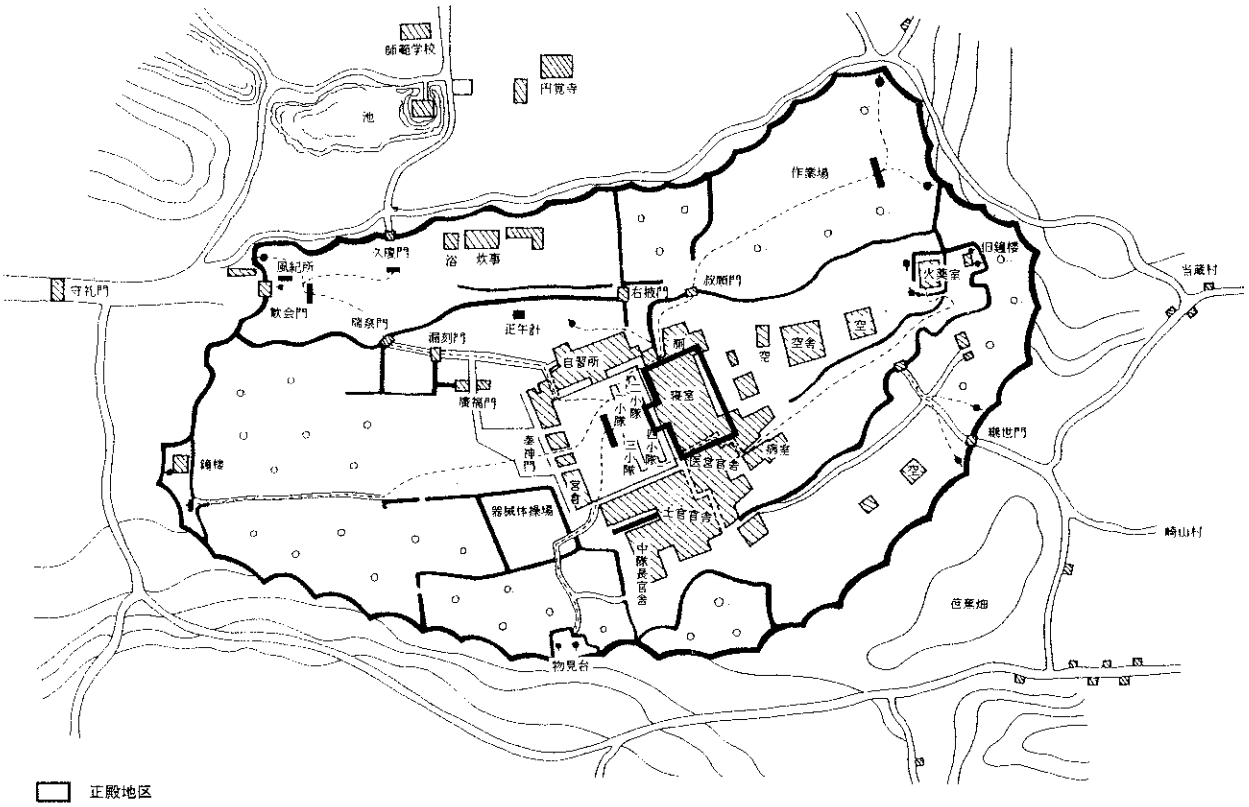
第5図　首里古地図（18 世紀初頭作成）にみる調査区

※沖縄県立図書館蔵



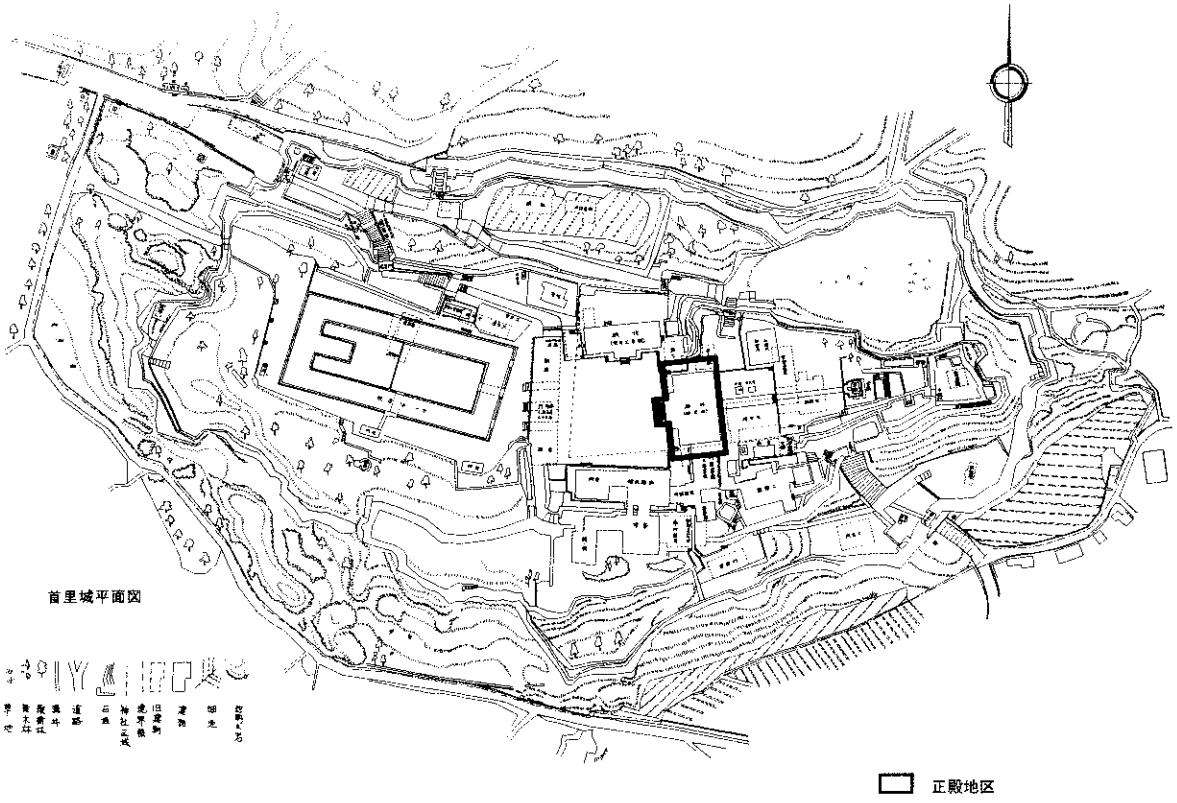
第6図　沖縄県首里旧城図（明治初期作成）にみる調査区

※那覇市歴史博物館蔵、原図をトレース

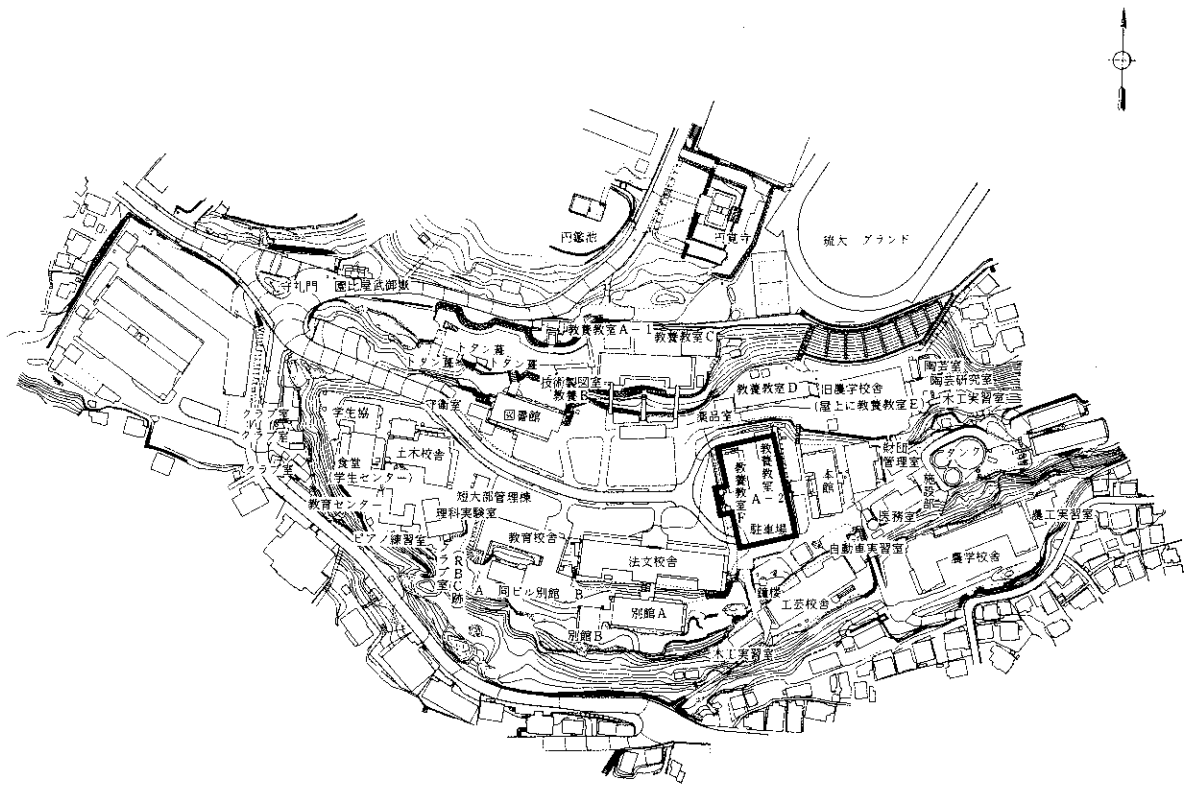


第7図　旧首里城熊本鎮台沖縄分遣隊配置図にみる調査区

※(財)沖縄県文化振興会　公文書管理部　史料編集室蔵



第8図　旧首里図（昭和6年頃作成）にみる調査区　※沖縄県立図書館蔵



第9図　旧琉球大学校舎配置図（1950～1984年）にみる調査区　　正殿地区

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

前章で述べたように、今回の発掘調査は公園整備計画に先立つ正殿の遺構確認を目的とするもので、全体の調査予定範囲1,350㎡のうち、昭和60年度は正殿跡正面側の270㎡、昭和61年度は残りの1,080㎡をそれぞれ対象に調査を実施した。

発掘調査や公園整備工事で使用する基準点の座標値及び方位は、測量法に定める平面直角座標系第15系（以下公共座標系）に拠るものとしたが、今回の調査区は方位が甚だしく偏り（公共座標系の北を西へ8°59′36″振った数値が調査方位）、かつ複雑な遺構が検出されていることから、局地座標（X23,602,014、Y22,110,704）を基準点として３ｍグリッドを設定した。グリッドは南から北にアルファベットと算用数字の組み合わせ（Ｋ０～10、Ｌ０～７）と、東から西に算用数字（91～104）を付したラインでそれぞれ表し、南東隅の杭を示準してグリッドを呼称した（第10図）。遺物の取り上げは基本的にグリッドに基づいているが、複数のグリッドにまたがる遺構や遺構検出面の下層を掘削したトレンチなどはこの限りではない。

現地での写真撮影は35㎜のフィルムカメラ、または適宜６×７サイズの中判フィルムカメラを用い、フィルムはカラー・白黒・リバーサルの３種類で対応した。なお、報告書に掲載する写真はＤＴＰ印刷に対応するため、フィルム等をスキャナで読み込んだデジタル画像を使用した

第２節　層序

正殿地区の堆積層は基本的に７枚からなり、各層とも子細にみると分層される。調査区の中央部と北側で堆積状況に若干の違いが認められることから、中央東西トレンチ１と同トレンチ２の二つに分けて記述する。層位図は第11図に示す。

①正殿地区中央部（ＡＡ’、ＢＢ’、ＣＣ’、ＤＤ’、ＦＦ’、ＧＧ’）

Ｉａ層　石灰岩コーラル層。調査区全体に広がる造成層で、旧琉球大学が駐車場を設置するために持ち込んだ客土である。層厚は平均30㎝で水平に堆積する。本層の上にアスファルトが敷かれている。

Ｉｂ層　瓦礫層。Ｉａ層の直下にあり、旧琉球大学の整地前に存在した堆積層と解されるが、上面が水平になるため、現状は削平された結果と考えられる。層は広がりを持たず、凹凸面の窪み部分にわずかに残存する。層の名称通り明朝系瓦を主体とする遺物が出土する。

Ｉｃ層　炭化物を多く含む瓦礫層で、貝殻・獣骨・焼土などの自然遺物を含む。本層も上層同様広がりを持たず、部分的にしかみられない。

Ｉｄ層　暗灰色粘土層。井戸周辺に認められる灰色のクチャ層である。人工遺物はみられない。井戸構築時に持ち込んだ客土である。

Ⅱ層　黄褐色石灰岩石粉混礫層。厚さ30～40㎝で水平に堆積する造成層。Ｌ２ラインまで広がる。

Ⅱａ層　礎石下の柱状石灰岩礫層。幅約60㎝・深さ1.4mに達する筒状の堆積で、蝋燭地業に相当する。層中には20～30㎝大の石灰岩岩塊やⅢ層の混入がみられる。

Ⅱｂ層　Ⅱ期基壇の後背部に位置する石灰岩塊層。化粧石積みの裏込めに相当する。同層は直径数㎝から30または40㎝の角礫で構成されるが、これらは密着しておらず部分的に間隙もみられる。

Ⅲ層　赤土混入暗褐色土層。層厚約30㎝で水平に堆積する造成層で、赤土と暗褐色土が細かな互層状を呈す

る。層中に貝殻・獣骨・炭化物を含む。

Ⅳ層　黄褐色石灰岩塊及び礫層。94 ラインから西側に向けて一気に厚く堆積する造成層。最も厚い部分は建物中央に相当する部分で約 1.4mを測る。本層は子細にみると岩塊や礫の大きさが単一ではなく、粗密の違いがみられる。

Ⅴ層　暗灰褐色土混入粘土質層。93 ラインから西側に確認される層で、粘土質のため乾燥すると亀裂が生じる。本層の上面は 94 ライン付近から大きく抉られるように西側へ傾斜し、それに従って層厚も薄くなる。層厚は最も厚い 93 ラインで約 70 ㎝、西側部分では最も薄く約 20 ㎝となる。出土遺物は大和系瓦などが確認される。

Ⅵ層　明褐色と黒灰色土が薄く互層状に堆積する粘質土層。層厚は約 40 ㎝だが、92 ライン付近から西側へ傾斜しながら薄くなり、94 ラインではほとんど確認されない。直上のⅤ層を造成する際に削平されたと考えられる。

Ⅶ層　地山の赤土層。地山面は 92 ラインから漸次西側へ傾斜し、中央観察畦の交差部分で水平となる。Ⅴ層とⅥ層を造成する際に一部が削平されたと考えられる。

②正殿地区北側

トレンチ調査の結果、東西間で堆積状況に若干の違いが認められることから、それぞれ分けて報告する。

（1）西側トレンチ（HH'）

Ⅰ層　表土撹乱層である。土砂混じりの瓦礫層で、部分的に残存する。

Ⅱ層　黄褐色石灰岩石粉混礫層。Ⅰ層と同じく部分的にみられる層である。

Ⅲ層　赤土混入暗褐色土層。層厚は約 20～30 ㎝で水平に堆積するが、南側の建物跡側に比較すると薄い。

Ⅳ層　暗赤褐色土層。粘性が強く、層中に縞状ないし斑点状に赤褐色土が混入する。本層は建物地区にはみられない。

Ⅴ層　黄褐色石灰岩礫層。土質は細かく、部分的に広がる。層厚は安定しておらず、厚い部分で 30 ㎝、薄い部分で数㎝になる。

Ⅵ層　石灰岩瓦礫層。著しく瓦が堆積する部分と少なく石灰岩が占める部分とムラがみられる。とくに北側に移行するにつれ、瓦は多くなる。石灰岩の間が間隙をつくるものもある。しまりがない。厚さ 80～100 ㎝。ただし、Ｌ２－95 グリットライン上の石列の西側では薄くなる。

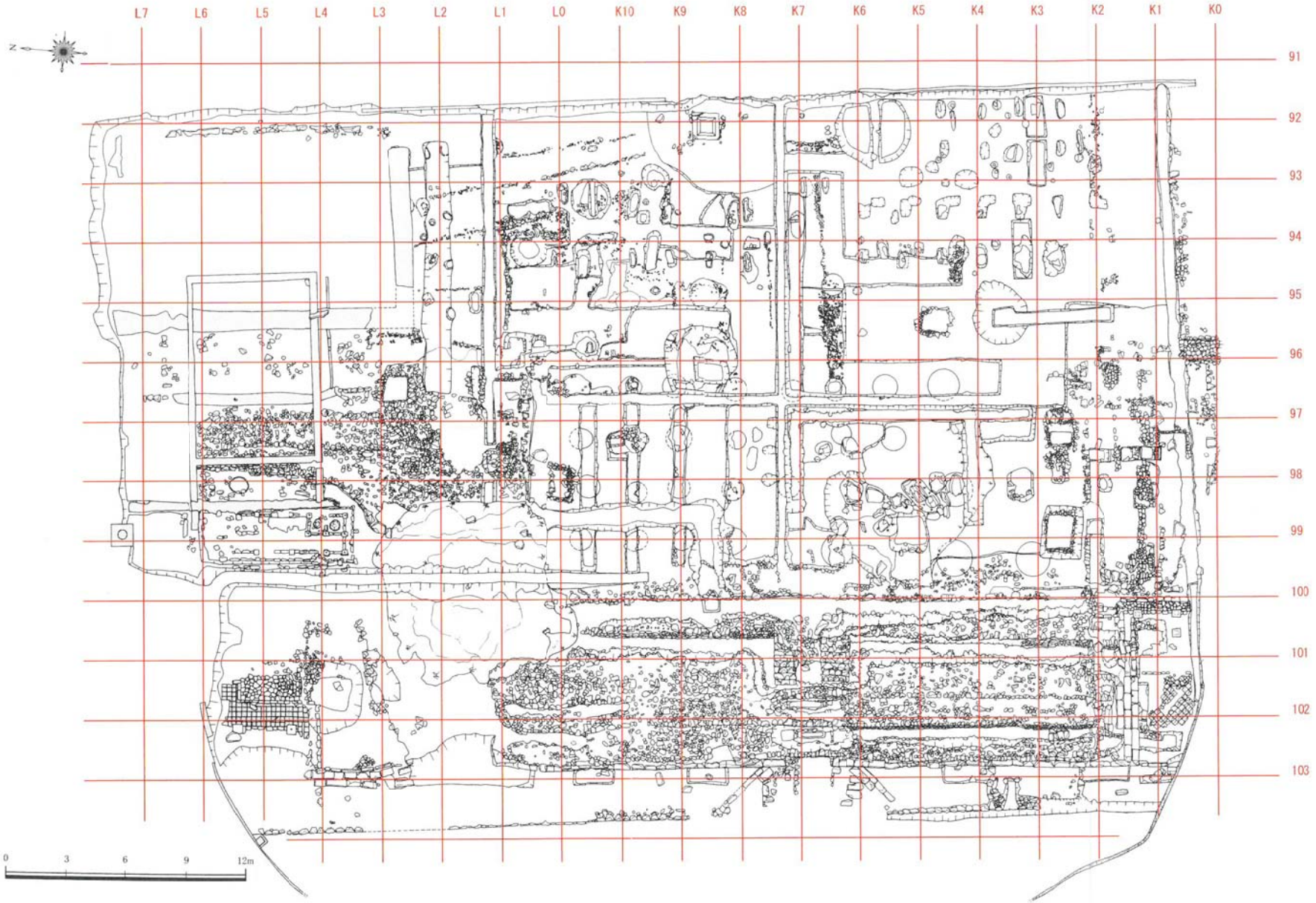
Ⅶ層　Ｌ２－95 グリットライン上にある石列の西側にみられる石灰岩礫層。10～20 ㎝大の礫が主体をなす層。約 140 ㎝の堆積層。その下は黒色粘土混じり土層になる。

（2）東側トレンチ（HH'）

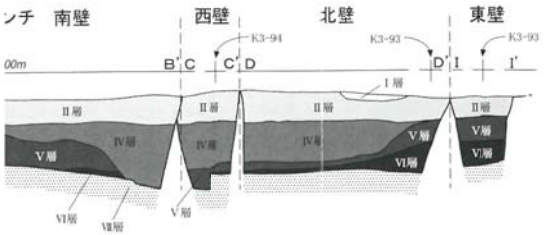
Ⅳ層　暗赤褐色土層。粘性が強く、層中に縞状ないし斑点状に赤褐色土が混入する。本層は建物地区にはみられない。また、95 ライン上にある石列の東側で堆積状況に大きく差異が認められる。

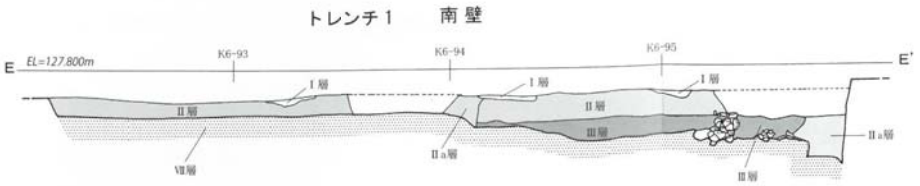
Ⅴ層　暗褐色瓦礫土層。約 60 ㎝の水平の堆積層。瓦が水平方向に堆積している。土層には間隙もみられる。遺物も多くみられた。

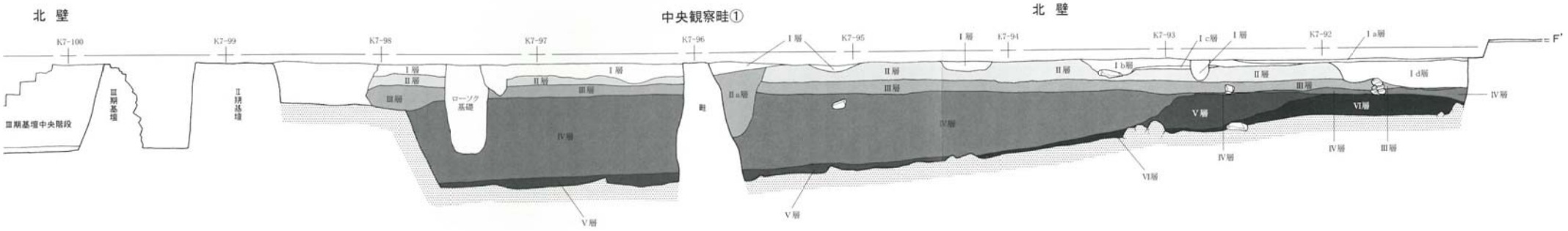
Ⅵ層　灰白色のコーラル層。礫は１～２㎝と細かいもので構成されている。

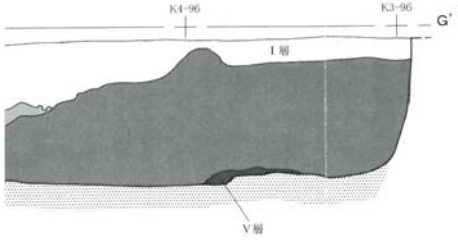


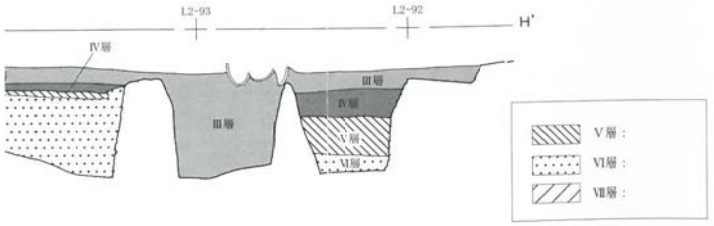
第 10 図　グリッド設定図

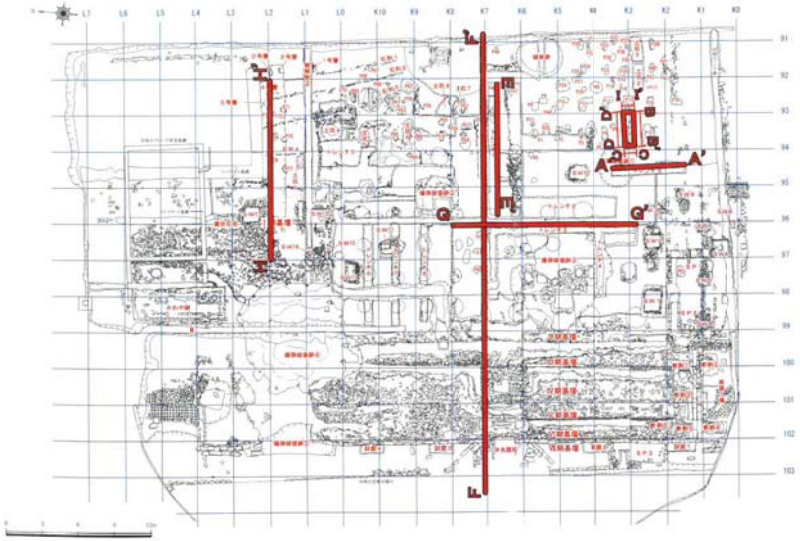

ンチ 南壁
西壁
北壁
東壁
B
C
C'
D
D'
I
I'
K3-94
K3-93
K3-93
K3-93
I 層
II 層
IV 層
V 層
VI層
VII層


トレンチ 1 南 壁
E
E'
EL=127.800m
K6-93
K6-94
K6-95
I 層
II 層
III層
II a層
VII層


北 壁
中央観察畦①
北 壁
K7-100
K7-99
K7-98
K7-97
K7-96
K7-95
K7-94
K7-93
K7-92
F'
III期基壇中央階段
III期基壇
II期基壇
ローソク基礎
I 層
I a層
I b層
I c層
I d層
II 層
II a層
III層
IV 層
V 層
VI層

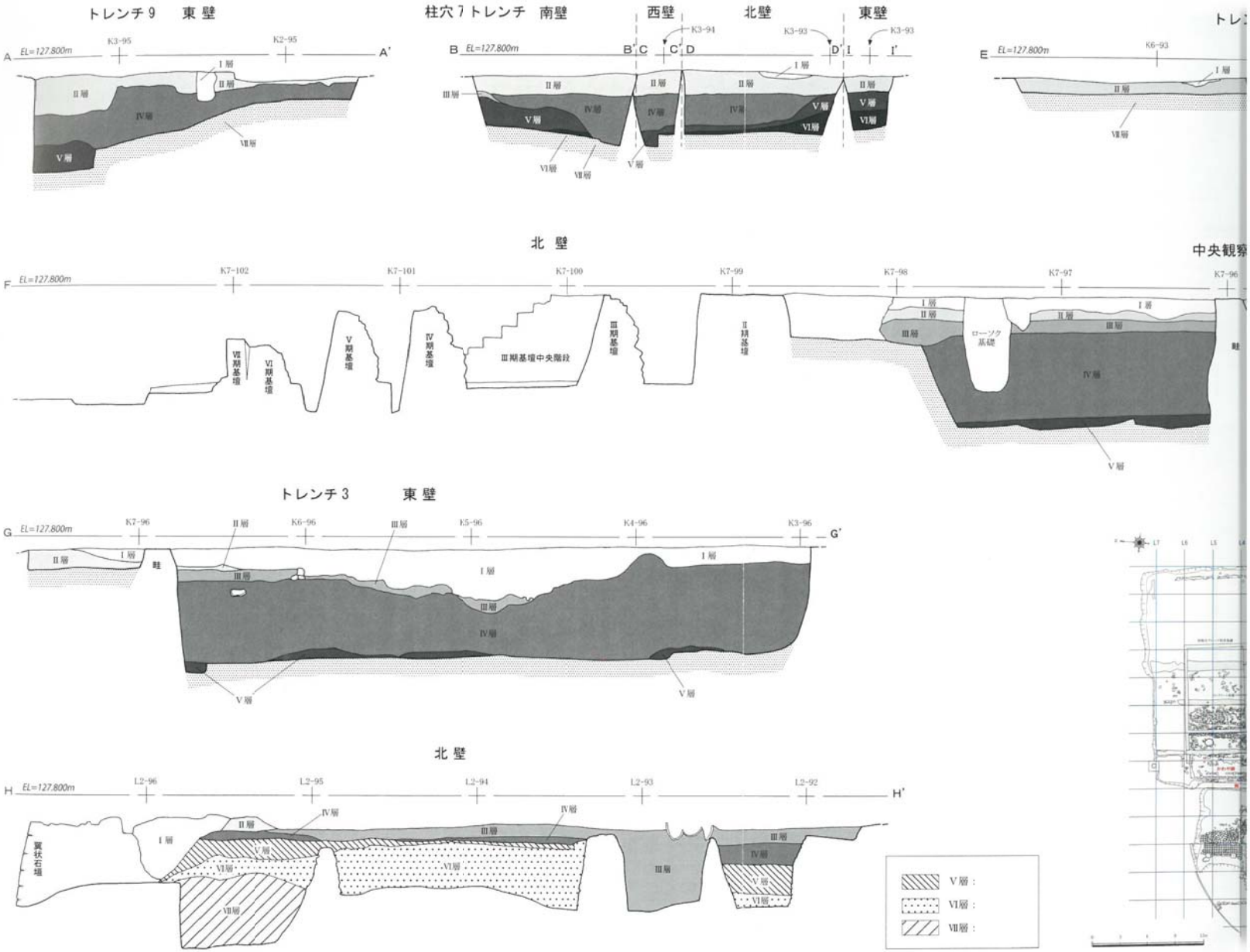

K4-96
K3-96
G'
I 層
V 層


L2-93
L2-92
H'
IV層
III層
V 層
VI層
V層：
VI層：
VII層：

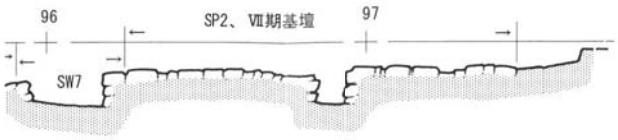

A
A'
G
G'

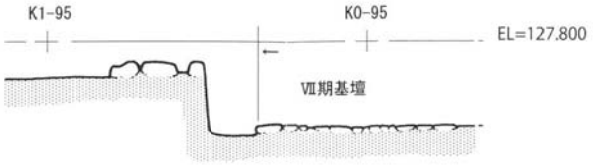
＜凡例＞
I 層：表土、撹乱層
I a層：石灰岩コーラル層
I b層：瓦礫層
I c層：炭化物多量混入瓦礫層
I d層：暗灰色粘土層
II 層：石灰岩石粉混入礫層
III層：赤土混入暗褐色土層
IV層：暗褐色土層
V 層：瓦混入暗褐色土層
VI層：明褐色～黒灰色土混入粘質土層
VII層：地山・赤色土

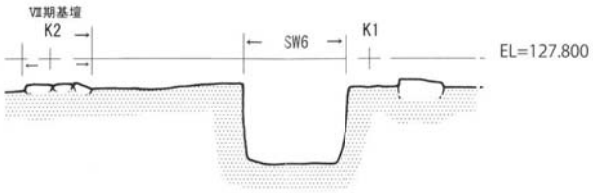
0
3
6m

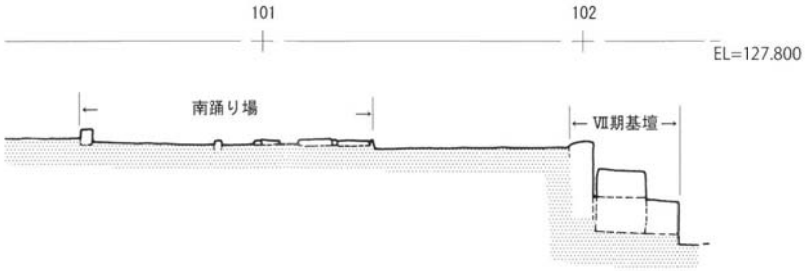

トレンチ9　東壁
A
EL=127.800m
K3-95
K2-95
A'
I層
II層
IV層
V層
VII層
柱穴7トレンチ　南壁
西壁
北壁
東壁
B
EL=127.800m
B'
C
C'
D
D'
I
I'
K3-94
K3-93
K3-93
III層
II層
IV層
V層
VI層
VII層
トレ
E
EL=127.800m
K6-93
I層
II層
VII層
北壁
中央観察
F
EL=127.800m
K7-102
K7-101
K7-100
K7-99
K7-98
K7-97
K7-96
VII期基壇
VI期基壇
V期基壇
IV期基壇
III期基壇中央階段
III期基壇
II期基壇
I層
II層
III層
ローソク基礎
IV層
V層
畦
トレンチ3　東壁
G
EL=127.800m
K7-96
K6-96
K5-96
K4-96
K3-96
G'
II層
I層
畦
III層
IV層
V層
北壁
H
EL=127.800m
L2-96
L2-95
L2-94
L2-93
L2-92
H'
翼状石堆
I層
II層
III層
IV層
V層
VI層
VII層
V層：
VI層：
VII層：

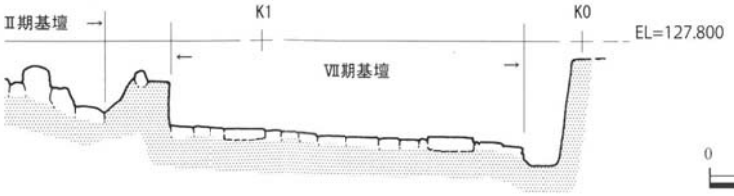
第11図　層序


96
SP2、Ⅶ期基壇
97
SW7

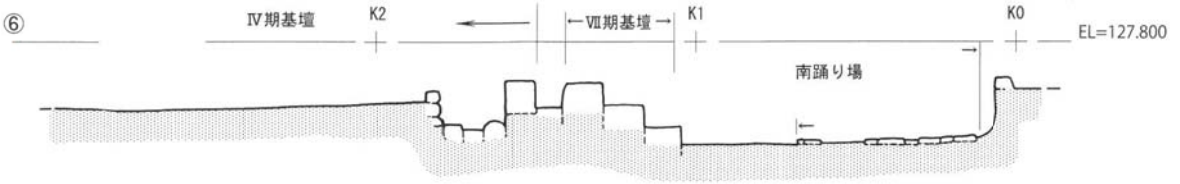

K1-95
K0-95
EL=127.800
Ⅶ期基壇

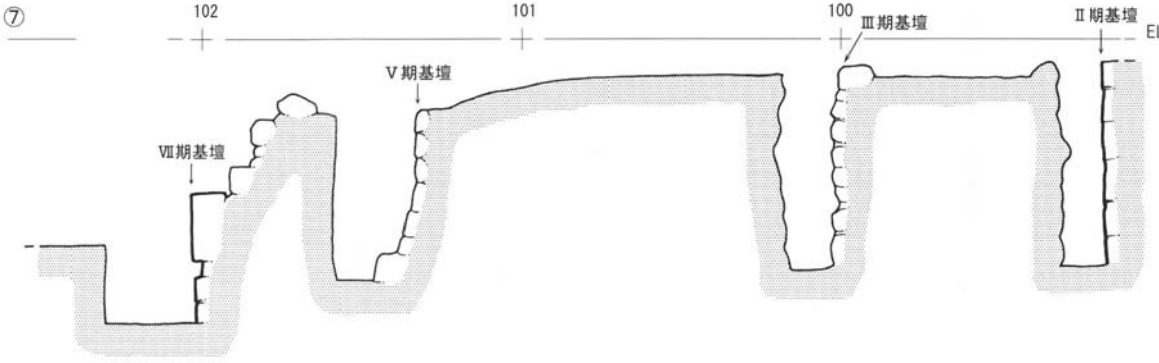

Ⅶ期基壇
K2
SW6
K1
EL=127.800

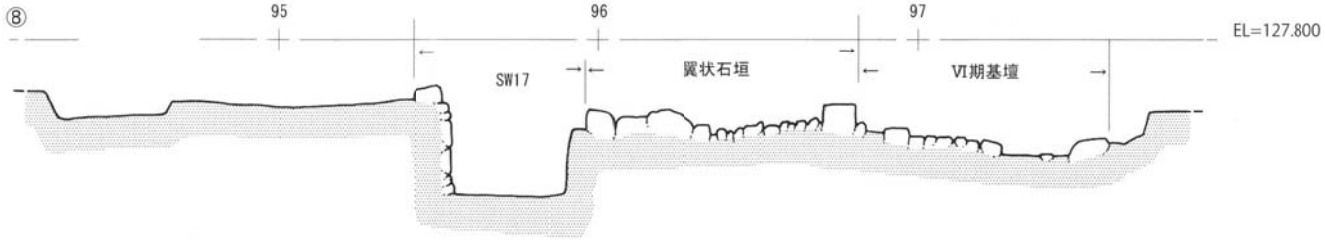

101
102
EL=127.800
南踊り場
Ⅶ期基壇

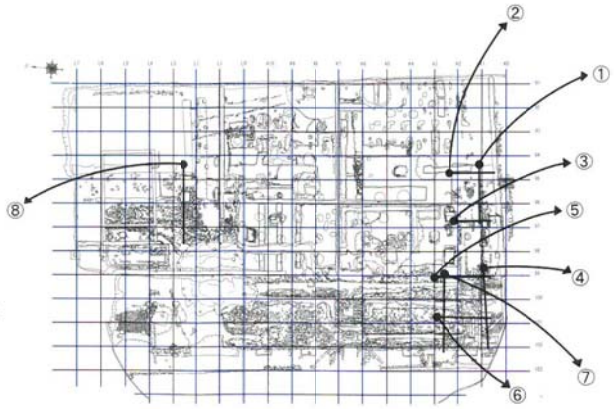

Ⅱ期基壇
K1
K0
EL=127.800
Ⅶ期基壇

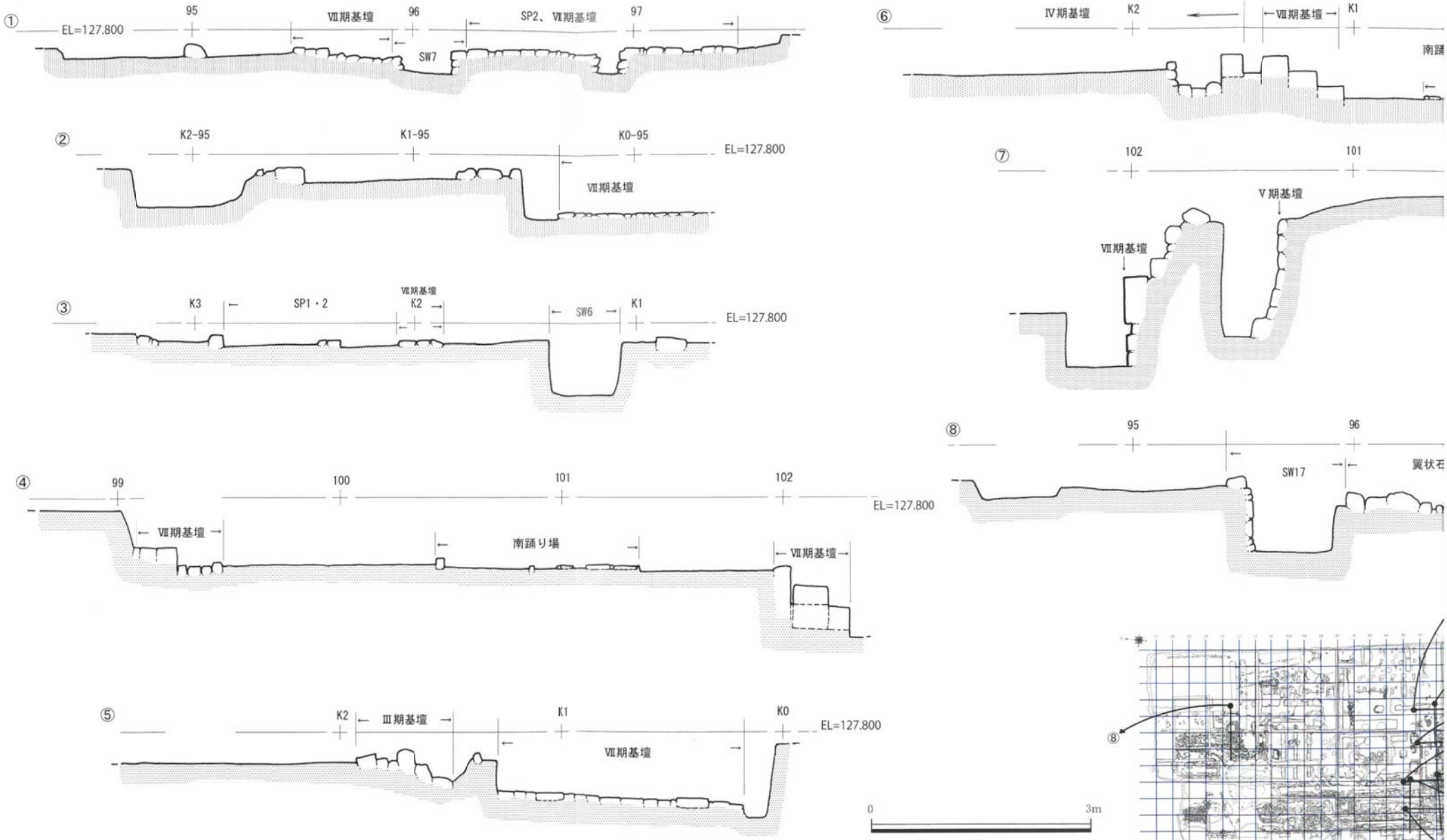
0
3m


⑥
Ⅳ期基壇
K2
Ⅶ期基壇
K1
K0
EL=127.800
南踊り場

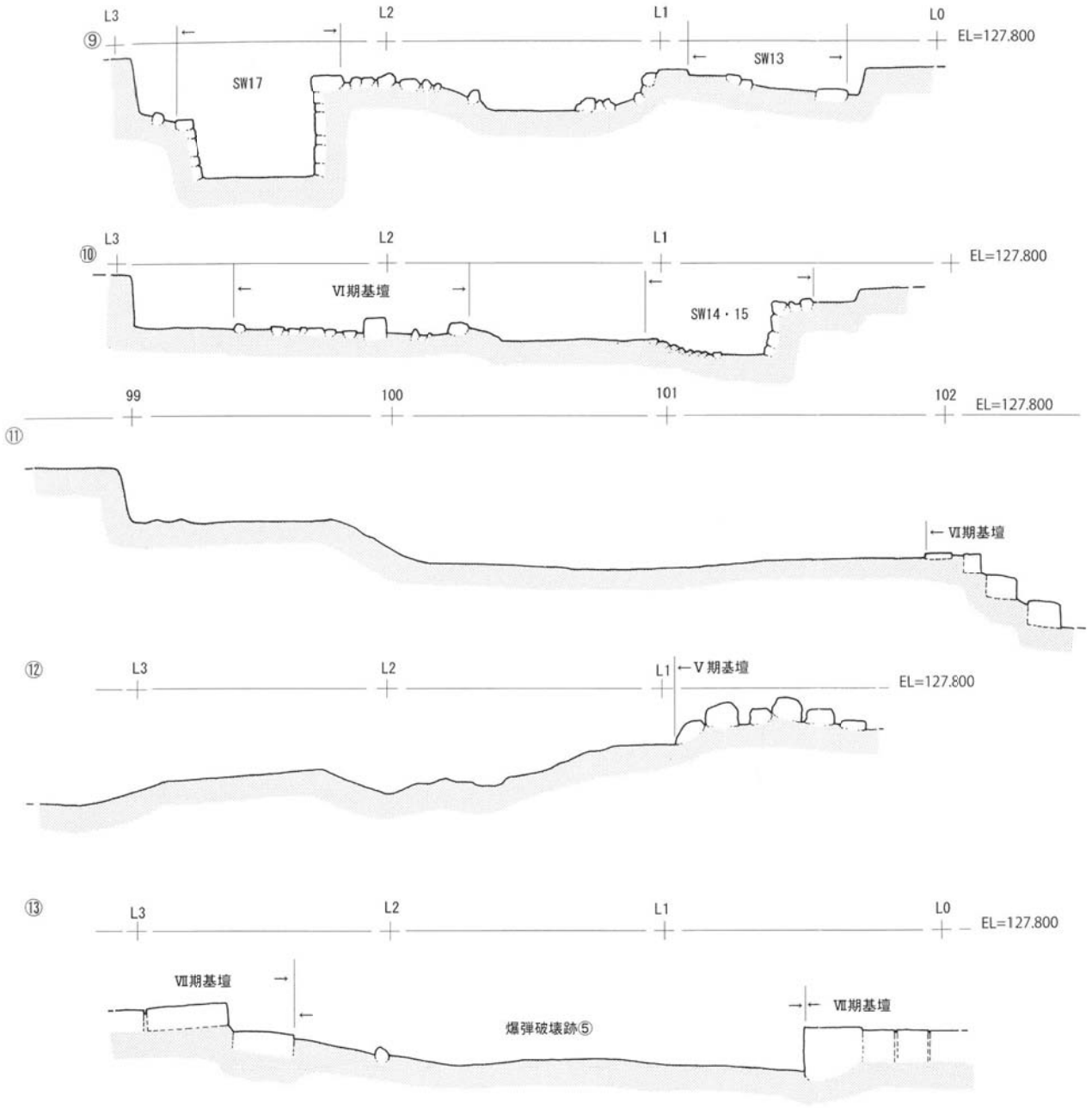

⑦
102
101
100
Ⅲ期基壇
Ⅱ期基壇
EL=127.800
Ⅴ期基壇
Ⅶ期基壇

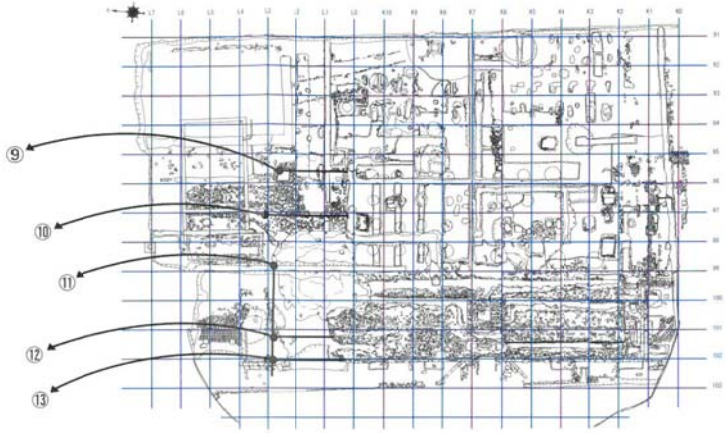

⑧
95
96
97
EL=127.800
SW17
翼状石垣
Ⅵ期基壇


①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧

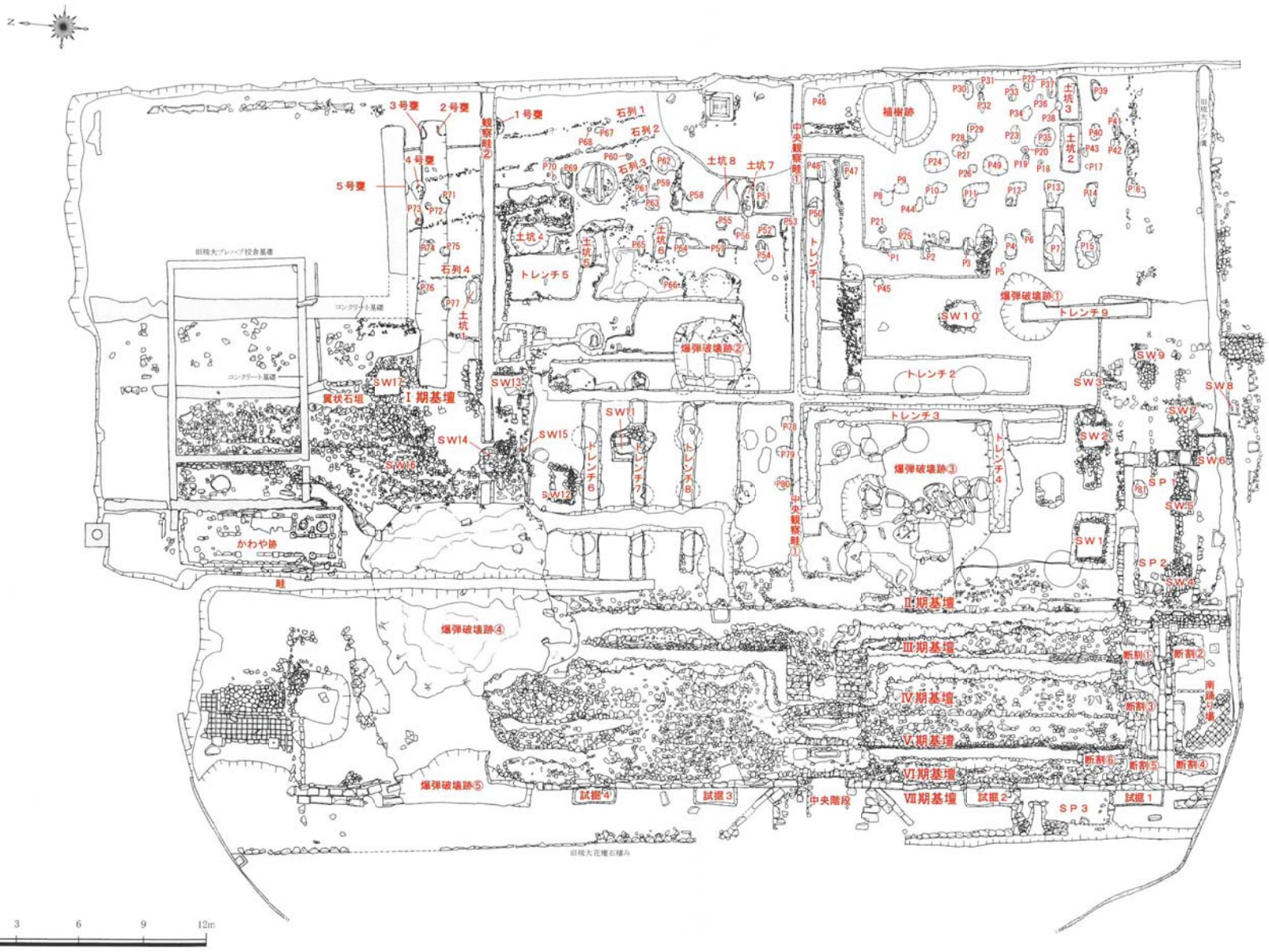


第 12 図　見通し断面図 1





第 13 図　見通し断面図 2



N
3号壺
2号壺
1号壺
4号壺
5号壺
石列1
石列2
石列3
石列4
土坑1
土坑2
土坑3
土坑4
土坑5
土坑6
土坑7
土坑8
トレンチ1
トレンチ2
トレンチ3
トレンチ4
トレンチ5
トレンチ6
トレンチ7
トレンチ8
トレンチ9
植樹跡
中央観察畦①
中央観察畦②
爆弾破壊跡①
爆弾破壊跡②
爆弾破壊跡③
爆弾破壊跡④
爆弾破壊跡⑤
I期基壇
II期基壇
III期基壇
IV期基壇
V期基壇
VI期基壇
VII期基壇
SW1
SW2
SW3
SW4
SW5
SW6
SW7
SW8
SW9
SW10
SW11
SW12
SW13
SW14
SW15
SW16
SW17
SP1
SP2
SP3
試掘1
試掘2
試掘3
試掘4
中央階段
南踊り場
断割1
断割2
断割3
断割4
断割5
断割6
賀状石垣
かわや跡
畦
コンクリート基礎
旧陸大プレハブ校舎基礎
旧陸大花壇石積み
0
3
6
9
12m

第 14 図　遺構配置図

第3節　遺構

1　基壇

正殿建物（想定含む）の土台を構成する基壇石積みで、今回の調査により６基検出された。またこれらとは別に、Ⅱ期基壇の下層から大和系瓦の多量に出土する包含層が確認されたため、当該地区では少なくとも７回にわたって正殿建物（想定含む）が建て替えられたと判明した。以下、遺構別にその詳細を記す。

①Ⅰ期基壇（第16図）

L１・２－96で検出された包含層で、Ⅱ期基壇の翼状石垣北面下層に主として広がる。これは一部の試掘調査でしか確認されておらず、包含層の範囲及び遺構の詳細については不明である。しかし、大和系瓦が多量に出土することから、当地区に浦添城跡や勝連城跡のような瓦葺きの建物があった可能性は高い。この建物が正殿になるのか否かは検討の余地があるものの、かつてこの場所に存在した建物を示す痕跡といえる。ちなみにこの包含層は、年代・性格とも御内原北地区で確認された造成遺構５層（沖縄県埋文2010）に類似する。

②Ⅱ期基壇（第17図）

今次大戦で消失したⅦ期基壇から約８m後方（東側）に位置している。Ⅰ期基壇との関係をみると、前述した包含層を削平してその上部に構築しており、基壇の高さは現地表面と考えられるところから約 1.6mを測る。基壇石積みは北側と西側を確認したが、正面に相当する西側は 50cm×70cm 程の切石を化粧石に用いており、精巧な布積みで構築されている。この化粧石の表面は赤く変色し剥落が著しく、周辺からの出土遺物にも被熱資料が多くみられるため、大きな火災に遭遇したと考えられる。出土遺物の検討からは志魯・布里の乱（1453年）に相当する可能性が高い。このほか当該基壇は、北側に幅約３mの翼状石垣が取り付き、調査区南西側で南殿のⅠ期基壇（沖縄県文化課1995）と接続する。基壇の上面には蝋燭地業の痕跡が多数残り、それらから推算すると最小規模で短軸約 12.6m（約14間）×長軸約 22.7m（約25間）の礎石建物があったと想定される。また建物跡の約４m後方（東側）には、足場と仮称したピット列が２本確認されている。

③Ⅲ期基壇（第18図）

Ⅱ期基壇の前方（西側）約２mに位置しており、前期から規模が拡張されたと考えられる。基壇石積みはⅡ期基壇と同じく北側と西側を確認したが、正面は 30cm×40cm 程の化粧石を雑石積みで構築し、石積みの勾配も 70～80度となっていることから、使用石材及び工法ともⅡ期基壇に比して粗雑である。正面中央部には６段残存（全長は12段と推定）で幅約 3.7mの石階段が、北側には約２mの翼状石垣がそれぞれ取り付く。ちなみに石階段の表面がほとんど磨り減っていないため、当該基壇の使用時期が短かった可能性もある。このほか、当該基壇は調査区南西側で南殿のⅡ期基壇（沖縄県文化課1995）と接続する。基壇の上面には、Ⅱ期基壇と同様に礎石を据えた跡がみられるため、それらから推算すると最小規模で短軸約 12.8m（約14間）×長軸約 24.4m（約27間）の建物があったと想定される。また建物跡の約 5.8m後方（東側）には足場と仮称したピット列が２本あり、南側には短軸約 3.7m×長軸約 10mの性格不明遺構（SP１）が確認されている。

①Ⅳ期基壇（第19図）

Ⅲ期基壇の前方（西側）約３mに位置しており、前期から規模が拡張されたと考えられる。基壇石積みは南側の一部と西側を確認した。正面に相当する西側はⅢ期基壇と同サイズの石材を雑石積みで構築しており、当初は補強用の裏石積みと想定していたが、調査区南西側で南殿のⅢ期基壇（沖縄県文化課1995）と接続したため、正

殿の基壇石積みと判断した。基壇の上部が残存しておらず、建物跡の様相は不明である。

⑤Ⅴ期基壇（第20図）

Ⅳ期基壇の前方（西側）約 1.6mに位置しており、前期から規模が拡張されたと考えられる。基壇石積みは正面に相当する西側のみを確認した。残存状態は悪く、30cm×40cm程の化粧石が部分的に一段検出されたに過ぎない。当該遺構も調査区南西側で南殿のⅣ期基壇（沖縄県文化課 1995）と接続したため、正殿の基壇石積みと判断した。建物跡の様相は不明である。

⑥Ⅵ期基壇（第21図）

Ⅶ期基壇化粧石の裏込めのようにみえる雑石積み（石材のサイズは人頭大程）と南側の一部がこれに相当し、規模もⅦ期基壇とほぼ同様である。この基壇については、Ⅶ期基壇に伴う石階段の下にわずかに残存する石段の一部と、正面石積みにつながる両南北面の翼状石垣の取り付き、超時南西側で接続する南殿のⅤ期基壇（沖縄県文化課 1995）などから判断した。基壇の上部が破壊されているため、建物跡の様相は不明である。また南側には短軸約3.7m×長軸約8.5mの性格不明遺構（SP２）が確認されている。

⑦Ⅶ期基壇（第22図）

沖縄戦で焼失する前の正殿が建てられていた基壇で、最も前方（西側）に位置する。基壇石積みは南側と西側が確認され、それぞれに石階段が取り付く。残存する化粧石はⅡ期基壇のサイズに近い切石を用いており、調査区南西側で南殿のⅥ期基壇（沖縄県文化課 1995）と接続する。

2　石列（第14図）

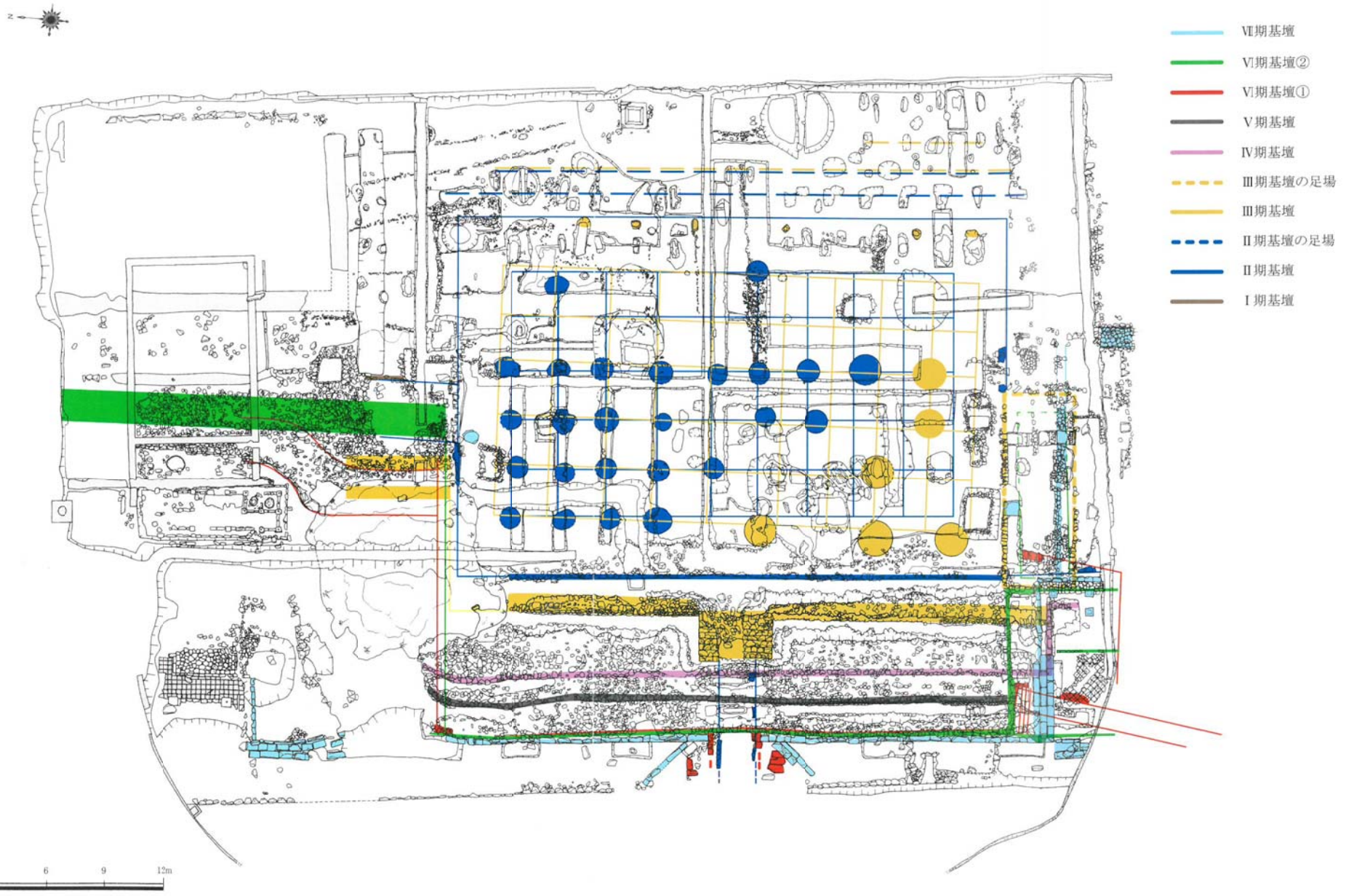
拳大程度の雑石を用いており、Ｋ９～Ｌ０－92、K10～Ｌ２－93、Ｌ１・２－94の範囲で合計４基検出された。石列と称しているが、一部で断ち割り調査を実施したところ下段部分が確認されたため石積みの可能性が高い。当該遺構の性格について、同様の遺構がみられる御内原北地区の状況（沖縄県埋文2010）から想定すると、当該地区に平場を設けるための造成工事に伴う遺構、つまり土留め用の石積みと考えられる。

3　方形石組遺構（第23～27図）

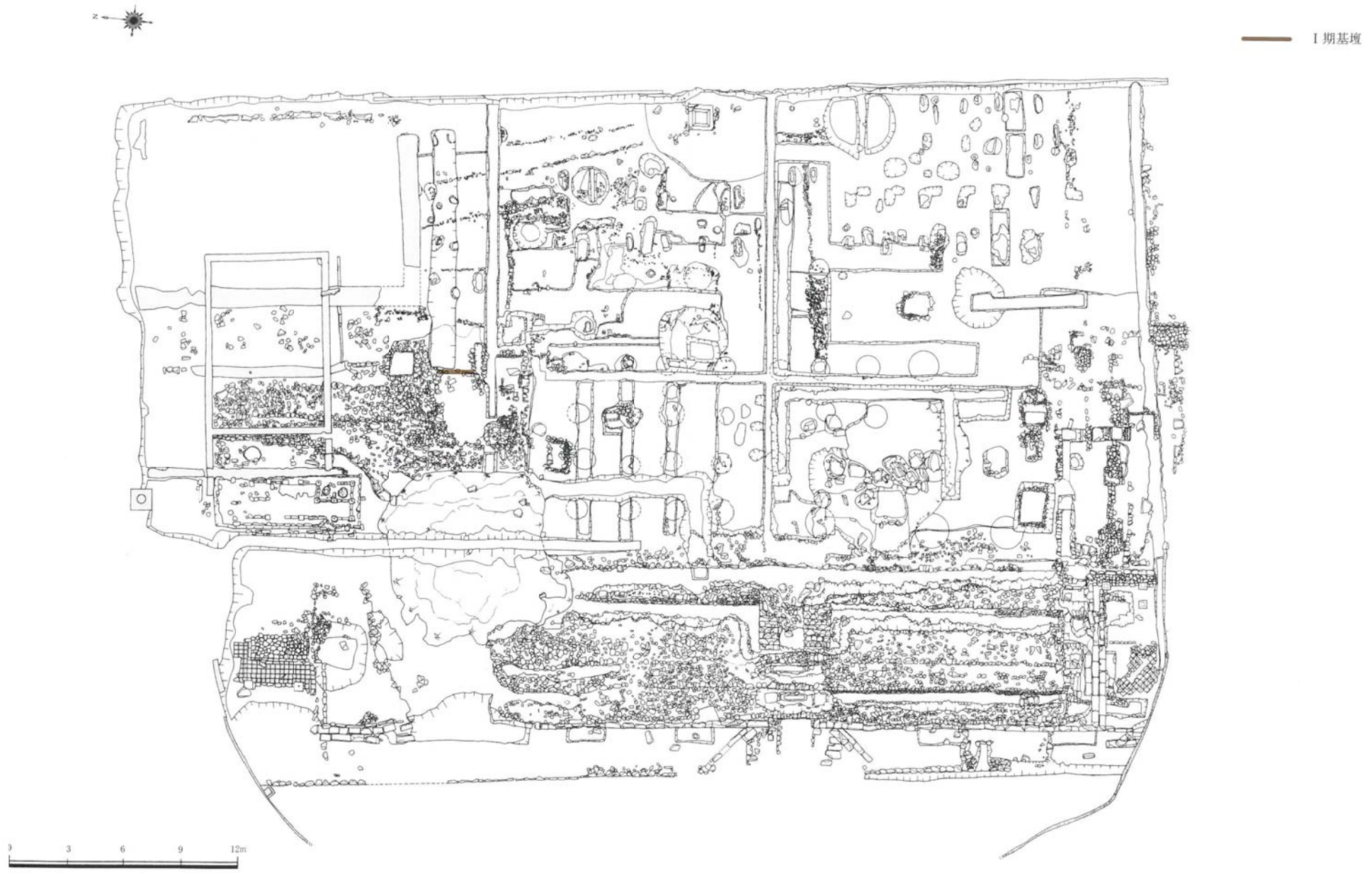
ＳＷと略記したもので、いずれも拳大～人頭大程の雑石を積み上げて構築し、床面は石敷き・岩盤・土と様々である。総数17基検出されており、一部を除きⅡ期基壇正面から東側で建物跡の周辺に分布する傾向がみられる。基本的な性格としては生活ゴミの廃棄坑と考えられる。

4　かわや跡（第14図）

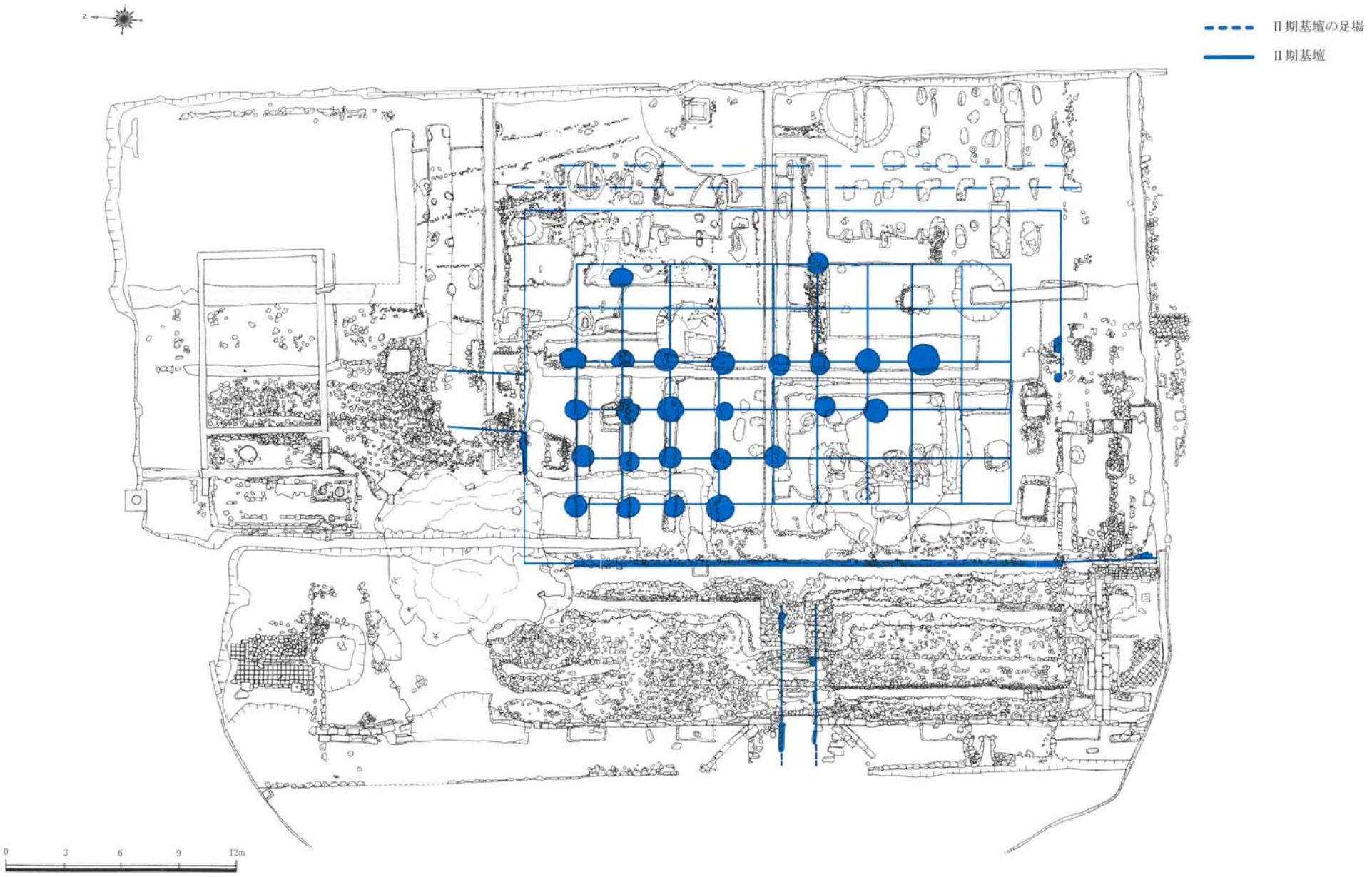
Ｌ３～５－98・99で検出された。熊本鎮台沖縄分遣隊が首里城内駐留時（1879～1896）に構築したとされる厠跡で、便槽等に用いたと考えられる陶器製の埋甕が２基確認されている。本調査では検出と図化にとどめたが、当該遺構はその後右掖門及び周辺地区（沖縄県埋文2003）や、淑順門西地区（沖縄県埋文2013）の調査でも再度検出され、特に後者では詳細に精査されている。



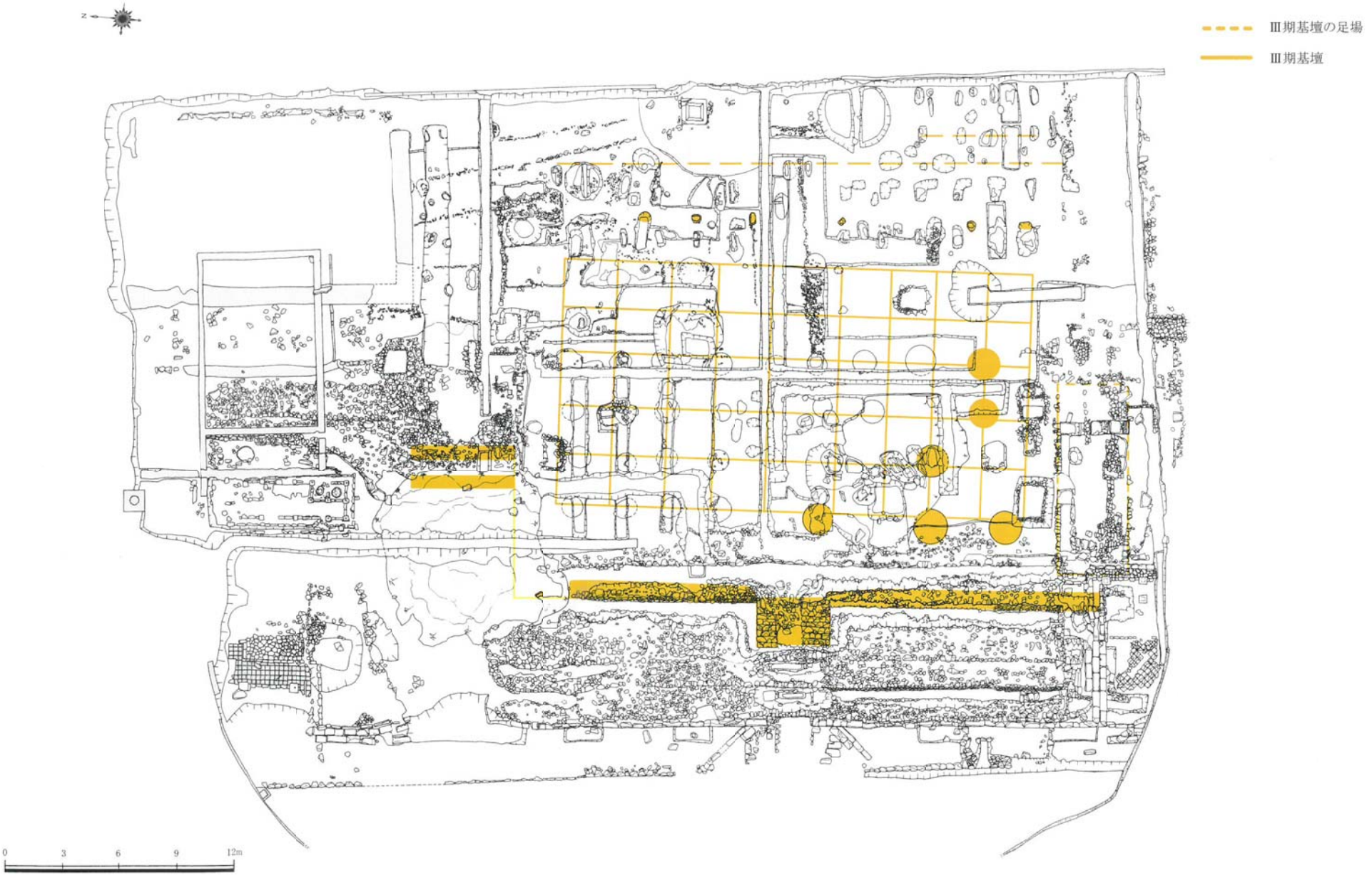
第 15 図 Ⅰ～Ⅶ期基壇重ね図



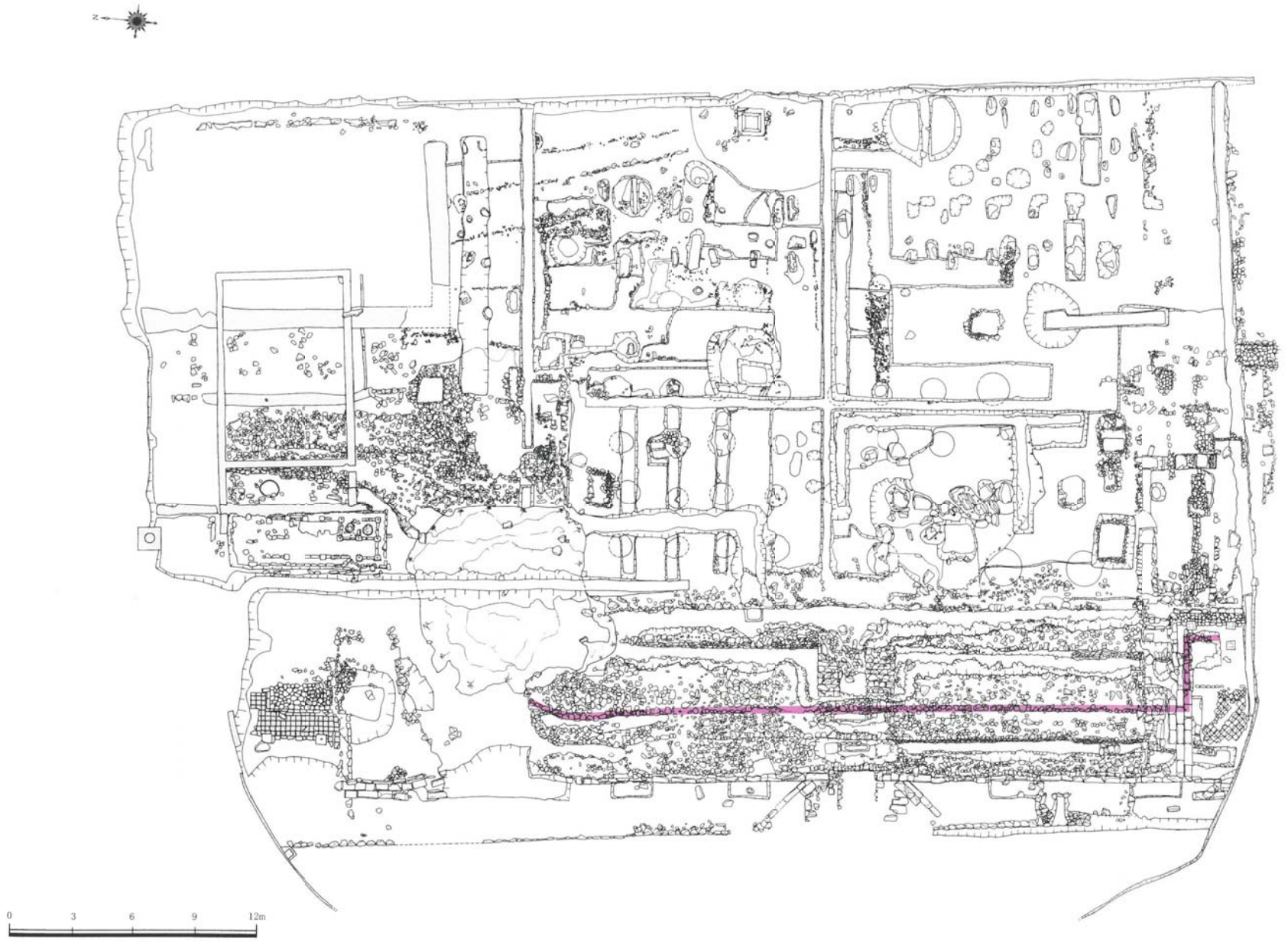
第 16 図　Ⅰ期基壇



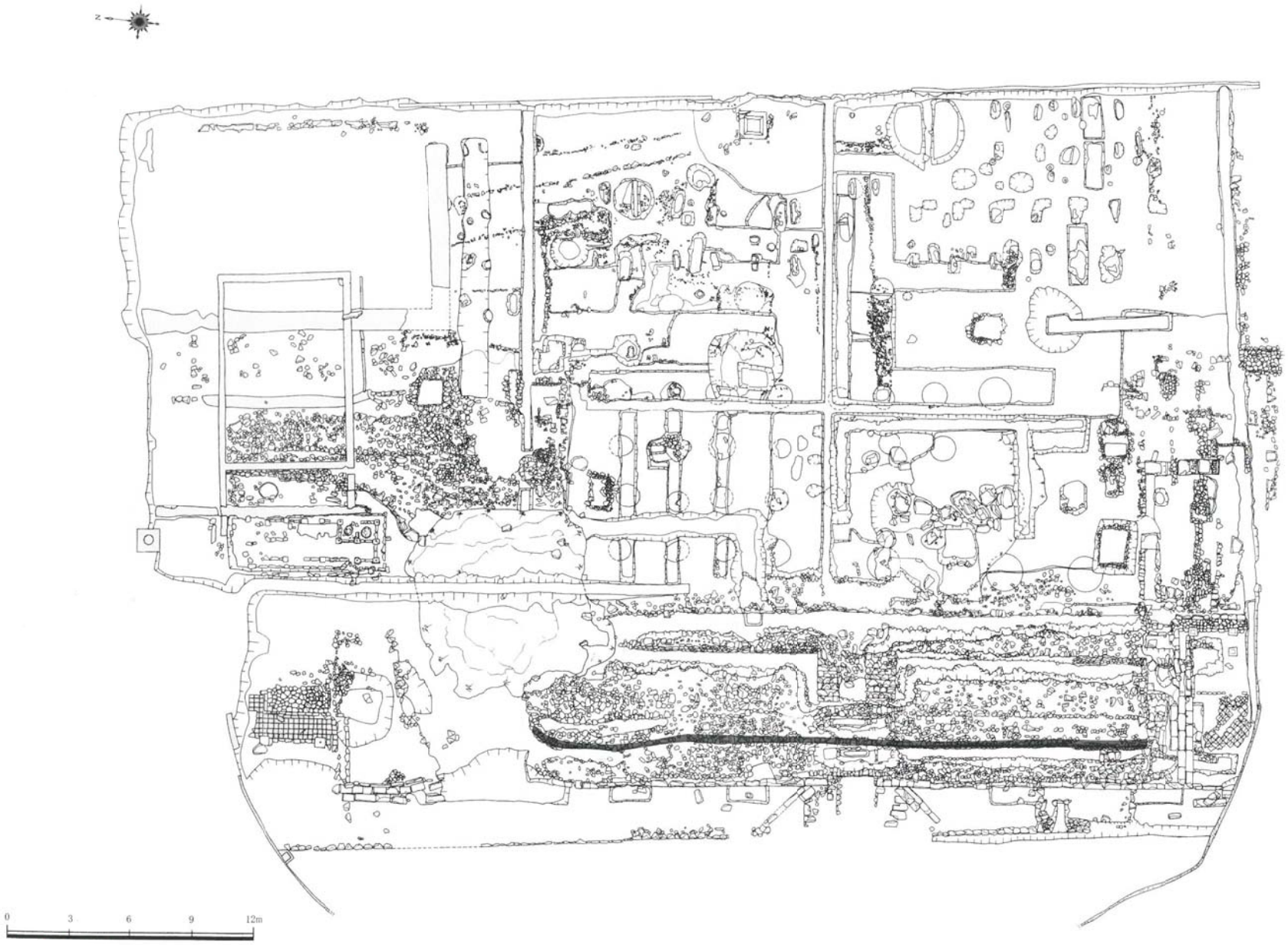
第 17 図　Ⅱ期基壇



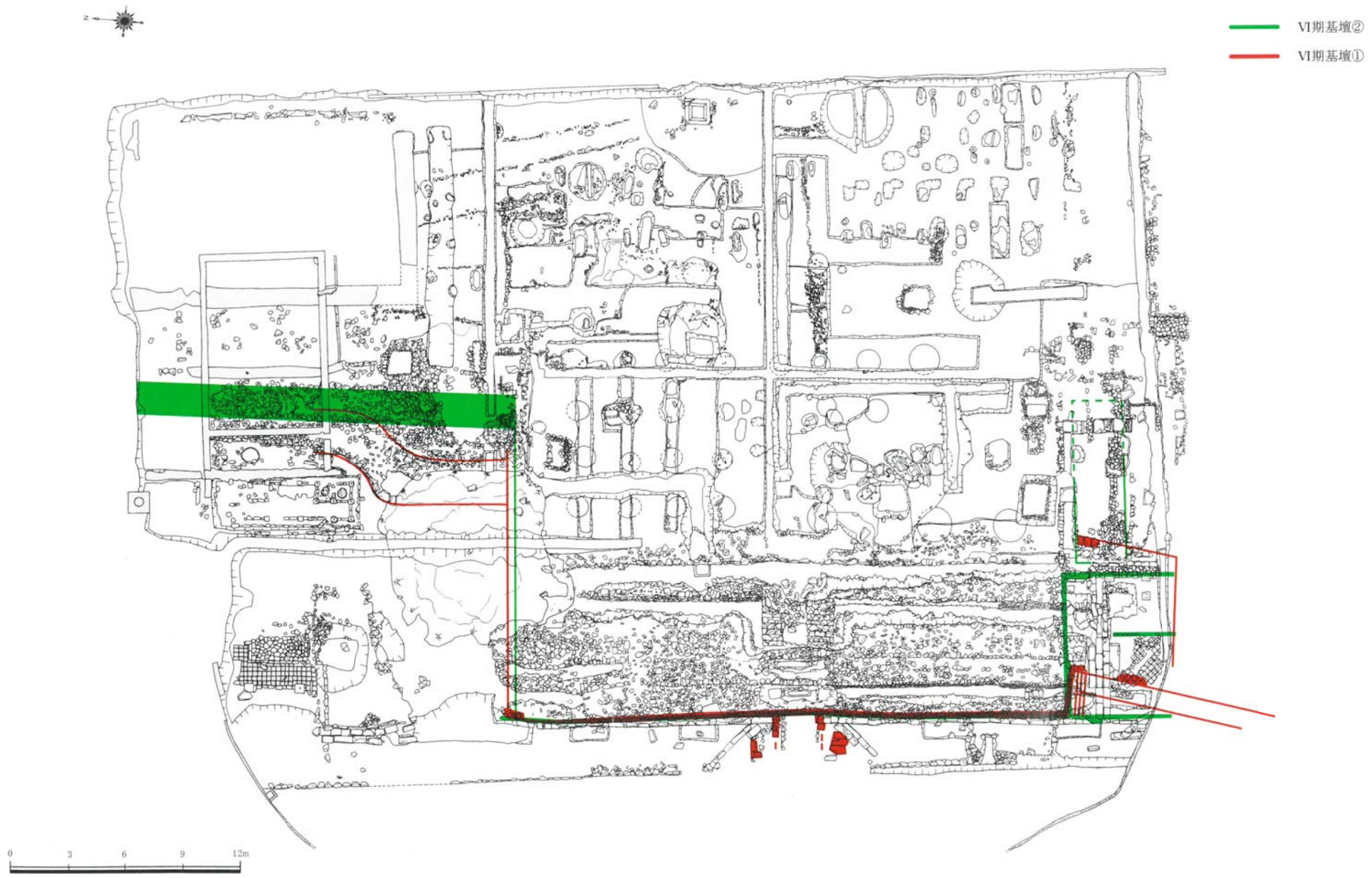
第 18 図　Ⅲ期基壇



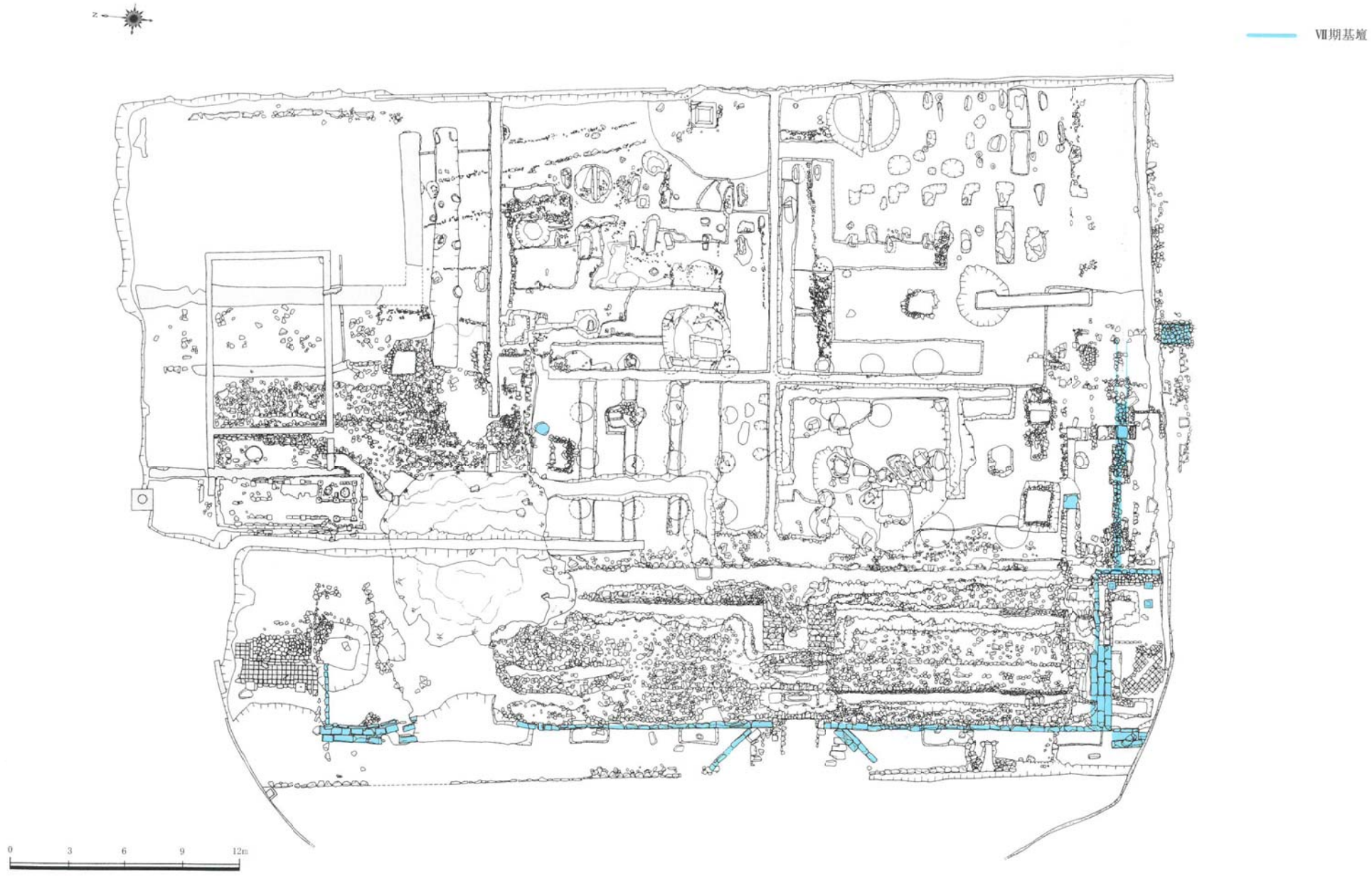
第 19 図　Ⅳ期基壇



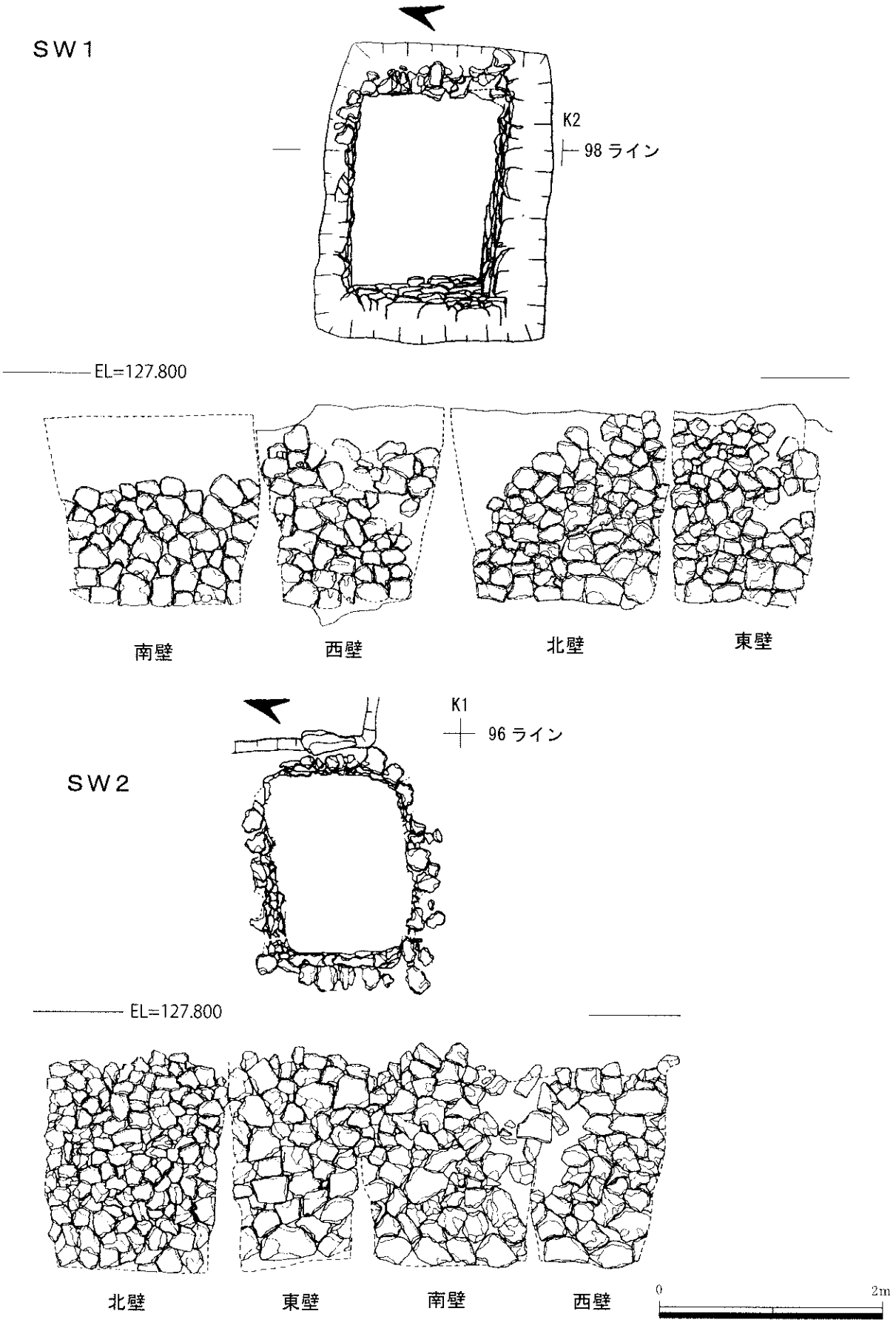
第 20 図　Ⅴ期基壇



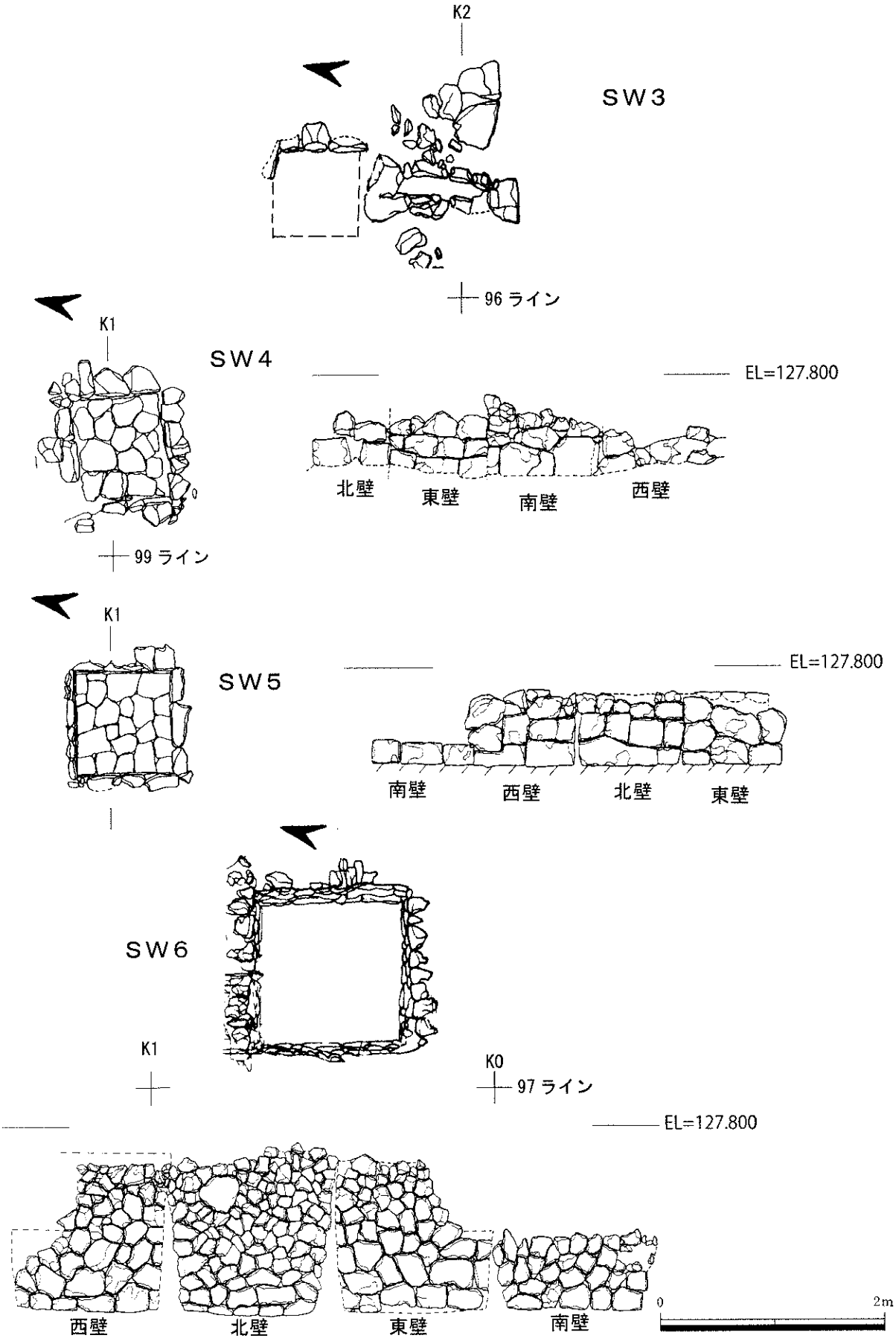
第 21 図　VI期基壇



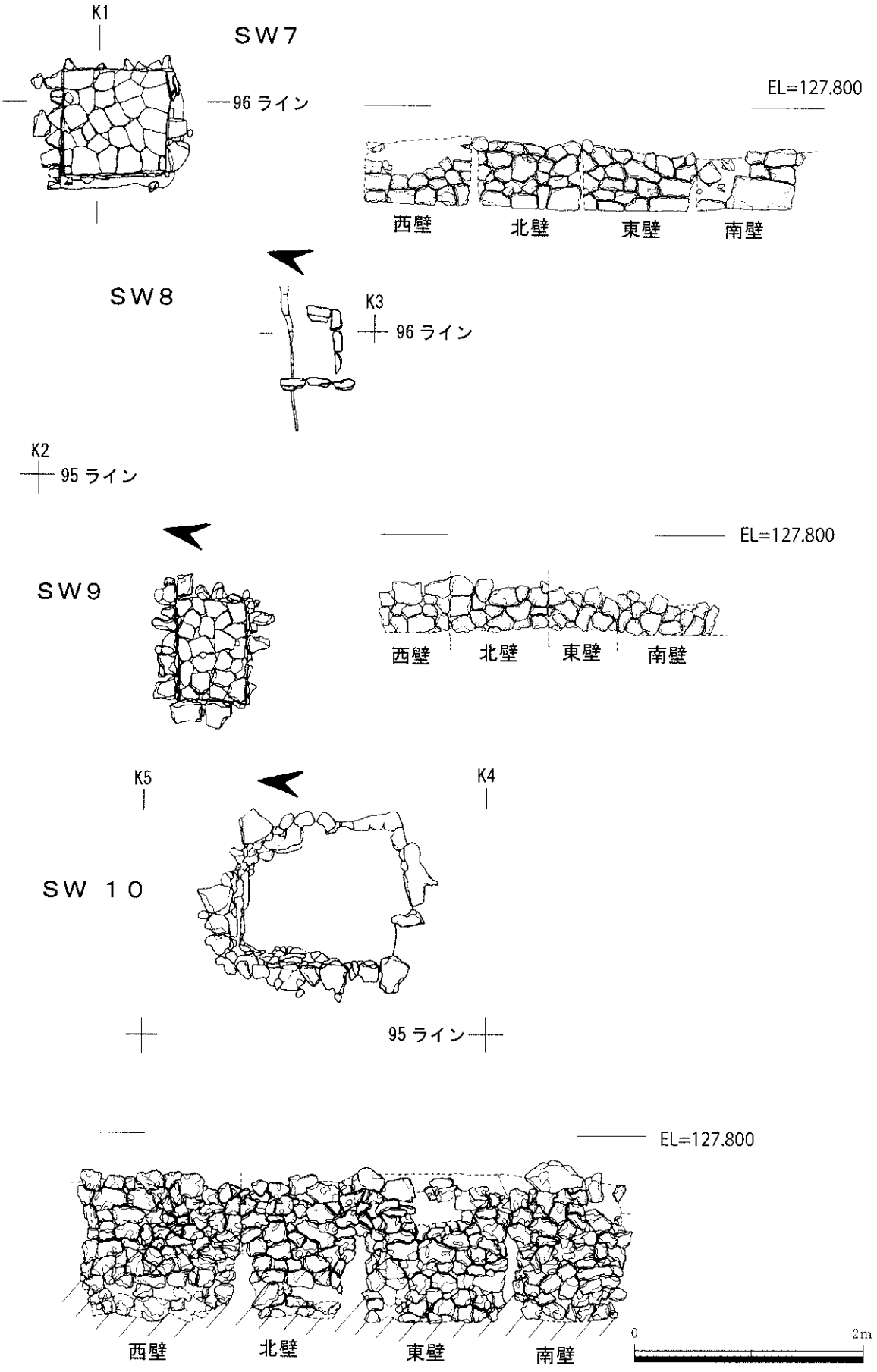
第 22 図　Ⅶ期基壇



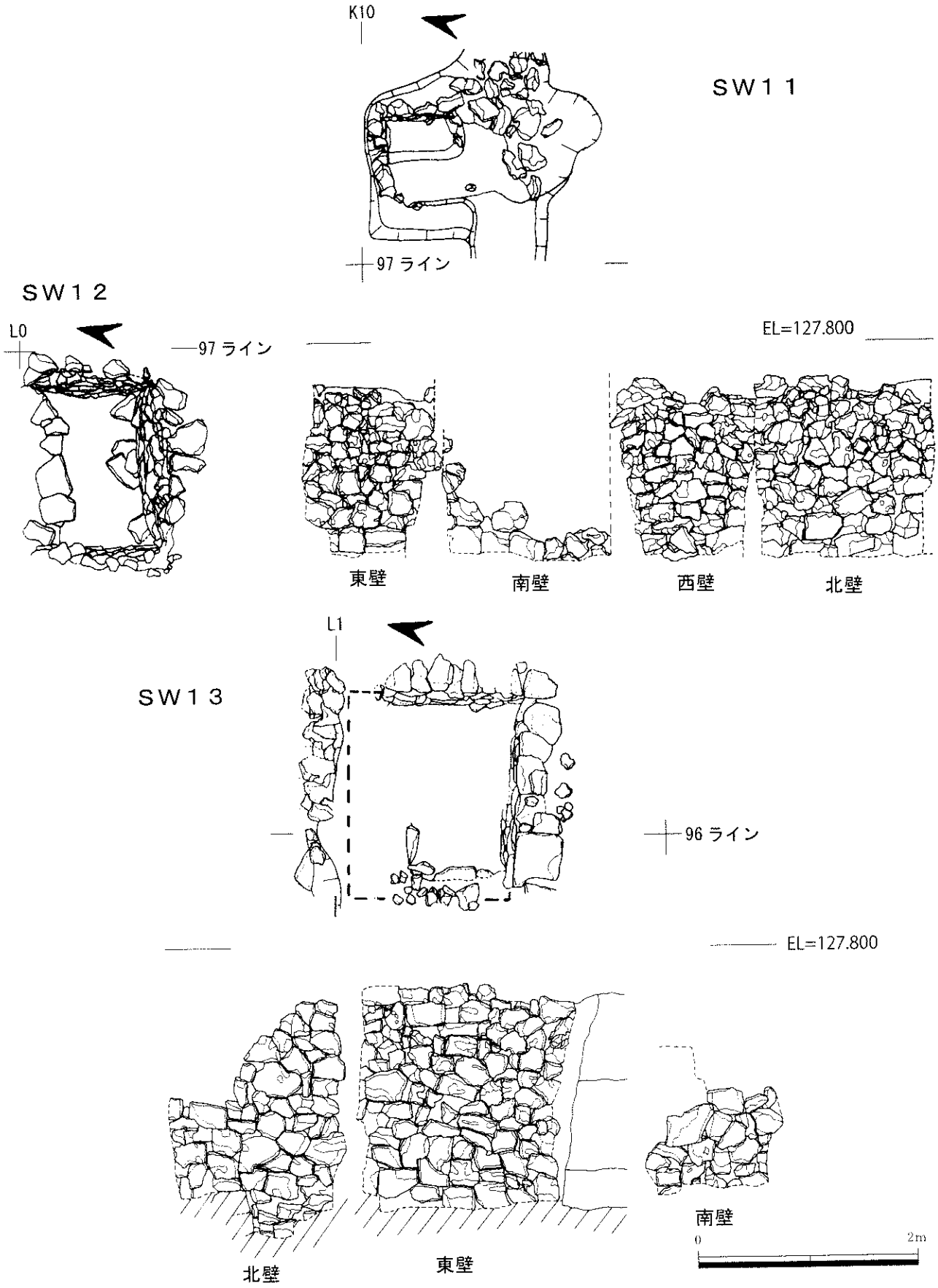
第 23 図　その他の遺構 1（SW1・2）



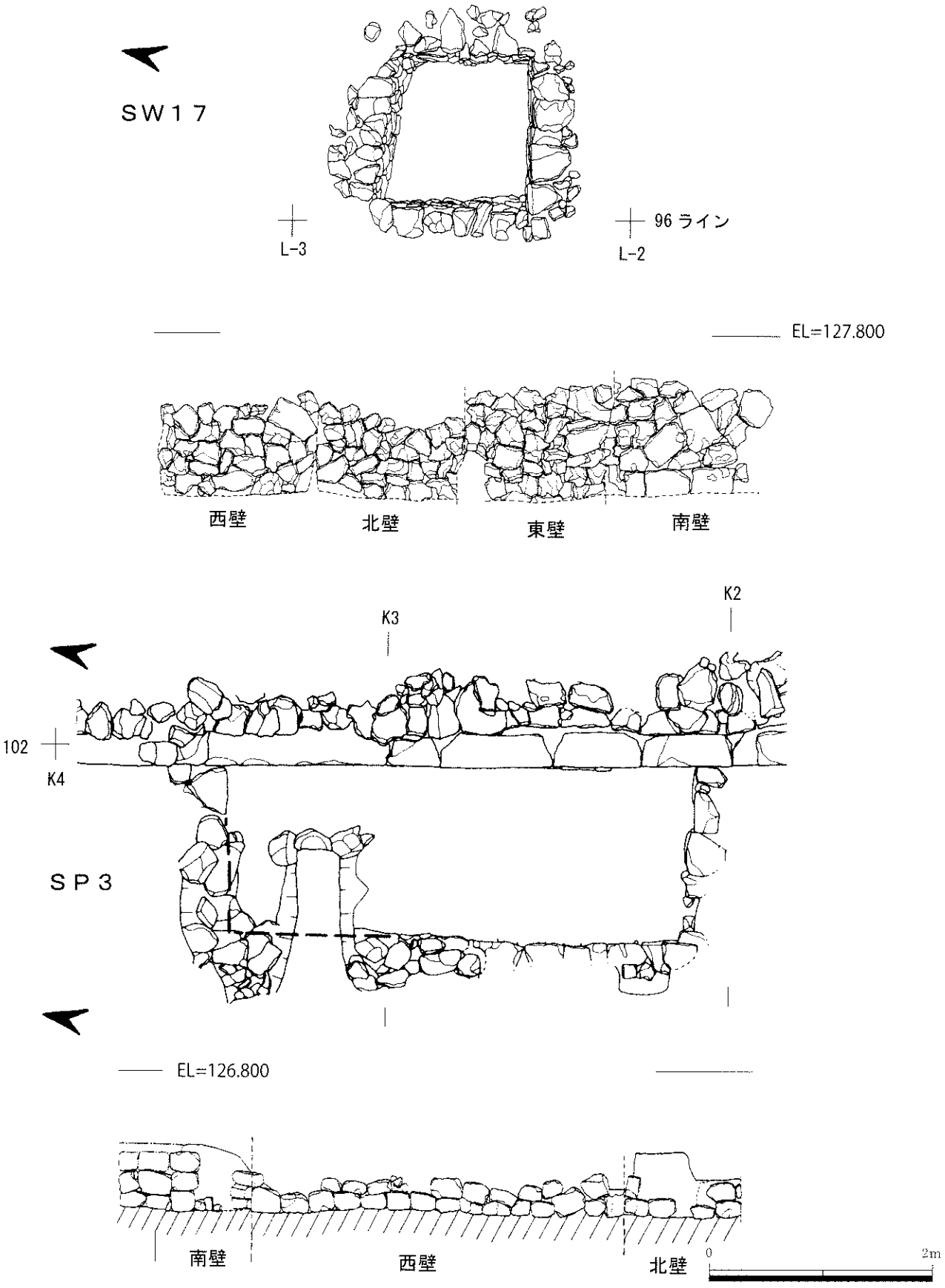
第 24 図　その他の遺構 2（SW3 ～ 6）



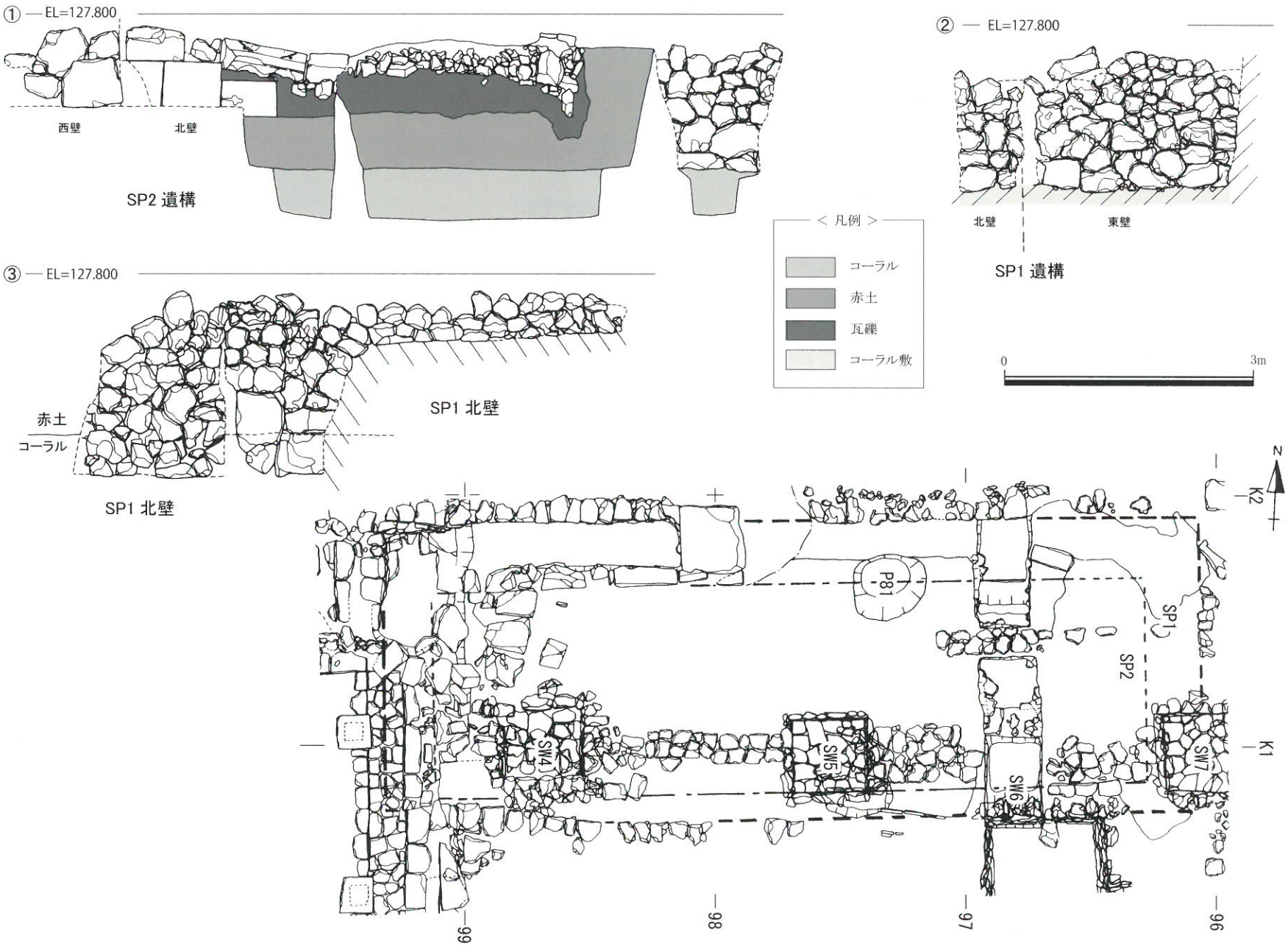
第 25 図　その他の遺構 3（SW7 ～ 10）



第 26 図　その他の遺構 4（SW11 ～ 13）



第 27 図　その他の遺構 5（SW17・SP3）



第 28 図　その他の遺構 6（SP1・2）

第４節　遺物

今回の調査では、中国・タイ・ベトナム・朝鮮・日本・沖縄の各地で生産された陶磁器類をはじめとして、瓦及び塼・銭貨・煙管・玉類・円盤状製品・金属製品・石製品・骨製品・土製品・ガラス製品・自然遺物などの多種多様な遺物が大量に出土した。これらは時期的に14世紀後半～19世紀を主体とするが、14世紀前半以前に遡るものや近代に位置づけられる資料もみられる。また今回得られた遺物の特徴として、かつて正殿があったという場所の特性を示すもの（火災等による被熱資料、特殊な用途の陶磁器類、琉球銭、大量の建築部材など）を多数含む点が挙げられる。以下、種類別に報告する。

１　中国産陶磁器・土器

①青磁

青磁は総計3,075点出土しており、その大半が龍泉窯系である。器種別では碗が最も多く出土しており、その次に皿、盤と続く。また壺や瓶、鉢といった大型の器種も多く出土しており、擂鉢や水注、器台、高足台付杯や象棋の駒といった特殊な器種も多く見られる。全体を概観すると二次的な被熱によって変色や砂粒が溶着したり、煤が付着した資料も比較的多く見られることから、火災等に遭った可能性が高い。なお、碗、小碗、皿、杯、盤、壺、瓶、香炉については分類を行ったので、以下にまとめる。

（１）碗　A類　口縁部が外反する碗で、外面胴部にはヘラ描きによる蓮弁文や草花文が、内底面には刻花文等が主に見られる。口縁部の形態で以下の３つに細分される。

Ａ－１：口縁部が緩やかに外反する。高台は低く、外底面は蛇の目状に釉剥ぎされる。

Ａ－２：口縁部が「く」の字状または外反が急になる。高台は低く、外底面は円形に釉剥ぎされる。

Ａ－３：口縁部が僅かに肥厚する。口縁部の肥厚が玉縁状となるａと玉縁状にならずに口唇部に向けて漸次肥厚するｂとに細分される。底部は内面高台から外底面が露胎となる。

B類　口縁部が直口する碗で、外面胴部には細蓮弁文や雷文帯、内底面には刻花文等が主に見られる。口縁部の形態で以下の３つに細分される。

Ｂ－１：口縁部の立ち上がりが斜めになる。外面高台下部は斜めに面取りされ、高台内面全体が露胎または外底面が円形に釉剥ぎされる。

Ｂ－２：口縁部の立ち上がりが急となる。外面高台下部は斜めに面取りされ、高台内面が蛇の目状に釉剥ぎされる。

Ｂ－３：口縁部が僅かに肥厚する。口縁端部で肥厚するａと口唇部に向けて漸次肥厚するｂとに細分される。外面高台下部は斜めに面取りされ、畳付は尖る。外底面は露胎となる。

C類　小振りな碗で口縁部が直口する。

D類　大きく「ハ」の字状に口縁部と高台が開く。口縁部から胴部にかけてはほぼ直に移行し、高台は低くかなり厚みを有する。釉は畳付けから外底面にかけて露胎となる。福建・広東碗系とされる。

（２）杯　A類　口縁部が外反する杯で外面胴部に文様が見られるものもある。

B類　口縁部が内傾する杯。

C類　高足台が付く杯。やや厚手で口縁部は外反する。馬上杯。

（３）皿　A類　口縁部が外反する皿。外面胴部には無鎬蓮弁文が、内底面には刻花文が見られる。高台は低く、

高台内の内刳りは浅い。高台内面から畳付にかけて露胎となる。

A－1：口縁部の外反が明瞭で、稜線を有し大きく屈曲する。

A－2：口縁部の外反が緩やかで、丸みを有しながら屈曲する。

B類　腰部が折れ、口縁部が外反する皿。高台は低く、高台内の内刳りは浅い。高台内面から畳付にかけて露胎となる。

B－1：口縁部が肥厚しないaと口縁部が玉縁状に肥厚するbとに細分される。

B－2：口縁部が肥厚しないaと口縁部が玉縁状に肥厚するbとに細分される。

B－3：八角皿で口径がやや大きい。

C類　腰折れが無く、口縁部が僅かにする外反皿。高台は低く、高台内の内刳りは浅い。高台内面から畳付にかけて露胎となる。

C－1：口縁部が玉縁状に肥厚する。

C－2：口縁部の肥厚が扁平状になる。

（4）盤　口縁部　A類　口縁部が鍔縁状となる盤。

A－1：口縁端部を上方に摘み上げる。大きく上方へ摘み上げるaと、摘み上げが簡略化され口縁端部の断面形が三角形状となるbとに細分される。

A－2：口縁端部の摘み上げはされず、平坦に仕上げる。

B類　口縁部が外反する盤。

底部　A類　器壁が厚く、低い高台をつくる。外底面は蛇の目状に釉剥ぎされる。

B類　高台が碁笥底状となる。釉薬が外面高台から外底面にかけて施される。

（5）蓋　A類　酒会壺などの大型品に対応すると考えられるもの。器形から以下の2つに細分される。

A－1：鍔と掛かりが付く。全体的に器壁は厚くなる。

A－2：端部が「く」の字状に折れる浅い蓋。

B類　小型の壺などに対応すると考えられるもの。

（6）壺　A類　肩が張り、胴下部が窄まる壺。酒会壺。

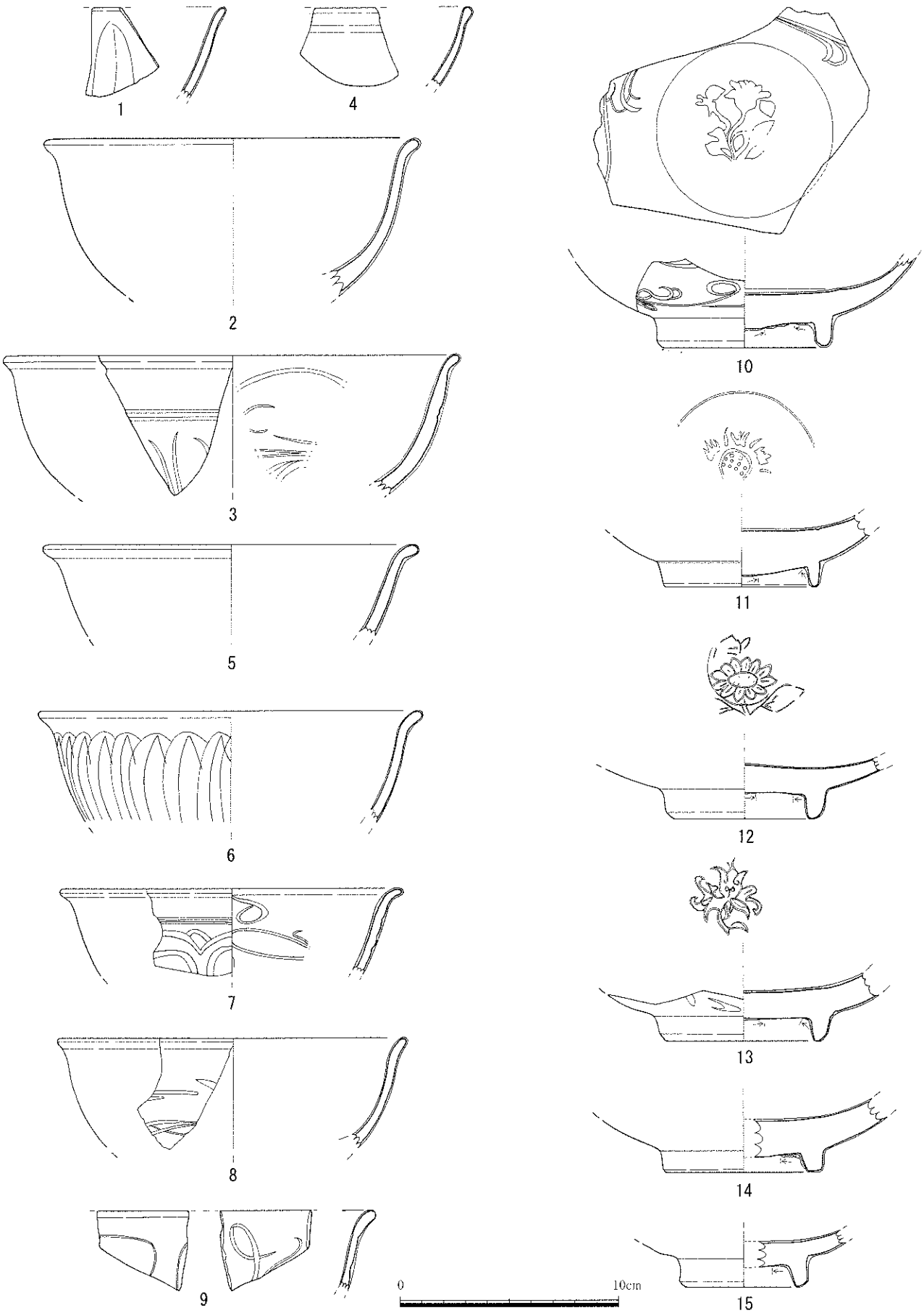
B類　胴下部が膨らみを有する壺。

（7）瓶　A類　口縁部が外反する長頸瓶。

B類　口縁部が直行する短頸瓶。

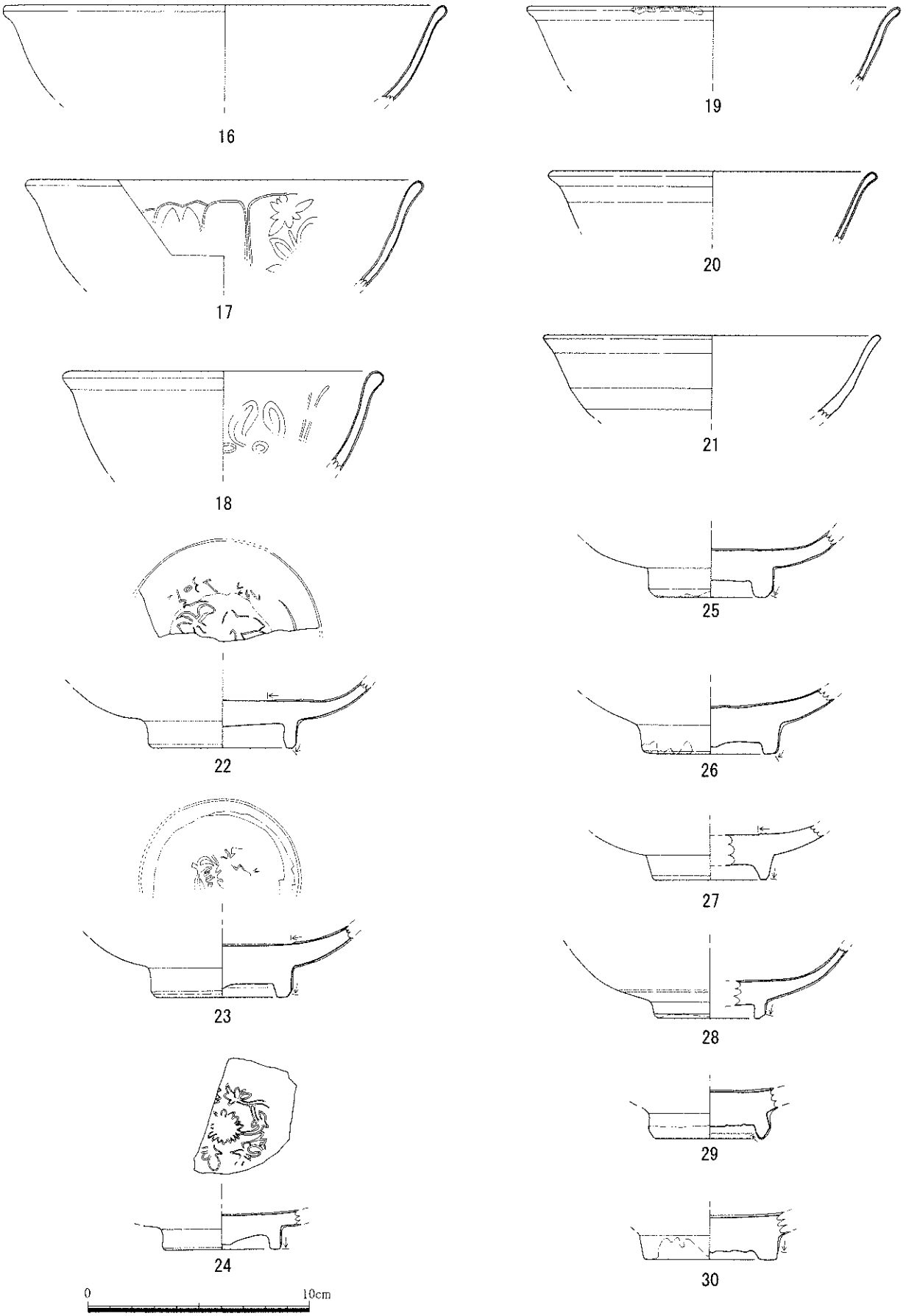
（8）香炉　A類　胴部が膨らみを有して底部から高台へ移行する三足香炉。大型の香炉で獣足となる。

B類　腰部が入れ、口縁部へ胴部が直行する三足香炉。

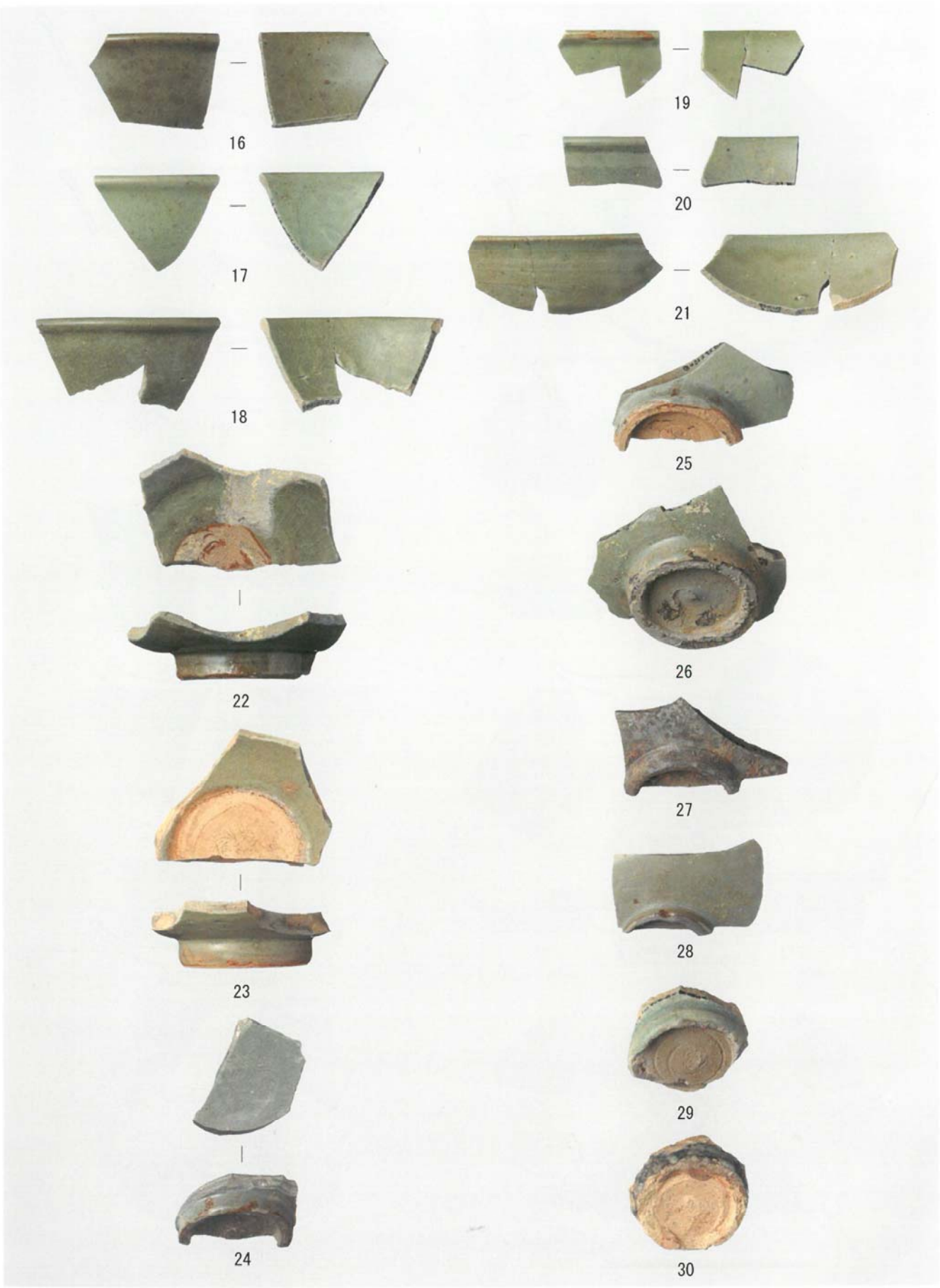


第 29 図　中国産陶磁器・土器 1（青磁 1）

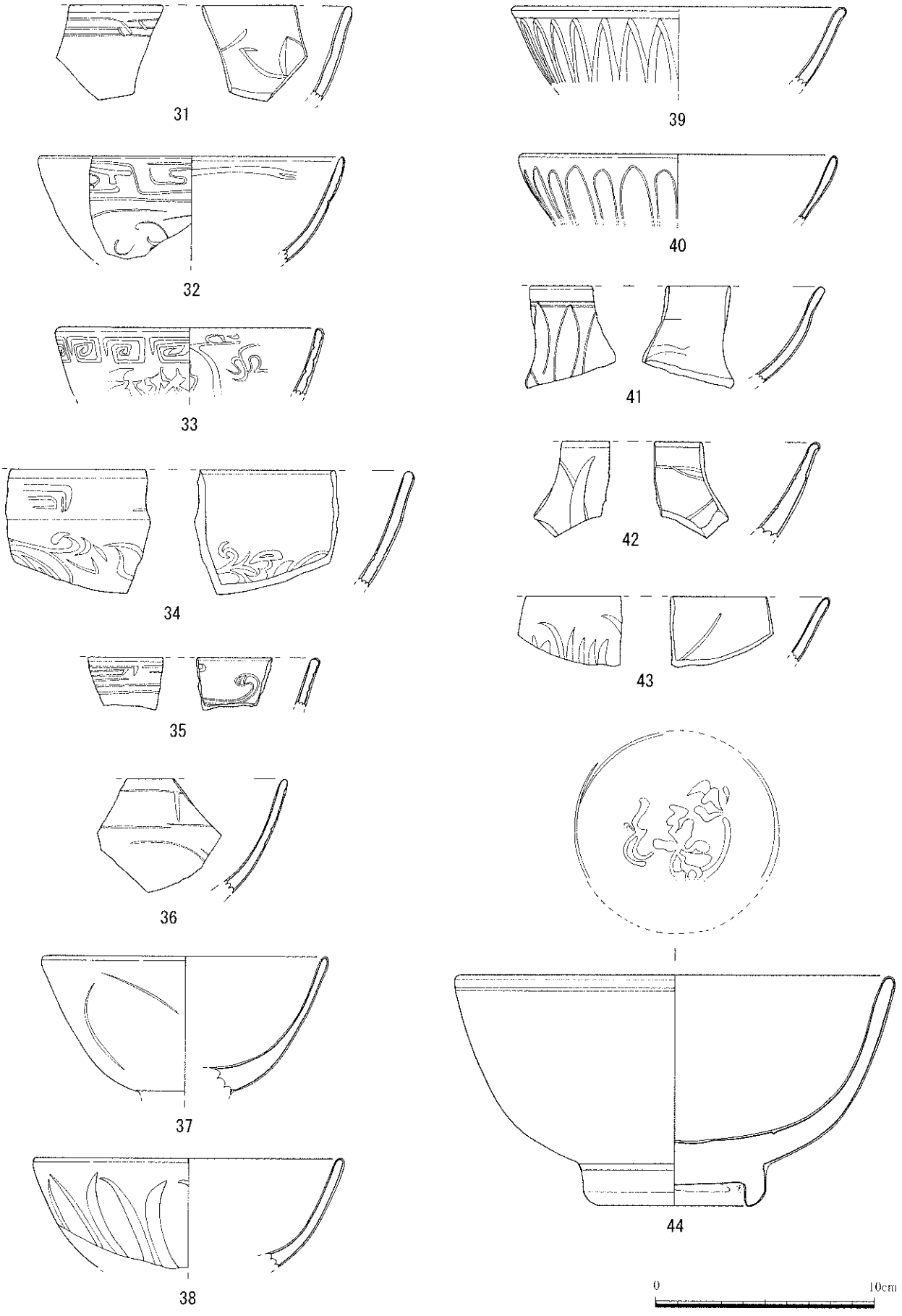
図版１　中国産陶磁器・土器１（青磁１）



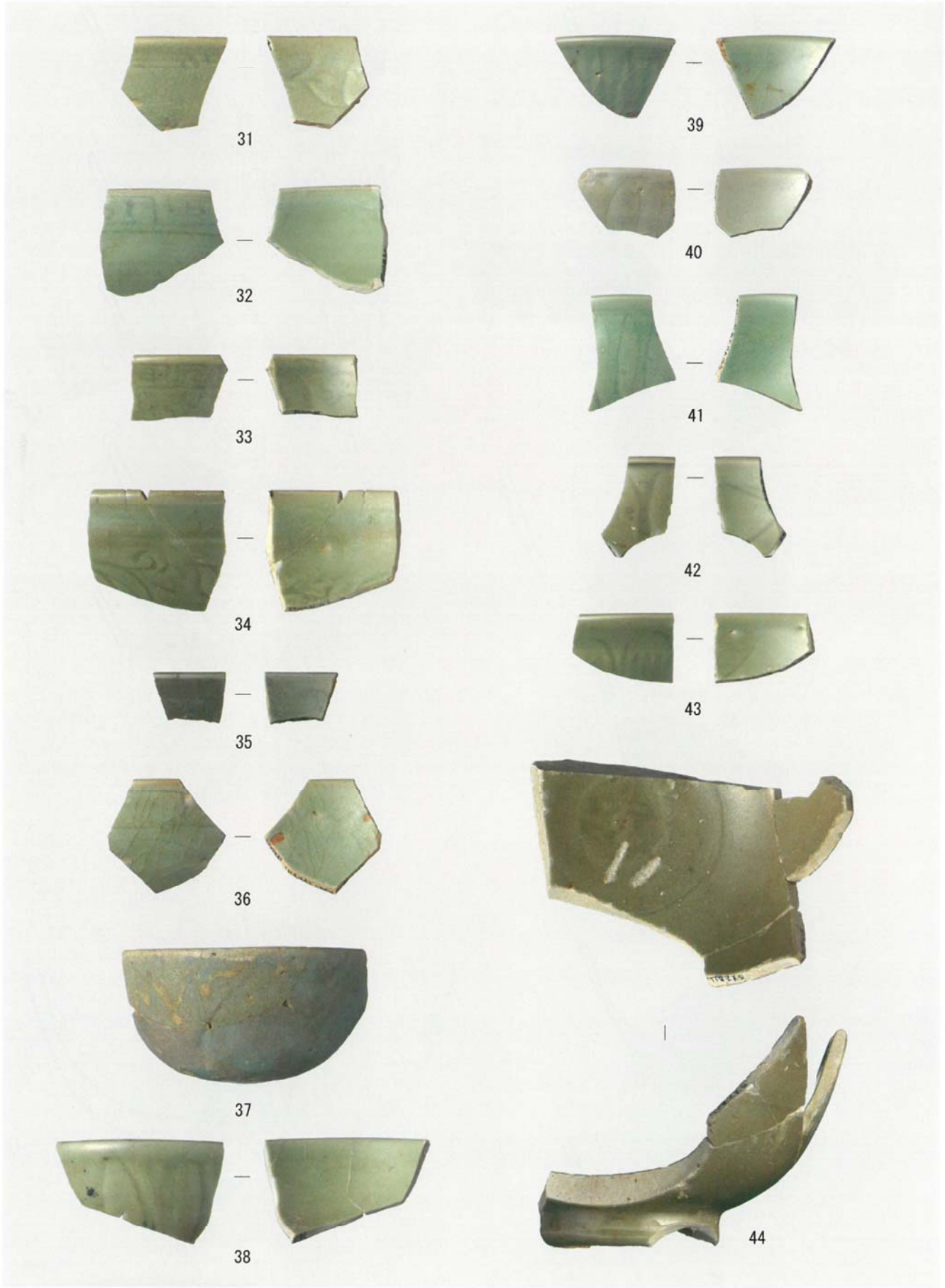
第 30 図　中国産陶磁器・土器 2（青磁 2）



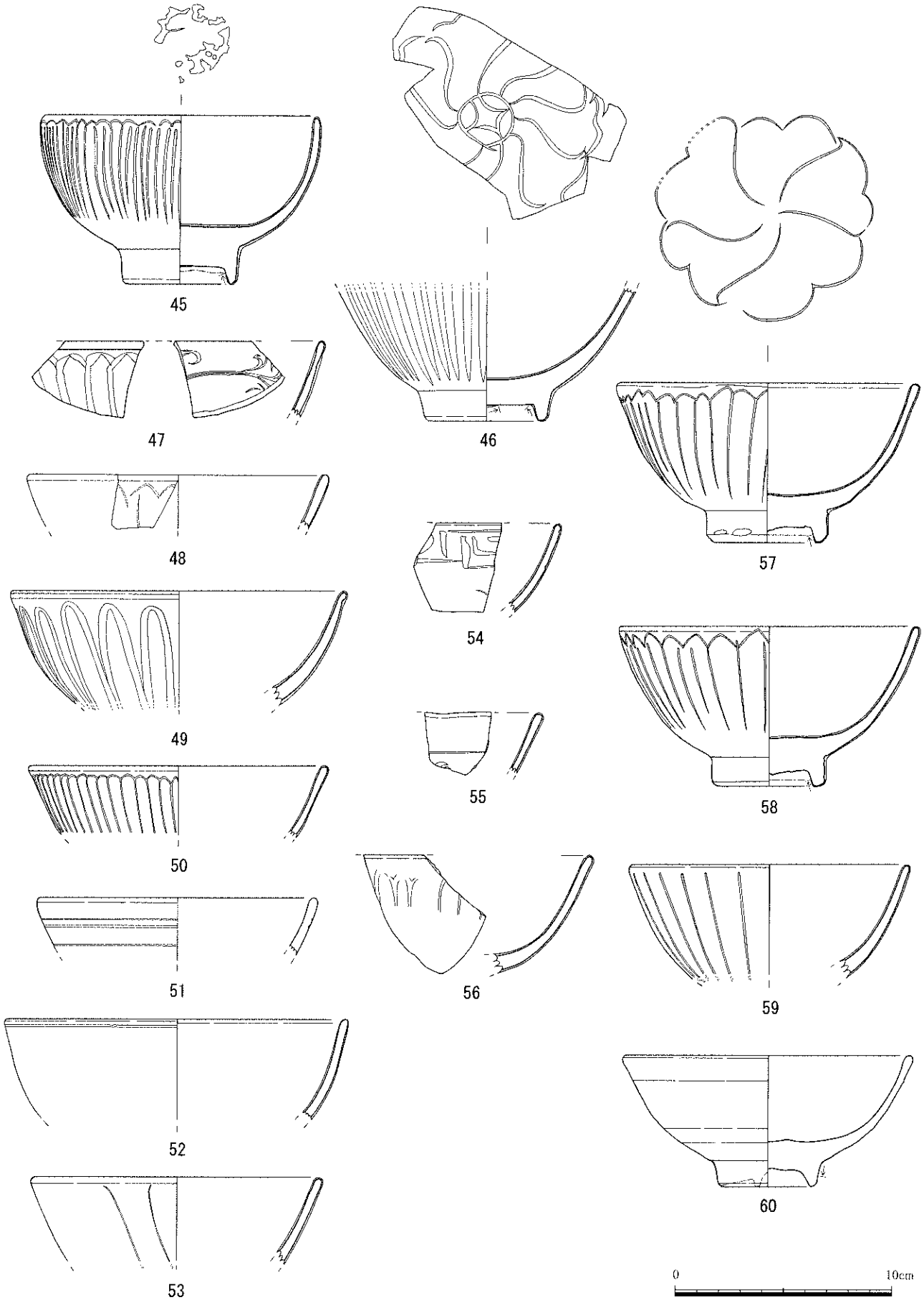
図版 2　中国産陶磁器・土器 2（青磁 2）



第 31 図　中国産陶磁器・土器 3（青磁 3）

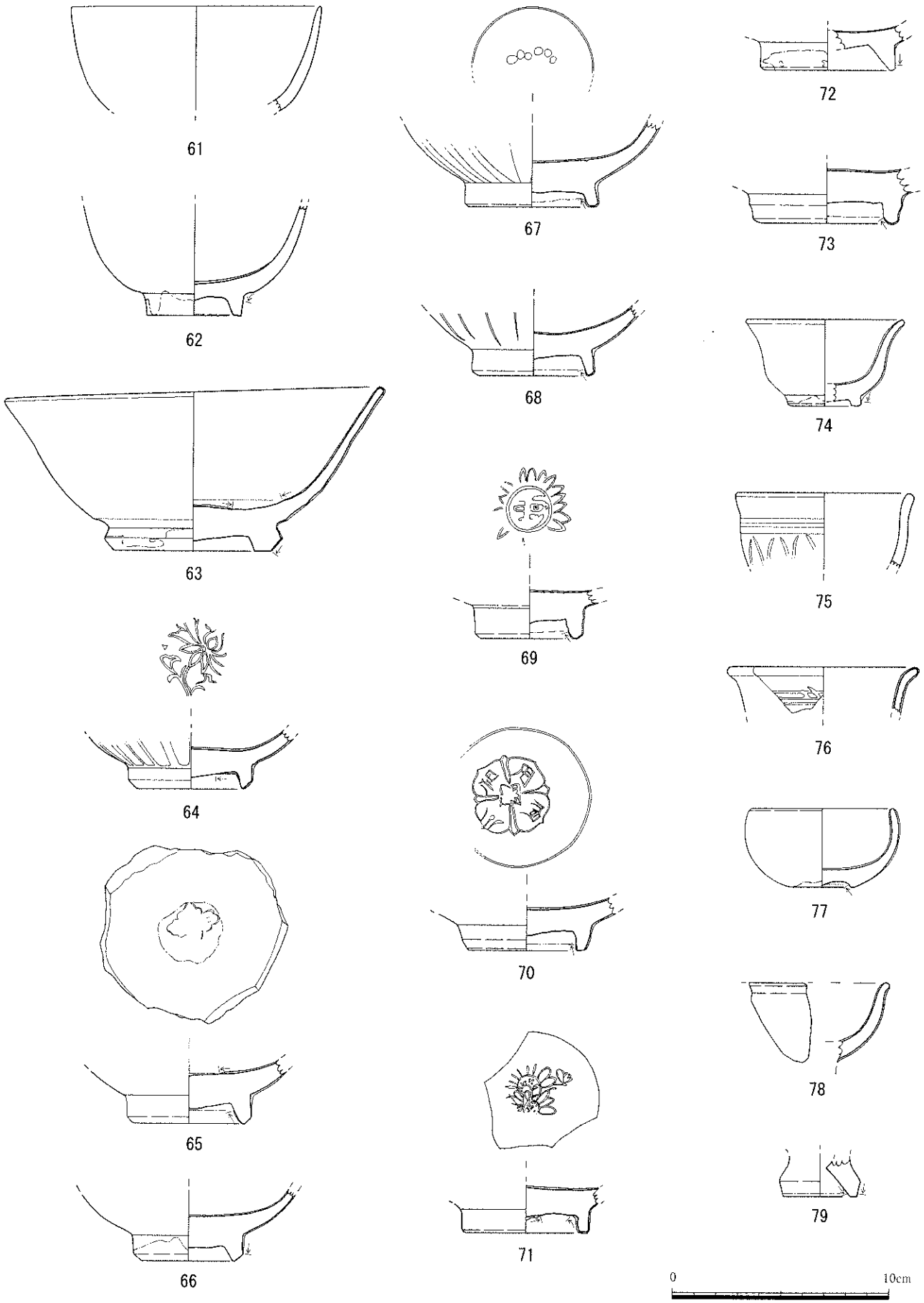


図版 3　中国産陶磁器・土器 3（青磁 3）



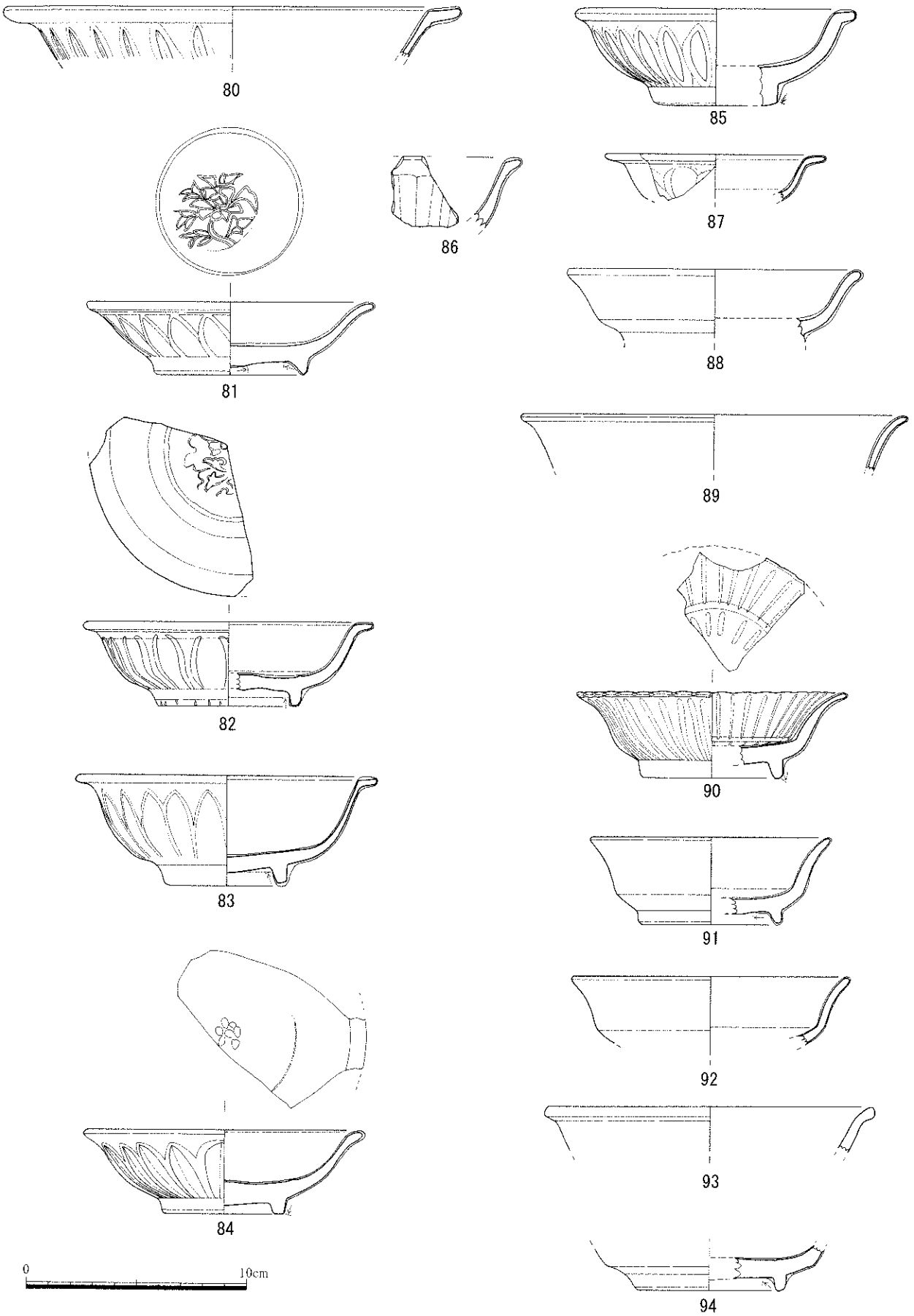
第 32 図　中国産陶磁器・土器 4（青磁 4）

図版 4　中国産陶磁器・土器 4（青磁 4）



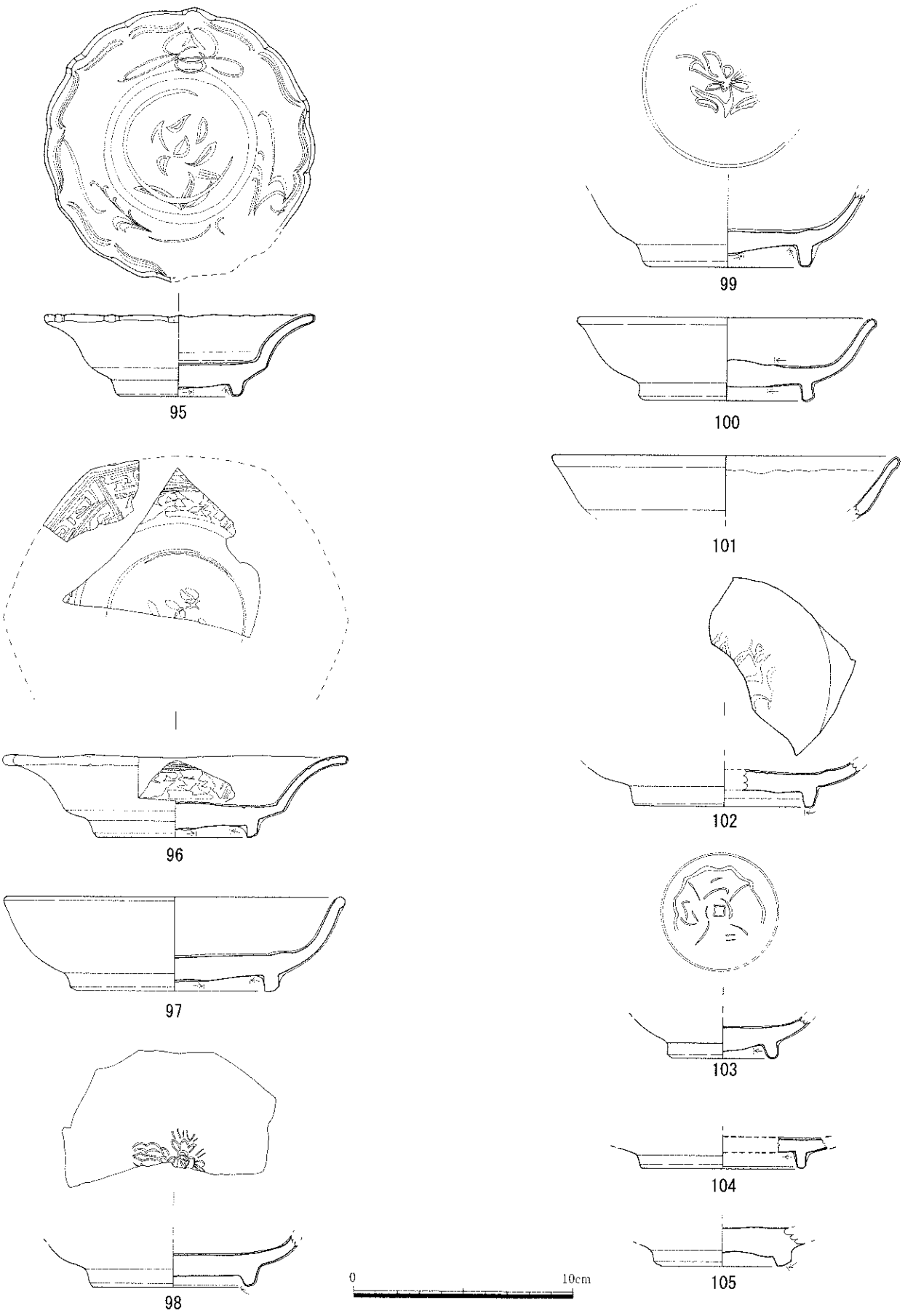
第 33 図　中国産陶磁器・土器 5（青磁 5）

図版 5　中国産陶磁器・土器 5（青磁 5）



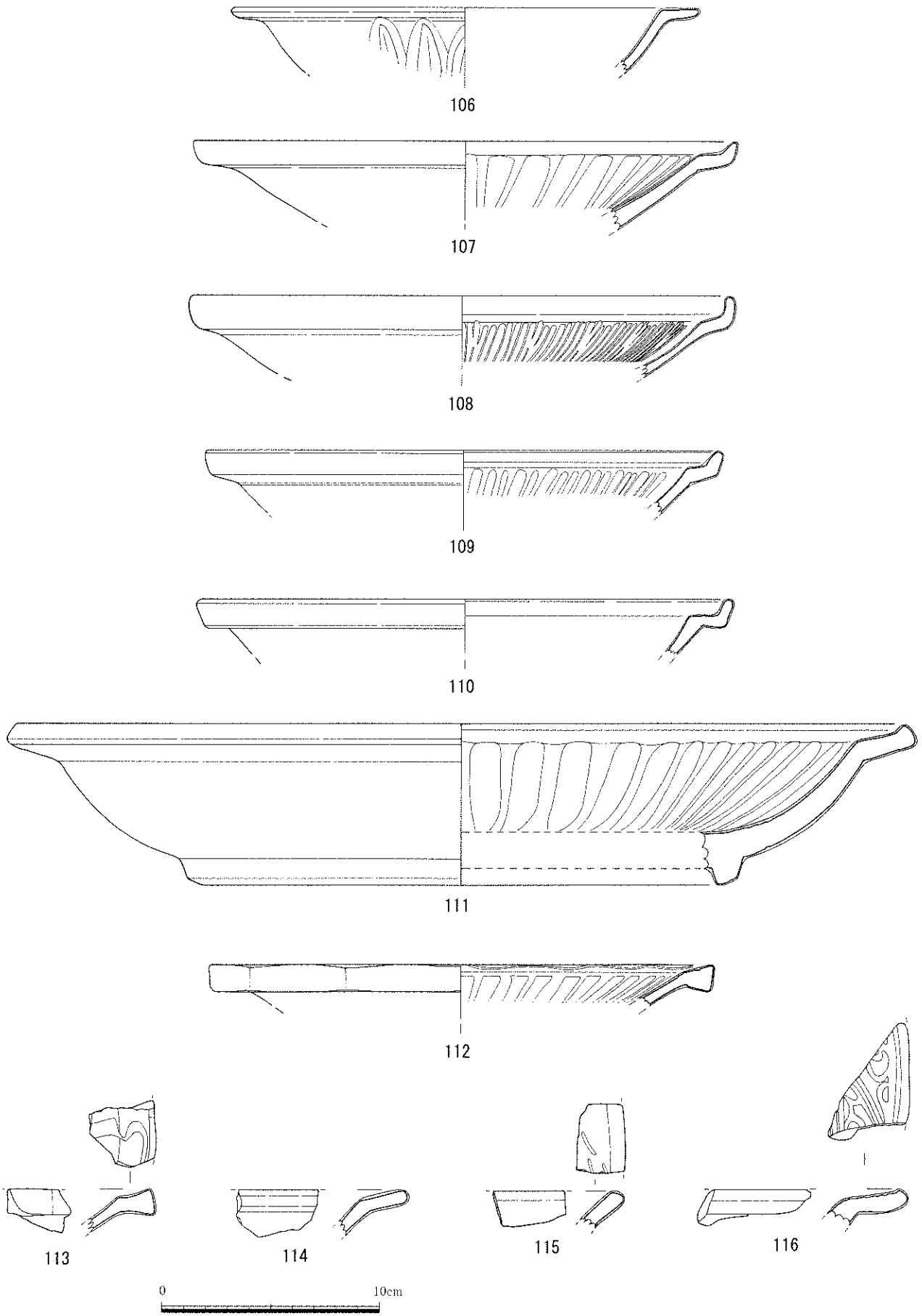
第 34 図　中国産陶磁器・土器 6（青磁 6）

図版 6　中国産陶磁器・土器 6（青磁 6）

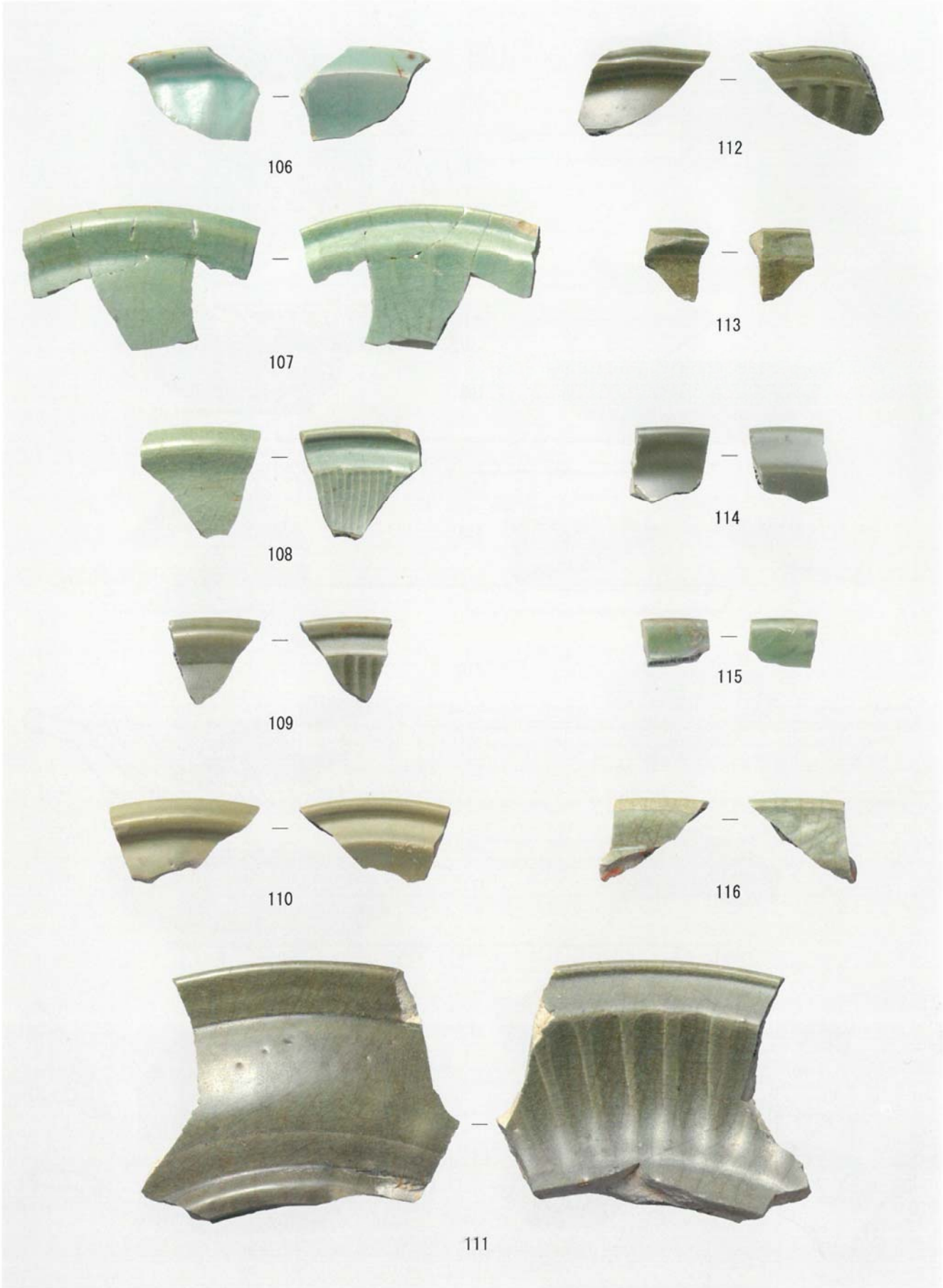


第 35 図　中国産陶磁器・土器 7（青磁 7）

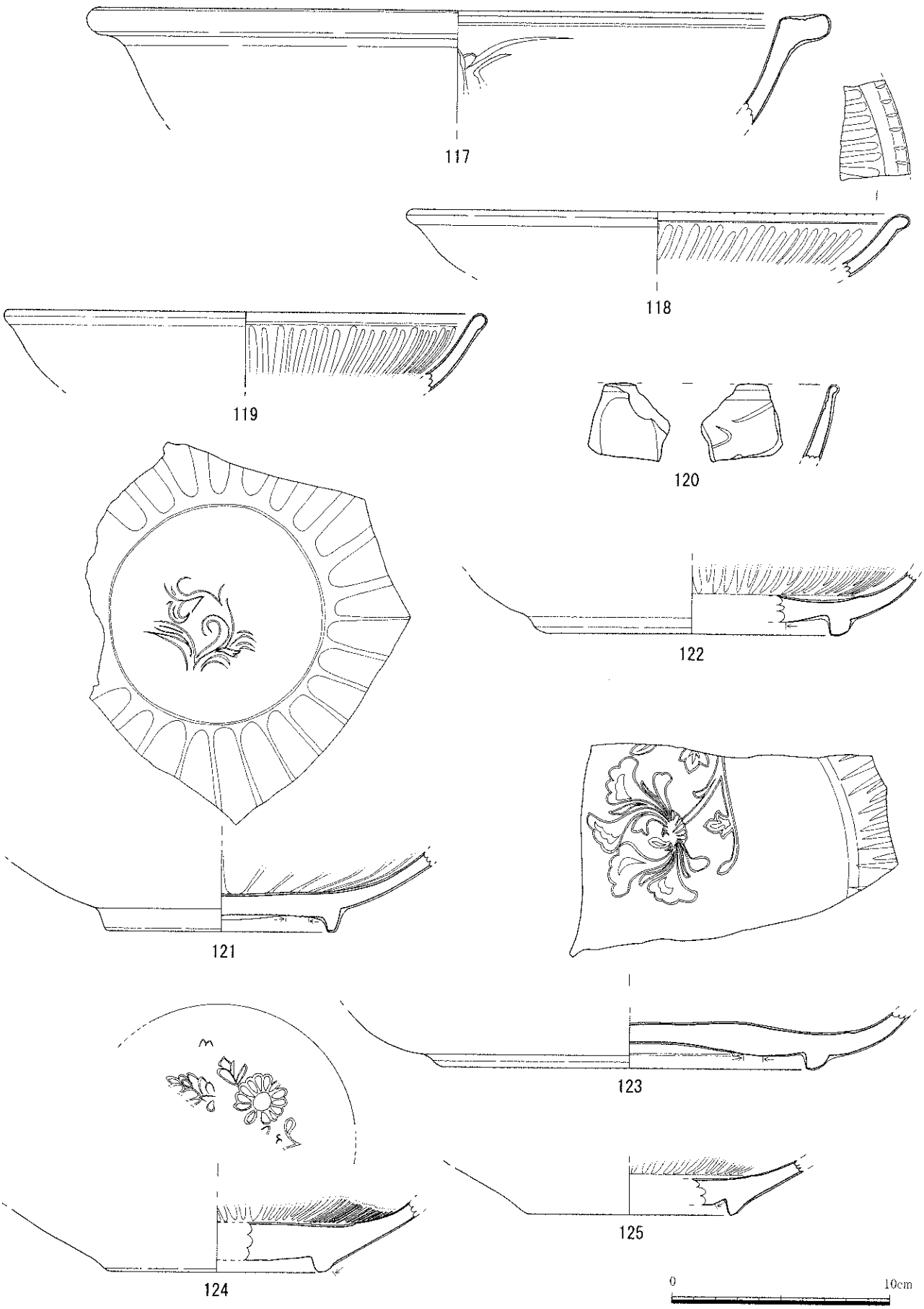
図版 7　中国産陶磁器・土器 7（青磁 7）



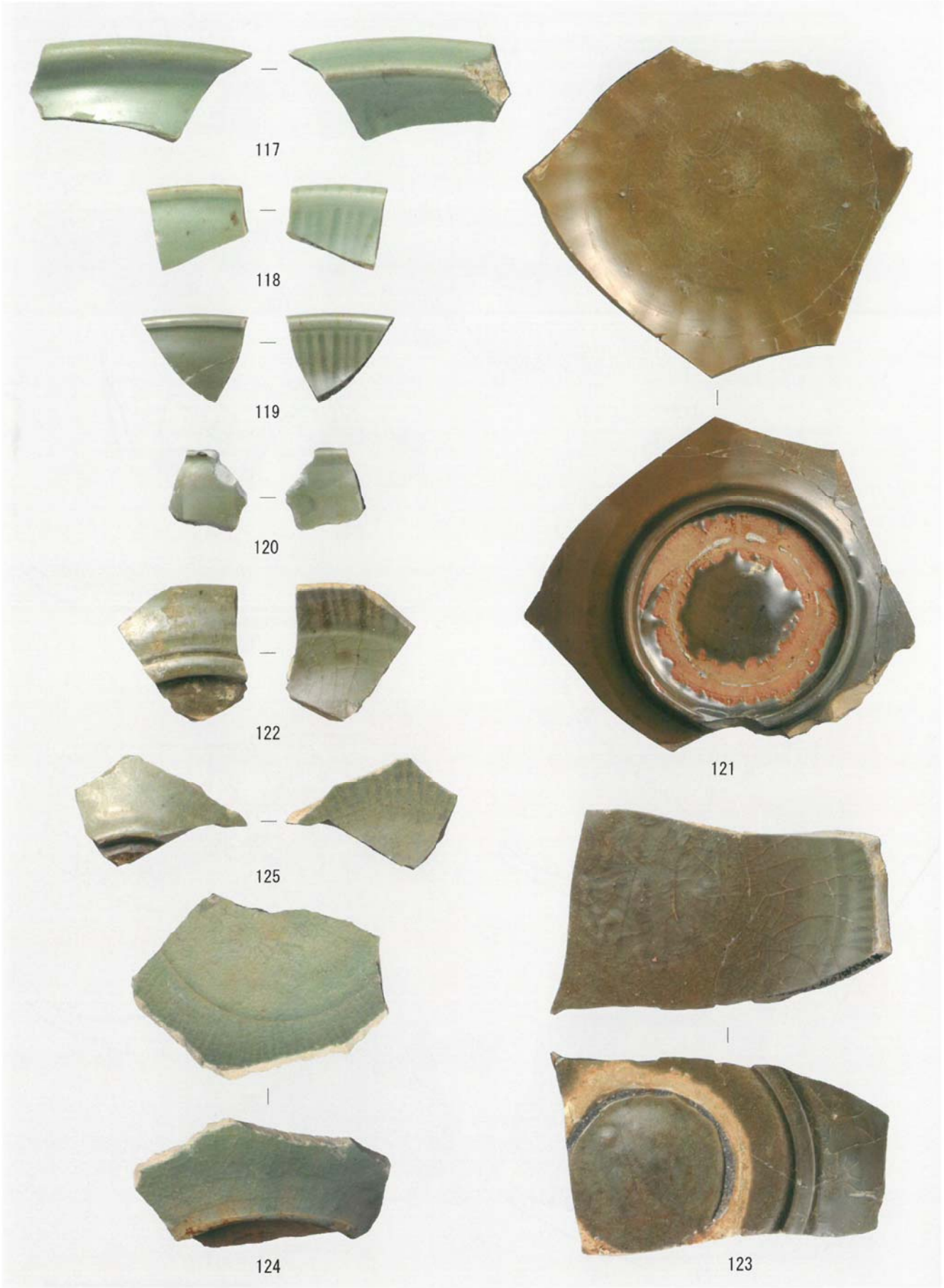
第 36 図　中国産陶磁器・土器 8（青磁 8）



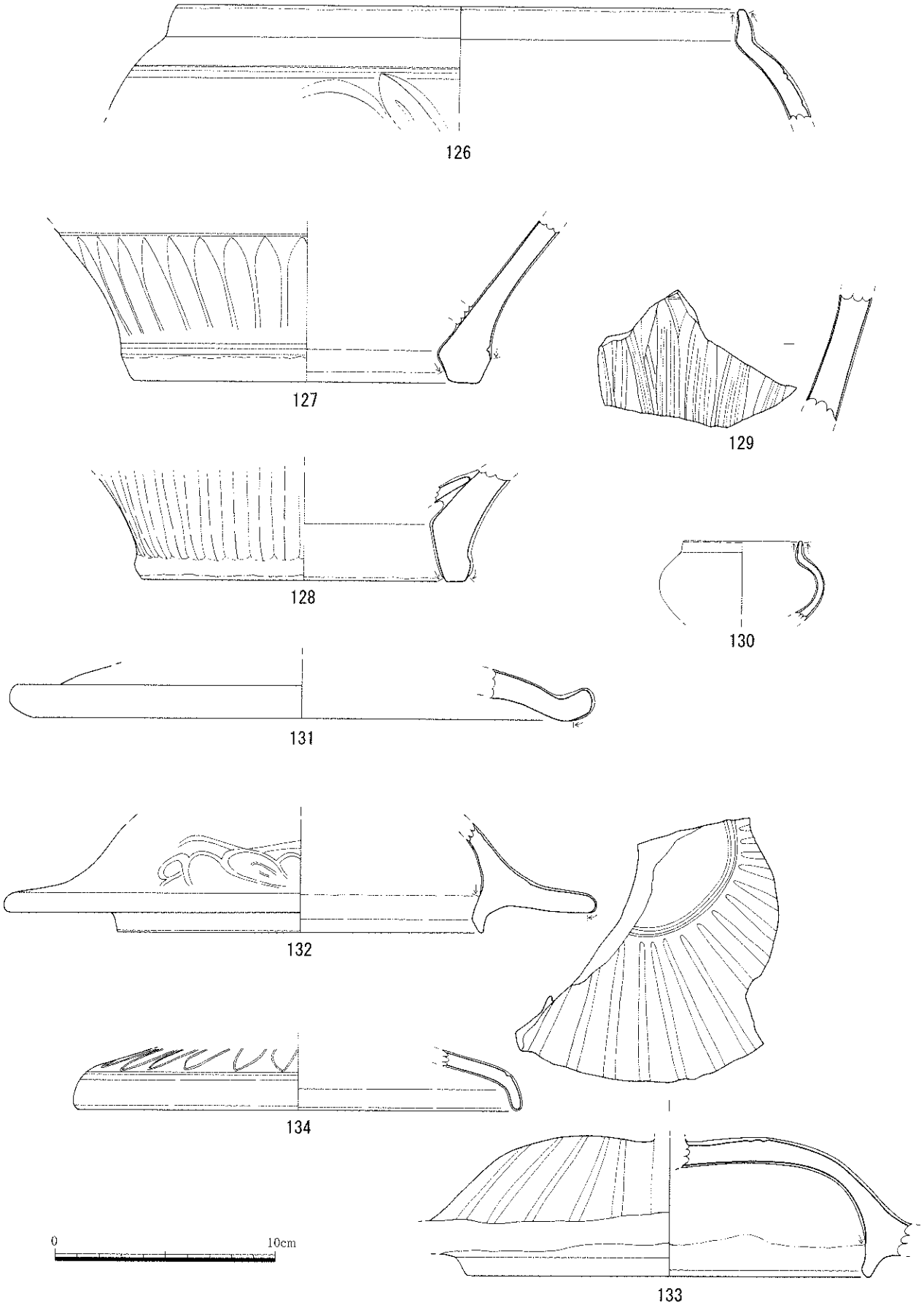
図版 8　中国産陶磁器・土器 8（青磁 8）



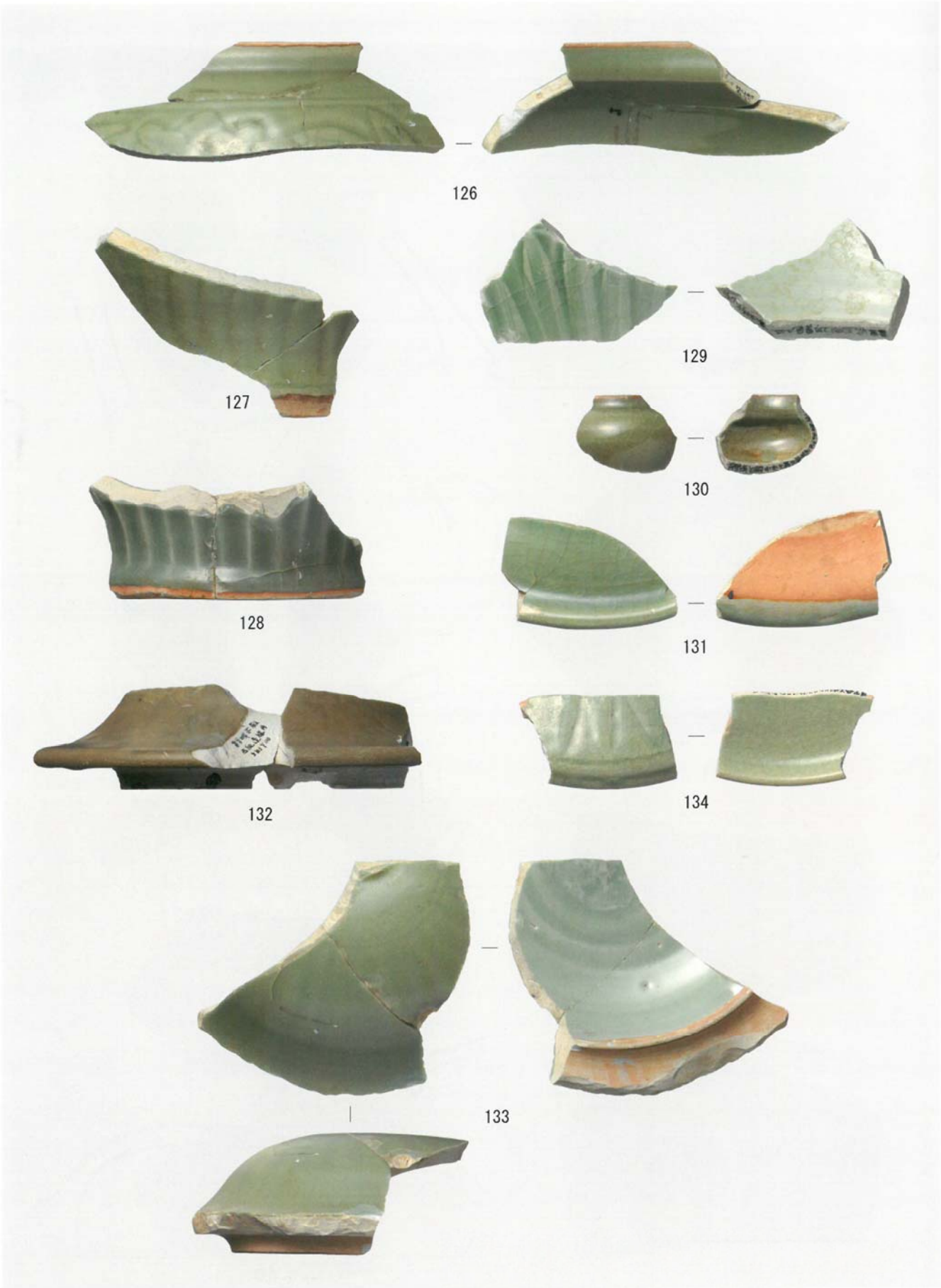
第 37 図　中国産陶磁器・土器 9（青磁 9）



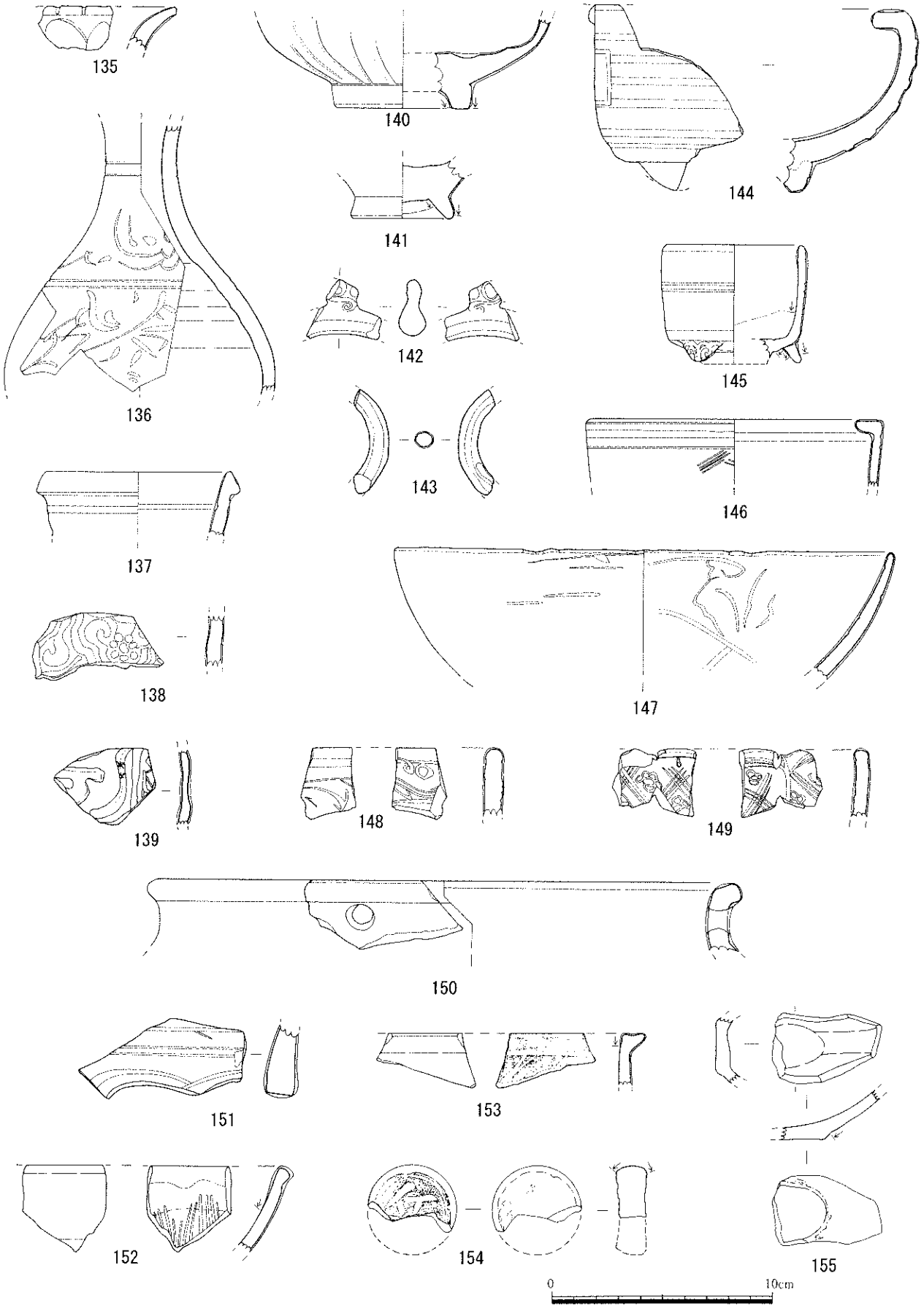
図版 9　中国産陶磁器・土器 9（青磁 9）



第 38 図　中国産陶磁器・土器 10（青磁 10）



図版 10　中国産陶磁器・土器 10（青磁 10）



第 39 図　中国産陶磁器・土器 11（青磁 11）

図版 11　中国産陶磁器・土器 11（青磁 11）

②白磁

白磁は総計519点出土している（第３表）。徳化窯系や閩清窯系、景徳鎮窯系、福建・広東系など中国南部で製作された資料が大半を占めている。これらの中には二次的な被熱によって変色や砂粒が溶着したり、煤が付着した資料も比較的多く見られることから、火災等に遭った可能性が高い。器種に関しては碗・皿などの小型の製品が主体であり、少数であるが　　瓶、壺といった大型製品も出土している。概ね14世紀後半から17世紀頃までのものが出土しているが、12世紀後半から13世紀前半頃の玉縁口縁碗も１点出土している。文様は施されていないものが大半であるが、一部に内底面にはスタンプによる花文や字款や外面胴部にヘラ描きによる草花文が見られるものや、外底面には呉須で字款が描かれるものがある。以下、特徴的な資料を第40・41図に示し、個々の観察所見は第４表に記す。

（1）碗　A類　口縁部が玉縁状に肥厚する碗。肥厚部はやや扁平となる。

B類　口縁部はほぼ直口する碗。底部の畳付けは水平に切られ、外面底部際は段を有する。胴部は大きく膨らむ。

B－１：直口口縁碗。釉薬が外面胴下部から露胎となる。

B－２：口縁部が僅かに外反する。

C類　口縁部が大きく外反する碗。高台は低く、ハの字状に開く。

C－１：高台外面までは施釉され、畳付から外底面にかけて露胎となる。

C－２：畳付以外は施釉される。全体的に器壁は薄い。

D類　薄手の口縁部が直口する碗。高台は低く、高台内の内繰りは浅い。底部は内外面共に露胎となる。

E類　直口部が直行する碗で、口縁端部が僅かに肥厚する。高台は畳付から外底面にかけて露胎となる。

（2）杯　A類　口縁部が外反する八角杯で、高台には抉りが見られるものもある。

B類　口縁部が大きく開く杯で、高台が碁笥底状となる。

C類　口縁直下で屈曲させて外反する杯。

（3）皿　A類　腰部が折れる厚手の外反皿。

B類　腰部が折れる薄手の外反皿。

C類　口縁部が直口する皿。

C－１：やや厚手で高台には抉りが４カ所見られる。畳付けのみ露胎となる。

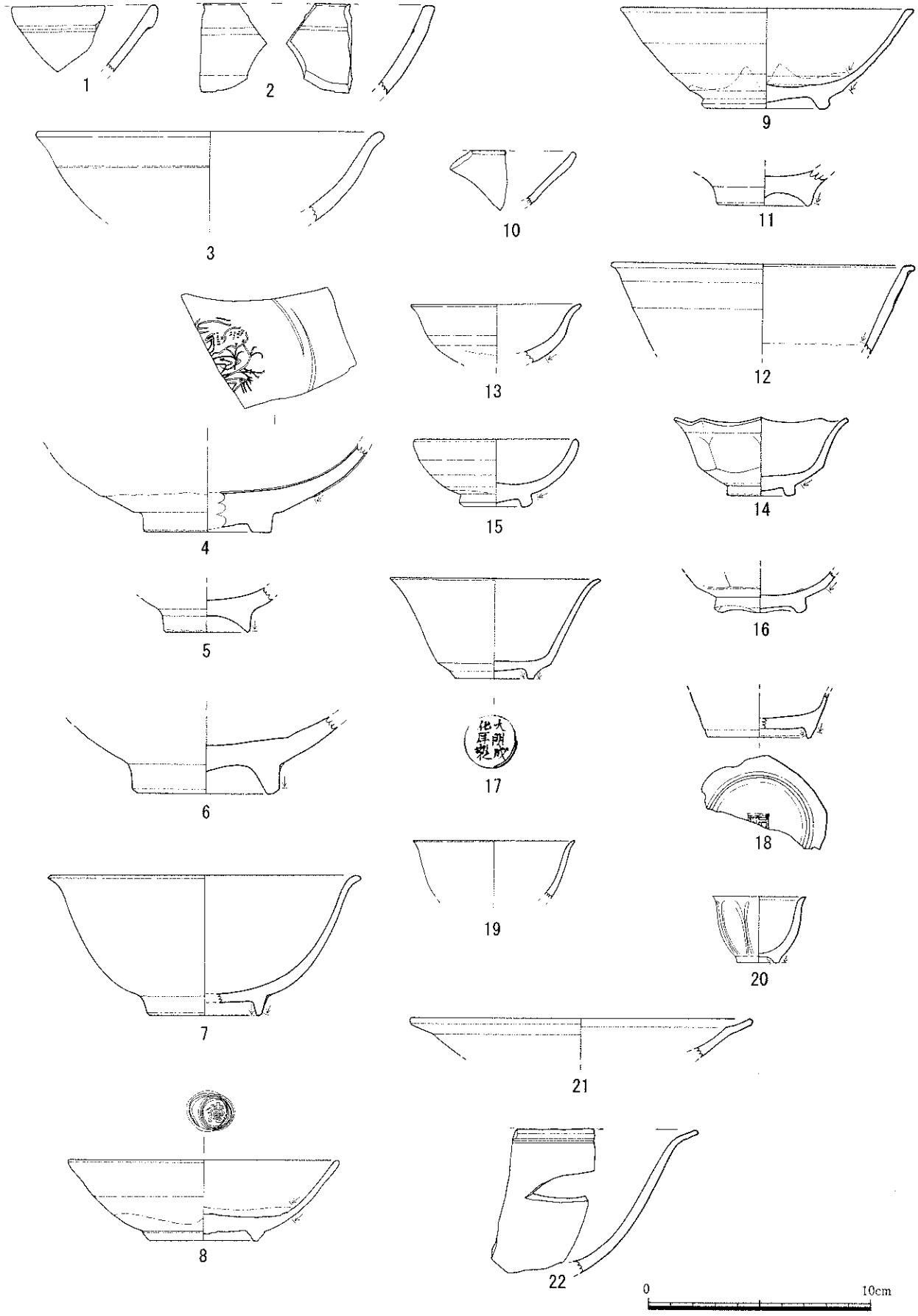
C－２：薄手で高台は碁笥底状となる。内外面共に胴下部から底面にかけて露胎となる。

D類　大振りの外反皿もしくは盤。全体的に器壁は薄い。

D－１：口縁部は外反し、高台は低く、内傾する。胴部には膨らみを有する。

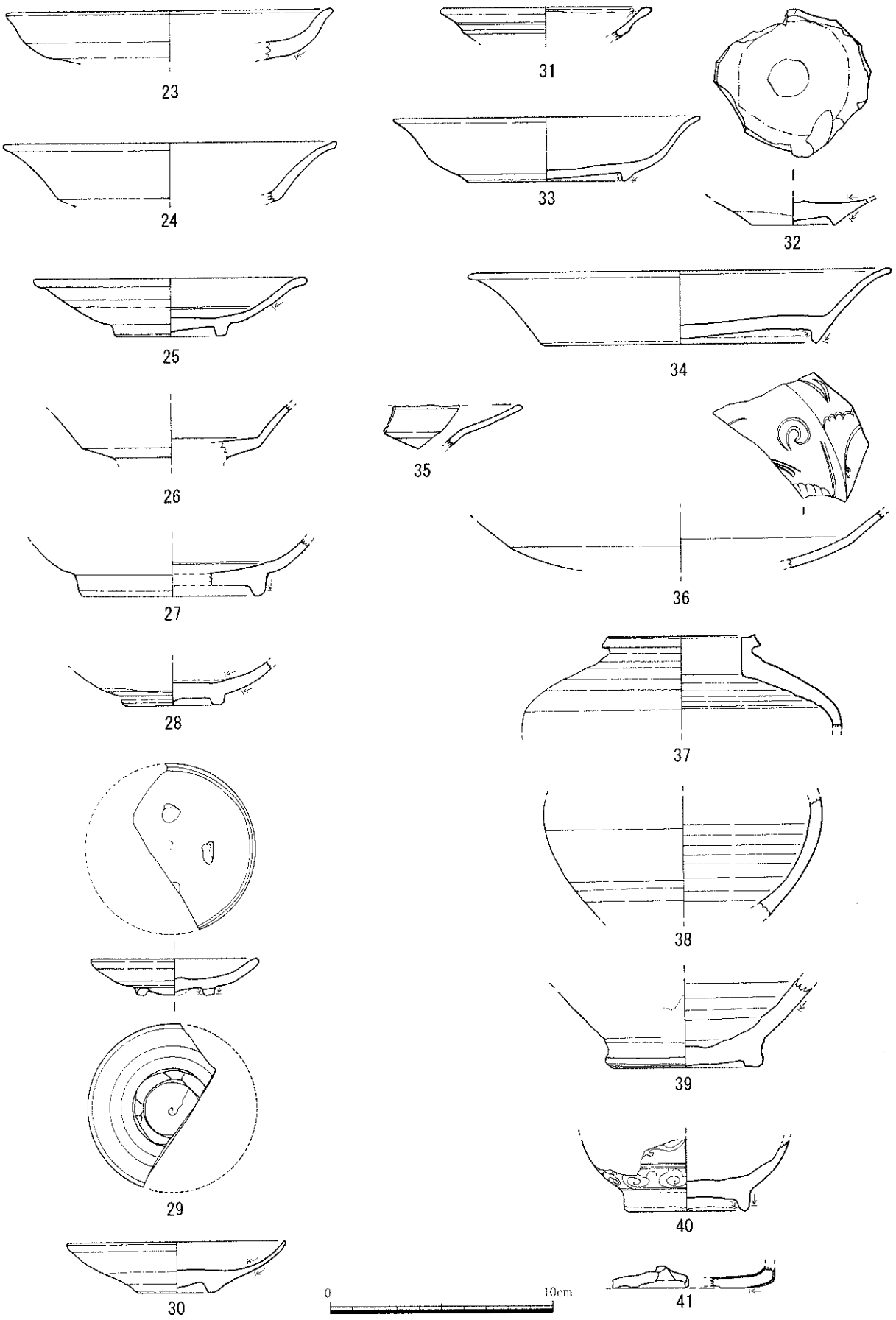
D－２：口縁部は外反し、高台は低く、内傾する。胴部は膨らみを有さず、高台から口縁部にかけて大きく外反する。

E類　口縁部が「く」の字状に大きく外反し、鍔状になる。全体的に器壁は薄く、腰部は膨らみを有する。



第 40 図　中国産陶磁器・土器 12（白磁 1）

図版 12　中国産陶磁器・土器 12（白磁 1）



第 41 図　中国産陶磁器・土器 13（白磁 2）

図版 13　中国産陶磁器・土器 13（白磁 2）

③青花

青花は総数1,871点出土している（第5表）。年代は15～19世紀に位置づけられ、窯跡別だと景徳鎮窯・徳化窯・漳州窯のほか、詳細は不明だが福建省や広東省などの中国南部地域で生産されたと考えられるものなどがみられる。器種は碗・小碗・小杯・皿・盤・鉢・小壺・瓶・水注・壺とそれに伴う蓋が得られているが、青磁や白磁と同じく二次的な被熱による溶着や変色が認められる資料もある。以下、器種別の分類概念を記し、個々の観察所見は第6表に示す。

碗は年代でみるとグスク時代と近世に大別される。グスク時代の資料は口縁部が端反を呈するもの（1～11、26）、口縁部を鍔縁状に折り高台が「ハ」の字形に開くもの（12・13）、口縁部が直口するもの（24・25、27、32～44、68）、直口口縁で腰部に稜を持つもの（28～31）などがみられる。このうち、1～11は小野正敏氏の分類（小野1982）によるとB1群、27と68はC群、28～31はD群にそれぞれ相当し、12と13は沖縄分類（瀬戸ほか2007）のC´類に相当する。近世の資料は口縁部を鍔縁状に折るもの（14・15、59～62）、端反口縁を呈するもの（16～23、63・64）、直口口縁で内底と外底を露胎にするもの（65～67、69～80）、型成形で口縁部が端反または直口するもの（81～91、94・95）、端反口縁だが腰部の張りが弱いもの（92・93）などがある。このうち、端反口縁の16～23は森毅氏の分類（森1995）によるとB3群に相当し、鍔縁状口縁の製品は上田秀夫氏の分類（上田1991）によるとA－Ⅳ類に相当する。また直口口縁のものは漳州窯系（65～67、69～75）と福建・広東系（76～80）に細分できる。

小碗は口縁部が端反または鍔縁状を呈するもの（96・97）、型成形で端反口縁となるもの（108～115、122）、端反口縁だが腰部の張りが弱いもの（116～121）などがあり、このうち96と97は森分類（森1995）の小杯Ⅰ類に相当する。大半が近世に位置づけられる。

小杯は碁笥底状の底部から筒状に立ち上がり端反口縁となるもの（125）、腰部の張りが強く口縁部が直口するもの（126）、高台付きの端反口縁で轆轤成形のもの（127）と型成形のもの（128）などがみられる。全て近世の資料である。

皿は口縁部が端反を呈するもの（129、131～134）、碁笥底で口縁部が直口するもの（135～140）、高台付きで口縁部が直口するもの（141～144）、口縁部内面に稜を持ち兜鉢状に開くもの（145～152）、型成形で口縁部が端反となるもの（153・154）など様々な資料がある。このうち、129～134及び135～140は小野分類（小野1982）のB1群とC群に相当し、141～144は上田分類（上田1991）のA－Ⅲ類、145は森分類（森1995）のF群粗製にそれぞれ相当する。

小皿は口縁部が直口する型成形のもので、外面に成形時の痕跡が残る（155・156）。近世の資料である。

盤（157）は鍔縁口縁で口唇部を花弁状に成形する。グスク時代に位置づけられる。

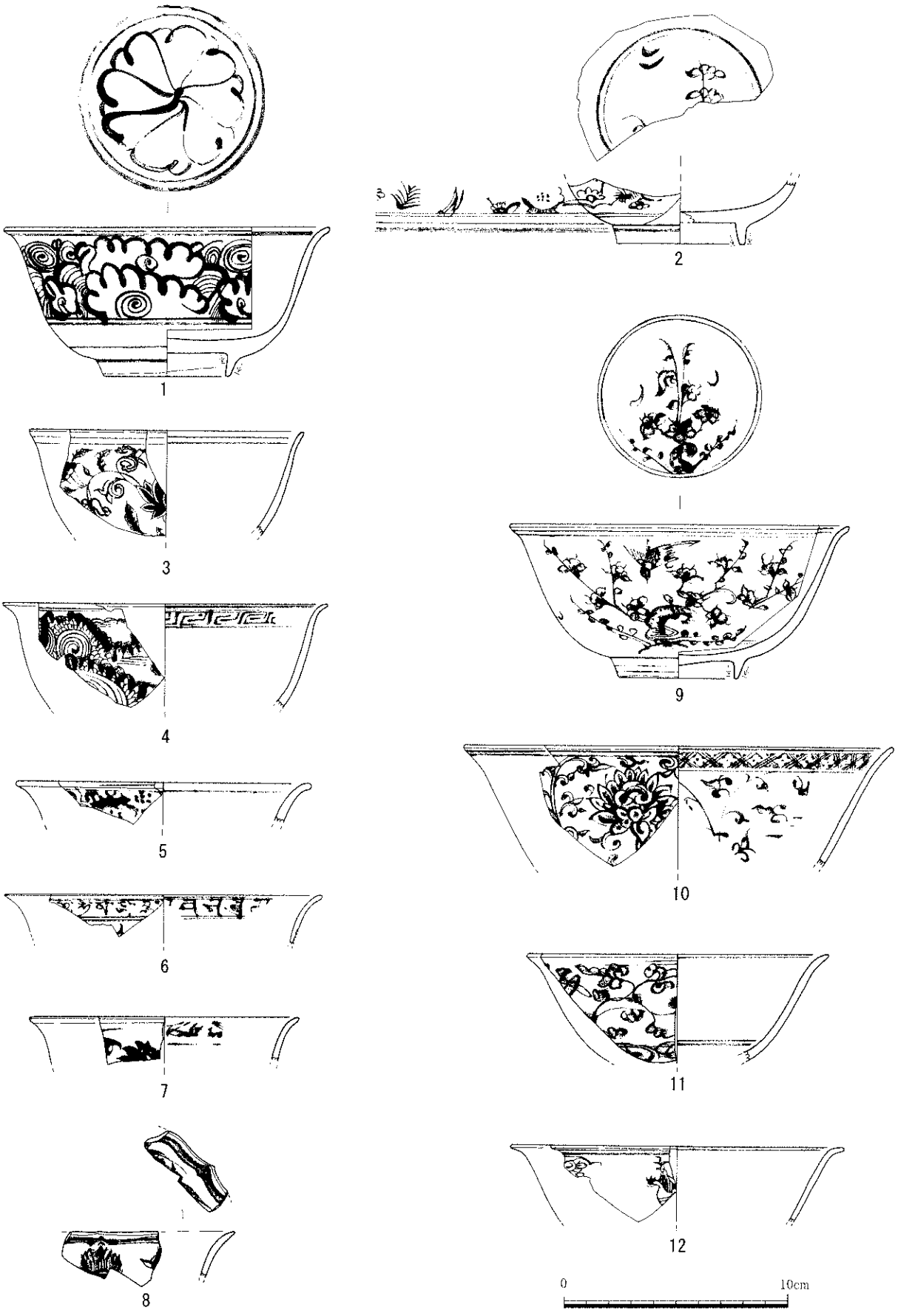
鉢（159・160）は底部から斜め上方に立ち上がり、内底を蛇の目状に釉剥ぎする。近世の資料である。

小壺（161）はグスク時代の資料で、最大径を肩部に持つ広口の無耳壺である。

瓶は多様な器形がみられるが、特徴的な資料としてはいわゆる玉壺春瓶（163・164、166～168、170）、体部が瓢形を呈するもの（169）、蓋付きの梅瓶（180・181）などが挙げられる。全てグスク時代の資料である。

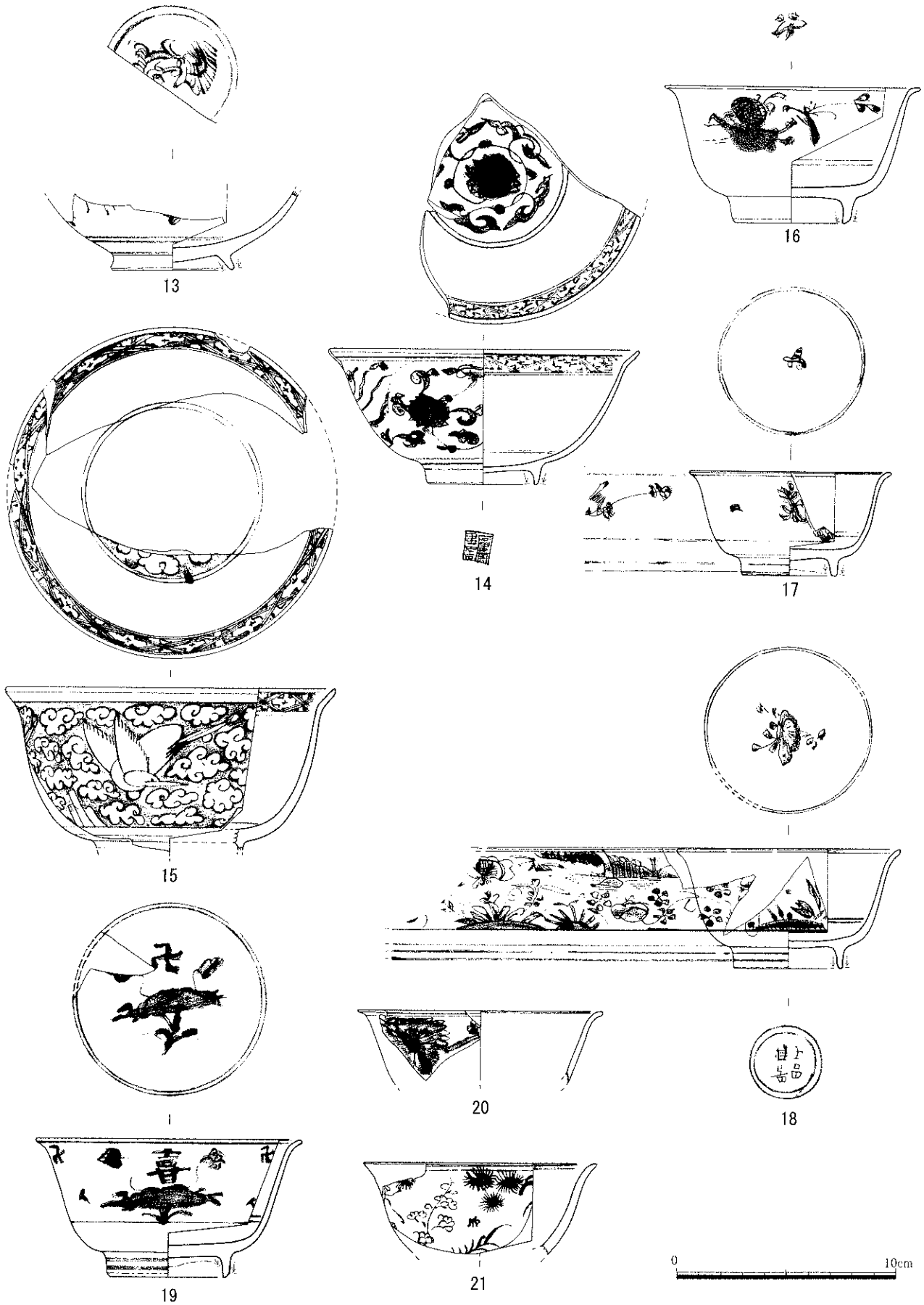
水注は仙盞瓶とも称される資料で、玉壺春瓶の胴部に注口と把手を貼付する（175・176）。グスク時代に位置づけられる。

壺はいわゆる酒会壺（179）とそれに伴う蓋（178）が確認されている。グスク時代の資料である。



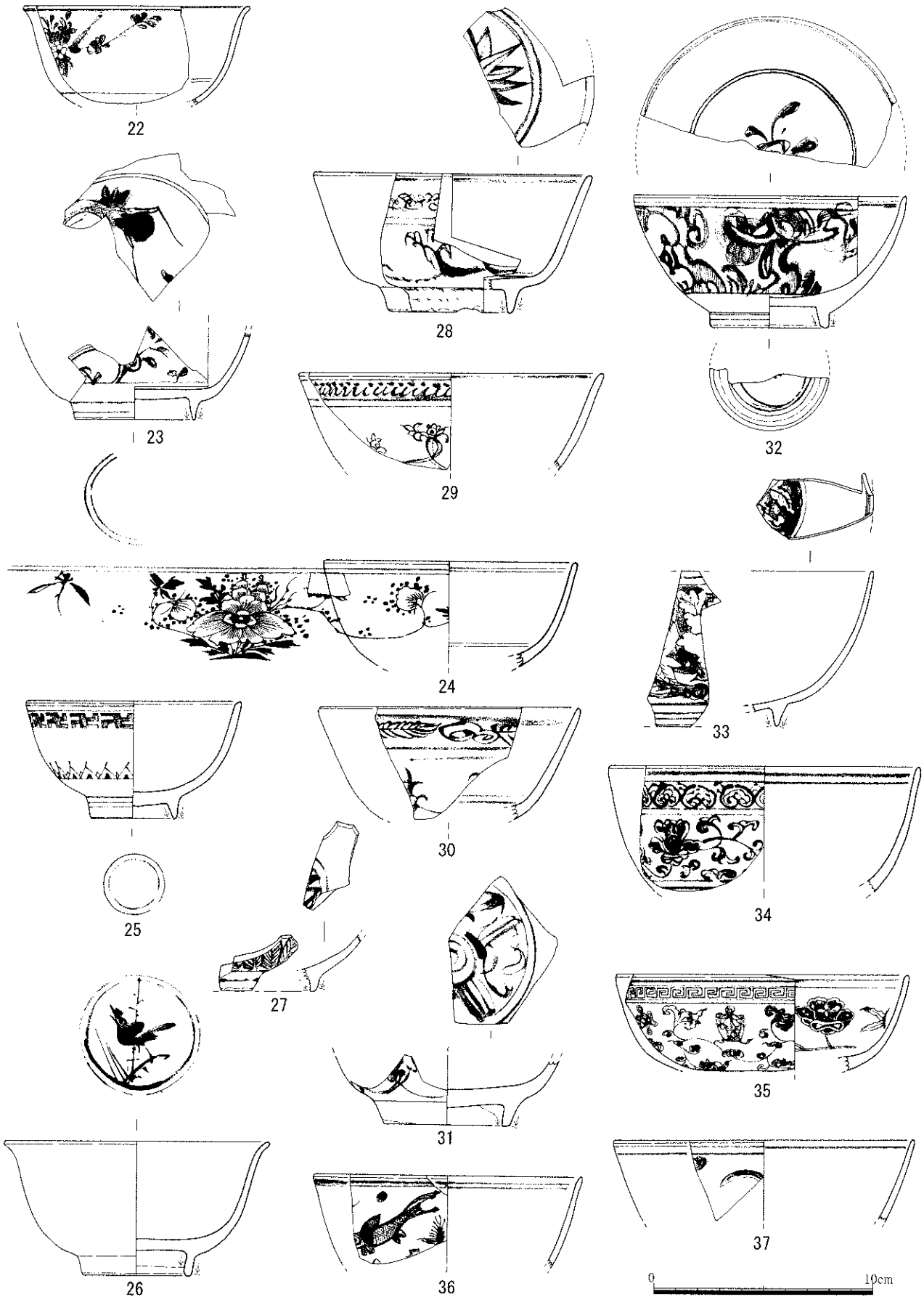
第 42 図　中国産陶磁器・土器 14（青花 1）

図版 14　中国産陶磁器・土器 14（青花 1）



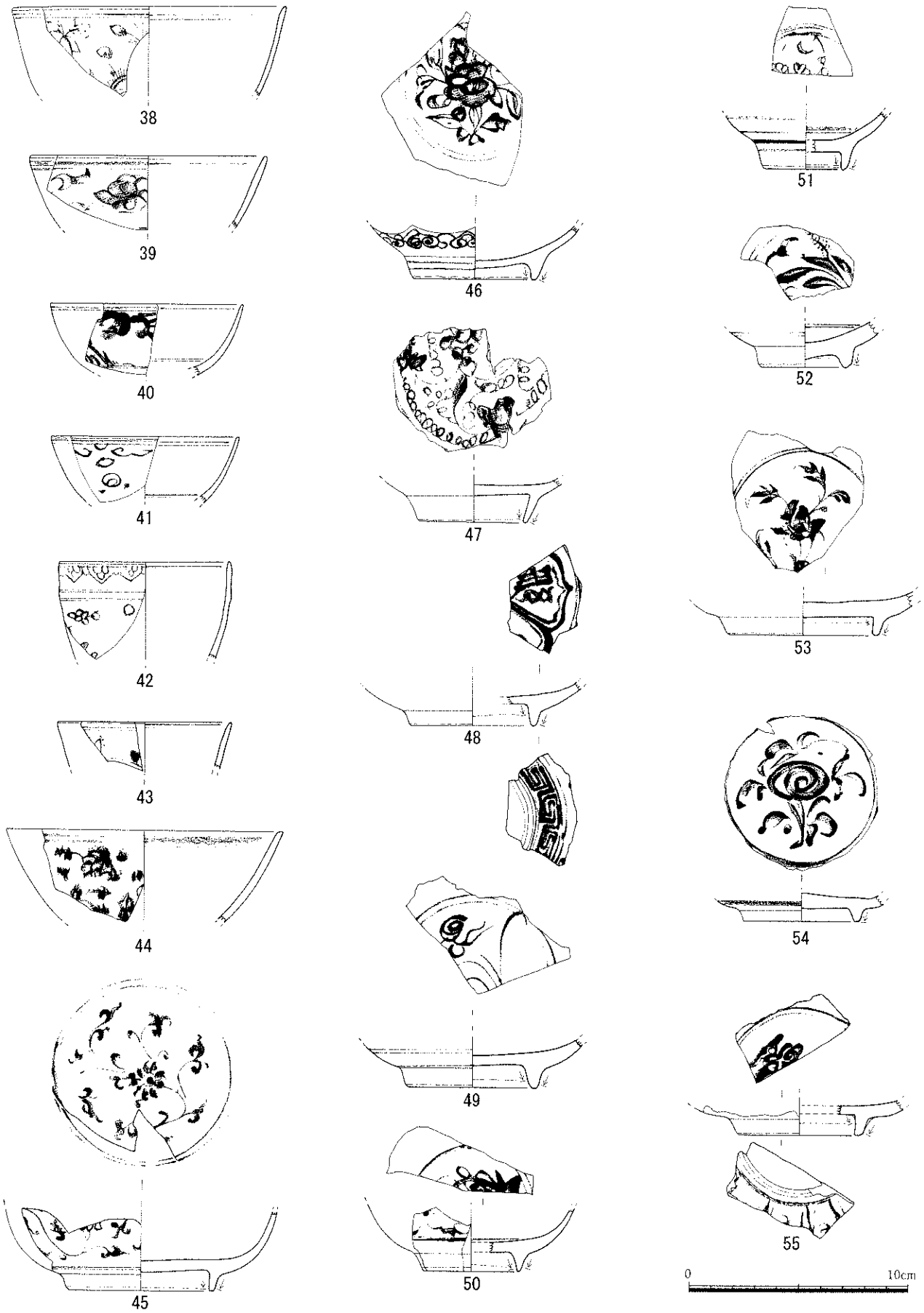
第 43 図　中国産陶磁器・土器 15（青花 2）

図版 15　中国産陶磁器・土器 15（青花 2）



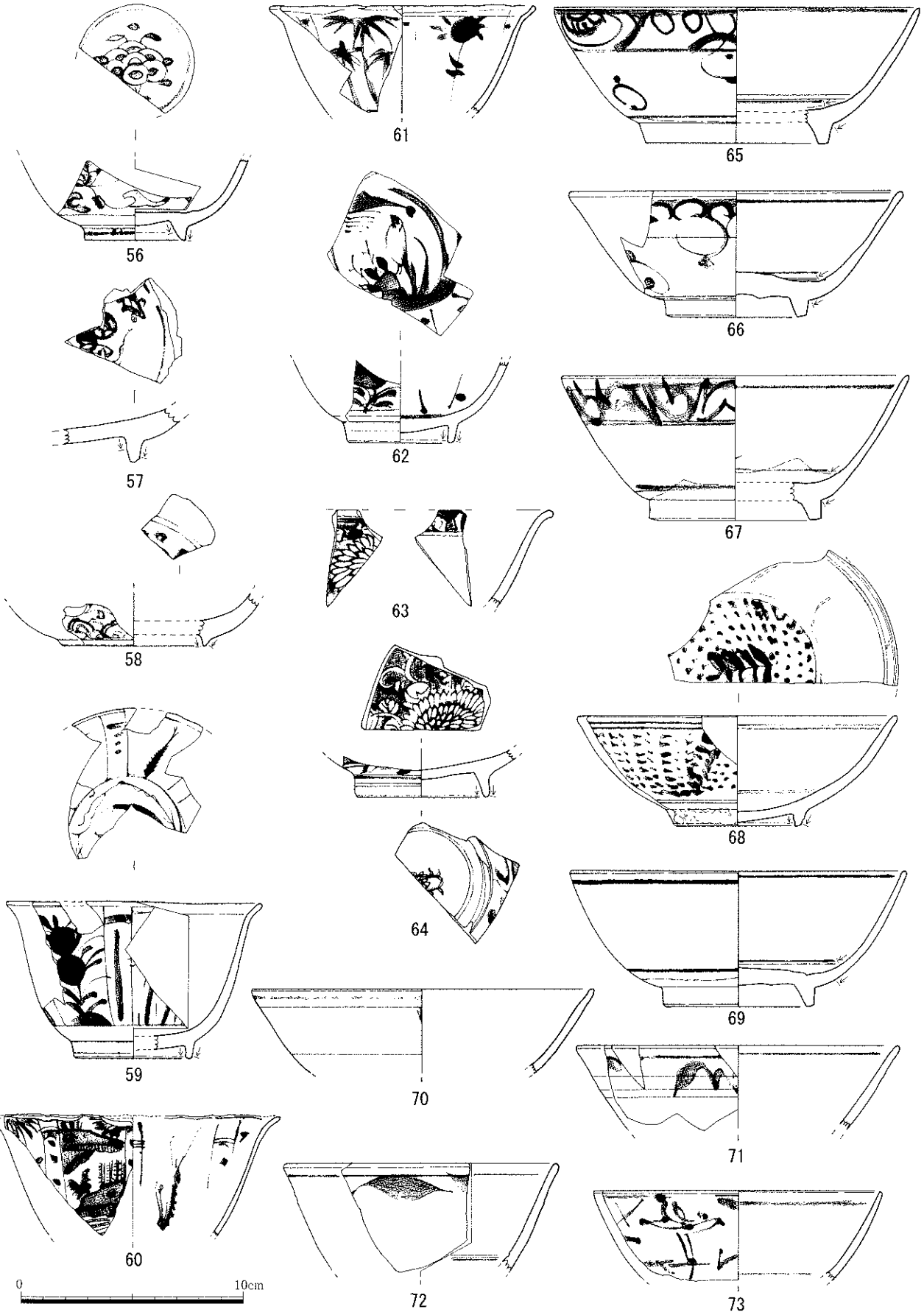
第 44 図　中国産陶磁器・土器 16（青花 3）

図版 16　中国産陶磁器・土器 16（青花 3）



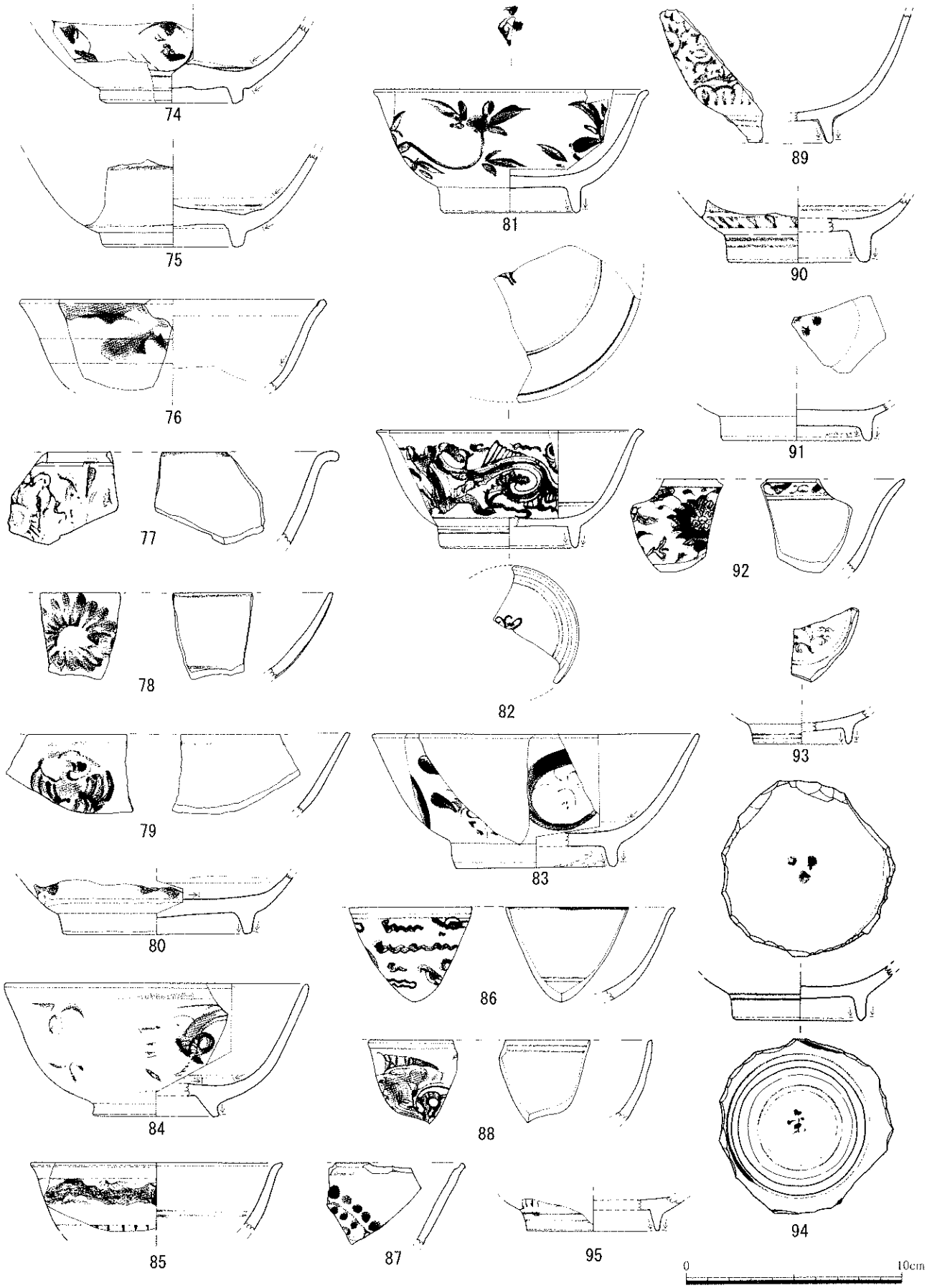
第 45 図　中国産陶磁器・土器 17（青花 4）

図版 17　中国産陶磁器・土器 17（青花 4）



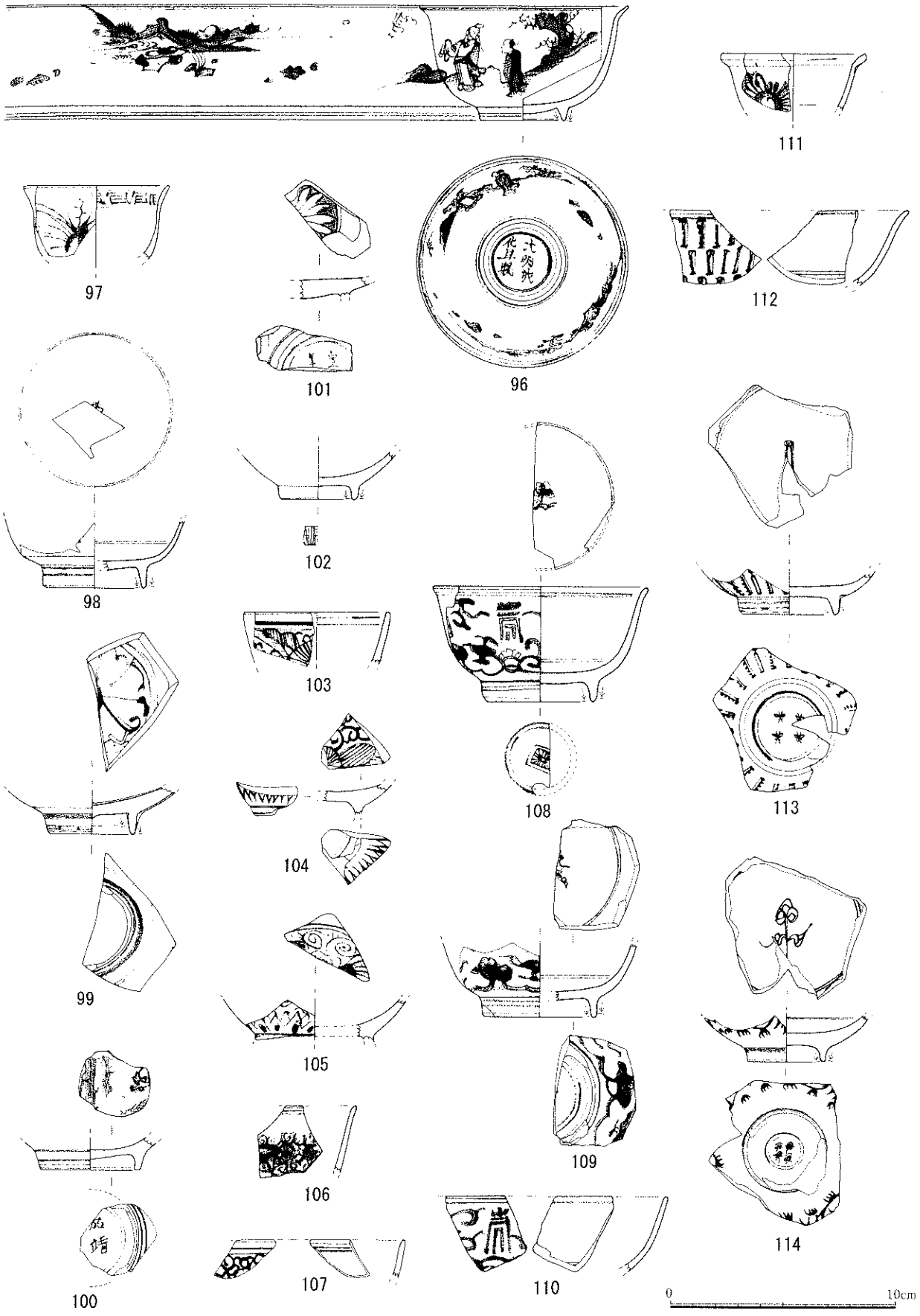
第 46 図　中国産陶磁器・土器 18（青花 5）

図版 18　中国産陶磁器・土器 18（青花 5）



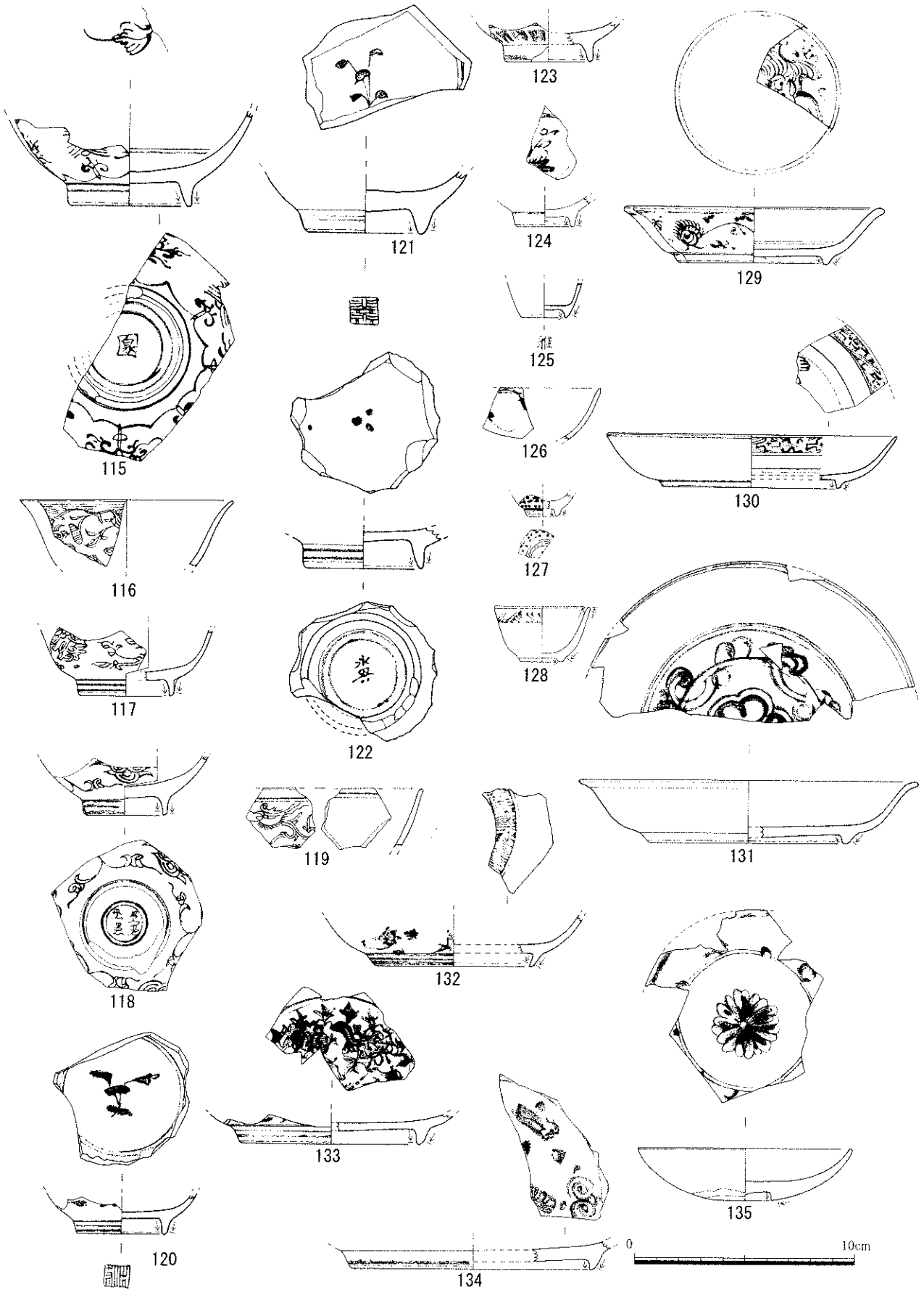
第 47 図　中国産陶磁器・土器 19（青花 6）

図版 19　中国産陶磁器・土器 19（青花 6）



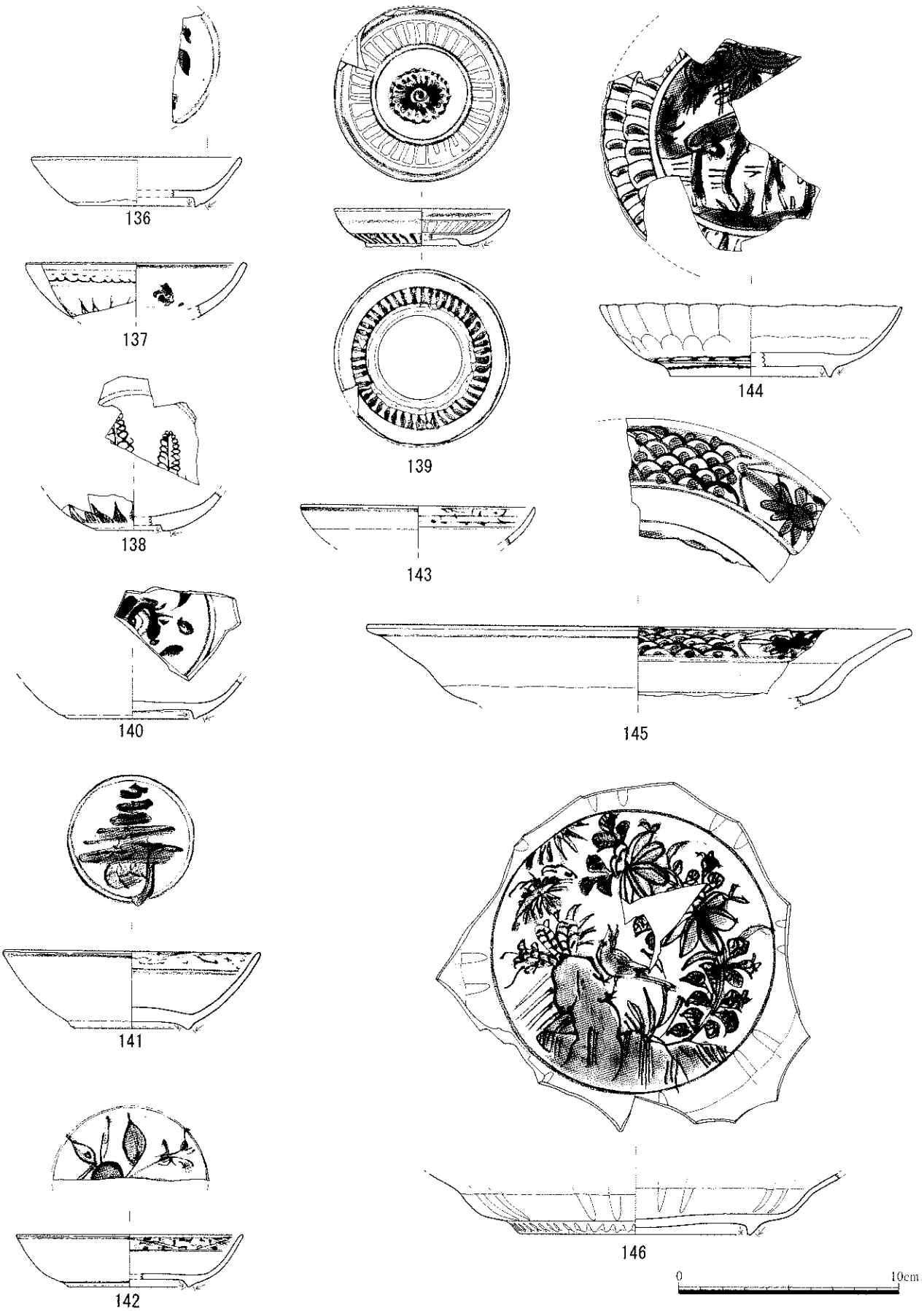
第 48 図　中国産陶磁器・土器 20（青花 7）

図版 20　中国産陶磁器・土器 20（青花 7）



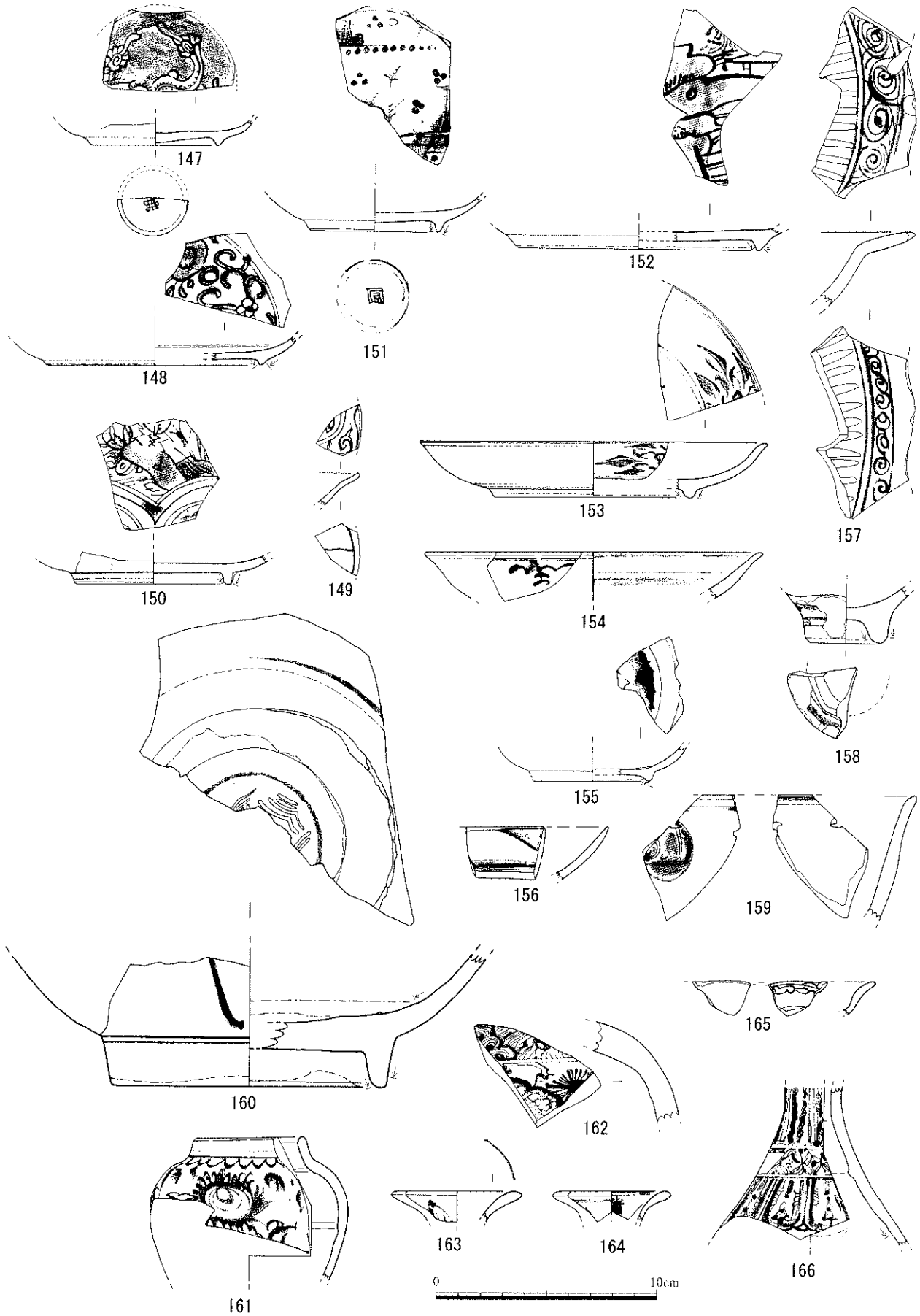
第 49 図　中国産陶磁器・土器 21（青花 8）

図版 21　中国産陶磁器・土器 21（青花 8）



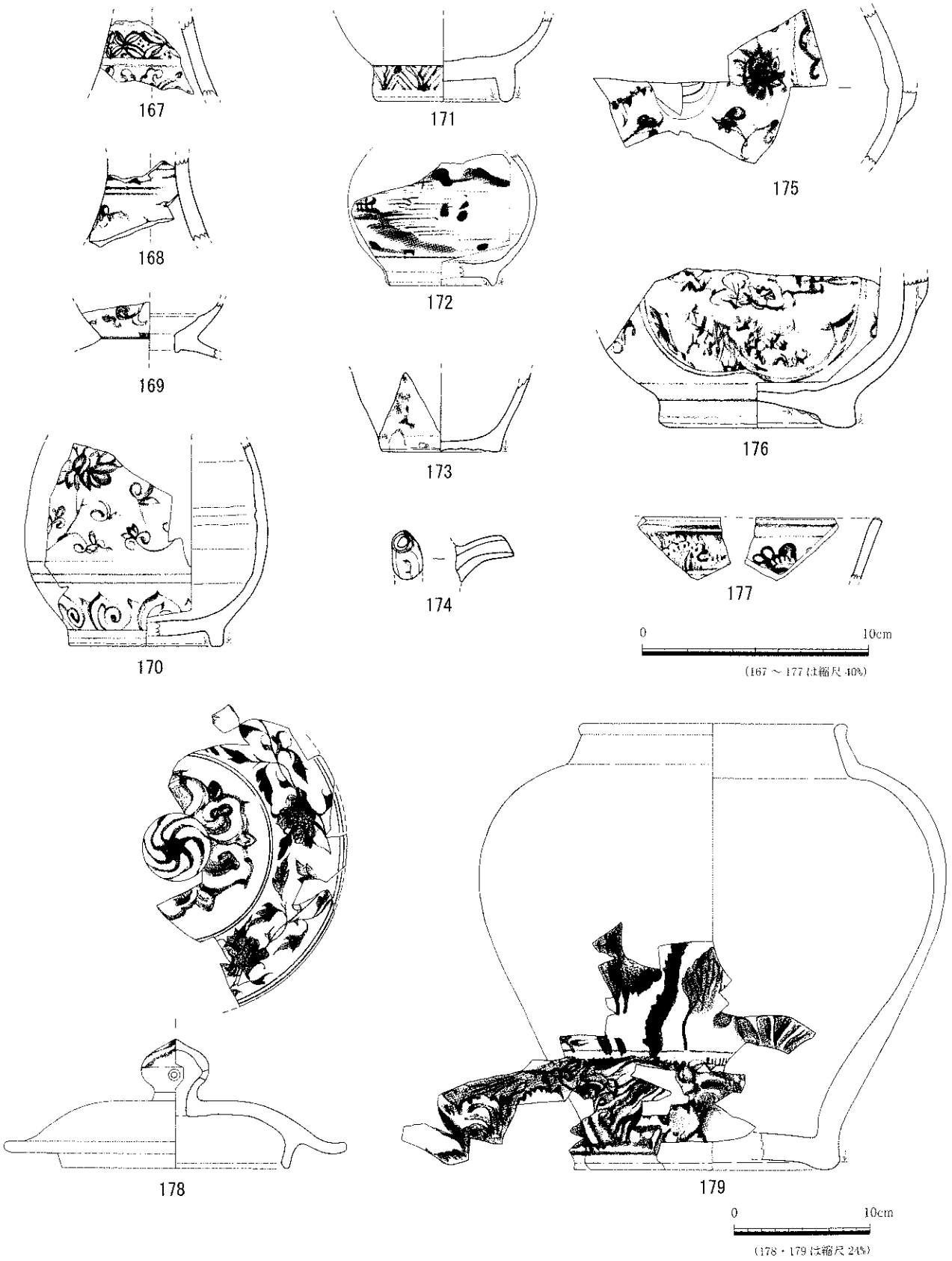
第 50 図　中国産陶磁器・土器 22（青花 9）

図版 22　中国産陶磁器・土器 22（青花 9）



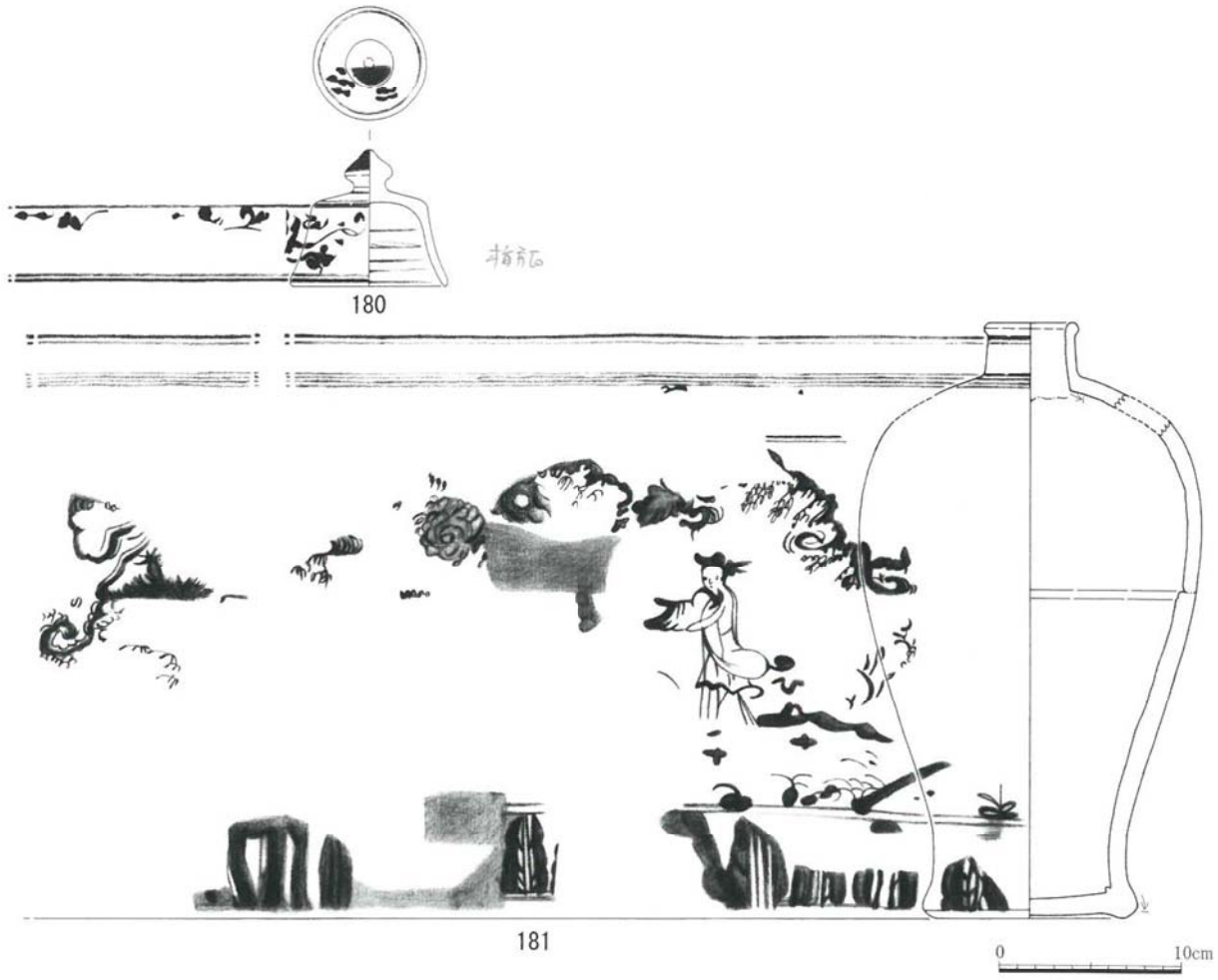
第 51 図　中国産陶磁器・土器 23（青花 10）

図版 23　中国産陶磁器・土器 23（青花 10）



第 52 図　中国産陶磁器・土器 24（青花 11）

図版 24　中国産陶磁器・土器 24（青花 11）



第 53 図　中国産陶磁器・土器 25（青花 12）

図版 25　中国産陶磁器・土器 25（青花 12）

④褐釉陶器

総数10,883点出土しており（第７表）、中国産陶磁器類の中で最も多い。器種は大形壺・中形壺・小形壺・急須・鉢がみられ、いずれも福建省や広東省など中国の南部地域で生産された製品が主体と考えられる。以下、鉢を除いた４器種の特徴的な資料を第54･55図に示し、あわせてその概要を記す。個々の観察所見は第８表に譲る。

（1）大形壺

１と２は張りの強い肩部外面に焼成時の目跡を巡らせる無耳壺で、沖縄での出土例及び量が最も多く確認されている資料である。沖縄分類（瀬戸ほか2007）の５類に相当する。３、５、９、11、13・14は横耳が貼付される四耳壺と考えられる。３、13・14は上げ底状に成形した底部で、５は外面に線彫りで文様を描く胴部、９と11は玉縁状に肥厚する口縁部となる。沖縄分類（瀬戸ほか2007）の３類に相当する。４は全形が算玉状を呈する四耳壺と想定されるもので、口縁部を玉縁状に肥厚する。沖縄分類（瀬戸ほか2007）の４類に相当する。６は肩部の張りが弱い無耳壺で、外面に叩き成形時の痕跡が残る。８、12、15は口縁部を外側に折り曲げる長頸の多耳壺である。15は外面に龍文を貼付する。沖縄分類（瀬戸ほか2007）の１類に相当する。10は頸部が直線的に立ち上がり、口縁部の断面形態がT字状を呈する無耳壺と考えられる。沖縄分類（瀬戸ほか2007）の６類に相当する。

（2）中形壺・小形壺

16・17は田中克子氏の提唱した「薄胎施釉陶器」（田中2001）に相当する薄手の壺である。当該資料は茶入として使用された可能性も考えられ、その場合は前者が大海、後者が肩衝と称される。

（3）水注

７は大形の水注と考えられる。口縁部を断面T字状に成形し、外面には把手の基部が認められる。

⑤無釉陶器

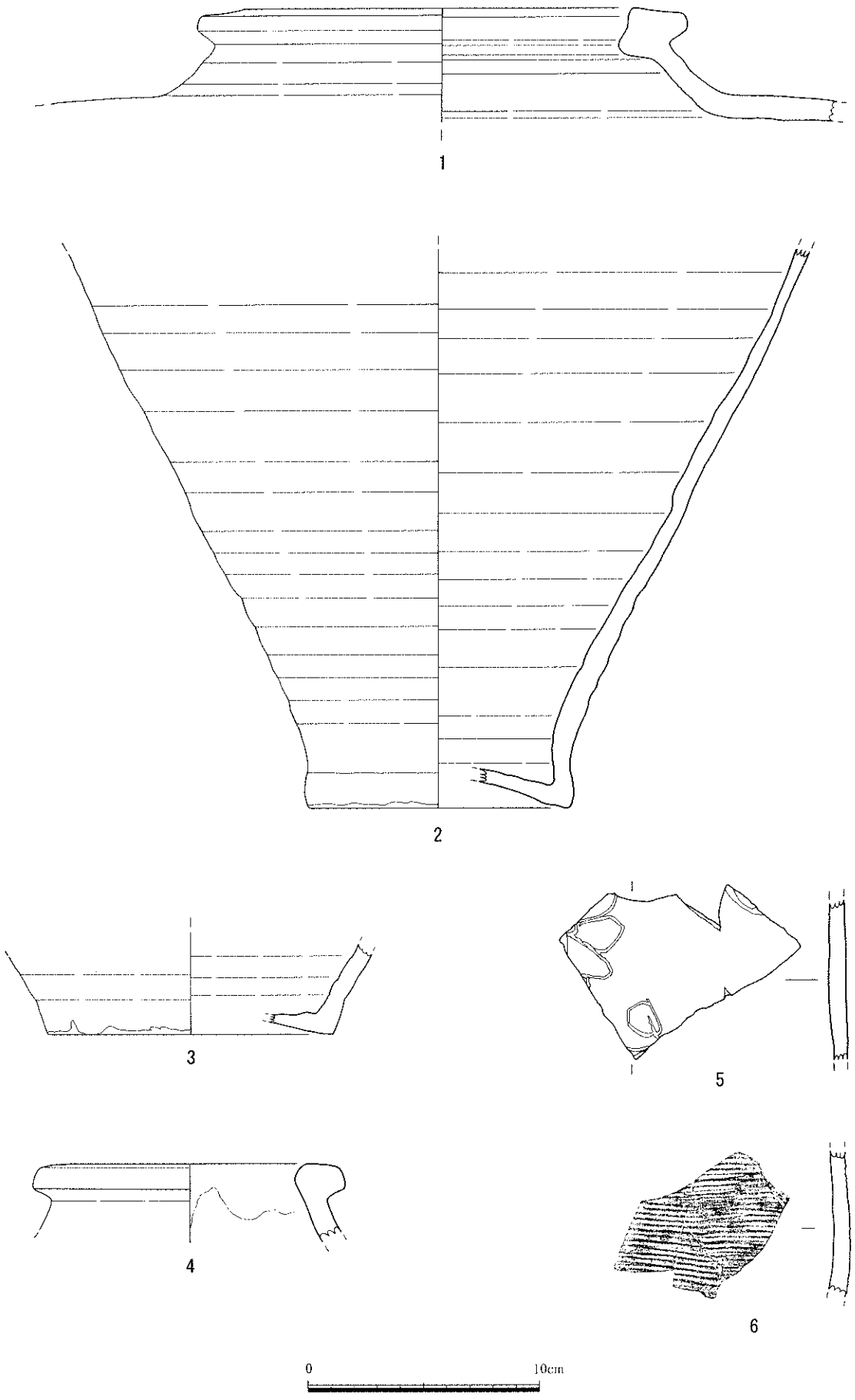
総数14点出土しており（第９表）、器種は鉢と急須が確認されている。前述した褐釉陶器と比べて量的には及ばないが、産地は同様に福建省や広東省などの中国南部地域と考えられる。以下、器種別に特徴的な資料を図化し、その概要を記す。個々の所見については第10表に示す。

（1）急須

18は球形の胴部に棒状の把手を貼付するもの。19は口縁部を内側に折り返して成形しており、肩部の張りが弱い中形壺の可能性もあるが、今回は急須として扱う。

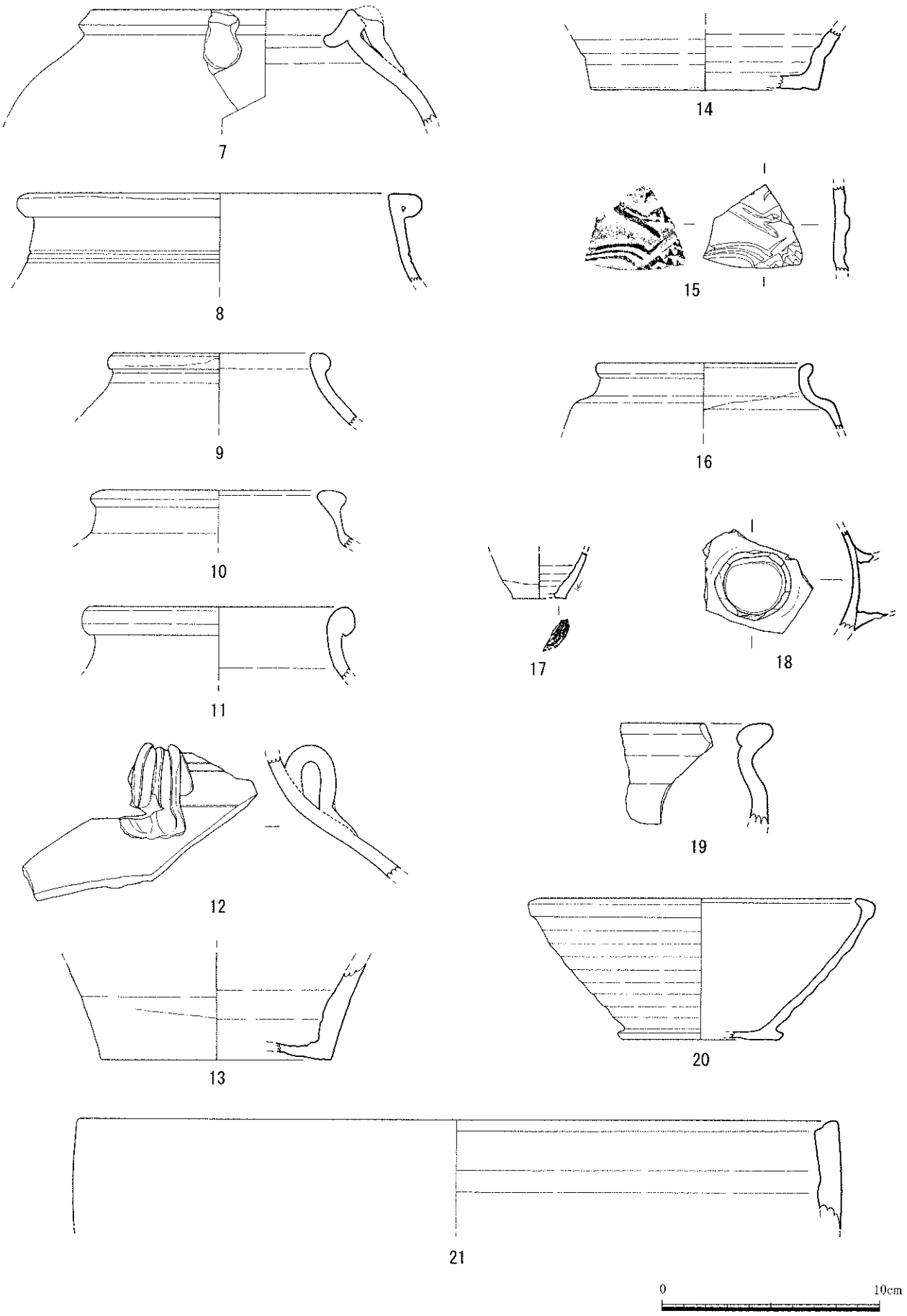
（2）鉢

20は平底の底部から斜め上方に立ち上がり、口縁部外面を玉縁状に肥厚するもの。沖縄で出土する無釉陶器の鉢としては一般的な資料といえる。21は直口口縁を呈する大形の製品で、口唇部に蓋受状の段を有する。

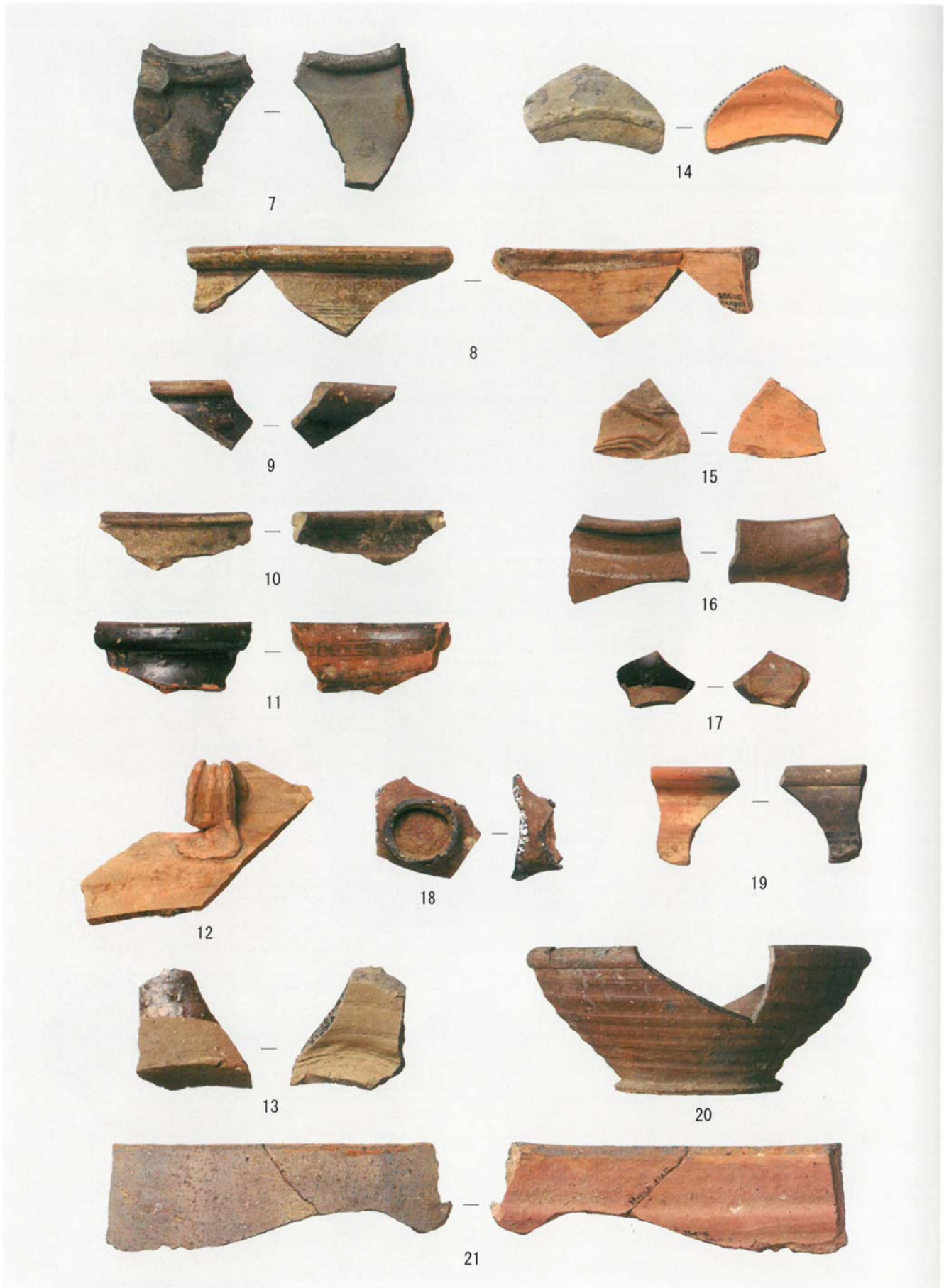


第 54 図　中国産陶磁器・土器 26（褐釉陶器 1）

図版 26　中国産陶磁器・土器 26（褐釉陶器 1）



第 55 図　中国産陶磁器・土器 27（褐釉陶器 2，無釉陶器）



図版 27　中国産陶磁器・土器 27（褐釉陶器 2，無釉陶器）

⑥その他の陶磁器・土器

（1）色絵（第56図1～16）

当該資料は五彩と粉彩をまとめたもので、総数28点出土している。器種は碗（1～10）・小碗（11）・皿（12・13）・盤（14）・小皿（15・16）などが確認されている。年代・窯跡・製作技術から細分が可能である。

（2）泉州窯系磁器（第56図17・18）

皿が総数6点出土している。口縁形態から端反のA類（17）と、内彎するB類（18）に大別される。

（3）瑠璃釉（第56図19・20、第57図21～32）

総数56点出土しており、碗（19～21、28、31）・小碗（22～25）・小杯（26・27）・瓶（29・30）・壺（32）など様々な器種が確認されている。年代・窯跡・製作技術から細分が可能である。

（4）褐釉染付（第57図33～37）

総数21点出土している。33・34は端反口縁の小碗で、外面に白土の盛り上げ、外底に呉須で圏線を巡らせる。35～37は端反口縁の小杯で、内底と外底に呉須で文様及び銘款を施す。

（5）青磁染付（第57図38）

総数5点出土している。38は端反口縁の小碗で、外面に青磁釉、内面と外底に呉須で文様及び銘款施す。

（6）天目（第57図39～43）

喫茶用と考えられる碗が総数344点出土している。森本朝子氏の分類（森本1994）によると、39～42は高台際を水平に削る特徴からⅧ類に、43は丸碗の器形からⅨ類に相当する。

（7）華南三彩（第58図44～51）

当該資料は三彩と緑釉をまとめたもので、総数18点出土している。三彩では鶴形や長胴丸壺形の水注（44～48）と平底の盤（49）、緑釉では花弁状に成形された皿（50）と外面に線彫文様を施す瓶（51）を図化した。

（8）銅緑釉（第58図52～54）

胎土の特徴が華南三彩に類似する軟質陶器で、酒会壺の蓋（52）と身（53・54）が総数13点出土している。

（9）翡翠釉（第58図55・56）

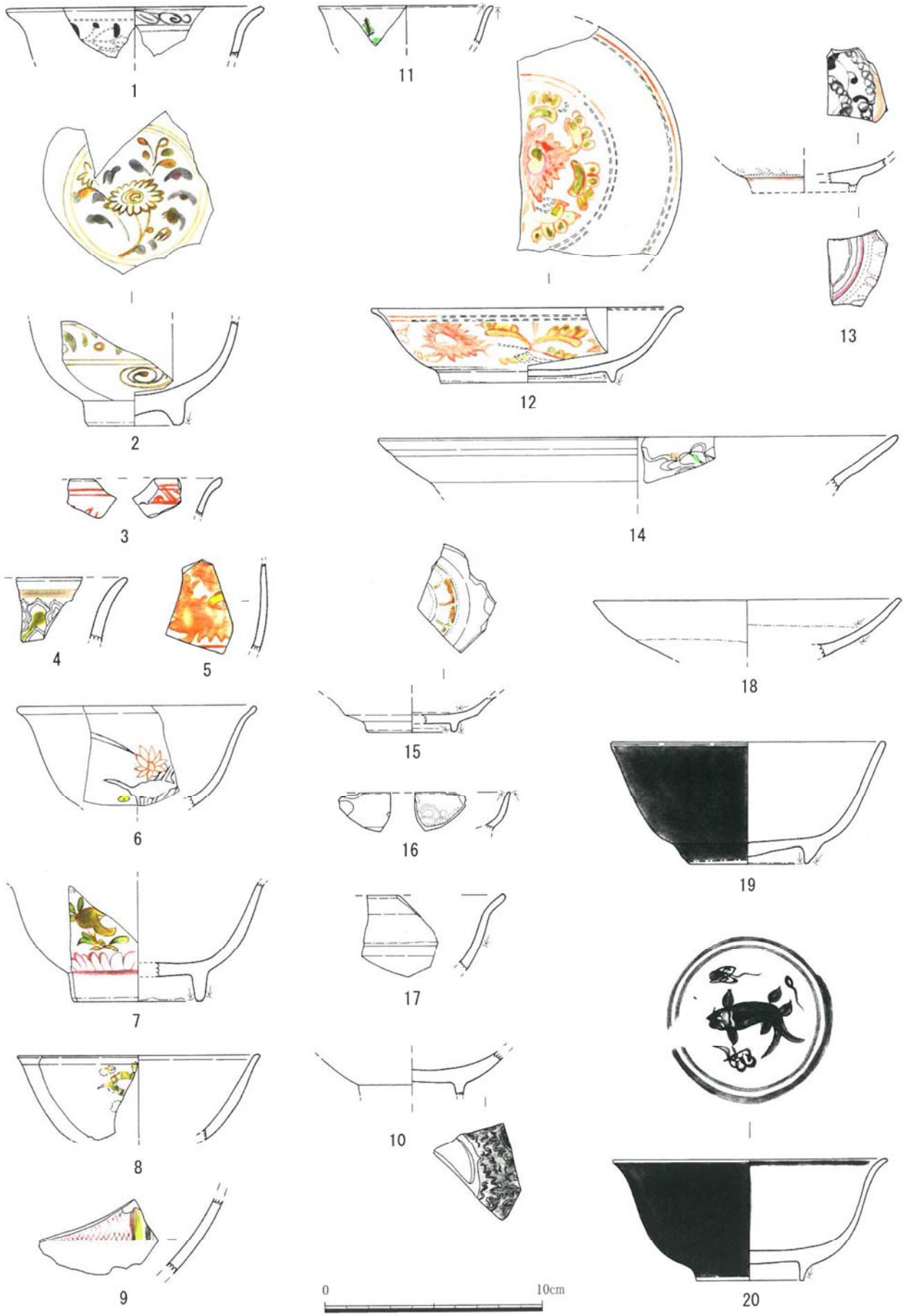
総数8点出土しており、その中から瓶（55）と筒形の三足香炉（56）を図化した。

(10) 鉄絵（第58図57・58）

総数5点出土している。57・58はいずれも酒会壺と考えられる。

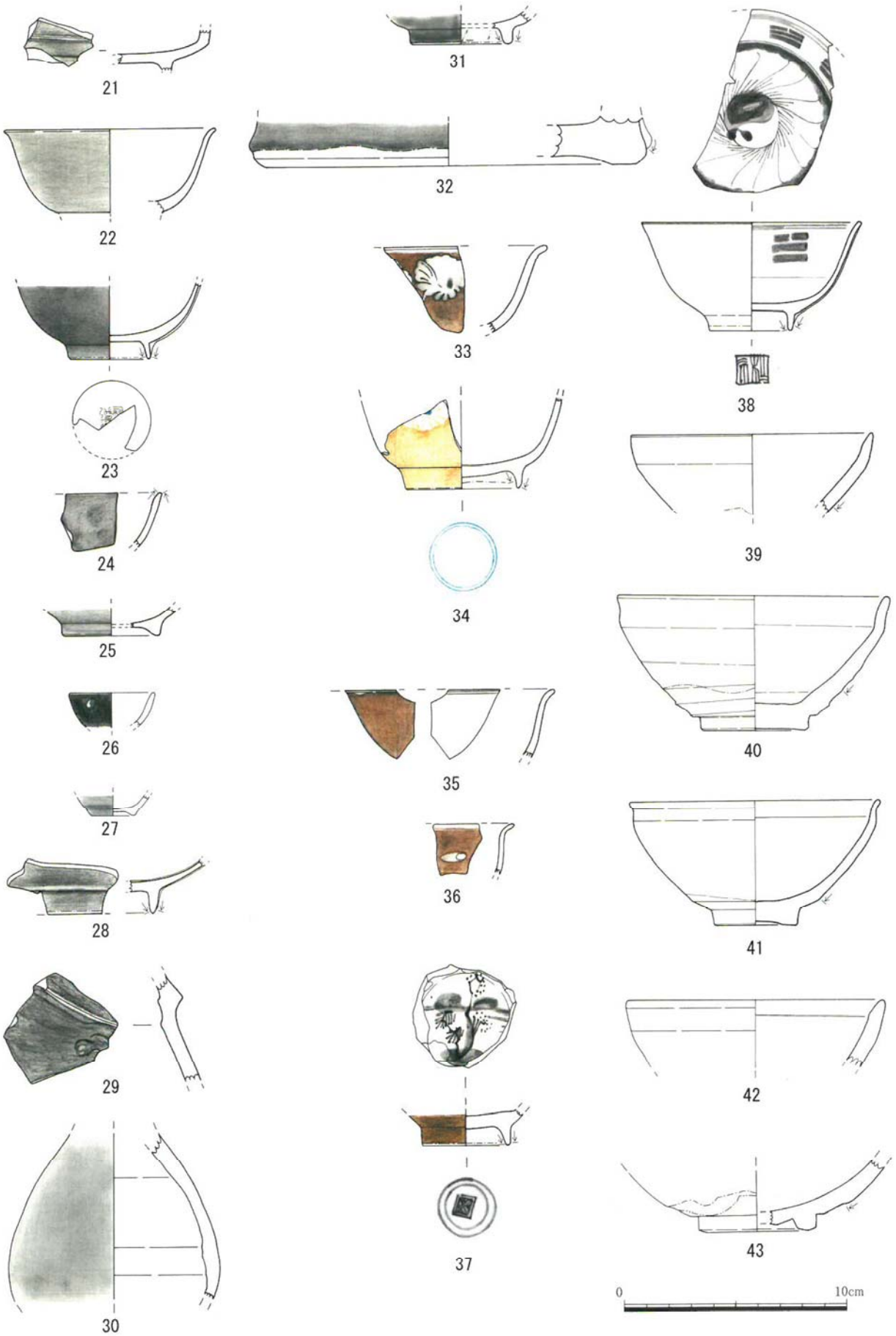
(11) 土器（第58図59）

総数288点出土している。全て円盤形の板状製品で、褐釉陶器壺（第54図1・2）の蓋として使用されたと考えられる。産地については沖縄産との意見もあるが（沖縄県文化課1998a）、今回は当該項目で扱った。

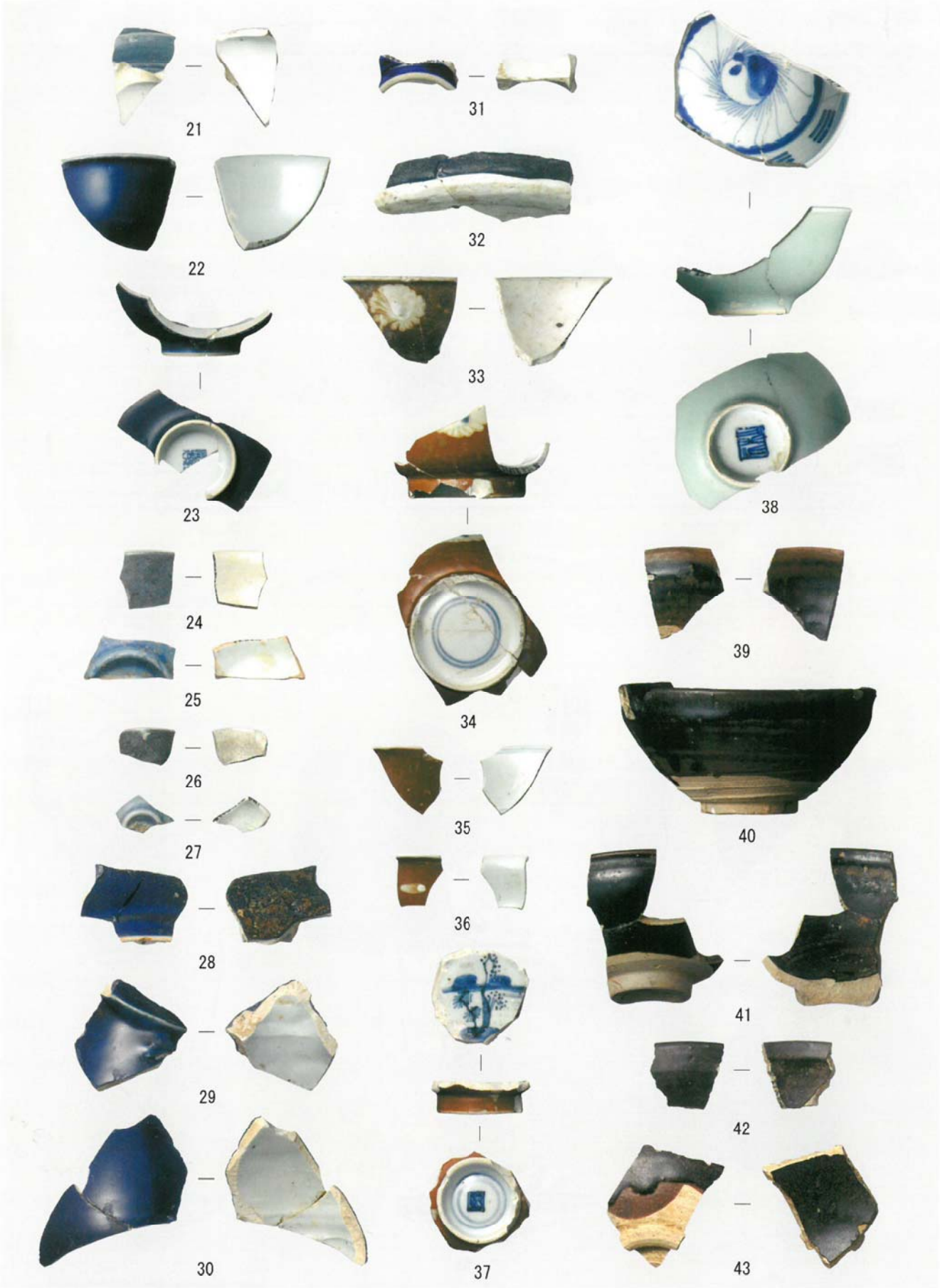


第 56 図　中国産陶磁器・土器 28（その他の陶磁器・土器 1）

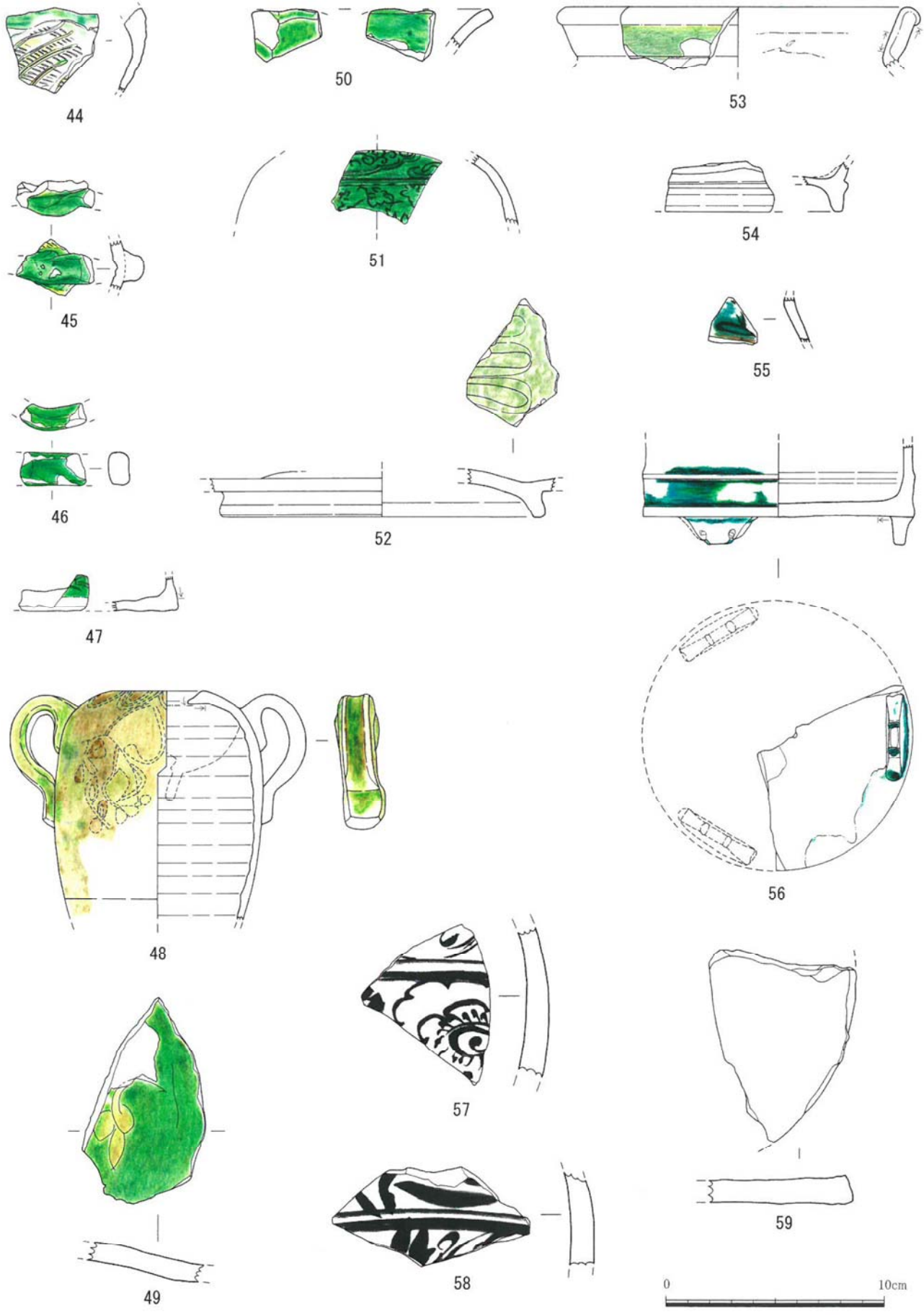
図版 28　中国産陶磁器・土器 28（その他の陶磁器・土器 1）



第 57 図　中国産陶磁器・土器 29（その他の陶磁器・土器 2）



図版 29　中国産陶磁器・土器 29（その他の陶磁器・土器 2）



第 58 図　中国産陶磁器・土器 30（その他の陶磁器・土器 3）

図版 30　中国産陶磁器・土器 30（その他の陶磁器・土器 3）

2　その他の輸入陶磁器・土器

ここでは中国産以外の輸入陶磁器類として、タイ・ベトナム・朝鮮で生産された製品を紹介する。以下、種類別に特徴的な資料を第59～62図に示し、個々の所見は観察表（第14、16、18表）に記す。

①タイ産陶磁器・土器

（1）褐釉陶器

出土量は2,479点を数え、タイ産陶磁器類の中では最も多い。器種は壺・瓶・小壺が確認されている。

壺は口縁部がラッパ状に開き端部を断面T字状または玉縁状に肥厚するA類（1～10）と、口縁部の開きが弱く素地が粗いB類（12・13）に大別される。向井亙氏の分類（向井2003）によると、前者はシーサッチャナライ長頸四耳壺または短頸四耳壺、後者はメナムノイ短頸Ⅱ類四耳壺に相当する。14～16は器壁が薄い平底の瓶で、17は小壺の底部と考えられる。いずれもシーサッチャナライ窯産。

（2）無釉陶器

器壁の厚い大形無耳壺と考えられる資料（18）が1点出土している。バンプーン窯産。

（3）鉄絵

いわゆる玉壺春瓶に近い形態と考えられるもの（24）が1点出土している。シーサッチャナライ窯産。

（4）土器

ハンネラとも称される硬質の土器で、蓋と身（壺か）が総数53点確認されているが、前者が出土量全体の8割強を占める。19～23は蓋甲がくぼみ庇端部を上面に折り曲げる蓋で、中央に宝珠形の摘を有する。

②ベトナム産陶磁器

（1）青磁

体部が斜上方に開き、外面に鎬蓮弁文を施す碗（25）が1点得られている。

（2）鉄絵

3点出土しており、うち動物を象ったと思われる水注（26）と、置物の台座と考えられるもの（27）を図化した。

（3）青花

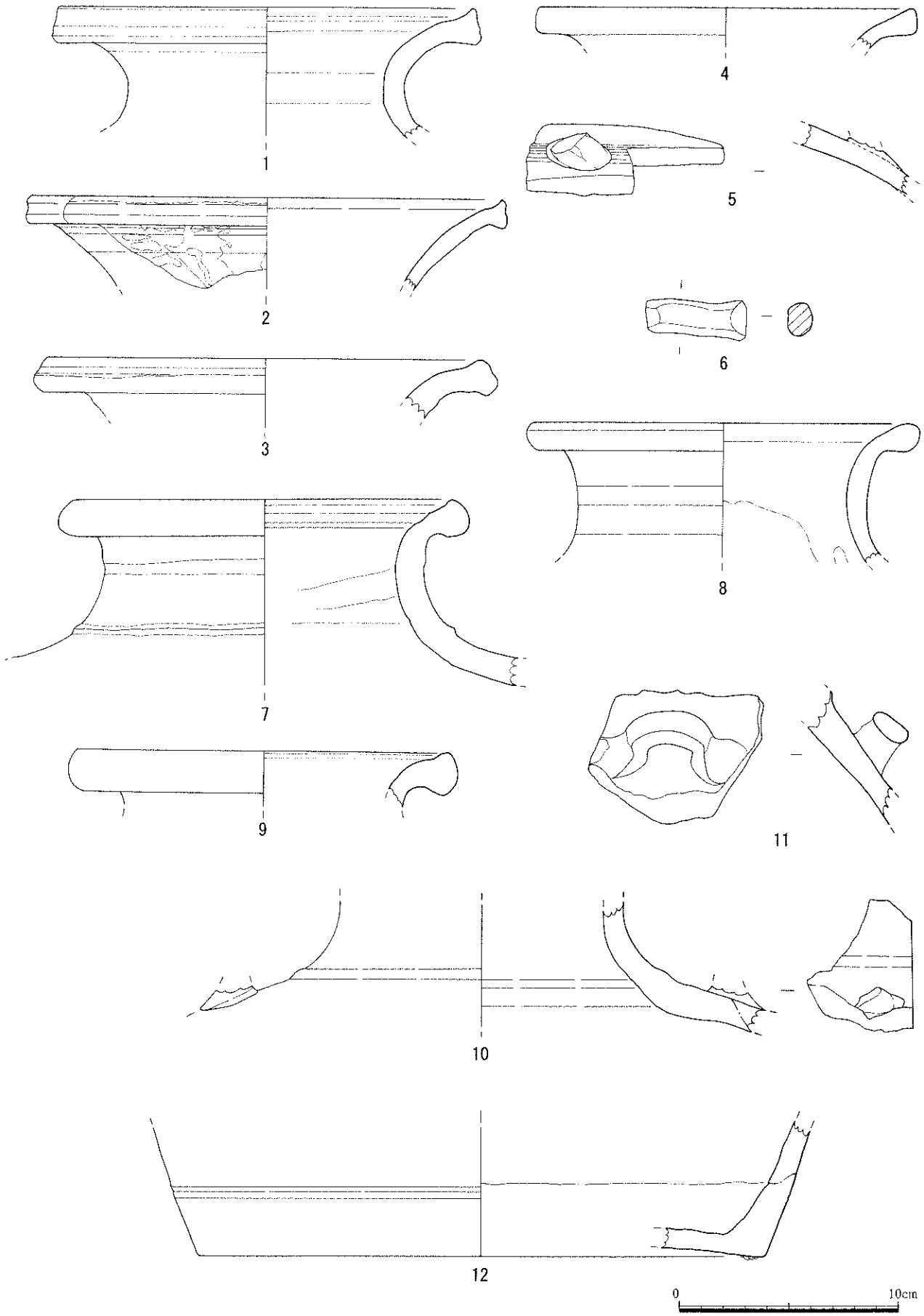
総数10点で、器種は碗・壺・　　水注・瓶が確認されている。28～30は端反口縁の碗で、外面に呉須と鉄絵で文様を描く。西村昌也氏・西野範子氏の分類（西村・西野2005）によると断面扁平形トチンB－2類に相当する。31は型抜き後に貼り合わせて成形した龍形水注で、32は把手を持たない小壺と考えられる。

（4）色絵

4点出土しており、その中から器壁の薄い小壺（33）を図化した。同遺跡の御内原北地区（沖縄県埋文2010・2013c）で出土した薄手の白磁に類似する資料とみられる。

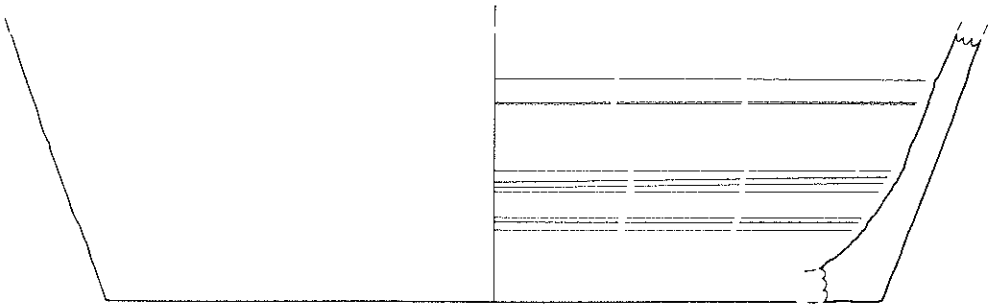
③朝鮮産陶磁器

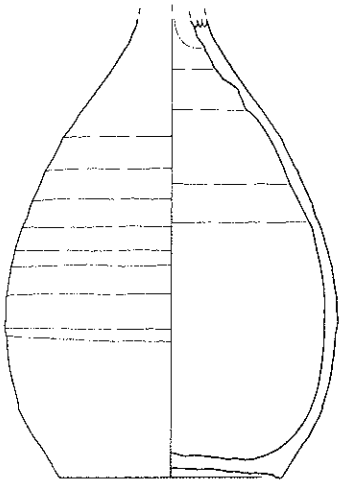
象嵌青磁のみが総数66点出土しており、器種は碗・皿・瓶が確認されている。碗は端反口縁（34）と直口口縁（35）に大別され、皿は器高が低く直口口縁を呈する（ 36～43、50 ）。瓶は梅瓶（53）と玉壺春瓶に近い形態のもの（54）が得られている。森本朝子氏・片山まび氏の分類（森本・片山2000）によると、いずれもV－①類または②類に相当する。また今回は参考資料として、かつて手塚直樹氏が報告した同地区採集の碗（52・手塚1980）も再録した。

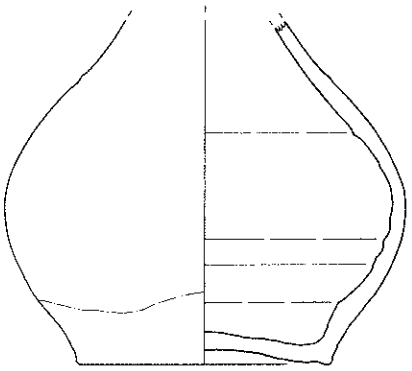


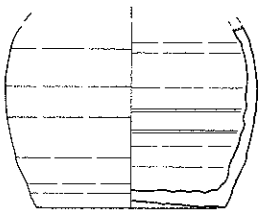
第 59 図　その他の輸入陶磁器 1（タイ産陶磁器・土器 1）

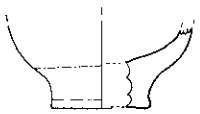
図版 31　その他の輸入陶磁器 1（タイ産陶磁器・土器 1）

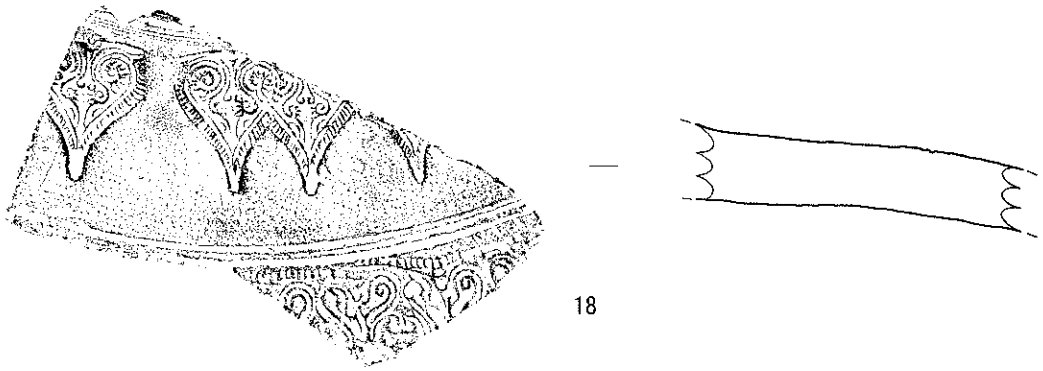


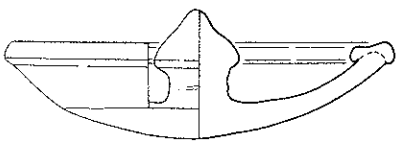


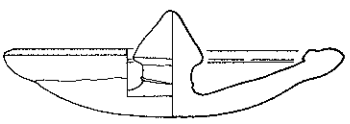


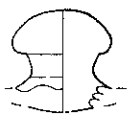


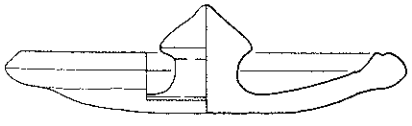


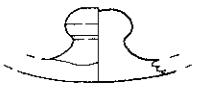


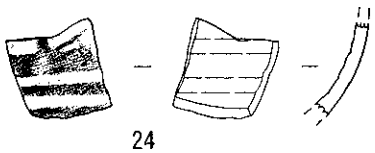






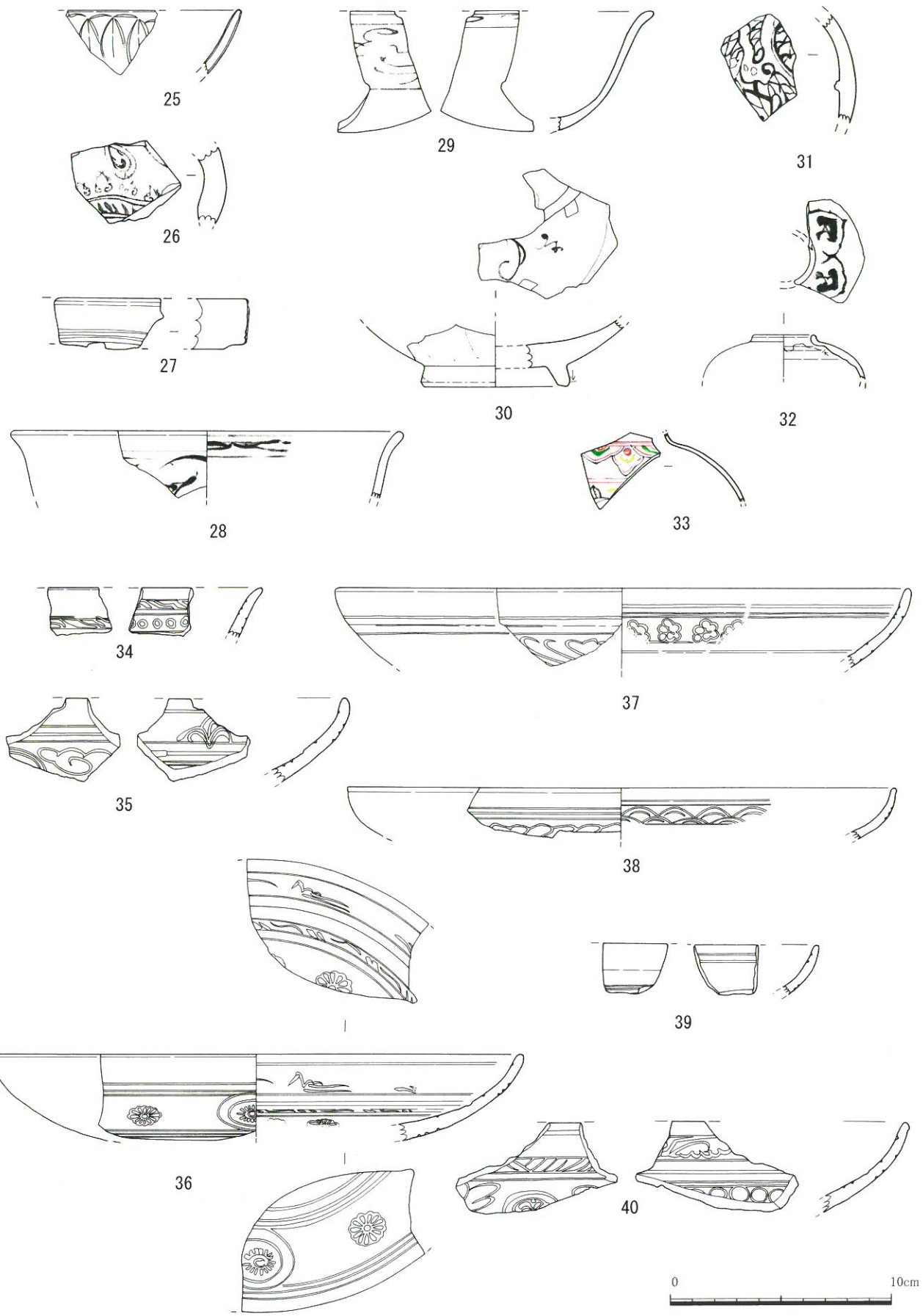




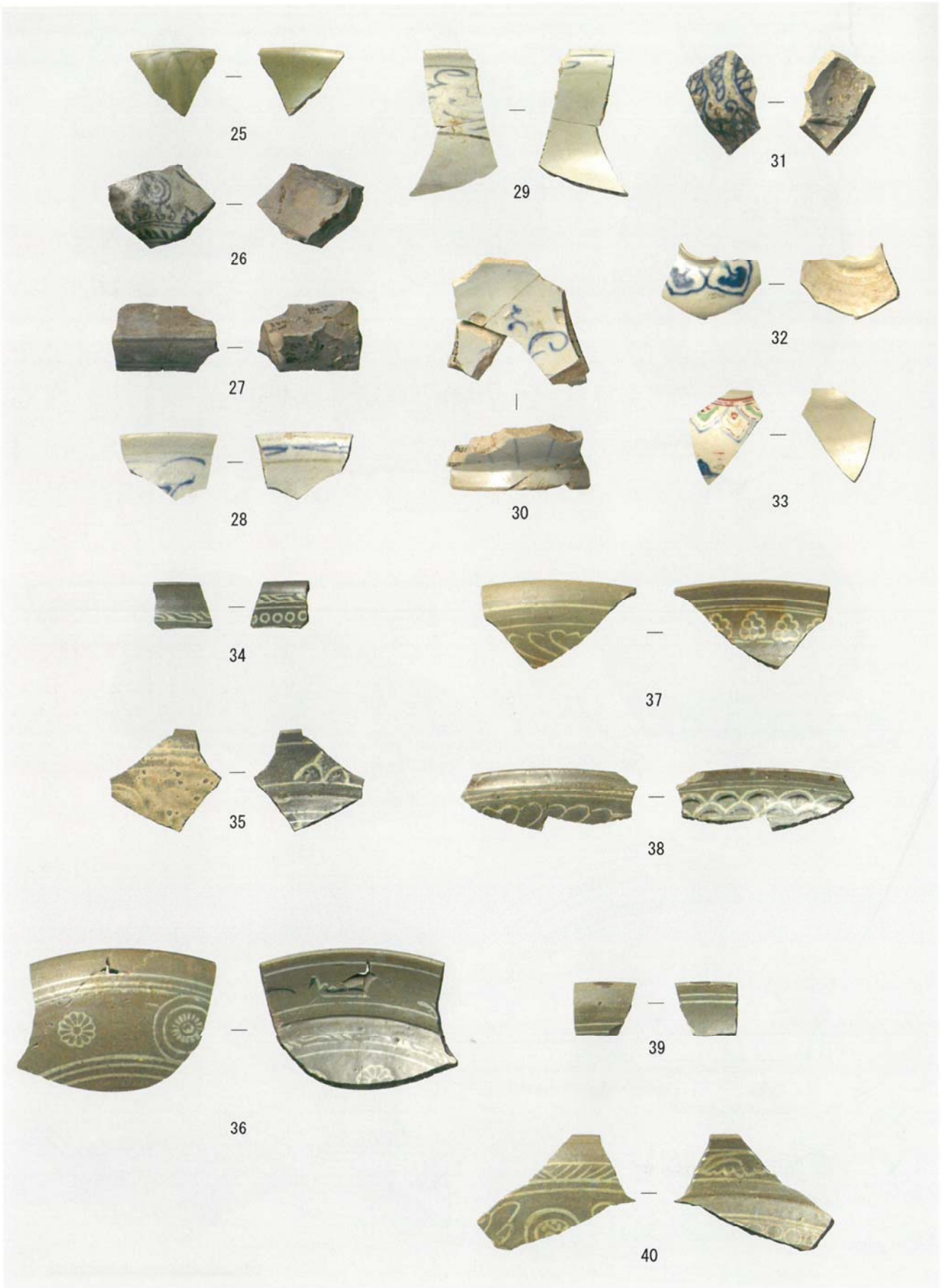


第 60 図　その他の輸入陶磁器 2（タイ産陶磁器・土器 2）

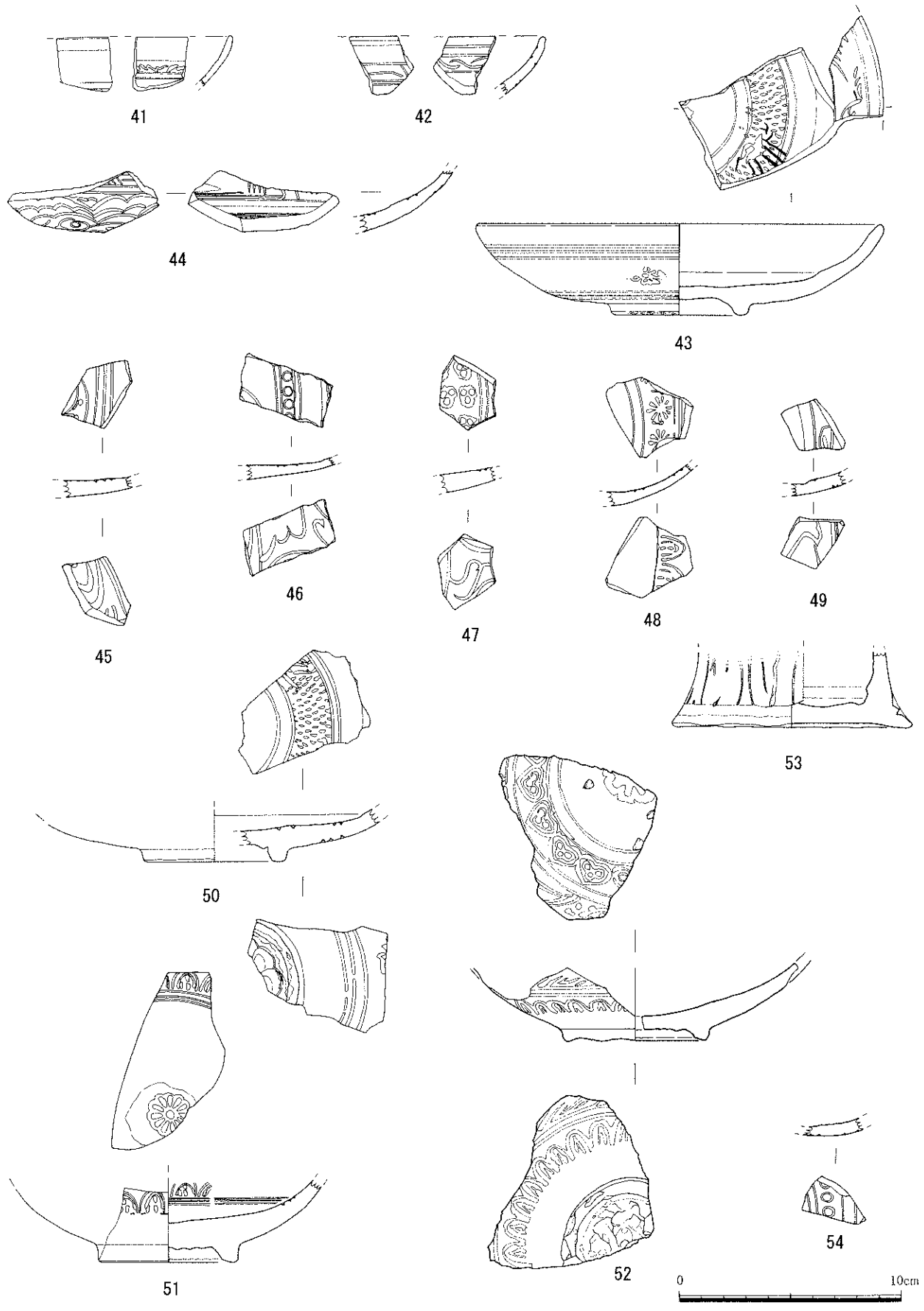
図版 32　その他の輸入陶磁器 2（タイ産陶磁器・土器 2）



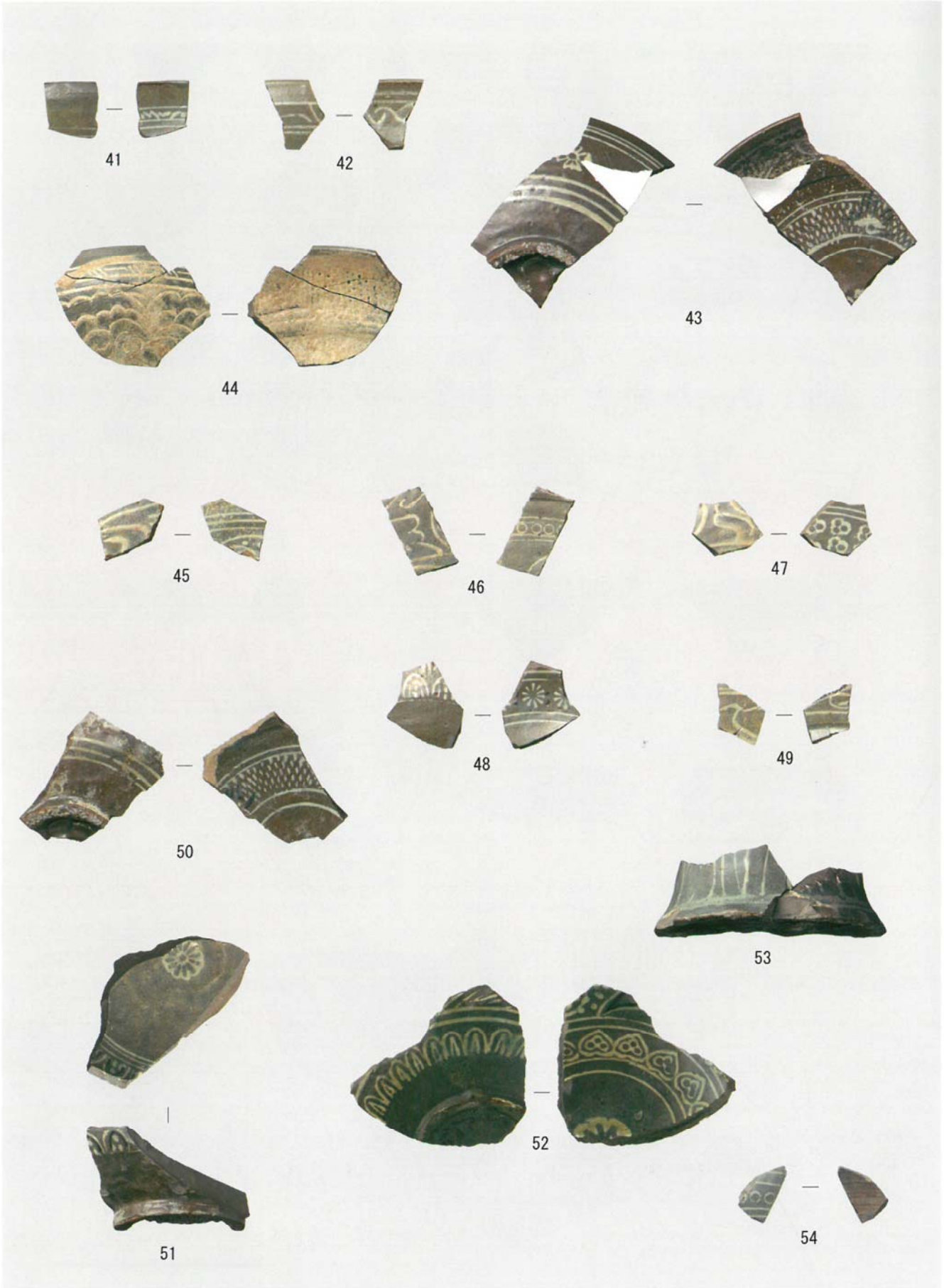
第 61 図　その他の輸入陶磁器 3（ベトナム産陶磁器，朝鮮産陶磁器 1）



図版 33　その他の輸入陶磁器 3（ベトナム産陶磁器，朝鮮産陶磁器 1）



第 62 図　その他の輸入陶磁器 4（朝鮮産陶磁器 2）No.52(手塚氏報告資料)は集計には含まない。



図版 34　その他の輸入陶磁器 4（朝鮮産陶磁器 2）

3　本土産陶磁器

総数3,005点出土している（第19表）。年代は15～20世紀と幅広く、産地も備前・肥前・薩摩・京または信楽系・瀬戸及び美濃などバリエーションに富む。年代別の傾向をみると、15～16世紀（グスク時代）は備前、17～19世紀（近世）は肥前・薩摩・京または信楽系、19～20世紀（近代）は肥前・瀬戸及び美濃の製品がそれぞれ優位となる。以下、特徴的な資料を図化するとともにその概要を述べ、個々の詳細は第20表に譲る。

①磁器

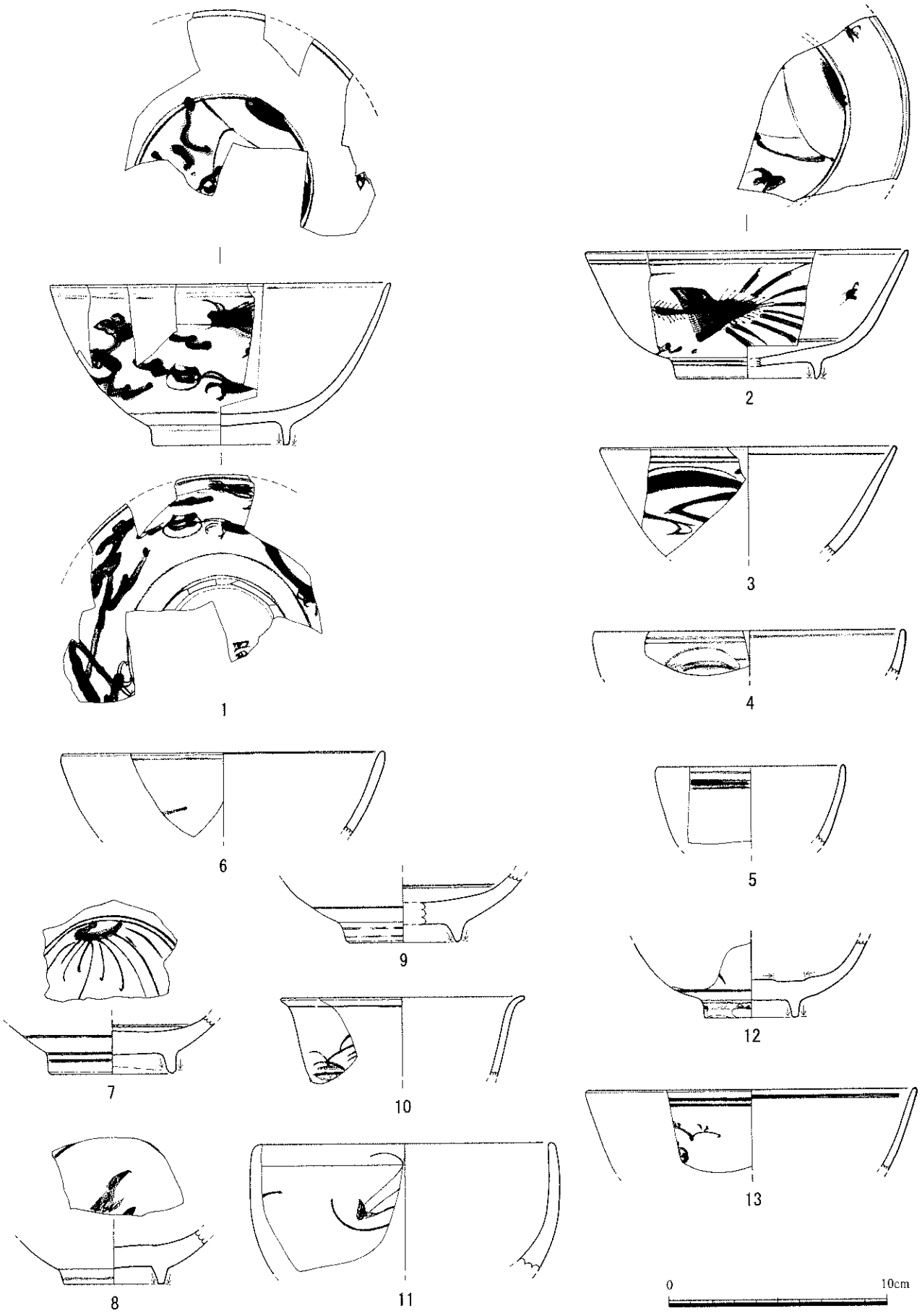
総数2,472点出土しており、年代でみると近世と近代に大別される。近世の製品は染付（1～34）・青磁（35）・色絵（36～38）が確認されており、ほとんどが肥前産と考えられる。

染付は碗・小碗・小杯・皿・蓋・瓶などの器種がみられる。碗は直口口縁で畳付を釉剥ぎするもの（1～9、13）、同様の器形で内底と畳付を釉剥ぎするもの（12）、端反口縁のもの（10）がある。　小碗は口縁部が直口するもの（14・15、17～19）と鼈口状を呈するもの（16、20）に大別され、小杯は端反口縁のもの（23）が認められる。皿は直口口縁で内底を蛇の目状に釉剥ぎするもの（24・25）と、同様の器形で蛇の目凹形高台を有するもの（26）など様々である。　瓶はいわゆるラッキョウ形の徳利（31・32）と、底部からやや直線的に立ち上がるもの（33）、胴部が球形に張るもの（34）がみられる。青磁はラッキョウ形徳利の底部と考えられるもの（35）が得られている。色絵は碗に対応する蓋（36・37）と瓶（38）が確認されている。36は中国産の可能性もあるが、今回は本項で扱う。

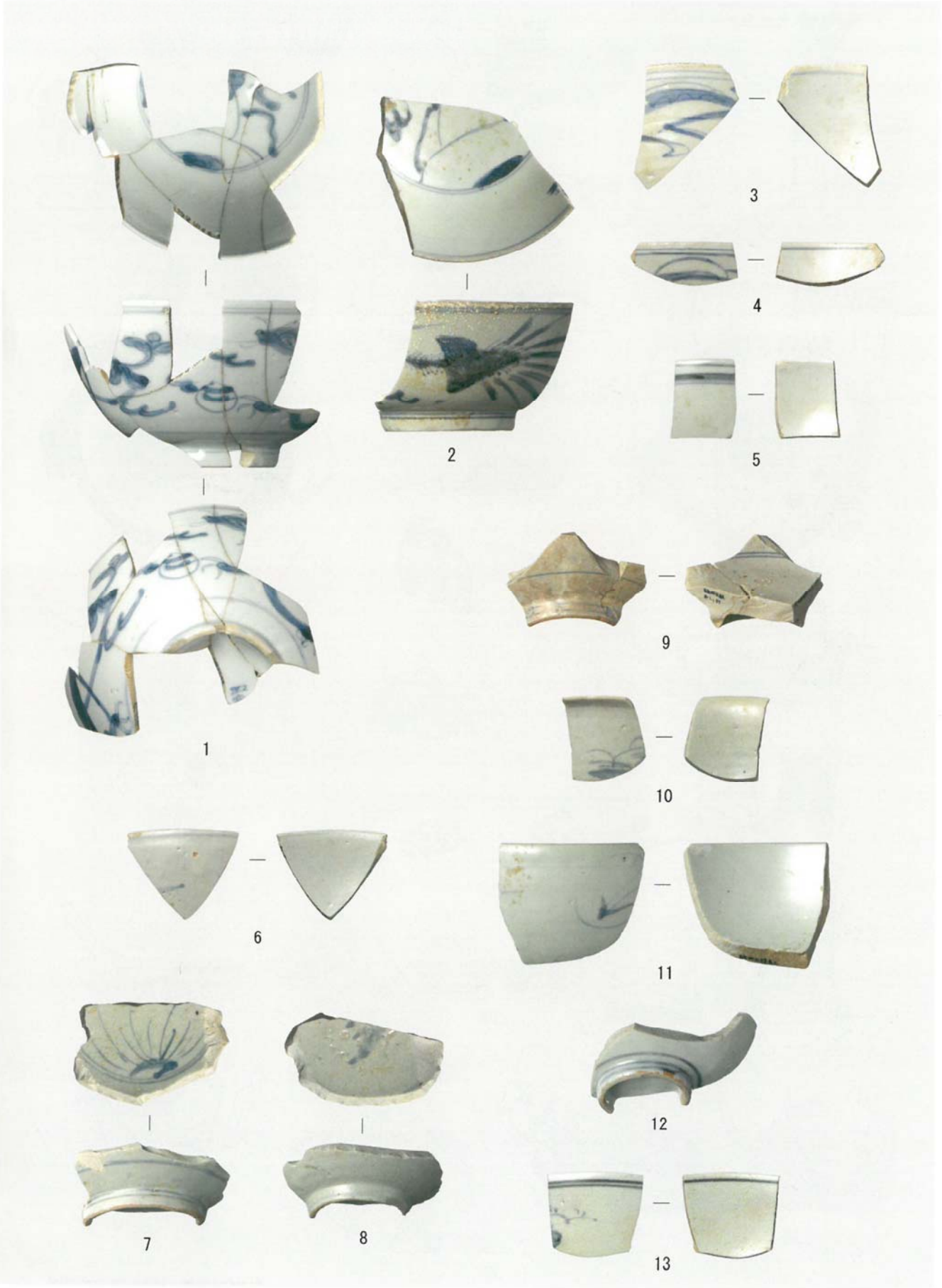
近代の製品は染付と白磁で、器種は碗・小碗・小杯・急須・皿・大皿・鉢・筒物・火入・瓶などが確認されている。碗は腰部の張りが強い直口口縁のもの（39～43）と、底部から斜め上方に広がるもの（44・45）がある。小碗は体部が半球形のもの（46～49）と筒状に立ち上がるもの（50）がみられ、小杯は端反口縁（51）を呈する。急須は胴部が球形をなすもの（52）と、底面を上げ底状態に成形するもの（53）がある。皿（55～57）と大皿（58）はいずれも器高が低く口縁部が直口するという類似の特徴を持つ。筒物は腰部に丸みを持つもの（60）と、腰部に稜を有する段重と考えられるもの（61）がある。62も類似の器形だが、内面が露胎となることから火入と判断した。63は平底の底部から筒状に立ち上がる瓶と考えられる。

②陶器

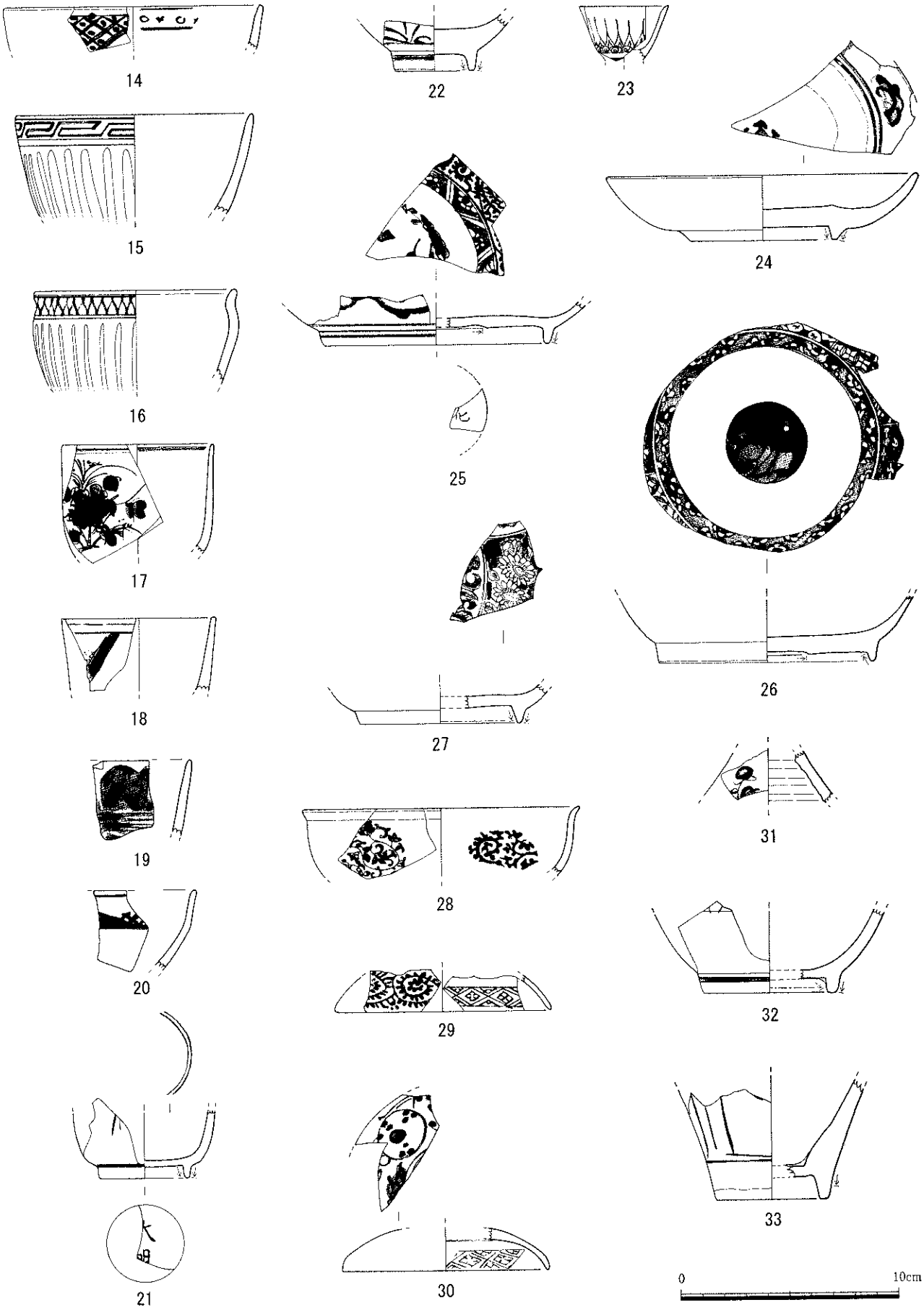
総数533点出土している。こちらも年代でみると近世と近代に大別され、碗・小碗・皿・大皿・擂鉢・鍋・急須・壺・瓶などの器種が確認されている。碗は口縁部を鼈口状に捻り返すもの（64・65）、口縁部が直口する半球碗（66～71）、腰部に稜を持つもの（72～74）がみられる。これらの多くは器形の特徴から喫茶に用いられた可能性が高い。小碗は体部が半球形のもの（76～80）と腰部に稜を持ち体部が筒形を呈するもの（82）がある。皿は腰部に稜を持つもの（83）、直口口縁で内底を釉剥ぎするもの（84・85）、内底に上絵付を施すもの（86）、口縁部内面に稜を持ち鍔縁状に成形するもの（88）など様々な資料が認められる。大皿（90・91）は口縁部が鍔縁状を呈し、内面に白土の刷毛目装飾を施す。擂鉢（92）は口縁部を内側に折り曲げ外面下端が突出するもので、備前焼編年の中世4b期～5期（乗岡2005）に相当する。鍋は体部が球形を呈し口縁部を外側に折り曲げ、口縁部外面に紐状の把手を1対貼付する（93・94）。急須は体部が球形で最大径を胴部下位に持つもの（96～98）と、体部が算玉状を呈するもの（99）がみられる。壺は薄手で小振りのもの（102・103）と前者に比して厚手の製品（104・105）に大別される。いずれも内面に叩き成形の痕跡が残る。その他、ラッキョウ形徳利または玉壺春瓶に類する器形の瓶（108、113）や、小瓶もしくは小壺（107、109～111、114）など、近代の資料を中心に多様な形態がみられる。



第 63 図　本土産陶磁器 1



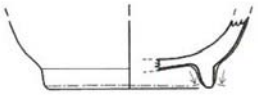
図版 35　本土産陶磁器 1

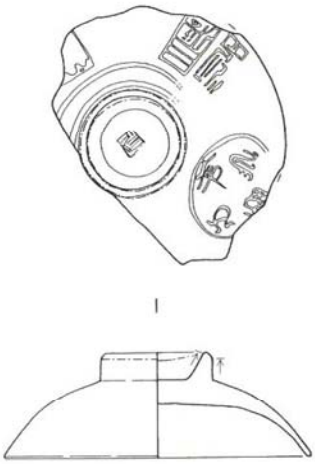


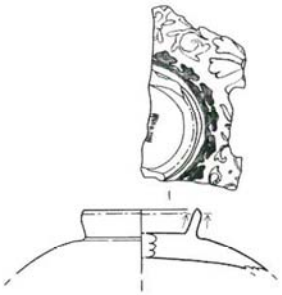
第 64 図　本土産陶磁器 2

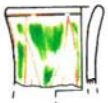
図版 36　本土産陶磁器 2

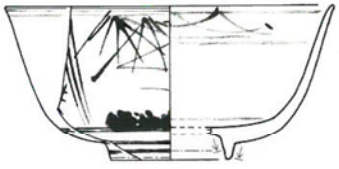
34

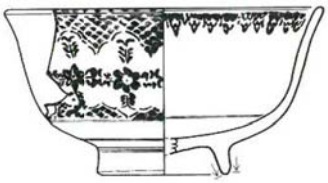

35

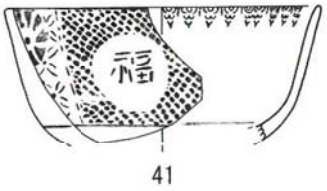

36

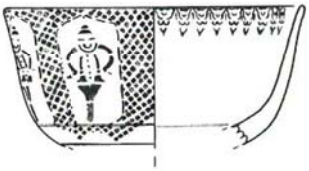

37


38

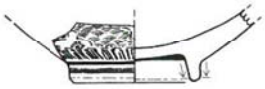

39

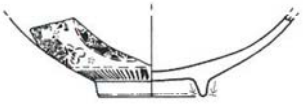

40

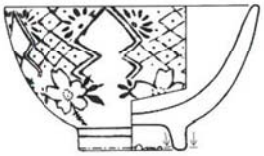

41


42

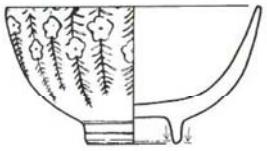
43

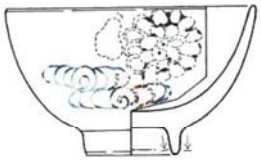

44


45


46

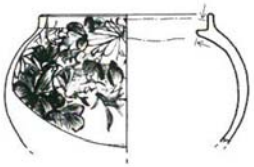
47


48

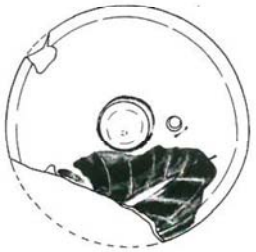

49

50

51

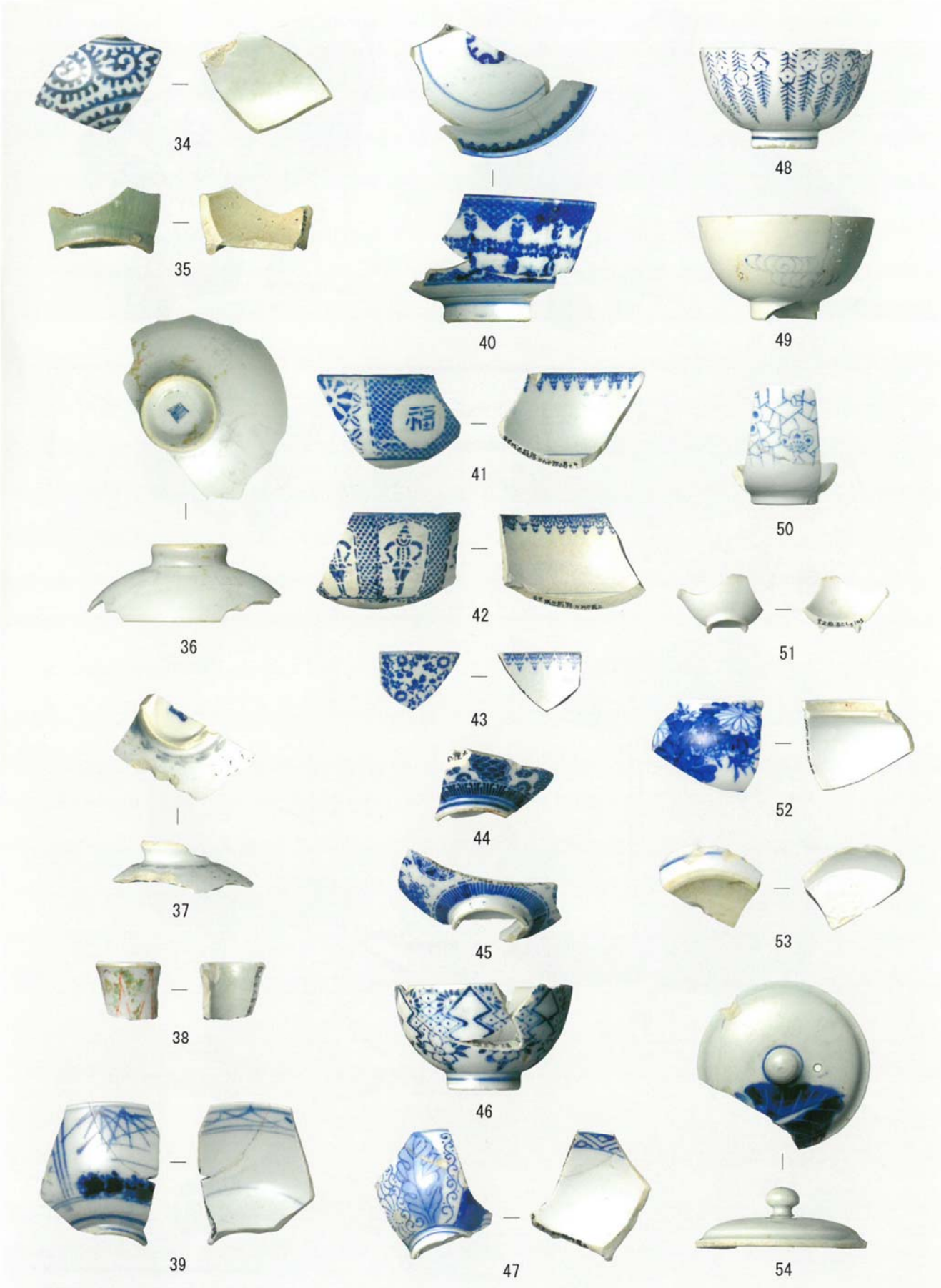

52

53

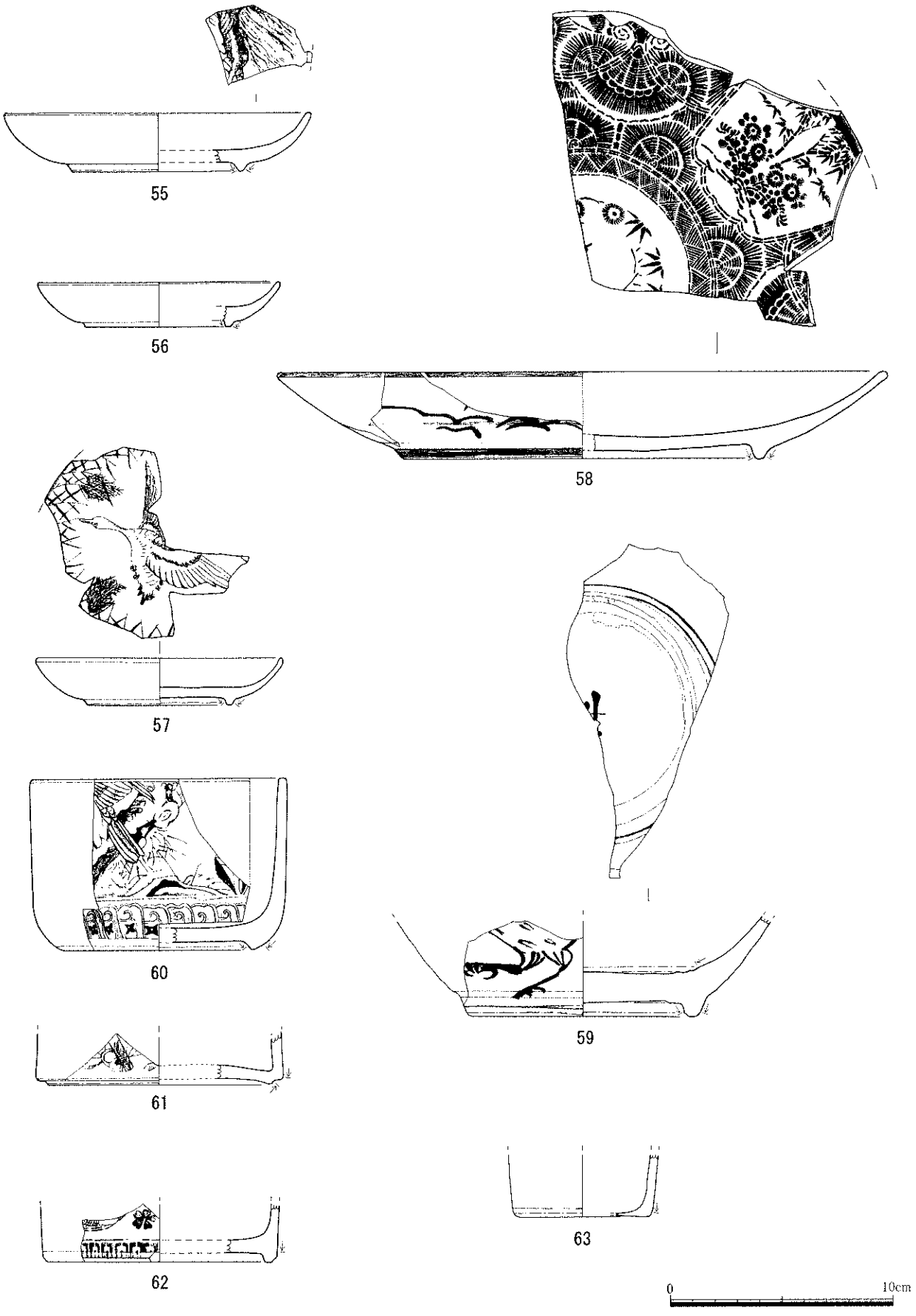


54

第 65 図　本土産陶磁器 3

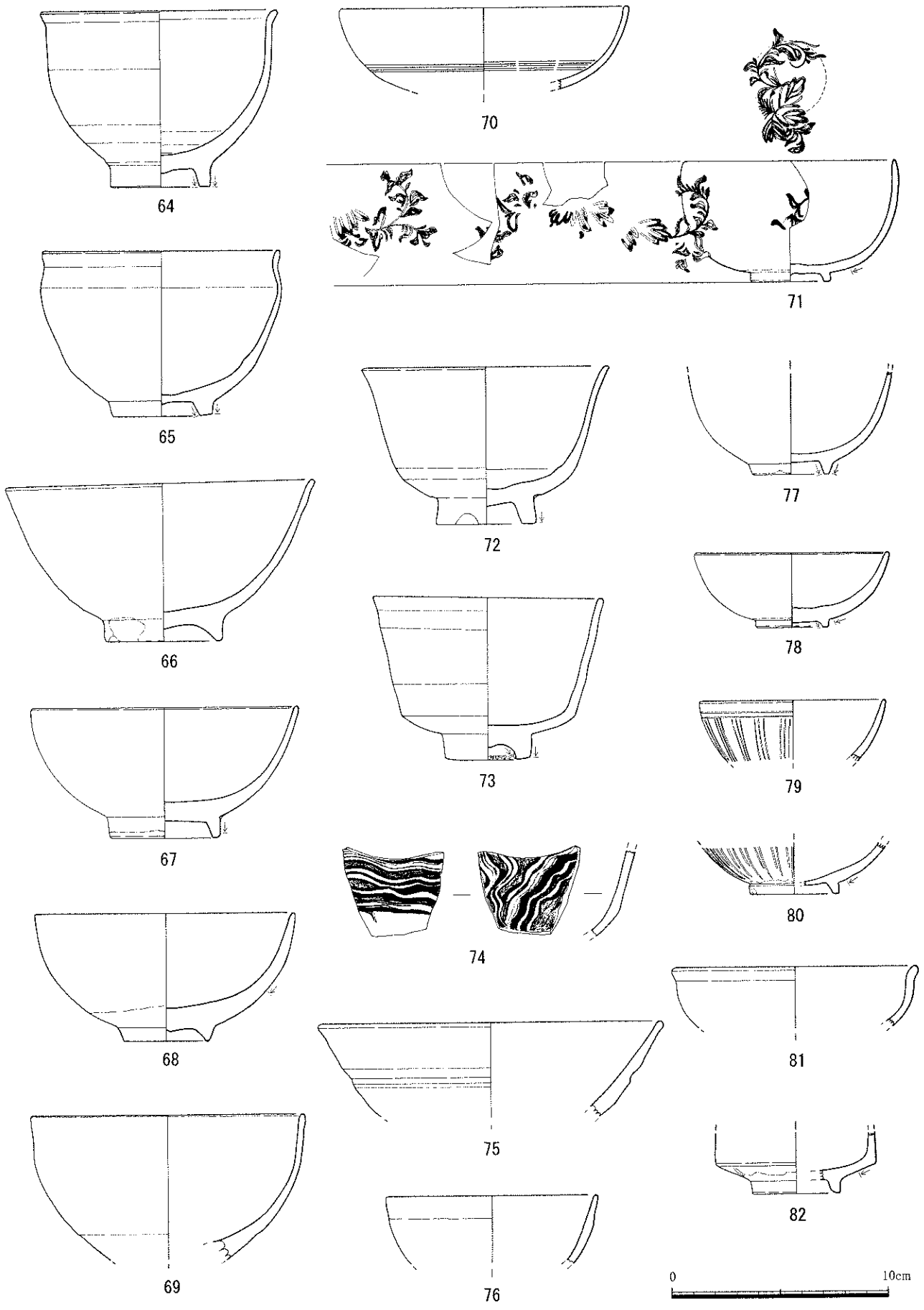


図版 37　本土産陶磁器 3

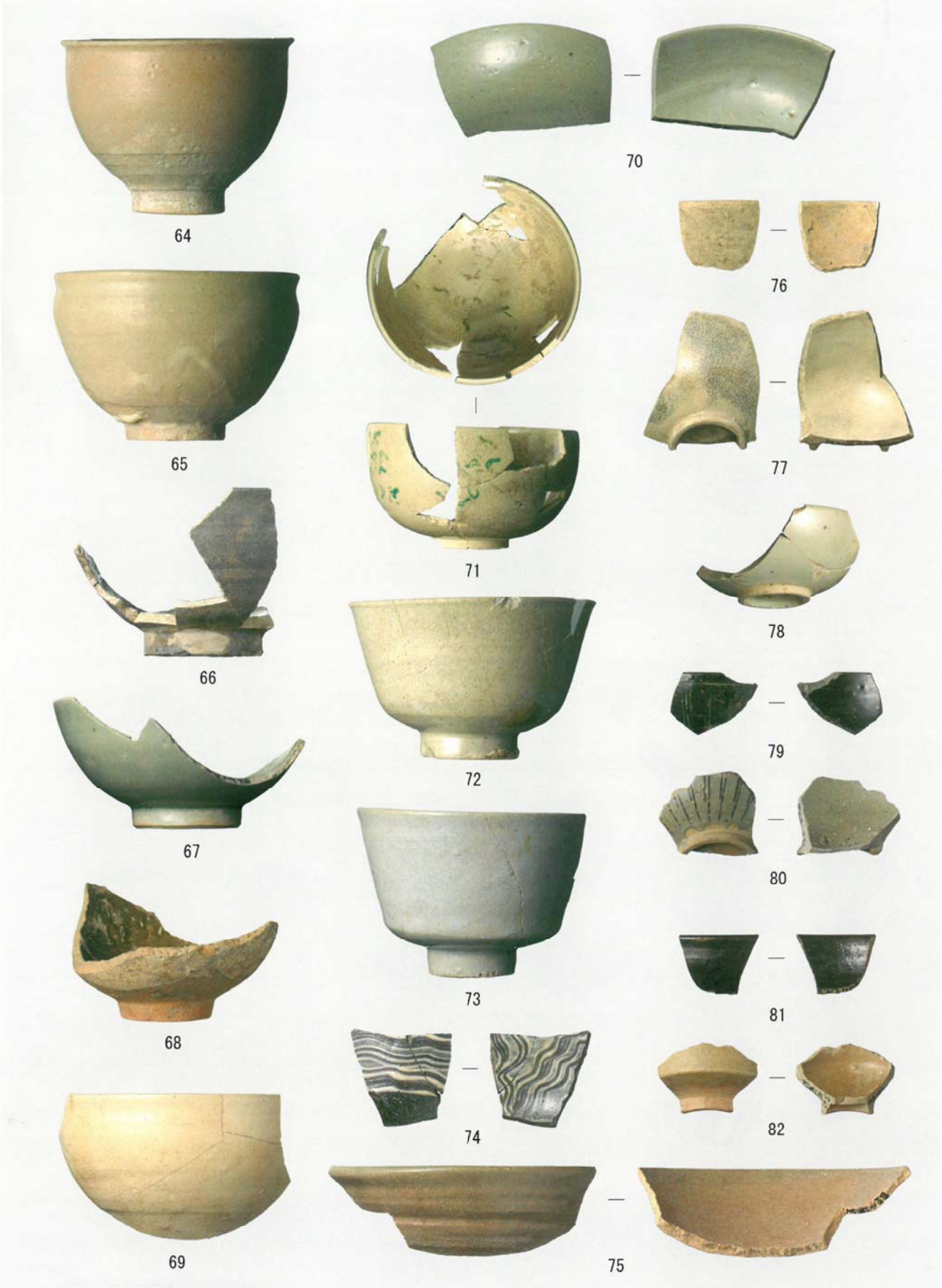


第 66 図　本土産陶磁器 4

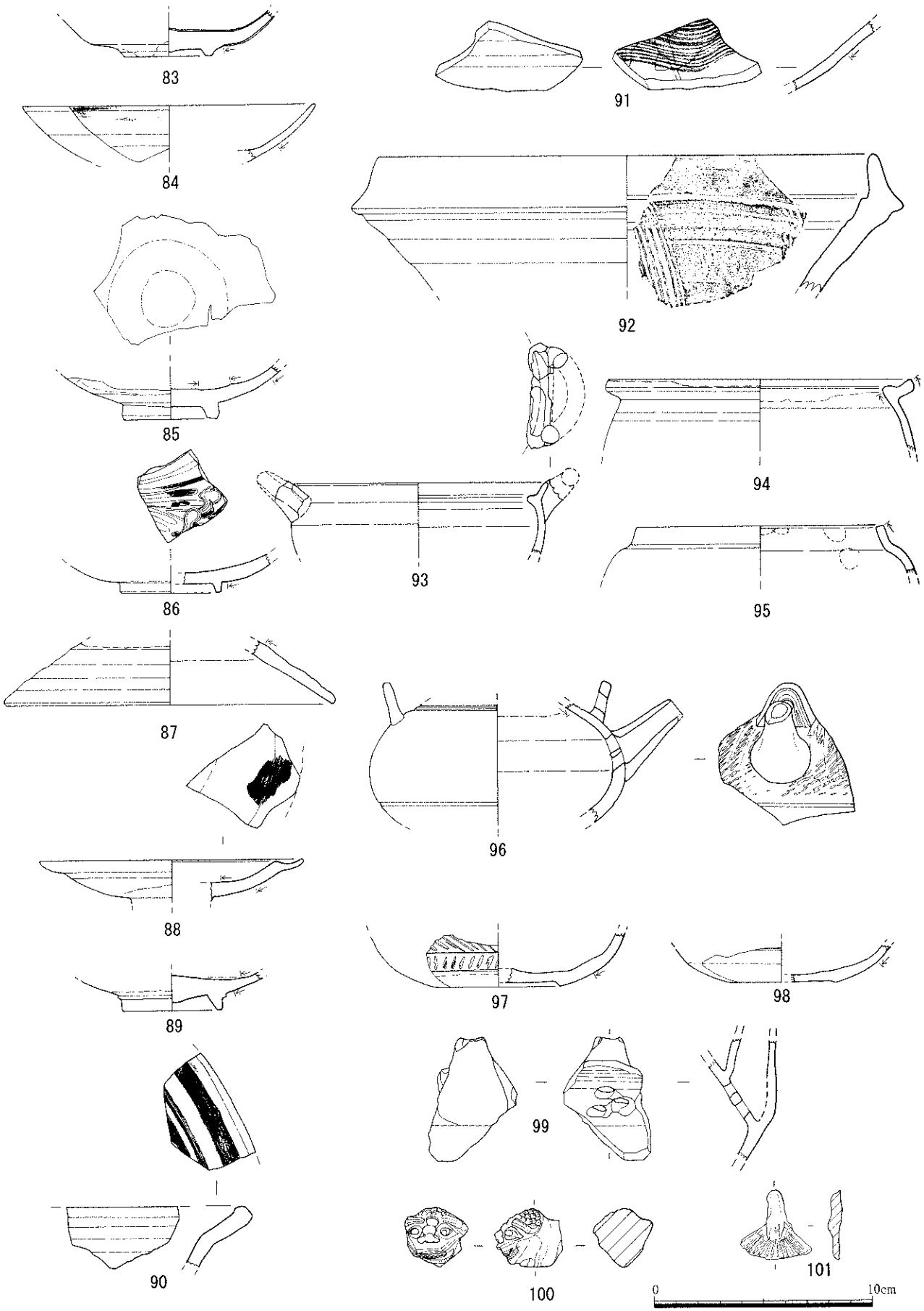
図版 38　本土産陶磁器 4



第 67 図　本土産陶磁器 5

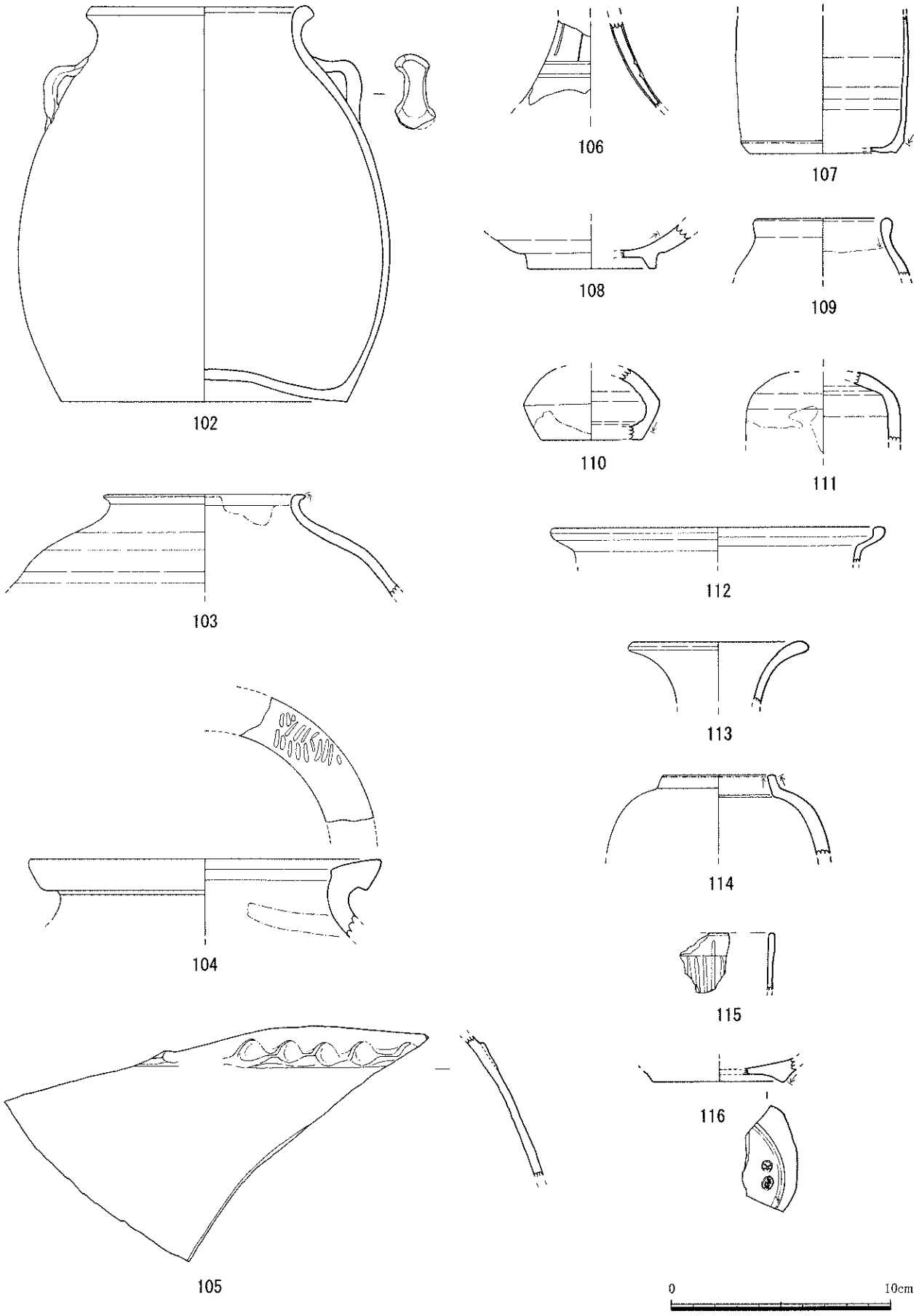


図版 39　本土産陶磁器 5

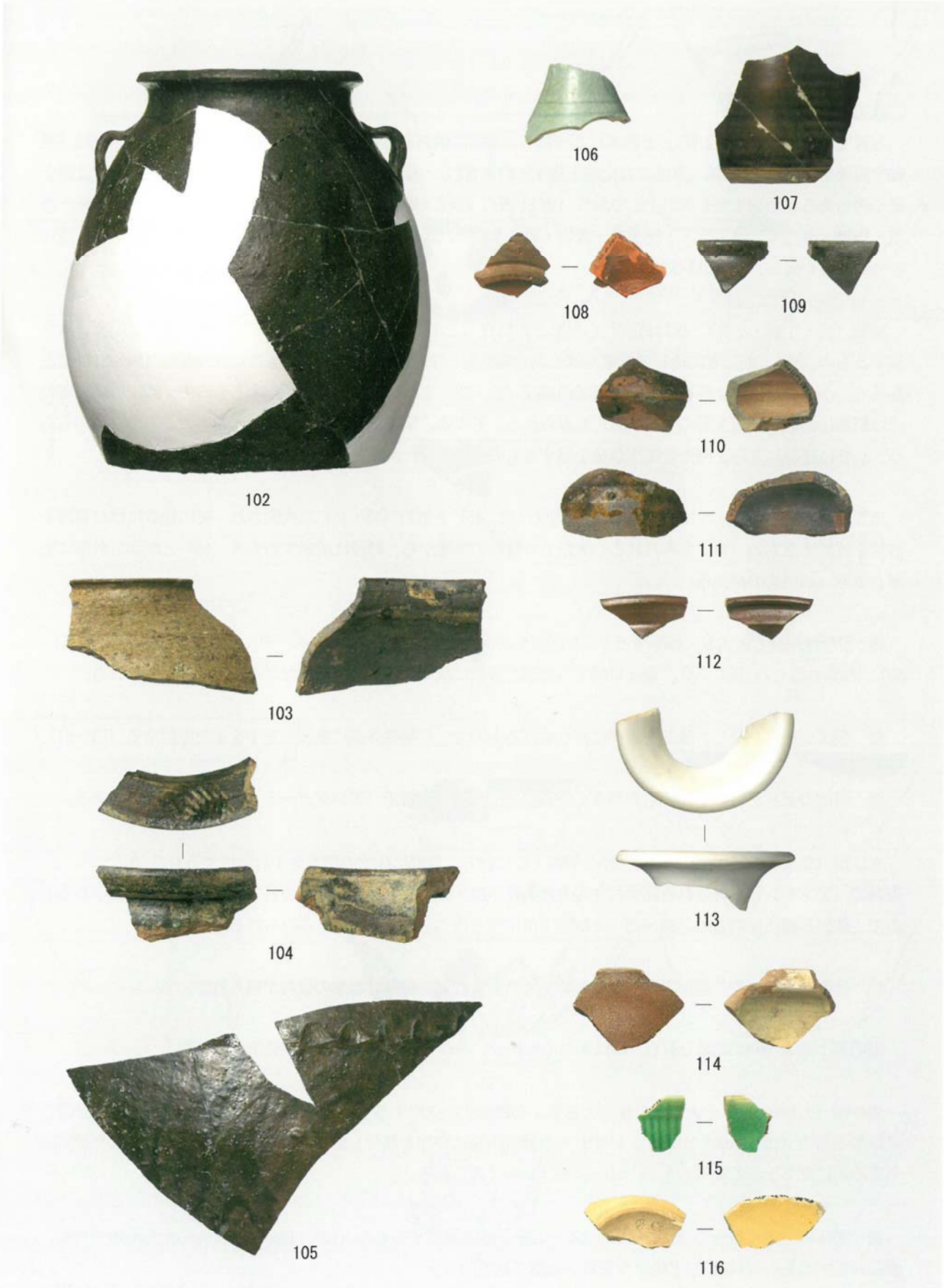


第 68 図　本土産陶磁器 6

図版 40　本土産陶磁器 6



第 69 図　本土産陶磁器 7



図版 41　本土産陶磁器 7

4　沖縄産陶器・土器

①施釉陶器

方言で「ジョウヤチ（上焼）」と称される一群で、器面に釉薬を塗布する製品を指す。釉薬には灰釉・鉄釉（黒釉や褐釉を含む）・透明釉（素地に白化粧を施すものを含む）・緑釉がみられ、それに呉須や上絵付などで文様を描く例もある。総数4,261点出土しており（第21表）、器種は碗・小碗・小杯・皿・大皿・鉢・壺・鍋・瓶・急須・袋物・酒注・火炉・火入・燈明具・置物・碍子及びそれに対応する蓋などが確認されている。以下に器種別の分類概念を記し、詳細は観察表に示す。

碗類（碗・小碗・小杯）：碗は底部から斜め上方に立ち上がるもの（1～5）、腰部に丸みを持たせ端反口縁を呈するもの（6）、前二者に比して器壁が厚く高台脇を削らないもの（7～18）、直口口縁のもの（19～21）などがある。小碗は腰部に丸みを持たせ口縁部が端反（22・23）または直口（24～28）するもので、端反口縁の資料には胴部に面取りを施すもの（30～33）もみられる。その他、平底で口縁部を鼈口状に成形するもの（34）もある。小杯は腰部に丸みを持たせ端反口縁を呈するもの（39～41）が確認されている。

皿類（皿・大皿）：皿は口縁部の形態から端反（42、45）と直口（43・44）に大別され、更に後者には口唇部を波状に成形するもの（44）もみられる。大皿も口縁部の形態から、鍔縁に成形するもの（46）と断面三角形に肥厚させる（49）ものがある。

鉢：器形は前述した大皿に類似するが、口縁部を断面三角形に肥厚させるもの（50）、鍔縁に成形するもの（51・52）、内湾するもの（53・54）、端反口縁で口唇部を波状に成形するもの（55）など様々な資料がみられる。

鍋：胴部が球形を呈し口縁部を外側に折り曲げるもので、口縁部外面に紐状の把手を1対貼付する（59～61）。

壺：肩部の張りが弱い短頸のものが多く、特に62と65は方言で「アンダガーミ」と称される資料である。

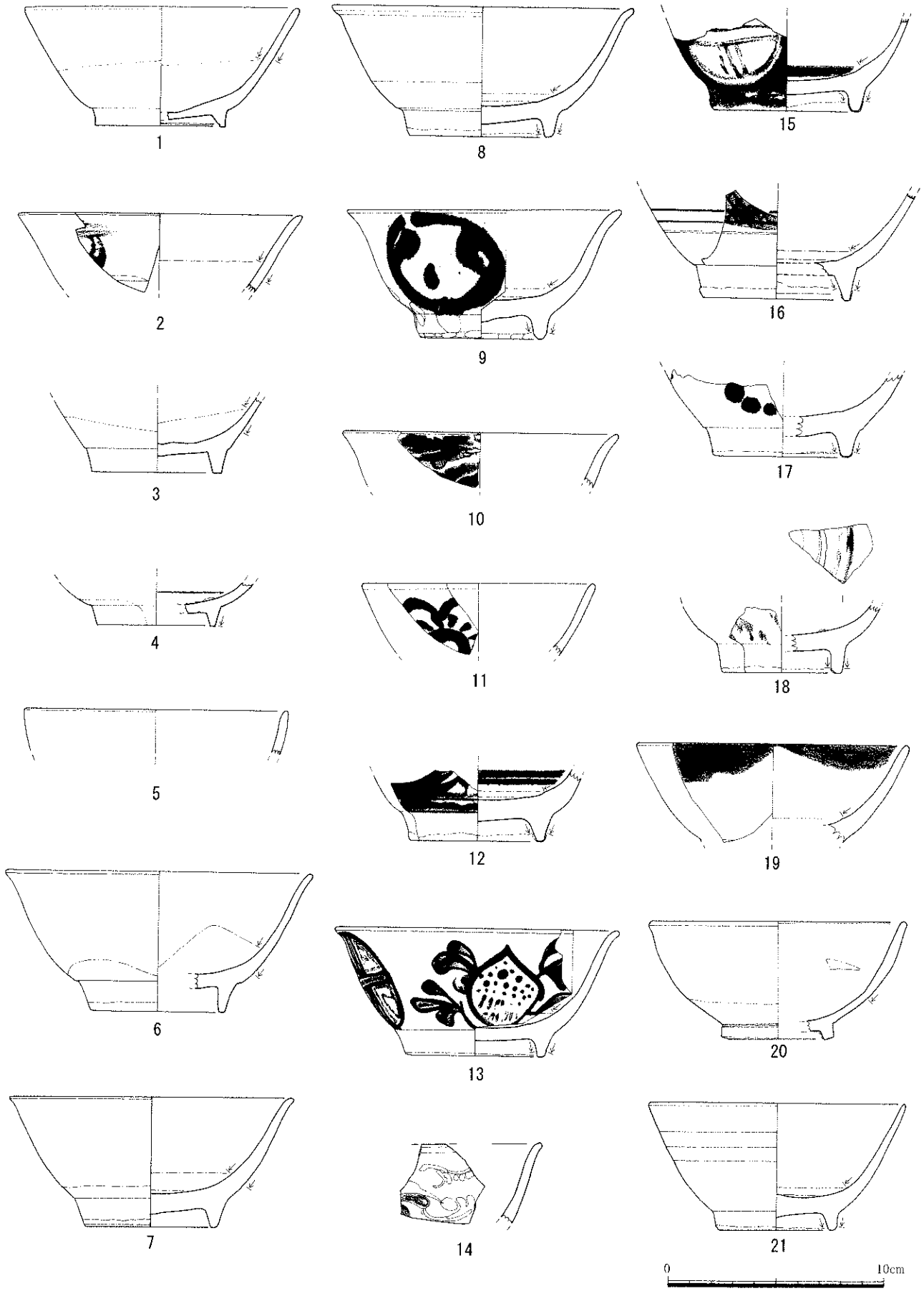
水注類（急須・酒注）：急須は最大径を胴部下位に持ち、肩部に板状の把手を1対貼付するもの（67～80）と、方言で「アンビン」と称される高台付きの大形製品（81・82）がある。酒注は方言で「カラカラ」と称されるもので、体部が楕円形のもの（83～85）と胴部下位に稜を持つもの（86～89）がみられる。

瓶：徳利形（90）や、胴部が球形で短頸のもの（97）など、様々な器形の資料が得られている。

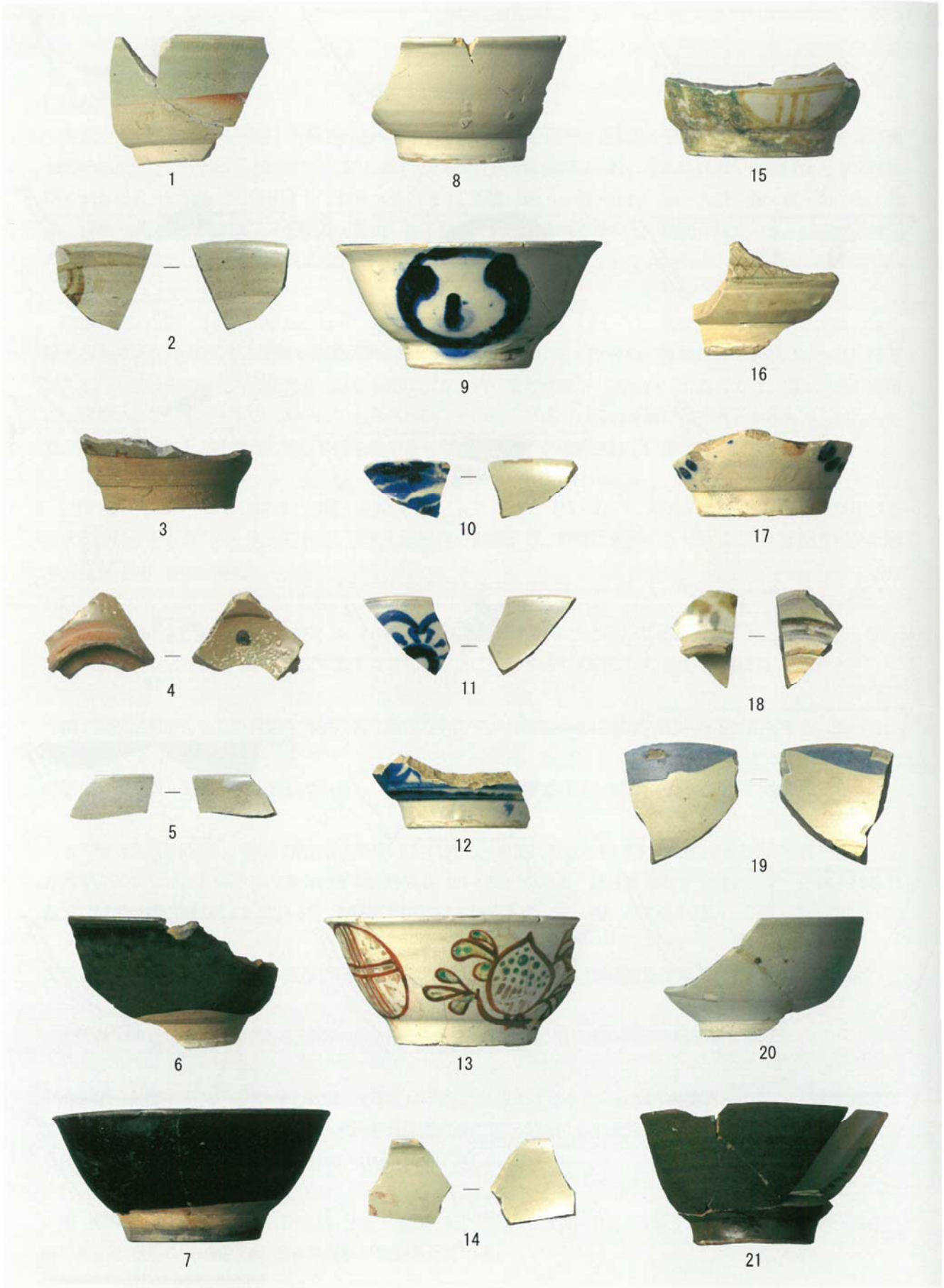
燈明具：98と99は秉燭である。脚付きの小形杯で、内底中央に燈芯用の筒状突起を有する。

煨炉類（火炉・火入）：火炉は口縁部の形態から鍔縁状に成形するもの（100）、内湾口縁のもの（102・103）、直口するもの（101、104）がある。いずれも口縁部内面に突起を貼付して受部を有する。火入は屈曲した腰部から直線的に立ち上がる筒形のもの（106～109）が多くみられる。

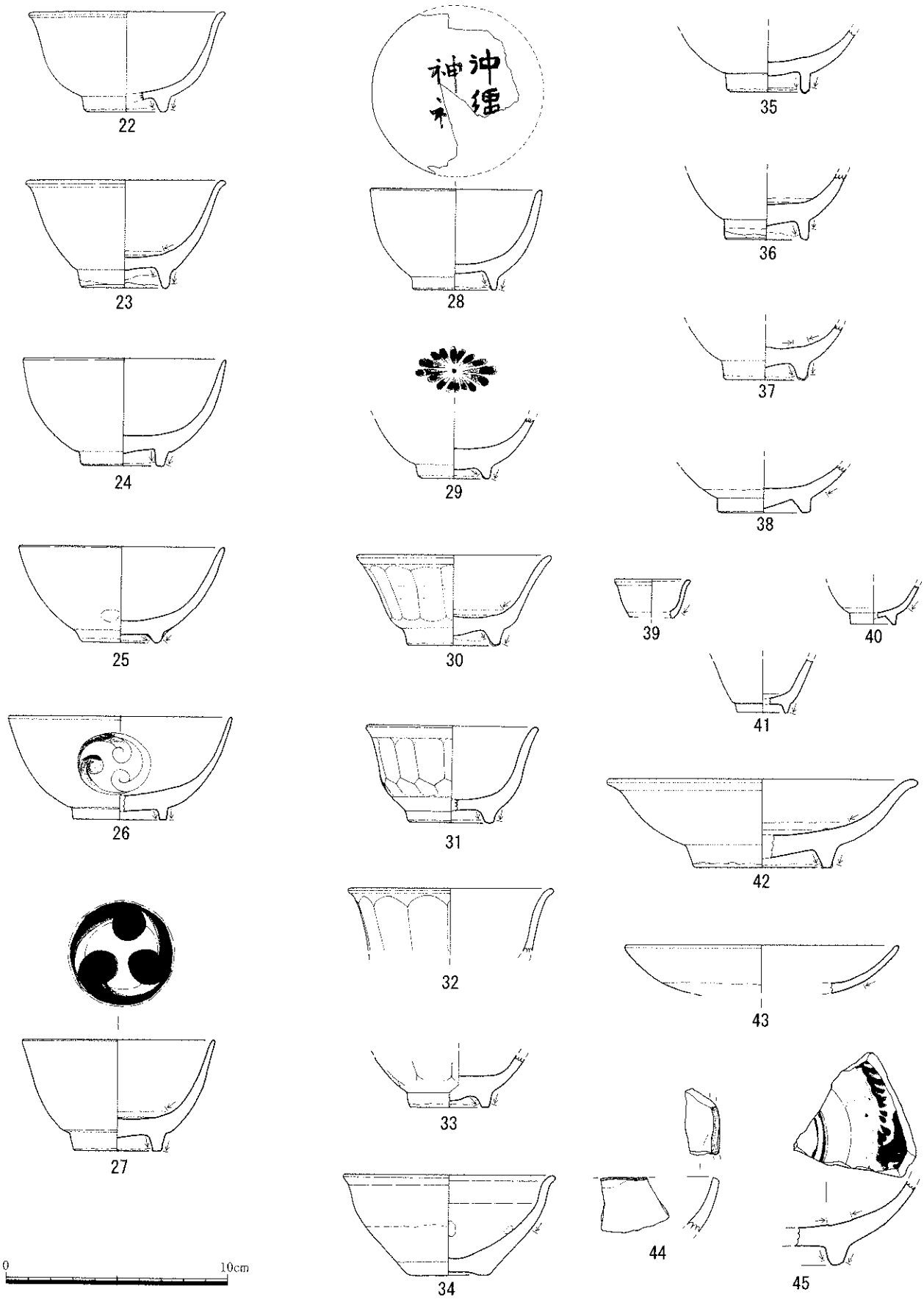
蓋：急須に対応するもの（112～119、122・123）、碗に対応するもの（121、126）、壺に対応するもの（124）、鍋に対応するもの（125）など様々な資料が確認されている。



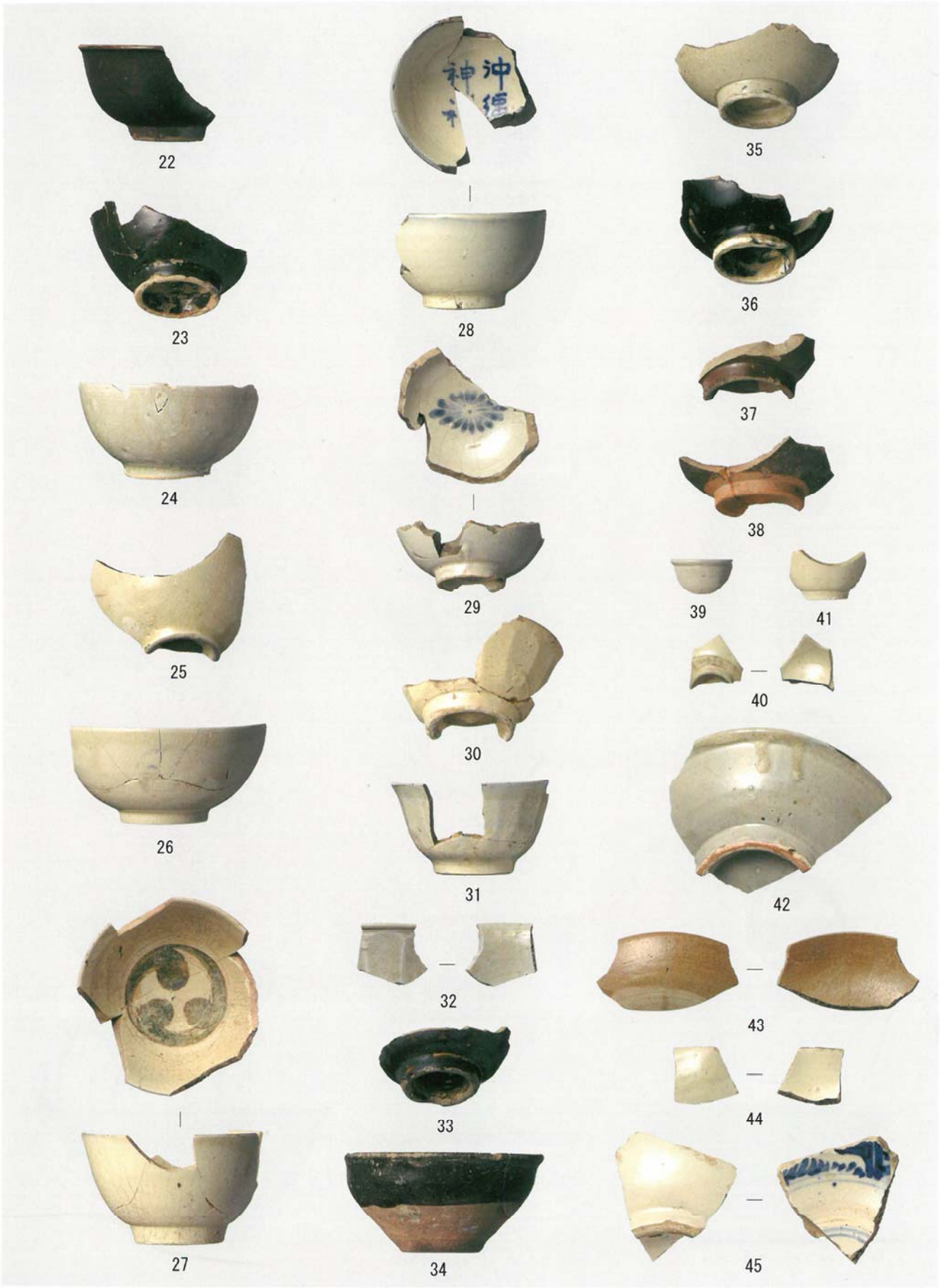
第 70 図　沖縄産陶器・土器 1（施釉陶器 1）



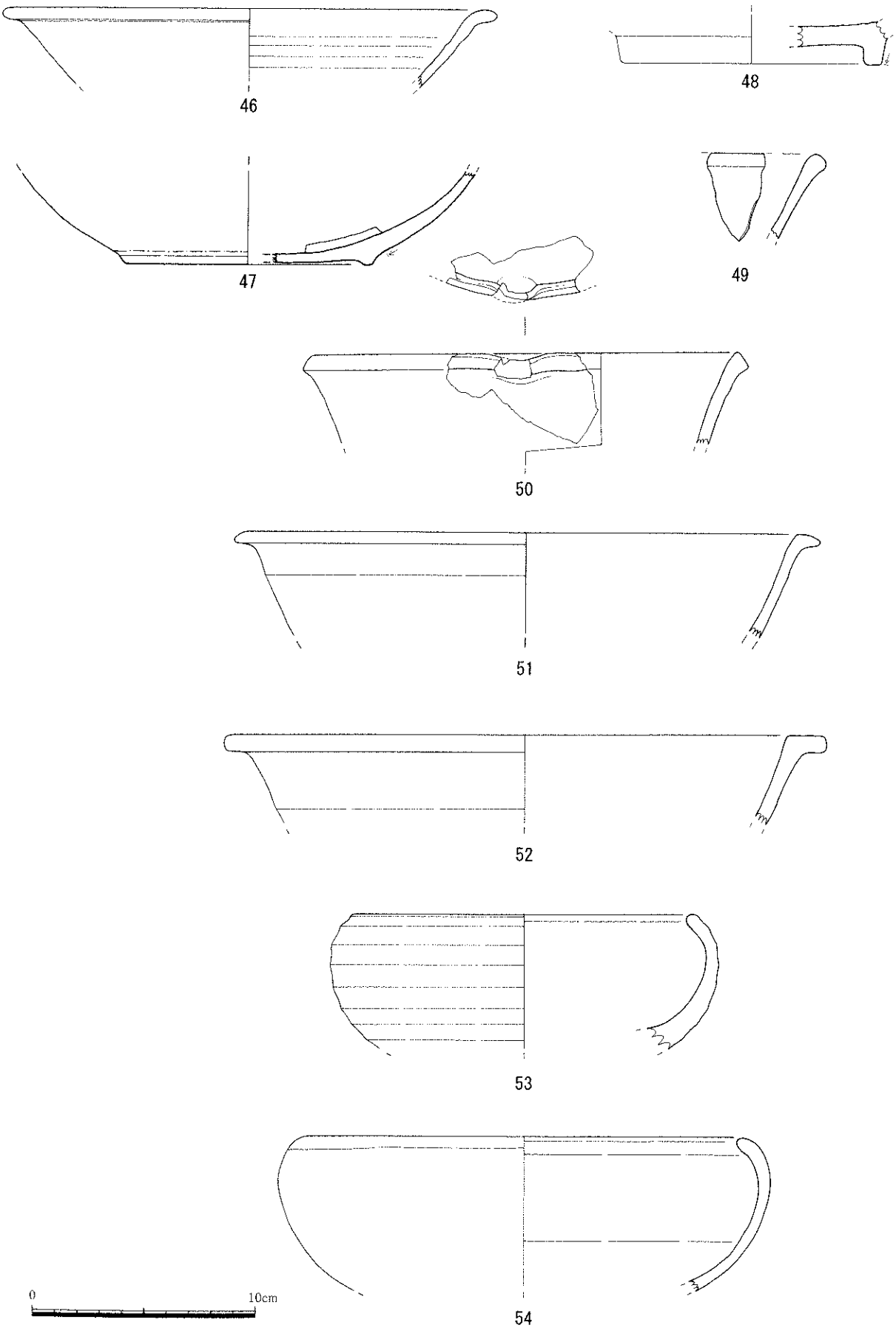
図版 42　沖縄産陶器・土器 1（施釉陶器 1）



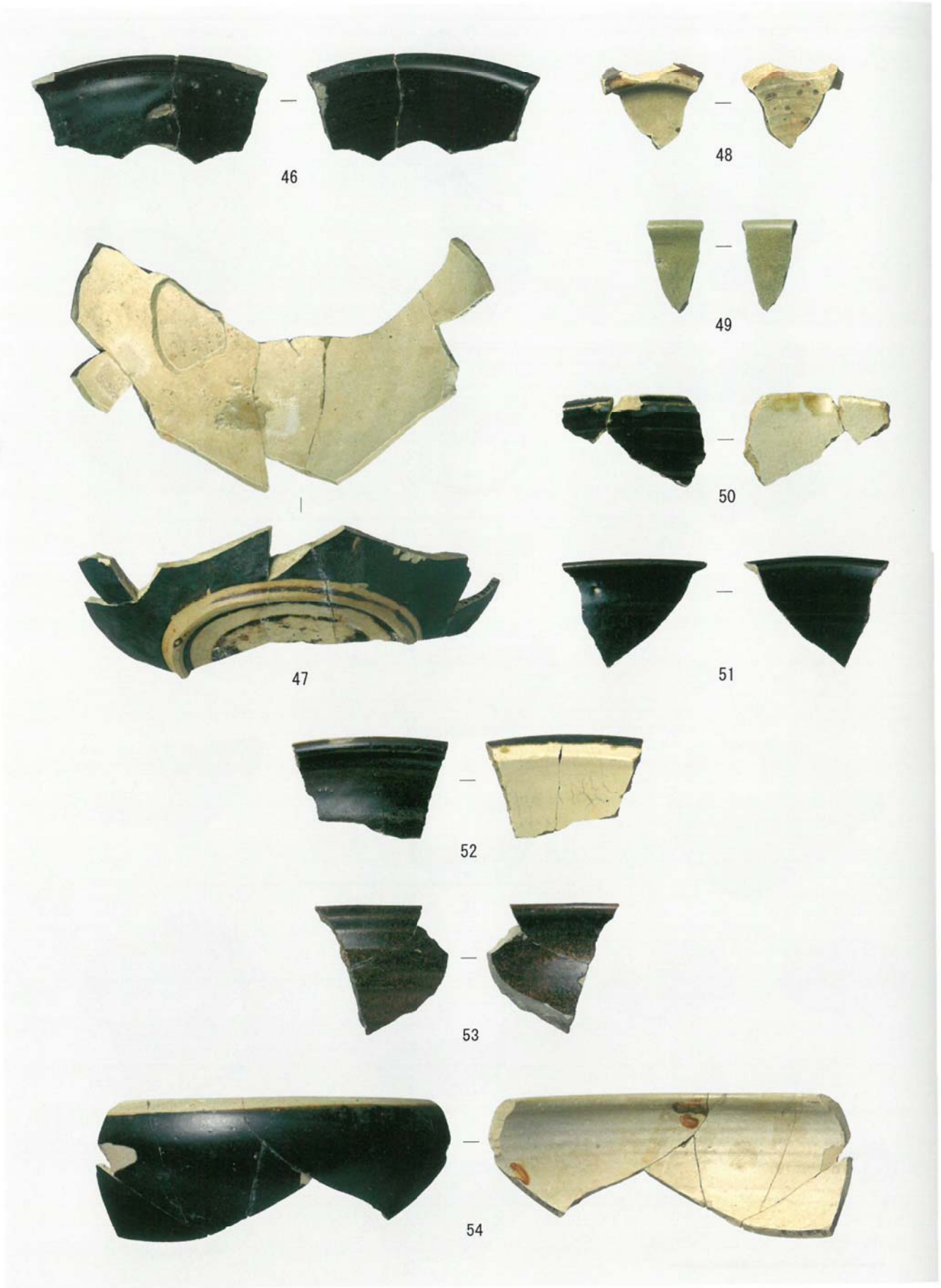
第 71 図　沖縄産陶器・土器 2（施釉陶器 2）



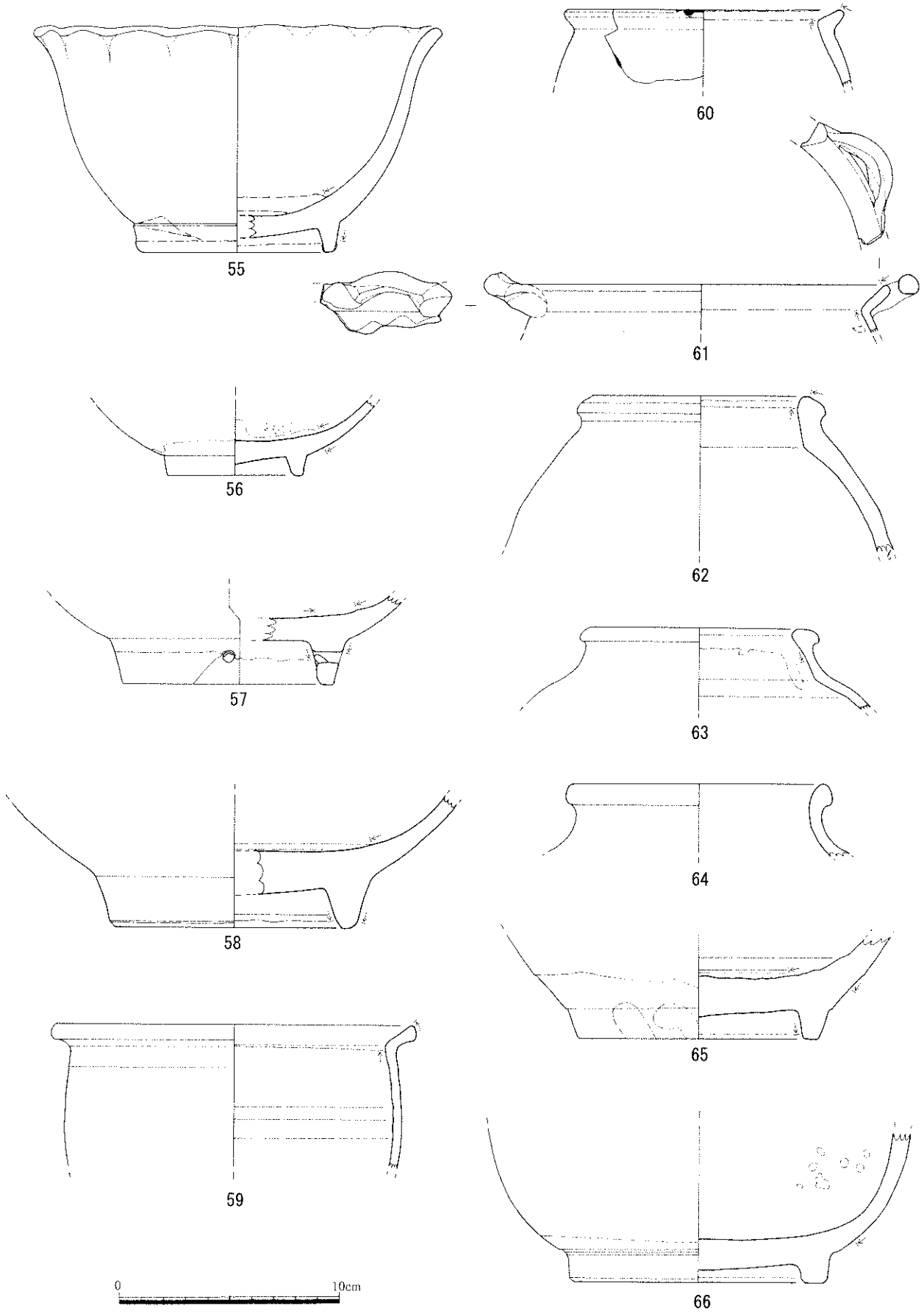
図版 43　沖縄産陶器・土器 2（施釉陶器 2）



第 72 図　沖縄産陶器・土器 3（施釉陶器 3）

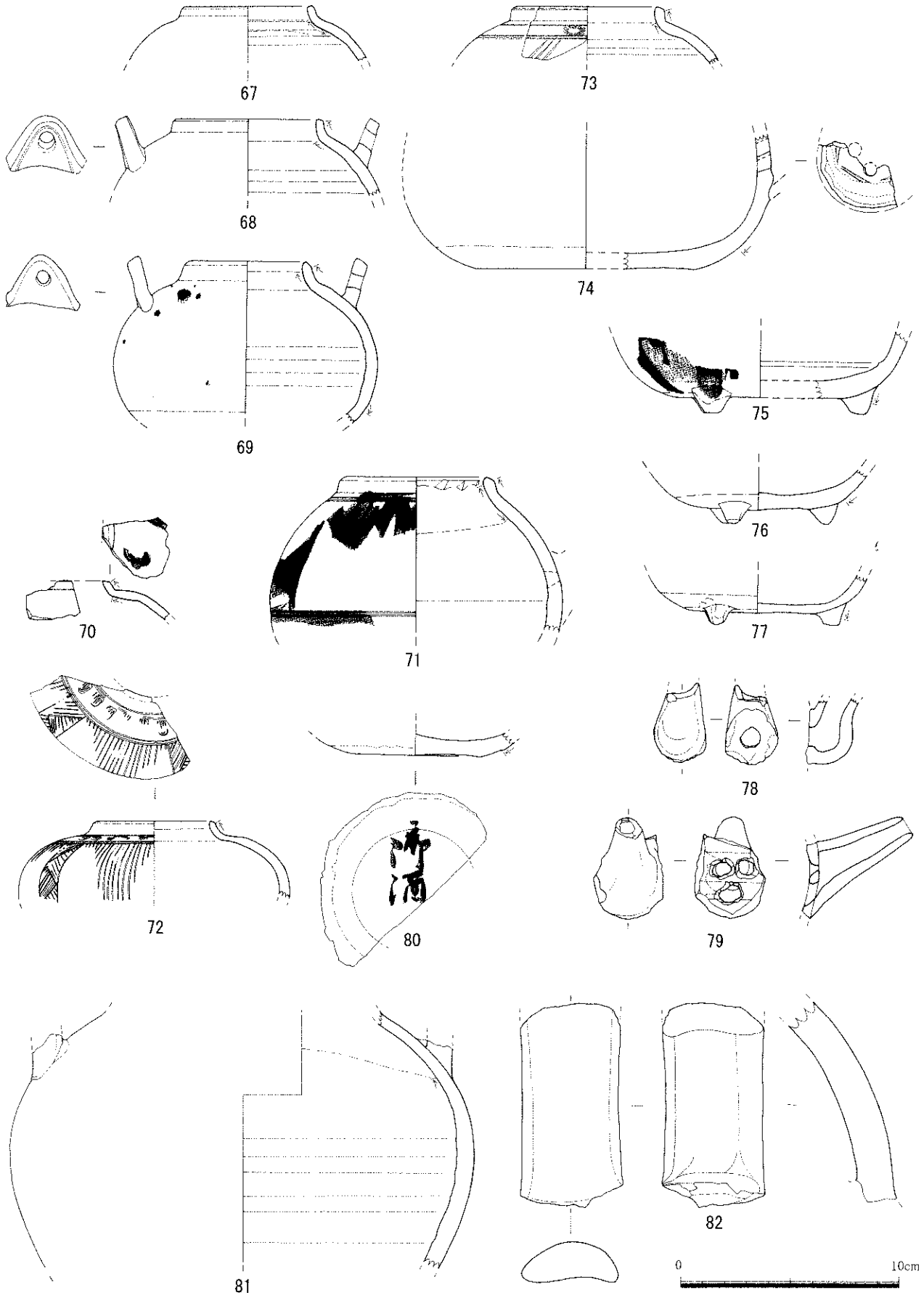


図版 44　沖縄産陶器・土器 3（施釉陶器 3）

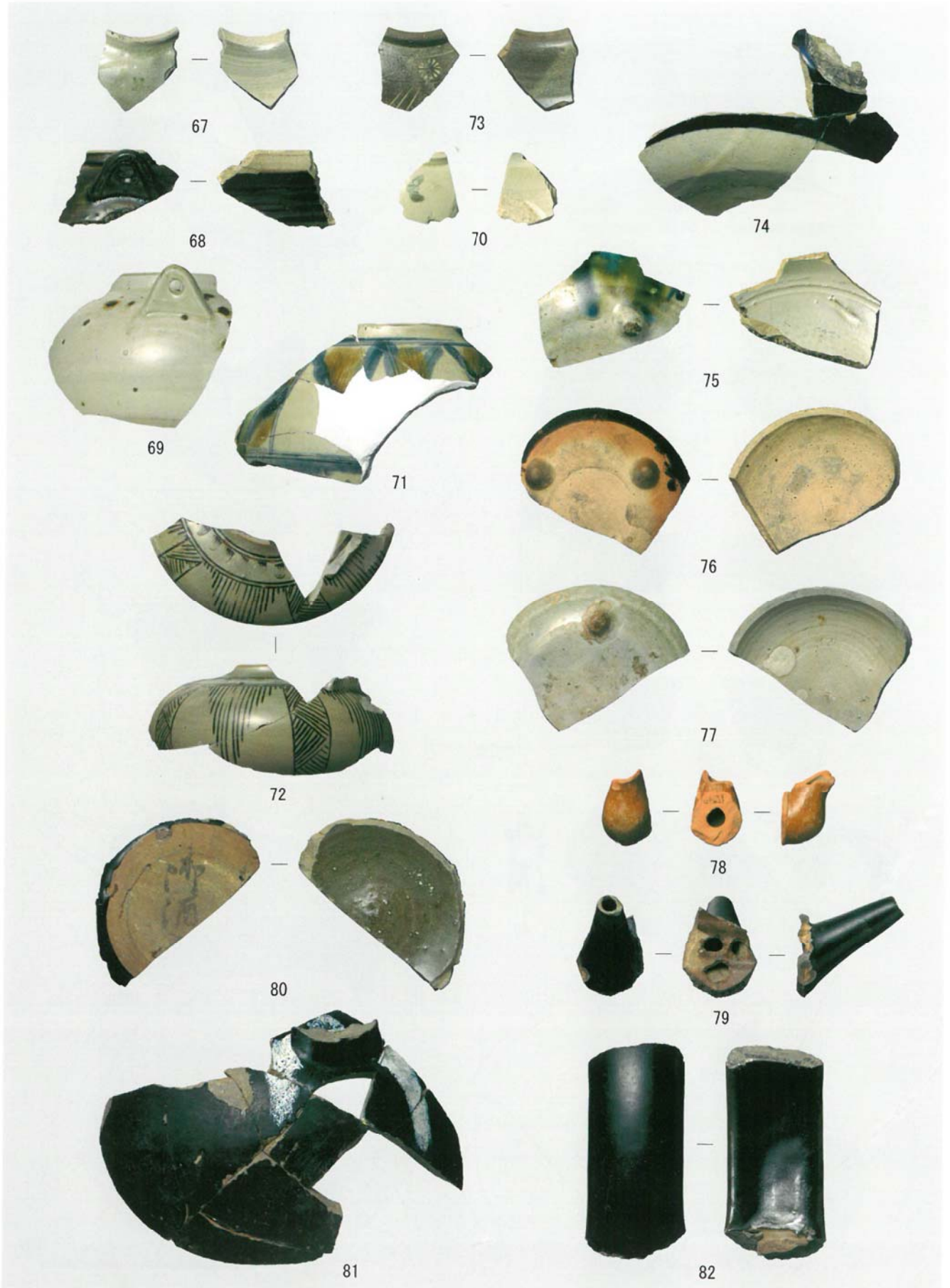


第 73 図　沖縄産陶器・土器 4（施釉陶器 4）

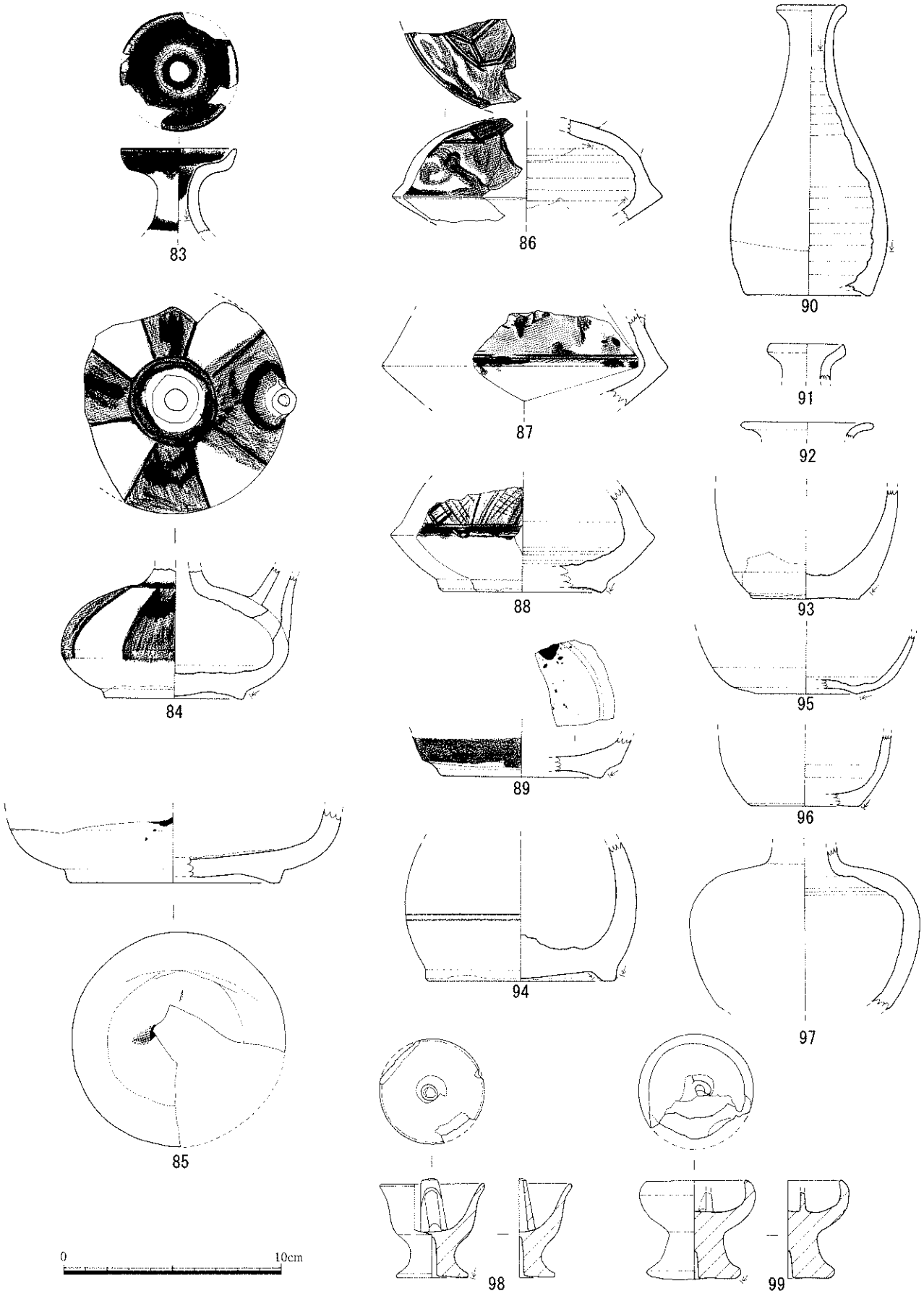
図版 45　沖縄産陶器・土器 4（施釉陶器 4）



第 74 図　沖縄産陶器・土器 5（施釉陶器 5）

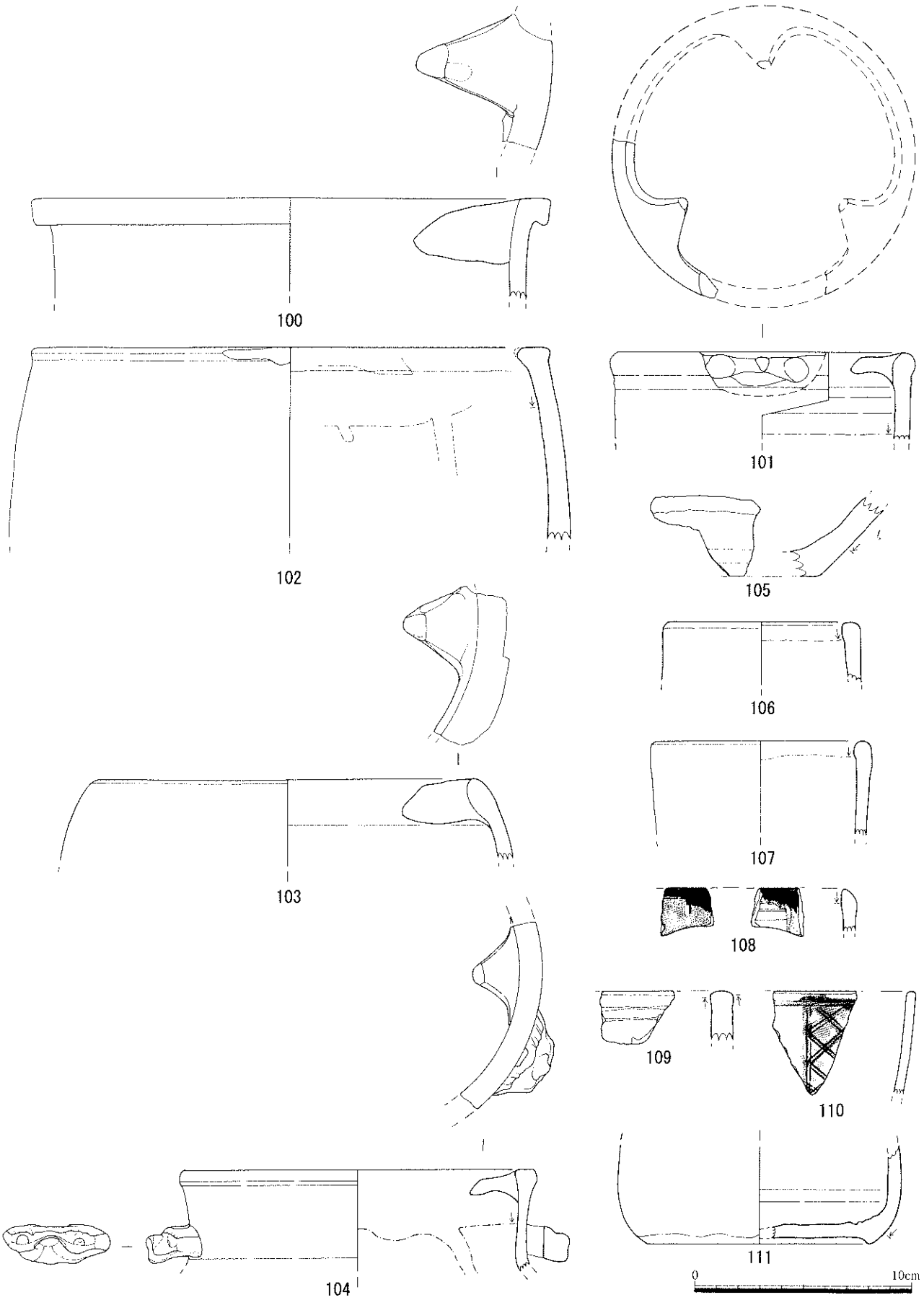


図版 46　沖縄産陶器・土器 5（施釉陶器 5）

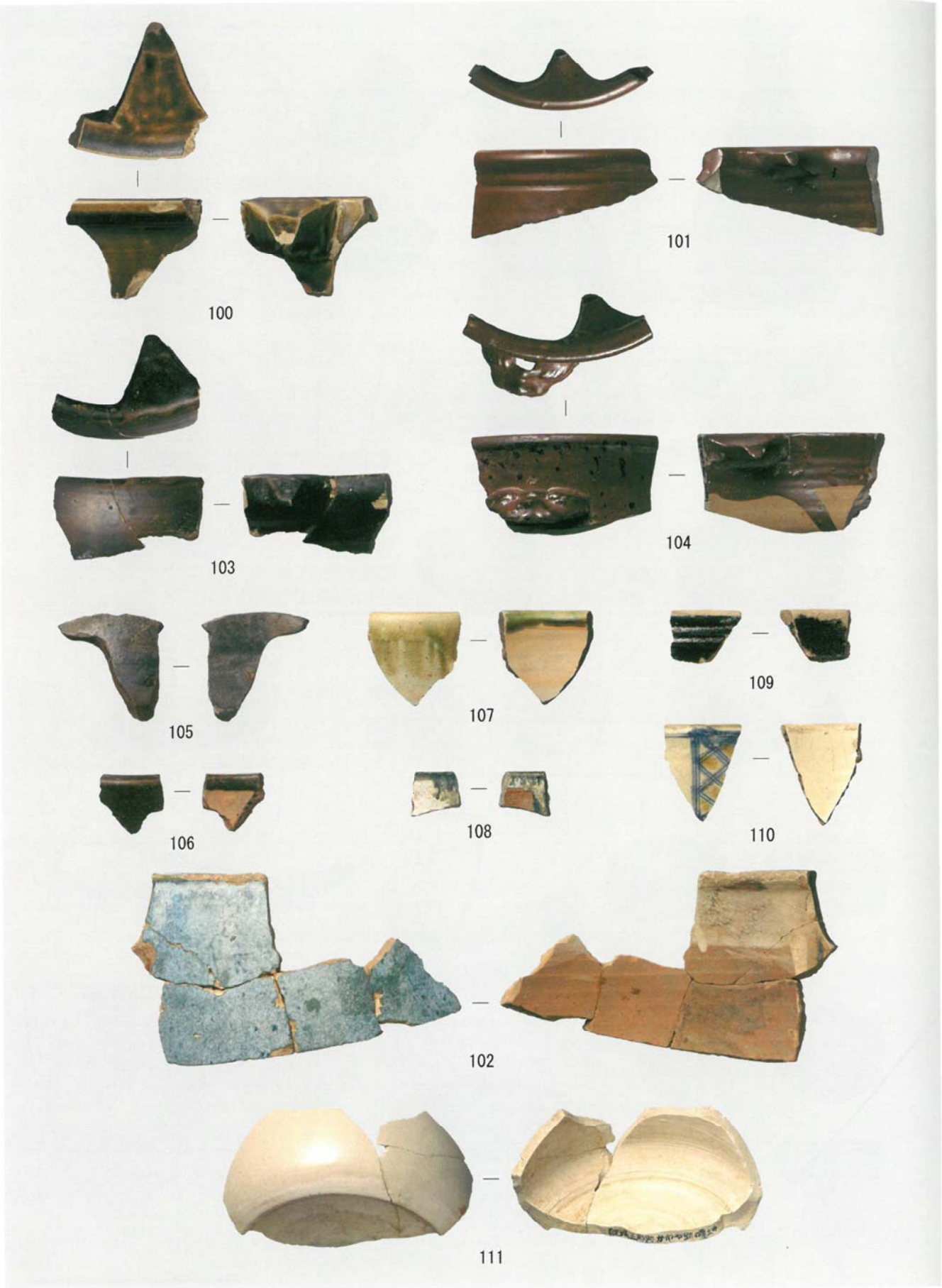


第 75 図　沖縄産陶器・土器 6（施釉陶器 6）

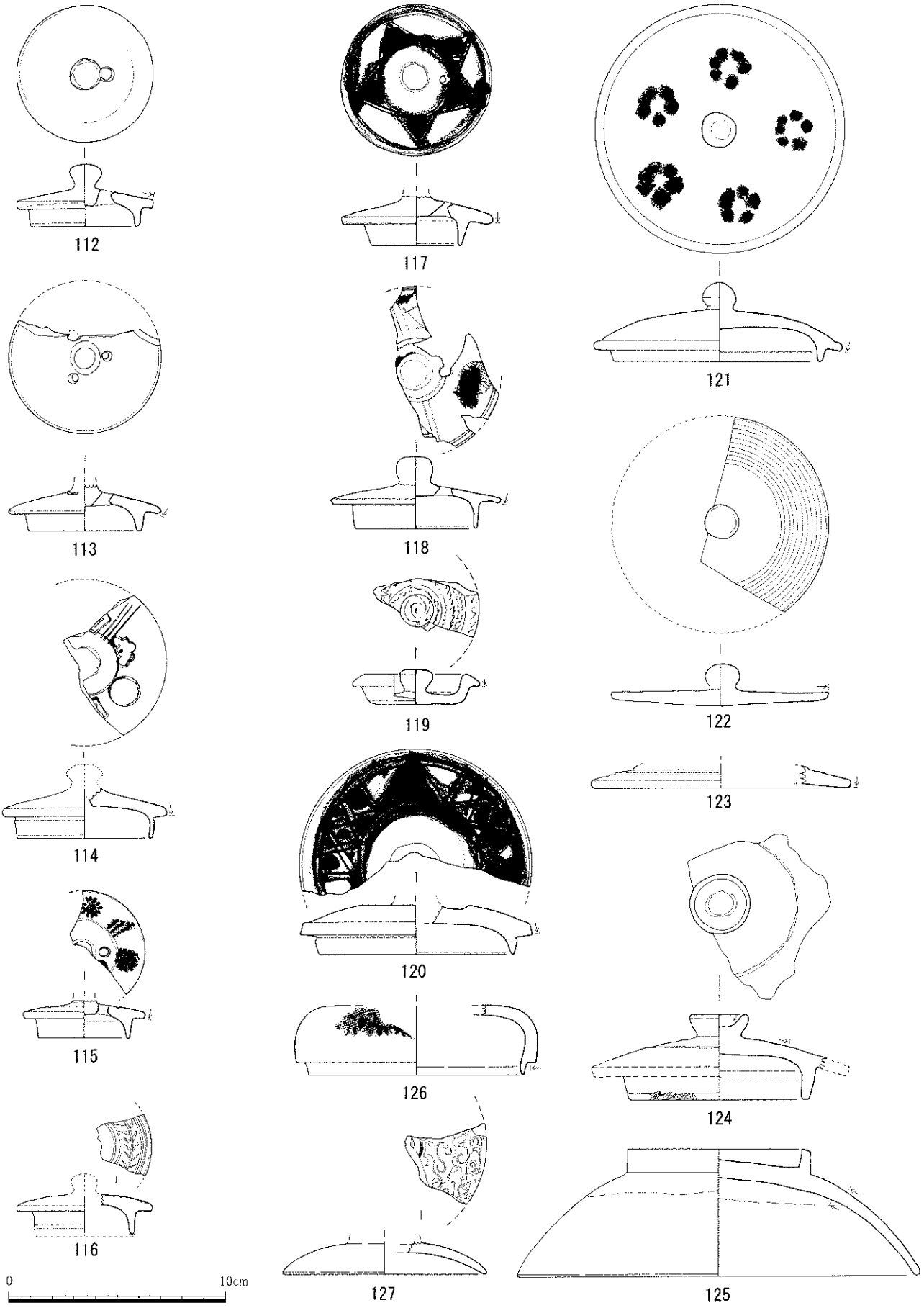
図版 47　沖縄産陶器・土器 6（施釉陶器 6）



第 76 図　沖縄産陶器・土器 7（施釉陶器 7）



図版 48　沖縄産陶器・土器 7（施釉陶器 7）



第 77 図　沖縄産陶器・土器 8（施釉陶器 8）

図版 49　沖縄産陶器・土器 8（施釉陶器 8）

②無釉陶器

方言で「アラヤチ（荒焼）」と称されるもので、一般に高火度で焼成された焼き締め陶器を指す。基本的には無釉の製品を主体とするが、泥釉やマンガン釉が施されるものもある。また一部には、薩摩焼の影響を色濃く残す「初期無釉陶器（沖縄県埋文2010、新垣2013a）」の範疇に含まれる資料もみられる。総数3,133点出土しており（第23表）、器種は碗・皿・大皿・鉢・擂鉢・壺・小壺・甕・瓶・火炉・燈明具・陶管・筒物・厨子甕及びそれに対応する蓋などが確認されている。以下に各器種の分類概念を記し、個々の所見は観察表に示す。

碗：高台付きの底部から斜め上方に開く器形で、口縁部は一般に直口（1）または端反（2、4・5）を呈する。3は口縁部をS字状に捻る鼈口の特徴から、天目として使用された可能性が考えられる。

皿：平底の底部から斜め上方に開き、口縁部が直口するもの（6・7）。燈明皿の可能性もある。

大皿：皿と同じく平底の底部から斜め上方に開き、口縁部が直口するものと（8、13）、高台付きの底部を持つもの（9～12）があり、一部の資料には焼成時の貝目が残る（12・13）。ちなみに8は甕の蓋になる可能性もあるが、今回は大皿として扱った。

鉢：口縁端部を折り返し（14）または肥厚させるもの（15～17）と、端部を舌状に仕上げるもの（18～20）、また胴部に丸みを持たせず口縁部を鍔縁に成形するもの（21・22）がみられる。底部は全て平底と考えられる。

擂鉢：口縁部下位を屈曲させ外面に突帯を成形するもの（23）、口縁部下位の屈曲が弱く外面に稜を持つもの（24、26）、口縁部を鍔縁に成形するもの（25、28）がある。底部は基本的に平底だが、27のように小形の擂鉢を高台状に有するものもみられる。擂鉢編年（安里ほか1987）によると23がⅠ式、24と26がⅡ式、25、27・28がⅣ式に相当する。

急須：球形の胴部に棒状の把手を貼付するもの。口縁部内面には受部を成形する（29～31）。

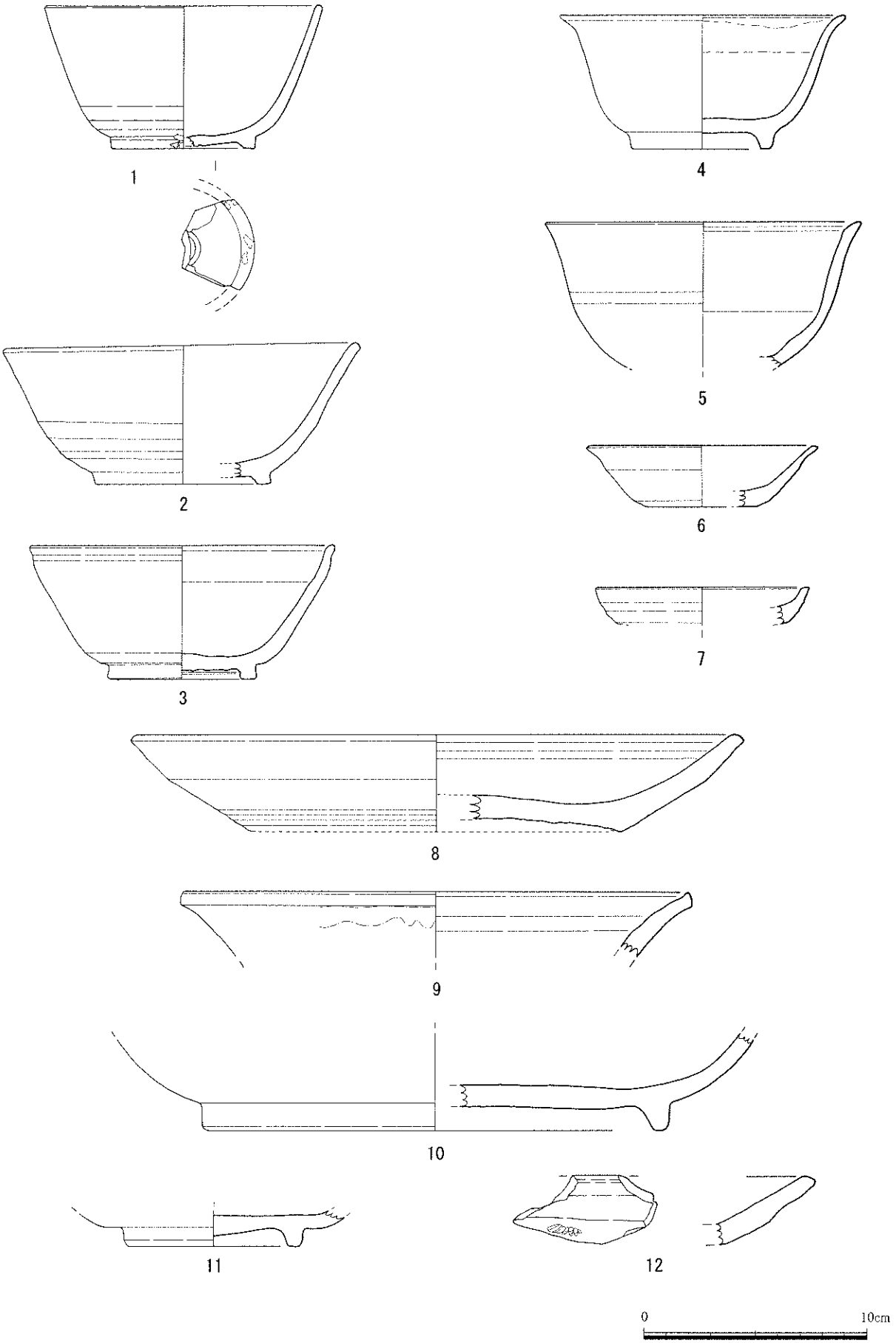
瓶：徳利形（32、34）や、直線的に立ち上がる長頸瓶（33）、高台付きのもの（35）、胴部または全体が方形になる角瓶（36～40）など、多様な資料がみられる。特に角瓶は、形態や装飾の特徴から金属製品を模倣したと考えられる。

壺：口縁部の形態が鍔縁状（41～43、46）、舌状（44・45）、玉縁（47）と様々で、法量も大小各種の製品が確認されている。

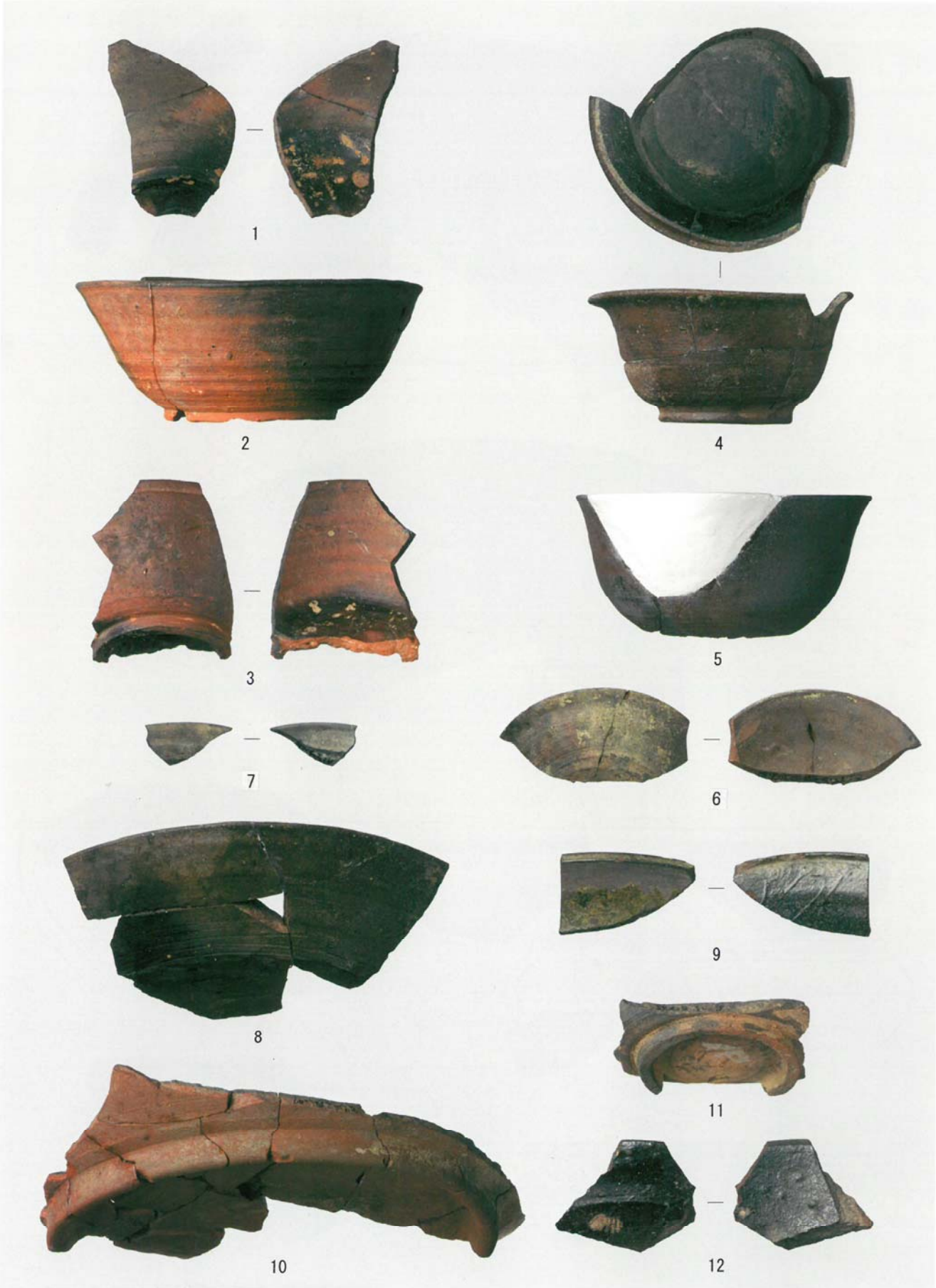
火炉：肩部で内側に屈曲し口縁の上面が三葉形を呈するもの（49～51）。

蓋：円盤形で蓋甲中央に紐状の把手を貼付するもの（52・53）、庇と袴を有するもの（54）、高台付きの皿を伏せた形態のもの（55・56）などがある。52と54は急須に対応すると考えられる。

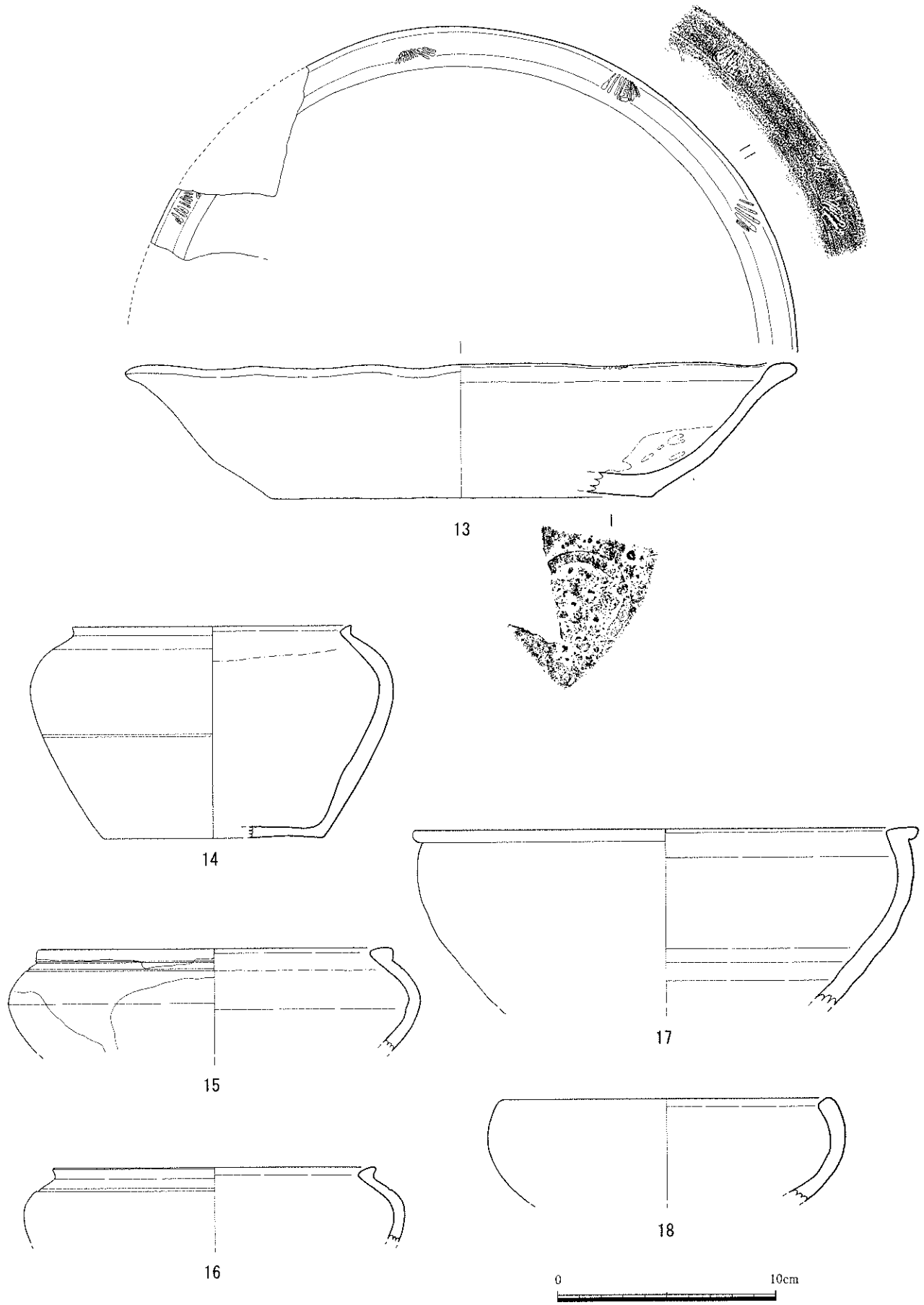
甕：口縁部を鍔縁状に成形するもの（57、59）、外面を肥厚させるもの（58、60）、外面に折り返すもの（61）がみられる。



第 78 図　沖縄産陶器・土器 9（無釉陶器 1）

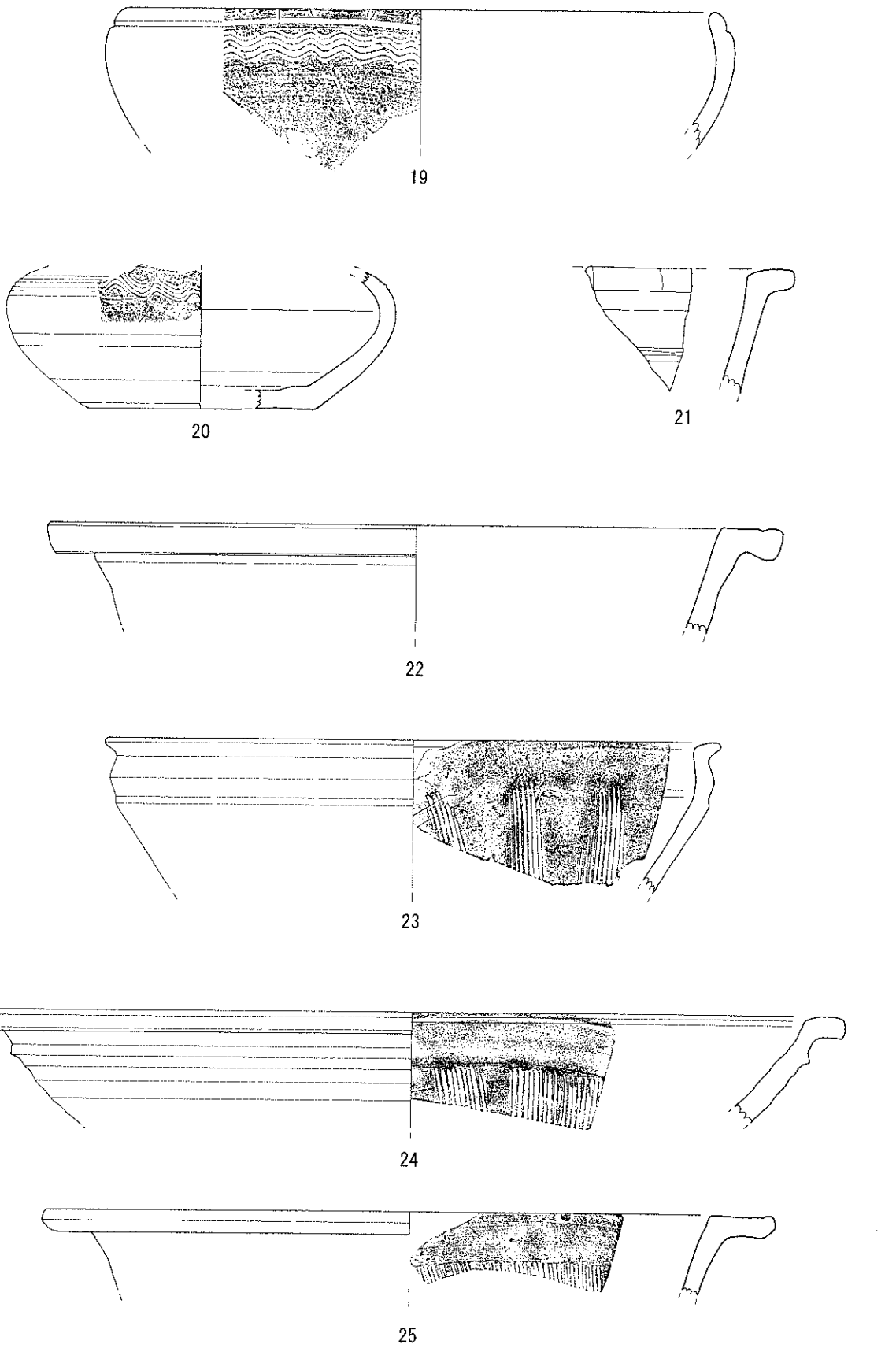


図版 50　沖縄産陶器・土器 9（無釉陶器 1）

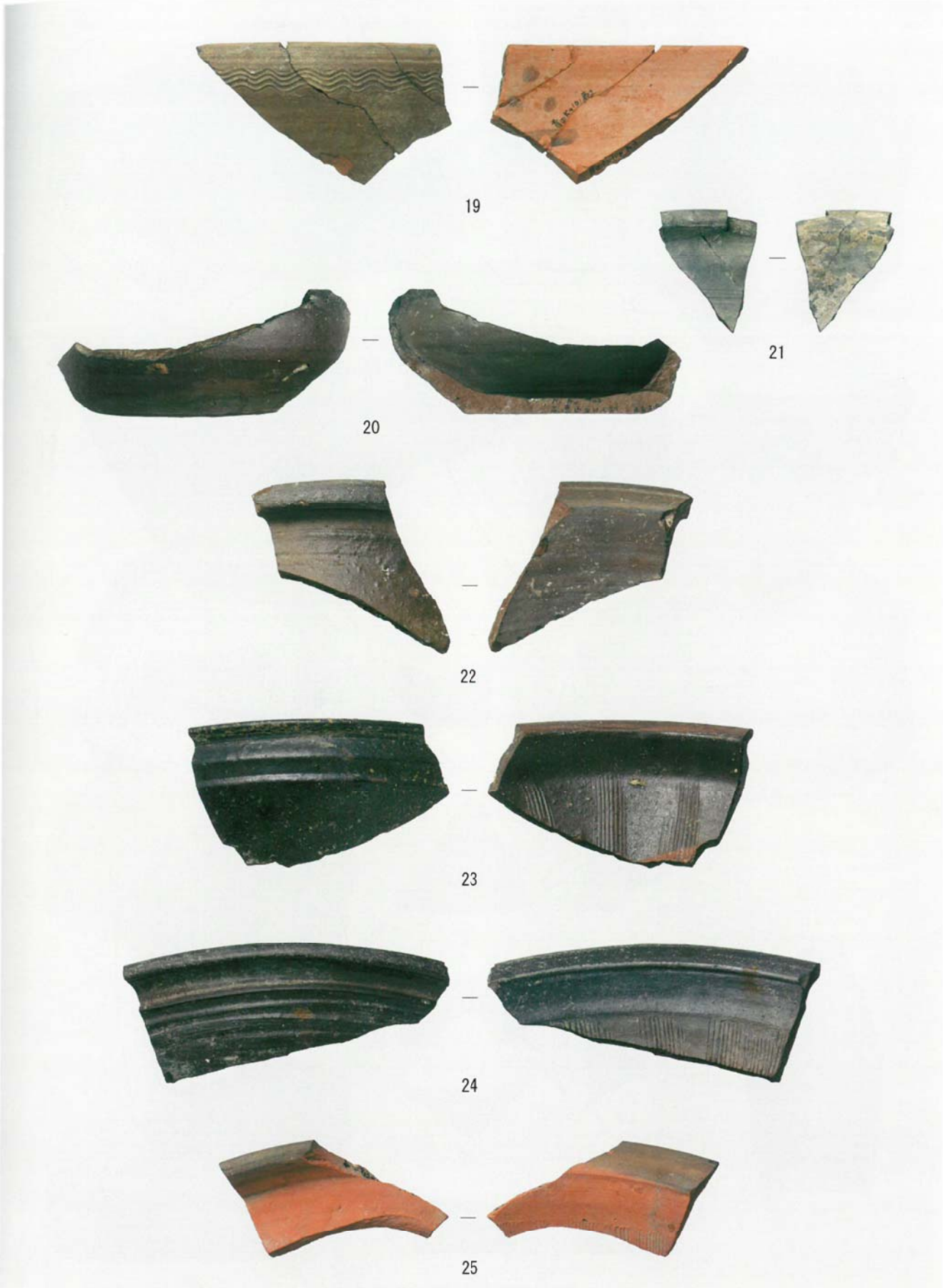


第 79 図　沖縄産陶器・土器 10（無釉陶器 2）

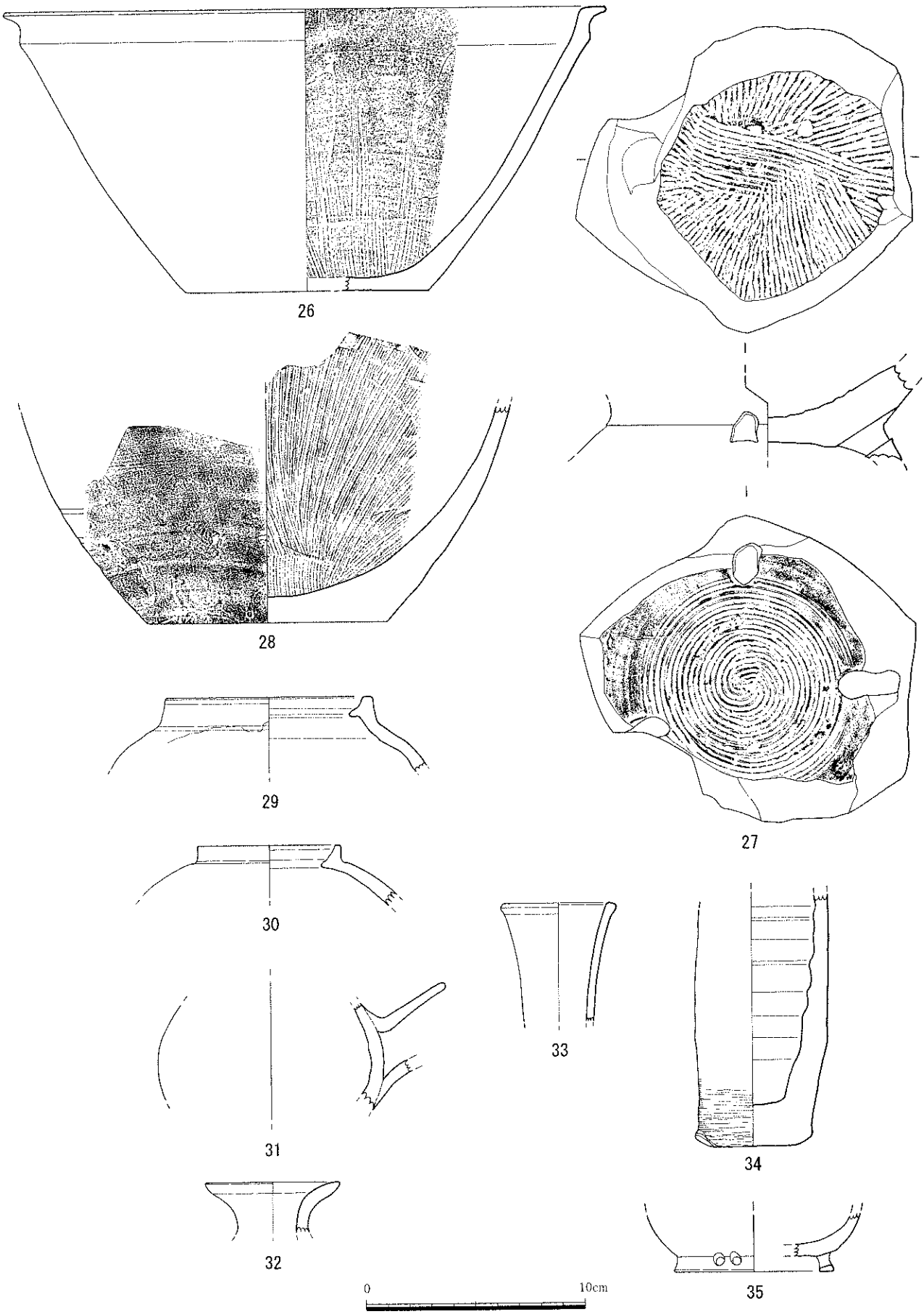
図版 51　沖縄産陶器・土器 10（無釉陶器 2）



第 80 図　沖縄産陶器・土器 11（無釉陶器 3）

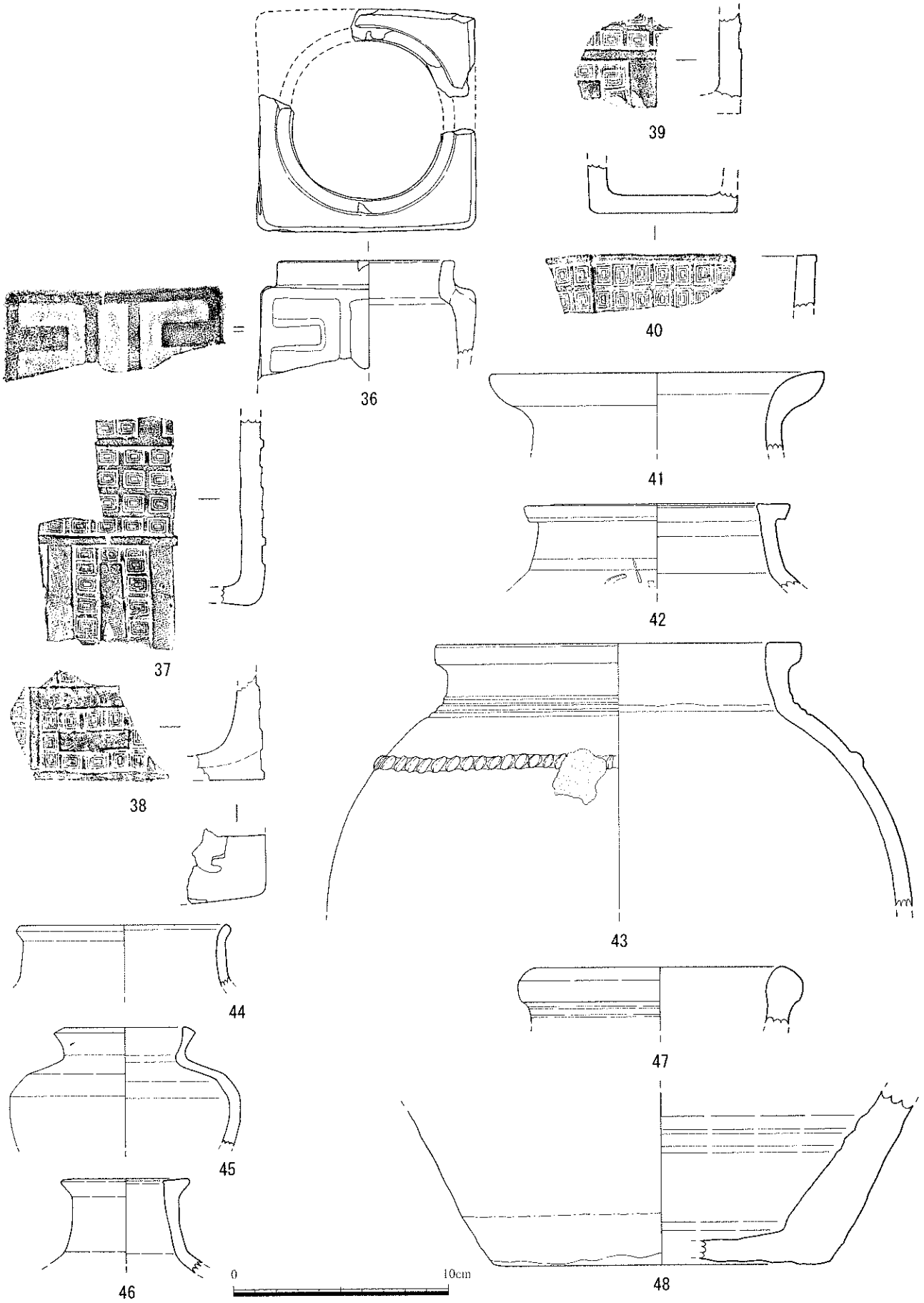


図版 52　沖縄産陶器・土器 11（無釉陶器 3）



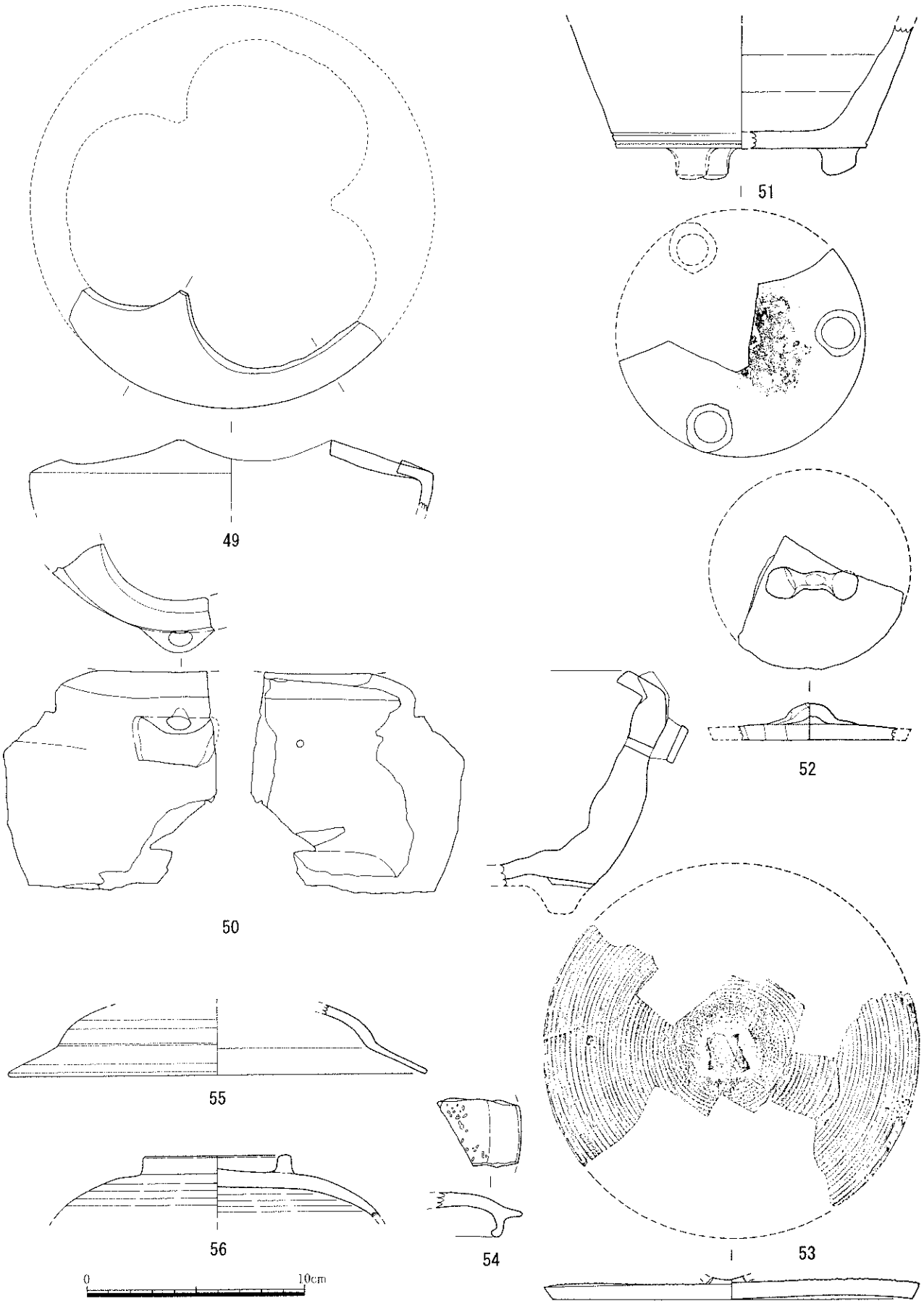
第 81 図　沖縄産陶器・土器 12（無釉陶器 4）

図版 53　沖縄産陶器・土器 12（無釉陶器 4）

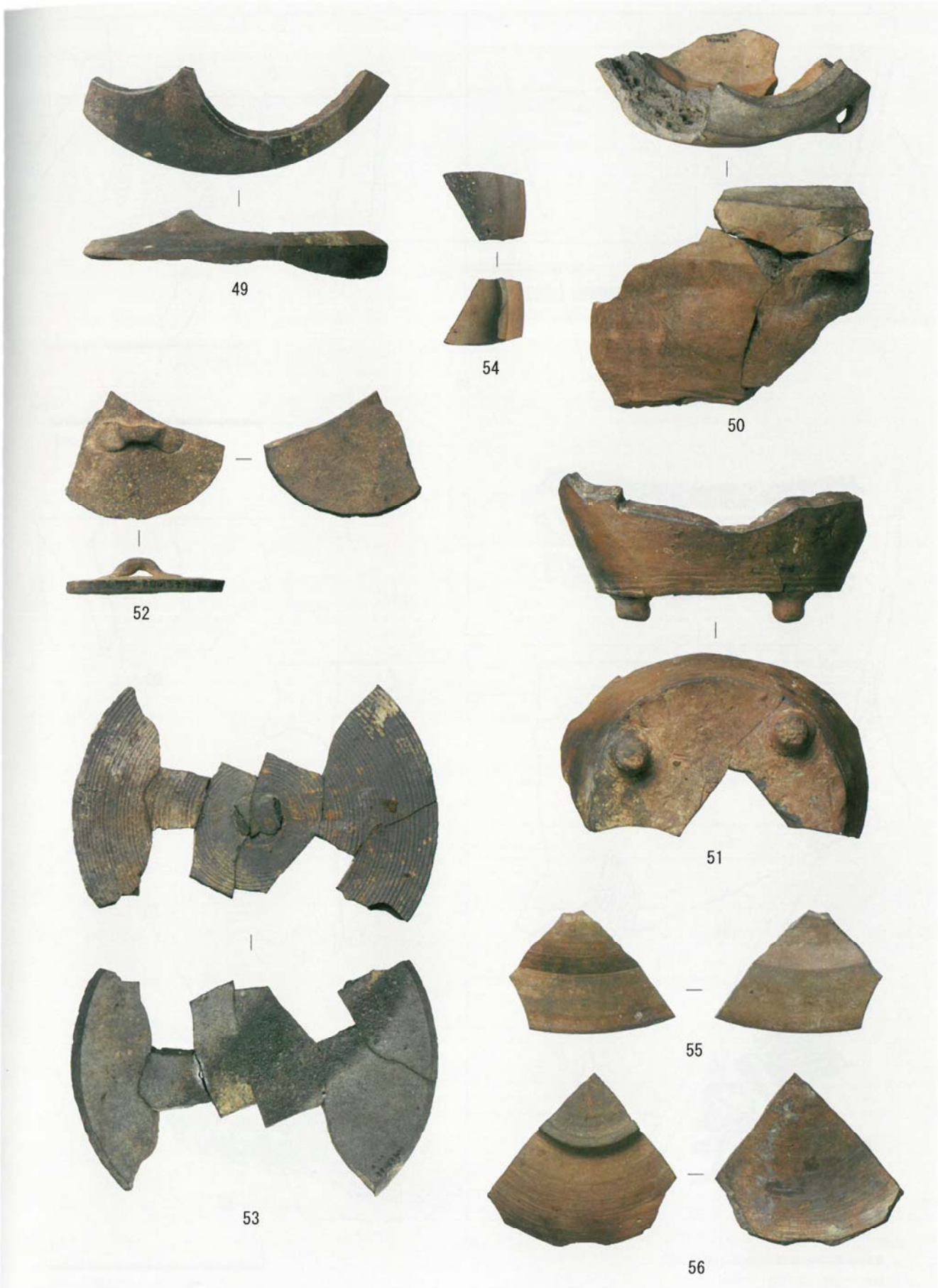


第 82 図　沖縄産陶器・土器 13（無釉陶器 5）

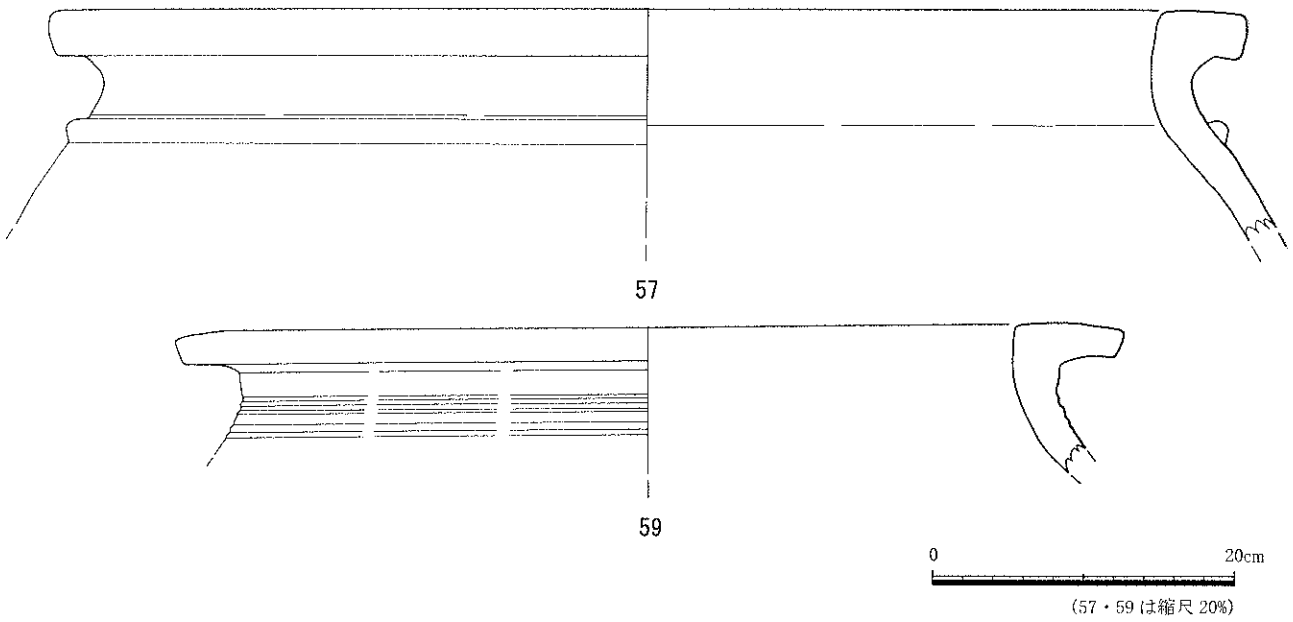
図版 54　沖縄産陶器・土器 13（無釉陶器 5）

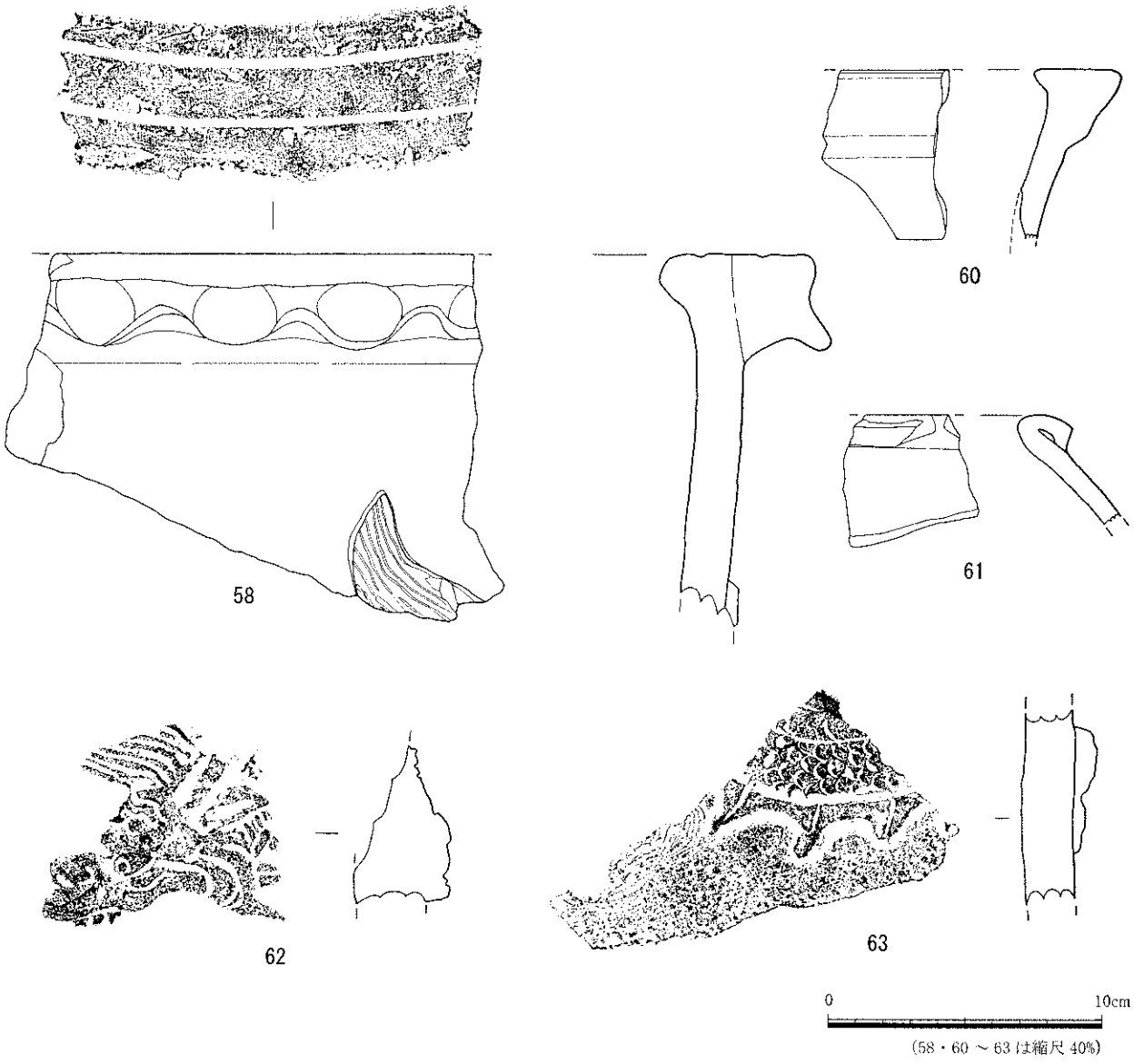


第 83 図　沖縄産陶器・土器 14（無釉陶器 6）

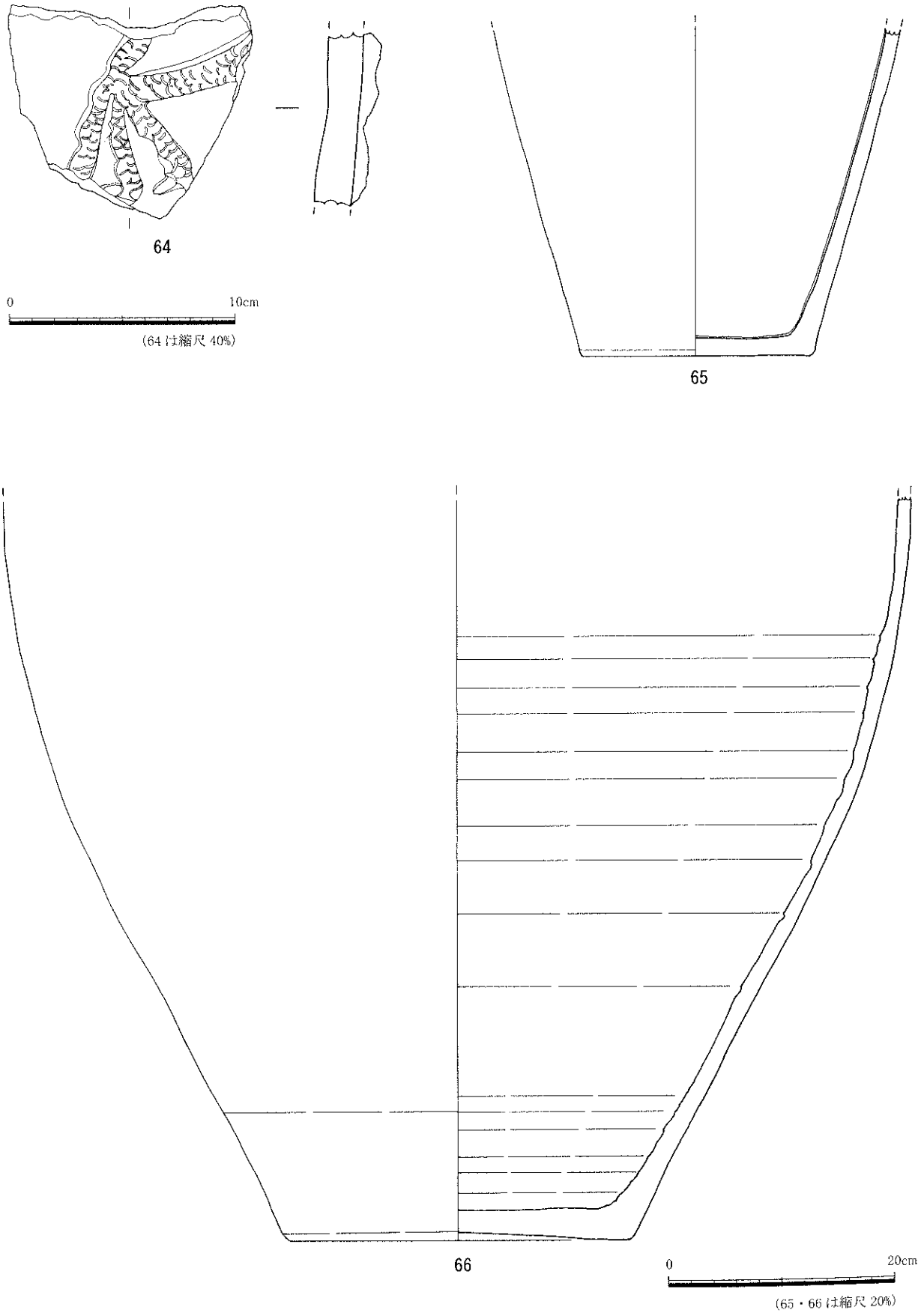


図版 55　沖縄産陶器・土器 14（無釉陶器 6）

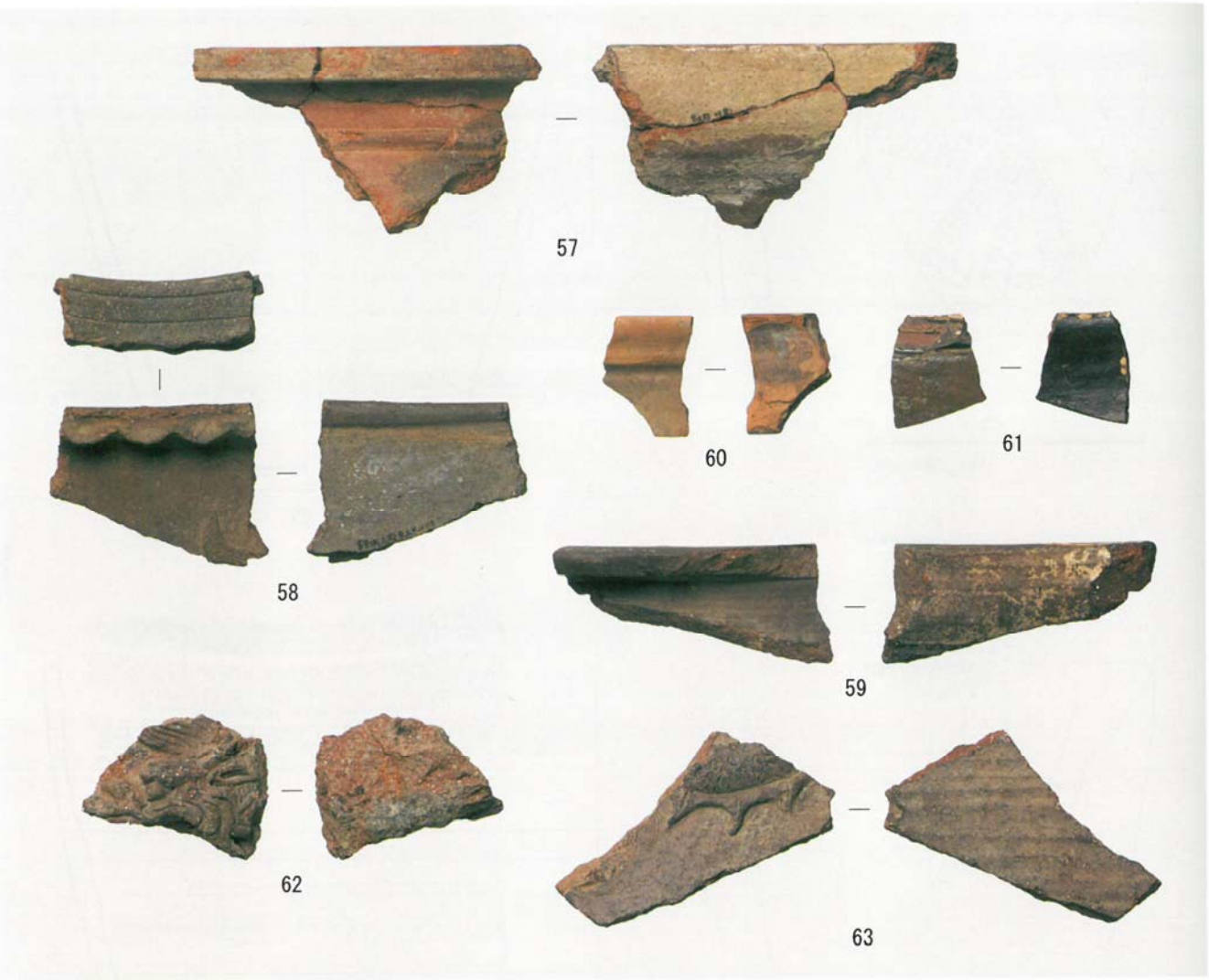




第 84 図　沖縄産陶器・土器 15（無釉陶器 7）



第 85 図　沖縄産陶器・土器 16（無釉陶器 8）



図版 56　沖縄産陶器・土器 15（無釉陶器 7）

③陶質土器

方言で「アカモノ」または「カマグヮーヤチ」などと称される軟質の土器群で、総数1,035点出土している（第25表）。火周りで用いる道具が主体のため一般に焼成不良であり、触ると粉末が付着するものが多い。器種は鍋・火炉・土瓶・鉢・皿・焙烙・竈・七輪・土管・土鈴やそれらに対応する蓋が得られている。以下に図化資料の特徴を記し、詳細は観察表（第26表）に示す。

鍋（1・2）は胴部が球形で口縁部を外側に折り、口縁部の外面に紐状の把手を1対貼付する。土瓶は腰部に稜を持ち全形が算玉形を呈するもの（3～5）と、胴部が球形のもの（6）がみられる。蓋は高台付きの皿を伏せた器形のもの（7）と、蓋裏に袴を有するもの（8・9）がある。前者が鍋、後者が土瓶にそれぞれ対応する。火炉は胴部が球形で口縁部内面に受部を貼付するもの（10）や、底部から筒状に立ち上がるもの（11）を図化した。その他、口縁部が内湾する平底の鉢（14・15）や、フライパン状製品とも称される焙烙（16）などが確認されている。

④瓦質土器

瓦質土器は総数79点得られており（第27表）、その中から特徴的な資料21点を図化した。今回出土した瓦質土器は本土産または本土系統と思われるもの（1～6、9、13～21）と、沖縄産の製品（7・8、10～12）に大別される。前者で最も多い資料は、口縁部を内湾もしくは内側に折り曲げる器高の低い鉢（1～6）である。用途は、器形及び文様の特徴や獣足のような脚部が貼付される底部（13・14）から火鉢と考えられる。これ以外にも擂鉢（9）・壺（15）・風炉（16）・火炉（17～21）など様々な器種が確認されている。後者には植木鉢（7・8）・擂鉢（10）・浅鉢（11）がみられる。このうち8は胴部の形態や器高の低さから、いわゆる盆栽鉢の可能性が想定される。

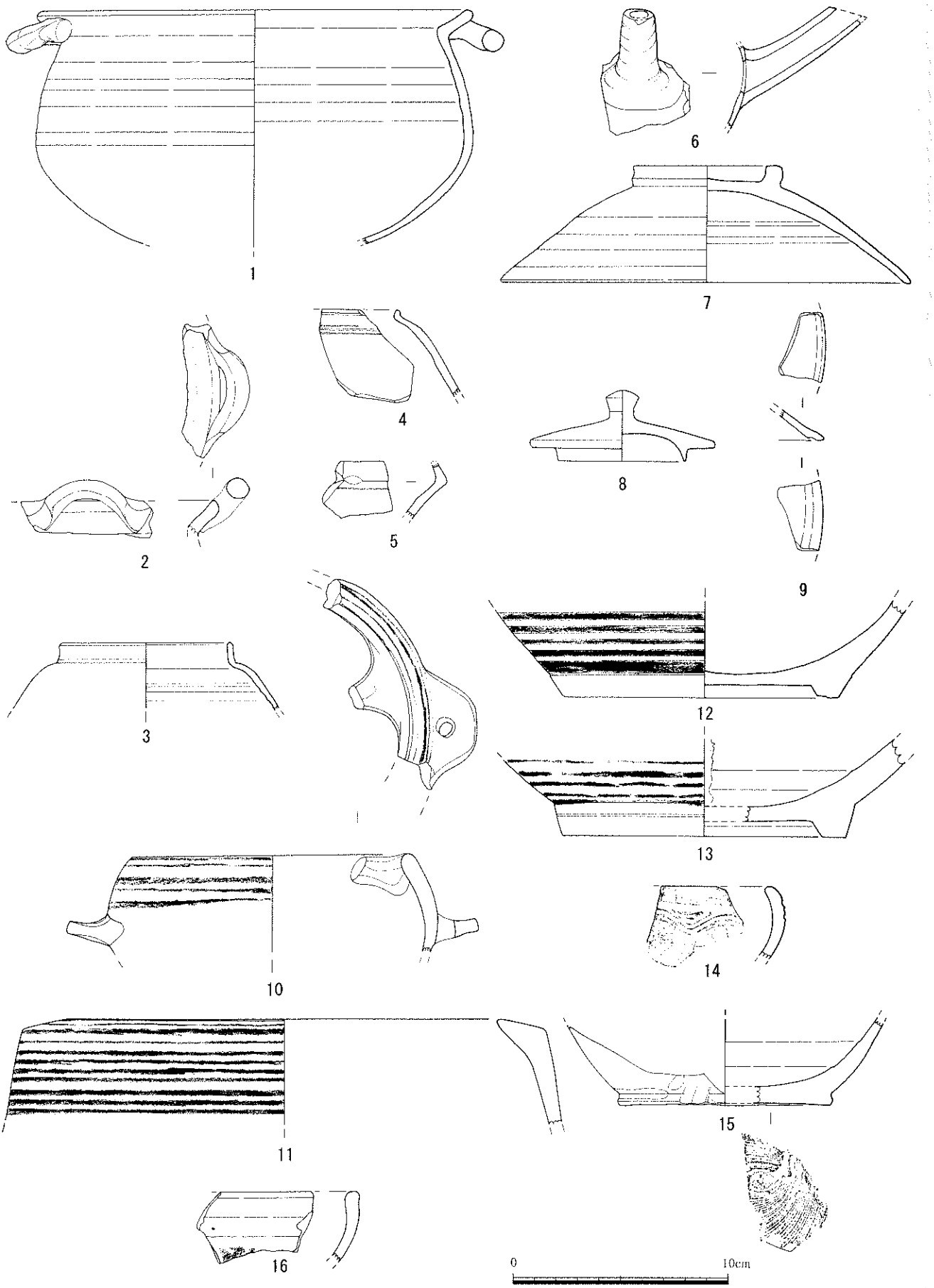
5　カムィヤキ

徳之島のカムィヤキ古窯跡で製作されたと考えられるもので、8点出土している（第29表）。その中から、今回は接合・復元の可能な1点を第89図に示して報告する。22は新里亮人氏の分類（伊仙町教委2005）によると壺形でB群の資料である。詳細は観察表（第30表）に記す。

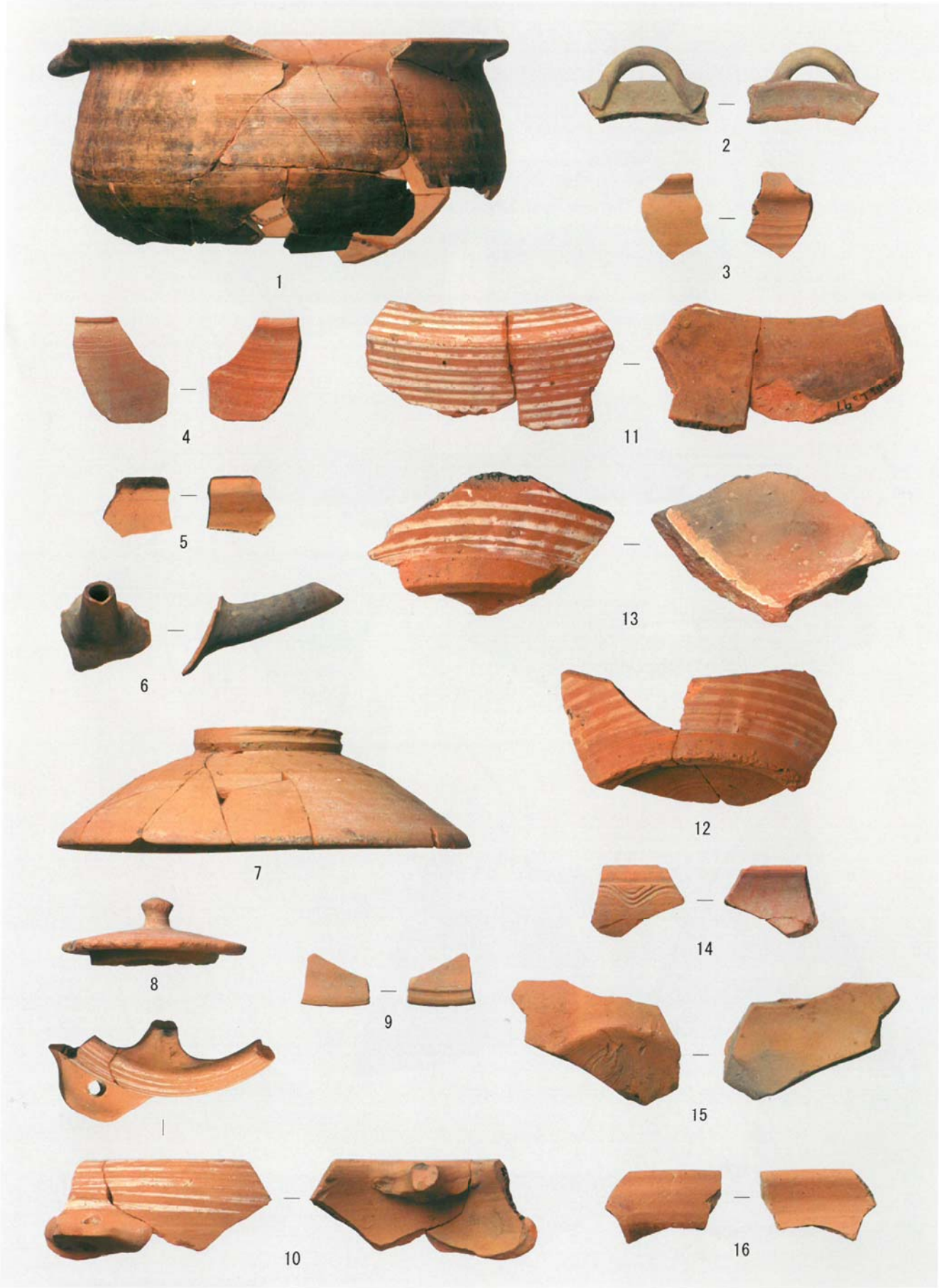
6　土器

グスク土器、宮古式土器などが総数156点出土している（第31表）。資料のほとんどが小破片で全形の窺える資料はないが、器形的な特徴があるものについて第89図に示して報告する。グスク土器の分類については、宮城弘樹氏と具志堅亮氏の研究成果（宮城・具志堅2007、具志堅2014）を基準に行っている。また胎土の混入物などの特徴から、宮古諸島を中心に出土する土器と考えられる資料が出土しているが、破片資料のみで明確に分類することが困難なため、ここでは宮古式土器と一括して報告する。これらの分類は新里貴之氏の成果（新里2015）を基準とした。

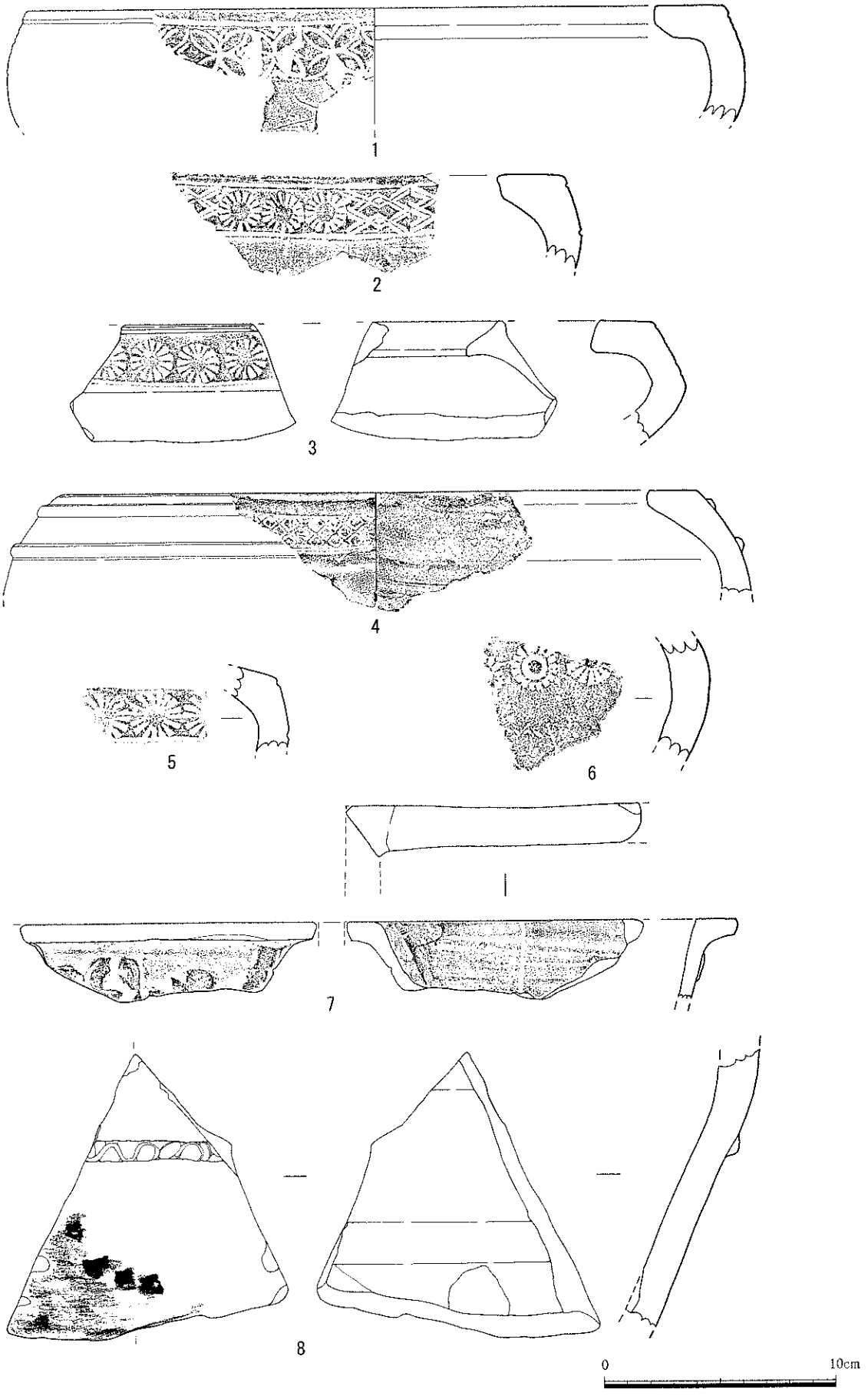
23は当地区で出土する他の資料と胎土の混入物や器形が異なることから、貝塚時代前期の土器の可能性がある。24はグスク土器で口縁が肥厚する資料である。具志堅氏の分類によるとⅢ類になる。25はグスク土器の頸部で、具志堅氏の分類によるとⅣ類になる。26・27は外面が黒色を呈し磨かれている。胎土に白砂や赤色粒が混入するなど、その特徴から宮古式土器に分類されるものである（新里2015）。28はグスク土器の底部資料で図上復元を行っている。個々の詳細については、観察表（第32表）にそれぞれ記す。



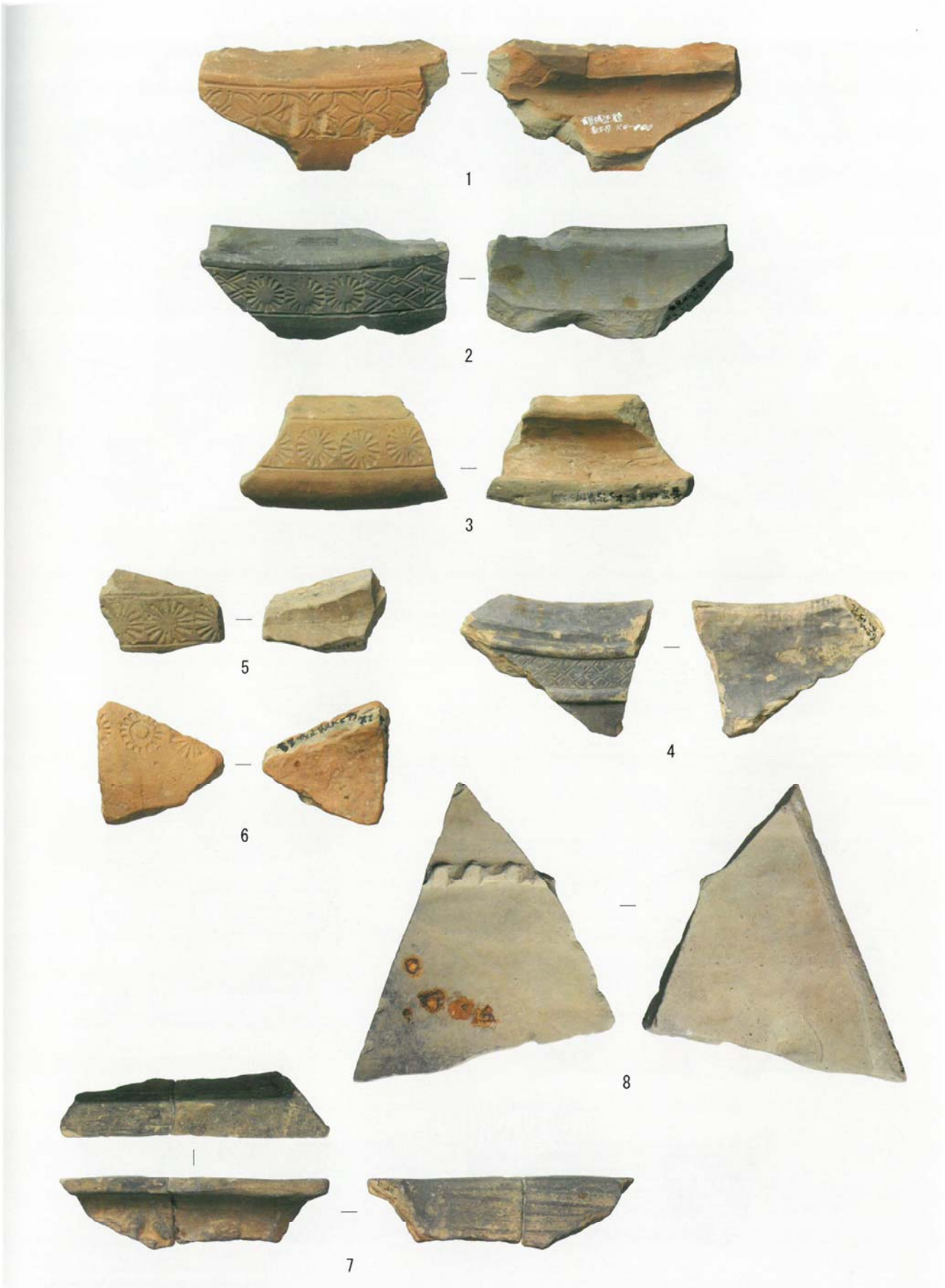
第 86 図　沖縄産陶器・土器 17（陶質土器）



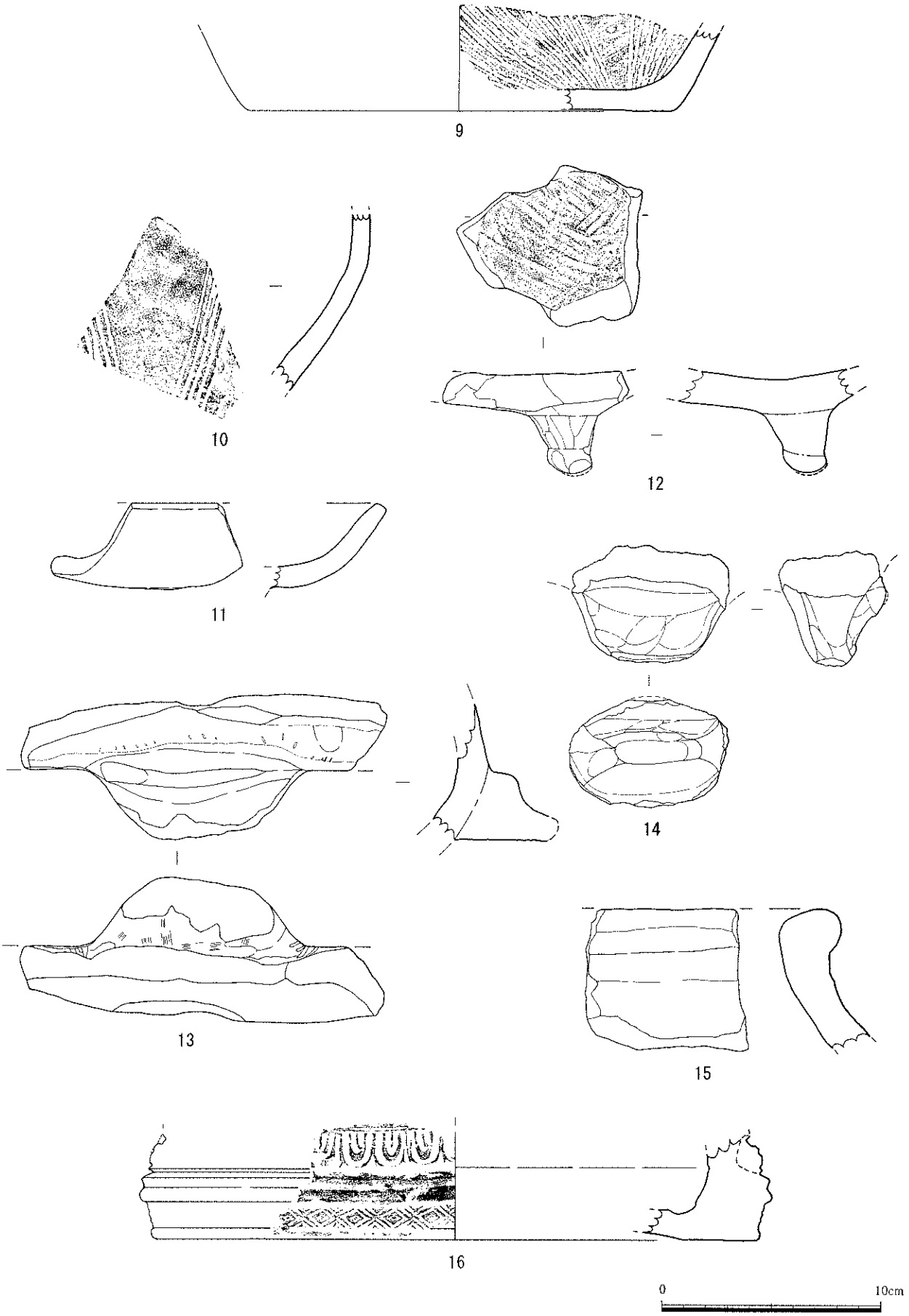
図版 57　沖縄産陶器・土器 16（陶質土器）



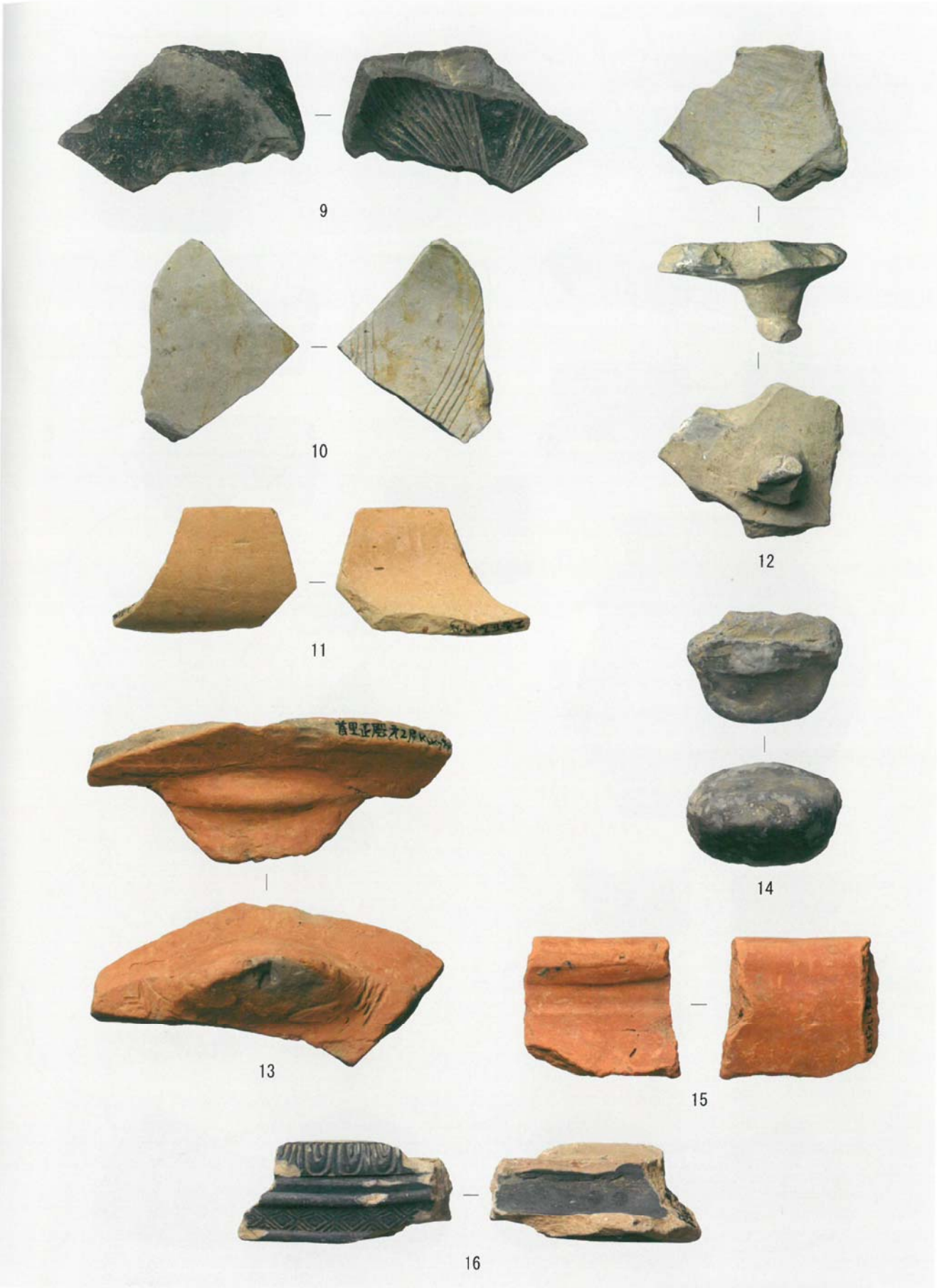
第 87 図　沖縄産陶器・土器 18（瓦質土器 1）



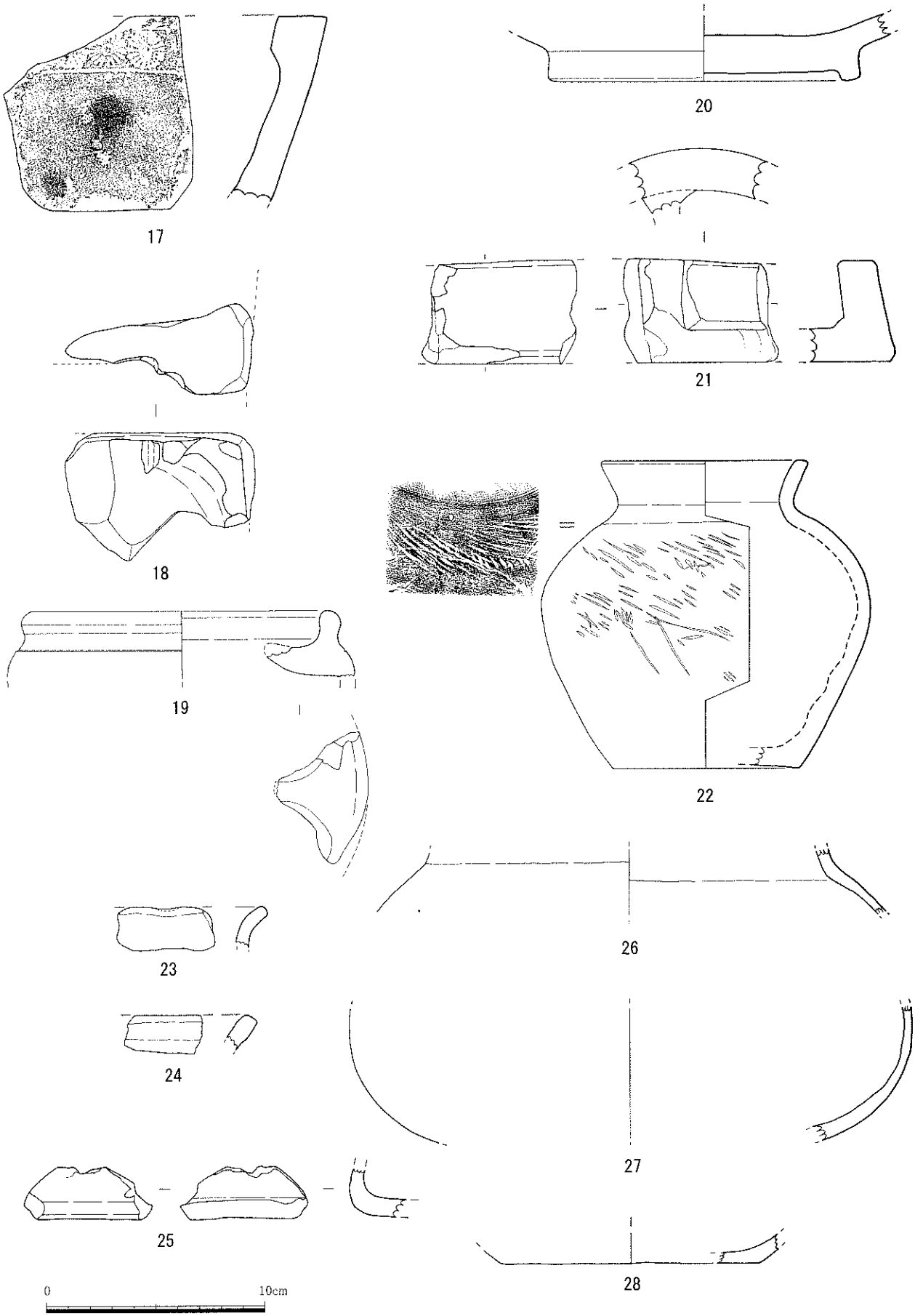
図版 58　沖縄産陶器・土器 17（瓦質土器 1）



第 88 図　沖縄産陶器・土器 19（瓦質土器 2）



図版 59　沖縄産陶器・土器 18（瓦質土器 2）



第 89 図　沖縄産陶器・土器 20（瓦質土器 3）、カムィヤキ、土器

図版 60　沖縄産陶器・土器 19（瓦質土器 3）、カムィヤキ、土器

7　瓦

首里城跡正殿地区から出土した屋瓦は60,395点（コンテナ660箱分）に上る。その種類はグスク時代の高麗系瓦と大和系瓦、近世以降の明朝系瓦、近世大和瓦からなり、前3種類の比率は高麗系瓦が274点（1％）、大和系瓦が8,664点（14％）、明朝系瓦が51,354点（85％）をなす。以下、分類しその概要を報告する。

①高麗系瓦（分類A：第113図165～第114図182）

高麗系瓦は冒頭にも示す通り出土量は僅かで、その種類も軒平瓦、丸瓦、平瓦の3種類と限定的である。

A－1：軒平瓦。瓦当部片が僅かにえられている。高麗系瓦の軒平瓦はこれまでの研究から瓦当形態が2種類存在することが確認されていて、正殿地区の出土資料は瓦当が方形を呈する1タイプで、瓦当文様も1種類と少ない。

A－2：丸瓦。玉縁を有する丸瓦である。打捺文様は羽状文様タイプが確認されている。

A－3：平瓦。平面形がほぼ長方形を呈する瓦で、凸面側の打捺文様や文字銘の違いから3種類を確認することができる。

1）癸酉年高麗瓦匠造銘のある平瓦　35点

2）大天銘のある平瓦　5点

3）格子文様のある平瓦　2点

②大和系瓦（分類B：第102図86～第113図164）

大和系瓦は断ち割りトレンチ部分からまとまってえられた。それ以外の出土製品も含めて分類すると軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、雁振瓦からなる。

B－1：軒丸瓦。現在沖縄県内で出土している2種類の三巴文様と蓮華文様が得られている。出土量としては個体数をみるため瓦当部と丸瓦部分の破片に分けて集計した。

B－2：軒平瓦。軒平瓦は瓦当文様を中心に分析すると、唐草文様の5種類を確認することができた。ただ全体を残すものがみられず、いずれも破損資料が多いことから、瓦当部と平瓦部分に分けて、集計を試みた。

B－3：丸瓦。丸瓦は色調、大きさ、凸面の文様、凹面の処理、個体数の視点から報告する。

（1）色調：色調は灰色と褐色の2種類に大別される。その比率は56対44である。破損資料が多いため、玉縁部、端部、筒部の三部分に分けた。個体数をみるため端部角が総数224点で、2で割ると、おおよそ112点の個体が推定される。

（2）大きさ：形態的な特徴をみるため、玉縁の長さは小：4cm未満、中：4.1～5cm、大：5.1cm以上の三種に分けてみた。また、端部凹面の面取りの長さも1～7cmまでの8段階に分けて観察した。完全形の資料をみると、全長は40.6cm、筒部24cmである。

（3）文様：丸瓦の凸面に認められる叩き文様の種類は、羽状文、雷文、魚文、縄目文、その他に分けられる。また、基本的には撫で消し作業が行われていて、いずれも消えかかるもので不明としたものも多い。凹面にも製作作業に関わる痕跡がみられる。それは刺網状の紐圧痕である。横部分は同じ個体においても長さの差が大きいため、縦方向の紐間隔を計測してみた。

（4）凹面痕跡：出土資料にみる圧痕はすべて、刺網状のみの資料である。この網状の縦紐間の長さを測り、その状況を観察した。1.5cm以下のものから4.1cmのものの7段階に分けてその傾向をみてみた。

（5）端部処理：端部面取りは1cm以下から7.1cm以上の8段階に分けた。

（6）個体数：玉縁の数では188個体、端部角からの推算では341個体が推定される。

Ｂ－４：平瓦

（１）色調：平瓦は色調が灰色と褐色を帯びるものがある。量的には58対42である。

（２）大きさ：平面形はほぼ縦長の四角形で復元資料から縦38㎝、横20㎝の大きさになる。また、その厚みは差がみられ３種類に分類される。

（３）厚み：平瓦の大きさに反映していると推定される。薄手：1.1～1.4㎝、中手：1.5～2.5㎝、厚手：2.1～2.5㎝として分析した。

（４）側面：側面の形態的な違いがあり、ａ～ｄの４種類に分類した。端部にもその面取りの長さの違いがあり、１㎝以下から7.1㎝以上の種類がみられた。個体数をみるため角のみを集計すると総数12点で、完全形に４個体の角があることから、４で割った結果３点の個体数が推定される。

（５）端部処理：１㎝以下から7.1㎝以上の間に８段階に分けてその長さのあり方を計測してみたい。

（６）文様：平瓦は基本的には撫で整形が全体になされているが、わずかに叩き文様がみられる。文様は×状文である。

個体数：端部角からの推算では３個体が推定される。

Ｂ－５：雁振瓦。雁振瓦はその大きさと形態から２種類に分けられる。

Ⅰ型（小形）は丸瓦部が小さく、その両側に平坦な平瓦が付く形の瓦である。20点

凸面の文様は１種類で、102は代表的なものである。

Ⅱ型（大形）は丸瓦部が大きく、また、両側に付く平瓦は大きく湾曲した造形の瓦である。65点

凸面の文様は２種類確認された。裏面の整形も特徴的でⅠ型とは造形方法が異なり、形式的な推移を想定できる。

③明朝系瓦（分類Ｃ：第92図1～第102図85、第114図183～第115図195）

今調査で最も多く出土した瓦群である。軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、役瓦と種類及び形態ともバリエーションが認められた。

Ｃ－１：軒丸瓦。文様は８種類から構成されている。色調別には灰色系瓦と赤色系瓦に区分される。その比率は１対１になる。色調と文様との関係をみると、灰色系瓦は牡丹文様と菊文様があり、第Ⅰ文様系、第Ⅱ文様系、第Ⅲ文様系に分類される。他方、赤色系瓦は牡丹文様系に限定され、第Ⅱ文様系、第Ⅲ文様系になる。

Ｃ－２：軒平瓦。文様は５種類から構成されている。軒丸瓦と同様に色調で灰色系瓦と赤色系瓦に分類される。色調と文様との関係をみると、灰色系は第Ⅰ文様系と第Ⅱ文様系に分けられ、赤色系では第Ⅲ文様系に限定される。

Ｃ－３：丸瓦

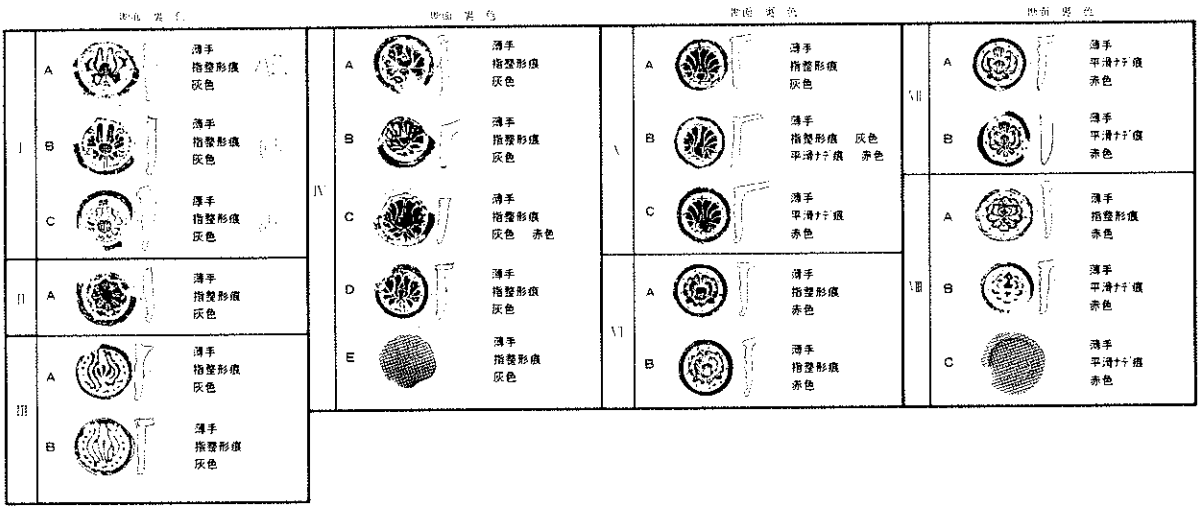
（１）個体数：出土瓦は破片化していることから、部位別に分類し、それぞれ特徴を明らかにした。部位別に玉縁部、端部、筒部の３種類に分ける。

（２）大きさ：玉縁部はその形態、大きさ、整形で細分を実施した。玉縁の長さの基本的な大きさは、指本数と添える指の形に関係するものと思われる。以下の３タイプに分けることにした。平面的な形態と断面に特徴があり、玉縁の頂部にやや面を成すもの、なさず斜面をとるものと長さは共通するが、形状に差があり、長短とグループ分けが難しいものも認められる。

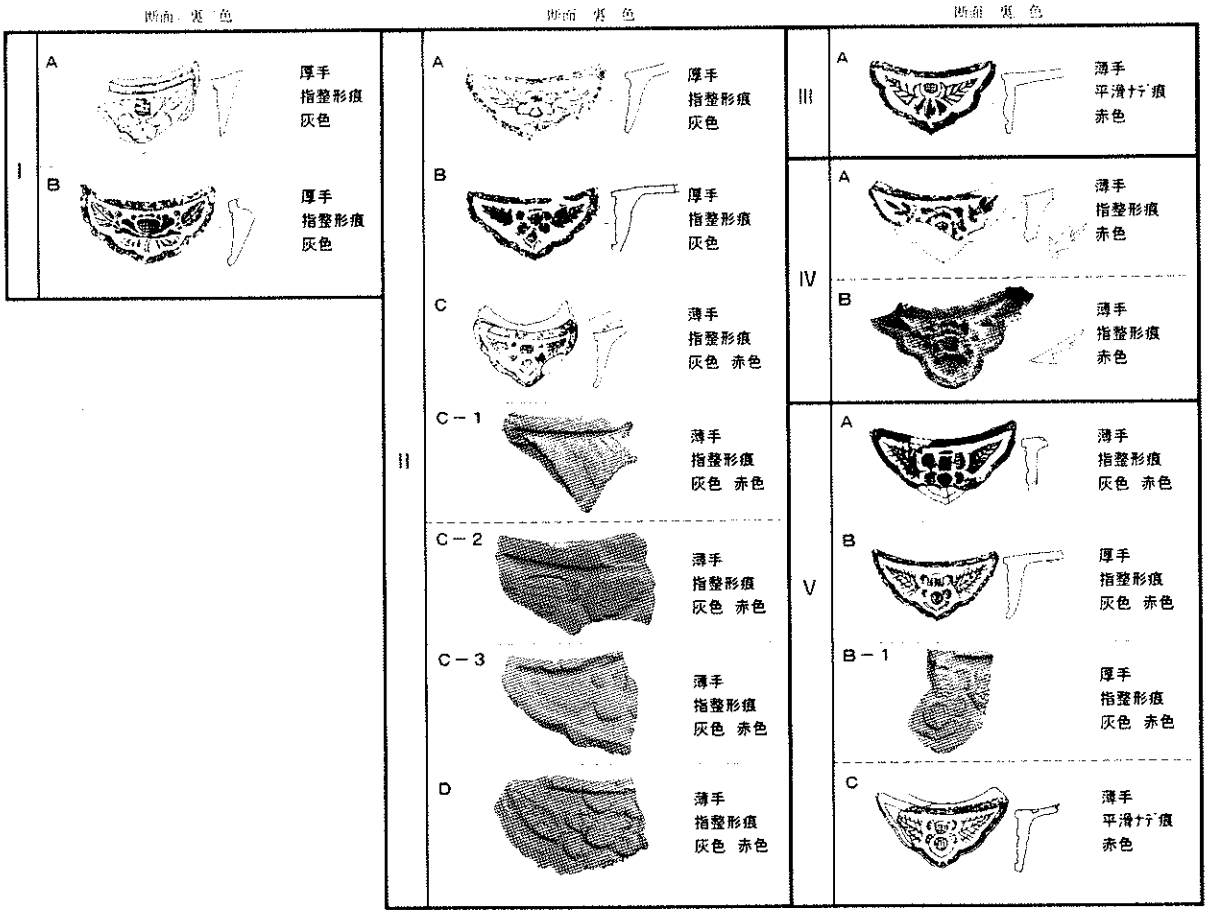
短いタイプ＝3.5～4.0㎝

中タイプ＝4.0～5.0㎝

長いタイプ＝5.0㎝以上のもの



第 90 図　明朝系軒丸瓦分類一覧



第 91 図　明朝系軒平瓦分類一覧

（3）端部整形：端部は面取りの有無で大別し、面取りの有るものはその幅の長さで６種類に細分し観察した。１cm未満、１～２cm未満、２～３cm 未満、３～４cm未満、４～５cm未満、５～６cm未満の６種である。面取りの現状は、４～５cm未満、５～６cm未満のものは殆どみられない。幅のある面取りは概して浅くなされている。他方、１cm未満、１～２cm未満のものは急傾斜で深くなるものも認められる。面取りされないタイプも概して多くみられる。そして、端部側は面取りがなされないものの、布などで１～２cm未満程度押し広げられている。面取りが浅く弱いものも認められ、その多くが幅広くなされている。また、一見すると施されていないか、僅かに端部１cm範囲になされるものと勘違いするものもある。

（4）付着物の状況：漆喰、セメントの使用が顕著である。セメントは漆喰の上に重ねた状態になるもので、後の補修を感じさせる。セメントの色は暗灰色で色調からも区別がなされる。マンガン釉が塗布された丸瓦も絶対的に少ないものの存在している。マンガン釉の塗布される範囲は凸面側全体である。ただし、玉縁の上面は行われない。

C－４：平瓦

（1）大きさ：凹面に撫でを施す平瓦で、赤色瓦に限定されるが、凹面に縦位方向の撫でが行われている。ただし、大和瓦の様な光沢があり、全面に徹底するものではない。方向は広端から狭端側方向に幅約３cmの道具で撫で、布目が消えている。この瓦のもう一つの特徴としてマンガン釉が使われている。

（2）付着物の状況：マンガン釉の塗布される平瓦である。その殆どが狭端側の半分にみられる。大形の篦で内面と外面に施す。そのため内外面のレベルの差がわずかにみられる。この狭端側の凹面両側には丸瓦の載った跡である漆喰の付着があり、マンガン釉の範囲が丁度中空にさらされている範囲と重なる。マンガン釉の施されないケースにおいても、漆喰は狭端側の両側に残る。重ねが正殿の場合は二枚重ねである。

（3）整形：凸面の撫での特徴。赤色瓦では狭端側の撫では概して強く撫でるものと、極めて弱くなされるものがある。あるケースは指が二本程度である。一方、灰色瓦の場合は指撫での強いものはきわめて少ない。広端面側は赤色瓦の場合は指が３本程度の強い横撫でがなされ、三条の凹線が走る。灰色瓦の場合は道具により行われ、同様の幅で一定の幅広の断面がみられる。

（4）平瓦の整形痕について：広端側の凸面にはとくに赤色瓦の場合、指３本の撫で溝が横走している。それが灰色瓦になると、道具を用いたような幅広の帯状へこみとして横走る。

C－５：役瓦。雲形、花形、龍頭、茎など漆喰の付着した製品、大形丸瓦、特殊な丸瓦などからなる。ことに前者の漆喰に貼り付けて使用するものは手造ね成形である。

（1）雲形：製品はその大きさにより小形、中形、大形の三種類に分類される。小形は約 20 cm、中形は約 25 cm、大形は約 35 cmとなる。得られた量は小形が 20 点で、描かれた渦巻きの数により、一巻き、二巻き、三巻きの３種類がみられる。詳細にはさらにそれぞれ分類される。焼成別には赤色が占める。中形は４点、破損が著しいため巻の数は確定することができない。赤色が４点。　　大形は 19 点、一巻き、二巻きまで確認された。他は不明。色調はそれぞれ１点ずつ。不明破片からなる。造形は総て手づくねであり、細かい凸状の襞を作りながら描いている。しかし、その造形を反転した凹状の線で描く製品もみられる。試みに粘土をもって写しとると、明らかに凸状襞になるもので、昭和初期の修理時に応急処置として、現存製品をかたどって製作したものとみられるもので、当然ながら昭和７年時の製品として断定されるものである。当製品の利用は大棟や降り棟の側面部分に貼り付けられたもので、その使用を窺わせるように裏面及び側面の半分までが漆喰の付着痕を留めている。

（2）花形：牡丹の花や茎、葉などをデザイン化したものである。３種類を確認することができる。いずれも褐色系と灰色系からなる。量的には僅かではあるが、明らかに瓦質に造形された粘土製品である。これらも雲形製品と同じく裏面や側面の半分以上に漆喰の付着痕を留めるため、壁状の部分に張り込めたもので

あることが理解される。

④近世大和瓦（分類D）

出土量は極めて僅少であるが、軒平瓦、軒丸瓦が認められる。軒丸瓦は殆ど扁平化した巴文様を瓦当にもつもの。他方、軒平瓦は唐草文様の瓦が認められる。

小結

正殿地区出土の瓦は高麗系瓦、大和系瓦、明朝系瓦、近代大和瓦の４タイプからなる。Ⅰ期基壇の周辺からは大和系瓦を中心として瓦が大量に出土することから、建物に葺かれていたと考えられる。年代は廃棄層の陶磁器から15世紀中葉以前と判断される。Ⅱ期基壇からⅥ期基壇までは瓦の明確な出土はなく、おそらく板葺きの可能性が高い。大量に表土層を覆う明朝系瓦は、最後のⅦ期基壇に帰属するものであろう。なお、高麗系瓦の出土は極めて微量であるため、当該地域に存在した建物に使用したのではなく、流れ込みや、当時の造成土に混入していたものとみられる。

８　塼

塼はその機能と平面形態からⅠ～Ⅳの４タイプに大別される。Ⅰは平面形が長四角形で、複数組み合わせて使用するもので、かみ合わせの凹凸面の違いからＡ～Ｃに分けられる。Ⅱは下駄状の突起を成形するもので、一つ独立して説明する。Ⅲは平面的に敷いて機能するもので、平面形が正方形と三角形の２タイプが存在する。Ⅳは平面形が長方形で漆喰などの接合材を併用して積み上げて使用するタイプである。以上これらはさらに色調により違いがみられ、それぞれ特徴を有する。

Ⅰ　噛み合わせタイプ（灰色）

平面形が長方形で、長軸の側面か短軸の両側面に段差が成形され、それぞれをかみ合わせて使用される。当該製品はその他の製品に比較し概して厚く、還元焼成の灰色色調の製品に偏在する。用途は暗渠など埋設で使用するものとみられる。

Ａ　長方形。蓋としての機能が窺われる。

Ｂ　長方形。底に敷かれる用途が推測される。

Ｃ　長方形。暗渠の側面を構成するものである。

Ⅱ　下駄状タイプ（灰色）

平面形が長方形をなし、厚手はみられない。最大の特徴は下駄状に歯がつくもので、その端部にかかりを造るものとそうでないものがある。このタイプは還元炎焼成のみで、酸化炎焼成のものはみられない。色調は灰色を呈する。

Ⅲ　塼（平面敷き用）

平面形が正方形と三角形を呈するのが基本形態である。還元炎焼成の灰色系製品と、酸化炎焼成の赤色系製品の二群に分け、厚み、その他成形で細分した。

灰色製品

1　正方形

Ａａ類：一辺の長さが 24～26 cmタイプで、５～６cm台の最も厚いタイプと、３～４cmの比較的数の多いタイプからなる。

Ａｂ類：薄手のタイプである。側面に×状の線描を残すものがある。

2　三角形

Ｂａ類：５～６cm台の厚みのあるタイプである。成形には基本的に四角塼を対角線から切り取って二枚にしたもので、切り取った側面に横方向の線痕がみられる。表面に○大のスタンプを残すものがある。スタンプは明瞭でいずれも目立つ表面になされている。基本的には灰色であるが、酸化のためか褐色を帯びるものも含まれる。側面に二本の平行する線描がみられる。

Ｂｂ類：３～４cm台の薄手をこのタイプとした。対角線の切り取り側面に×状の線描をみとめる。

赤色製品

1　正方形

Ａａ類：上記のＡａ類と同様。

Ｂｂ類：３～４cm台の極めて一般的なもので、出土量の多いものである。薄手である。

2　三角形

Ｂｂ類：３～４cm台の薄手。側面に右上から左下の斜め方向に二本の線描を施すものがみられる。

転用された塼

後述の積み重ねて使用する塼と同様な痕跡を残すものがある。成形技法としては、既にある塼に 13 cmほど切り込みを入れ、打割したもので、その破断面がみられる資料である。

Ｃ類：横 13 cm、厚み 3.5 cm台のものである。丁寧に割り切り線がのこり、割取り面も比較的平面を確保しているもの。

Ｄ類：横 12～13ｃｍ、厚み 3.5 cm台で、打割により、その後の調整も丁寧ではない凹凸面の割れ面を残すものである。いずれも表裏面に大量の漆喰痕を残し、積み重ねて使用した後述の資料と同じ使用をなすもので、転用したものと判断される。大きさも後述の積み上げ様の塼と共通している。

Ⅳ　塼（積み重ね用）

専ら重ねて使用するために造形された塼である。上記の塼と形状、大きさに違いがあり、まず漆喰が表裏面に大量に付着し、一部の資料に二枚重なった状態で出土をみたものもある。明らかに積み上げて壁状にしたものとみられる製品である。平面形が長方形の板状で、色調により赤色と灰色があり、また、その大きさ、厚みなどから数タイプに分けられる。

灰色製品

還元焼成焔の灰色製品で、大きくＡ～Ｃの３タイプになる。そしてそれぞれに厚みによる違いが認められる。

Ａ類：横 12 cm、縦 23.8 cm、厚み 3.4 cmのもので、現時点では小形である。

Ｂ類：横 16 cm、縦 29 cm、厚み 3.3～4 cm。この種類は長軸の一側面に削りがあり、湾曲した側面を特徴とする一群がある。それで、Ｂ１、Ｂ２にわけられる。

Ｃ類：横 22.2 cm、縦 32.5 cm、厚み 4.4 cmの厚いものと、横 22 cm、縦 33.5 cmと大きさはほぼ類似するが厚み 3.5 cmの薄いものがある。それぞれをａｂに細分した。

赤色製品

酸化焼成焔の赤色である。A、Bの２タイプに分類される。このタイプにも灰色製品同様に厚みや大きさによりサブタイプに細分される。

A類：横11 cmから11.5 cm。縦31 cm。厚み４～4.5 cmである。灰色製品よりやや縦長の形をなしている。

B類：明らかに厚みに違いがあることから二分される。a類は横15.5～17 cm、厚み3.5 cmの薄手と、b類の横17 cm、縦33～34 cm、厚み4.2～4.4 cmの厚いものがある。このグループには側面の角を取り除いた丸くしたものがある。

C類：大きさは灰色製品には見られないものである。この種類も厚みで２タイプに分けられる。a類は縦・横ともに18～18.5 cm、厚み3.0～3.6 cmと薄いものと、b類の4.0～4.5 cmの厚いものがある。なお、前者のa類には僅かであるが厚み2.8 cmと極薄の種類もみられた。

D類：このタイプは保存状態が悪く完形は得られていない。横が19.8 cmと最も長くなる。厚みは3.2 cm、今一つは横が20.5 cm、厚みが4.3 cmとなるもので、この種類も２種類みられることから細分できる。

整形状と保存状況

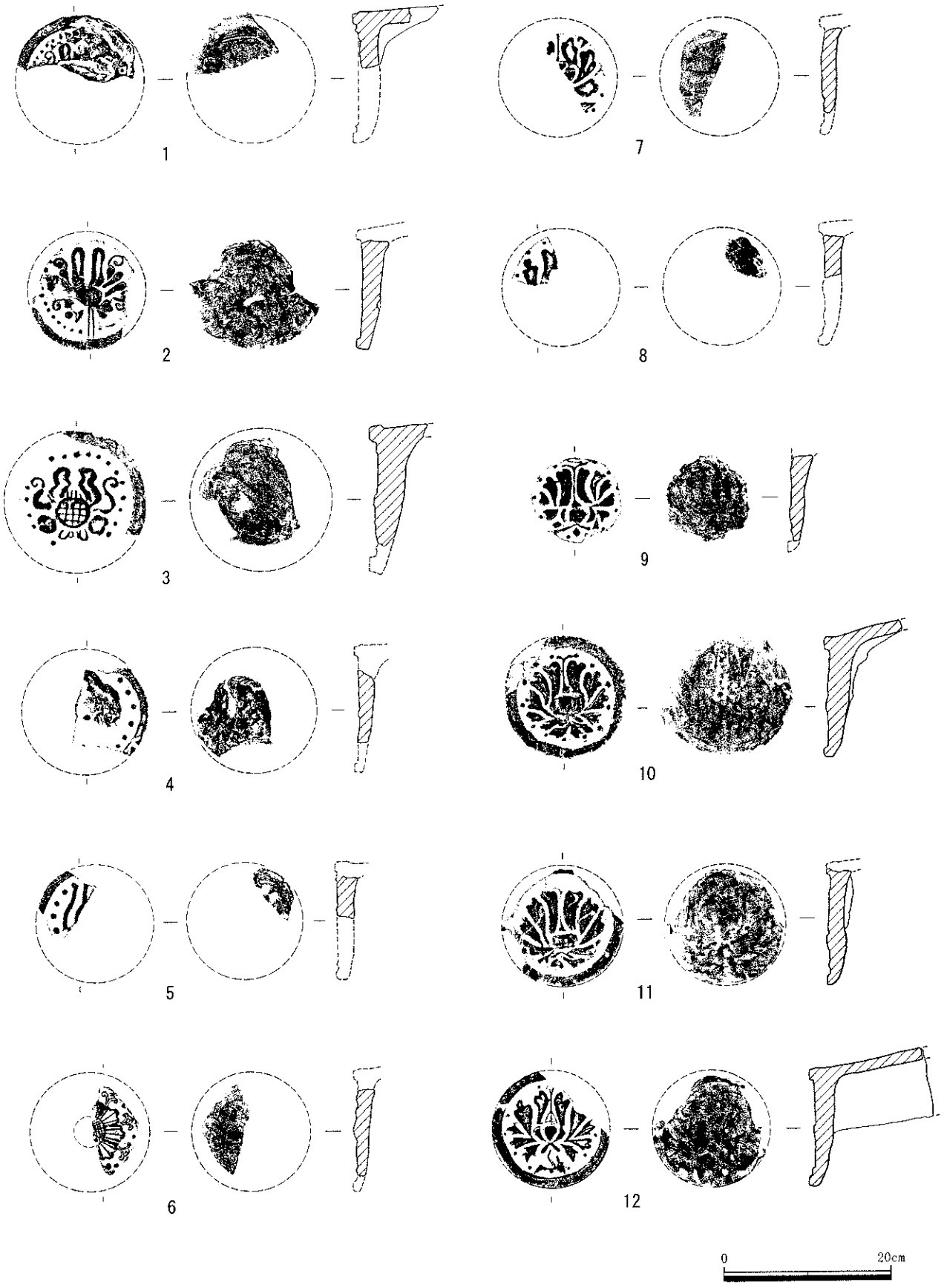
一様に漆喰が付着し、積み重ねて使用したことが推測される。表面にマンガン釉が塗布されるものもある。

刻印及び箆描き

塼の側面に手描きによる単純な線で印したものである。灰色に17種、赤色に８種確認され、種類の量としては灰色に多くみられる傾向がある。刻印は表面にスタンプしたものである。塼の表側の表面に大、大の字に二が加わったもの、分銅形の刻印がみられる。ことに大の文字には陽刻と陰刻の２タイプがみられる。線描きは表面に幾何学的に施したものと側面に印したものがある。塼の表面にチェス盤のように線描きをしたものである。

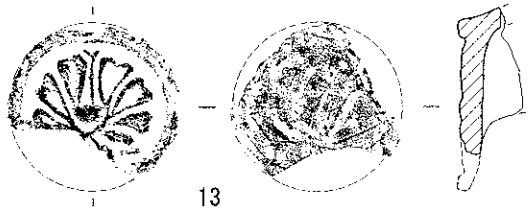
煉瓦

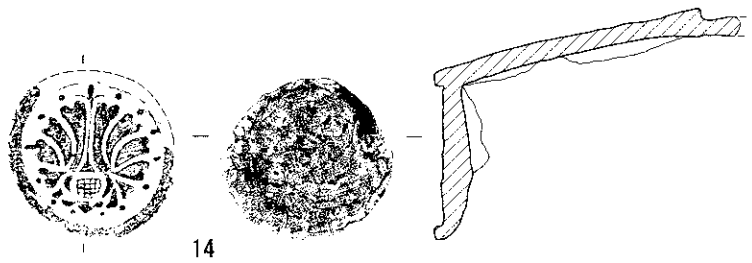
酸化焼成焔による赤色の規格品である。大きさが横10.8 cm、縦22 cm、厚み６cmの直方体である。上記の塼にみられたバリエーションがなく、その大きさ、形、変化はみられない。出土量は53点である。漆喰の付着したもの、そうでないものからなる。

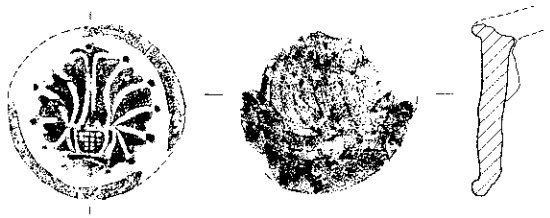


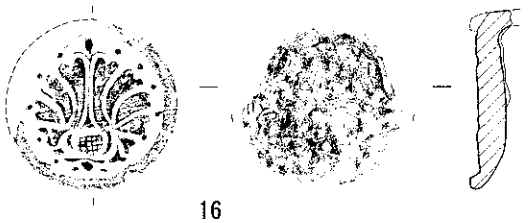
第 92 図　瓦 1（明朝系瓦 1）

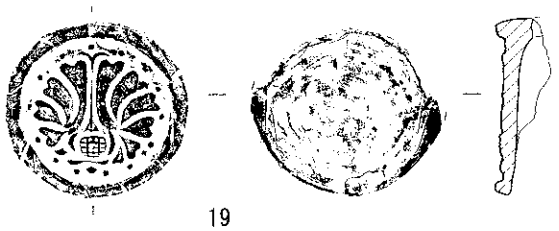
図版 61　瓦 1（明朝系瓦 1）

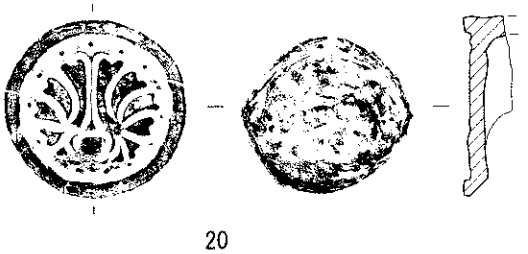


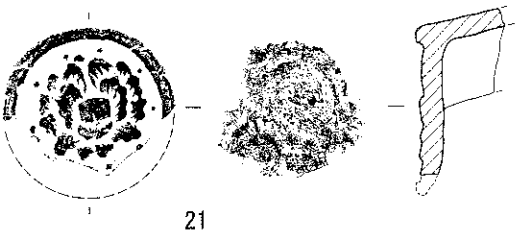






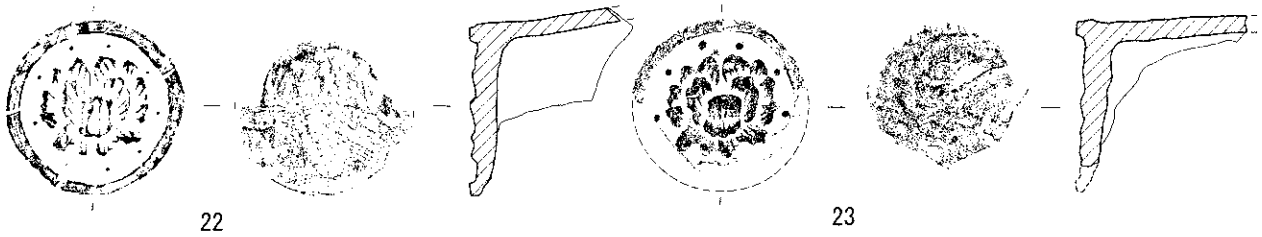


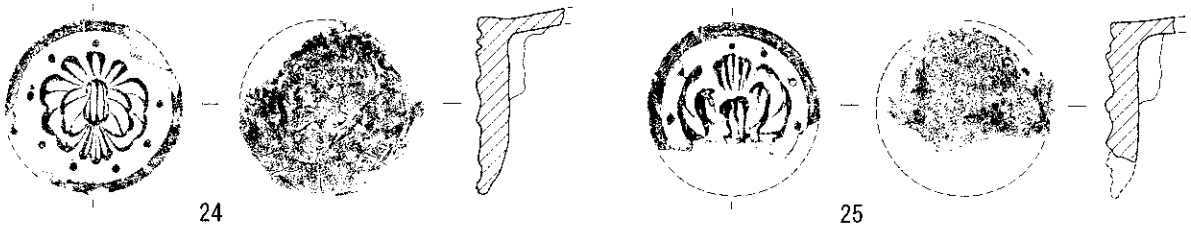


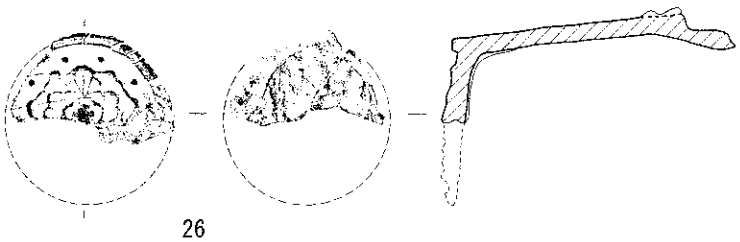


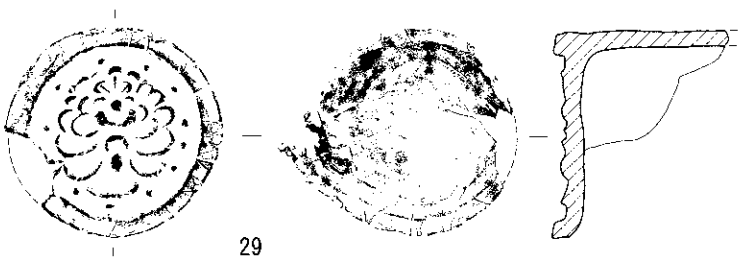
第 93 図　瓦 2（明朝系瓦 2）

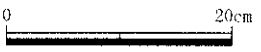
図版 62　瓦 2（明朝系瓦 2）





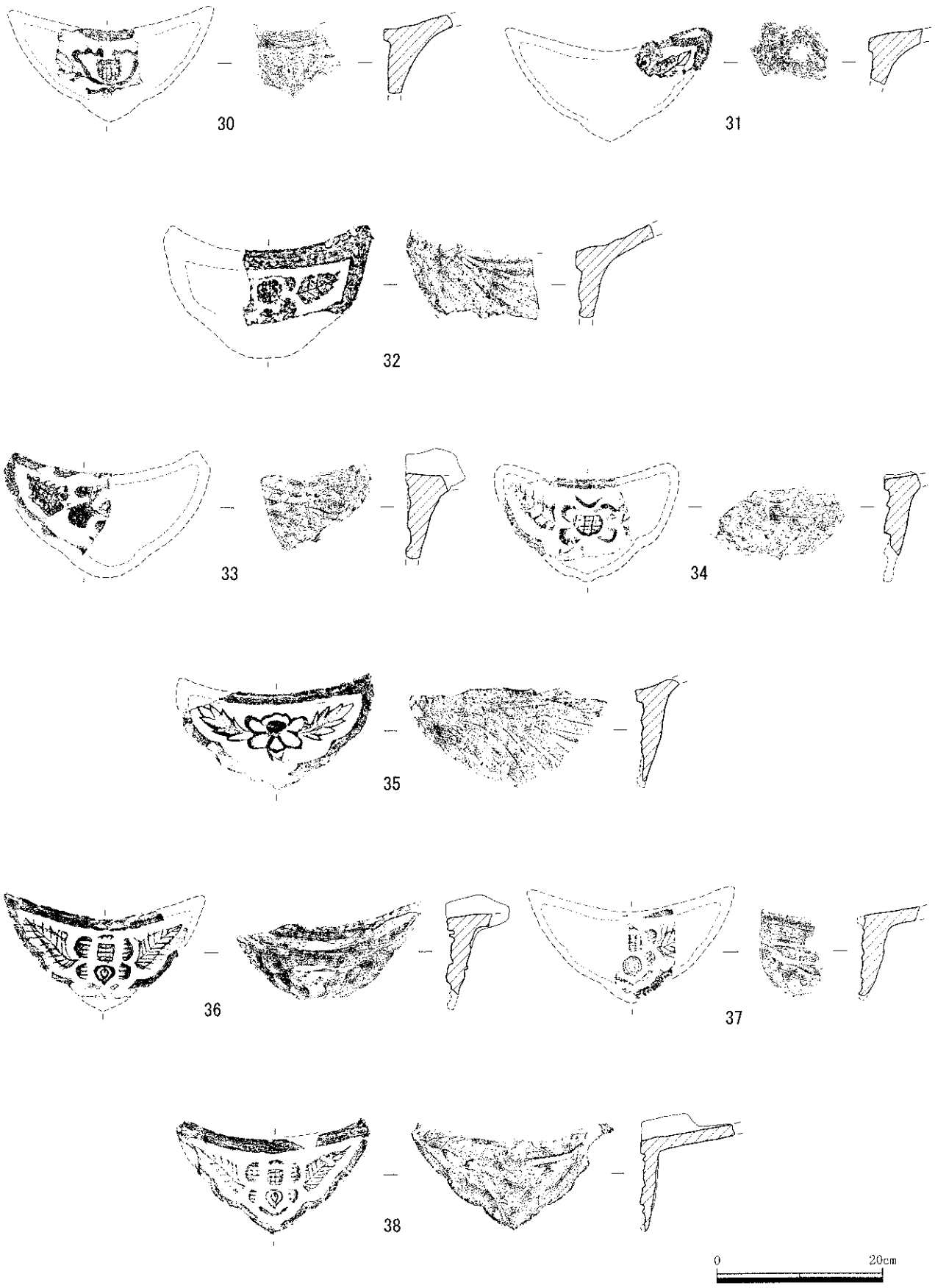




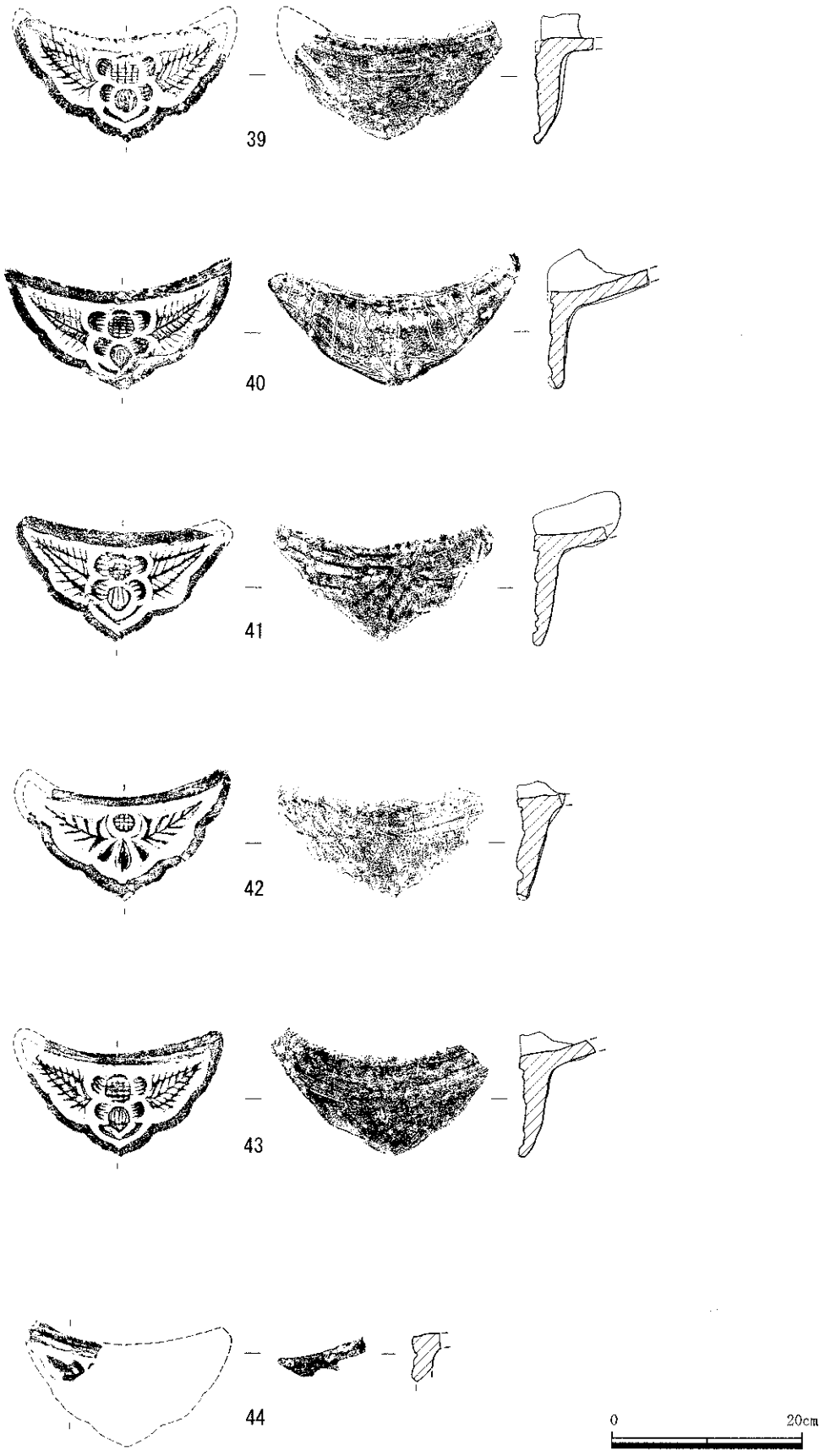


第 94 図　瓦 3（明朝系瓦 3）

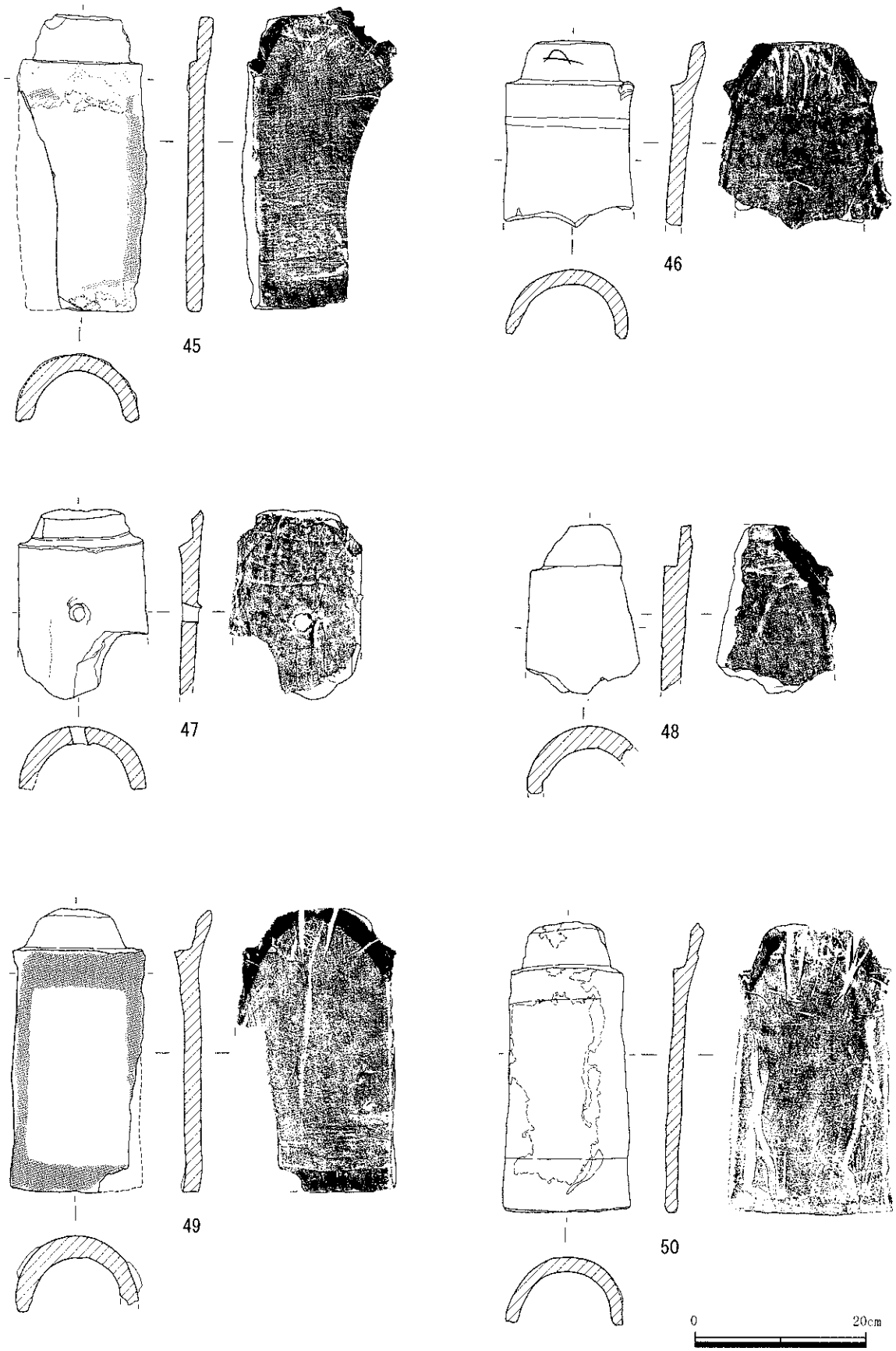
図版 63　瓦 3（明朝系瓦 3）



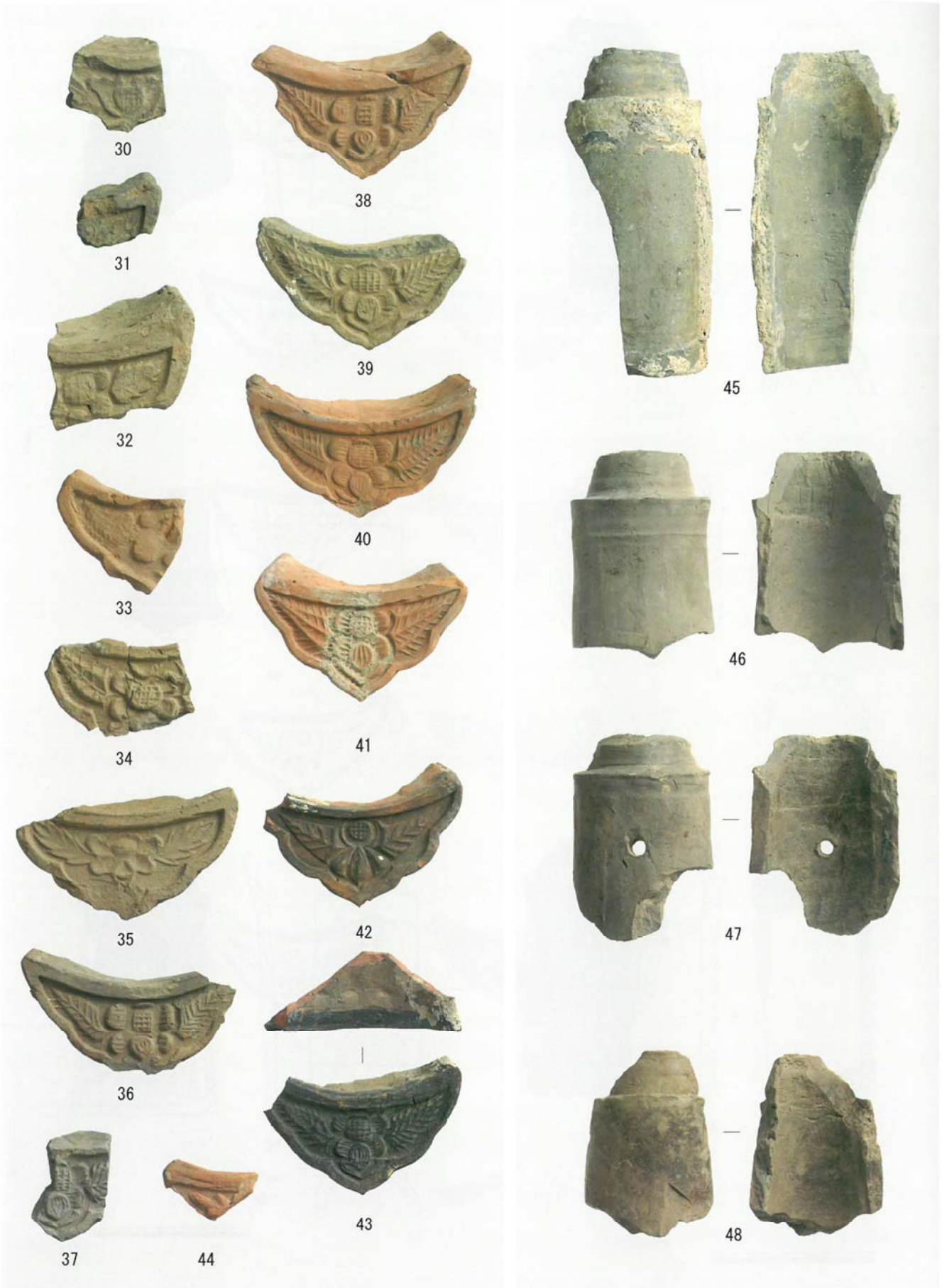
第 95 図　瓦 4（明朝系瓦 4）



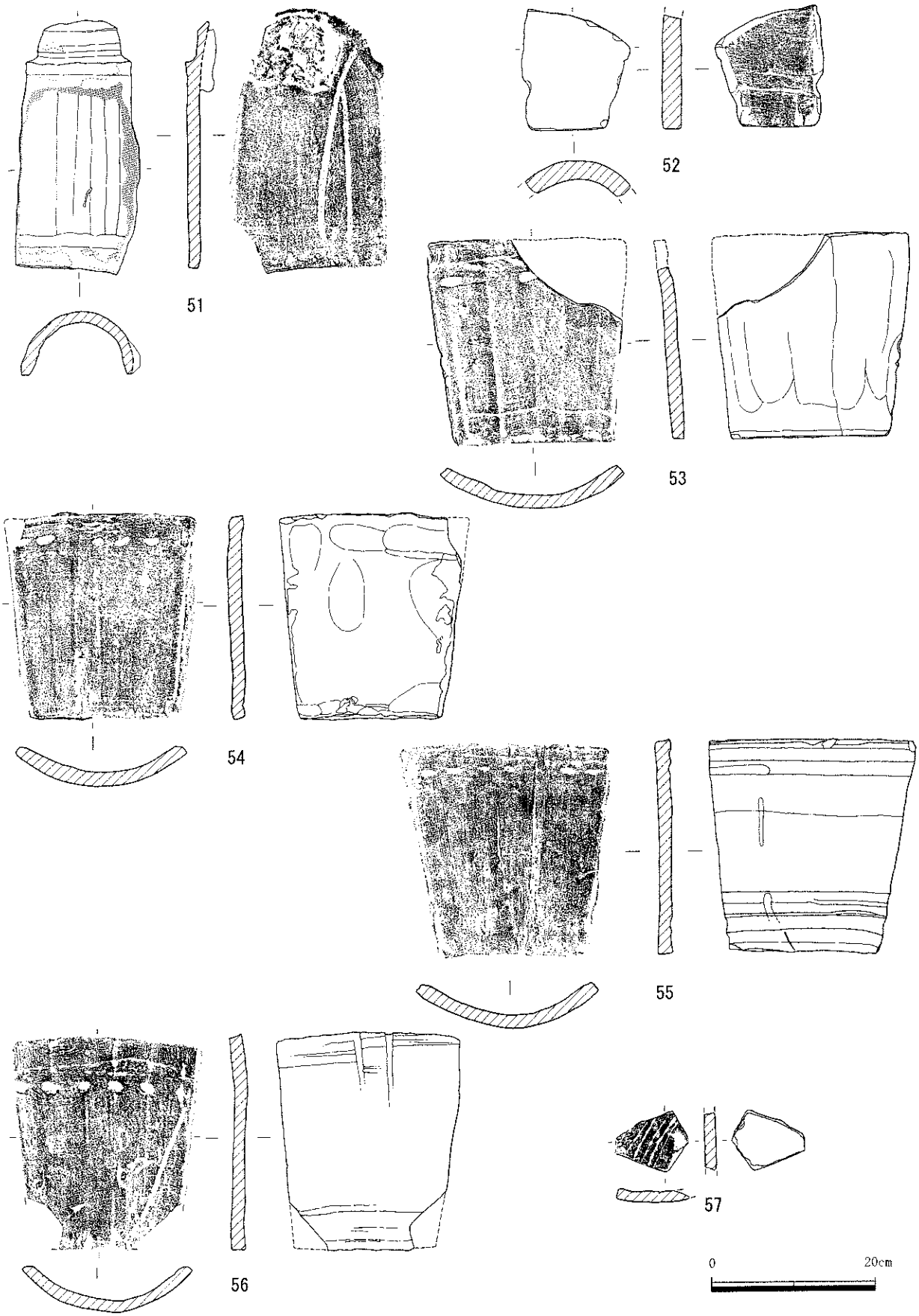
第 96 図　瓦 5（明朝系瓦 5）



第 97 図　瓦 6（明朝系瓦 6）

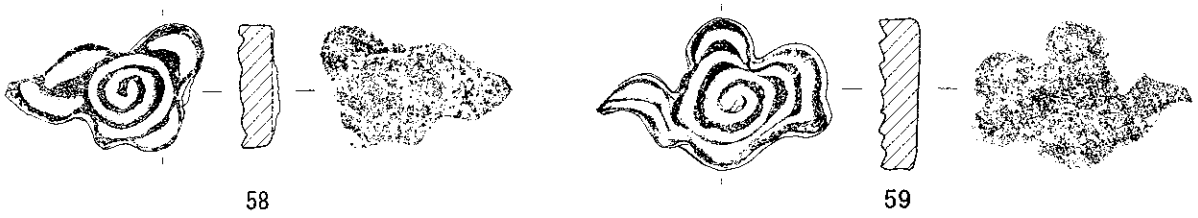


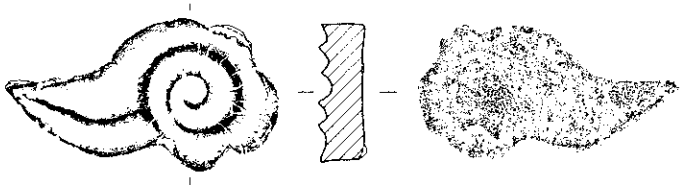
図版 64　瓦 4（明朝系瓦 4）

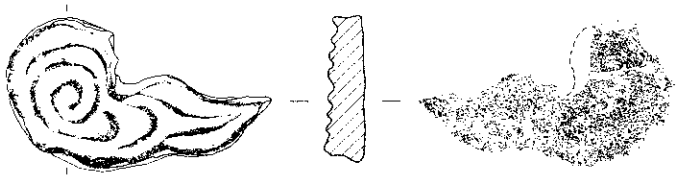


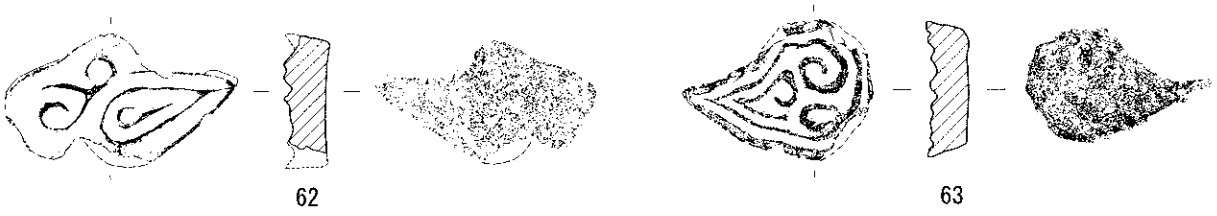
第 98 図　瓦 7（明朝系瓦 7）

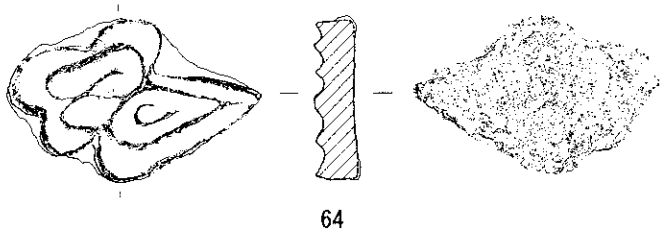
図版 65　瓦 5（明朝系瓦 5）



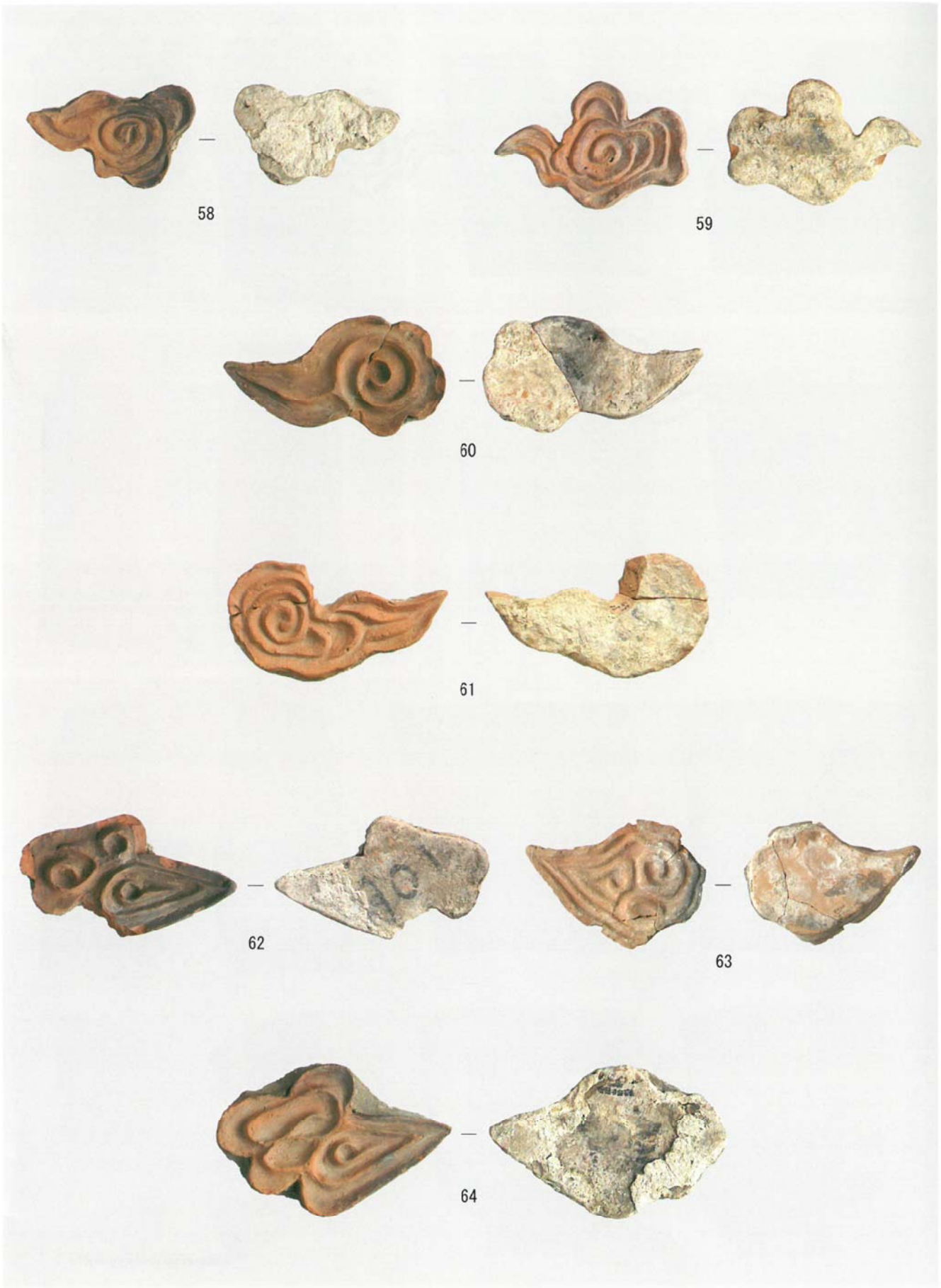




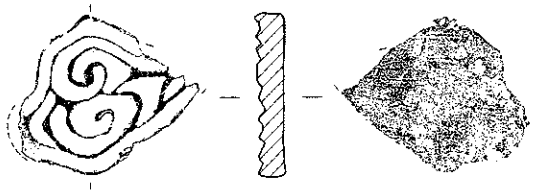




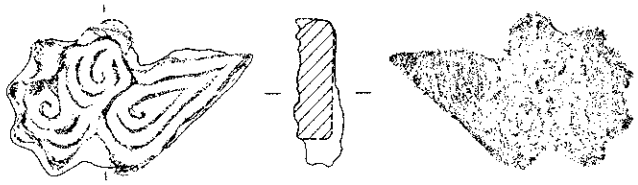
第 99 図　瓦 8（明朝系瓦 8）



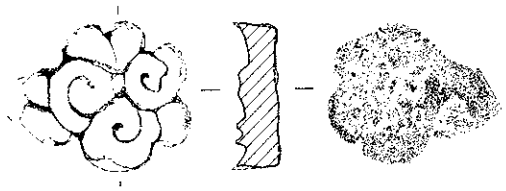
図版 66　瓦 6（明朝系瓦 6）



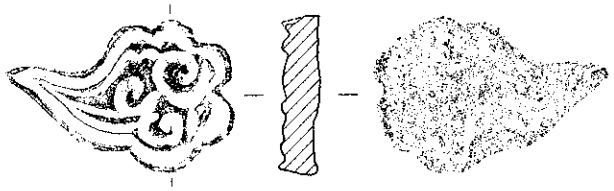
65



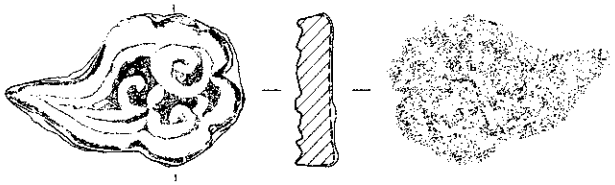
66



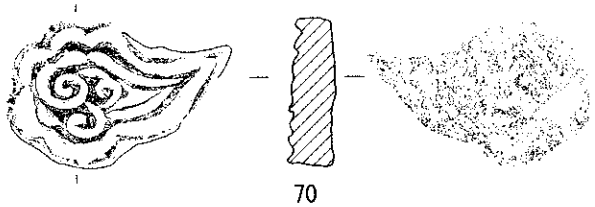
67



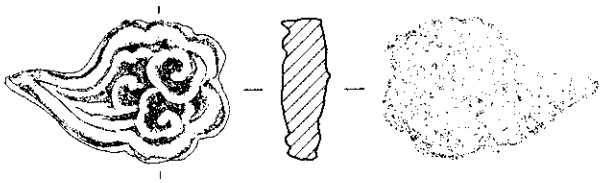
68



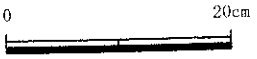
69



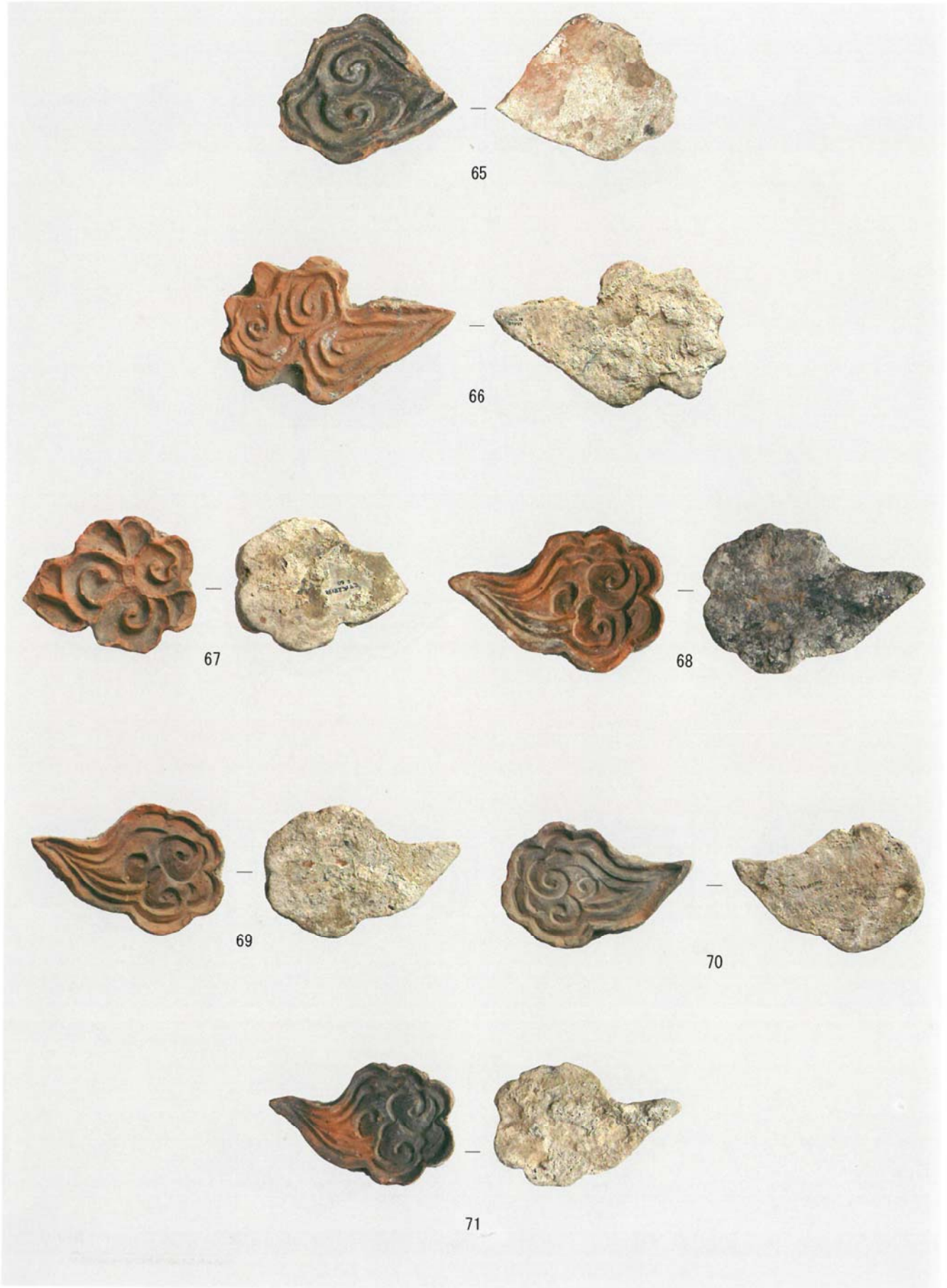
70



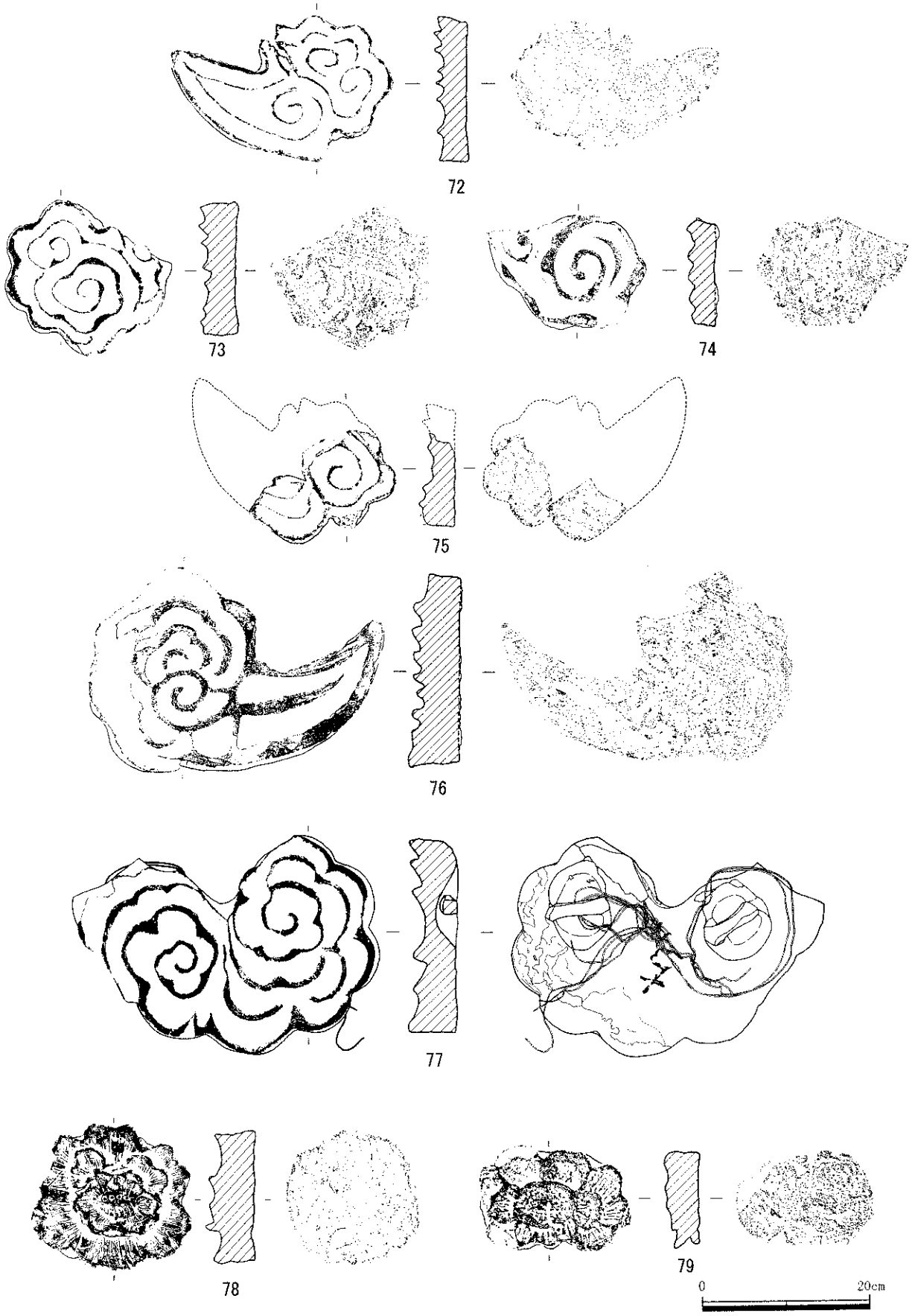
71



第 100 図　瓦 9（明朝系瓦 9）

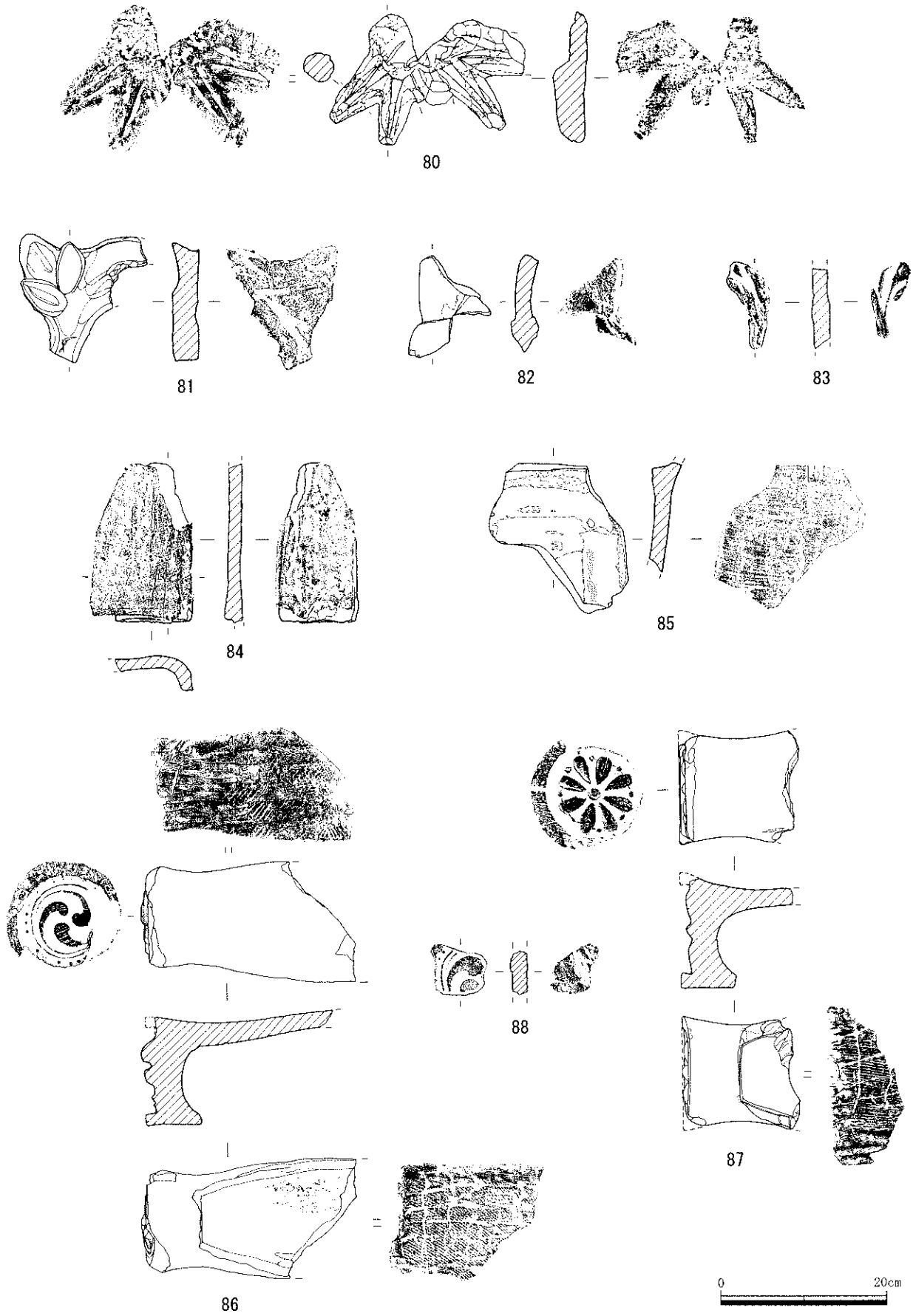


図版 67　瓦 7（明朝系瓦 7）

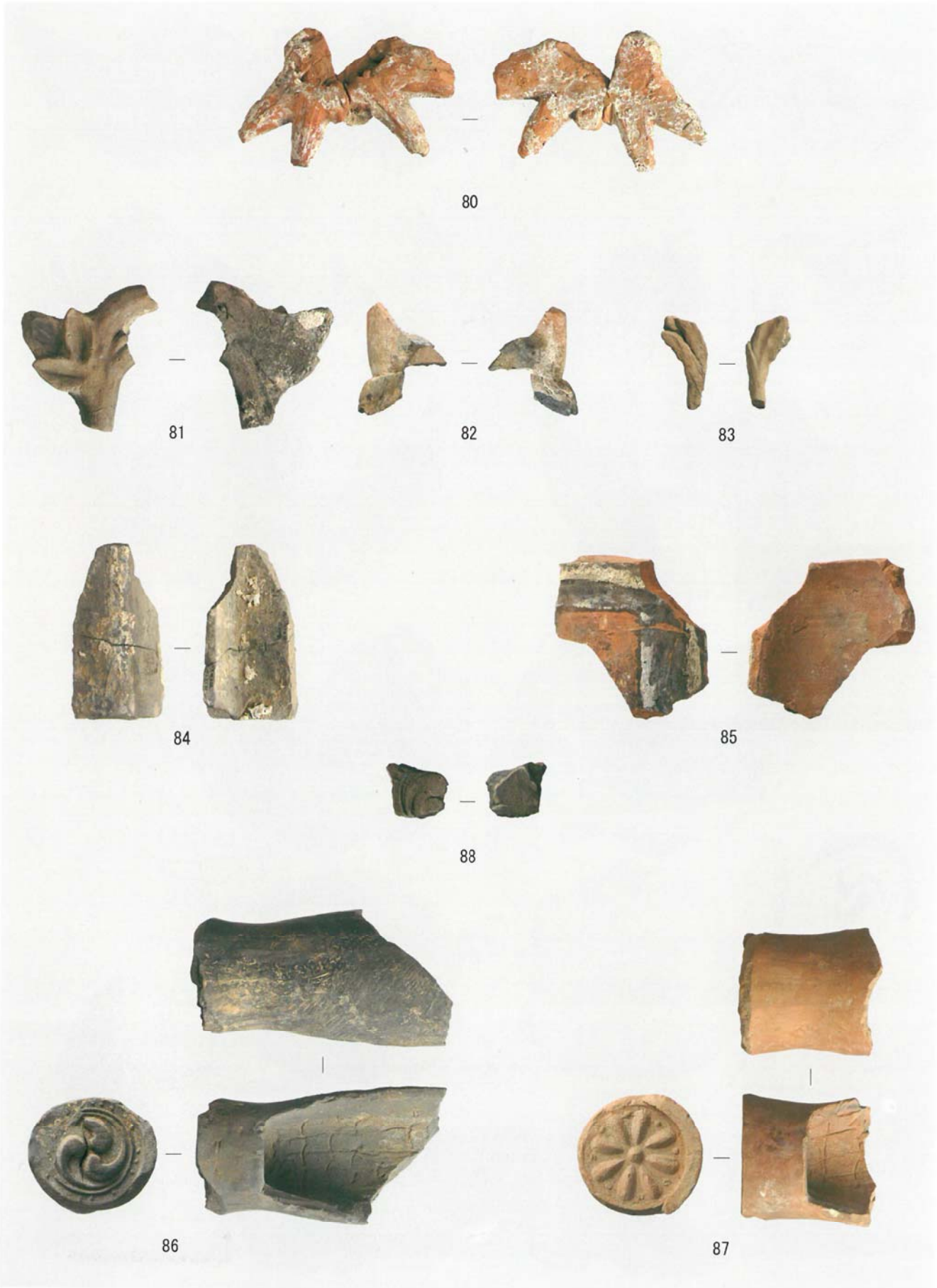


第 101 図　瓦 10（明朝系瓦 10）

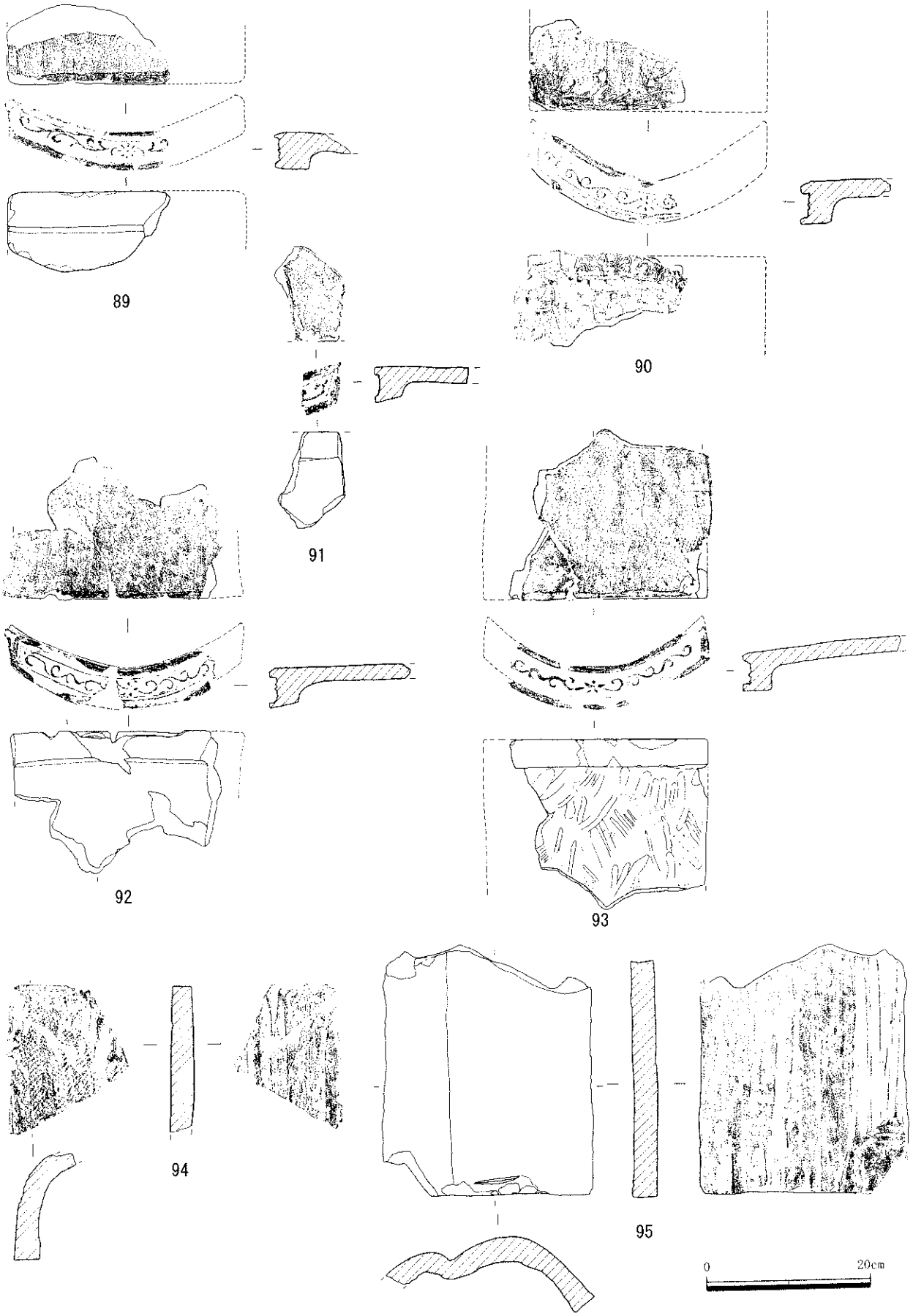
図版 68　瓦 8（明朝系瓦 8）



第 102 図　瓦 11（明朝系瓦 11，大和系瓦 1）

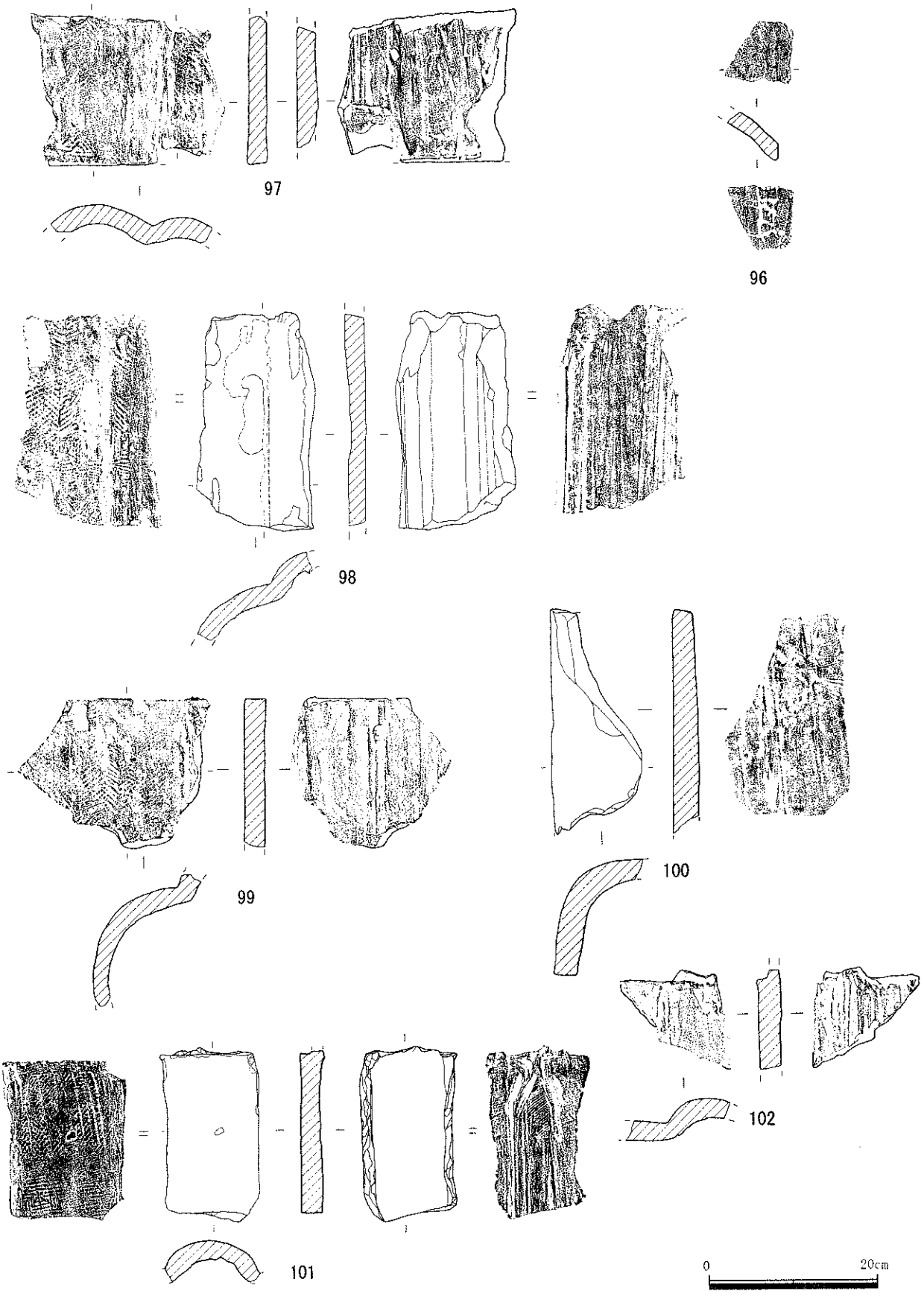


図版 69　瓦 9（明朝系瓦 9，大和系瓦 1）

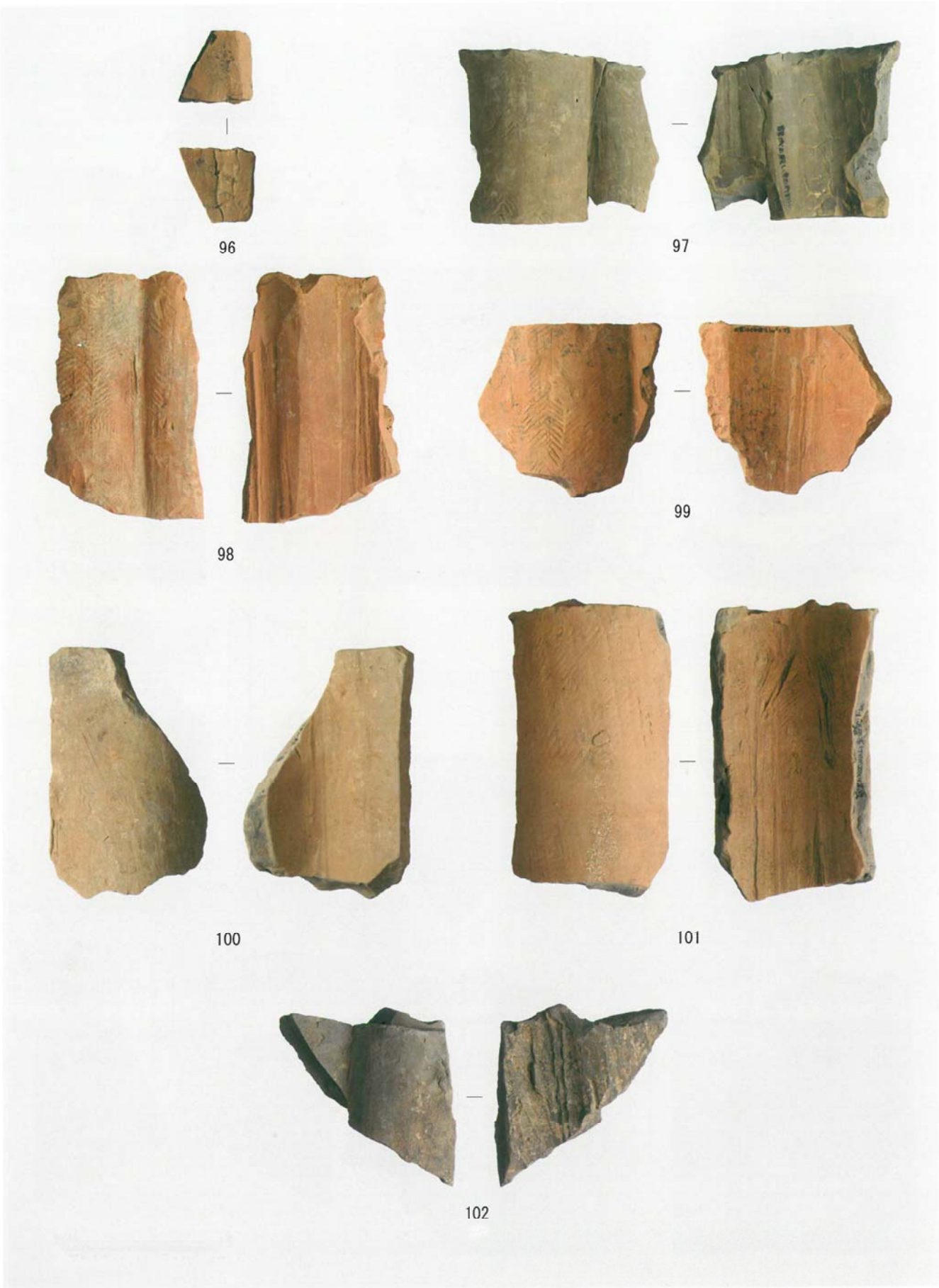


第 103 図　瓦 12（大和系瓦 2）

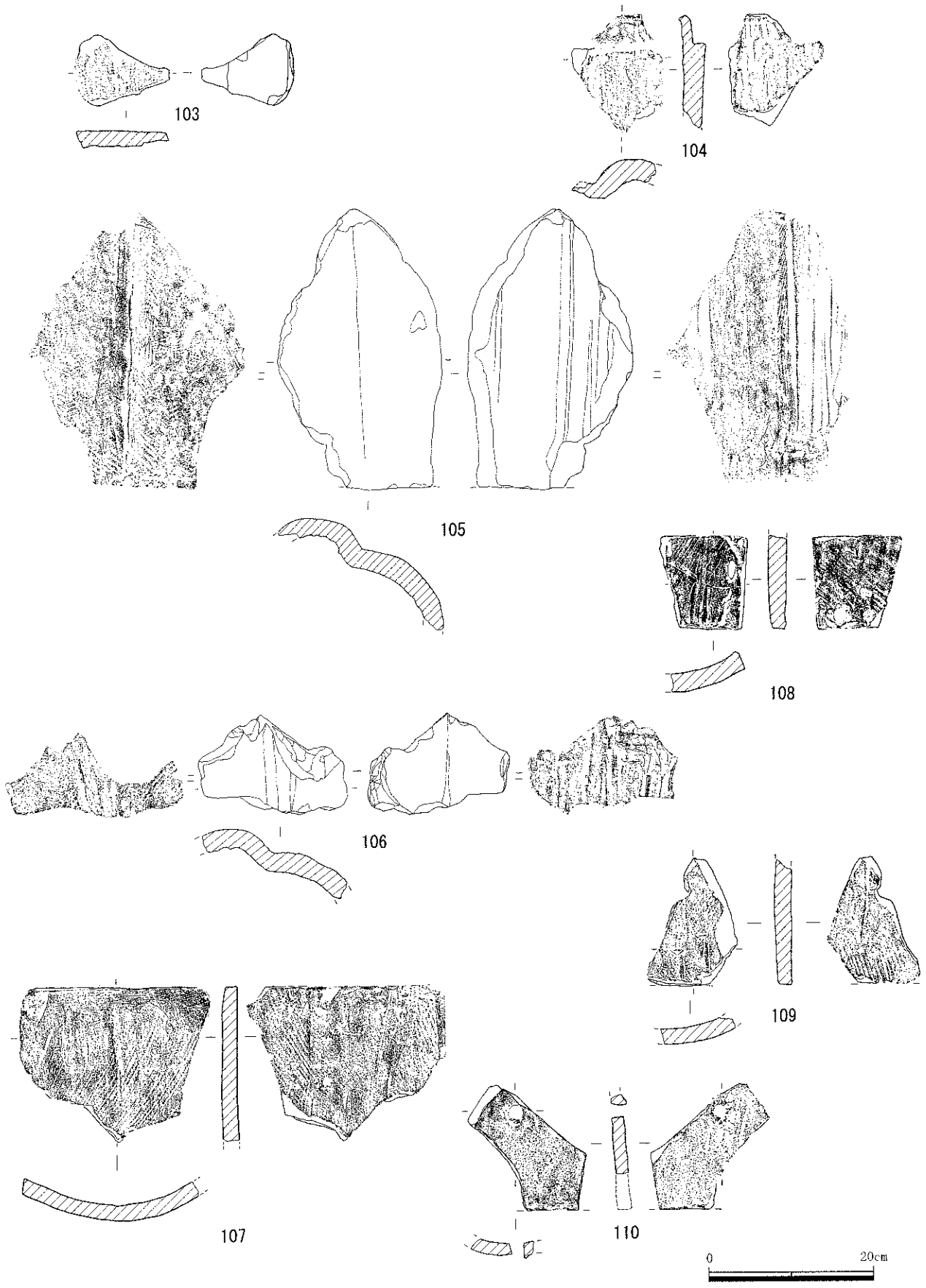
図版 70　瓦 10（大和系瓦 2）



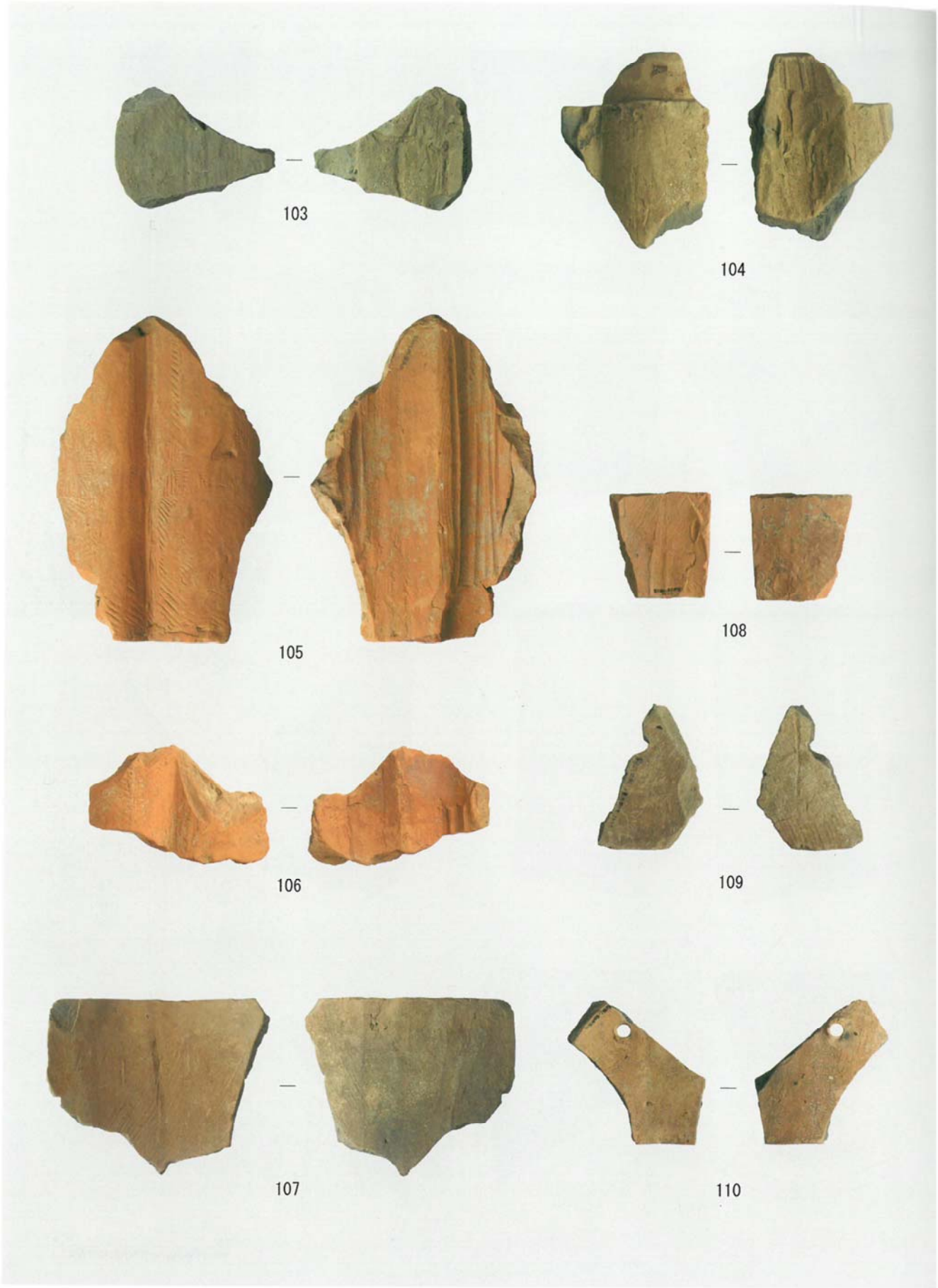
第 104 図　瓦 13（大和系瓦 3）



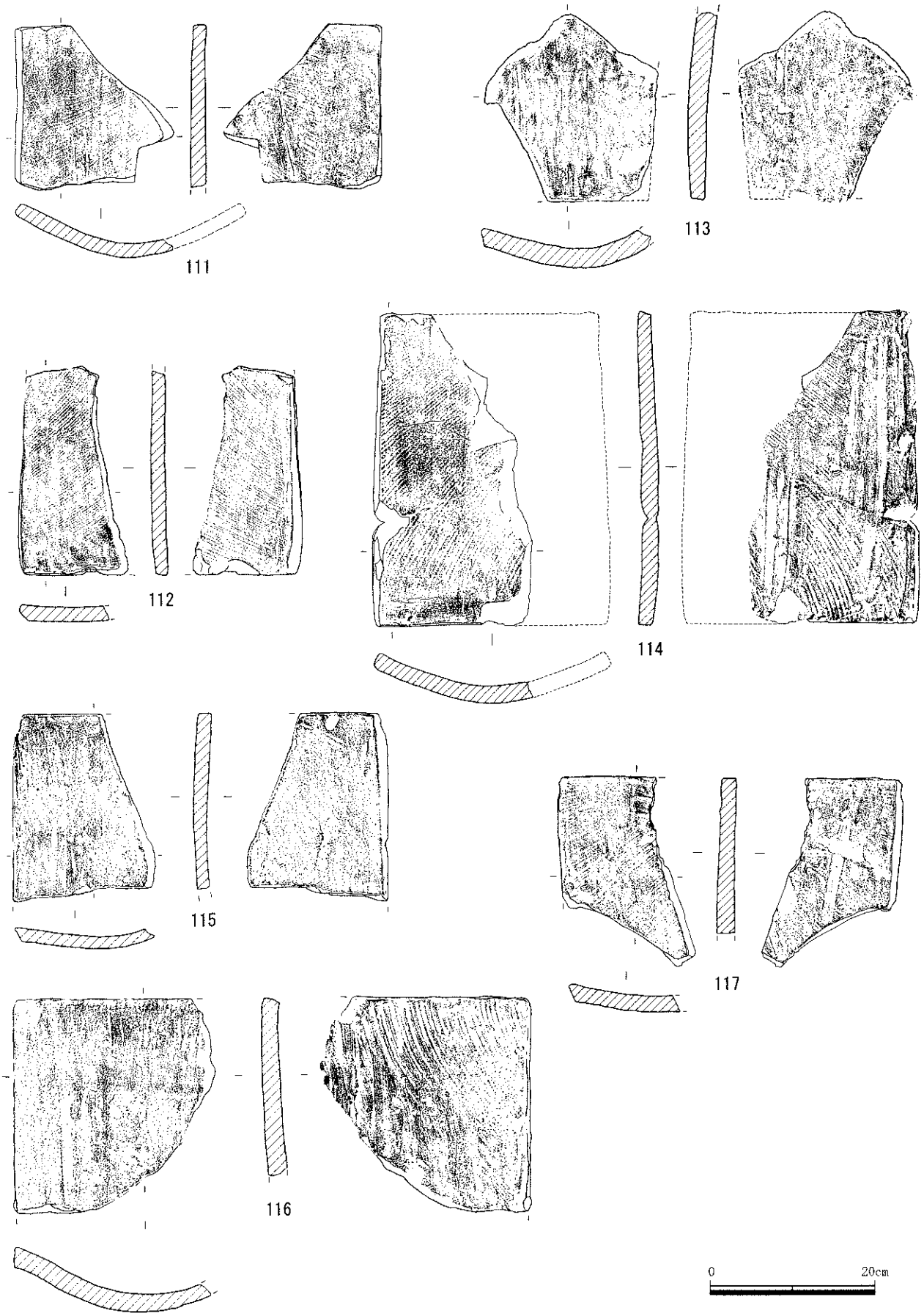
図版 71　瓦 11（大和系瓦 3）



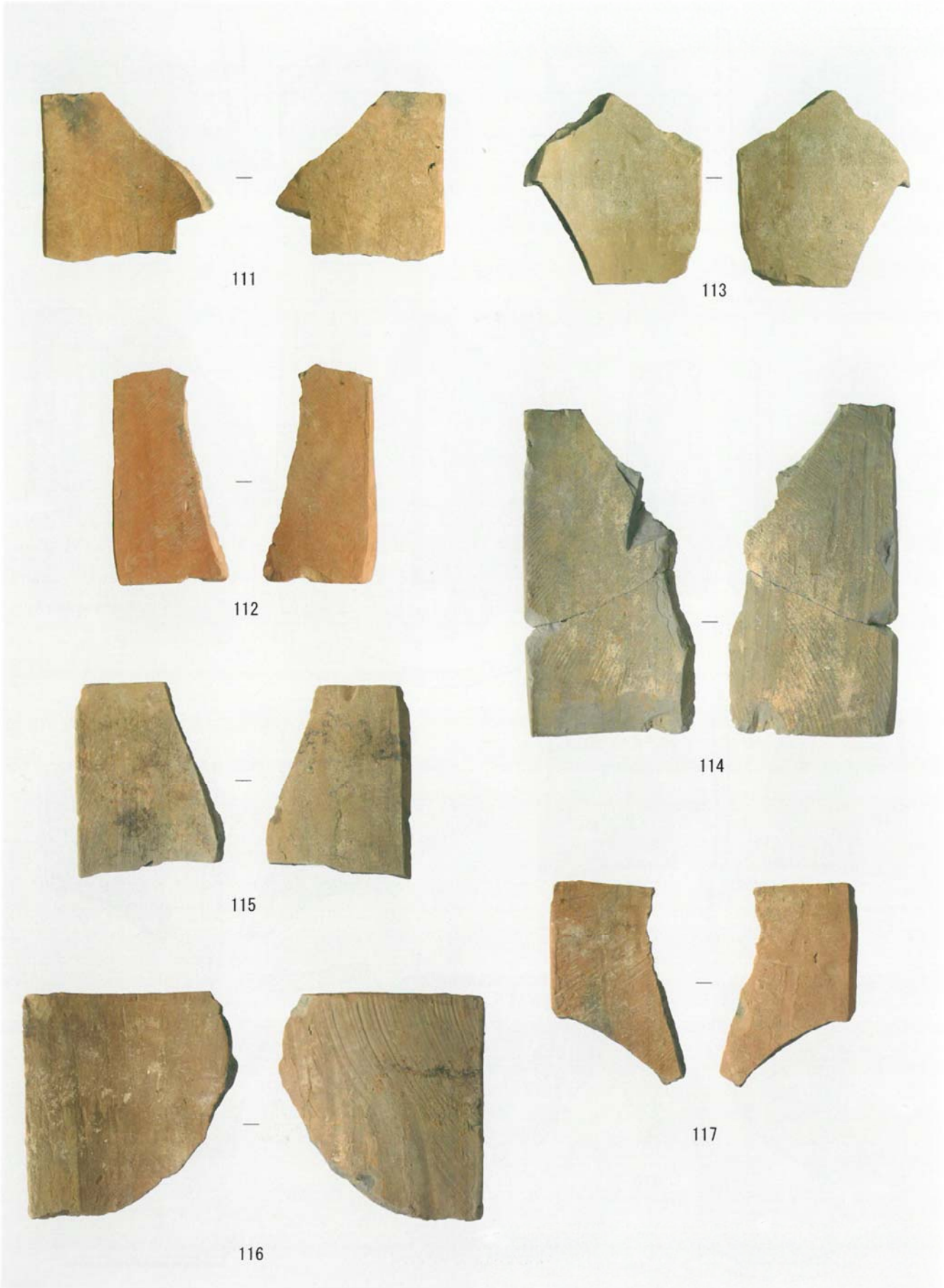
第 105 図　瓦 14（大和系瓦 4）



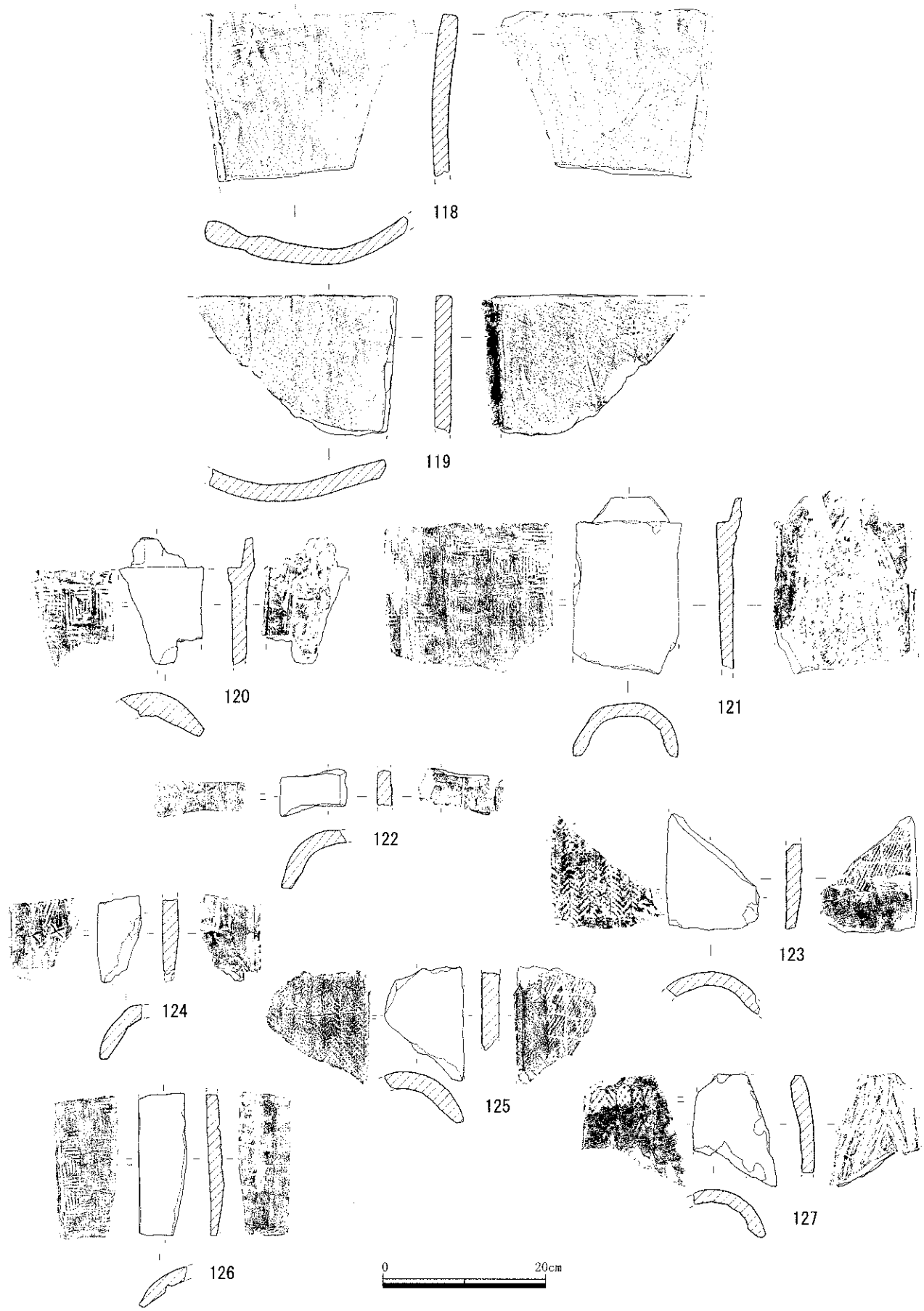
図版 72　瓦 12（大和系瓦 4）



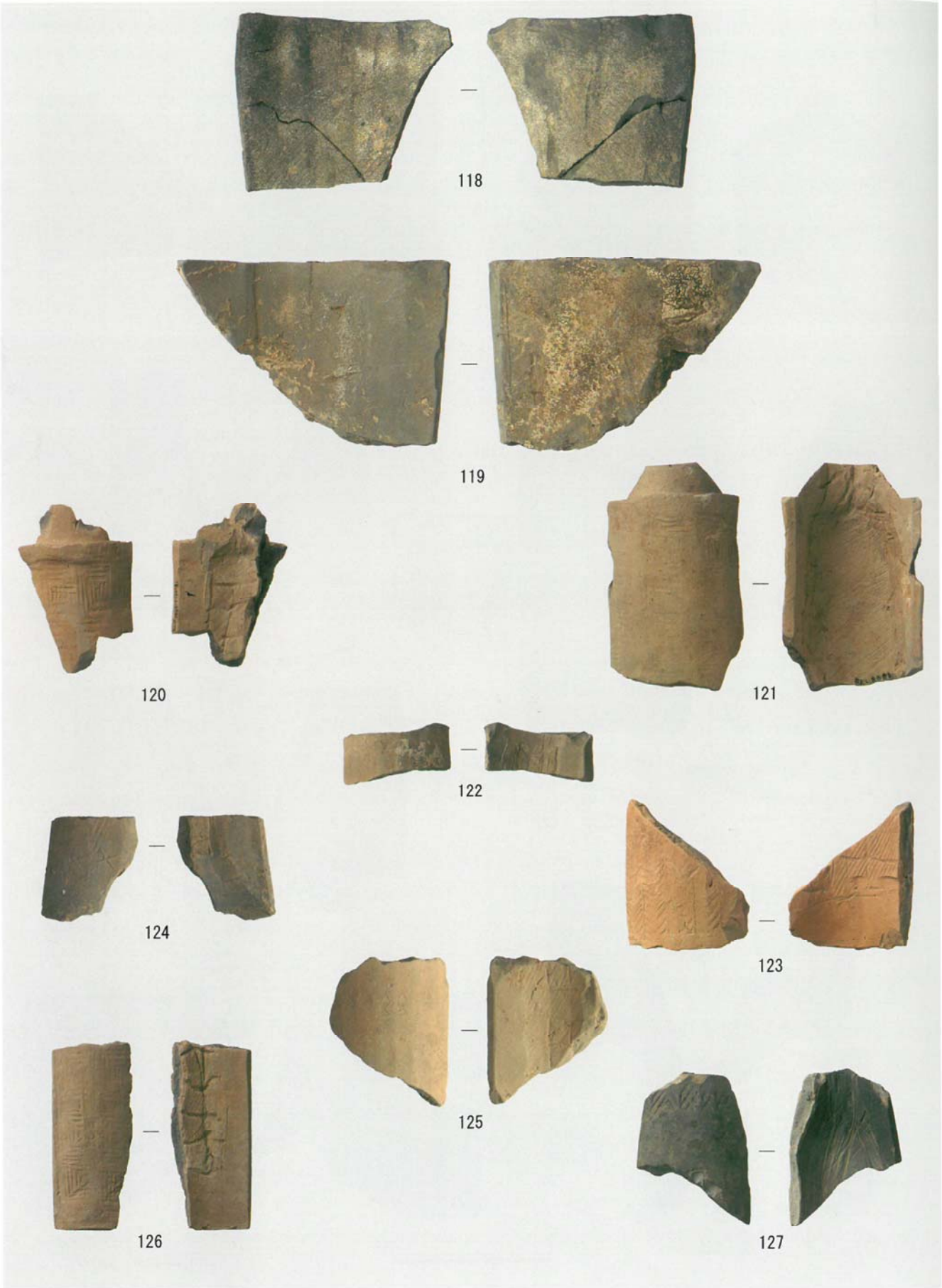
第 106 図　瓦 15（大和系瓦 5）



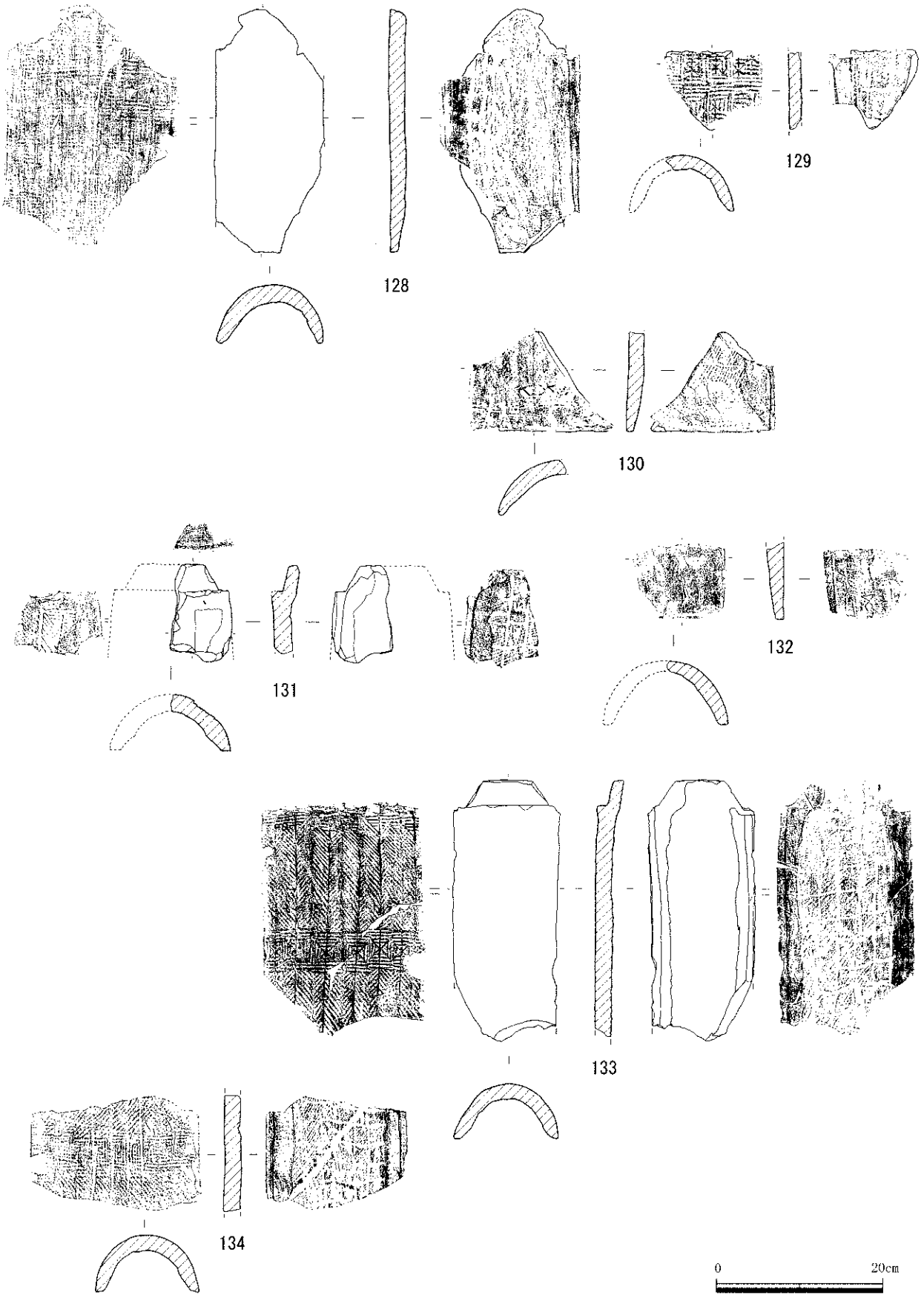
図版 73　瓦 13（大和系瓦 5）



第 107 図　瓦 16（大和系瓦 6）



図版 74　瓦 14（大和系瓦 6）



第 108 図　瓦 17（大和系瓦 7）

128

129

131

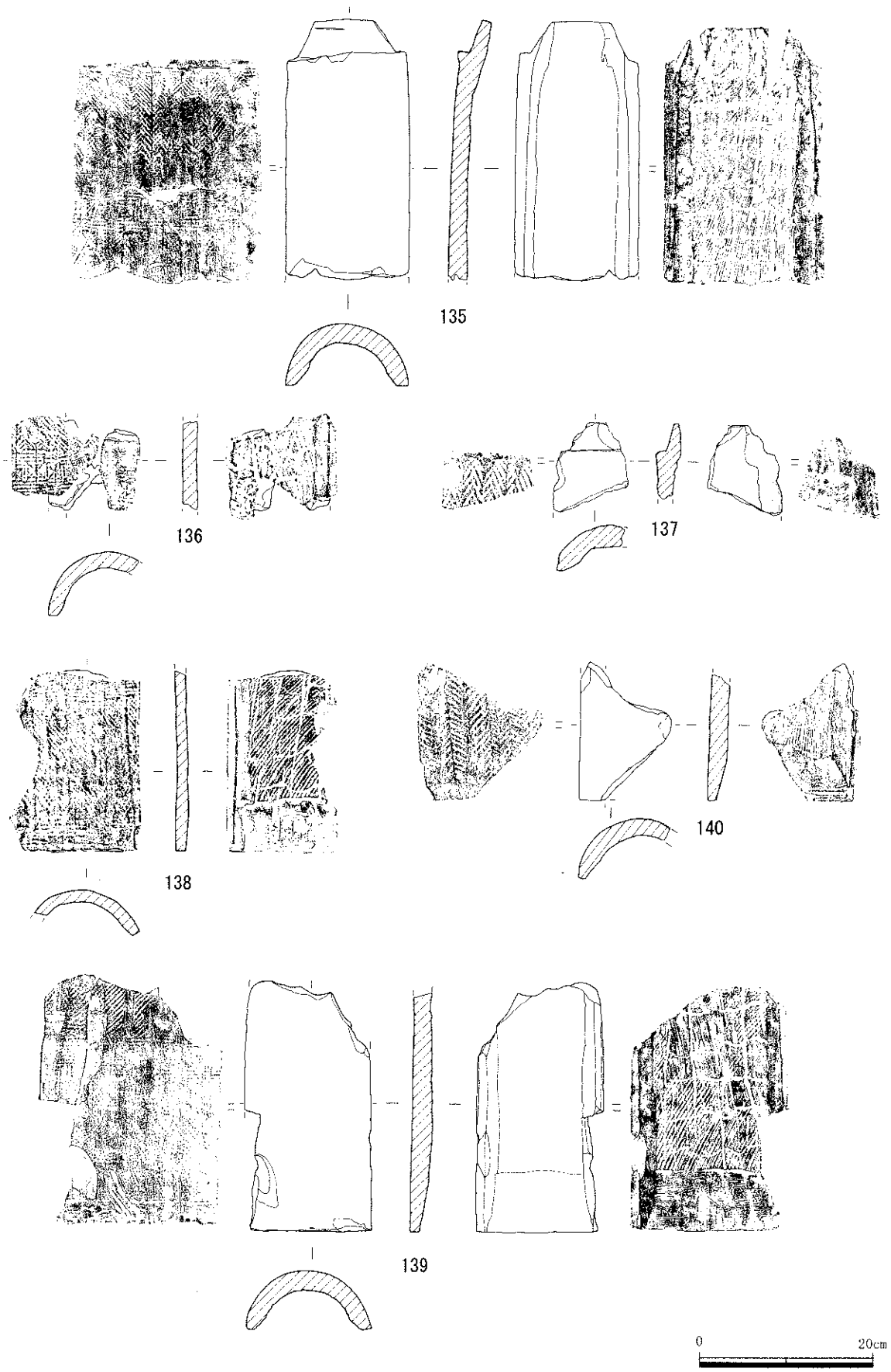
130

132

133

134

図版 75　瓦 15（大和系瓦 7）



第 109 図　瓦 18（大和系瓦 8）

135

136

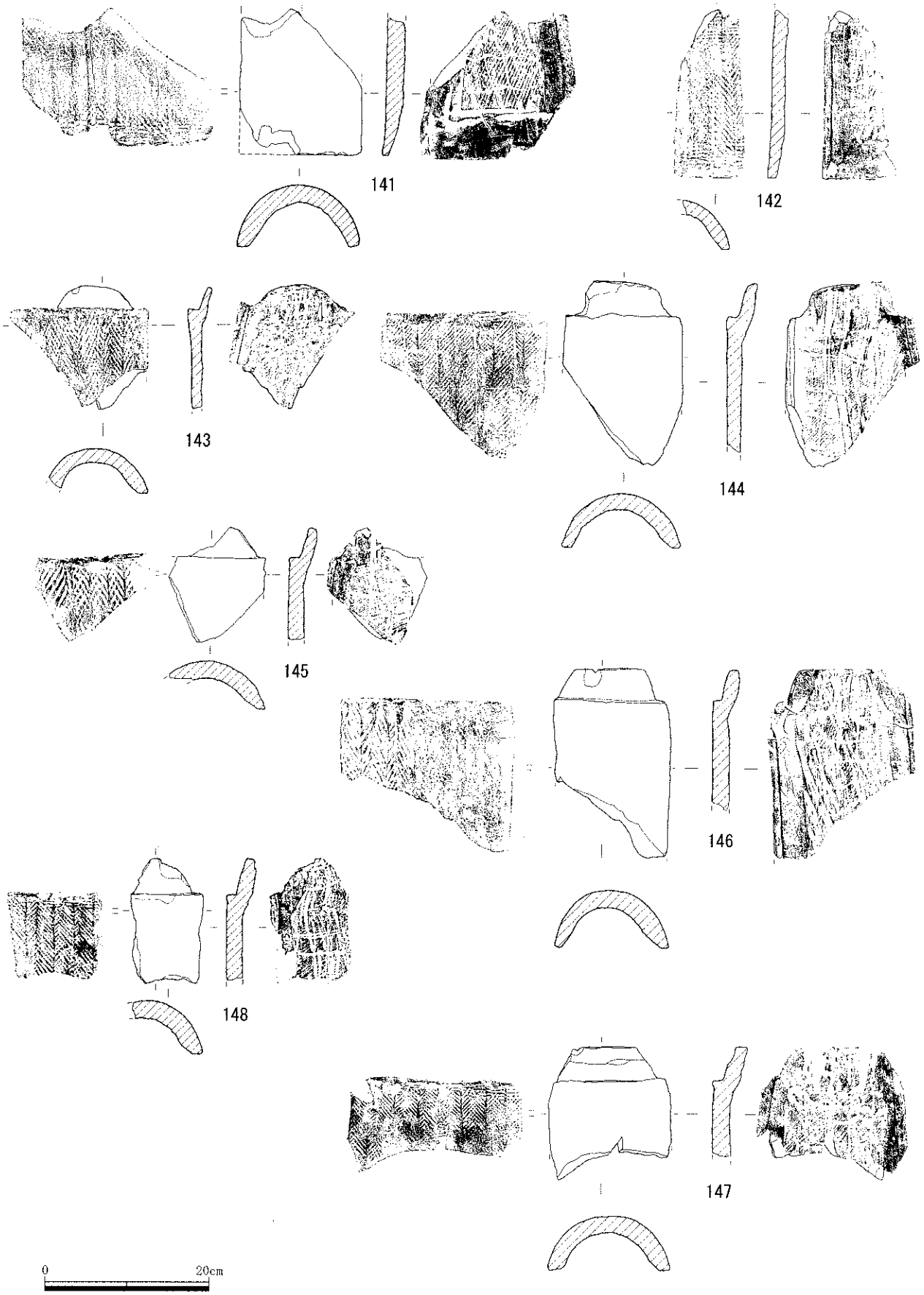
137

138

140

139

図版 76　瓦 16（大和系瓦 8）



第 110 図　瓦 19（大和系瓦 9）

141

142

143

144

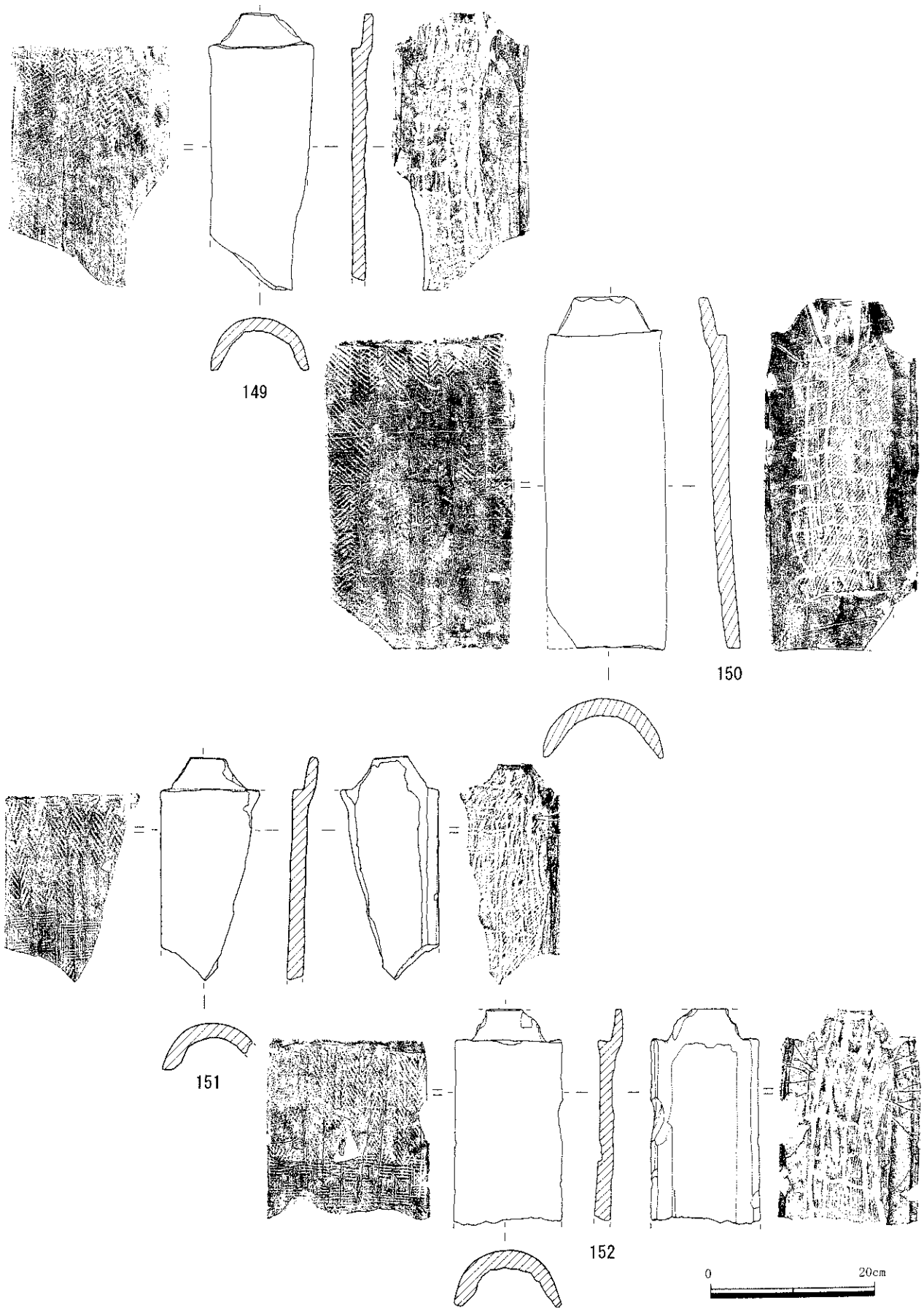
145

146

147

148

図版 77　瓦 17（大和系瓦 9）



第 111 図　瓦 20（大和系瓦 10）

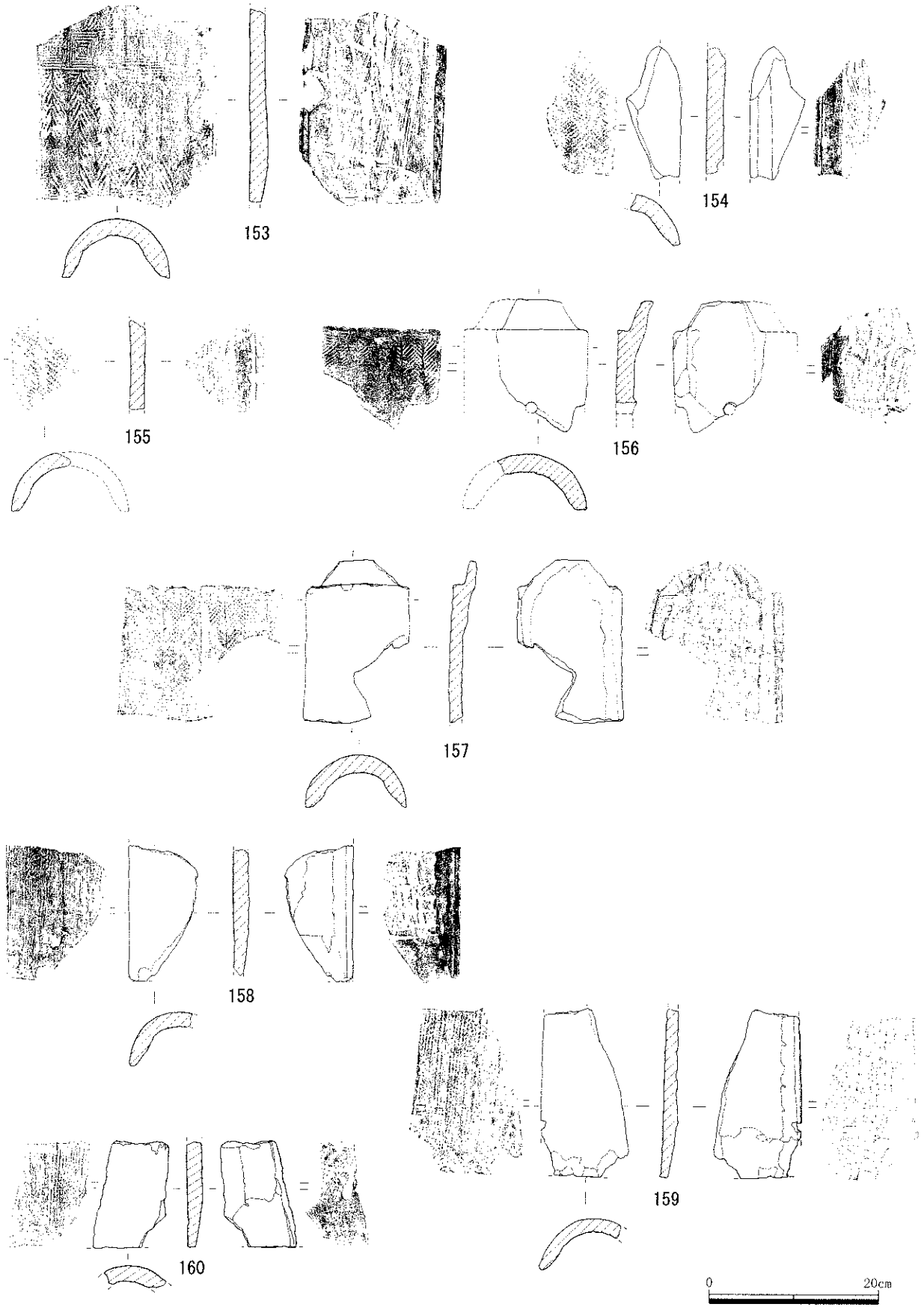
149

150

151

152

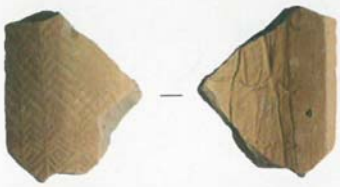
図版 78　瓦 18（大和系瓦 10）



第 112 図　瓦 21（大和系瓦 11）

153

154



155

156

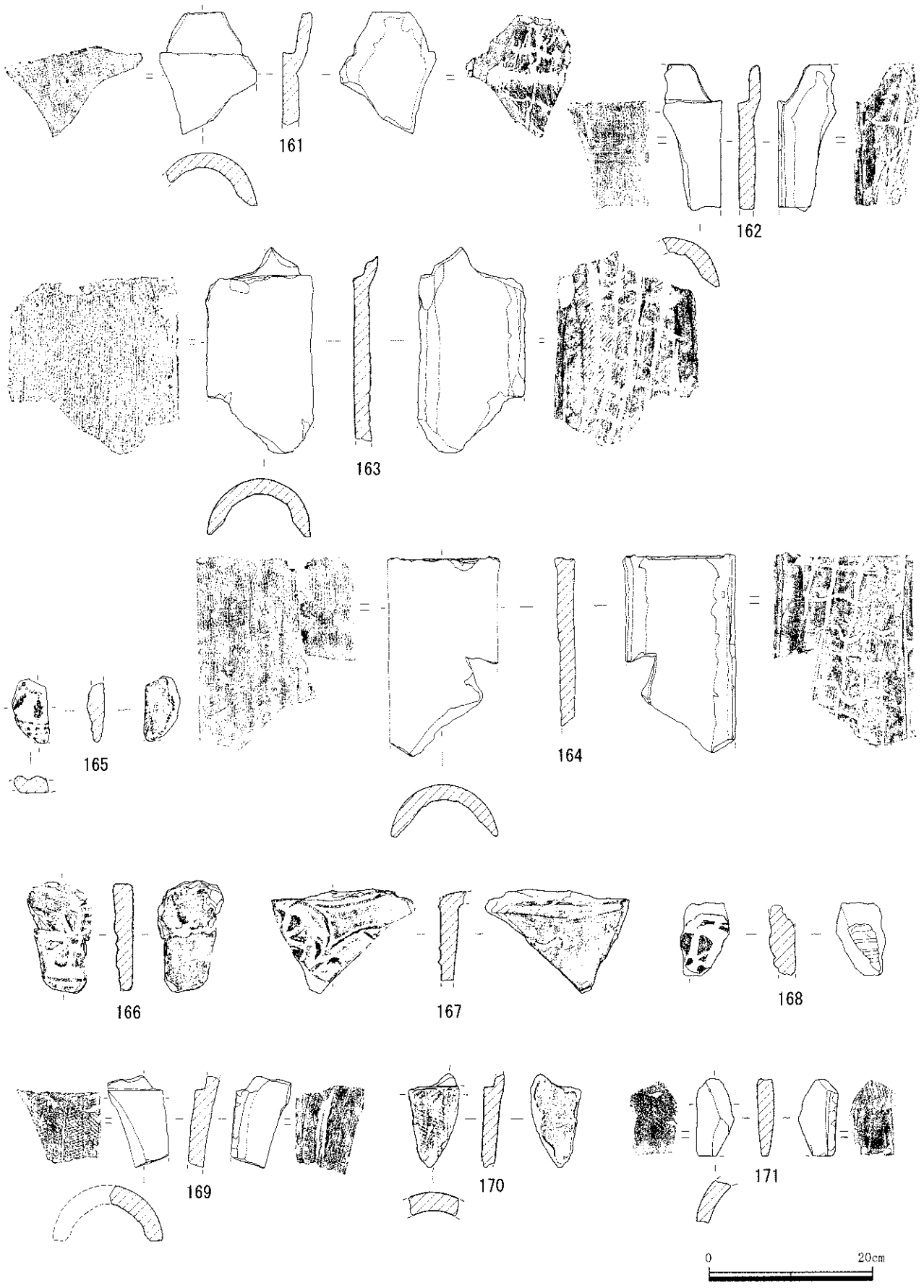
157

158

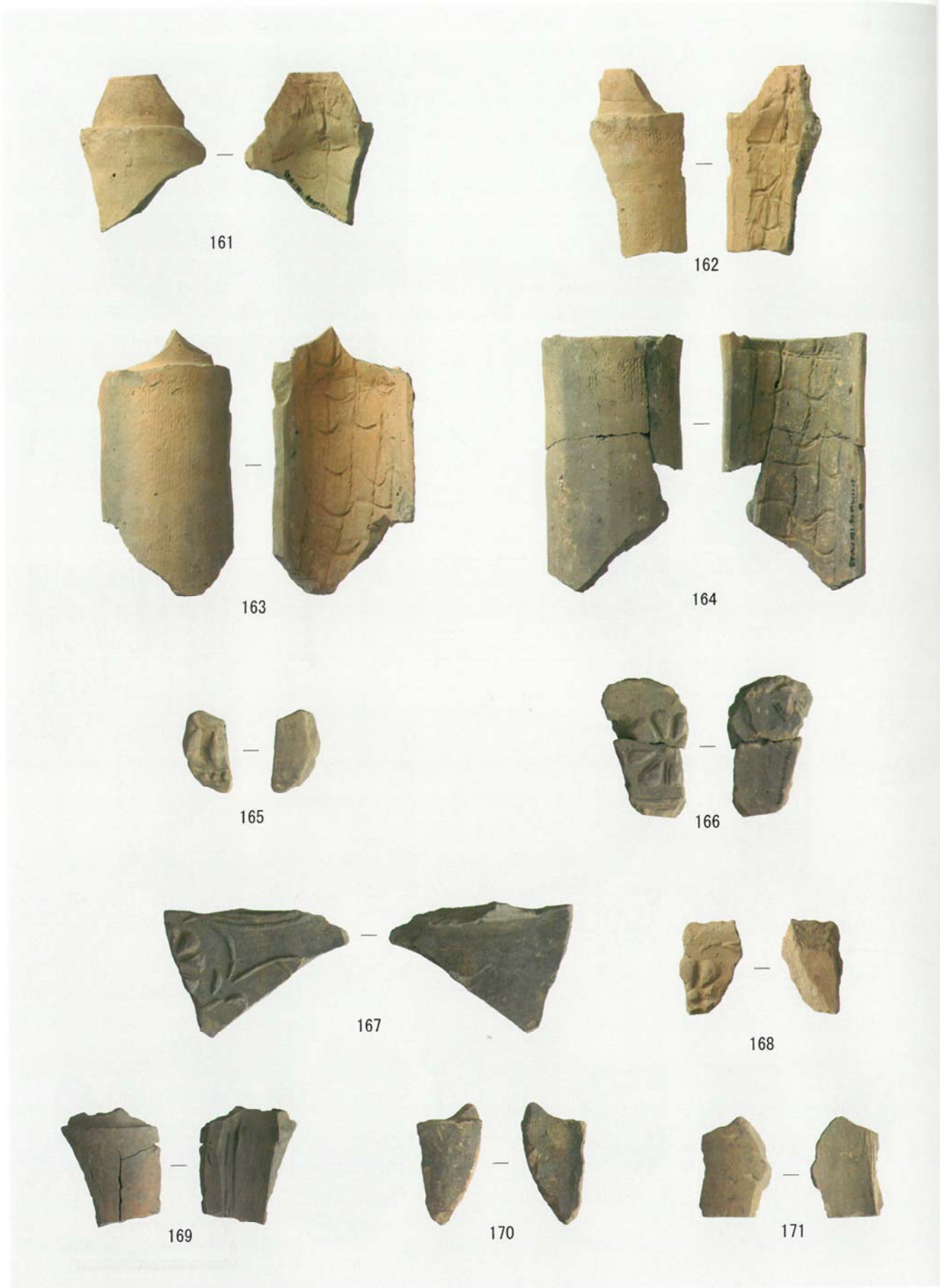
159

160

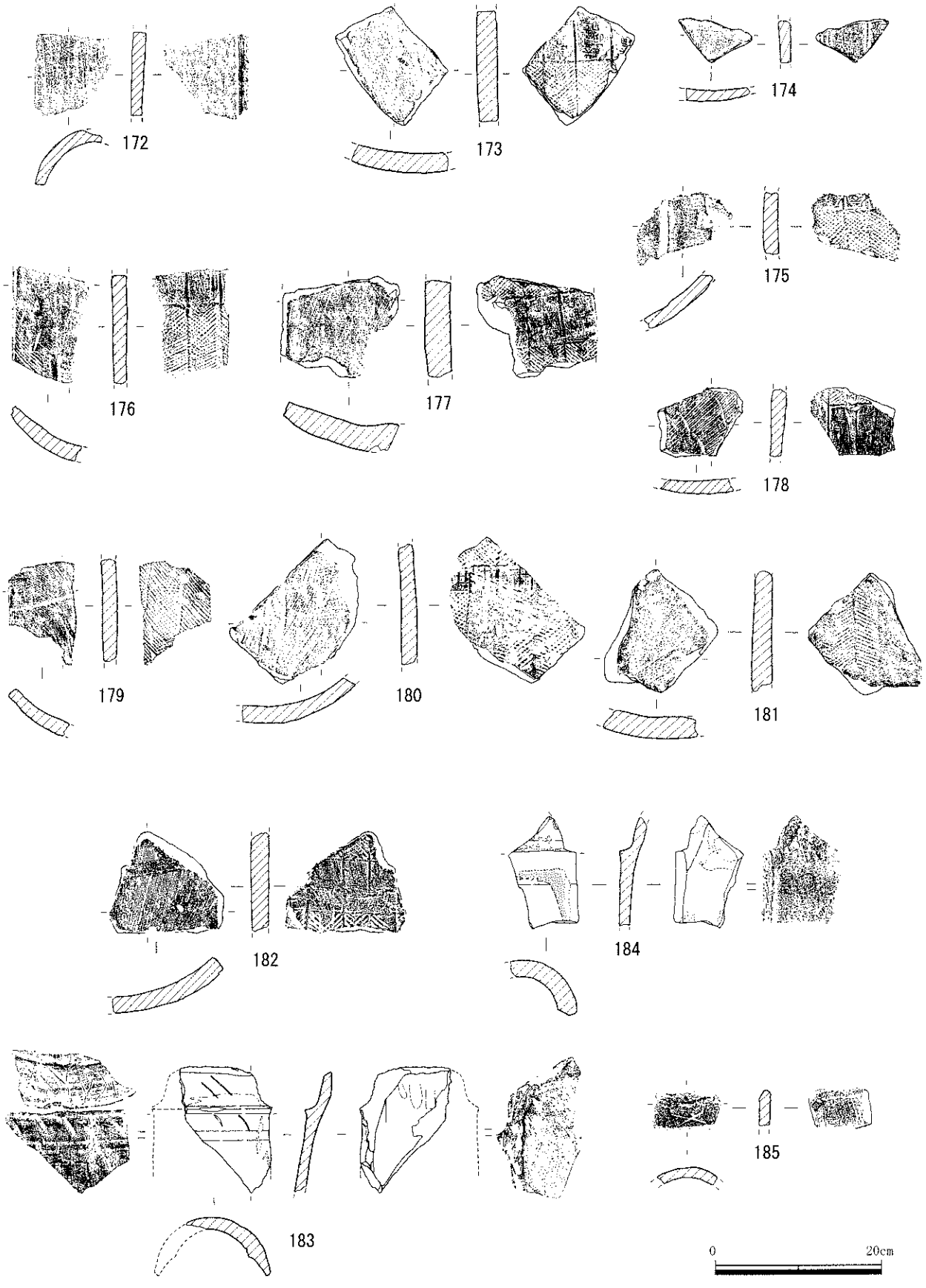
図版 79　瓦 19（大和系瓦 11）



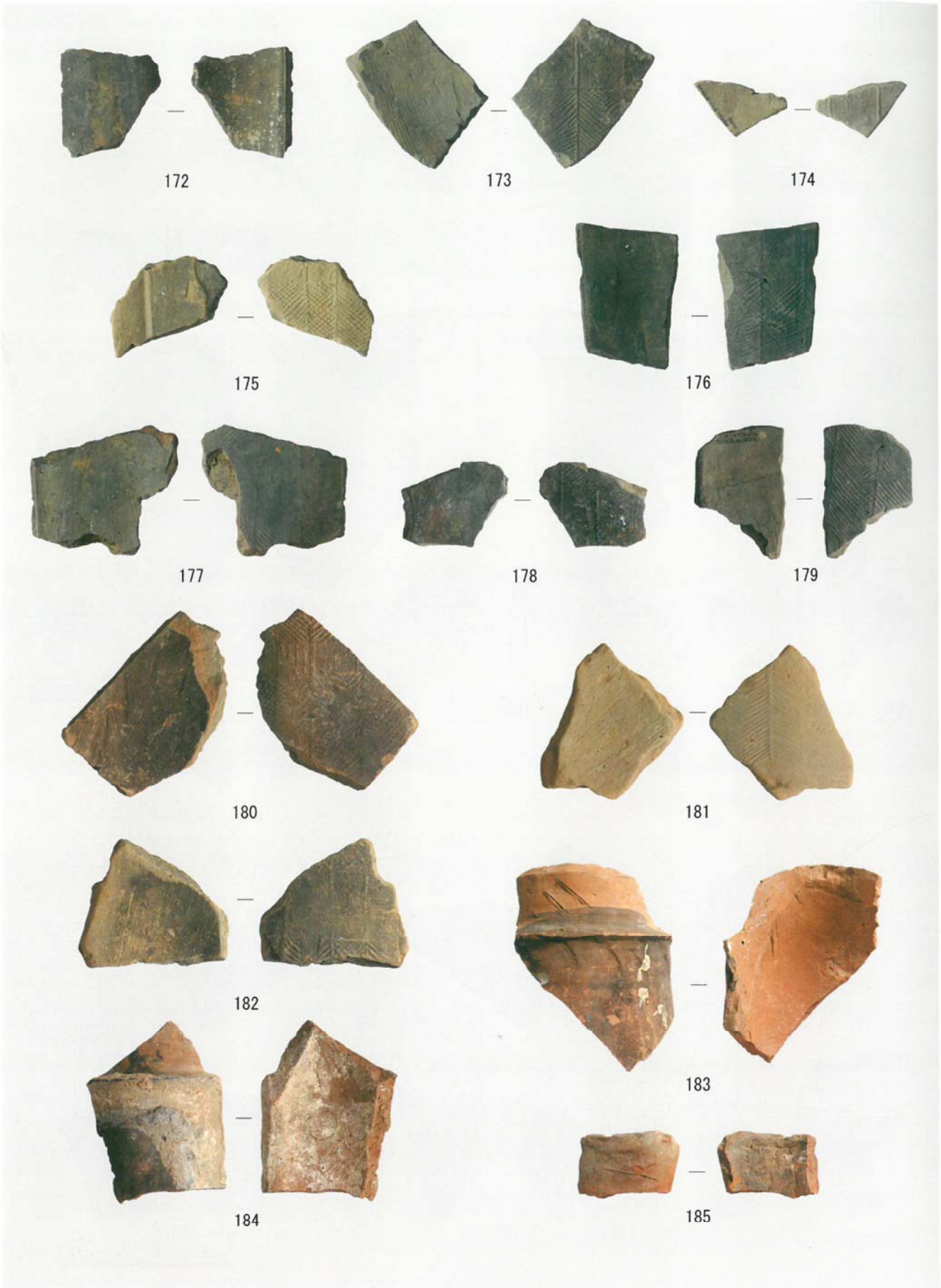
第 113 図　瓦 22（大和系瓦 12，高麗系瓦 1）



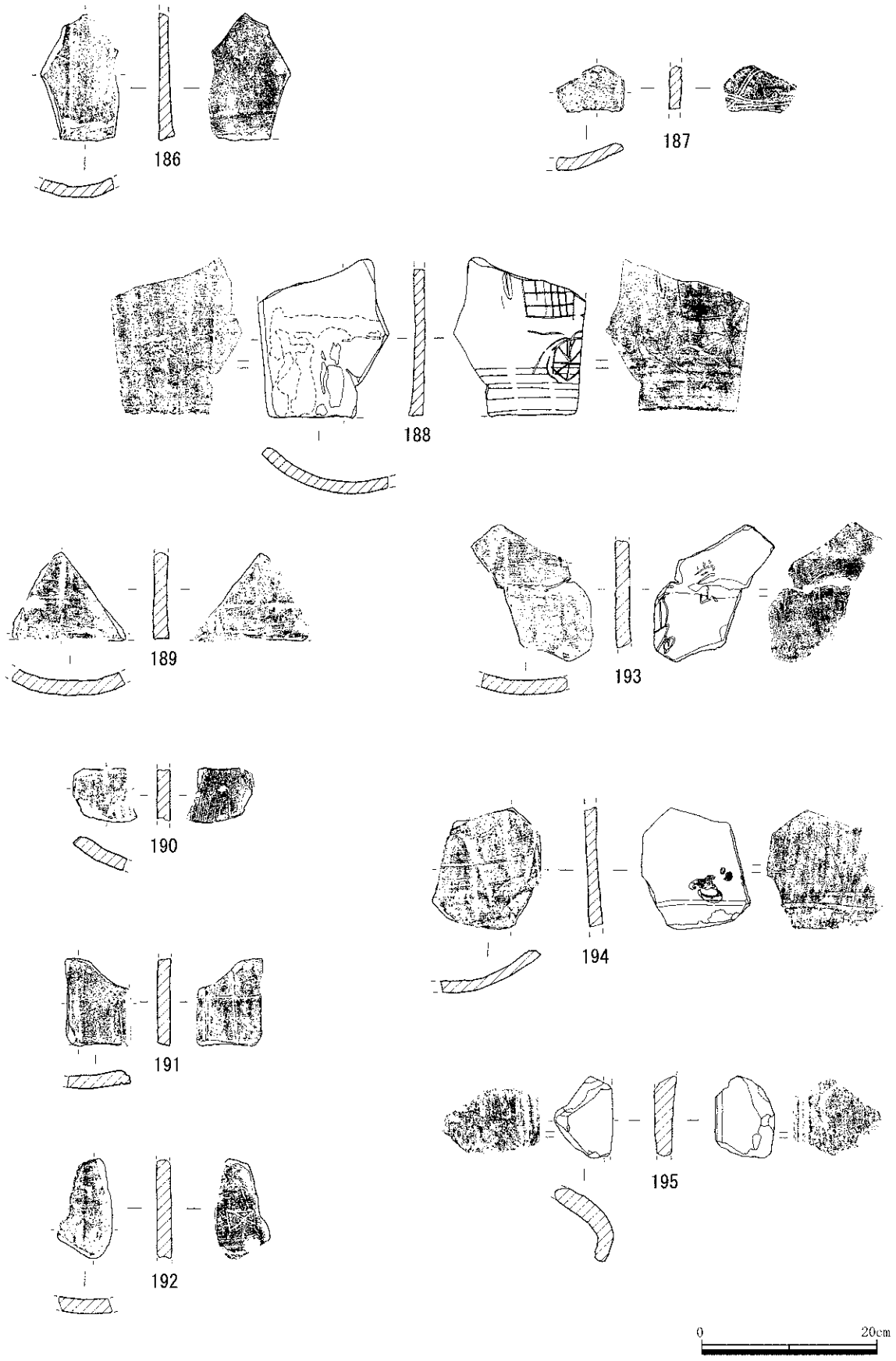
図版 80　瓦 20（大和系瓦 12，高麗系瓦 1）



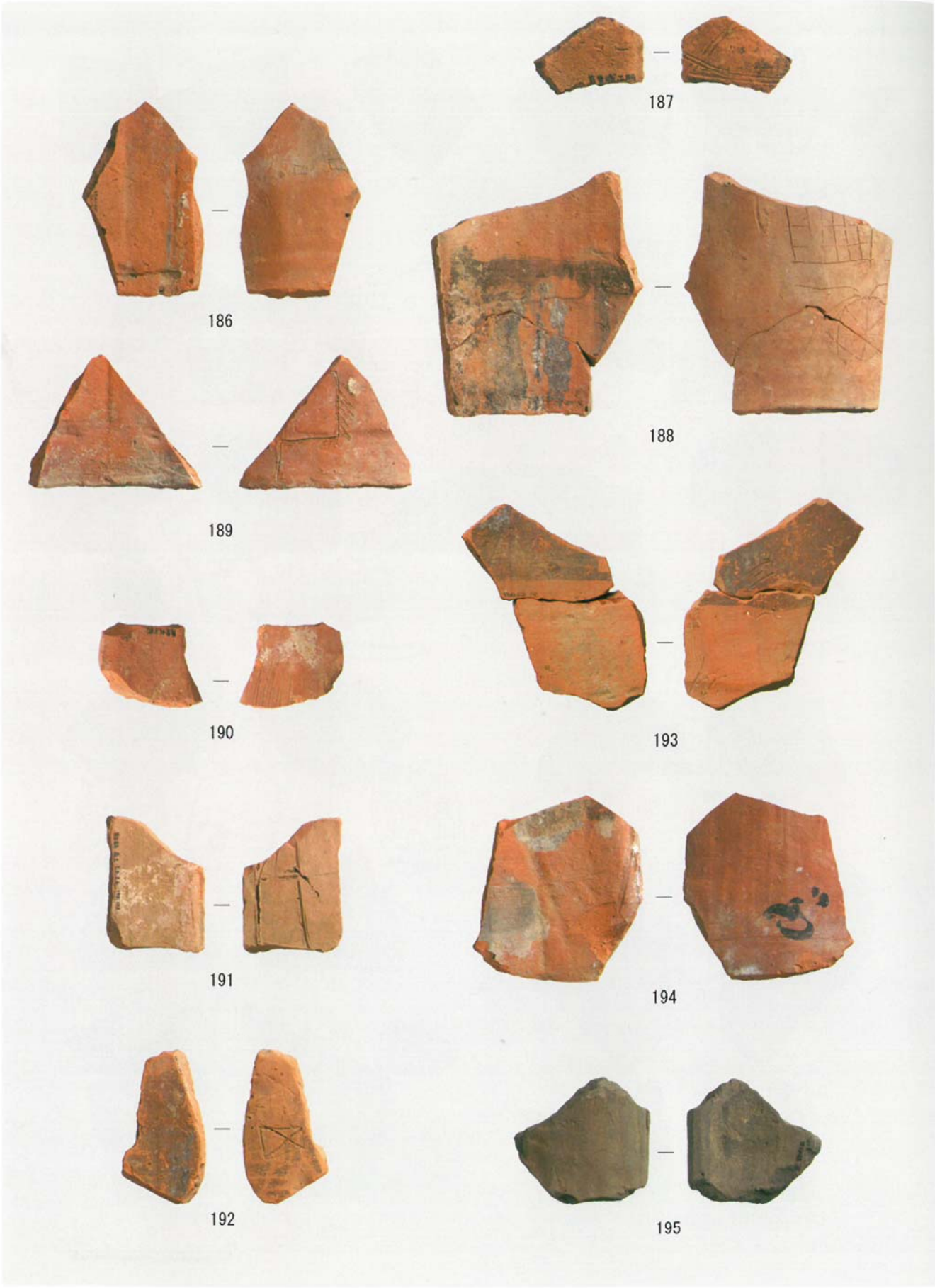
第 114 図　瓦 23（高麗系瓦 2，明朝系瓦 12）



図版 81　瓦 21（高麗系瓦 2，明朝系瓦 10）

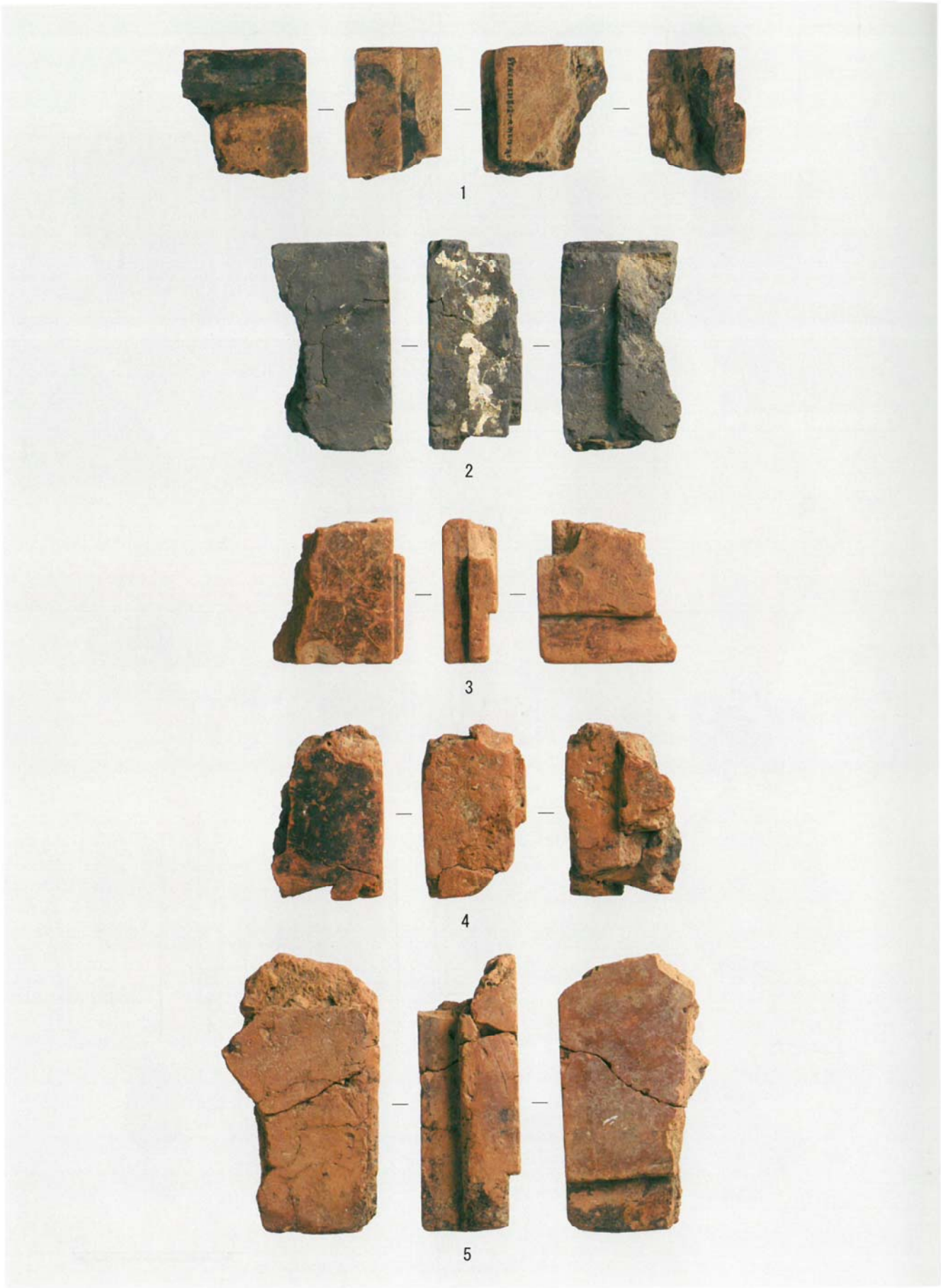


第 115 図　瓦 24（明朝系瓦 13）

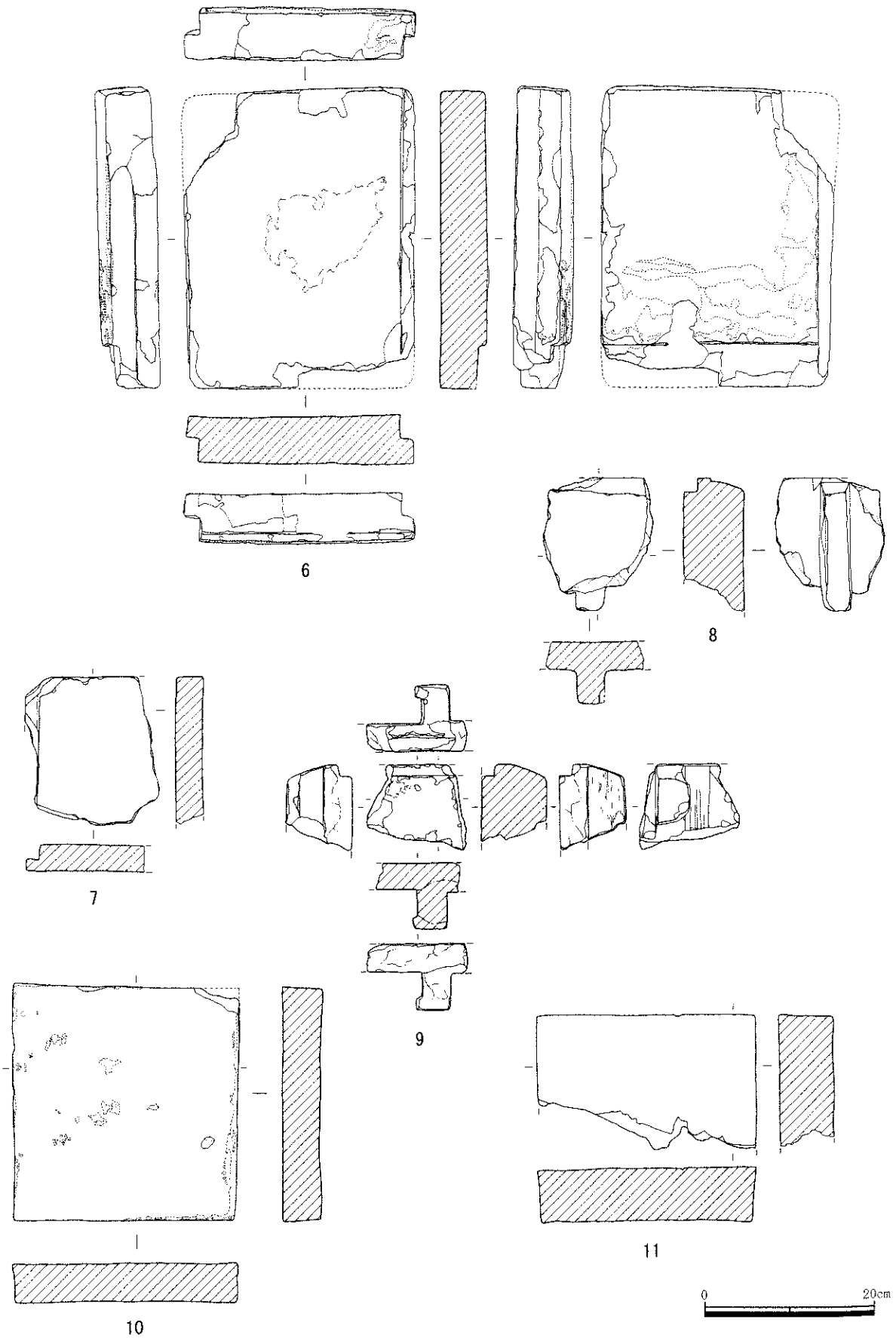


図版 82　瓦 22（明朝系瓦 11）

第 116 図　塼 1

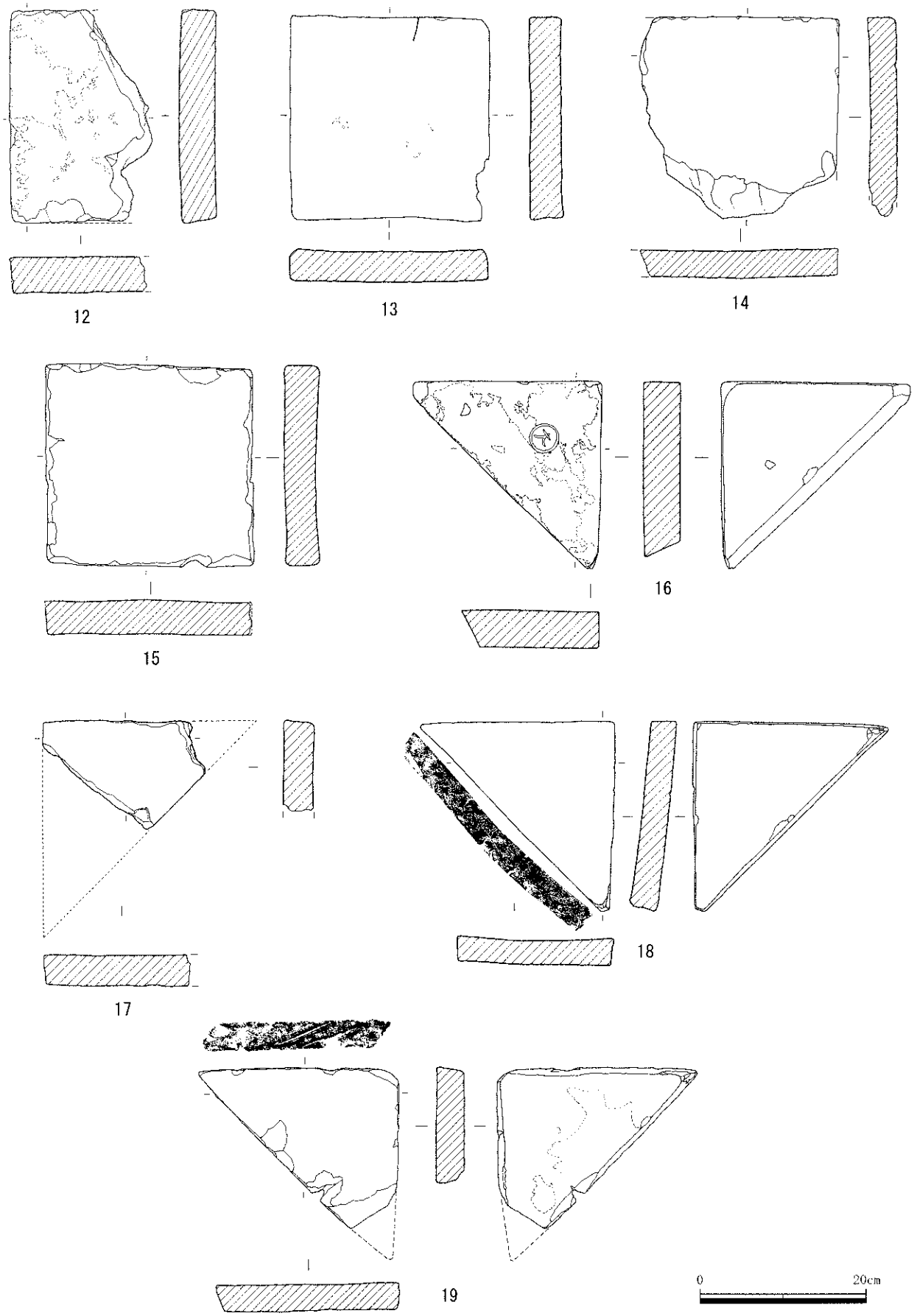


図版 83　塼 1

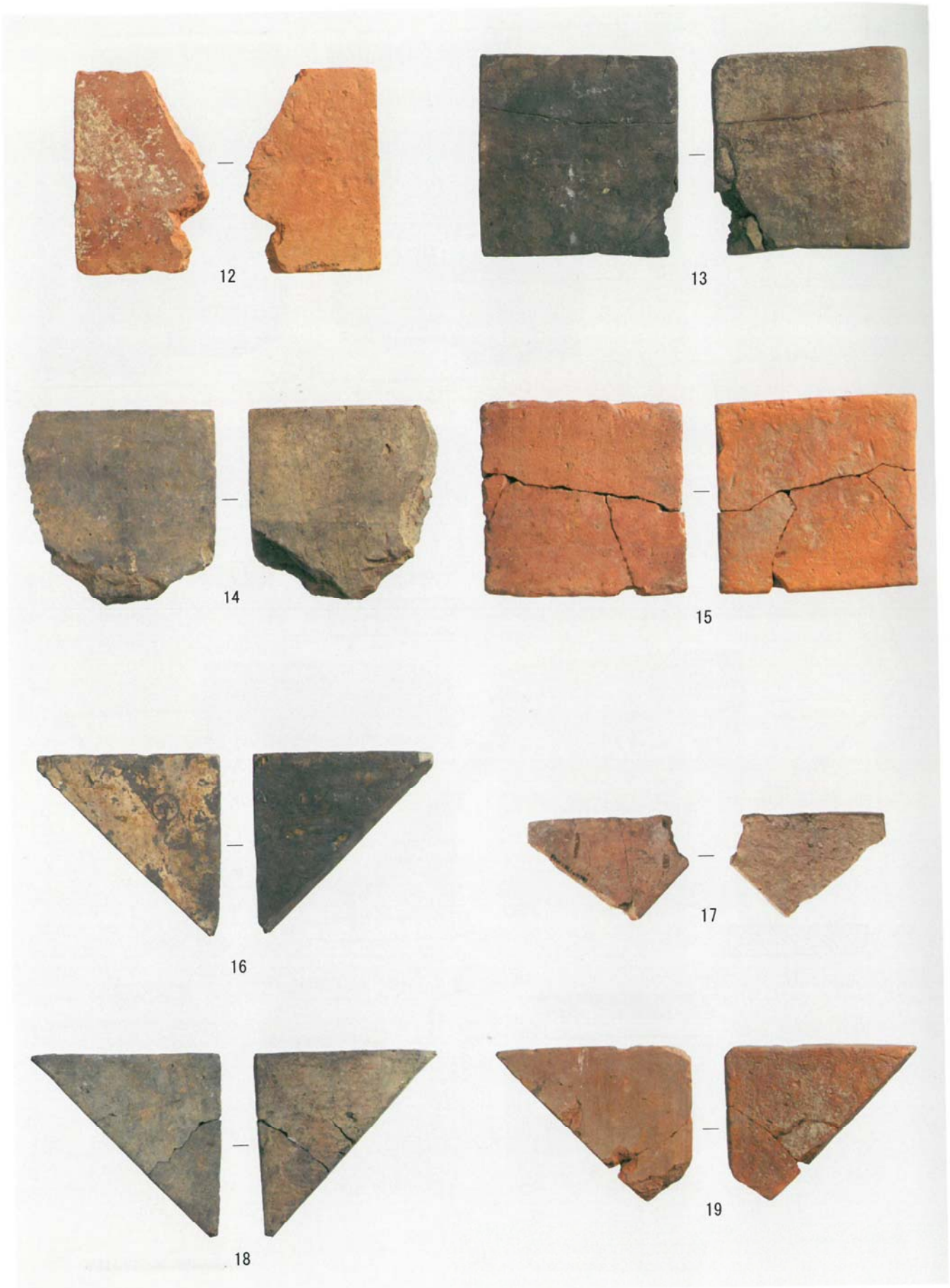


第 117 図　墳 2

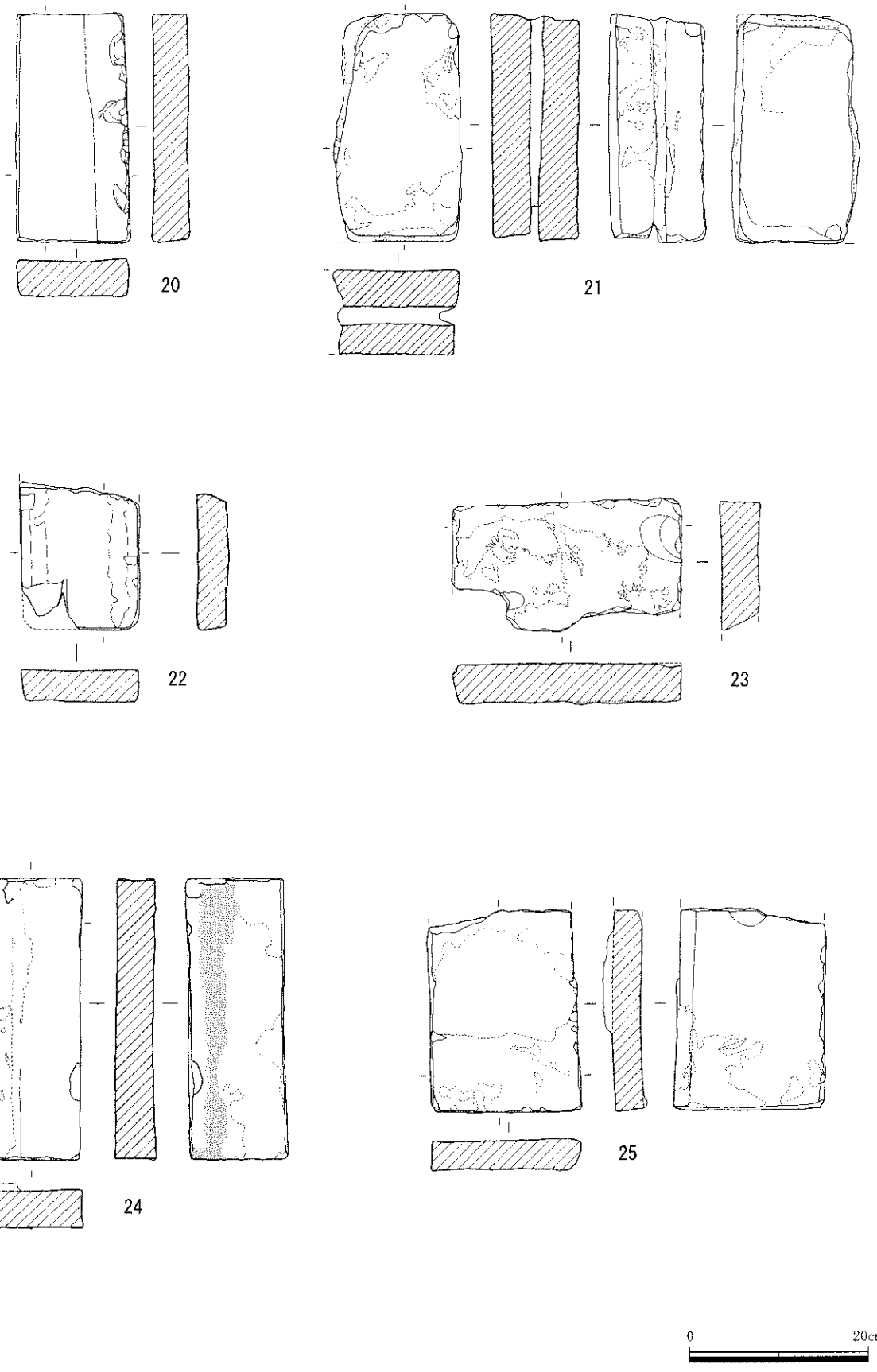
図版 84　塼 2



第 118 図　塼 3



図版 85　墳 3



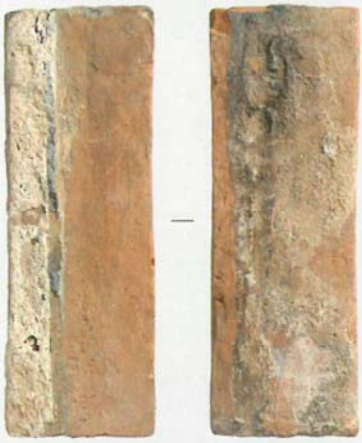
第 119 図　塼 4

20

21

22

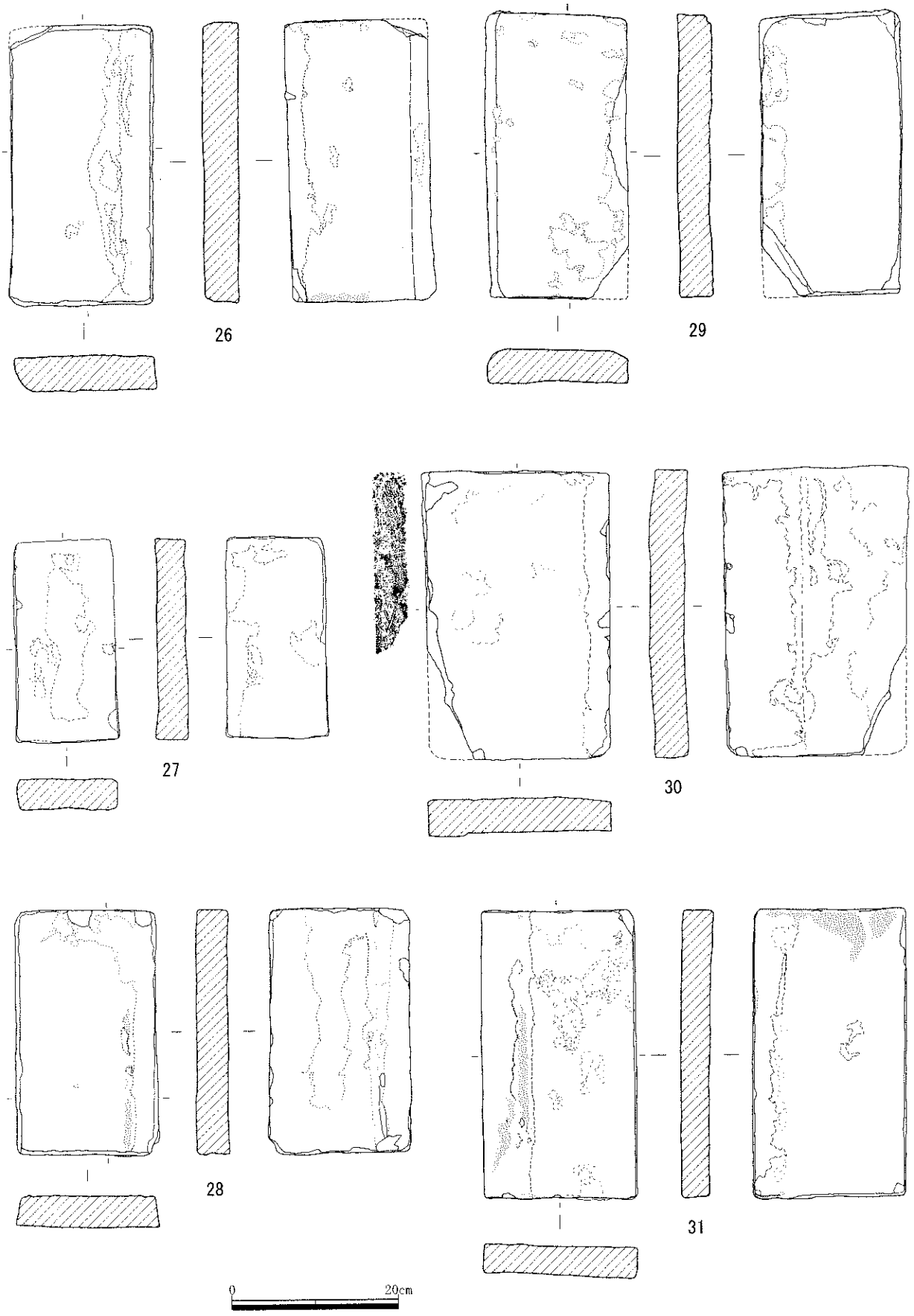
23



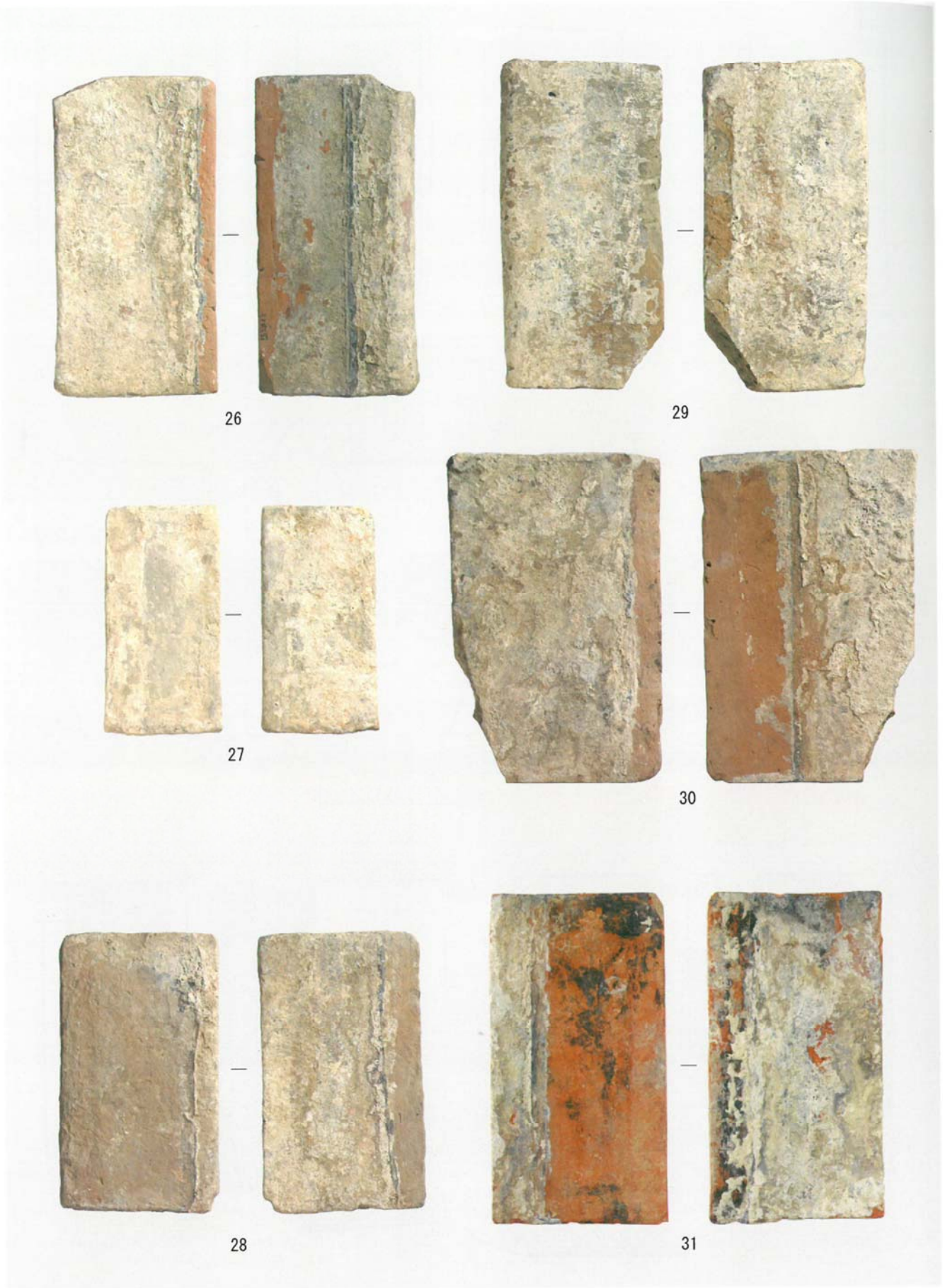
24

25

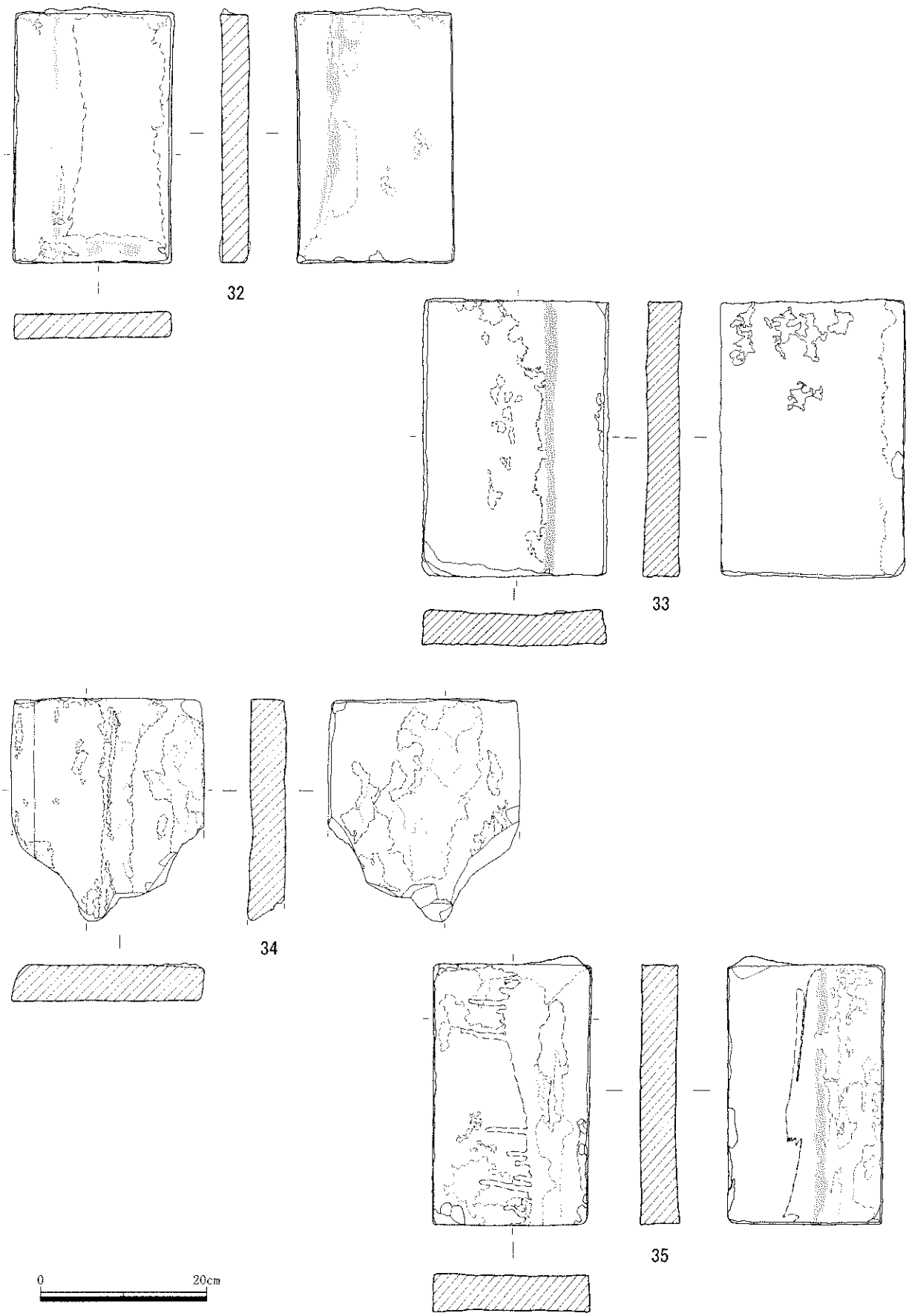
図版 86　塼 4



第120図　塼5

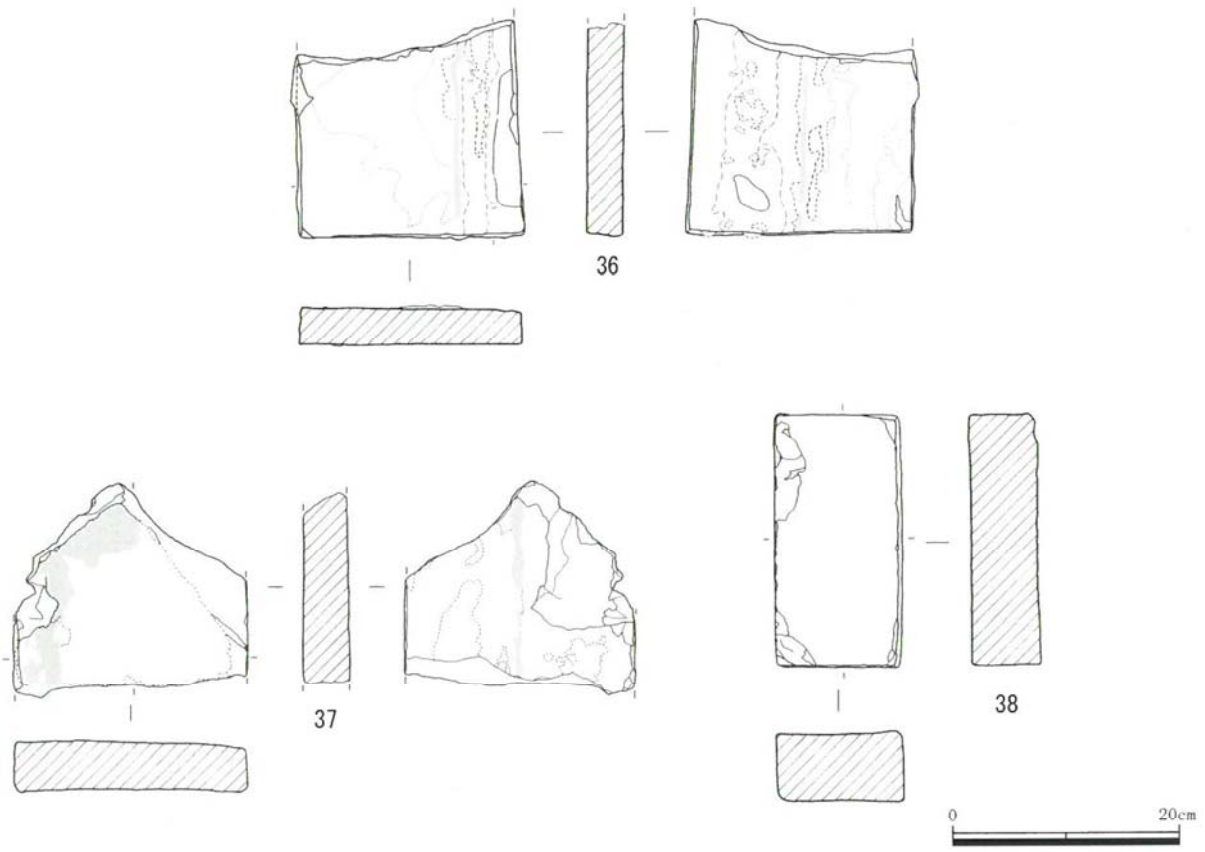


図版 87　塼 5

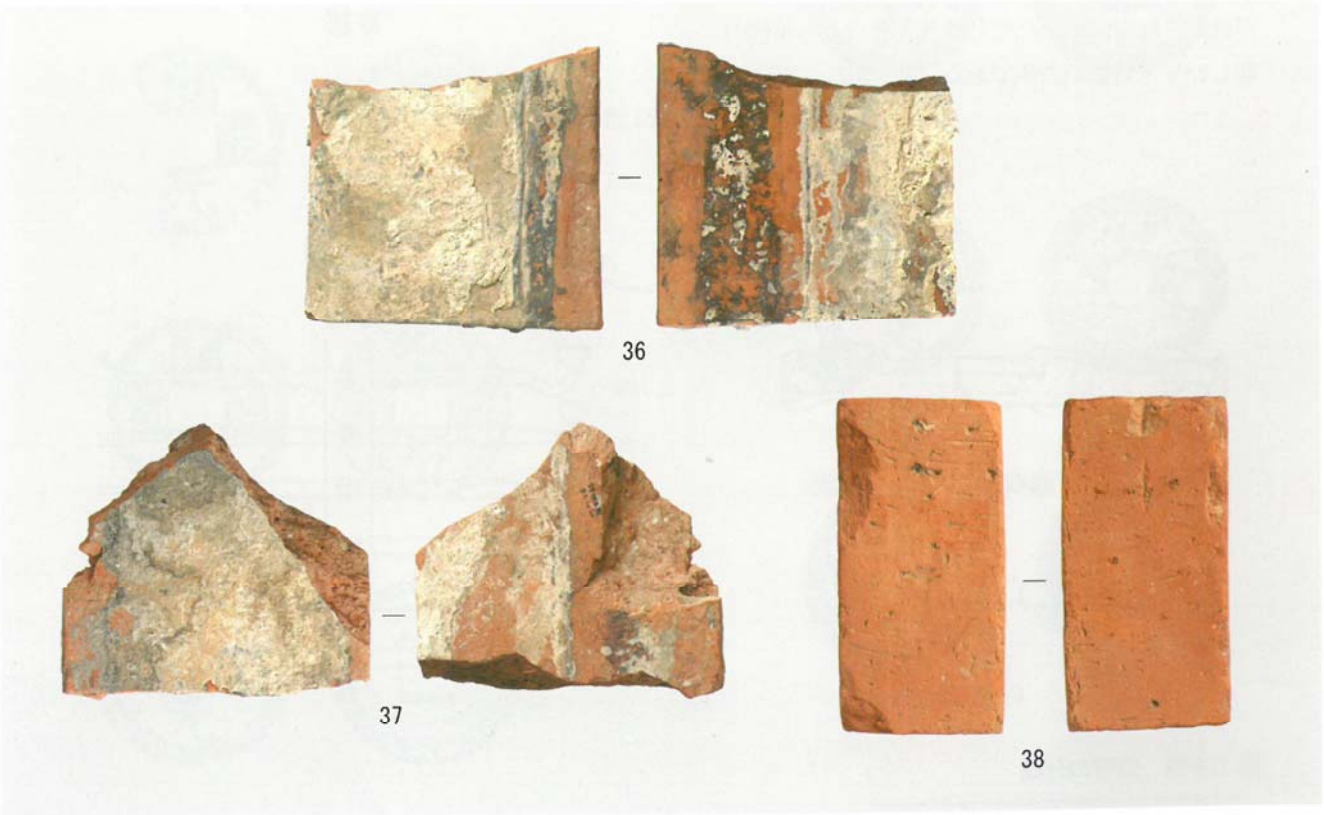


第 121 図　墳 6

図版 88　塼 6



第 122 図　塼 7



図版 89　塼 7

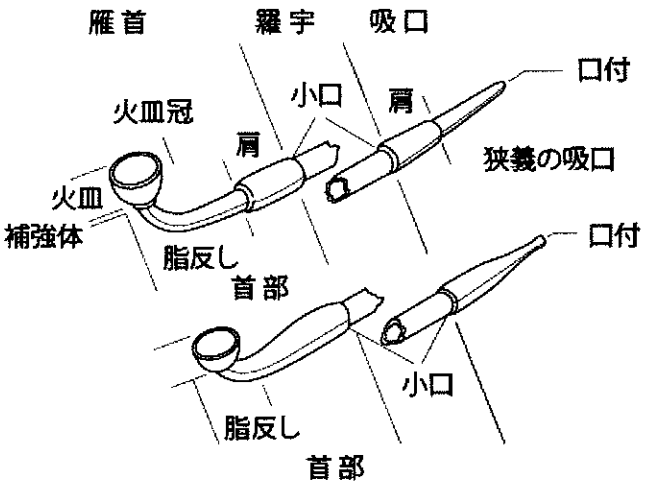
9　銭貨

正殿地区からは総数802点の銭貨が出土している（第37表）。産地別では中国・日本・琉球・満州・米国などがみられ、年代別だとグスク時代と考えられる資料が中国銭44種367点・琉球銭2種19点の計46種386点、近世のものは中国3種3点・日本1種38点の計4種41点、近代は日本銭5種65点・満州銭1種1点・米国銭1種5点の計7種71点がそれぞれ確認されている。その他、無文銭・輪銭・不明銭なども計304点得られている。

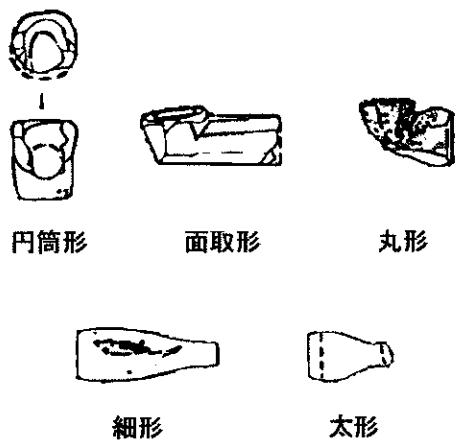
以下、特徴的な資料を第125～134図に示し、個々の詳細は観察表（第38表）に記す。

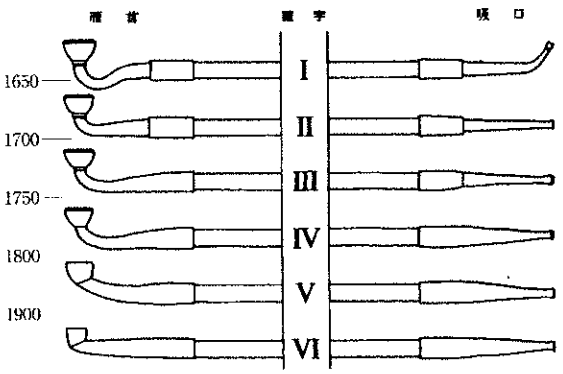
10　煙管

正殿地区からは、非金属製の雁首54点、金属製雁首6点、非金属製吸口15点、金属製吸口8点、延べ煙管2点の全85点が出土している。非金属製は瓦質もしくは瓦を転用した円筒形（1・2）、無釉の面取り形（3～9）、施釉の丸形（13、15、17、19）の3種があり、うち面取りが最も点数が多い。また指頭圧痕が表面に残るもの（10）が1点のみ得られている。吸口は太形（11・12、14、16、18）と細形とがあるが、この地区ではいずれも施釉太形のみ確認された。なお、県内では希少な肥前産染付の吸口が1点のみ確認されている。金属製は古泉による江戸遺跡における金属製煙管の分類を参照すると、雁首でIII類からVI類、吸口はIV類～VI類が確認されている。ただし雁首・吸口とも年代の新しいV・VI類が主体である（20・21）。

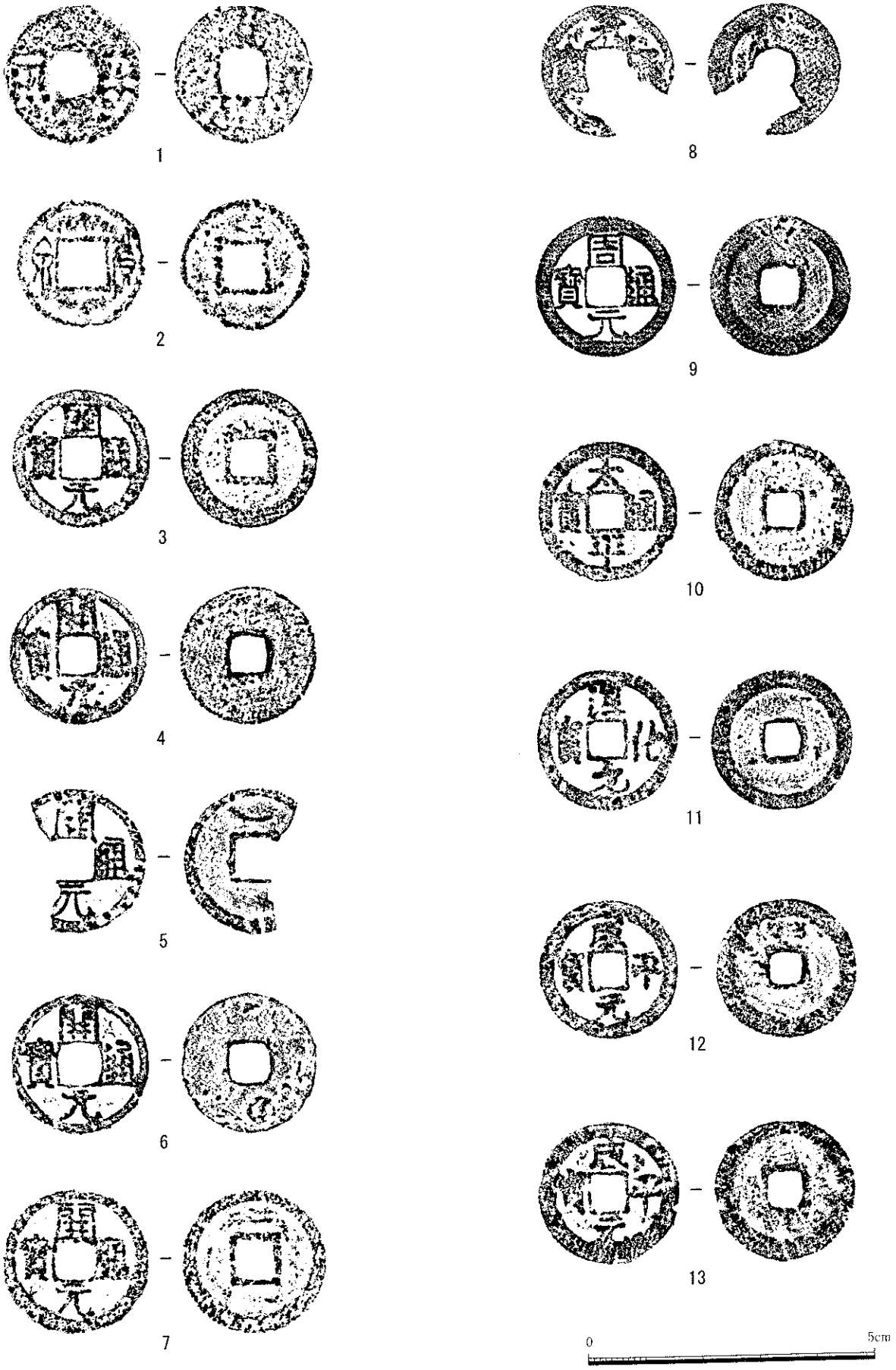


第123図　煙管の部位名称

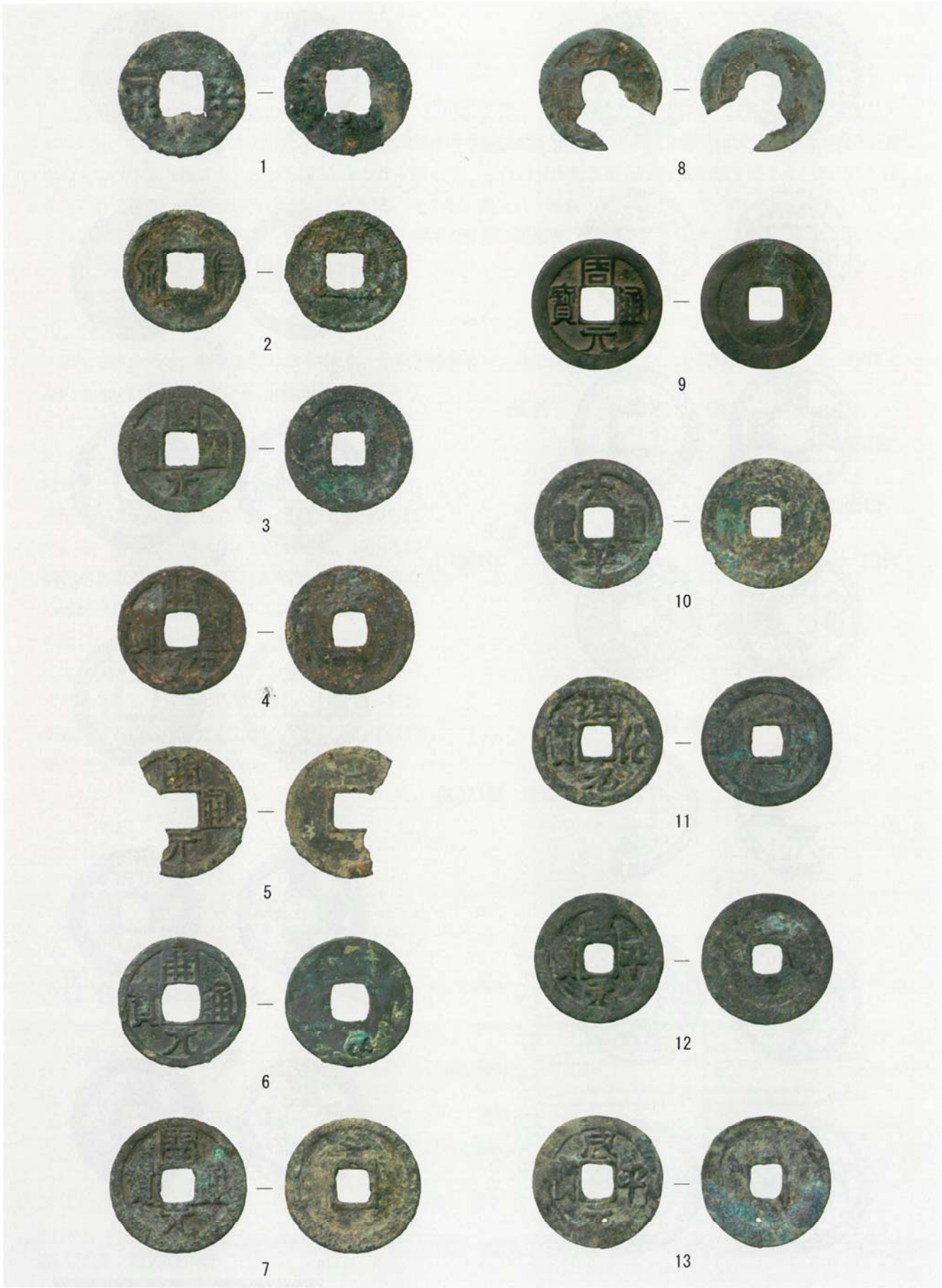




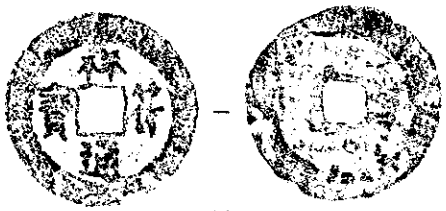
第124図　煙管の分類

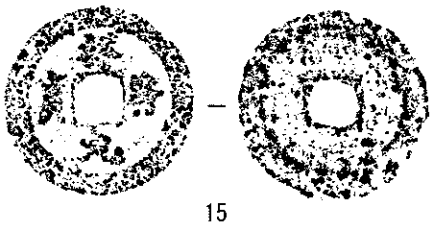


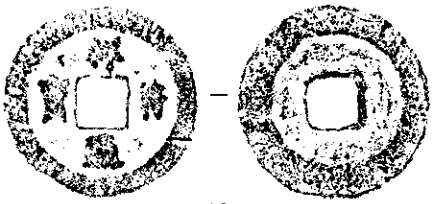
第 125 図　銭貨 1

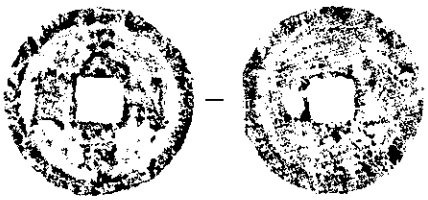


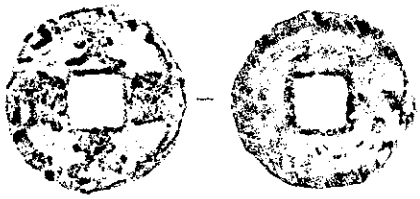
図版 90　銭貨 1

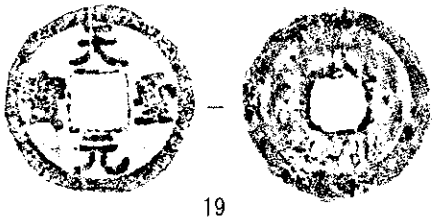

14


15


16

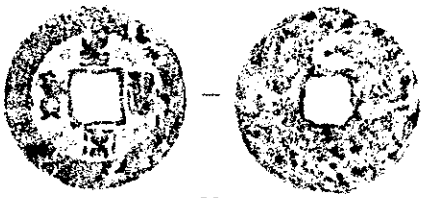

17


18

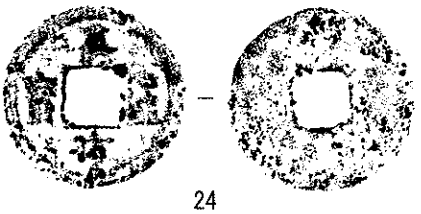

19

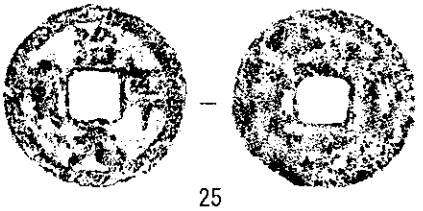
20

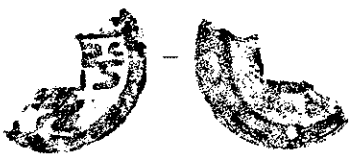
21


22

23

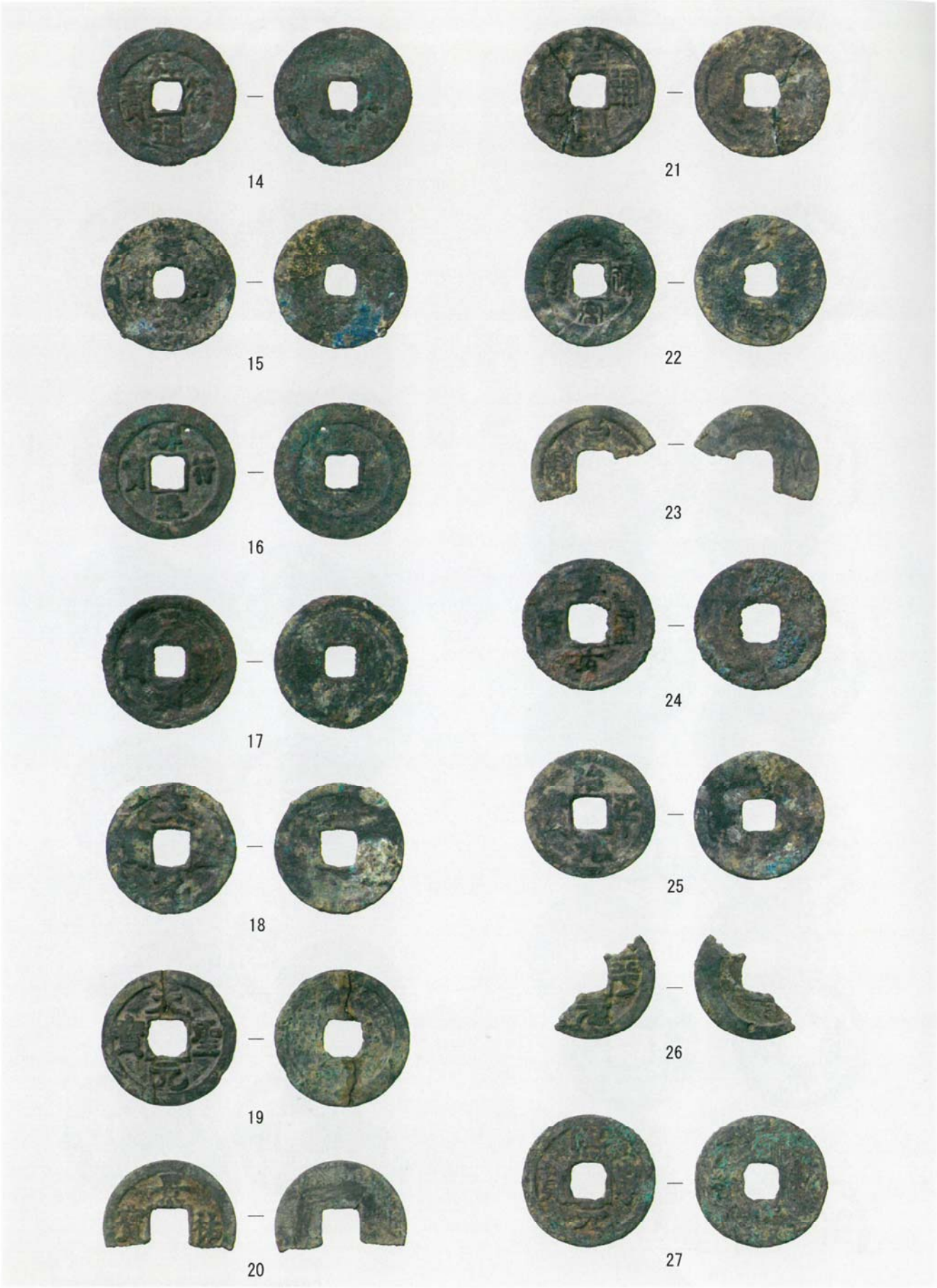

24


25

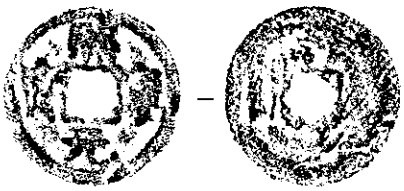

26

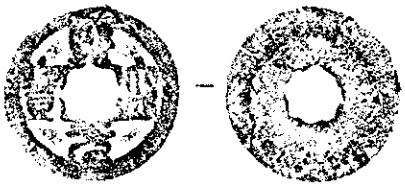
27

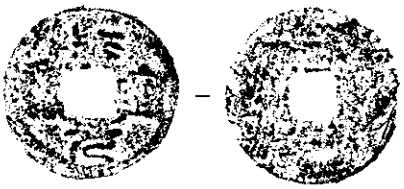
第 126 図　銭貨 2

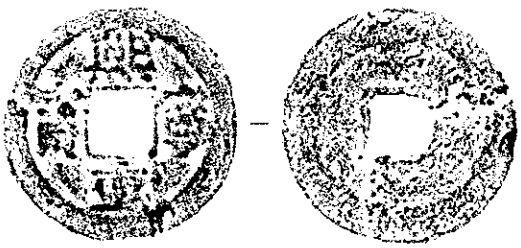


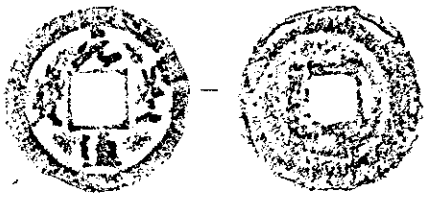
図版 91　銭貨 2


28

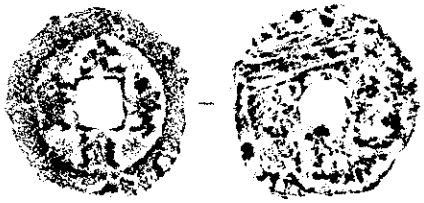

29

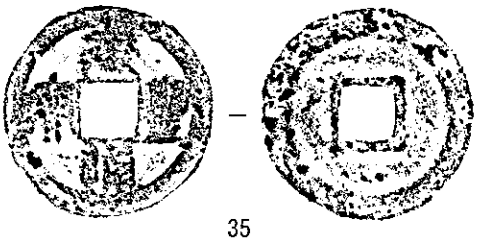

30

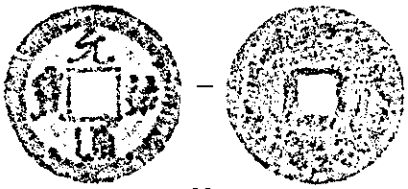

31

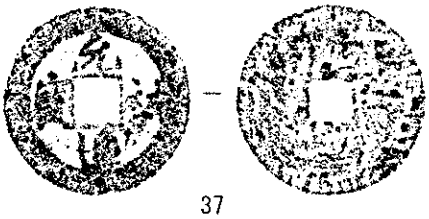

32

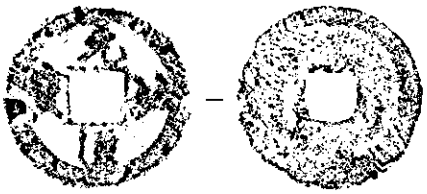
33

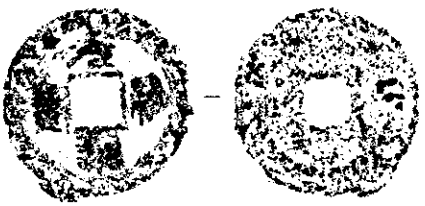

34


35

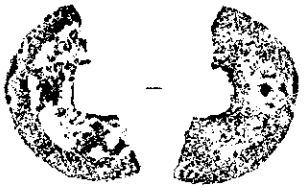

36


37


38

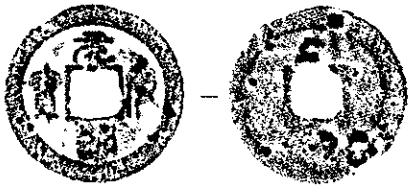

39

40

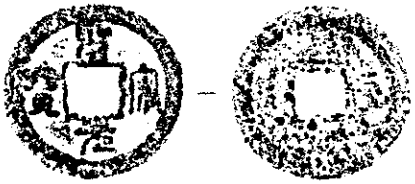

41

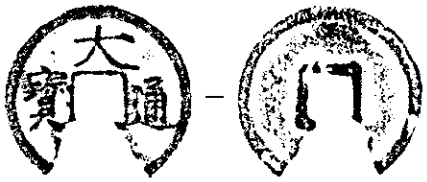
第 127 図　銭貨 3

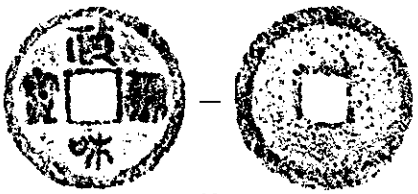
図版 92　銭貨 3

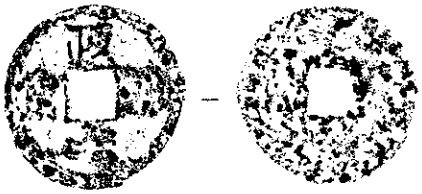

42

43


44


45

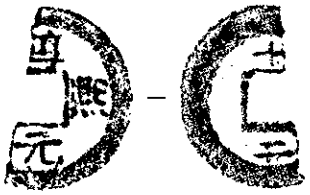

46

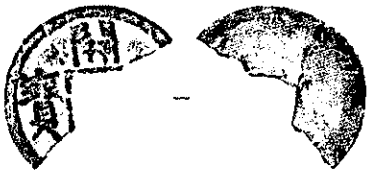

47

48

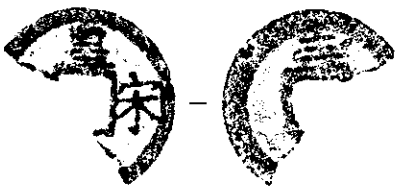
49

50


51

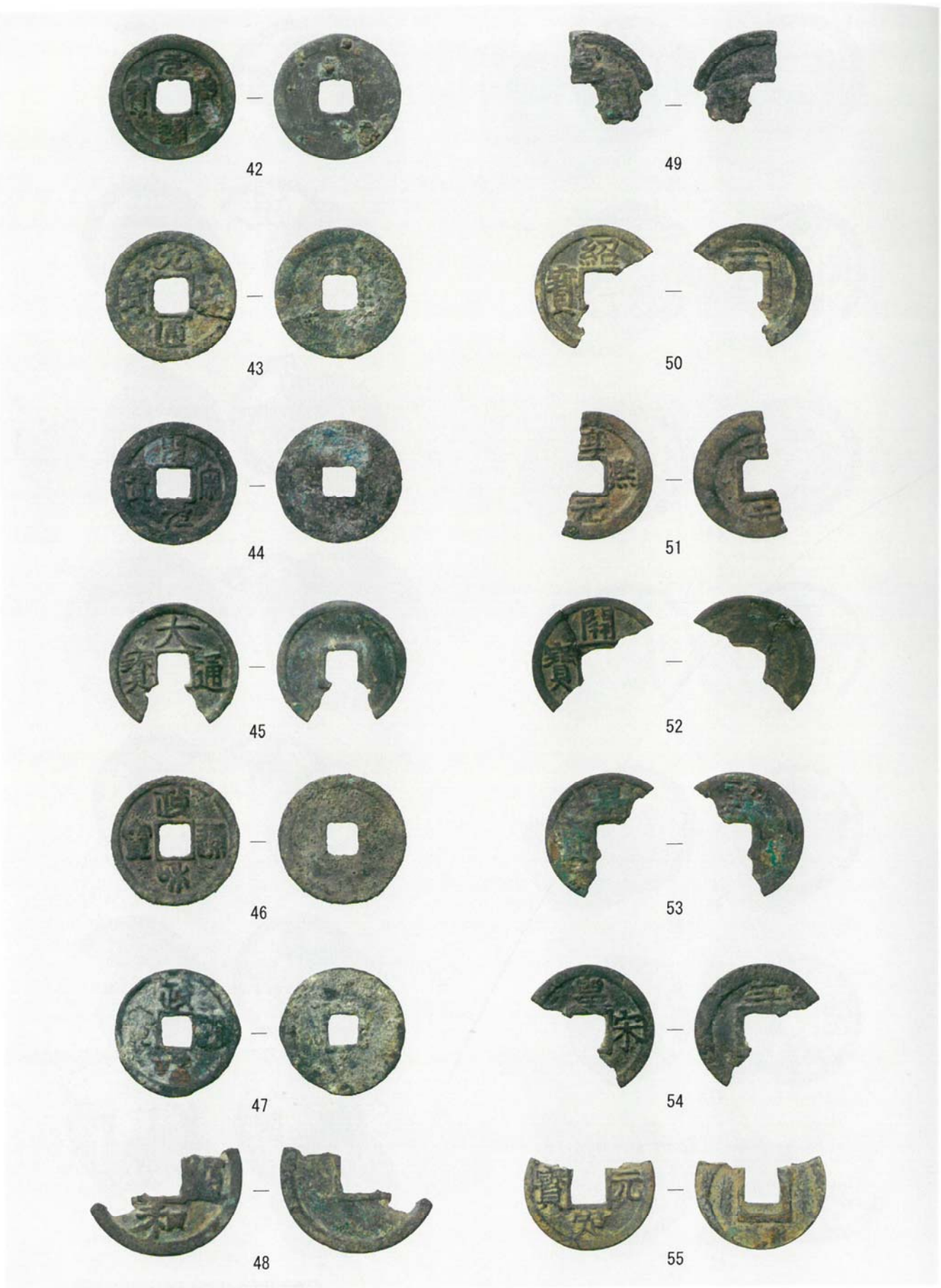

52

53

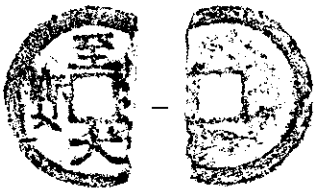

54

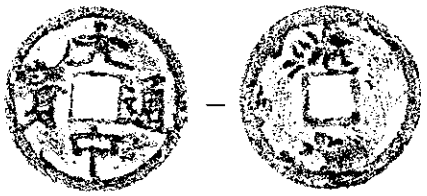
55

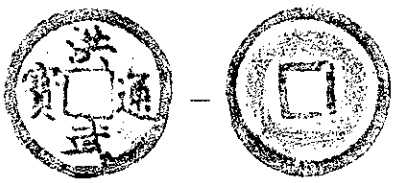
第 128 図　銭貨 4

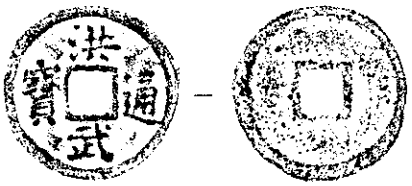


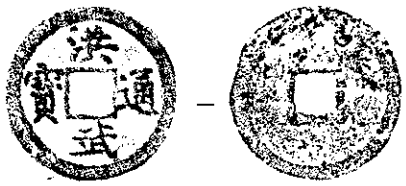
図版 93　銭貨 4

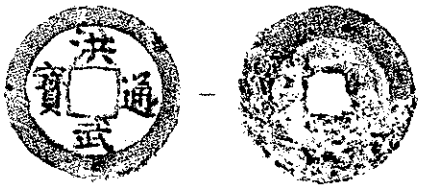

56

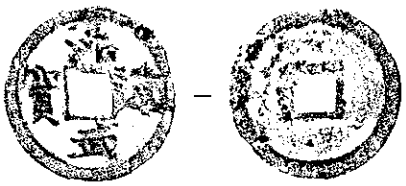

57

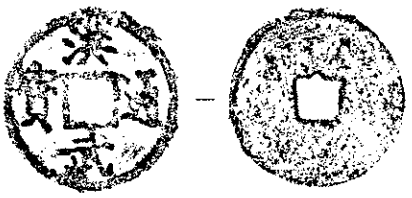

58

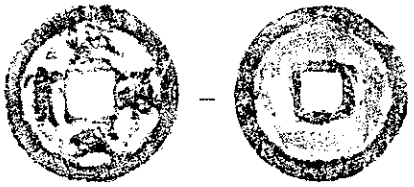

59

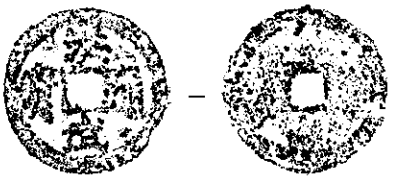

60

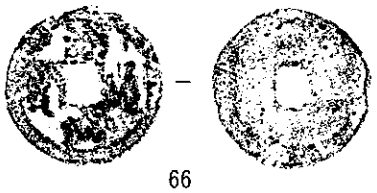

61


62

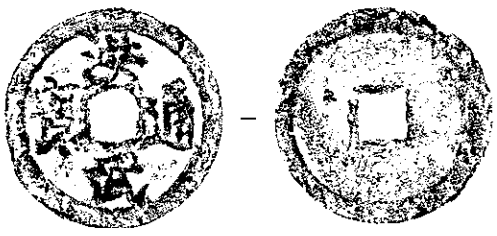

63


64

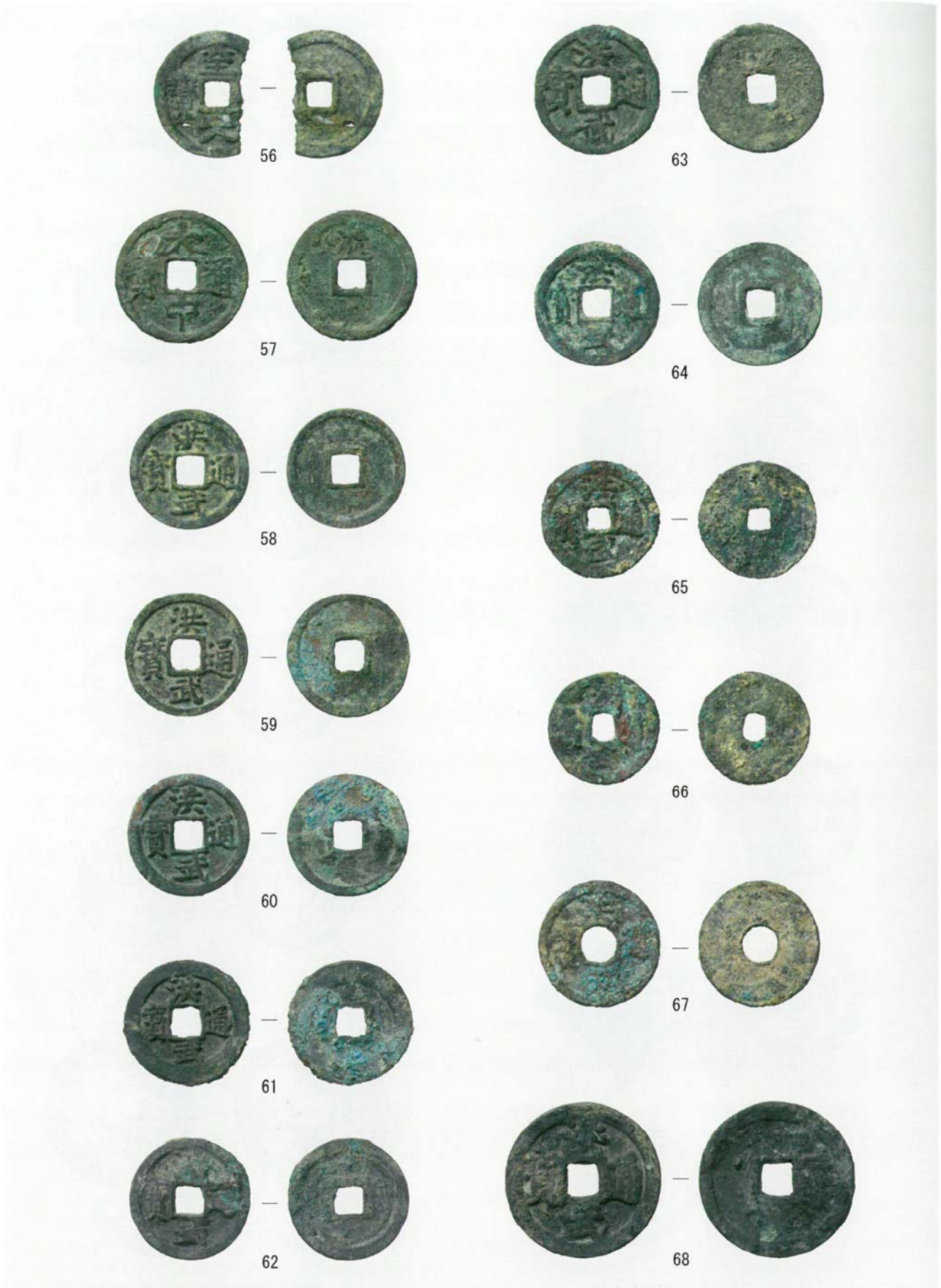

65


66

67

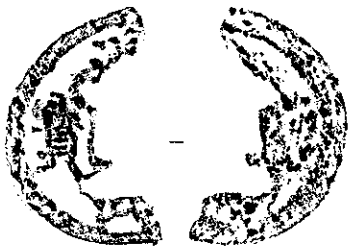

68

第 129 図　銭貨 5



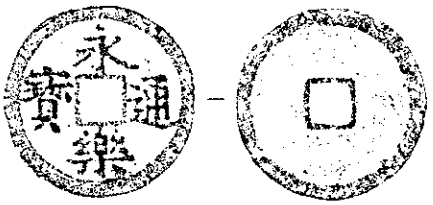
図版 94　銭貨 5

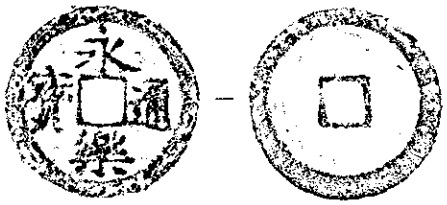
69

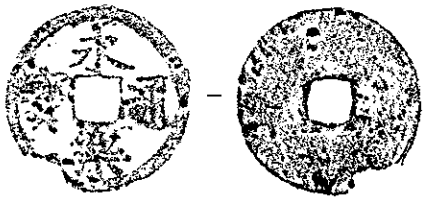

70

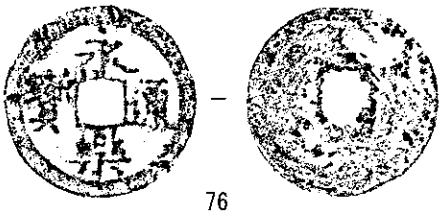
71

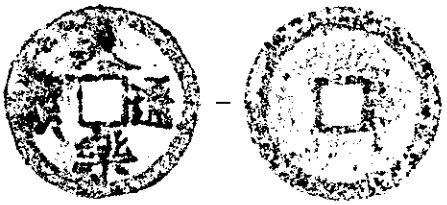
72

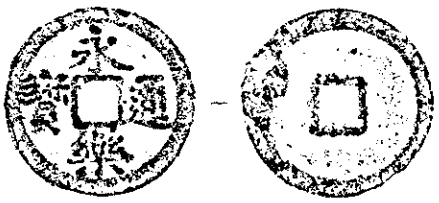

73

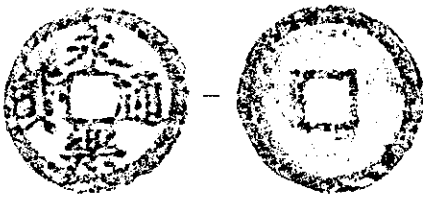

74

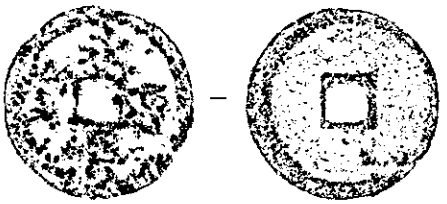

75


76

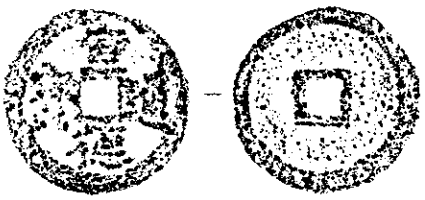

77


78


79

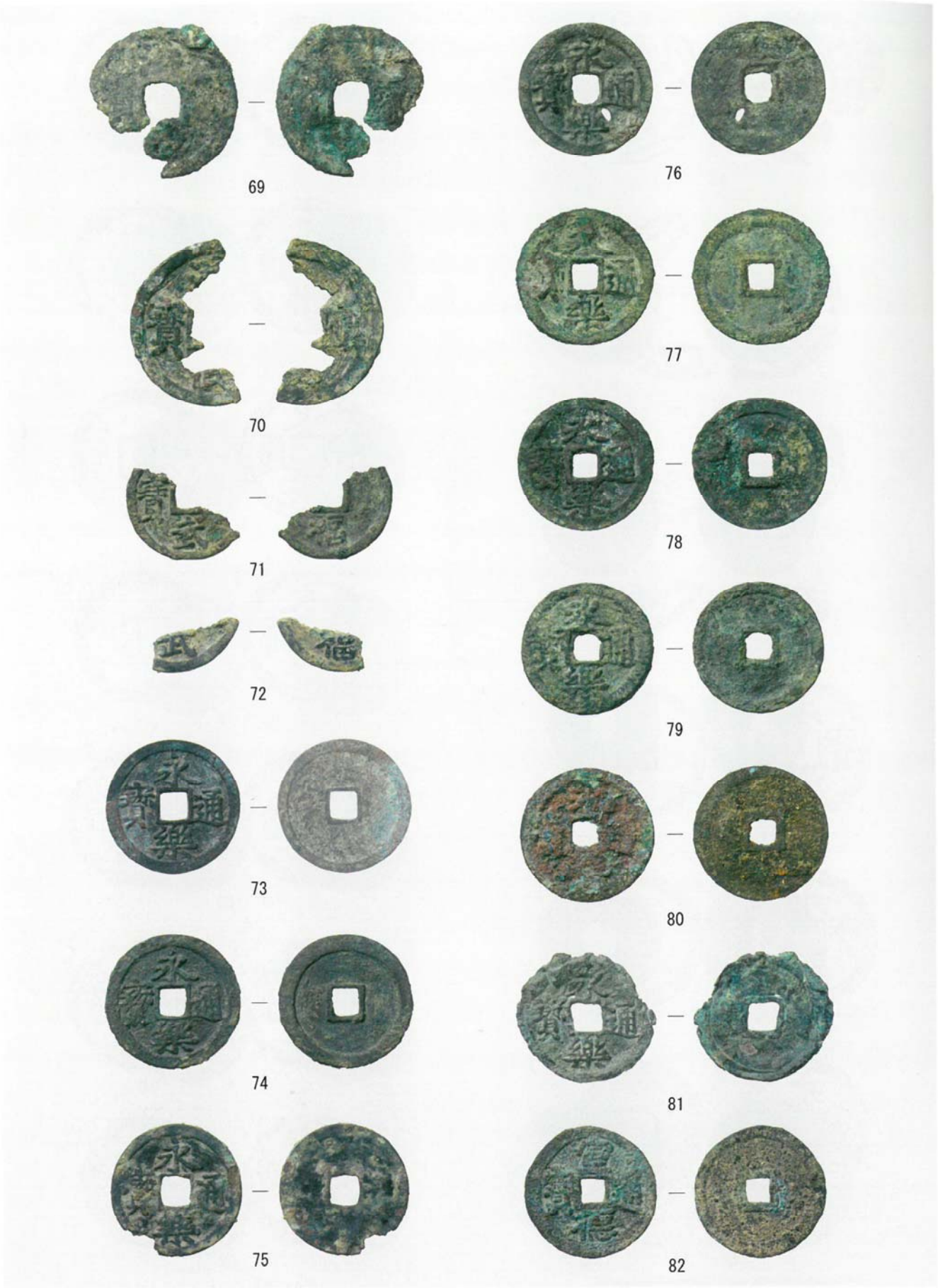

80

81

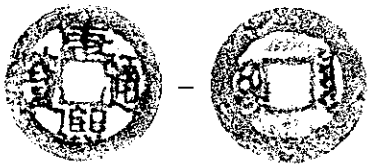

82

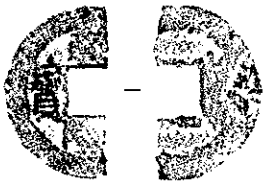
0 5cm

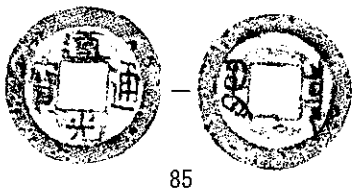
第 130 図　銭貨 6



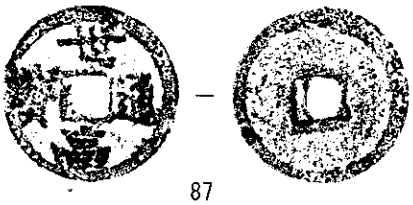
図版 95　銭貨 6

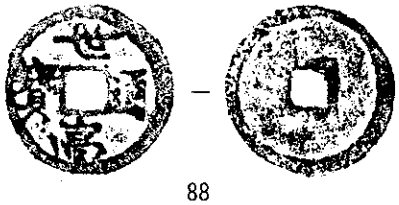

83

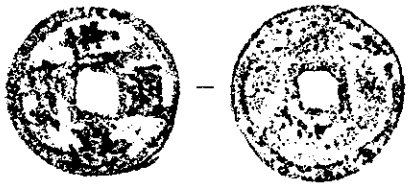

84

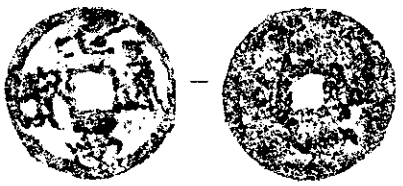

85

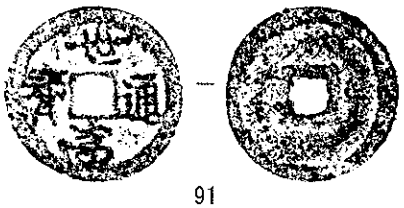
86

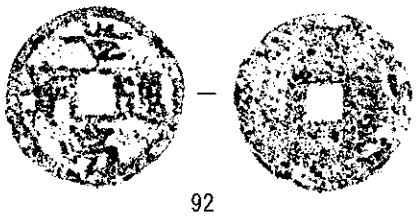

87

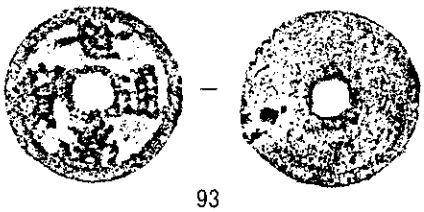

88


89

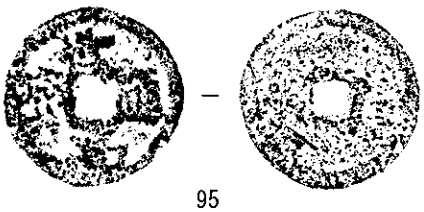

90

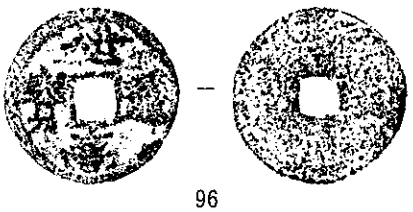

91


92

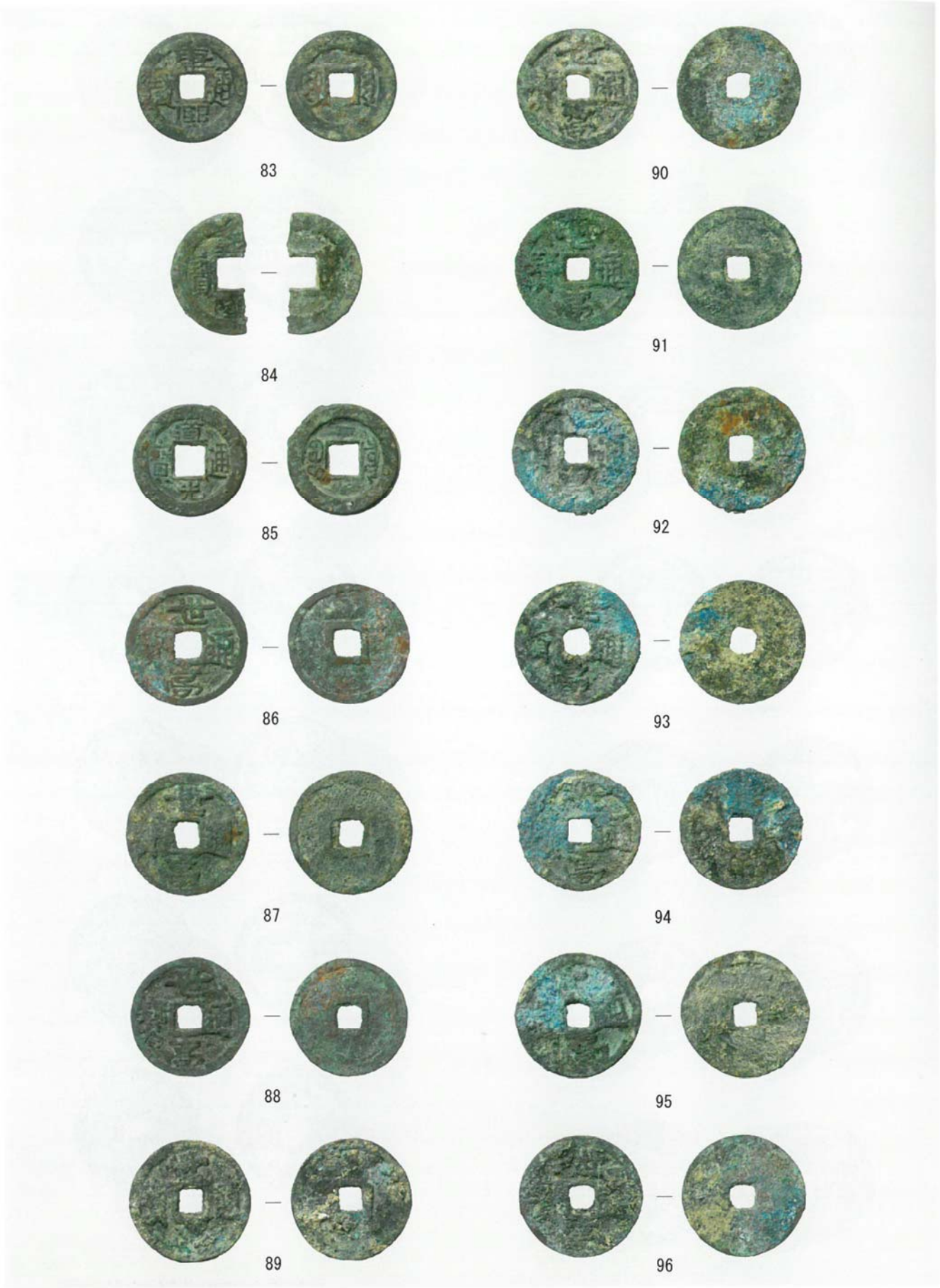

93

94

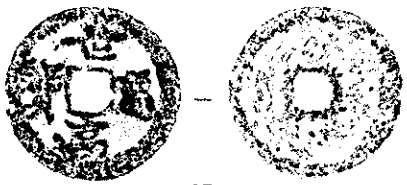

95


96

第 131 図　銭貨 7

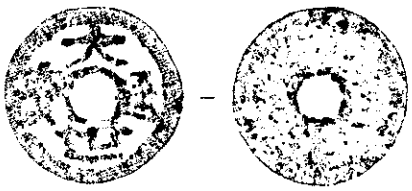


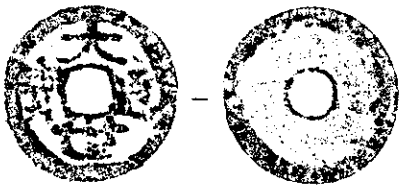
図版 96　銭貨 7

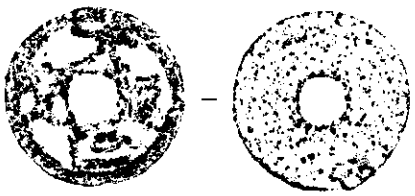

97

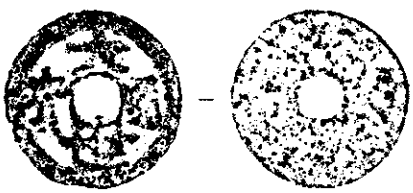
98

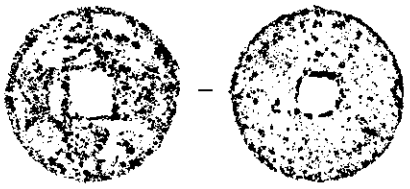
99

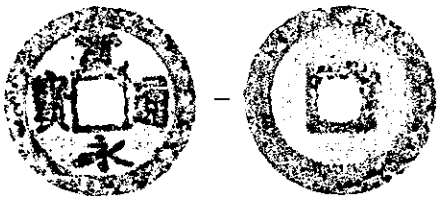

100

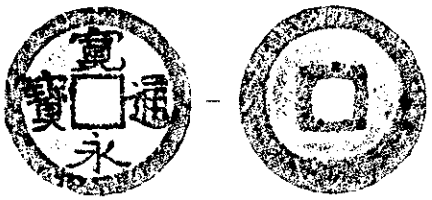

101

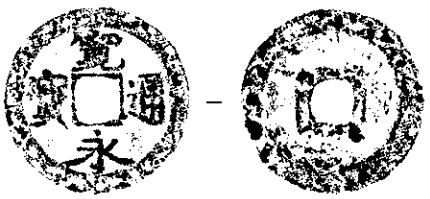

102

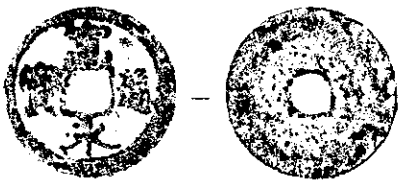

103

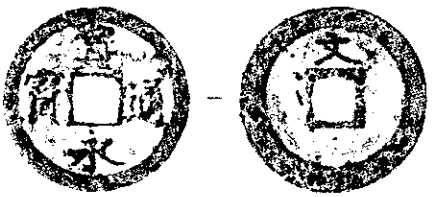

104


105

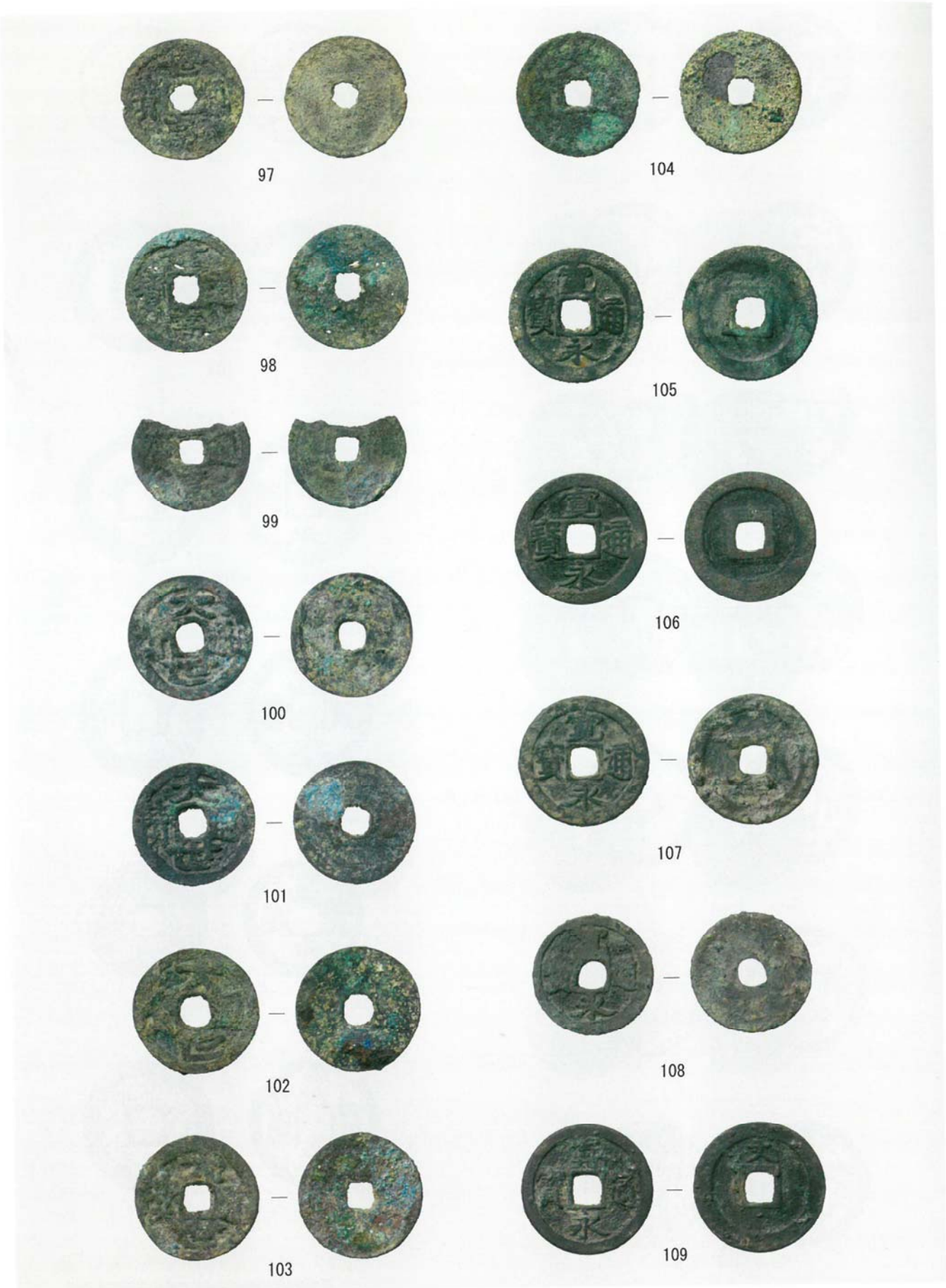

106


107

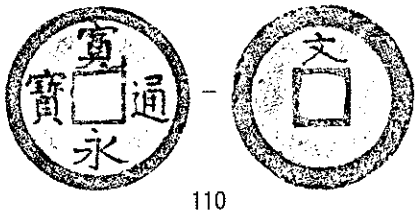

108


109

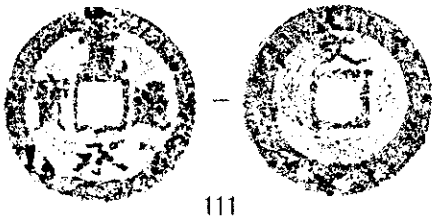
第 132 図　銭貨 8



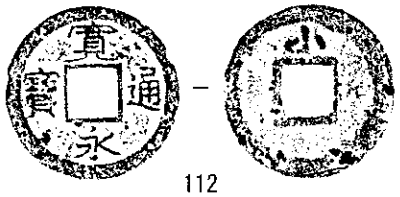
図版 97　銭貨 8



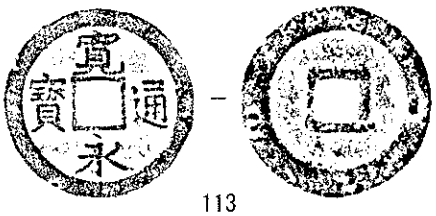
110



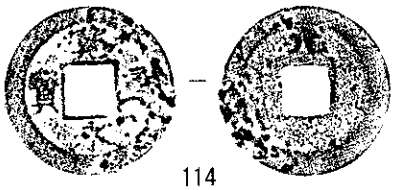
111



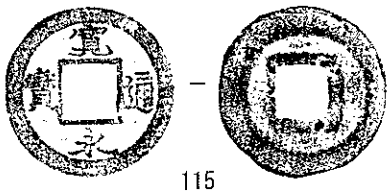
112



113

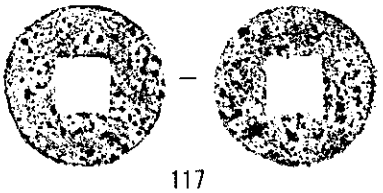


114

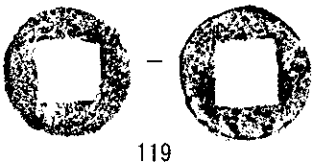


115

116


117

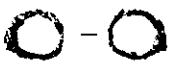
118


119

120

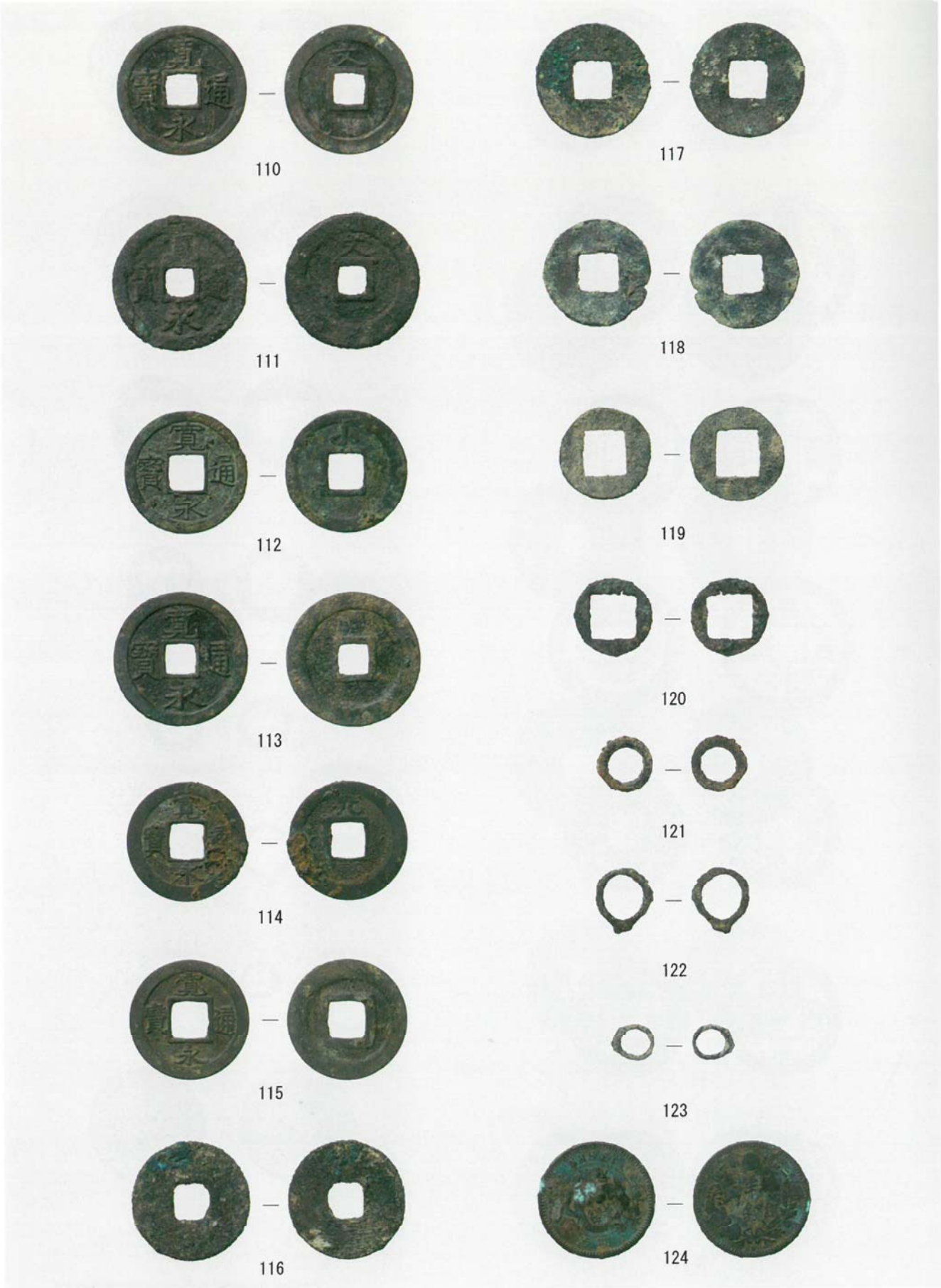
121

122

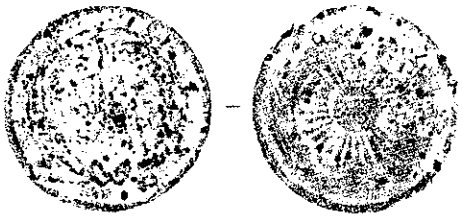

123

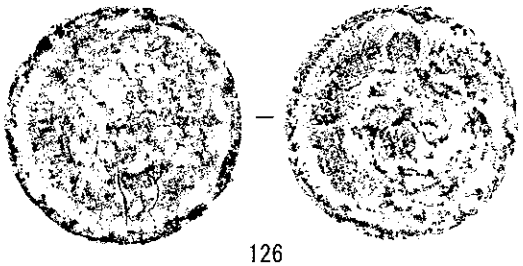
124

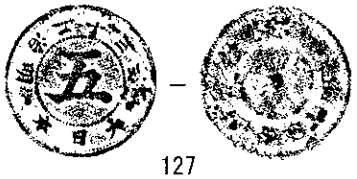
第 133 図　銭貨 9

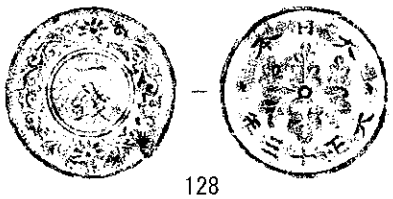


図版 98　銭貨 9


125

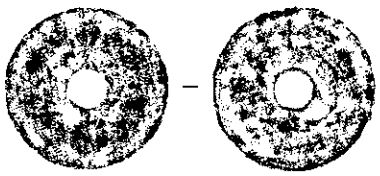

126


127


128

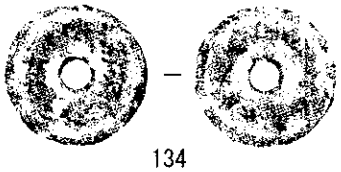
129

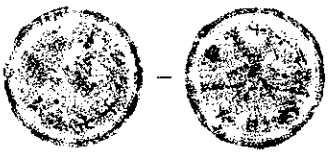
130

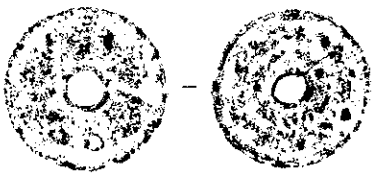

131

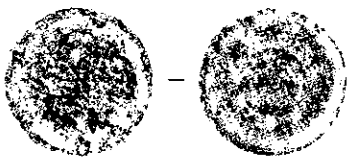
132

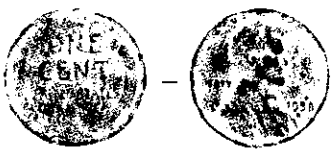
133


134


135


136

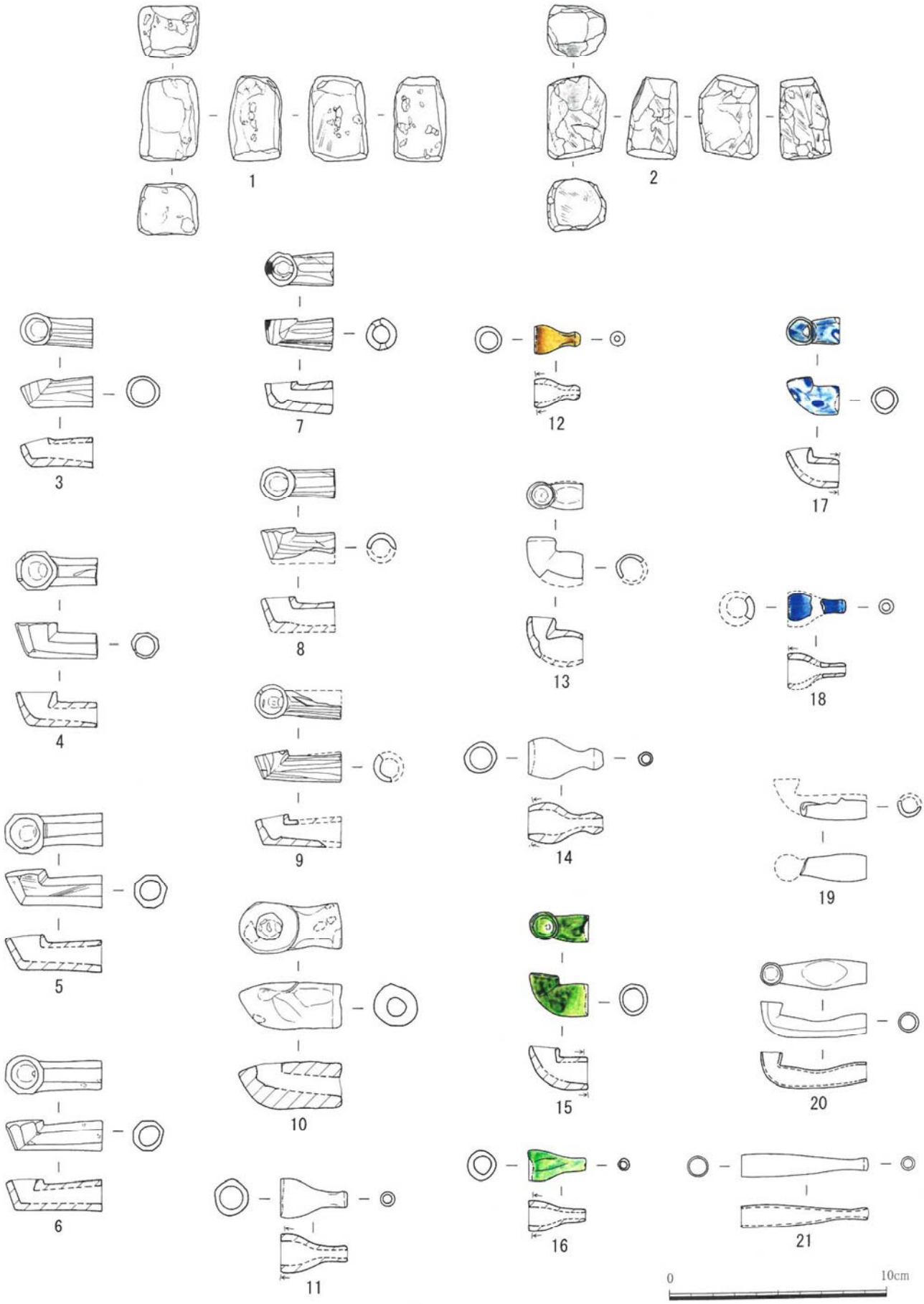

137



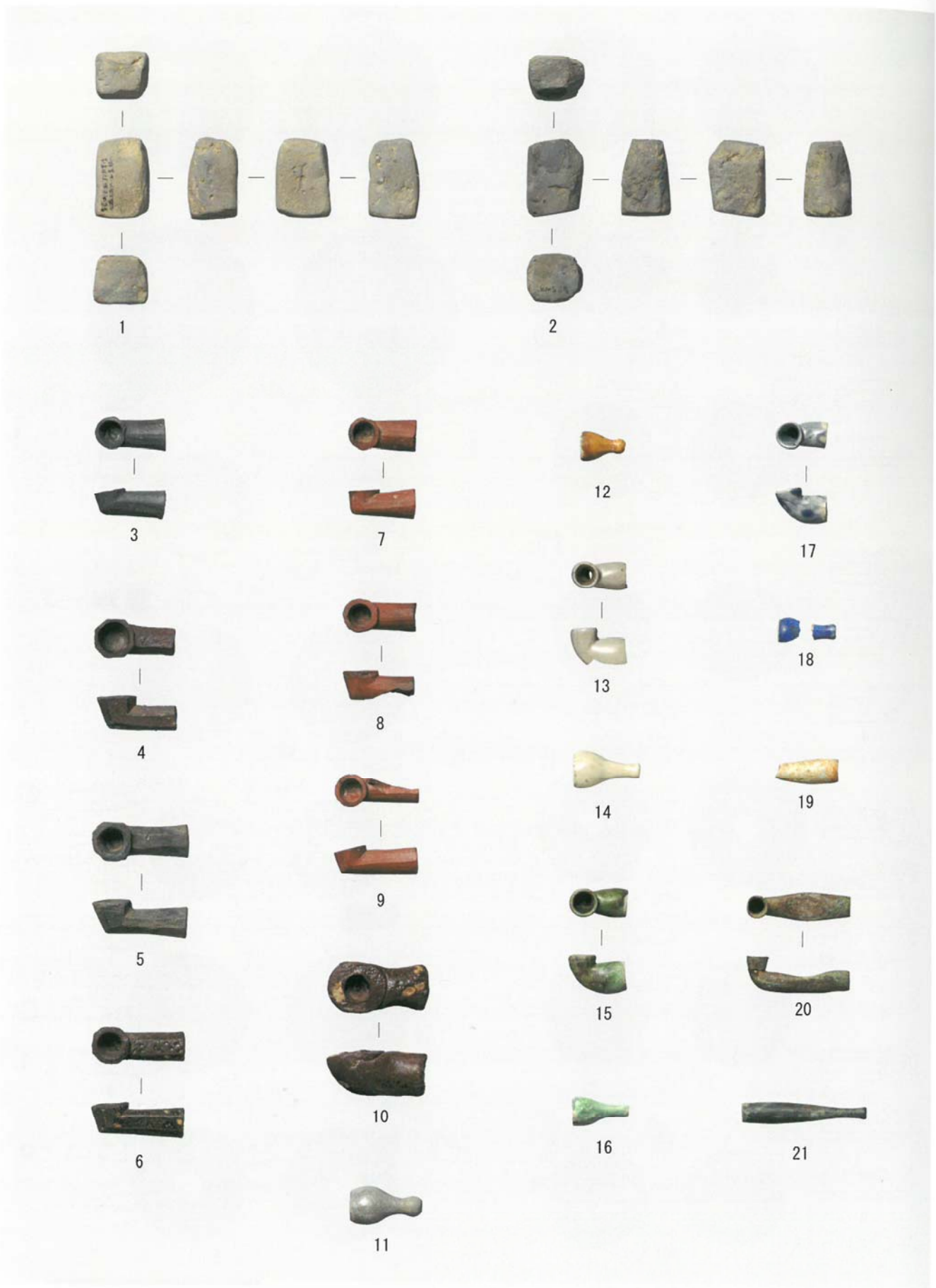
138

第 134 図　銭貨 10

図版 99　銭貨 10



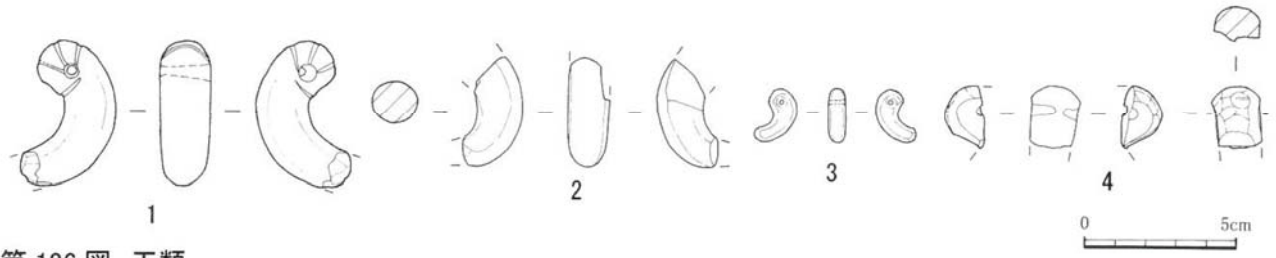
第 135 図　煙管



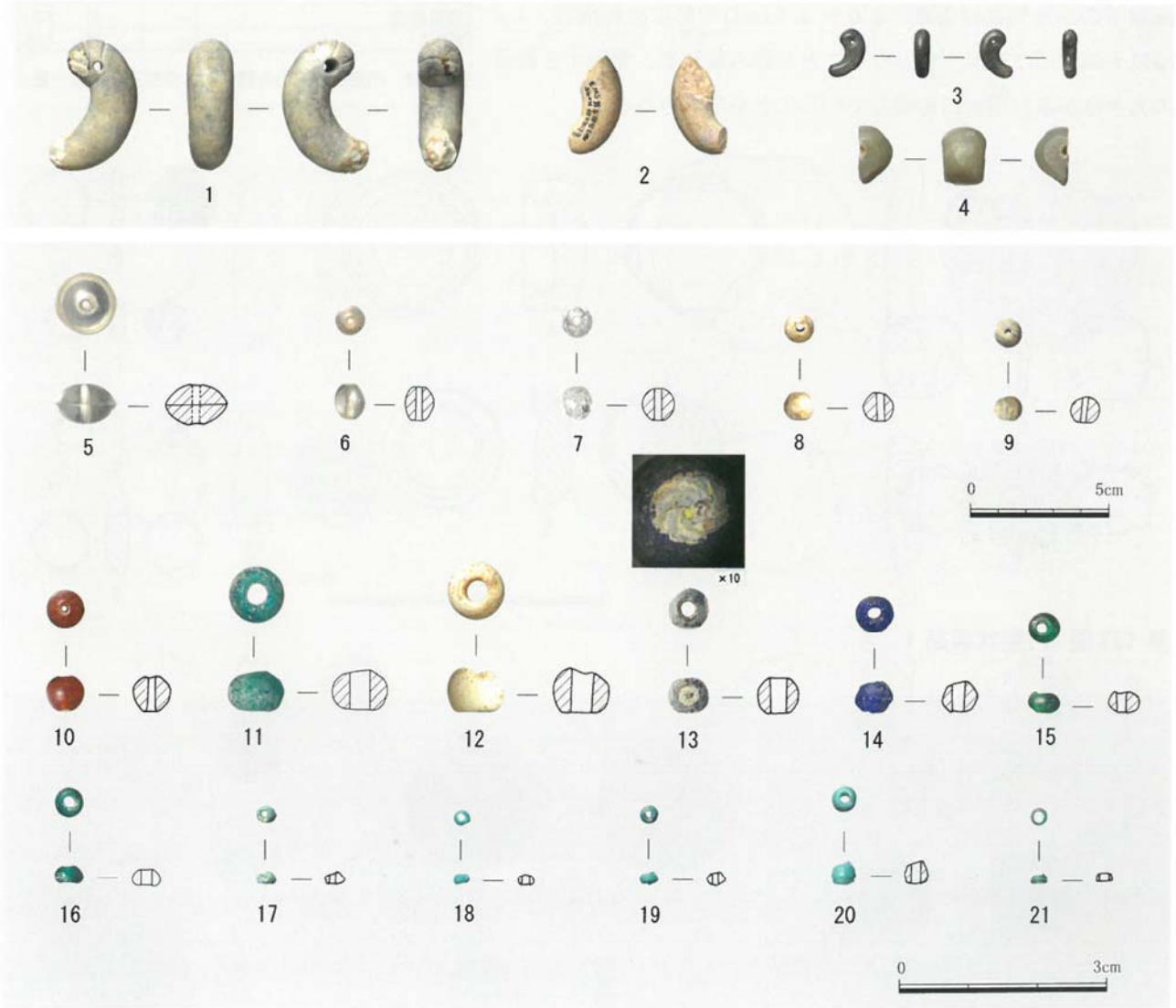
図版 100　煙管

11　玉類

全391点が出土し、勾玉、ガラス玉、小玉が確認された。勾玉には丁子頭勾玉（図版101－1）が含まれる。またガラス小玉は球形や扁平形のものを中心に377点が得られ、9種確認される色調では、水色・青色が約70%に及んでいる。



第136図　玉類



図版101　玉類

12　円盤状製品

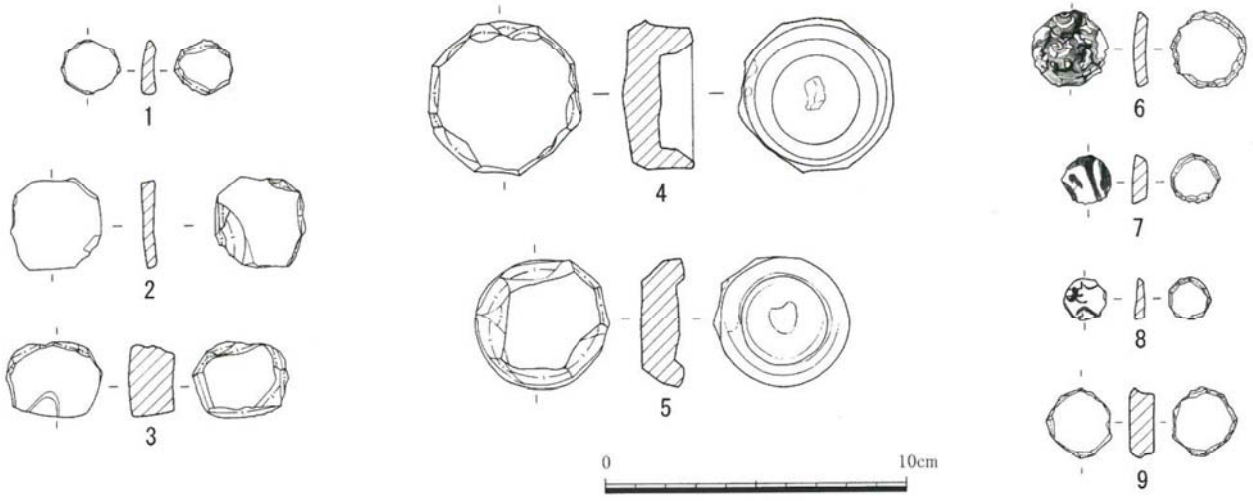
正殿地区からは全97点の円盤状製品が出土している。（第44表）。これを素材から第45表のように分類してデータ集計を行うとともに、特徴的な28点を第137・138図に示している。図示資料の個別の特徴については観察表（第46表）に譲り、ここでは全体的な傾向について記載する。

加工方法は、円盤状製品加工前の破損部を残す資料（1～3、14、16～18、20～26、28）から理解されるように、破損した陶磁器等の有用部位の周縁を打剥して加工している。ただし押圧剥離とみられる方法（6・7）や、研磨（15、19）も確認された。また、一部に方形のもの（2・3、16、20）や三角形（27）も確認された。

素材には14種が利用されている。中でも中国産褐釉陶器が5割強と最も多い。これは当該素材に含まれる壺が大きいため、1個体から多数を作出できることが反映したとみられる。また2.0cm以下の小形製品は磁器、2.0～4.5cmの中形に施釉陶器、4.5cm以上の大形は瓦が主要となることが読み取れる。企図する製品の大きさが素材選択に影響していることが理解される。

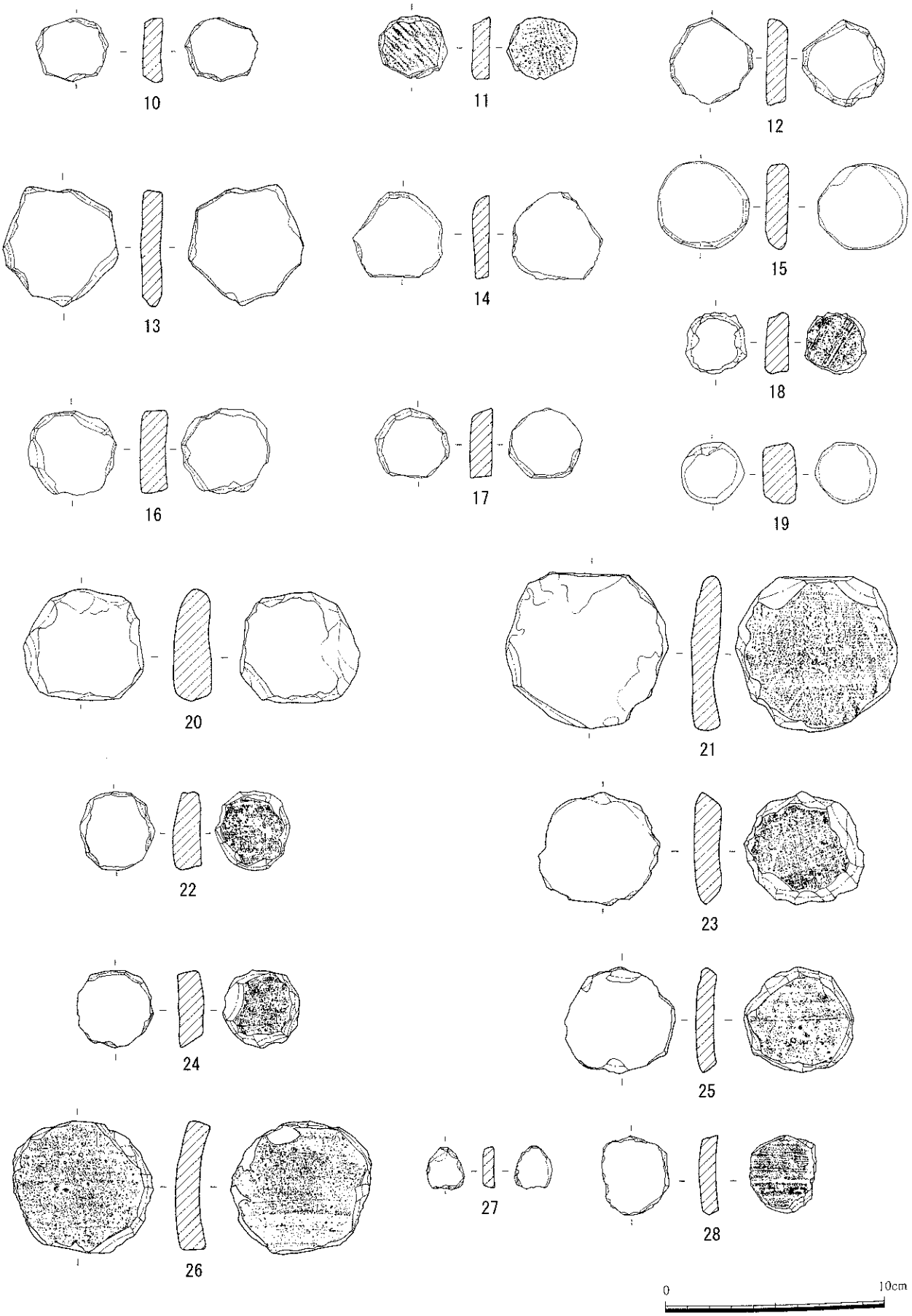
素材	記号	点数	%
中国産青磁	cc	8	8.2%
中国産白磁	cw	1	1.0%
中国産青花	cbu	3	3.1%
中国産施釉陶器	cg	1	1.0%
中国産褐釉陶器	cbr	53	54.6%
中国産土器	cp	2	2.1%
タイ産褐釉陶器（シーサッチャナライ）	tbs	5	5.2%
タイ産褐釉陶器（メナムノイ）	tbm	2	2.1%
本土産施釉陶器	jg	1	1.0%
沖縄産無釉陶器	oe	5	5.2%
明朝系赤瓦	rt	9	9.3%
明朝系灰瓦	gt	5	5.2%
細粒砂岩	ss	1	1.0%
ガラス	gr	1	1.0%
計		97	100.0%

第45表　円盤状製品の分類別出土点数及び割合一覧

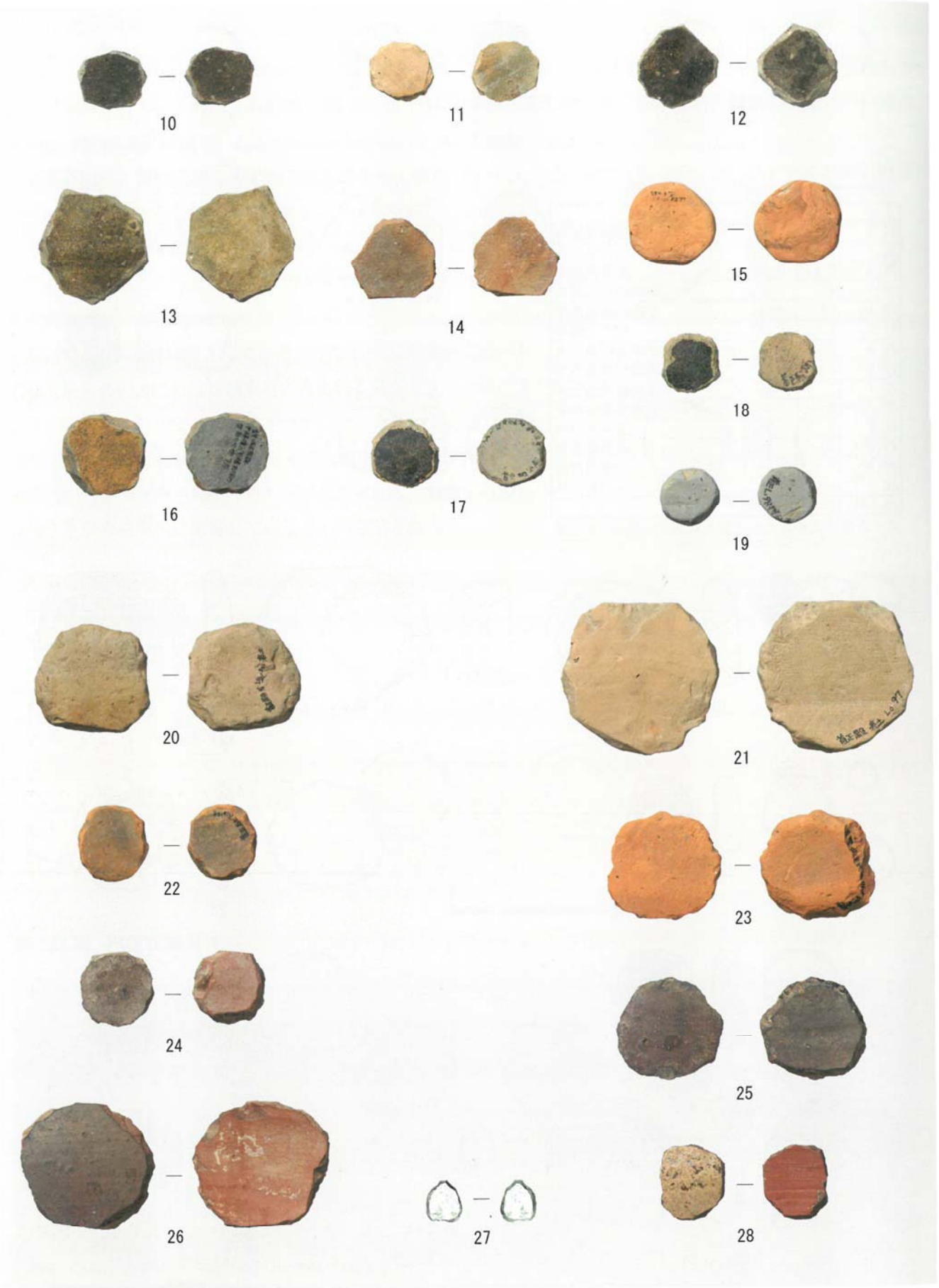


第137図　円盤状製品1

図版102　円盤状製品1



第 138 図　円盤状製品 2



図版 103　円盤状製品 2

13　金属製品

金属製品は総計16,000点を超える量が出土しており（第47表）、種類別にみると①梵鐘、②銅釘・銅鋲・笠・取っ手・鎹・飾り金具といった調度品や建物の部材に附属する金具類、③八双金物・小札・矧ぎ板・鎖帷子・鍔・切羽・刀身・鏃などの武具・武器類の金具、④香炉や瓶といった銅器類、⑤鉄釘などが確認されている。以下、主に機能が判明しているものについて詳述する。

①梵鐘（第139・140図）

梵鐘破片は総計163点出土している。ことに、梵鐘は正殿跡の中央部に位置する今大戦時の爆弾穴（直径約10m）や正殿跡の北側地区から、いわばバラバラの状態で検出された。出土した堆積土層が攪乱されていることもあり、建物との位置関係や使用状況等については不明である。

得られた梵鐘破片は、青錆の覆う銅塊として、巨視的に５枚と若干の小片からなる。いずれも加熱による溶解や外圧などにより平板状に変形し、僅かに乳、袈裟帯、駒の爪などの部位から辛うじて鐘の一部であることが分かるにすぎない。

１は、笠形から肩部に移行する角部の破片である。丸く湾曲し立体的になるはずの笠形が肩部とともに扁平になっている。笠分部に横位の凸線が３本とそれに連結した縦帯と乳が僅かにみられる。縦帯は５本の線で構成され、笠形の線に比べ幾分細くなる。笠部分の線幅は約４cm、縦帯の幅は約9,5cm、胴部の厚さは２cmをはかる。

２は、池ノ間の上端資料で、横帯と乳を僅かにみることができる。池ノ間には銘文の一部の文字が残り、線書きの楷書体で、「天上人間」と確認される。天の文字の上には横帯がはしっているため、銘文の文字配置としは一番上段になっているものと判断される。文字の左右側は、溶け変形して他の文字の存在を確かめようがない。文字の大きさは約４cm内の枠内におさまり整然とした印象をもつ。

３は、胴部の比較的大きな破片で、押しつぶされ扁平になり縦の亀裂が入っている。横帯は３本、縦帯は４列を数え、乳は縦位に４列を認める。当該資料の池ノ間は空白の空間があることから、銘文を刻まない区域もあったことが理解される。横帯幅は約4,5cm、縦帯幅は約11,5cmになり胴部の厚さ２cmをはかった。なお、梵鐘の形態について、僅かに残された駒ノ爪の口径（73cm）や胴部状況から考えると、確かに比較的大きな部類の鐘であったことがうかがわれる。また全体観としては、円覚寺殿前梵鐘、天王寺（元天竜精舎）梵鐘に近いものであったのかもしれない。

４は、胴部の資料で縦帯と横帯の角が残っている。乳は当初の形態が保存されていて、径が3,3cm、高さ2,3cmをはかる。

５は、駒の爪の部分で下帯に唐草文様が施されている。駒部分から口径を復元すると約73ｃｍになる。駒の爪幅は7,6cmを計測する。

６は損傷によりヒビが幾筋も入り、大きく変形している。駒の爪の部分で下帯に唐草文様が施されている。駒の爪幅は7,6cmを計測する。表面には二次的に被熱を受けたために火脹れが著しく、裏面には釘等の銅製品がかなりまとまって溶解しているのが付着している。５と同一個体か。

７は胴部資料で全体的に二次的な被熱で表裏面共に溶解している。かろうじて原形を留めている状態である。５cm以上の厚みを有しており、鉄釘が３点、銭貨が５点以上溶着している。また、溶解した用途不明の銅製品や、大量の炭化物が表面に付着している。

８は多数の梵鐘片と銅釘、鋲などの小型製品が二次的な被熱により、まとまって溶着している。梵鐘片は変形が著しく部位は不明。表面に線刻で文字が刻まれるのが確認できるが、損傷により判読不明である。

９は７片以上の梵鐘の胴部片が二次的な被熱により、まとまって溶着している。梵鐘片の厚みは３cm前後で、

一部に陽刻による縦帯、横帯文が確認できる。

②建具・調度品類（第141～146図）

銅釘は全長8cm以下で短いものでは2.3cmのものも見られる。建材ではなく調度品や飾り金具を留める鋲としての用途が主であったと思わる。調度品の取っ手も見られ、また取っ手を留める鋲が附属している。27のように鋲には座金具が附属しているものも見られる。飾り金具では31のように彫金されるものも見られる。櫃などの隅小縁に付く飾り金具で、端部が三雲状に象られている。表面には細かな蓮華唐草文を毛彫りで描いており、空間部には魚々子を充填している。密な充填ではなく間隙が処々に見られることから、在地で製作されたものと思われる。

調度品類の鍵周辺に取り付く飾り金具である30は掛かり孔が見られる。33には鍵の内部機構と思われる金具が附属している。35、37は調度品類の脚部や隅角部を覆う飾り金具で31と同様の魚々子打ちがなされている。また、35では蹴り彫りの技法が窺える。これらも在地で製作されたものと思われる。92・93は瓶や壺などの大型銅製品の一部で、文様構成から中国産であると思われる。首里城京の内跡からも銅製品の把手部分が出土していることから、首里城内に複数の中国産の銅製置物があったと思われる。

③武器・武具類（第141～146図）

頭部を構成する兜の頭頂部の八幡座ならびに矧ぎ板が出土している。39では矧ぎ板を少し重ねながら、頭部を構成していることが窺えるまとまった資料である。裾には鎖帷子が取り付くことも窺える。40・52も矧ぎ板を重ねて接続しているのが窺える資料である。55・56、58の鉄片も多く出土しており、それらは幅広の矧ぎ板である可能性が指摘される。とくに矧ぎ板同士を鋲で留めていないため、筋兜であると思われる。

鎧については沖縄県内であまり類例の無い資料として48の障子板や49の胸板、50の冠板など胸廻りの鎧金具が一式で出土していることは注目される。最も武具で出土しているのは小札で、札頭が斜めのものに限られている。また三つ目札は出土していない。

八双金物は鍍金されているものや透かし彫りの意匠のものなどがみられることから、彫金並びに鋳造において高い技術的を有していたことが窺われる。

刀装具については鍔、切羽等が出土しているが、注目されるのは90の長柄武器の刀身である。柄近くで大きく屈曲し、切っ先は反りが見られる。このような形状の長柄武器は管見の限りでは例が無く、その使用方法などは不明である。

④その他（第141～146図）

上記以外にも用途が不明の銅製品は多く出土しているが、用途が判明している資料の中でも91の銅鏡片は注目される。鏡背には圏線が1条あり、内区と外区で分けられている。菊花文が陽刻で内外区共に不規則な配置で施されている。花弁は鏑立つ。鏡体は薄く、縁は肥厚し断面形は台形状となる。文様と形態から13～14世紀にかけての和鏡であると思われる。

94の銅製印についてはかなり小型であること、摘み部分に孔が見られることから、携帯用の銅製印である。字款は判読不明。

38は正殿前に配置されていた大龍柱の上部と下部を繋いでいた鎹である。大龍柱は熊本鎮台沖縄分遣隊が引き上げの際に柱の根本から切断された。その後、元に戻す際に金具で留めた。古写真との照合で、形態と表面の滑り止め状の文様から当該鎹が大龍柱を留めていた鎹であることが判明した。

⑤鉄釘（第147～151図）

出土した鉄釘の中で近代の洋釘が最も多く出土しているが、本項では近世以前に使用された角釘を主に取り扱う。鉄製の角釘は総計5,467点、鎹は151点出土している。釘の長さは20cmを越えるものから5cm未満のものまで、多様な規格の釘が出土している。胴径が大きく、長いものは建築部材として、胴径が小さく、短いものは調度品などに使用されていたものと考えられる。釘の全長で9タイプに分類を行った。以下にその分類を示す。

Aタイプ：長さが20～24cm
Bタイプ：長さが16～19.5cm
Cタイプ：長さが15cm
Dタイプ：長さが12～13cm
Eタイプ：長さが10～11cm
Fタイプ：長さが7～8cm
F´タイプ：長さが7～8cmで胴部が細身。
Gタイプ：長さが6cm
G´タイプ：長さが4cmで胴部が細身。

それぞれのタイプにおいて頭部が斜めに面取りされているものが見られた。それらは観察表にて各タイプ名の前に「カット」と附した。また、全長とは別に釘の頭部の形態並びに胴部の厚みと長さとの関係から、以下の4つに分類される。

Ⅰ類：頭が逆L字形をなす。
Ⅱ類：頭が平ノミ状に平坦になる。
Ⅲ類：頭は逆L字形で、身の部分が極太をなす。
Ⅳ類：頭が逆L字であるが、その部分が著しく長いもの。

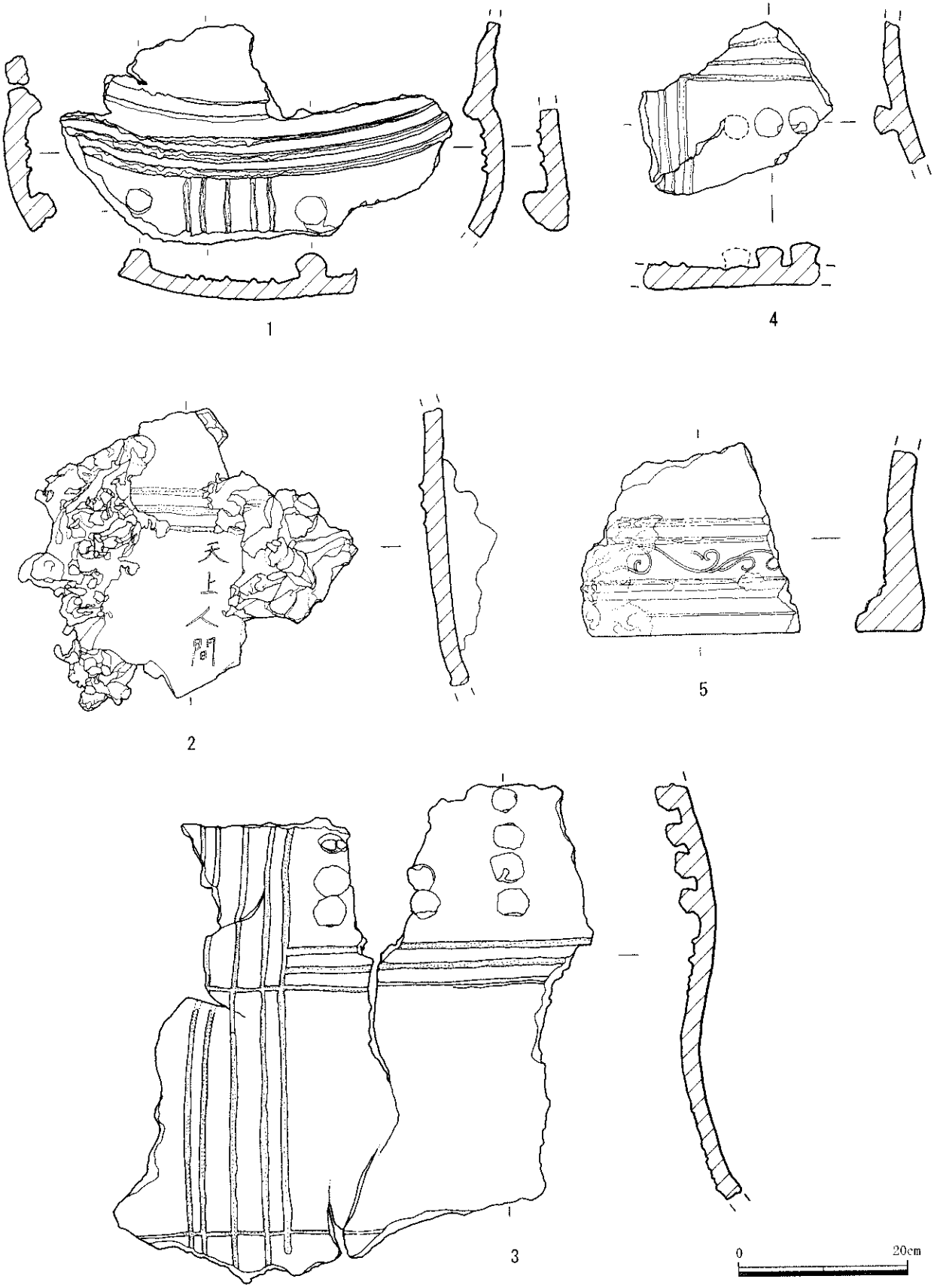
102～115はⅠ類に、116～135　はⅡ類に、136～140はⅢ類に、157・158はⅣ類にそれぞれ同定される。

鉄製釘は長さが16～19cmのBタイプが最も多く出土しており、次に多いのが20～24cmのAタイプとなっている。これらは主に建築部材として利用された可能性がある。一方でGタイプやFタイプといった長さが10cm未満の釘は少ない。これらから、かなり大きな木材を打ち付けるために長めの釘を用いたものと思われる。また、頭部形態ではⅠ類が9割近くを占めていることから、頭部形態が統一された規格であったことが窺える。出土状況から見るとSW2とSW1との間からF、Gタイプがまとまって出土している他にⅡ期基壇の前面部からもF、Gタイプがまとまって出土している。

頭部に孔を有する有孔釘は頭部がノミ状に平たいAタイプ（出土総数5点）と頭部を丸く収めるBタイプ（出土総数20点）に大別することができる。Bタイプは孔が大きく、棒状の素材を折り返して孔をつくっている。また、Aタイプと比較して胴部径が大きい。

鎹は断面形態の違いで断面角形タイプと断面丸形タイプの2つに大別することができる。出土点数は前者が71点、後者が71点と全く同比率であることから、両形態が併用されていた可能性が高い。また、全長21cmが7点、16cmが29点、13cmが19点、10cmが75点、10cm未満が15点と10cm前後の規格が全体の半数以上を占めている。出土状況はⅠ、Ⅱ、Ⅳ期基壇に係る遺構から出土している。

頭部と断面形が円形となる洋釘(151～156)は5,404点と出土した鉄釘の中でも5割方を占めている。



第 139 図　金属製品 1

1

4

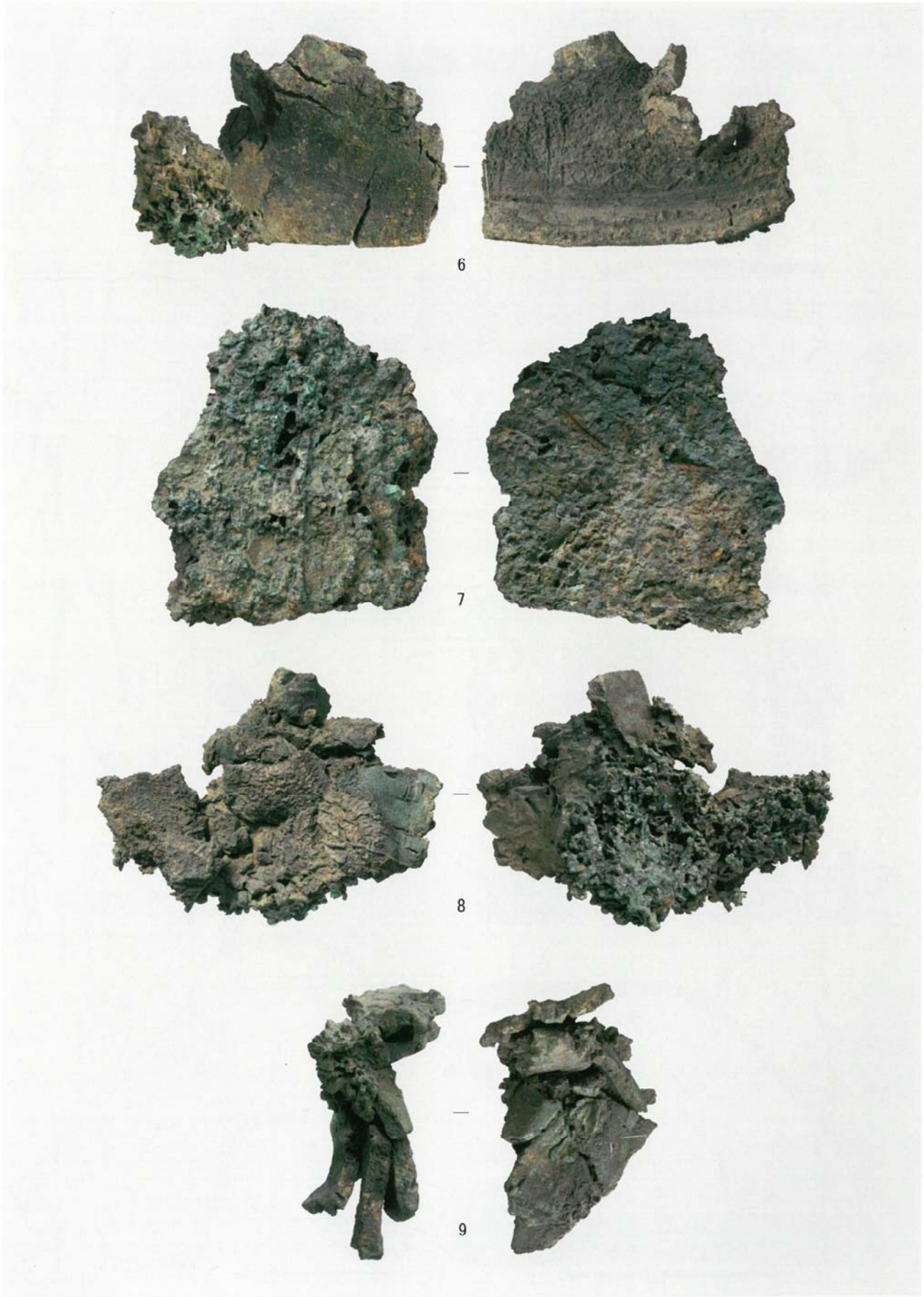
2

5

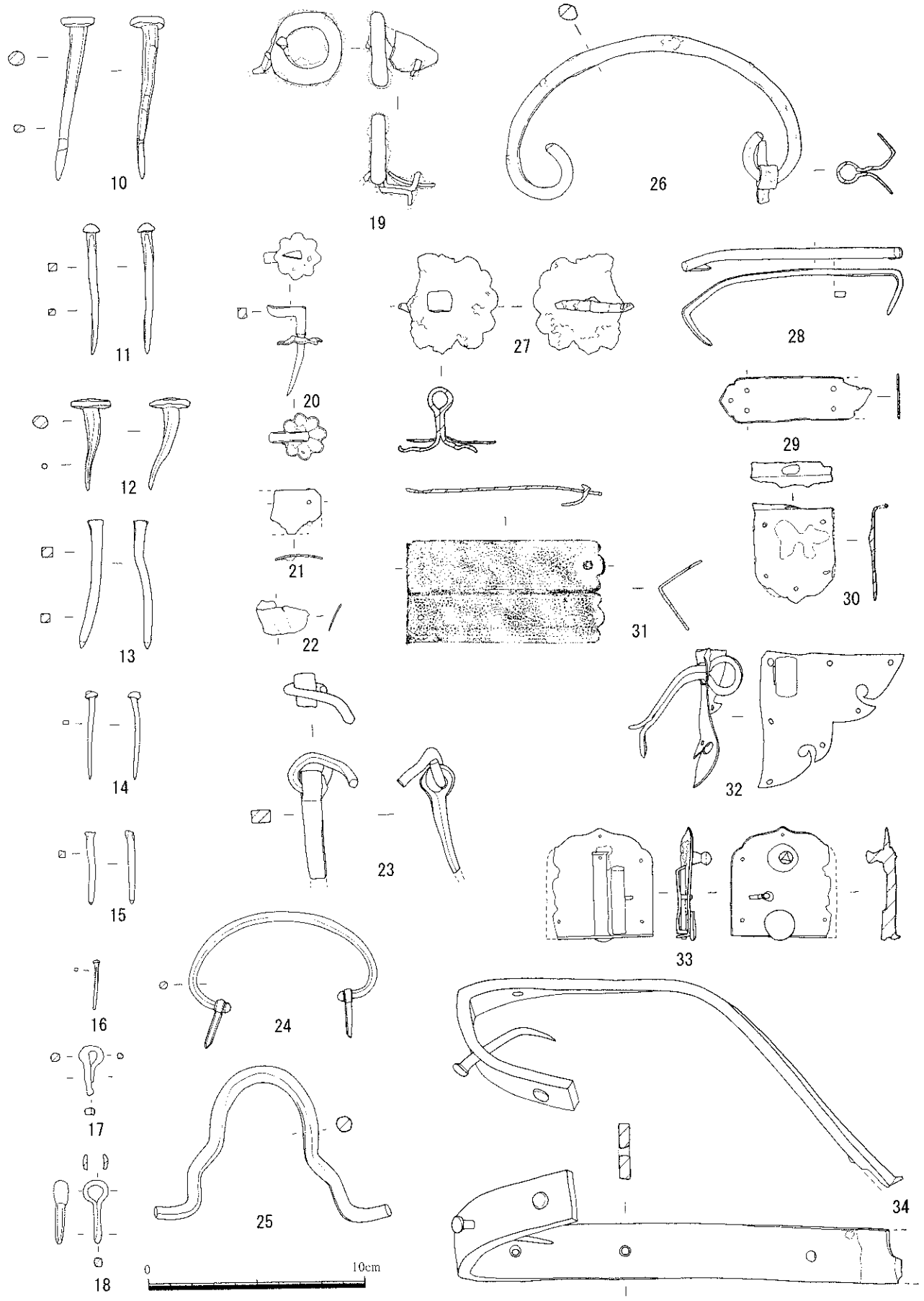
3

図版 104　金属製品 1

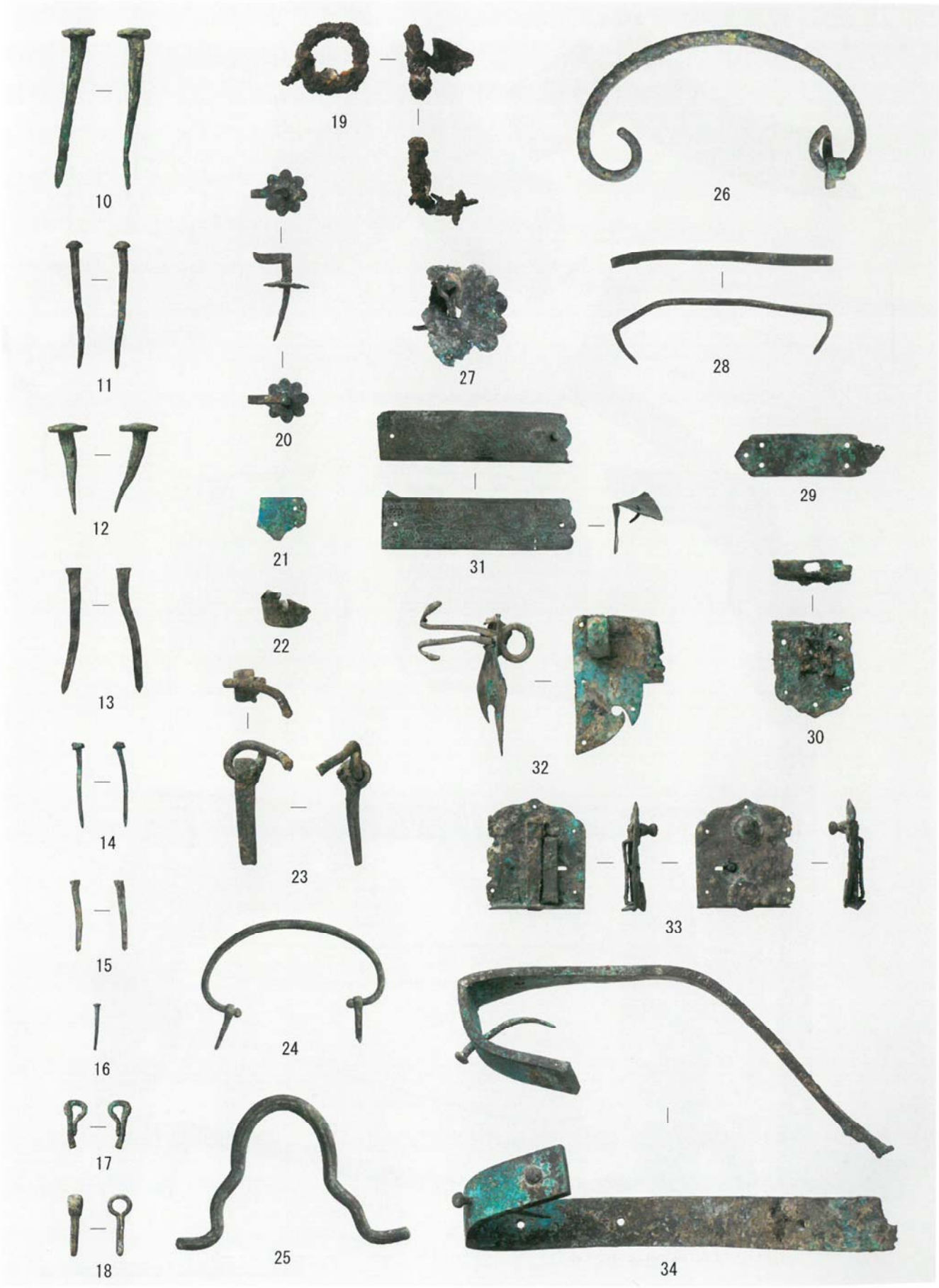
第 140 図　金属製品 2



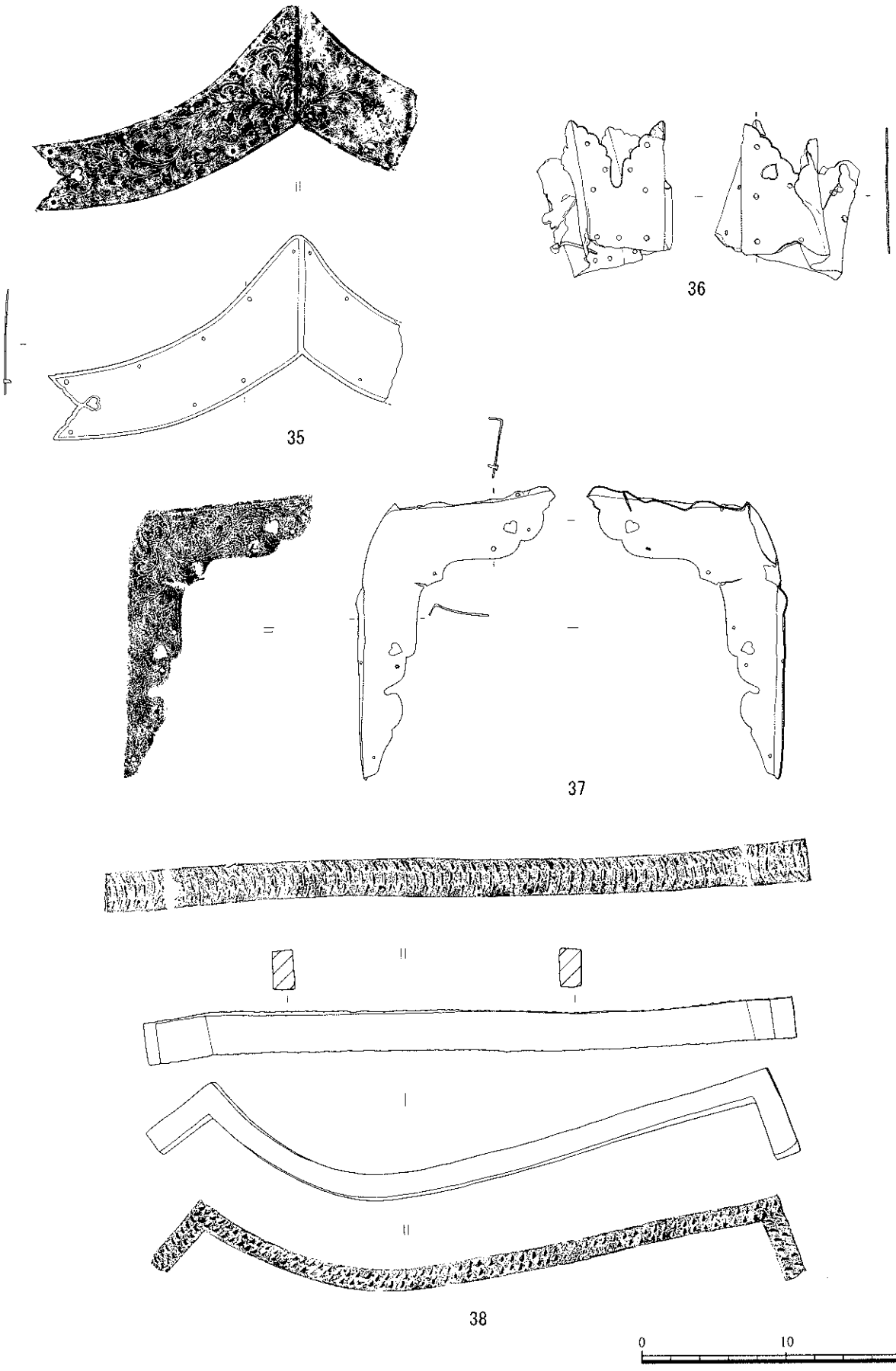
図版 105　金属製品 2


10
19
26
11
27
28
20
29
12
21
30
31
13
22
32
14
23
15
33
16
24
17
25
34
18
0
10cm

第 141 図　金属製品 3

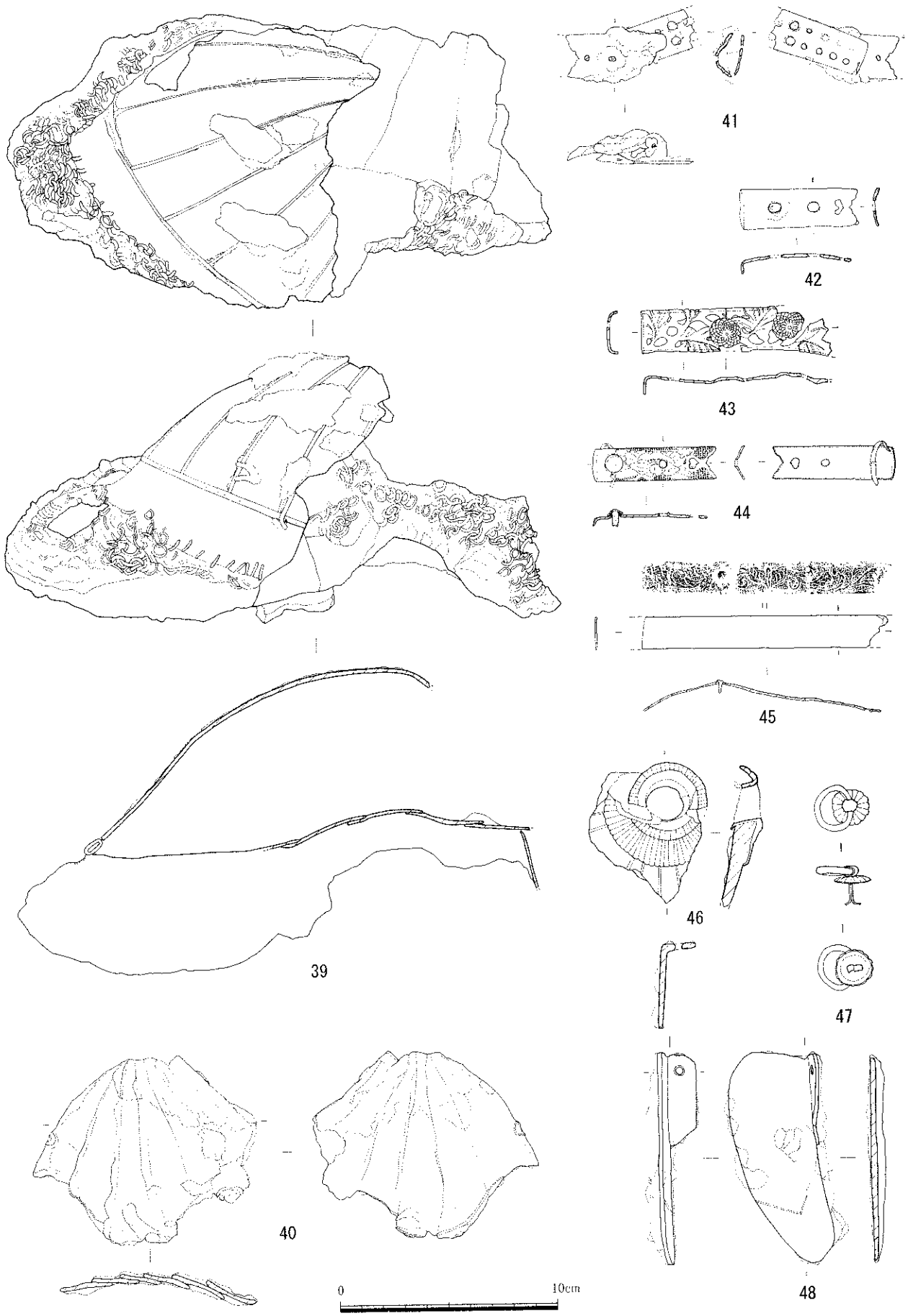

10
19
26
11
27
28
20
12
29
21
31
22
13
32
30
14
23
33
15
24
16
17
25
34
18

図版 106　金属製品 3

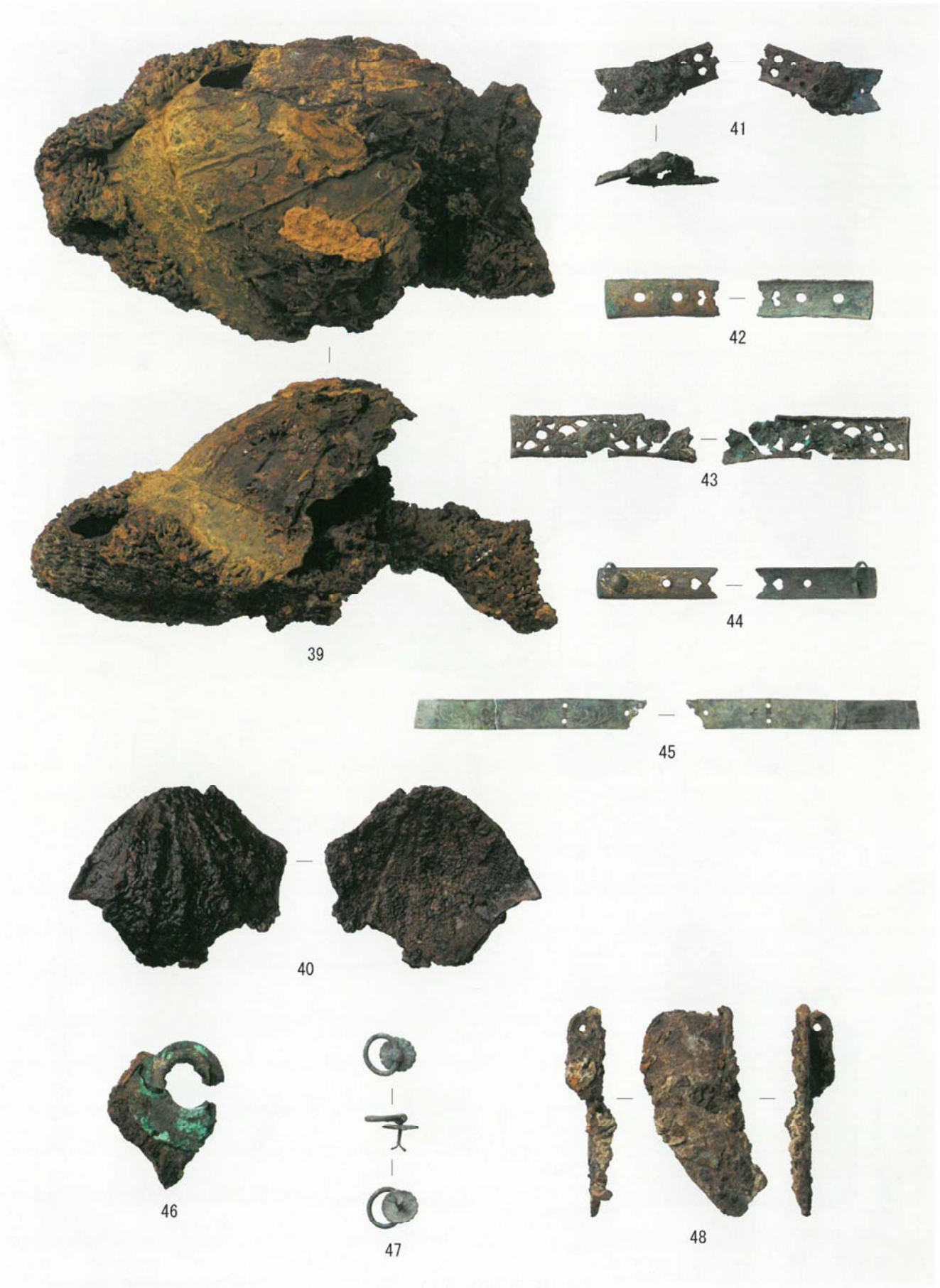


第 142 図　金属製品 4

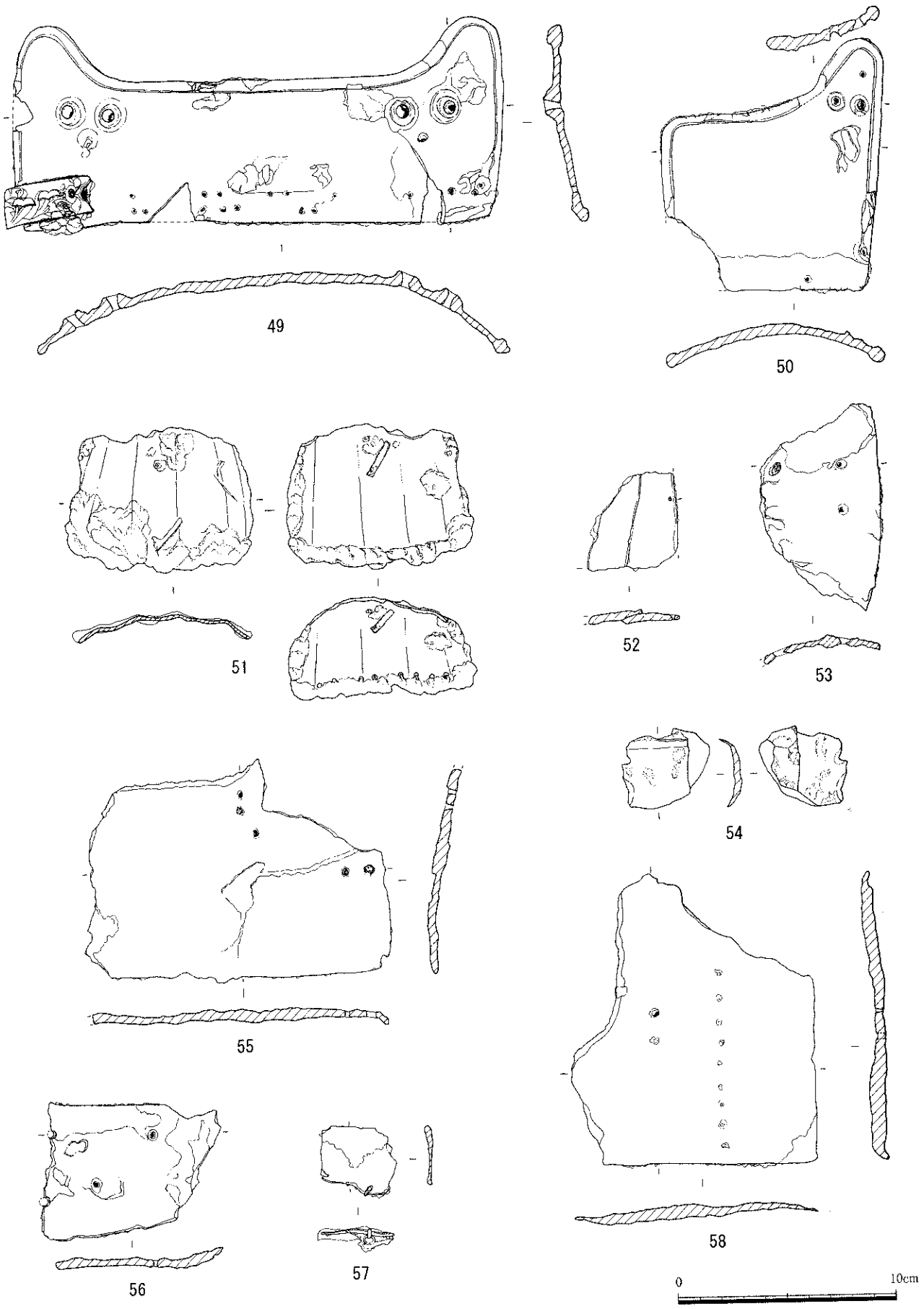
図版 107　金属製品 4



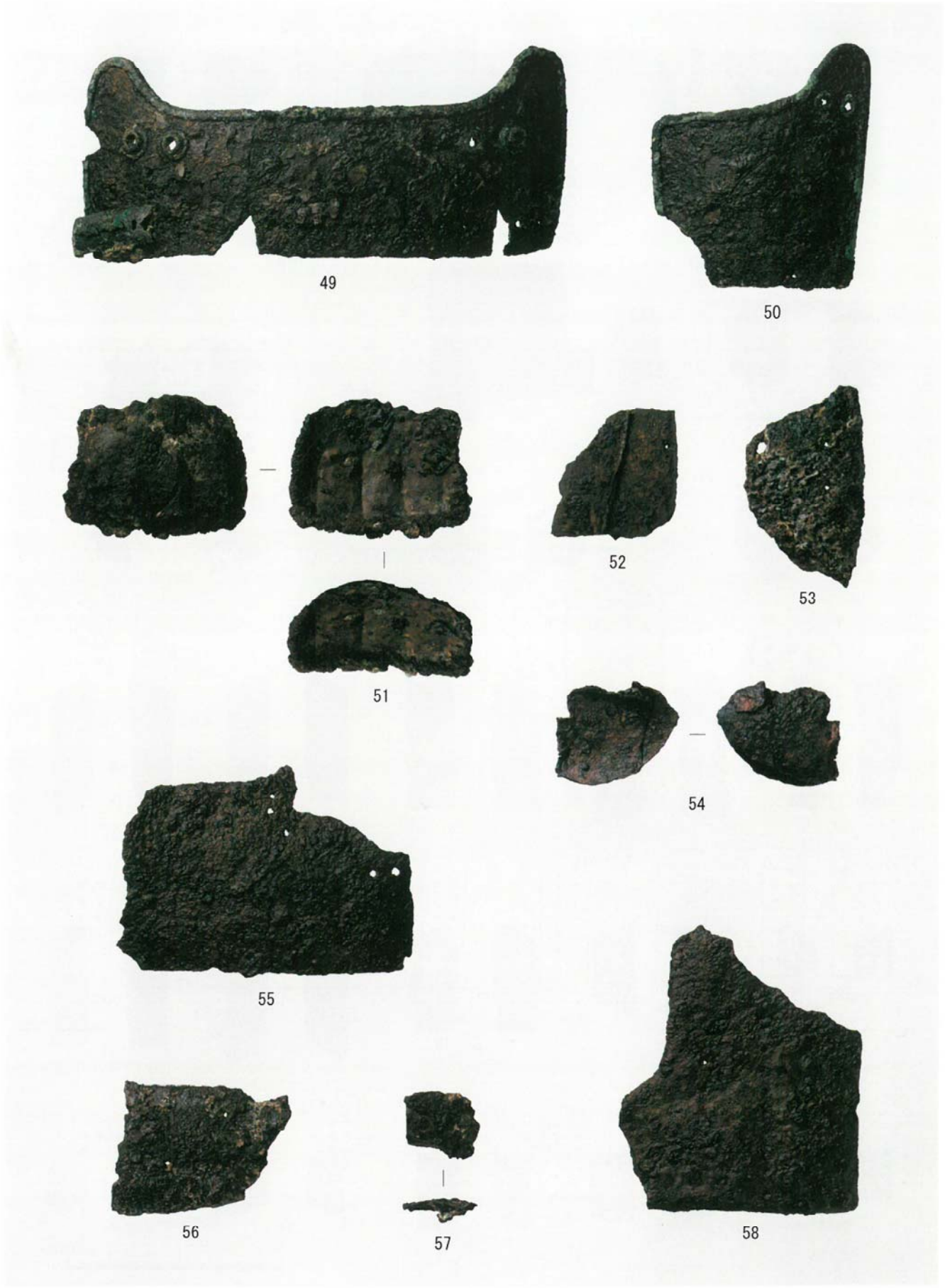
第 143 図　金属製品 5



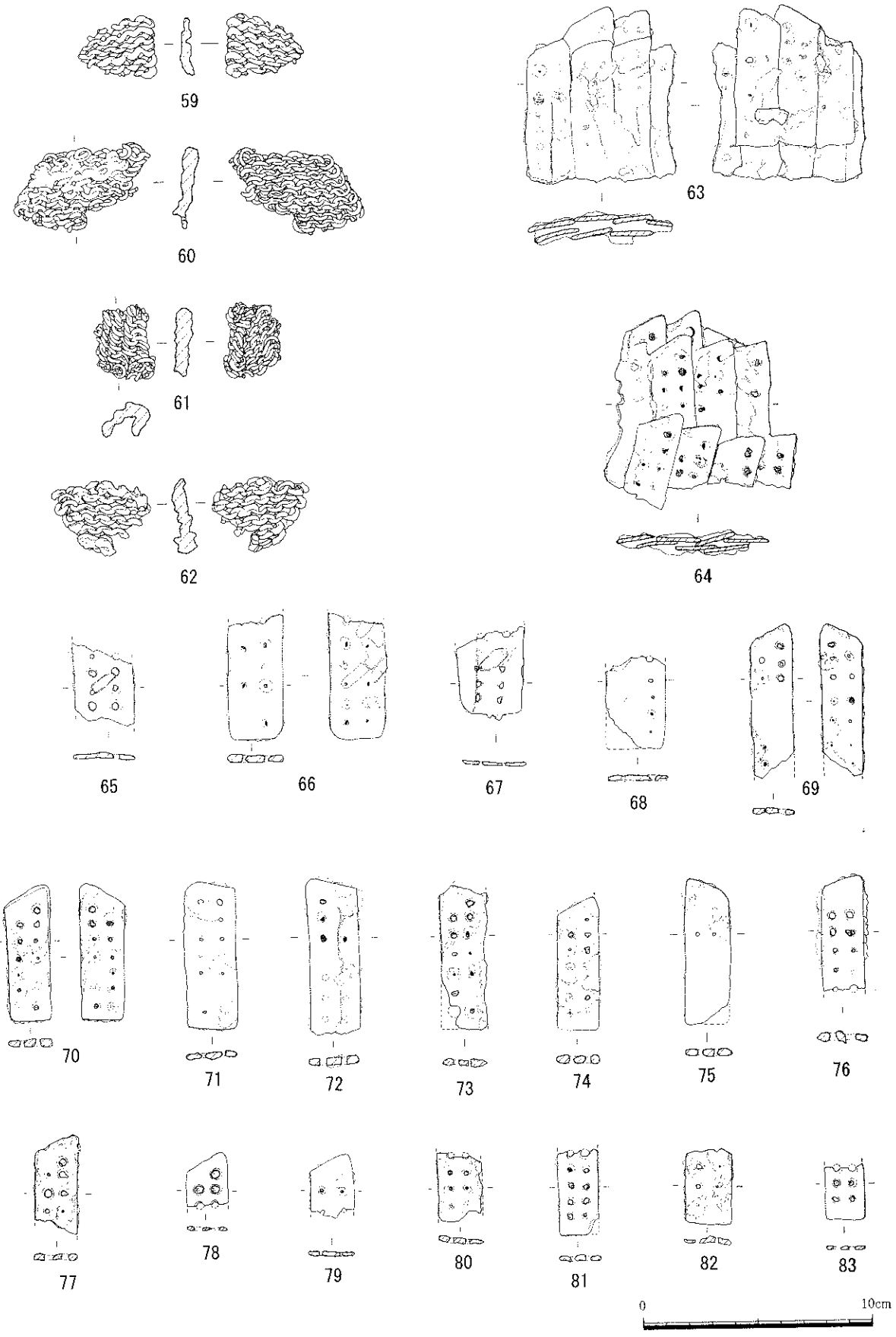
図版 108　金属製品 5



第 144 図　金属製品 6



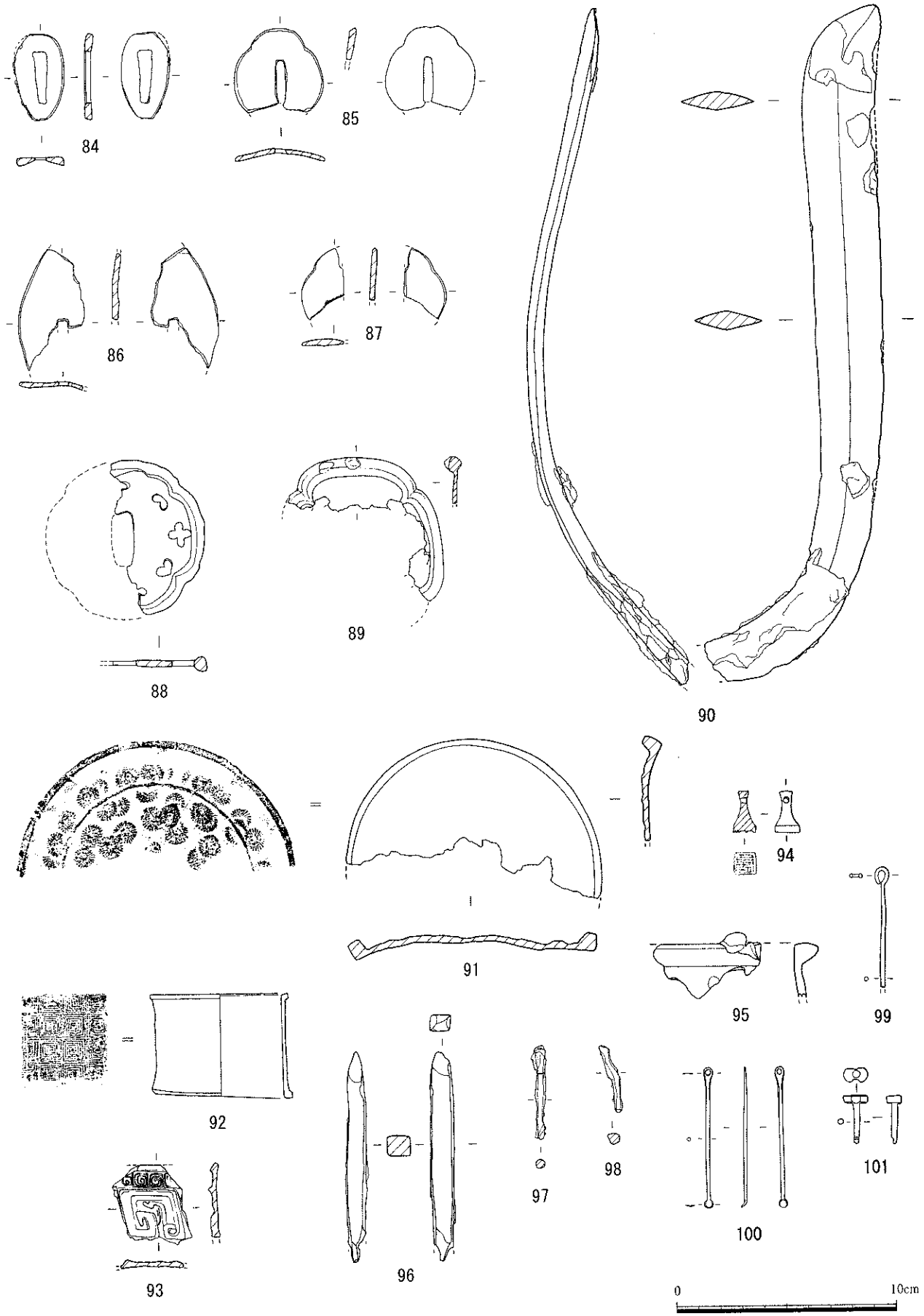
図版 109　金属製品 6


59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
0
10cm

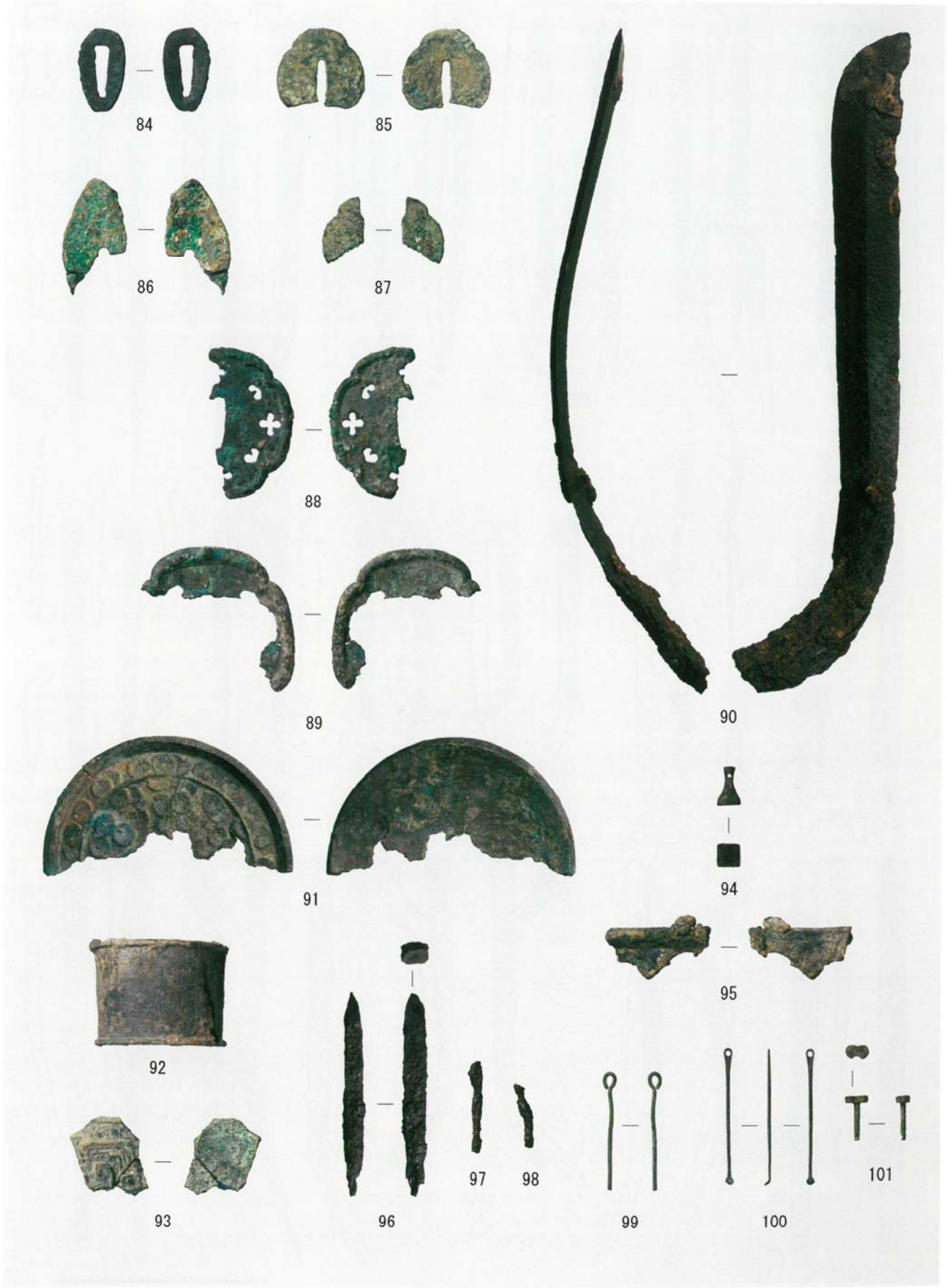
第 145 図　金属製品 7

59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83

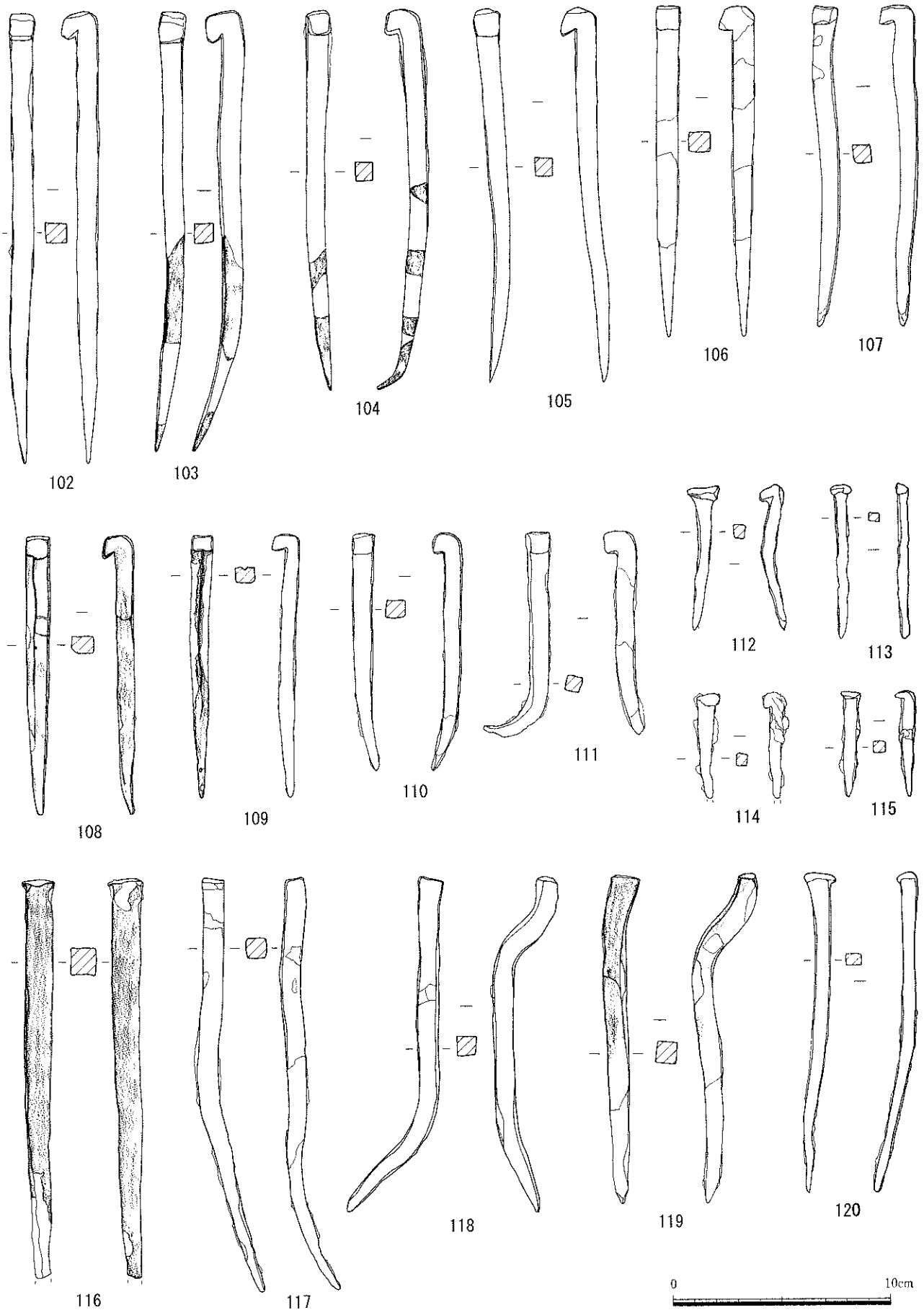
図版 110　金属製品 7



第 146 図　金属製品 8



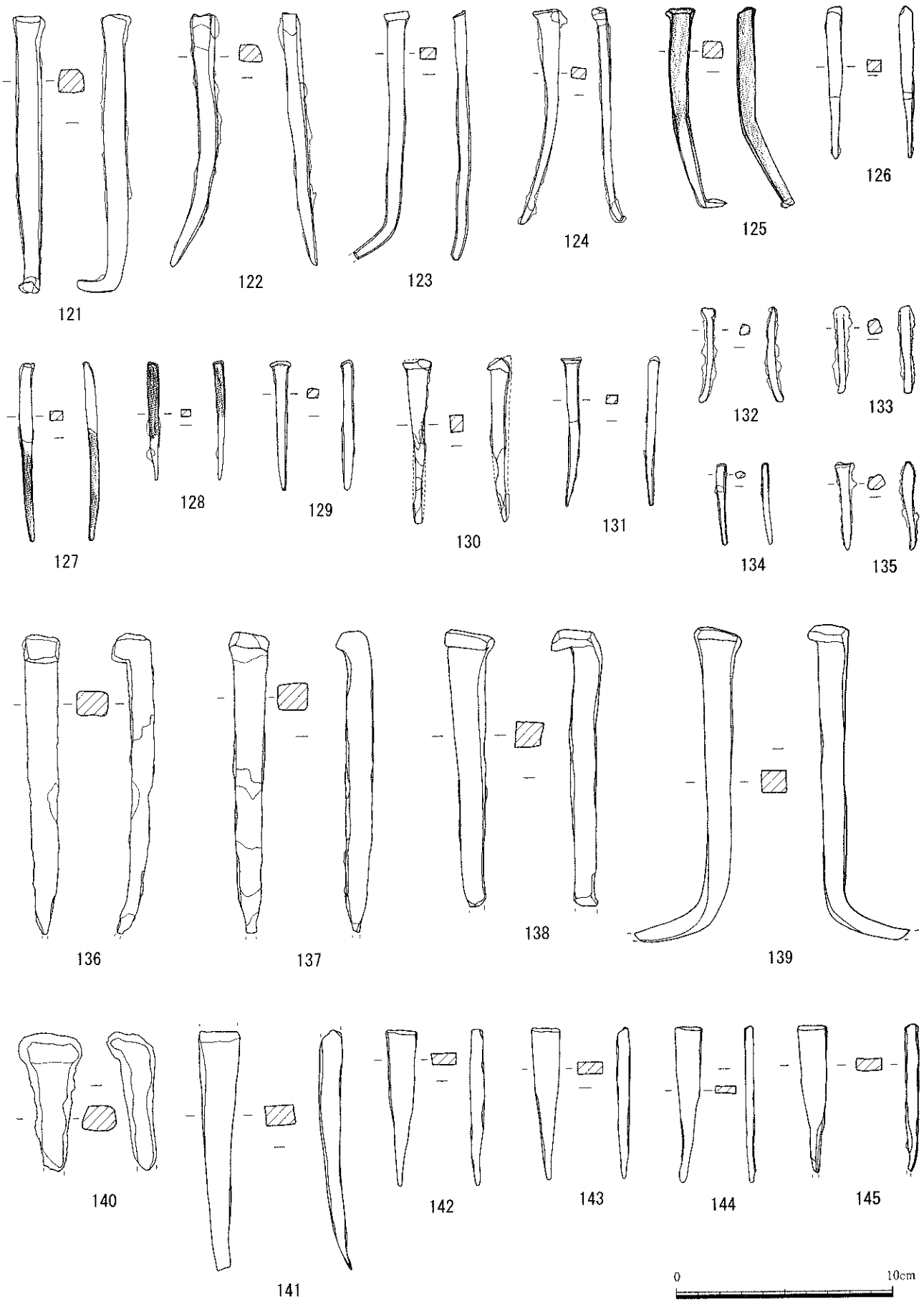
図版 111　金属製品 8


102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
0
10cm

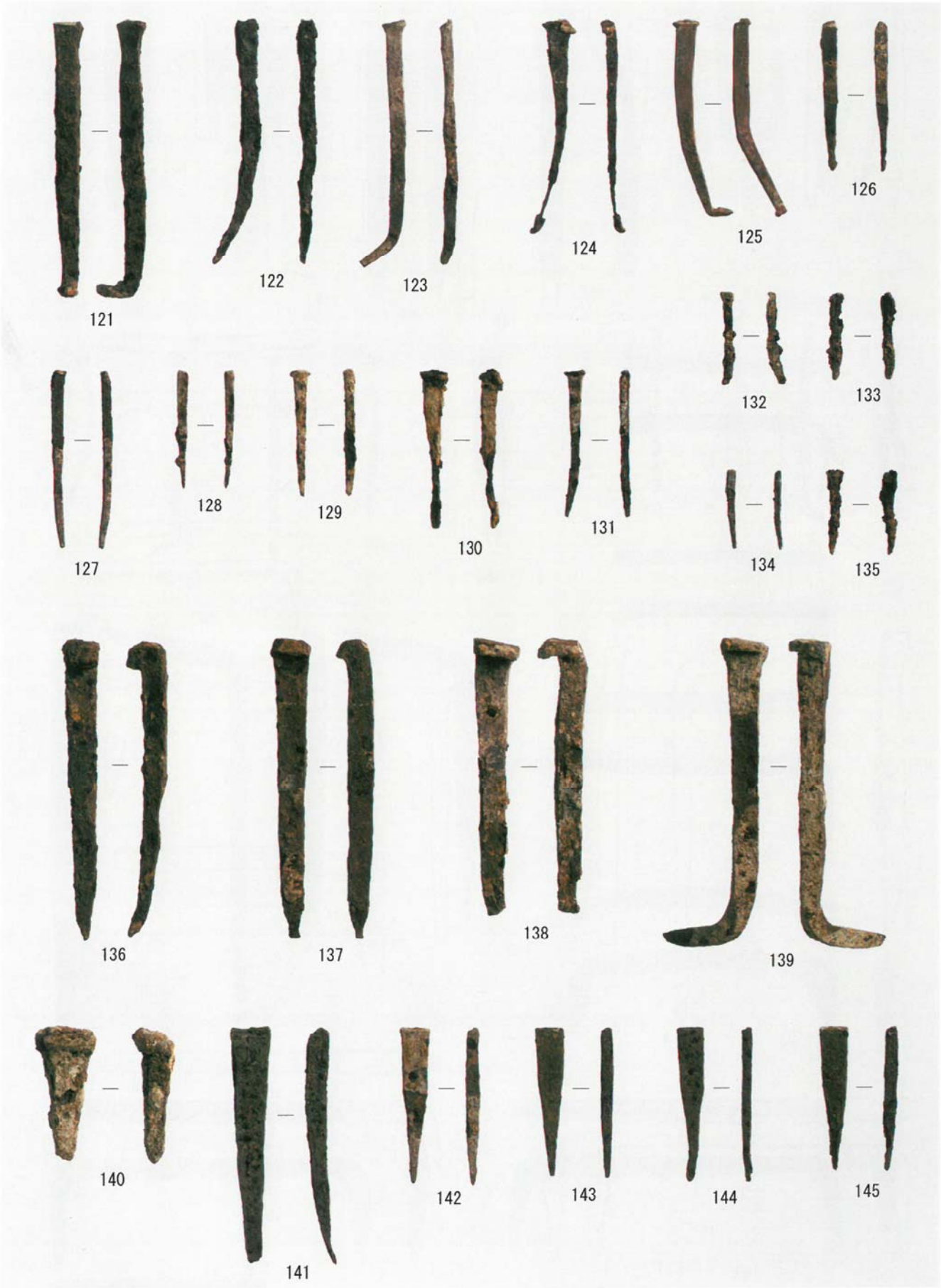
第 147 図　金属製品 9

102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120

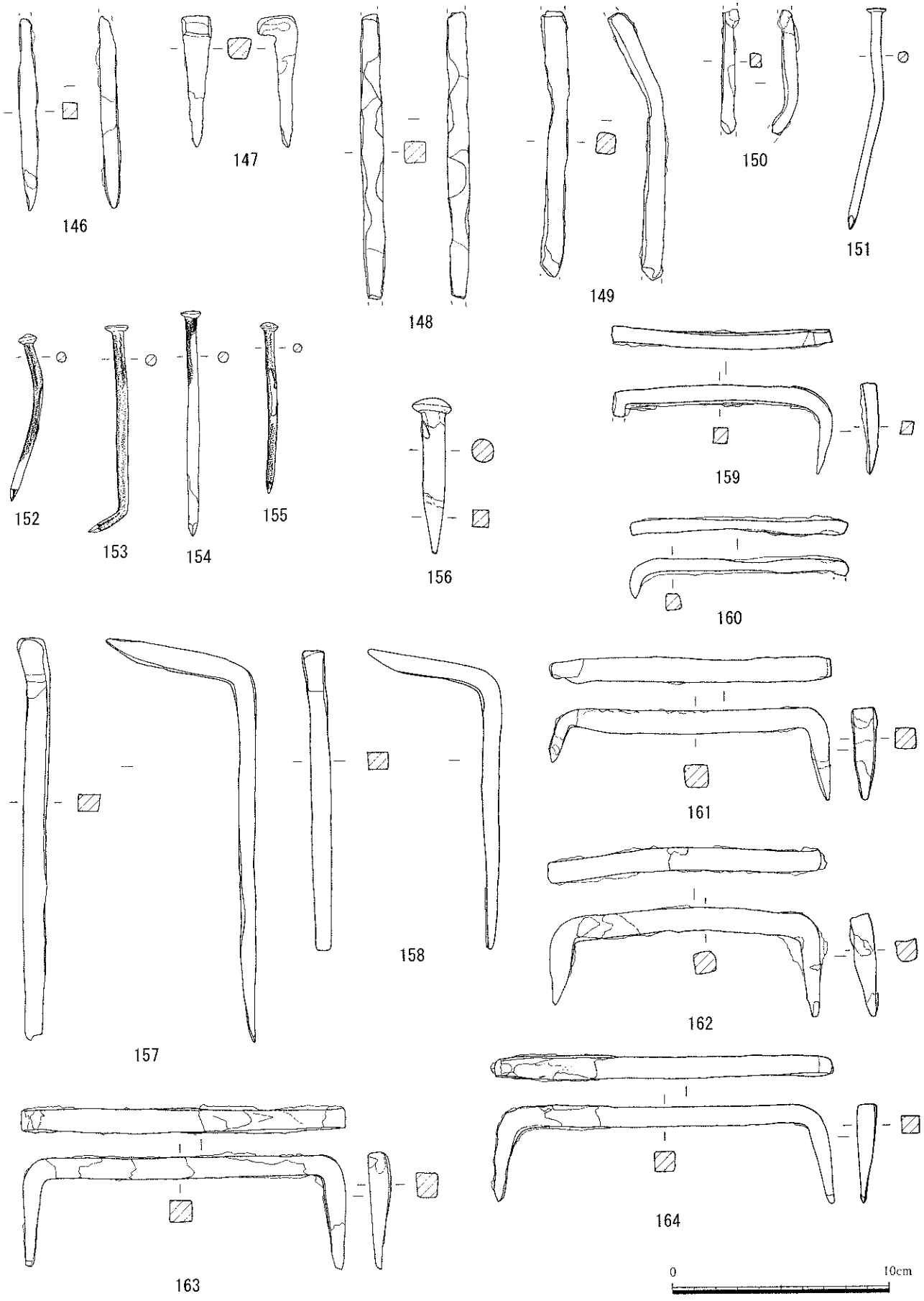
図版 112　金属製品 9



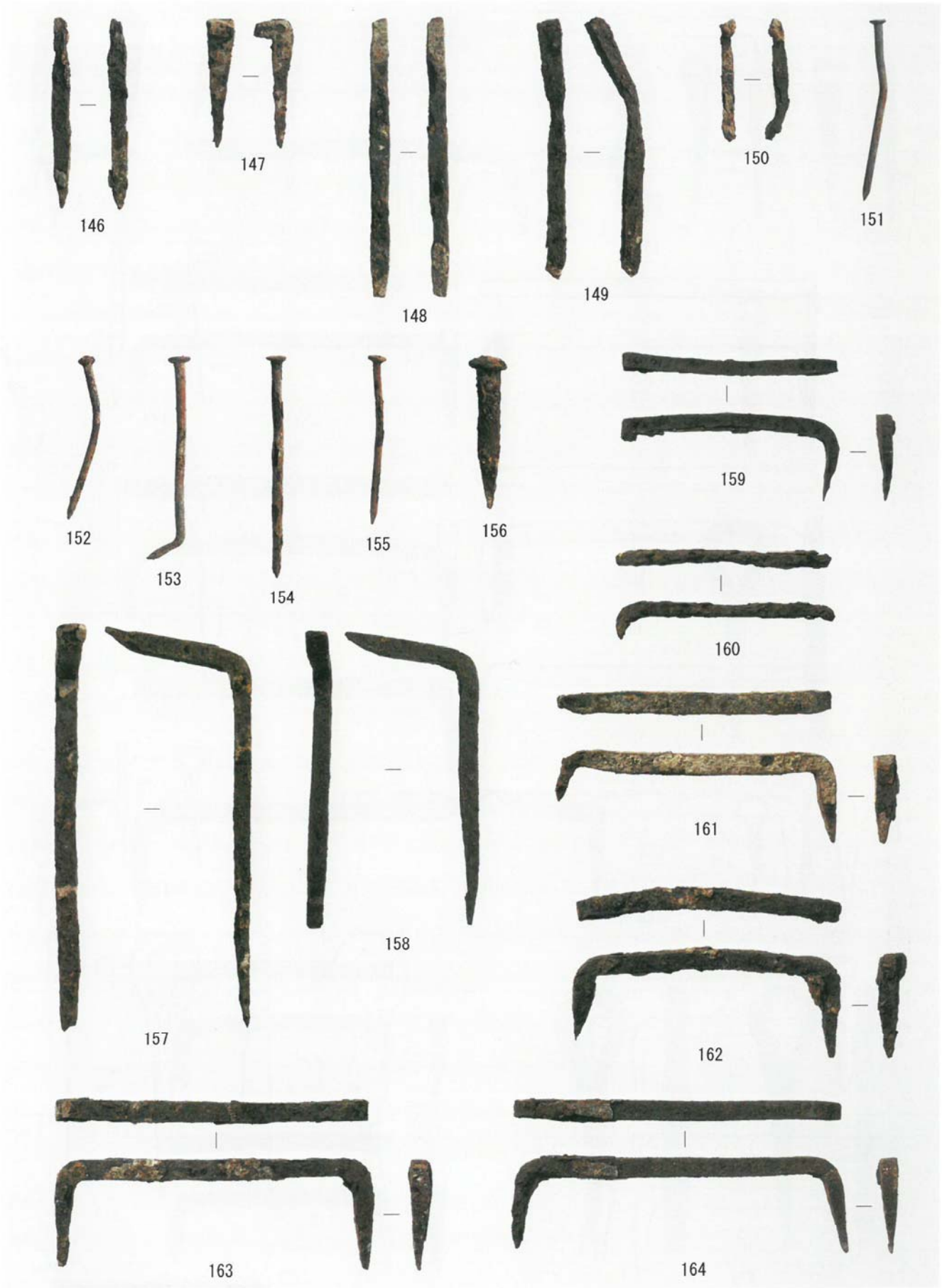
第 148 図　金属製品 10



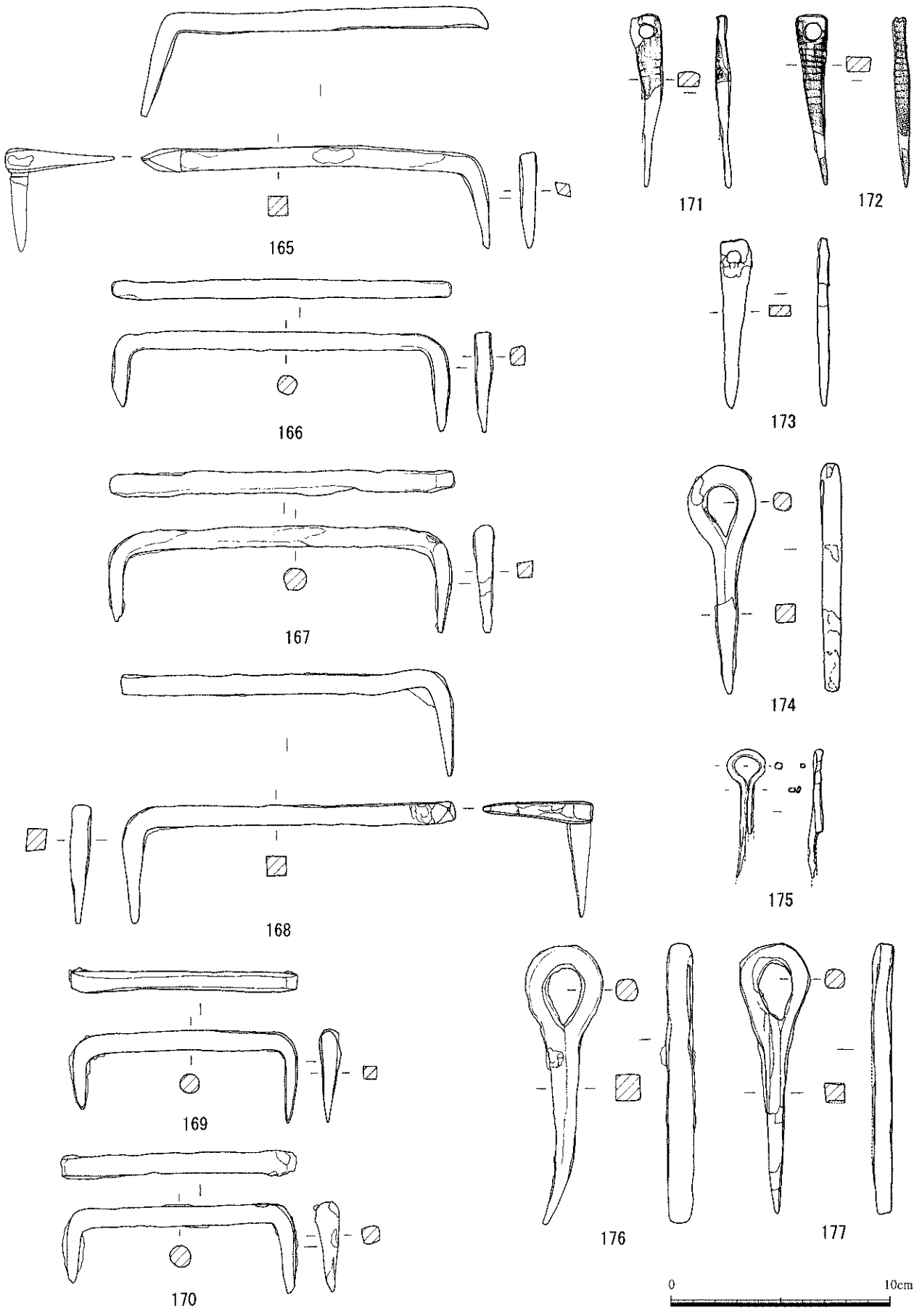
図版 113　金属製品 10



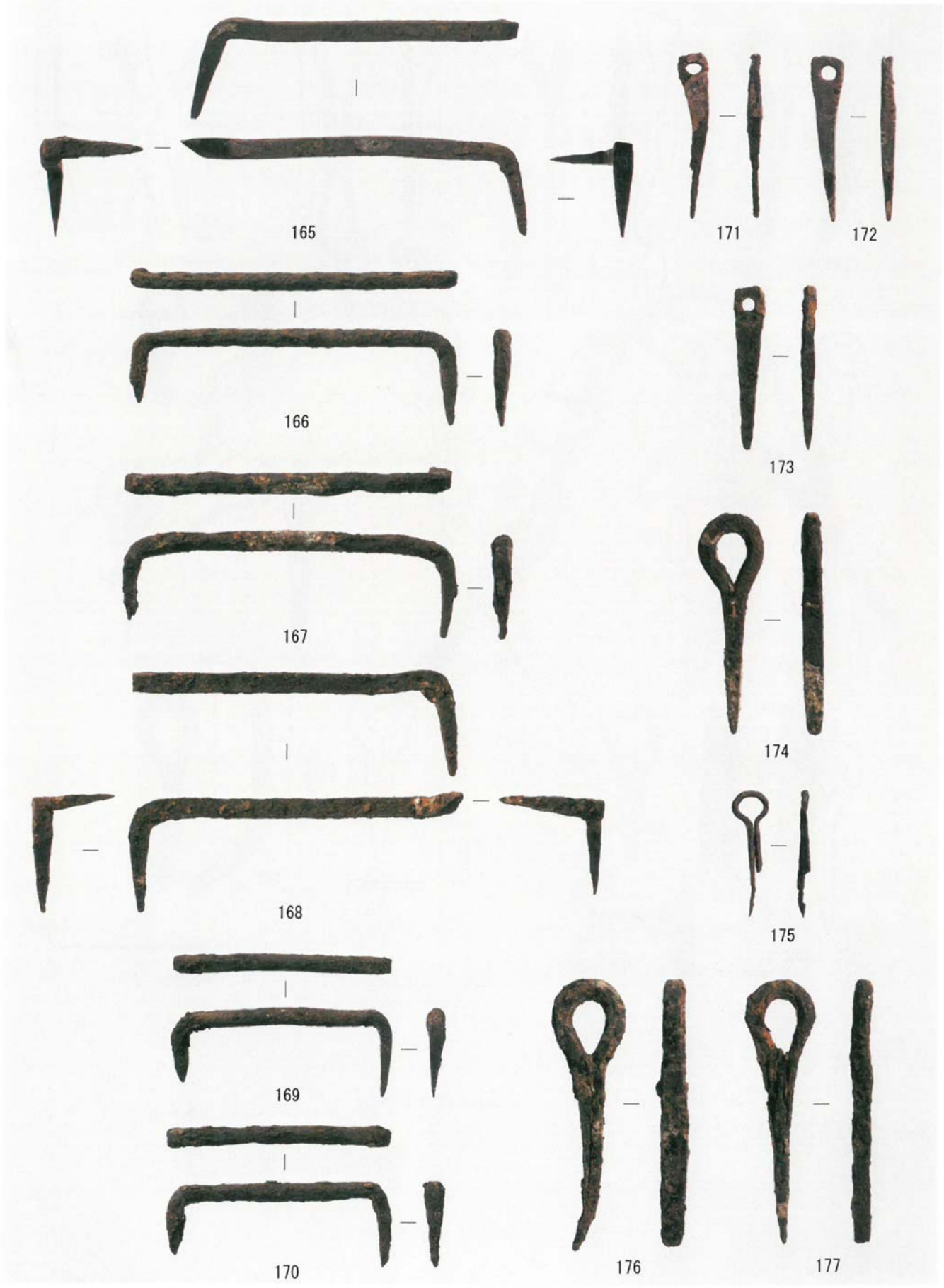
第 149 図　金属製品 11



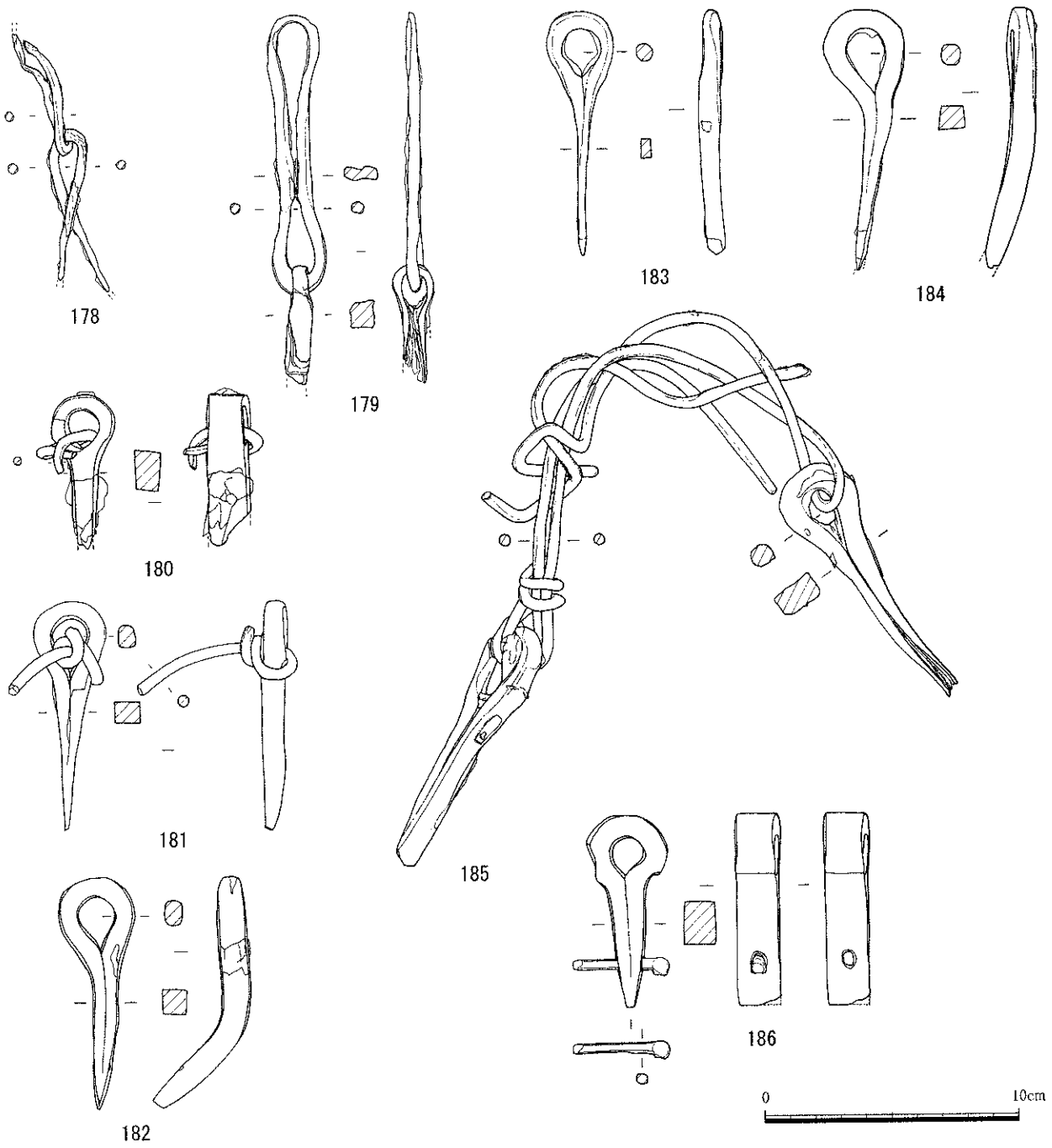
図版 114　金属製品 11



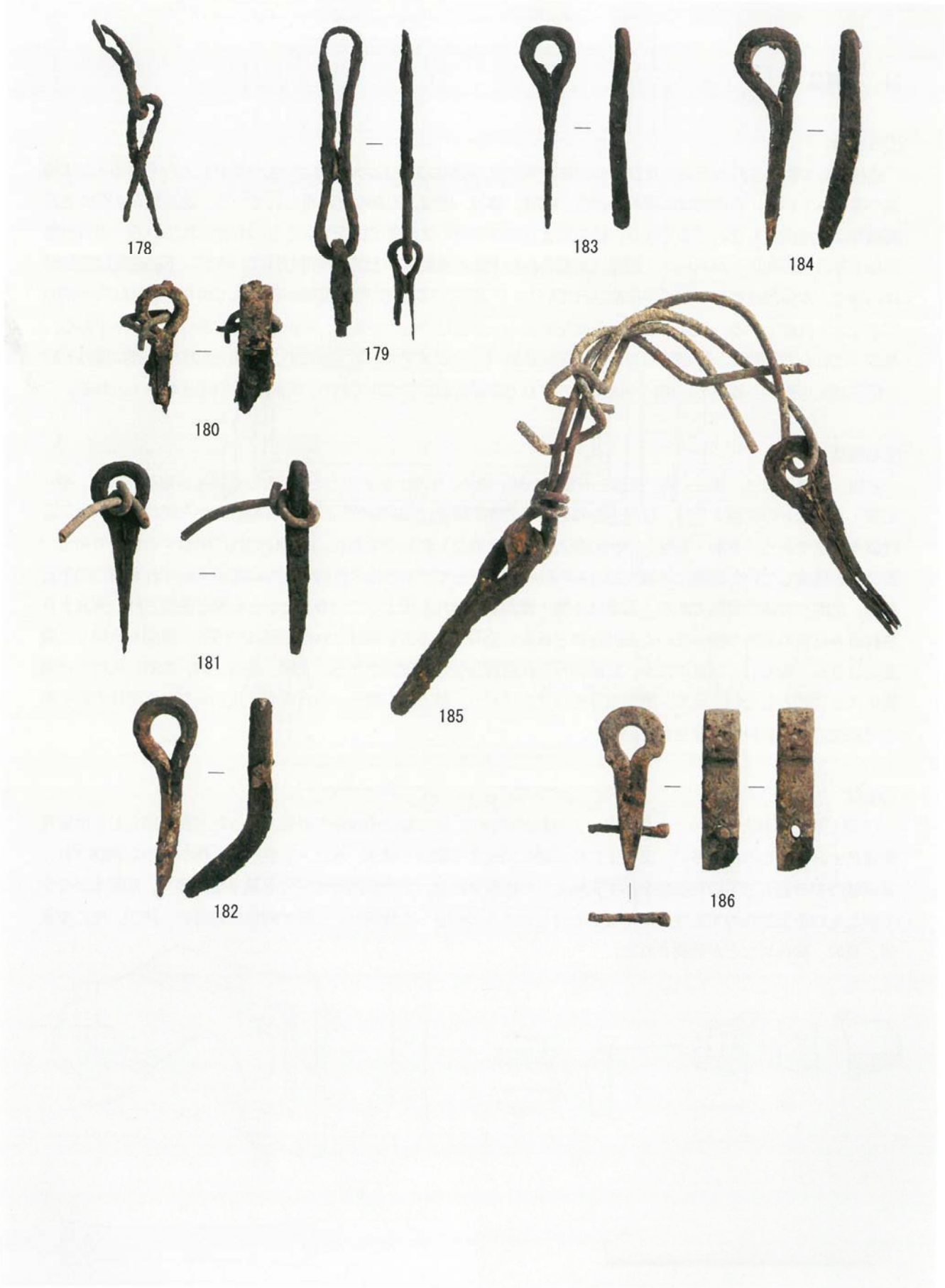
第 150 図　金属製品 12



図版 115　金属製品 12



第 151 図　金属製品 13



図版 116　金属製品 13

14　石製品

①石造物

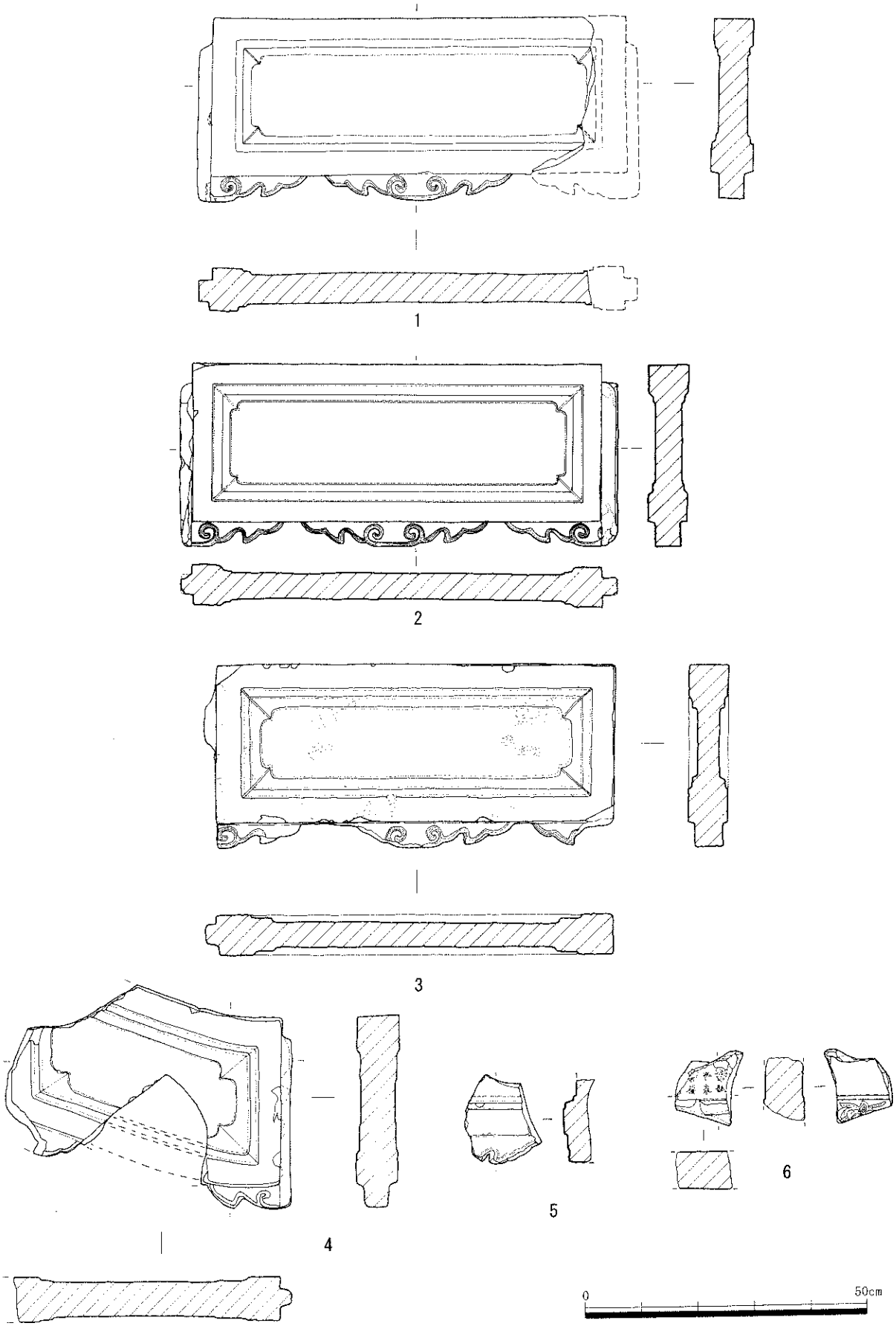
建材として利用された石造物及びその破片2,758点、石製品133点、人為的に持ち込まれたとみられる石材214点が得られている。石造物は高欄の各部位、龍柱、礎石、礎盤、石碑などが得られている。総点数530点に上る高欄片は、階段部も含めて多く残り、接合によりほぼ往時の状態まで復元できるものも含まれている。礎石は整形加工と自然石利用とがみられ、礎盤は装飾された下部と無装飾の上部とが得られているが、下部礎盤は装飾部片のみで、本体部は明確な資料が確認されていない。龍柱はほぞ穴の残る資料が得られており、これは明治期の切断を示す痕跡である。確認された資料は切断後の上部龍柱のものが多く、明確な下部資料は1点のみである。なお、これら石造物は、持送り石を除いて細粒砂岩（ニービヌフニ）が主要だが、高欄や龍柱の一部に県外石材の溶結凝灰岩製が、礎盤の一部に中国産とみられる輝緑岩製が含まれており、利用石材の変化がみてとれる。

②石製品

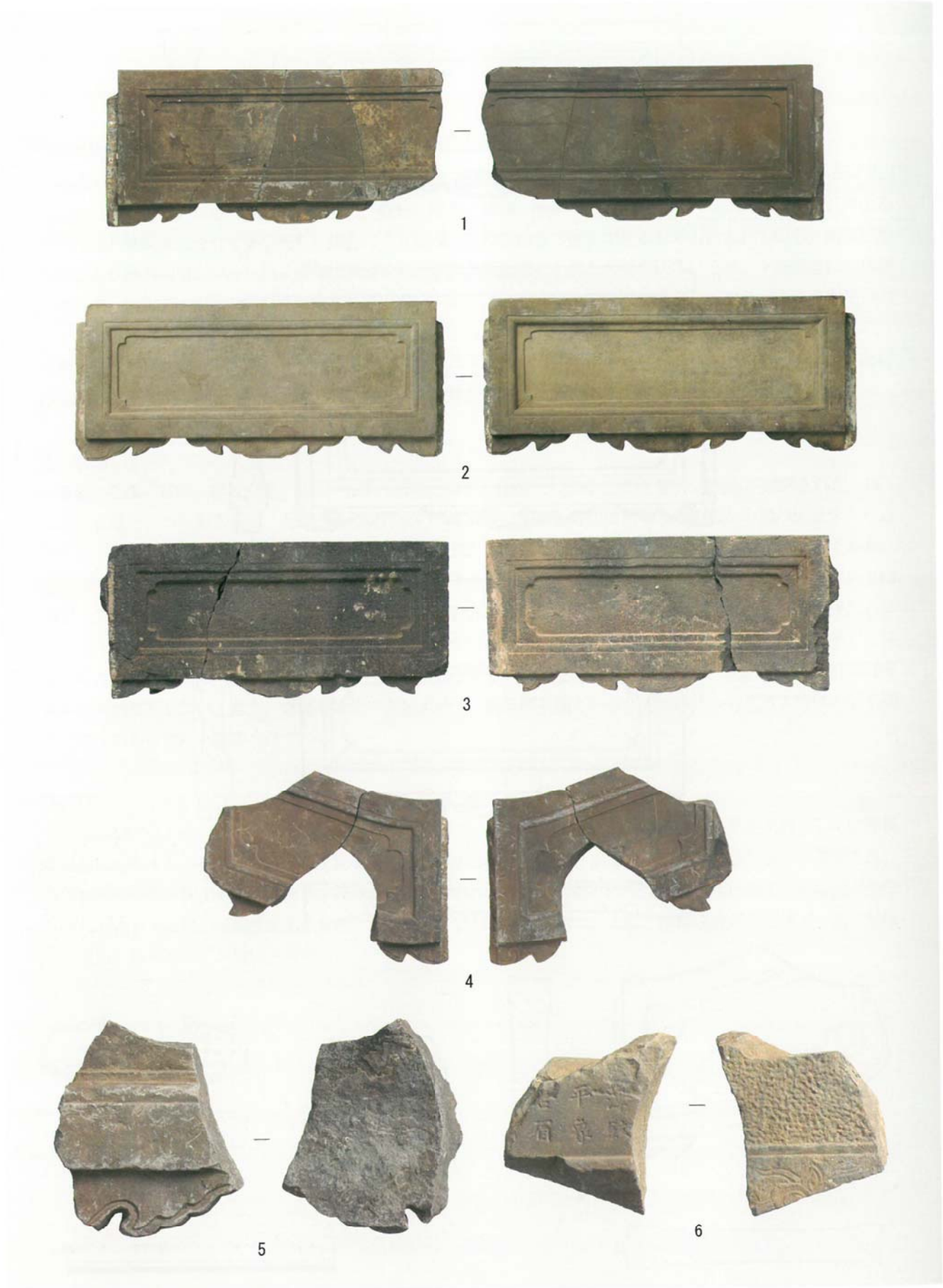
石硯、文鎮、石臼、碁石、駒、玉器、石筆、石球、砥石、石盤、火打石など11種の石製品が確認された。硯・石筆・石盤などの石製文具は、近世末から近代頃の赤間硯をはじめ、背面使用者名の釘書から概ね近世末から近代の本土産である。石筆・石盤も学制の導入とともに普及したものであり、同様に近代に帰属する資料である。首里城が機能していた時期に帰属するとみられる資料として、石臼は3点得られているが、いずれも茶臼の下臼部で、主溝8分画の資料である。石球は土製・青銅製の弾丸も出土していることから石弾と推察され、弾丸と目される各材質の資料が揃っている点は注目される。美石である玉を素材とした玉器は中国的な風潮を反映した製品と目され、碗もしくは皿のほか、装飾がみられる製品などが確認される。文鎮、碁石、駒、砥石、火打石は帰属年代が判然としない。他方、磨製石斧やスクレイパー、敲石磨石類といった先史時代からグスク時代の前半期の可能性のある資料も確認されている。

③石材

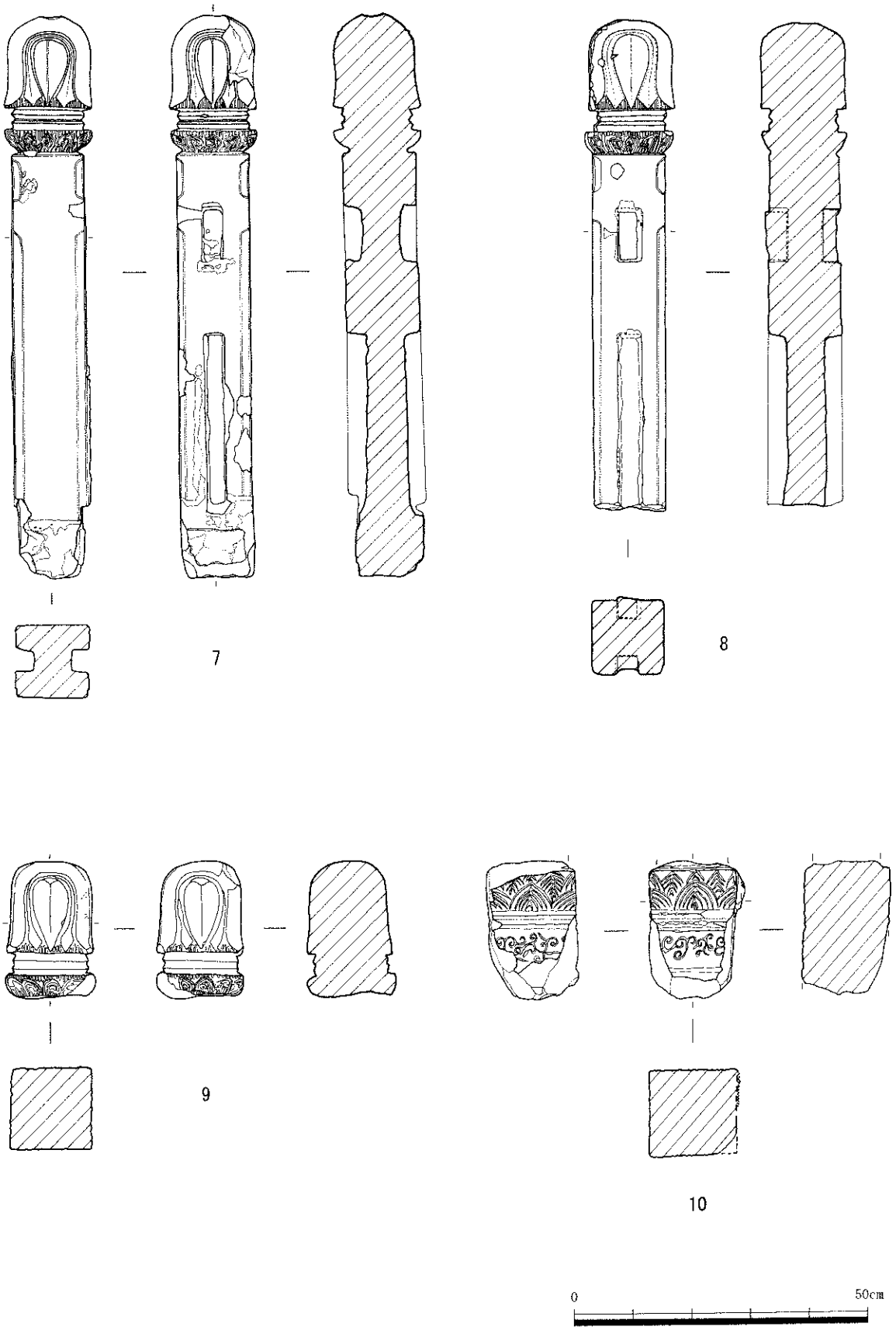
15種が認められた。そのうち最も多いのは細粒砂岩で、他に緑色千枚岩や砂岩といった本島北部もしくは慶良間諸島に分布する石材が多い。また上記の玉器に関連する翡翠や軟玉、水晶・石英なども僅かながら確認され、首里城内での美石加工の可能性を示す資料として理解される。また自然石の中でも扁平な円礫で、平坦面がやや平滑なものを玉砂利の可能性がある資料と目した。玉砂利とした資料は、上記と同様に砂岩が主体で、他に粘板岩、頁岩、緑色岩などが確認された。



第 152 図　石製品 1

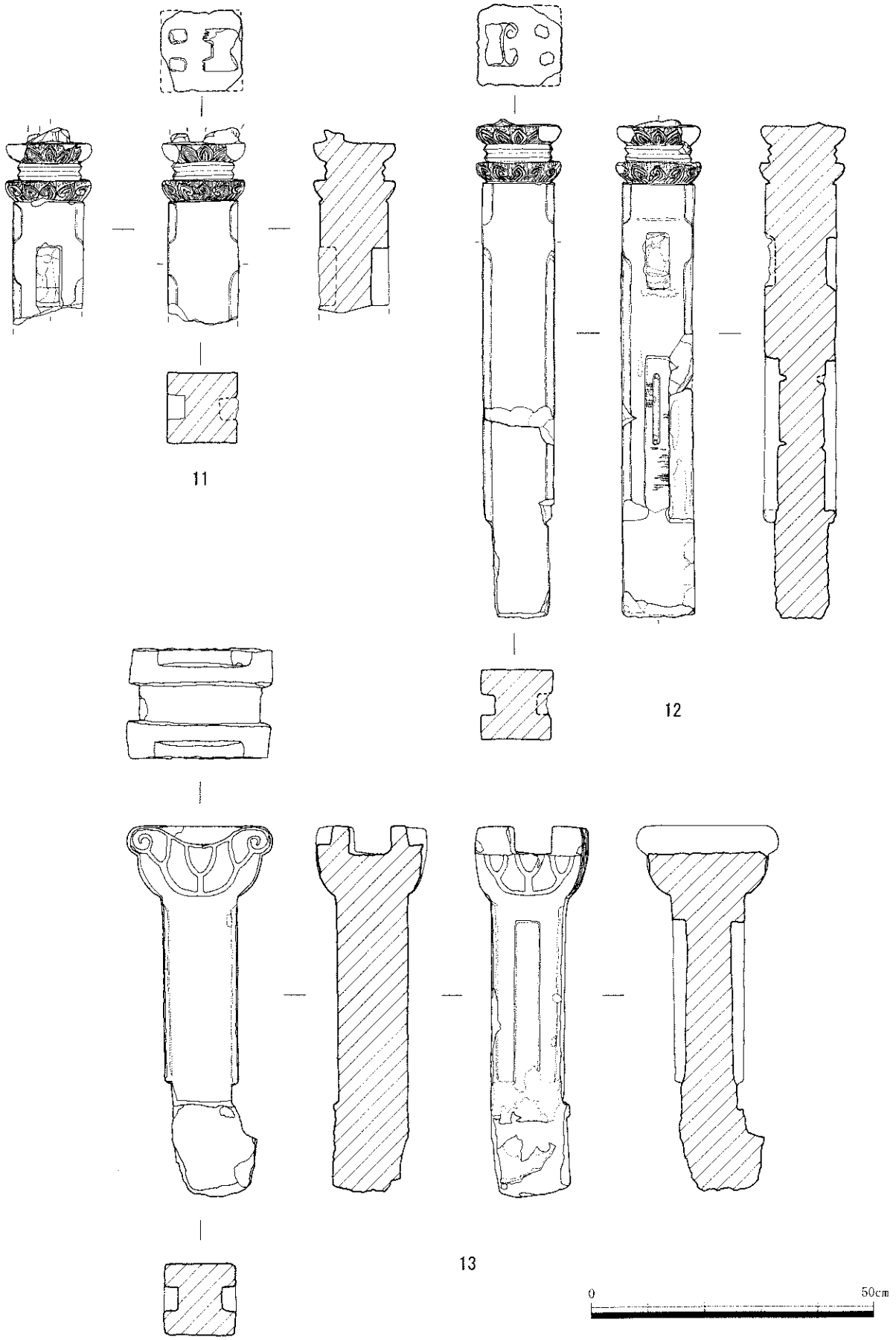


図版 117　石製品 1



第 153 図　石製品 2

図版 118　石製品 2



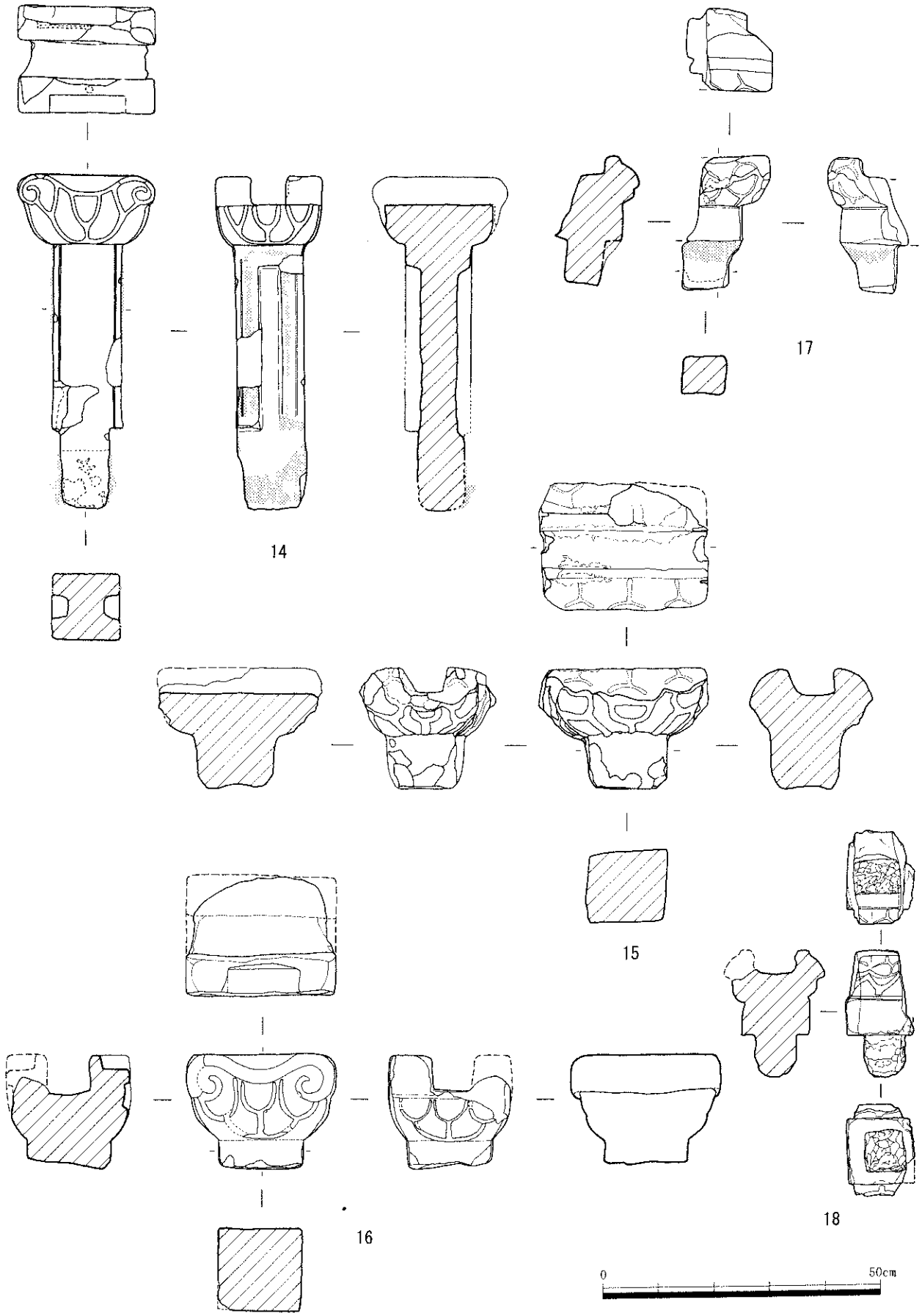
第 154 図　石製品 3

11

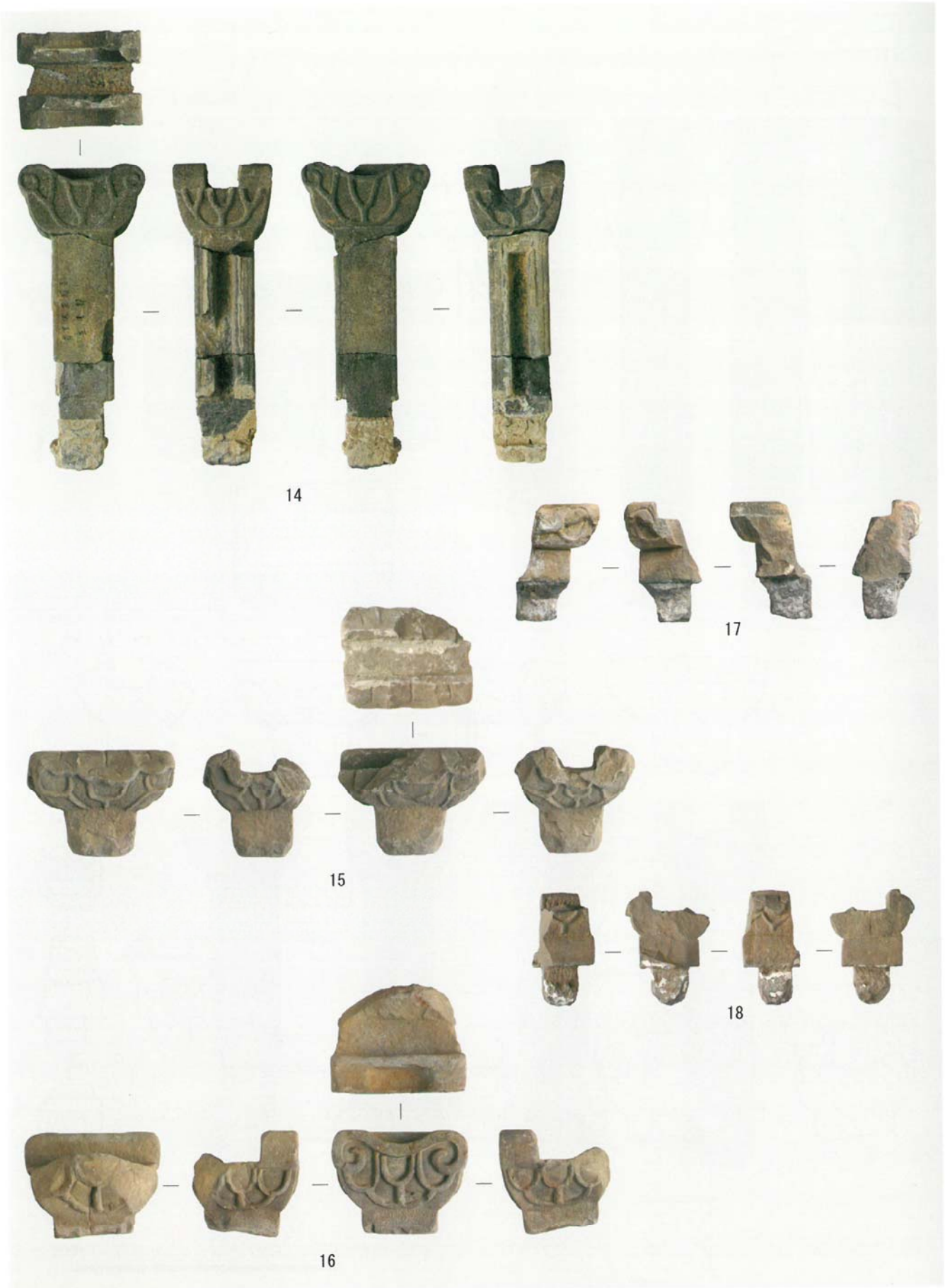
12

13

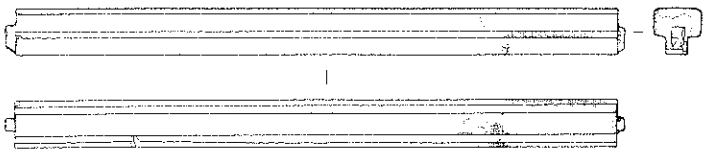
図版 119　石製品 3



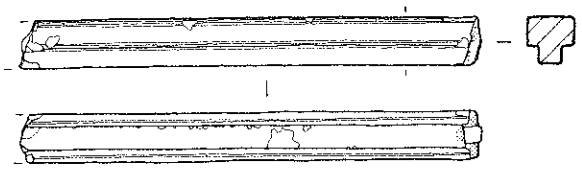
第 155 図　石製品 4



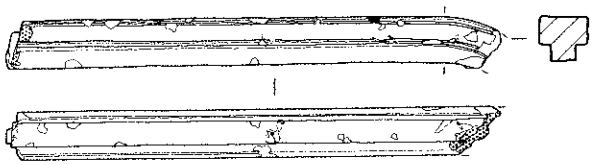
図版 120　石製品 4



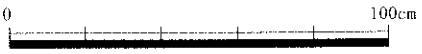
19



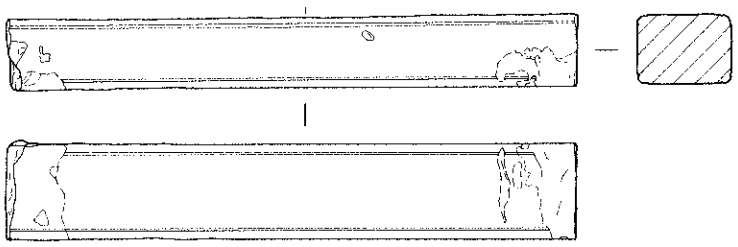
20



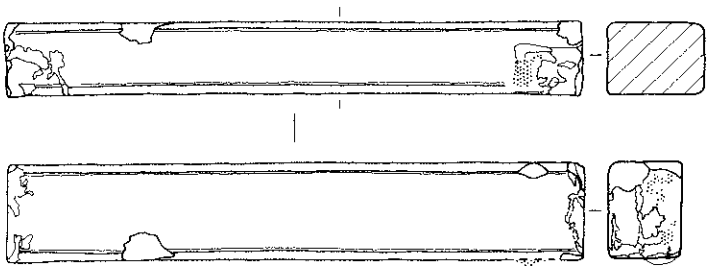
21



(19 ～ 21 は縮尺 5%)



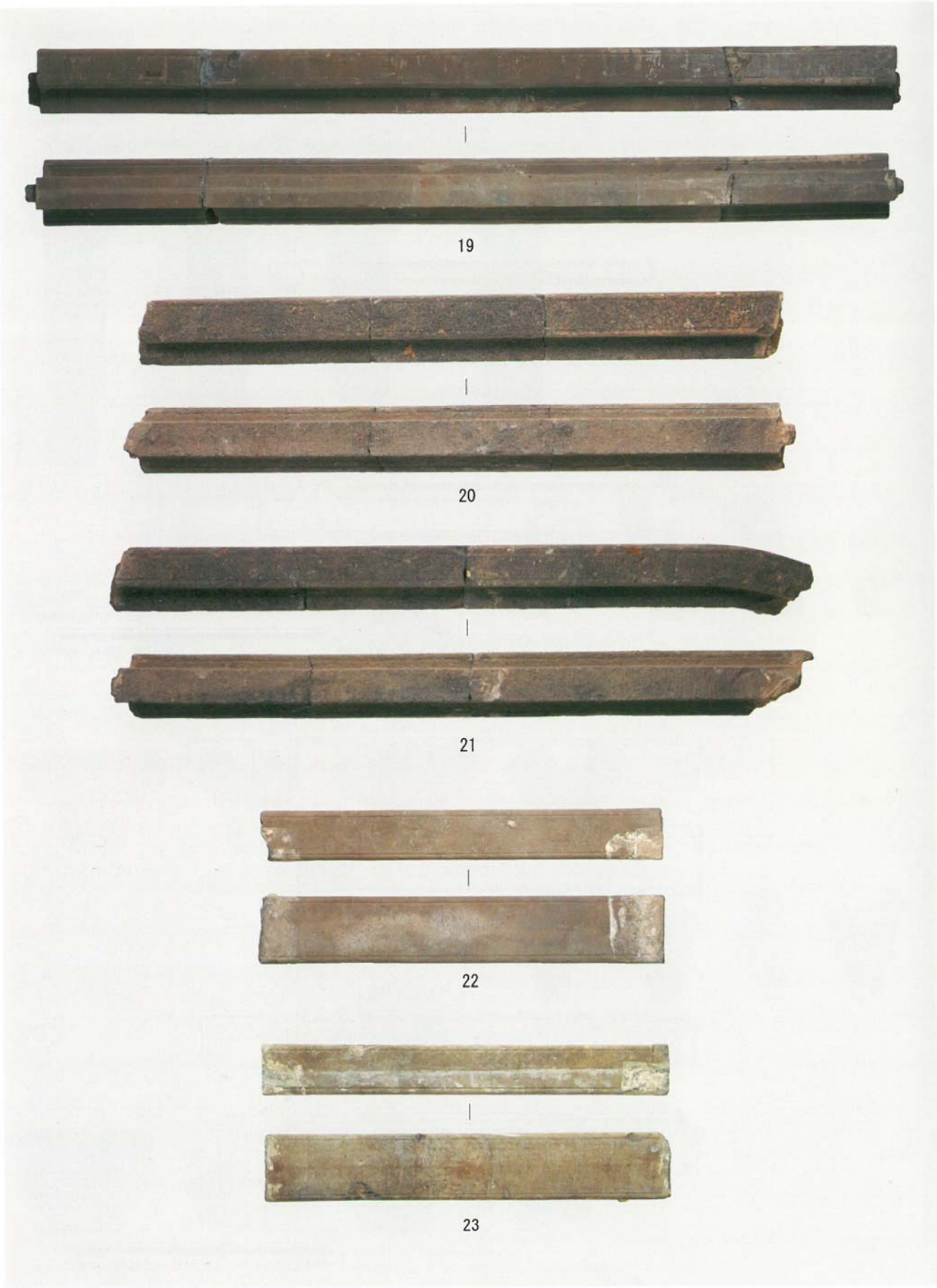
22



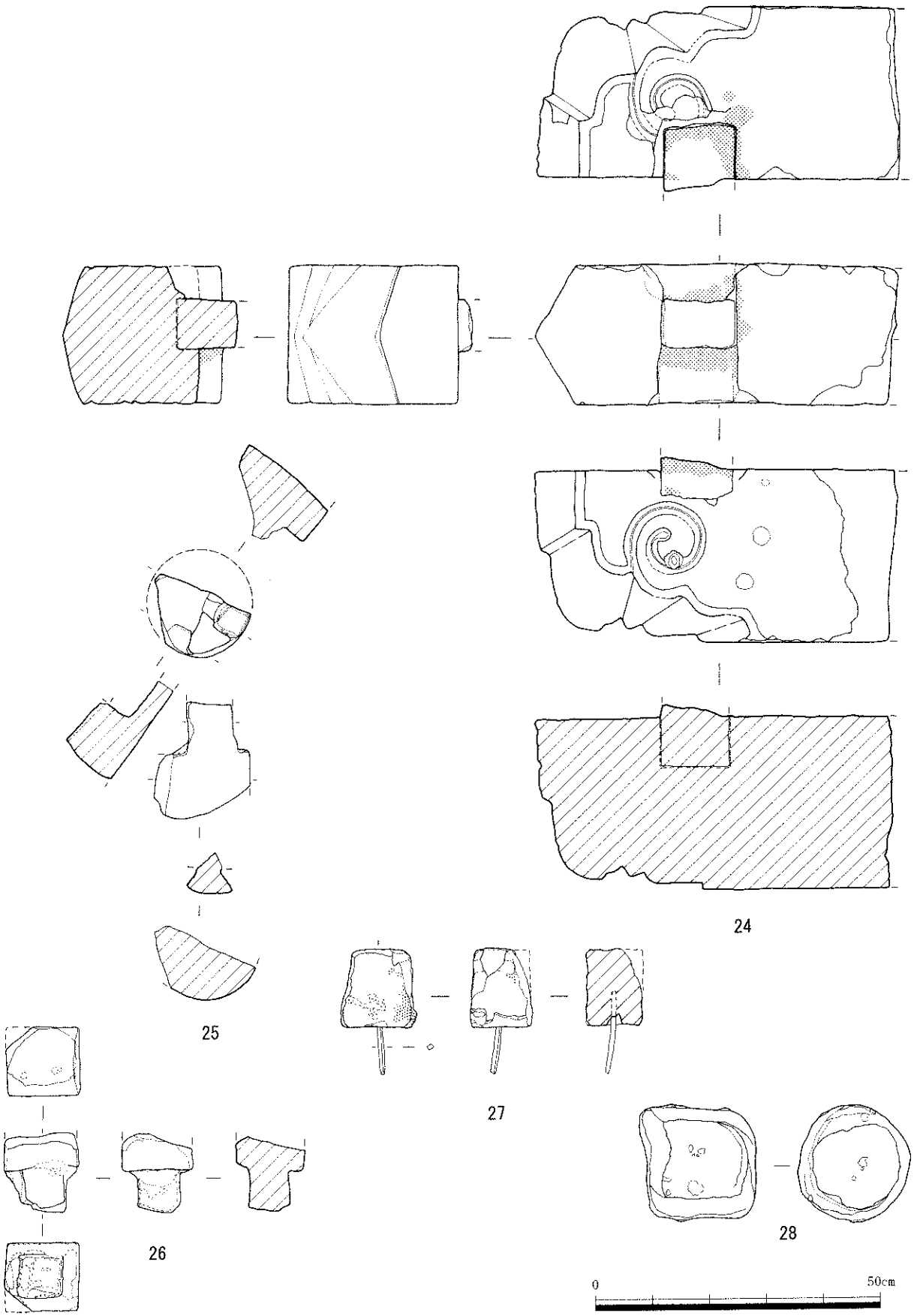
23

(22・23 は縮尺 10%)

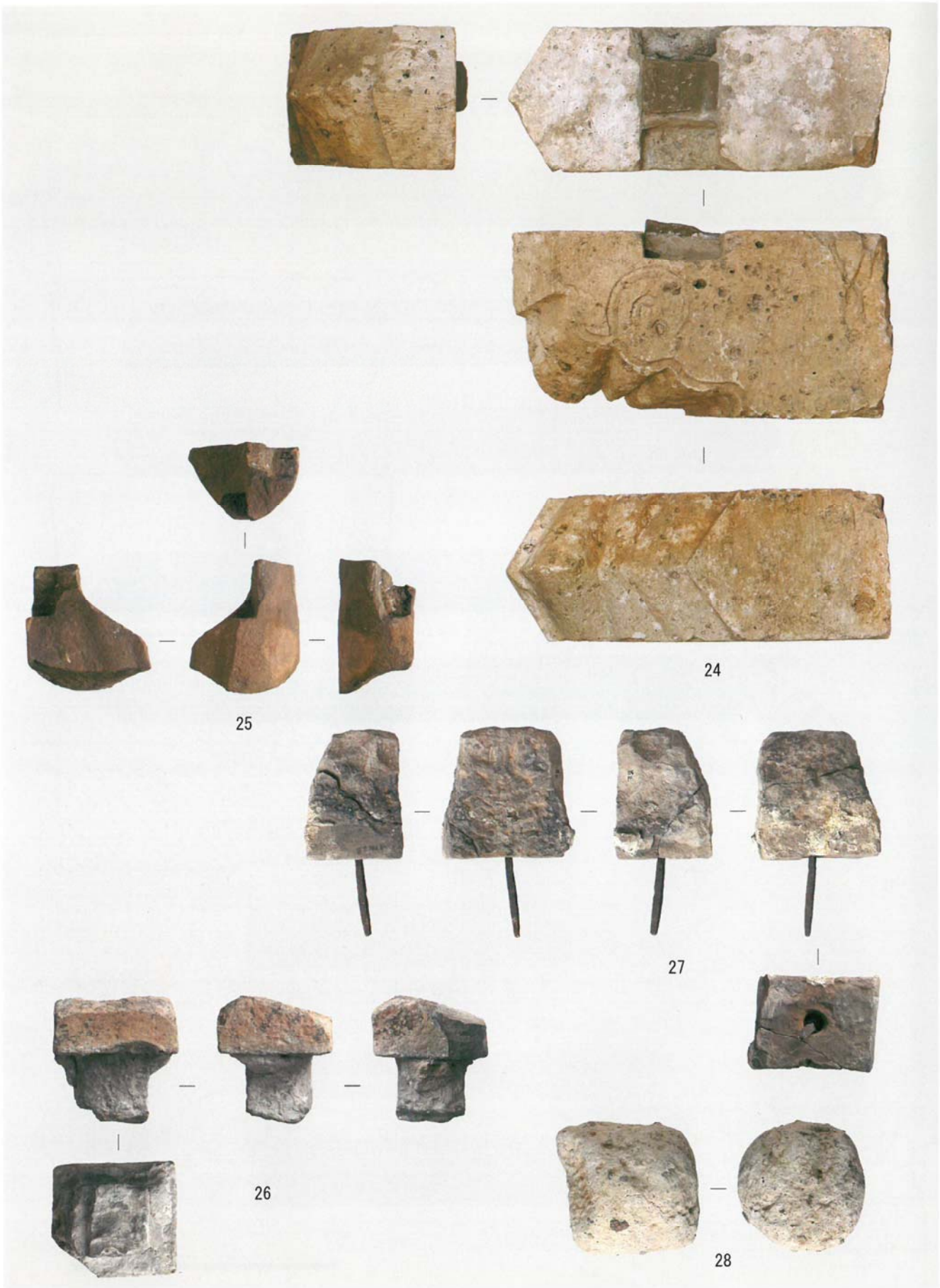
第 156 図　石製品 5



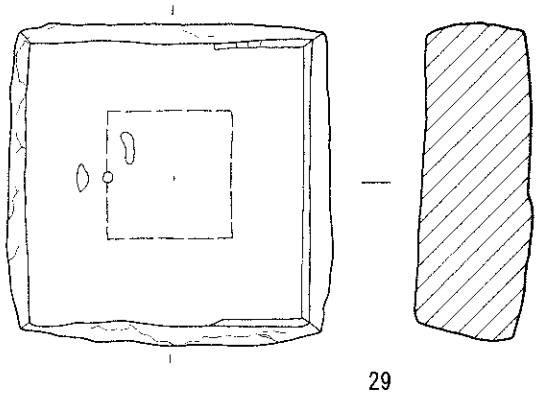
図版 121　石製品 5



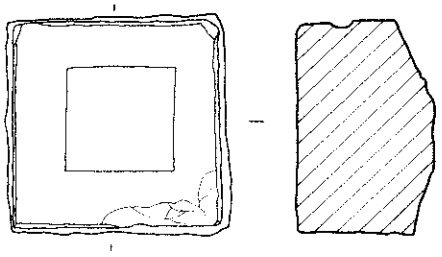
第 157 図　石製品 6



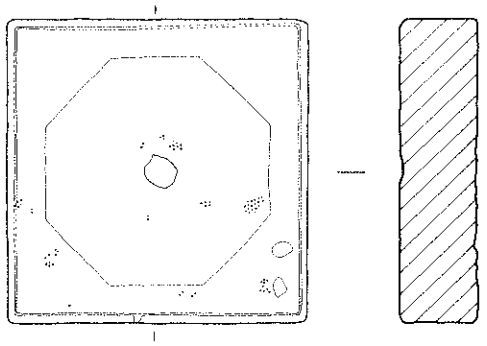
図版 122　石製品 6



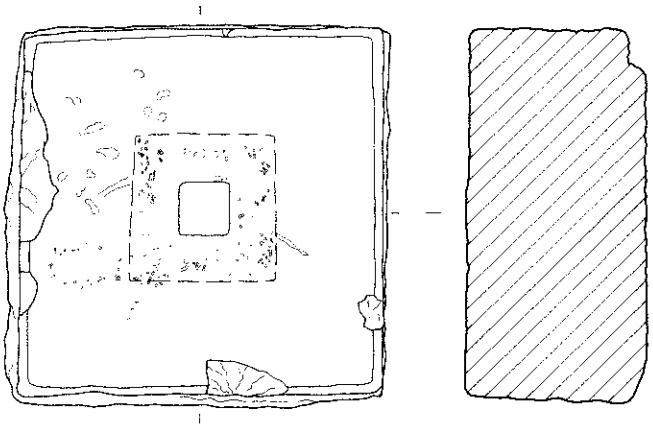
29



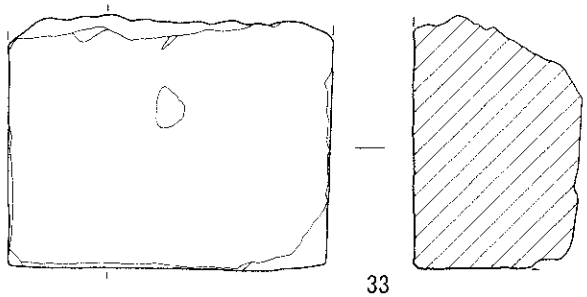
30



31



32



33

第 158 図　石製品 7

29

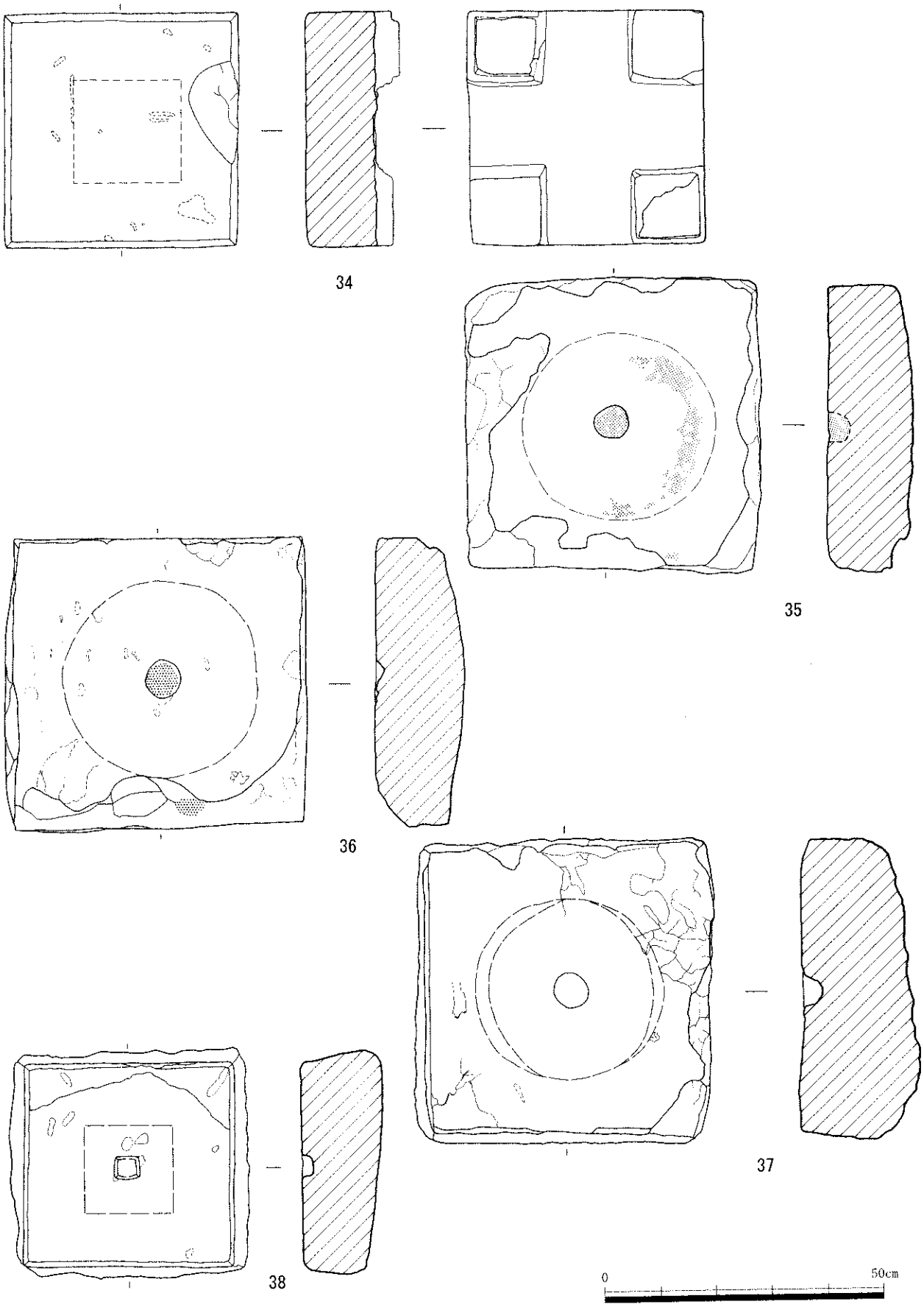
30

31

32

33

図版 123　石製品 7



第 159 図　石製品 8

34

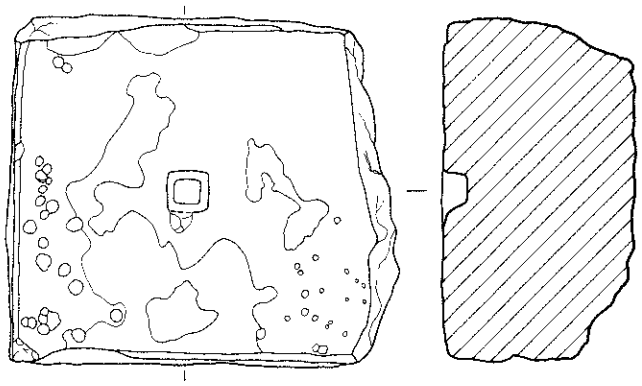
35

36

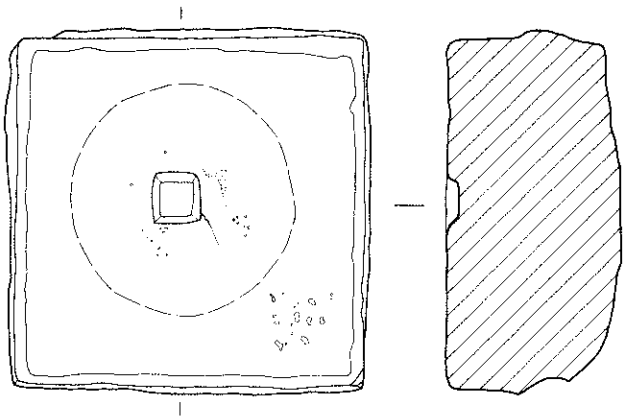
37

38

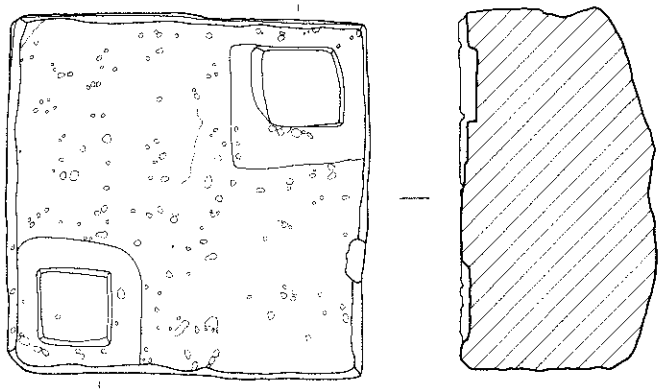
図版 124　石製品 8



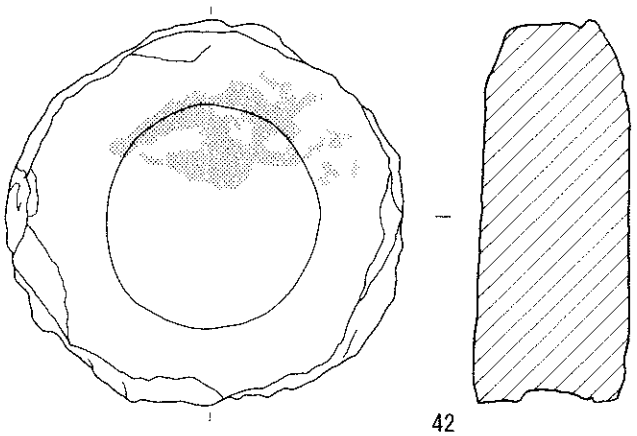
39



40



41



42

第 160 図　石製品 9

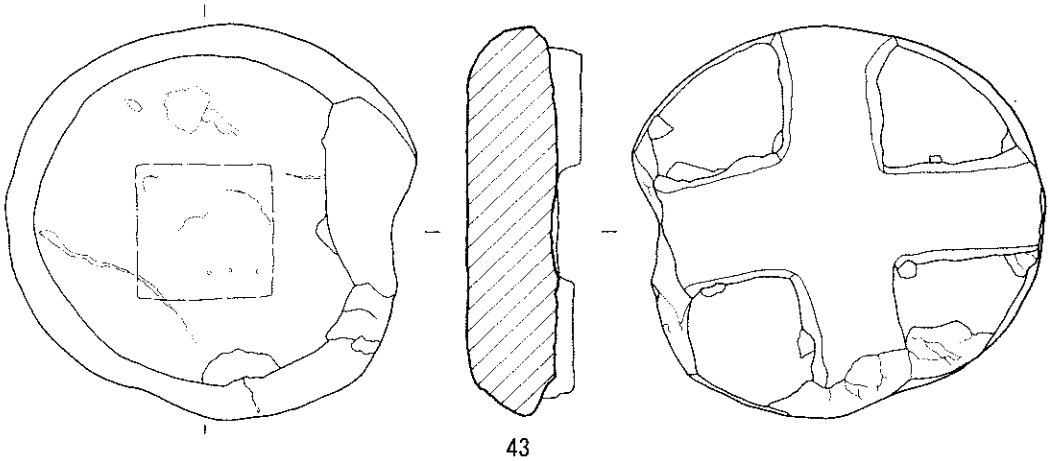
39

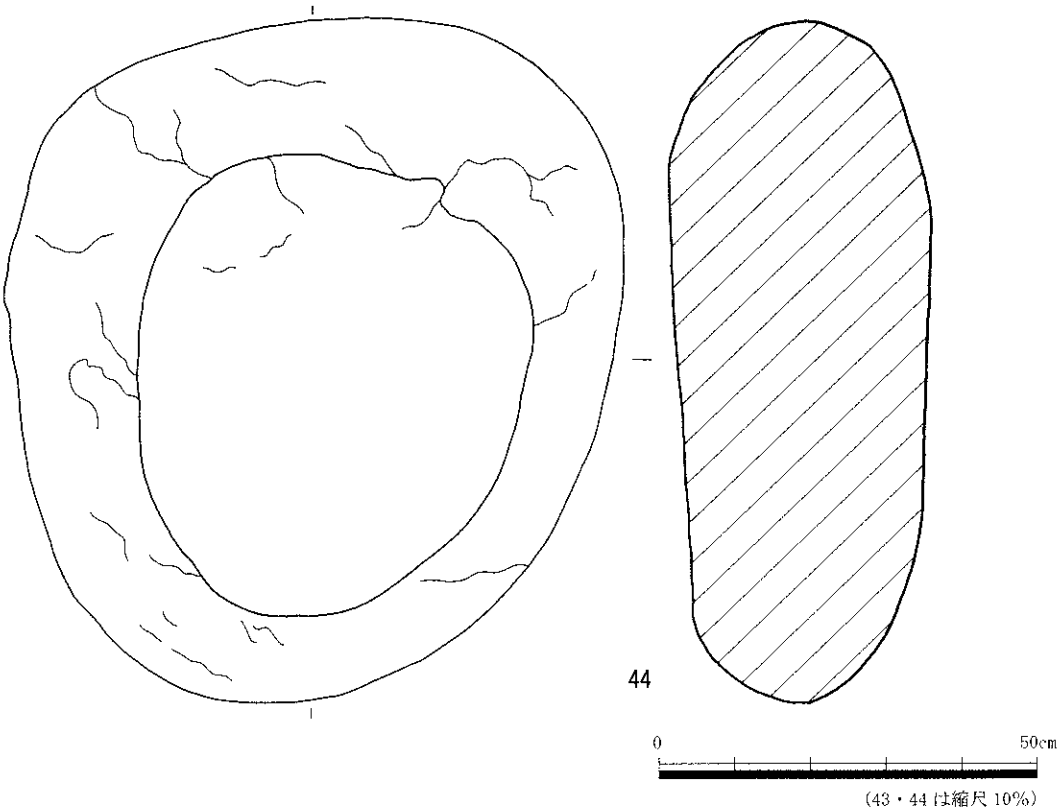
40

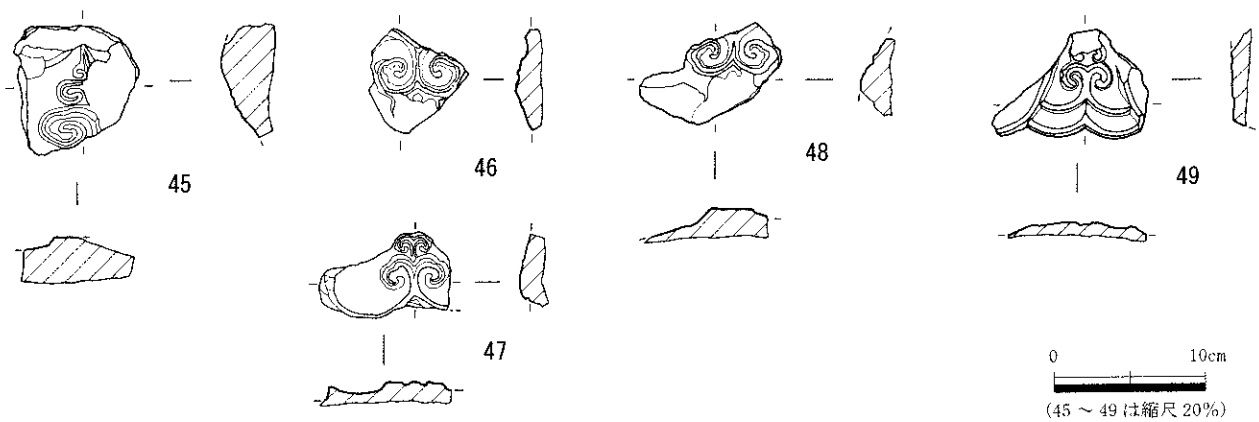
41

42

図版 125　石製品 9







第 161 図　石製品 10

43

44

45

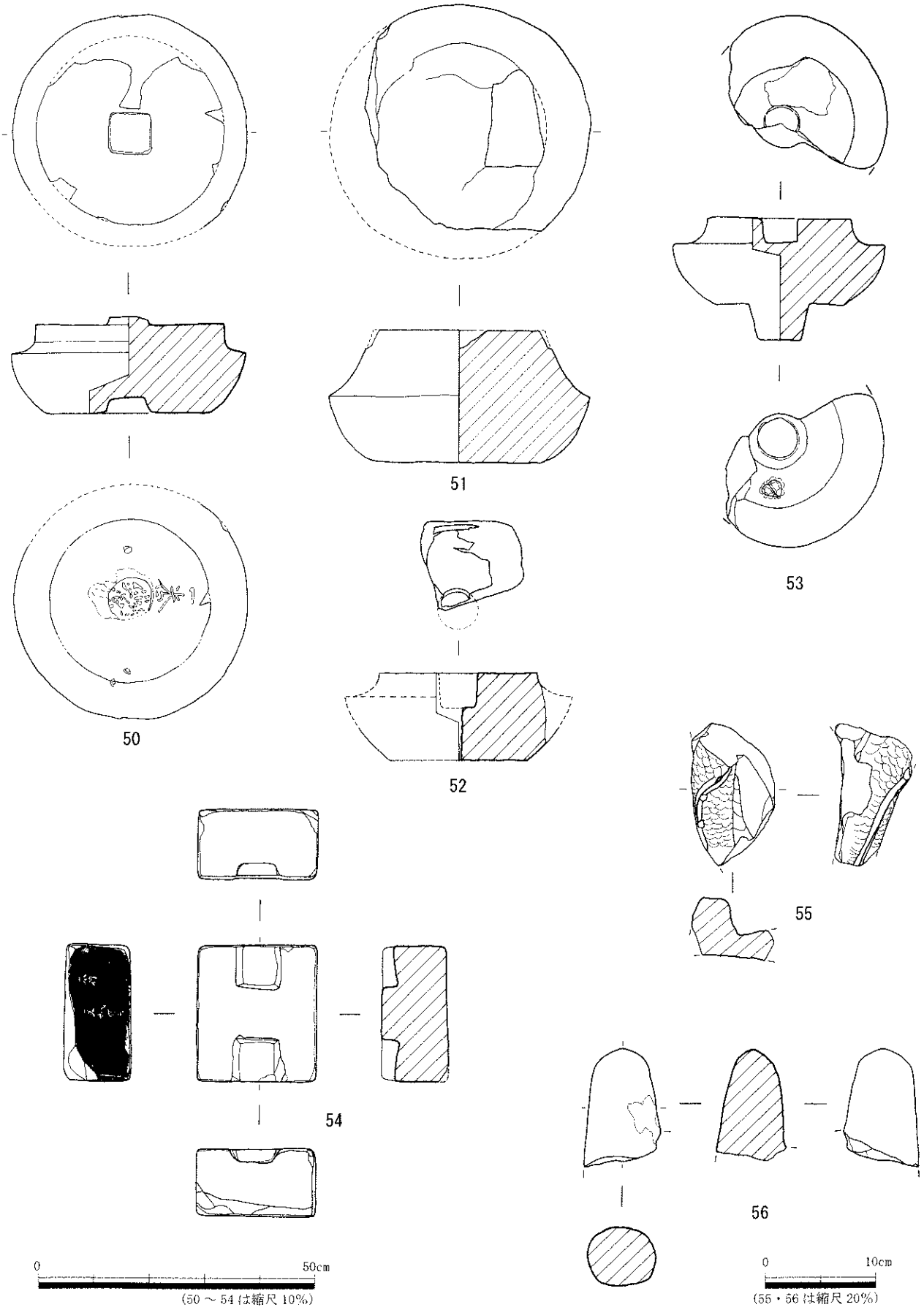
46

48

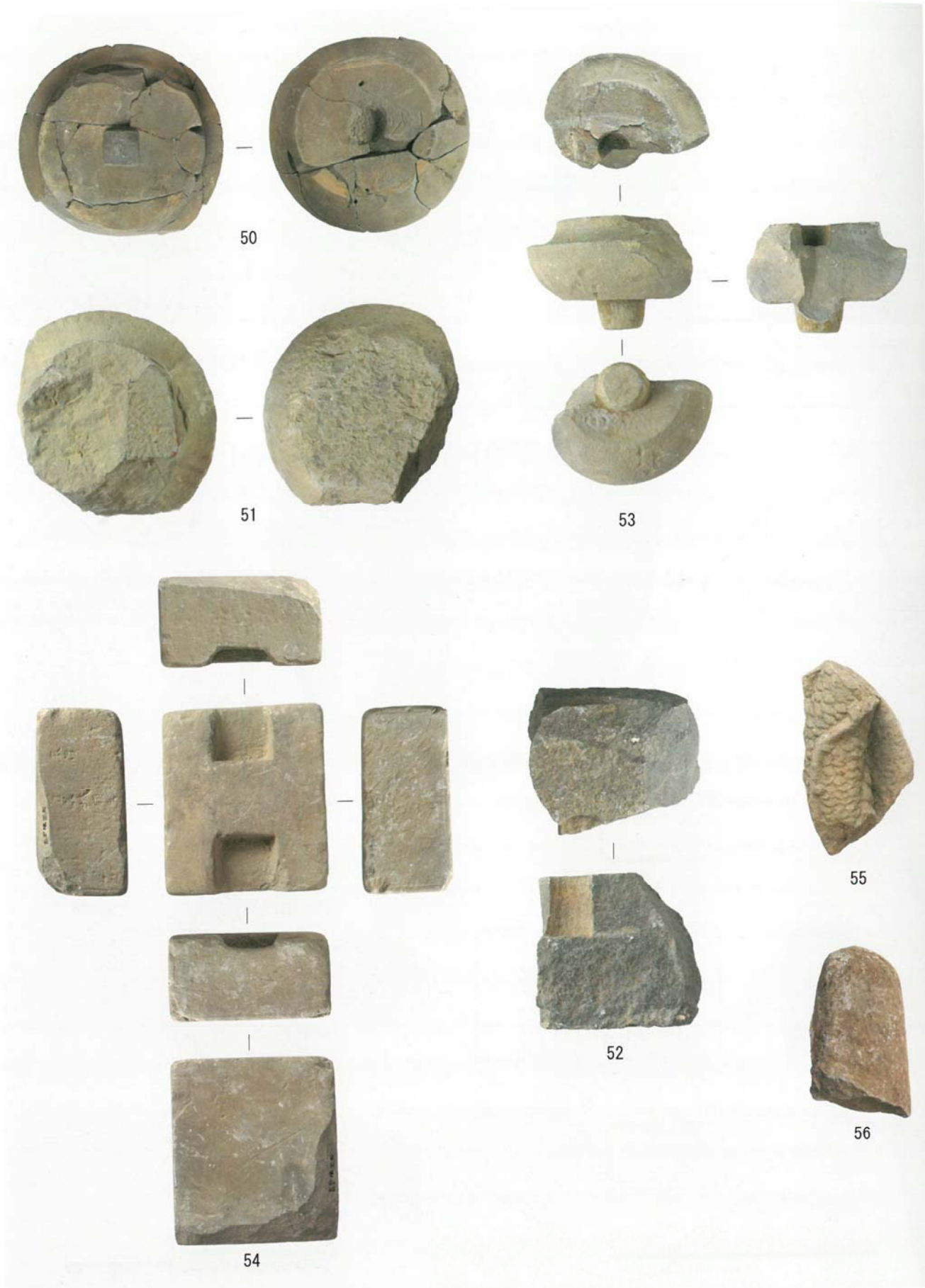
49

47

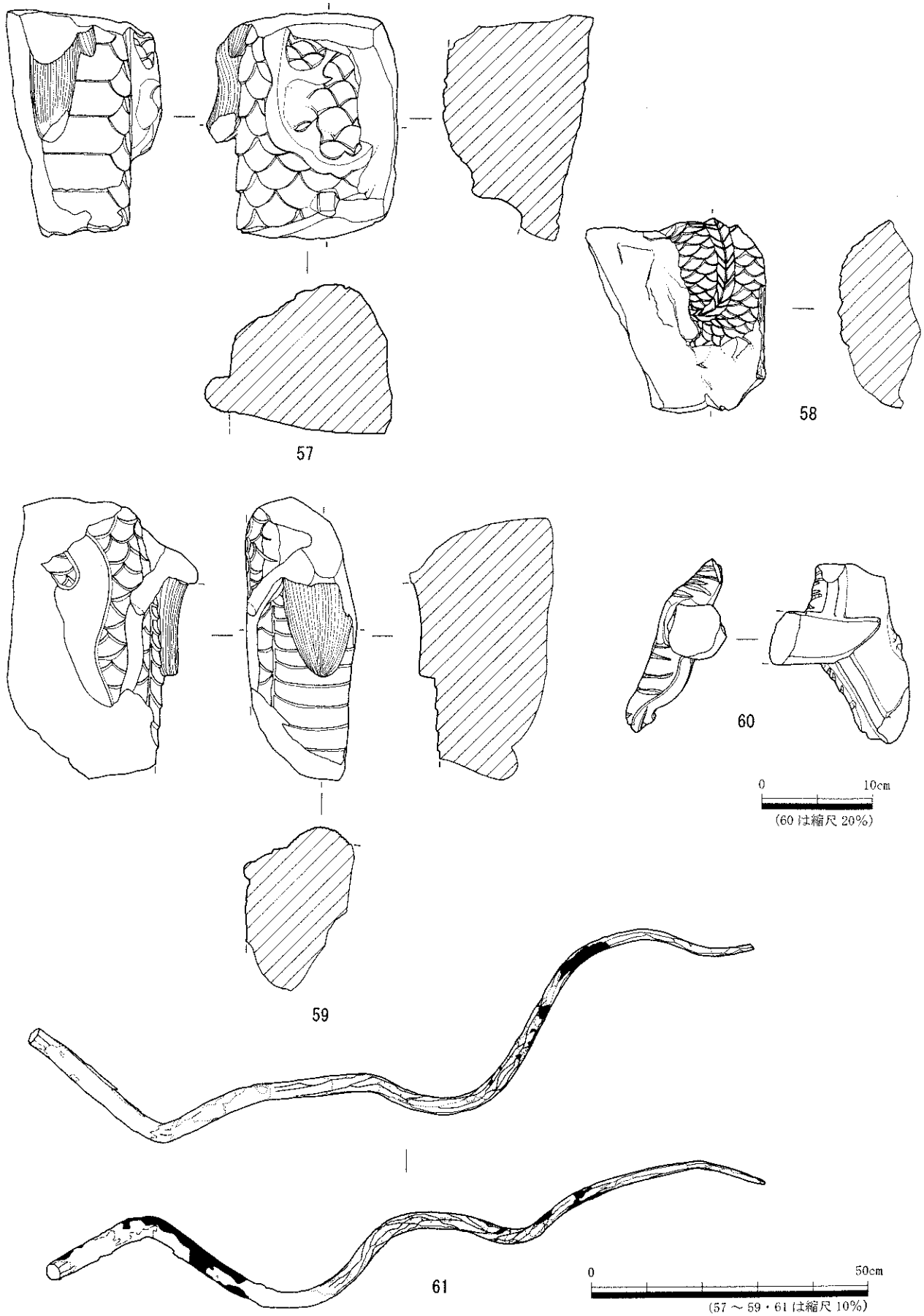
図版 126　石製品 10



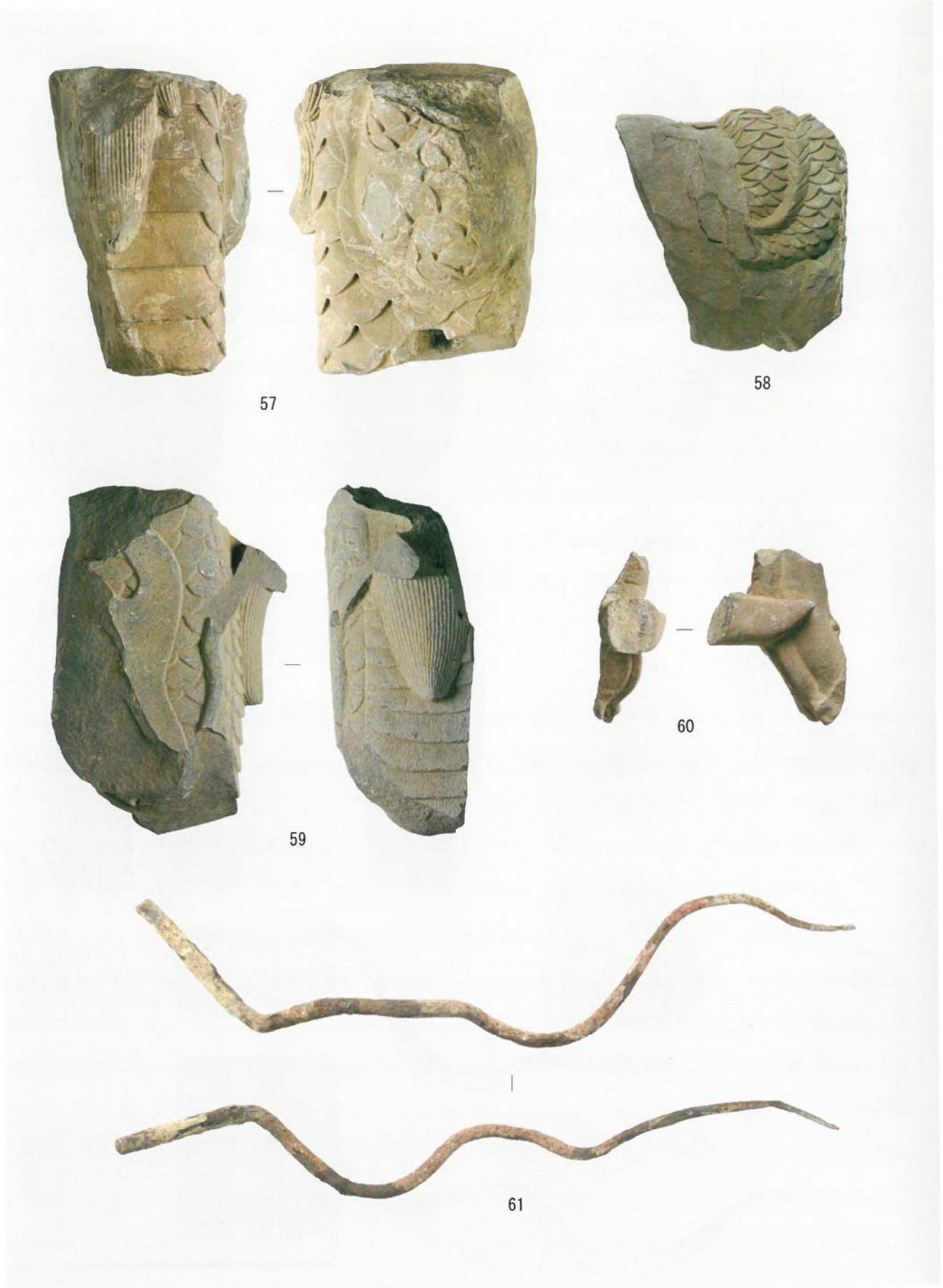
第 162 図　石製品 11



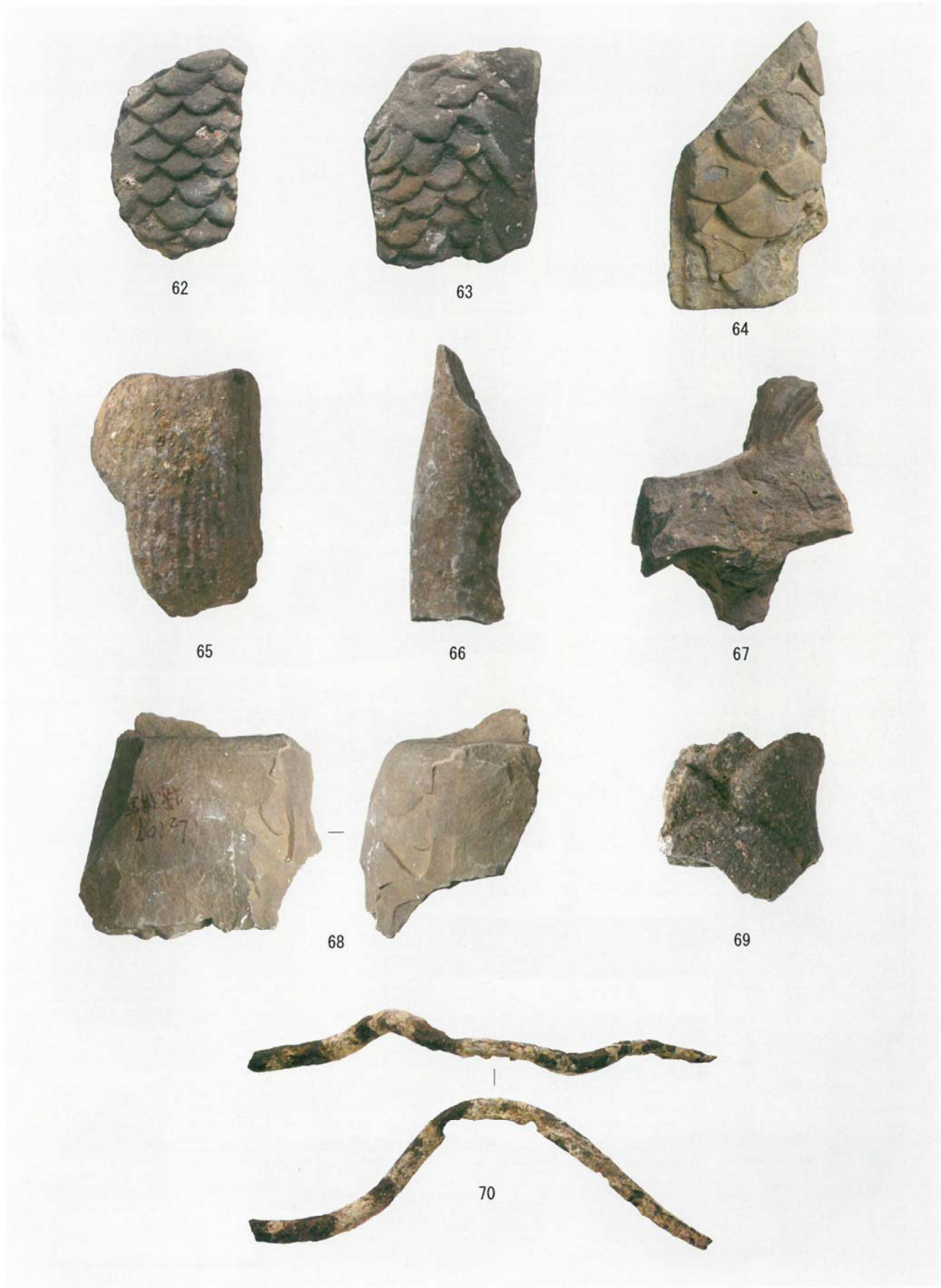
図版 127　石製品 11



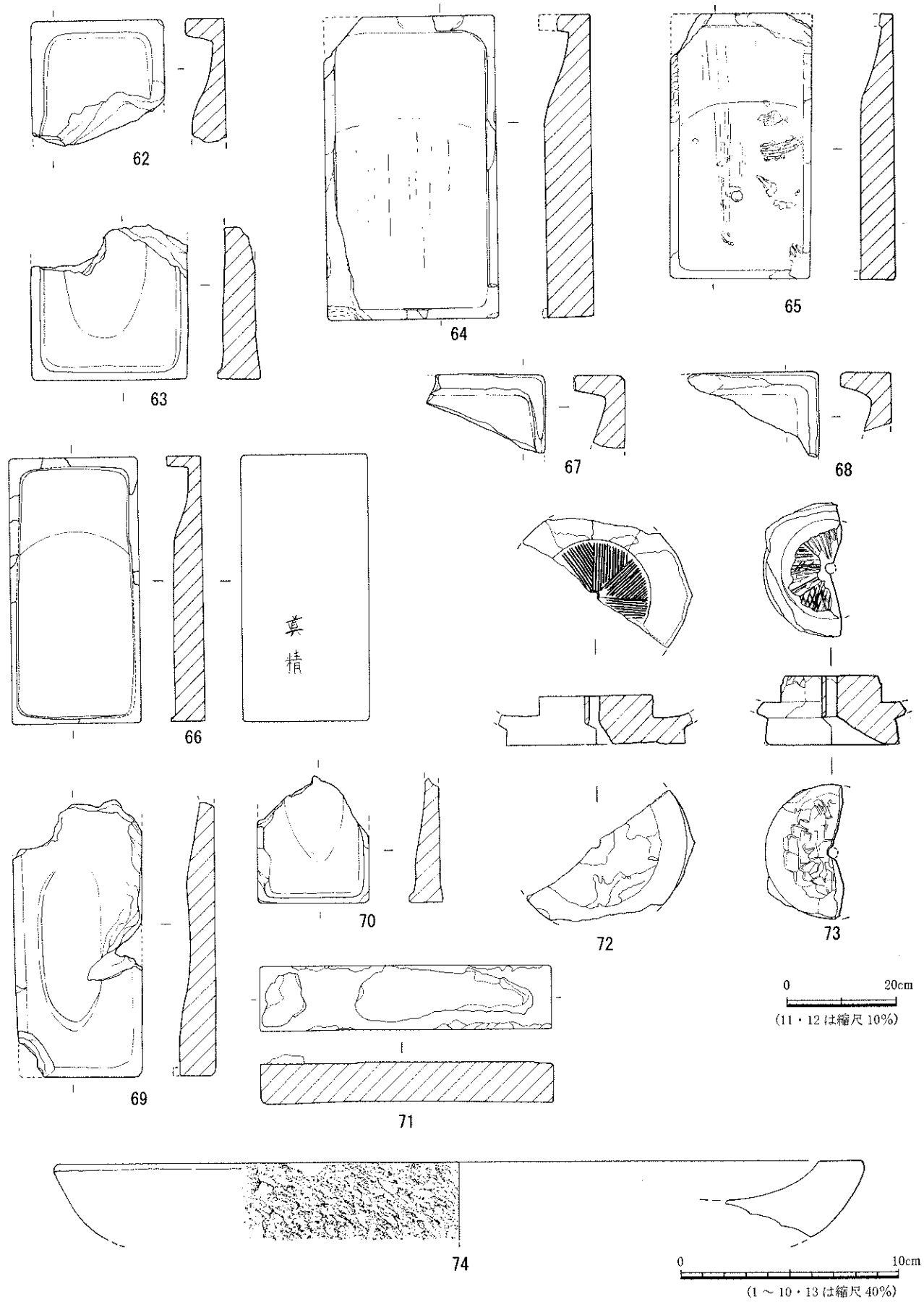
第 163 図　石製品 12（※61金属製品）



図版 128　石製品 12（※61金属製品）

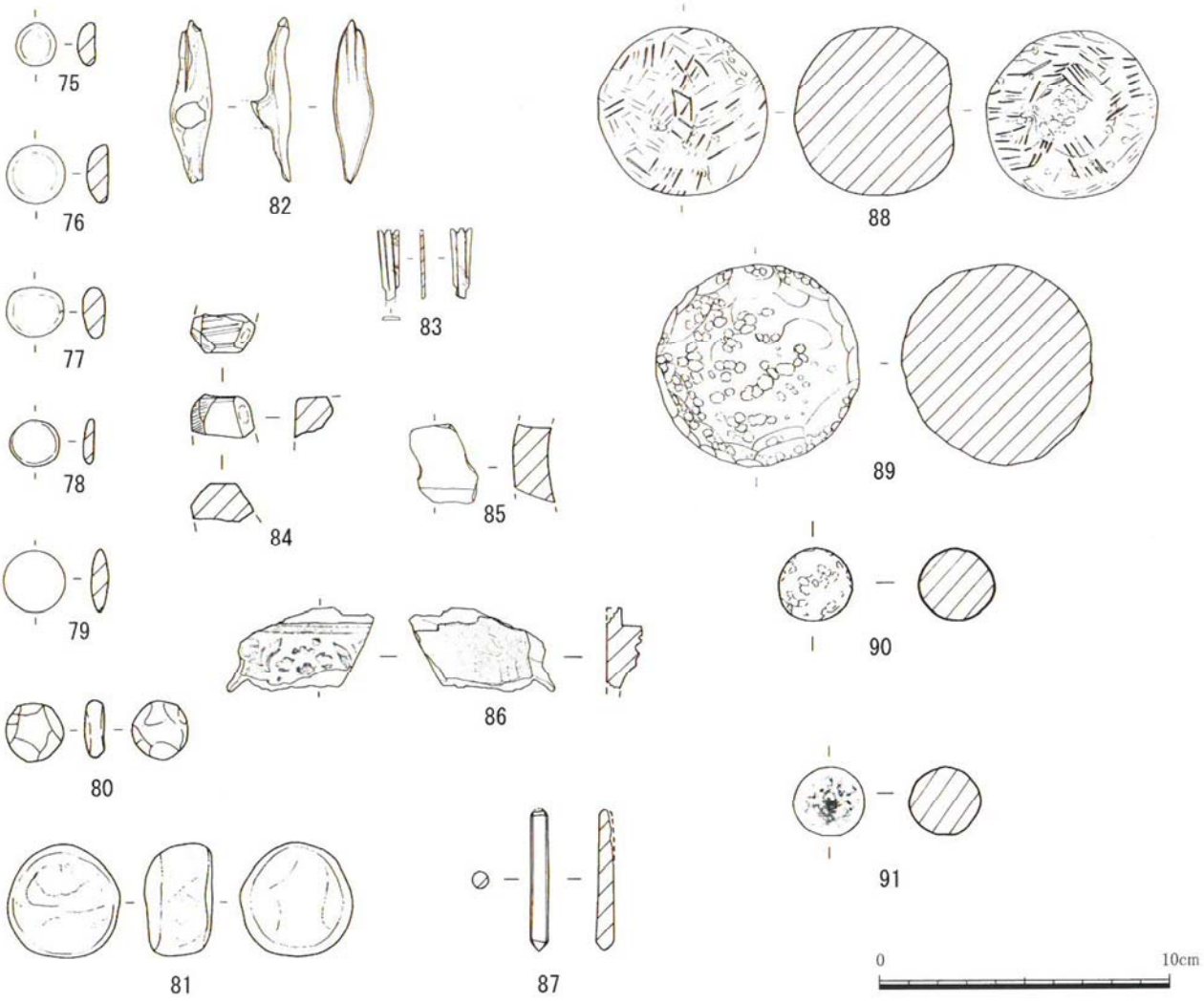


図版 129　石製品 13（※70金属製品）

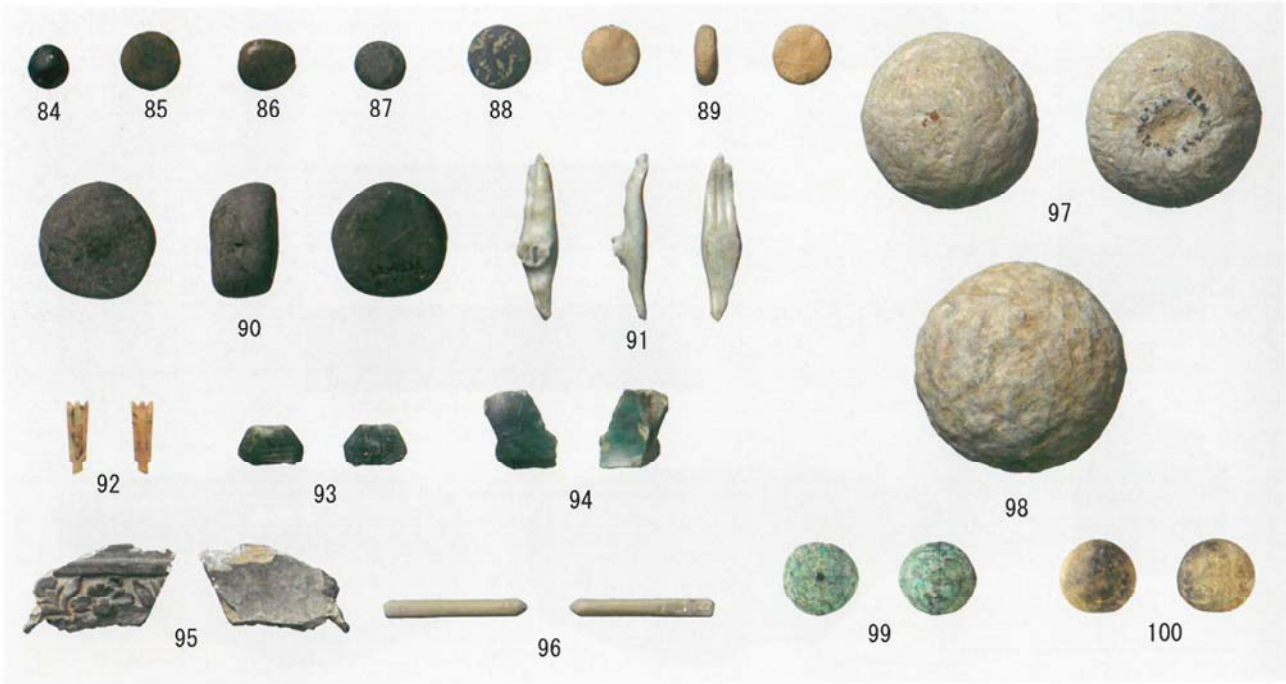

62
64
65
63
67
68
66
70
72
73
69
71
74
0 20cm
(11・12は縮尺10%)
0 10cm
(1～10・13は縮尺40%)

第164図　石製品13

図版 130　石製品 14



第 165 図　石製品 14，弾

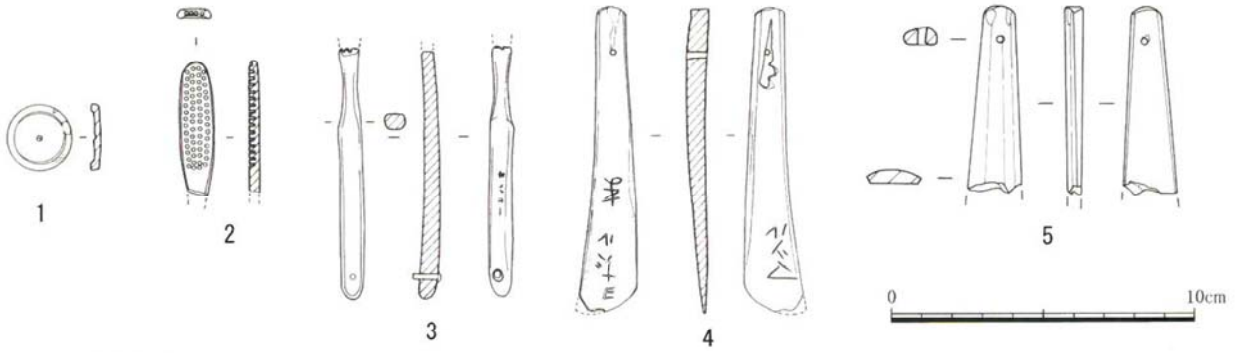


図版 131　石製品 15，弾

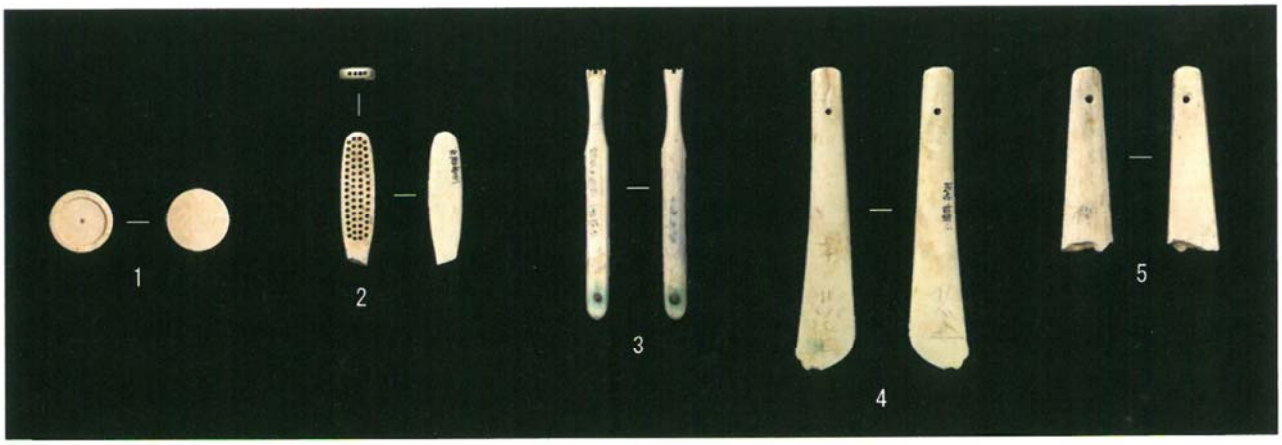
15　骨製品

正殿地区からは全８点の骨製品が確認された（第51表）。そのうち特徴的な５点を第166図に示すとともに、各資料の特徴を第52表に記載した。資料個々の特徴はそれらに参照して頂き、ここでは当地区の出土資料について概観したい。

骨製品のうち、１を含む器種不明の製品を除くと歯ブラシとヘラが確認された。前者については、本国での歯ブラシの本格的使用時期が近代であることから、その時期の資料と目される。一方でヘラは首里城の他地区でもみられるが、４は所有者とみられる記名が釘書きされており、硯など同様の記名がみられる資料から近世と推定される。



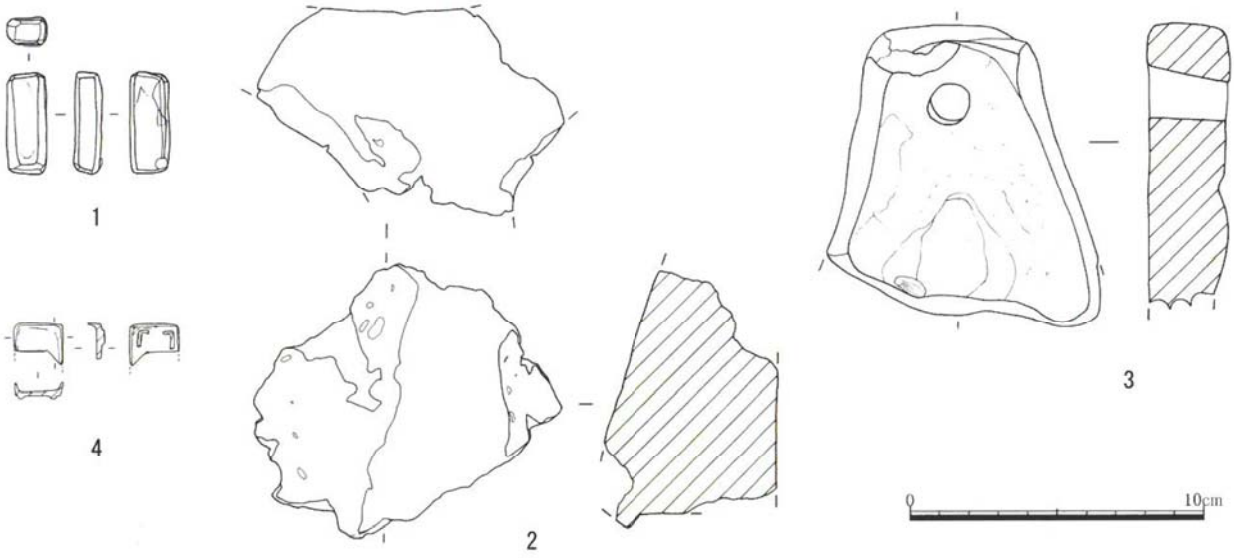
第166図　骨製品



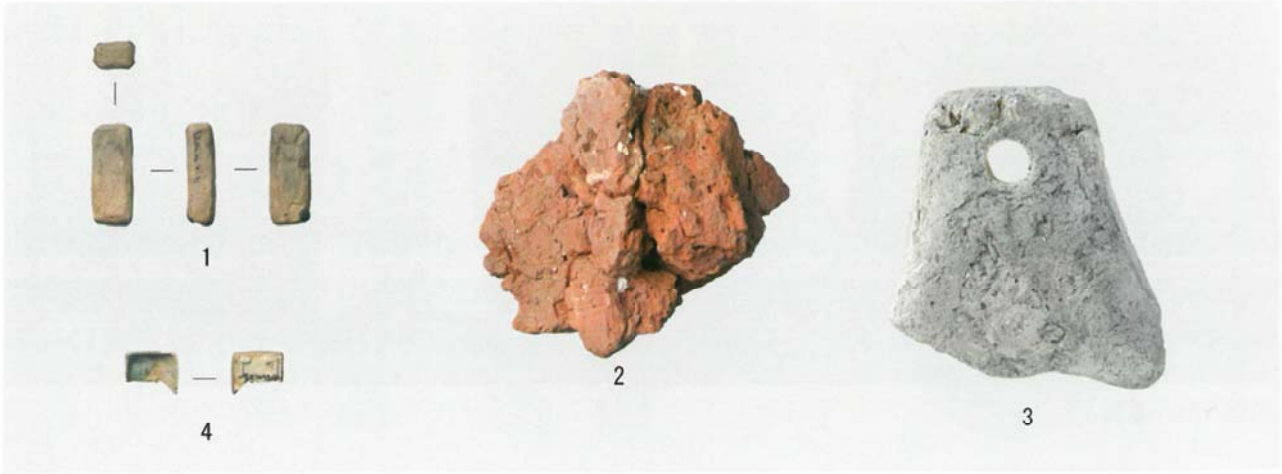
図版132　骨製品

16　土製品

土製品は全 22 点が確認されるが（第 53 表）、そのうち製品の形状を残す 4 点を第 167 図に示し、観察所見を第 54 表に記載した。この中で器種が特定されるのは 4 の角皿のミニチュア製品で、本土の近世遺跡において散見される資料である。



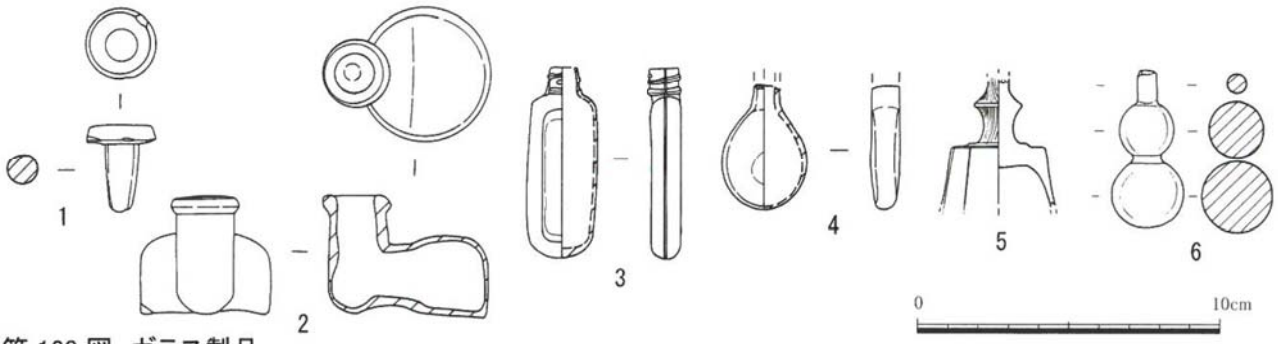
第 167 図　土製品



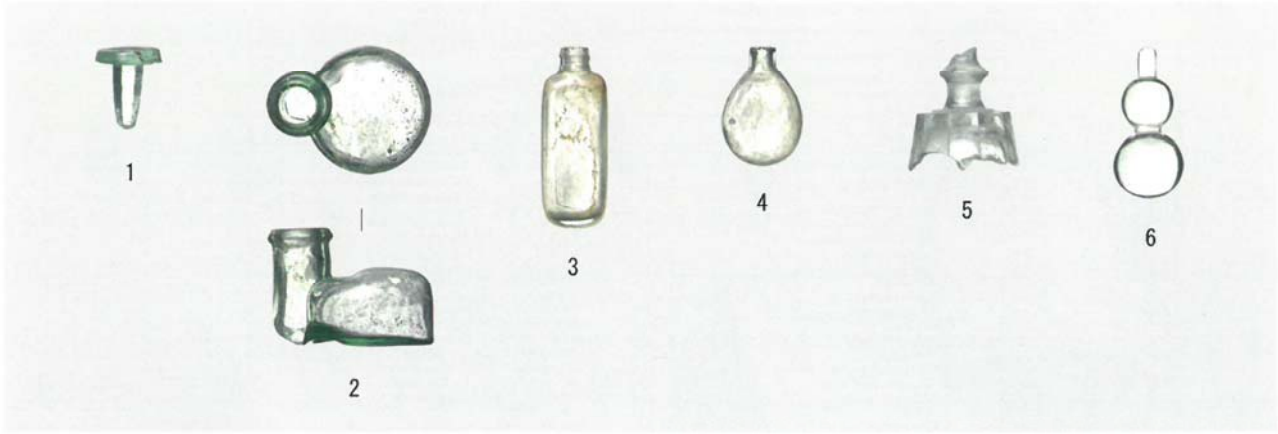
図版 133　土製品

17　ガラス製品

ガラス製品は全 21 点（第 55 表）が出土しているが、その中で残存状態のよい 6 点を取り上げて図示（第 168 図）及び観察表（第 56 表）に記載した。器種の特定できるガラス製品は薬瓶とその蓋（３～５）とインクボトル（２）で、いずれも近代のものとみられる。



第 168 図　ガラス製品



図版 134　ガラス製品

18 自然遺物

①貝類遺体

貝類遺体は、発掘調査で他の遺物と共に取り上げたピックアップ資料である。種の同定は当センター所蔵の現生標本や県内出土資料との比較により判断し、生息地は黒住耐二氏の研究（黒住 1987）に基づき分類した。

同定できた資料は巻貝が 75 種、二枚貝が 37 種の計 112 種で、最小個体数は前者が 3, 861 点、後者が 2, 469 点の総数 6, 330 点となる。貝種別にみると、ヤコウガイ（身と蓋の合計）、カンギク、ウミニナカニモリ、アラスジケマンガイが多い（第 57・58 表）。

軟体動物門	Mollusca	
腹足綱	Gastropoda	生息域類型
ミミガイ科	Haliotidae	
イボアナゴ	*Haliotis (Sanhaliotis) varia*	Ⅰ－2－a
ニシキウズ科	Trochidae	
ニシキウズ	*Trochus maculatus*	Ⅰ－2－a
ムラサキウズ	*Trochus stellatus*	Ⅰ－3－a
ギンタカハマ	*Tectus pyramis*	Ⅰ－4－a
ベニシリタカ	*Tectus conus*	Ⅰ－4－a
サラサバテイ	*Tectus niloticus*	Ⅰ－4－a
オキナワイシダタミ	*Monodonta labio*	Ⅱ－1－b
サザエ科	Turbinidae	
リュウテン	*Turbo (turbo) petholatus*	Ⅰ－4－b
ヤコウガイ	*Turbo (turbo) marmoratus*	Ⅰ－4－a
ヤコウガイの蓋	*T. (L.) marmoratus (operculum)*	Ⅰ－4－a
チョウセンサザエ	*Turbo (Marmarostoma) argyrostomus*	Ⅰ－3－a
チョウセンサザエの蓋	*T. (M.) argyrostomus (operculum)*	Ⅰ－3－a
カンギク	*Turbo (lunella) coronatus coronatus*	Ⅱ－1－b
カンギクの蓋	*Lunella moniliformis (operculum)*	Ⅱ－1－b
アマオブネガイ科	Neritidae	
マルアマオブネ	*Nerita (Theliostyla) squamulata*	Ⅱ－1－b
アマオブネガイ	*Nerita (Theliostyla) albicilla*	Ⅰ－1－b
ニシキアマオブネ	*Nerita (Linnerita) polita*	Ⅰ－1－c
オニノツノガイ科	Cerithiidae	
オニノツノガイ	*Cerithium nodulosum*	Ⅰ－2－c
コオニノツノガイ	*Cerithium columna*	Ⅰ－2－c
カヤノミカニモリ	*Clypeomorus bifasciata*	Ⅰ－1－b
ウミニナカニモリ	*Clypeomorus batillariaeformis*	Ⅱ－1－b
クワノミカニモリ	*Clypeomorus petrosa chemnitziana*	Ⅰ－1－a
ウミニナ科	Batillariidae	
イボウミニナ	*Batillaria zonalis*	Ⅲ－1－c
トウガタカワニナ科	Thiaridae	
タイワンカワニナ	*Melanoides tuberculata formosensis*	Ⅳ－6
フトヘナタリ科	Potamididae	
カワアイ	*Cerithidea (Cerithideopsilla) djadjariensis*	Ⅲ－1－c
センニンガイ	*Telescopium telescopium*	Ⅲ－0－c
カワザンショウガイ科	Assimineidae	
ウスイロオカチグサ	*Paludinassiminea debilis*	Ⅳ－6
ソデボラ科	Strombidae	
オハグロガイ	*Strombus (Canarium) urceus*	Ⅱ－2－c
ネジマガキ	*Strombus (Gibberulus) gibberulus gibbosus*	Ⅰ－2－c
マガキガイ	*Strombus (Conomurex) luhuanus*	Ⅰ－2－c
スイジガイ	*Lambis (Harpago) chiragra*	Ⅰ－2－c
ソデボラ科不明		
スズメガイ科	Hipponicidae	
アツキクスズメ	*Hipponix acuta*	Ⅰ－3－a
タカラガイ科	Cypraeidae	
ハチジョウダカラ	*Cypraea (Mauritia) mauritiana*	Ⅰ－1－a
ホシキヌタ	*Cypraea (Lyncina) vitellus*	Ⅰ－2－a
ハナビラダカラ	*Cypraea (Erosaria) annulus*	Ⅰ－1－a
キイロダカラ	*Cypraea (Erosaria) moneta*	Ⅰ－1－a
ハナマルユキ	*Cypraea (Erosaria) caputserpentis caputserpentis*	Ⅰ－3－a
タカラガイ科不明		
タマガイ科	Naticidae	
ホウシュノタマ	*Natica gualteriana*	Ⅱ－1－c
オキニシ科	Bursidae	
イワカワウネボラ	*Bursa (Colubrellina) granularis*	Ⅰ－2－a
オキニシ	*Bursa bufonia dunkeri*	Ⅰ－3－a
オオナルトボラ	*Tutufa bufo*	Ⅰ－1－a
ヤツシロガイ科	Tonnidae	
ウズラガイ	*Tonna perdix*	Ⅰ－1－c
フジツガイ科	Ranellidae	
フジツガイ	*Cymatium (Lotoria) lotorium*	Ⅰ－2－a
ホラガイ	*Charonia tritonis*	Ⅰ－4－a
アッキガイ科	Muricidae	
ガンゼキボラ	*Chicoreus (Triplex) brunneus*	Ⅰ－2－a
ムラサキイガレイシ	*Drupa (Drupa) morum morum*	Ⅰ－3－a
アカイガレイシ	*Drupa (Ricinella) rubusidaeus*	Ⅰ－1－a
ツノレイシ	*Mancinella tuberosa*	Ⅰ－3－a
コイワニシ	*Thais (Semiricinula) squamosa*	Ⅱ－1－a
オニコブシガイ科	Turbinellidae	
オニコブシガイ	*Vasum ceramicum*	Ⅰ－3－a
コオニコブシ	*Vasum turbinellum*	Ⅰ－2－a
エゾバイ科	Buccinidae	
シマベッコウバイ	*Japeuthria cingulata*	Ⅱ－1－c
イトマキボラ科	Fasciolariidae	
イトマキボラ	*Pleuroploca trapezium trapezium*	Ⅰ－2－a
ナガイトマキボラ	*Pleuroploca filamentosa*	Ⅰ－2－a
チトセボラ	*Fusinus nicobaricus*	Ⅰ－1－a
マクラガイ科	Olividae	
サツマビナ	*Oliva annulata*	Ⅰ－2－a
イモガイ科	Conidae	
クロミナシ	*Conus (Conus) bandanus*	Ⅱ－2－c
ミカドミナシ	*Conus (Rhombus) imperialis*	Ⅰ－2－c
アンボンクロザメ	*Conus (Lithoconus) litteratus*	Ⅰ－2－c

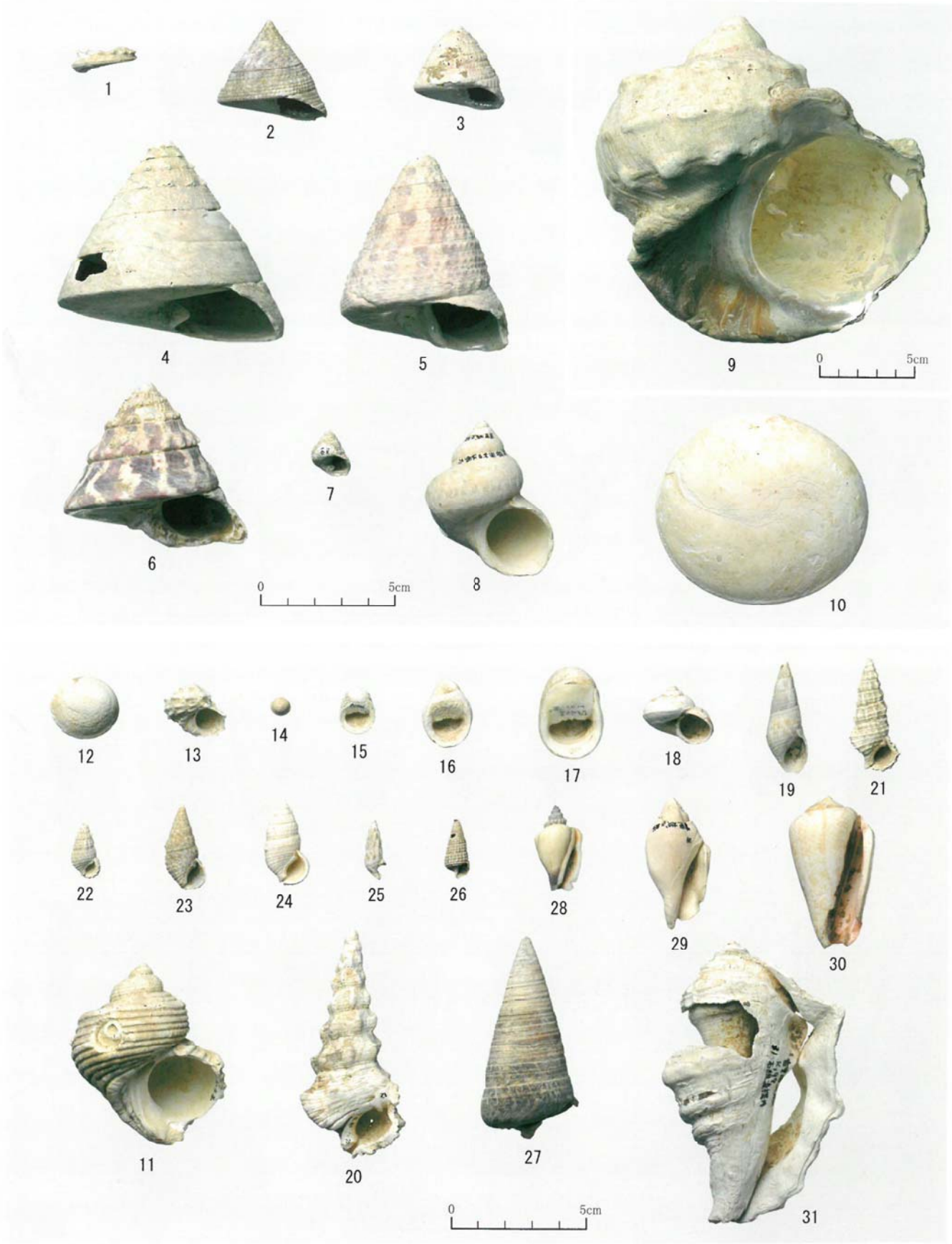
（右段へ続く）

軟体動物門	Mollusca	
腹足綱	Gastropoda	生息域類型
イモガイ科（続き）	Conidae (cont.)	
クロフモドキ	*Conus (Lithoconus) leopardus*	Ⅰ－2－c
マダライモ	*Conus (Virroconus) ebraeus*	Ⅰ－1－a
サヤガタイモ	*Conus (Virroconus) miliaris*	Ⅰ－1－a
ゴマフイモ	*Conus (Puncticulus) pulicarius*	Ⅰ－2－c
アカシマミナシ	*Conus (Leptoconus) generalis*	Ⅰ－1－c
ヤナギシボリイモ	*Conus (Rhizoconus) miles*	Ⅰ－2－a
ヤセイモ	*Conus (Virgiconus) emaciatus*	Ⅰ－2－a
キヌカツギイモ	*Conus (Virgiconus) flavidus*	Ⅰ－2－a
ニシキミナシ	*Conus (Strioconus) striatus*	Ⅰ－1－c
アジロイモ	*Conus (Darioconus) pennaceus*	Ⅱ－2－c
イモガイ科不明		
タケノコガイ科	Terebridae	
タケノコガイ	*Terebra subulata*	Ⅰ－2－c
ヤマタニシ科	Cyclophoridae	
オキナワヤマタニシ	*Cyclophorus turgidus turgidus*	Ⅴ－8
キセルガイ科	Clausiliidae	
ツヤギセルガイ	*Luchuphaedusa praeclara*	Ⅴ－8
アフリカマイマイ科	Achatinidae	
アフリカマイマイ	*Achatina fulica*	Ⅴ－9
ナンバンマイマイ科	Camaenidae	
シュリマイマイ	*Satsuma (Satsuma) mercatoria mercatoria*	Ⅴ－8
オナジマイマイ科	Bradybaenidae	
パンダナマイマイ	*Bradybaena circulus*	Ⅴ－9
二枚貝綱	Bivalvia	
フネガイ科	Arcidae	
エガイ	*Barbatia (Abarbatia) lima*	Ⅰ－1－a
リュウキュウサルボウ	*Anadara antiquata*	Ⅱ－2－c
イガイ科	Mytilidae	
リュウキュウヒバリガイ	*Modiolus auricularus*	Ⅰ－1－a
ウグイスガイ科	Pteriidae	
ミドリアオリ	*Pinctada maculata*	Ⅰ－1－a
クロチョウガイ	*Pinctada margaritifera*	Ⅰ－1－a
イタヤガイ科	Pectinidae	
リュウキュウキンチャク	*Decatopecten amiculum*	Ⅰ－1－c
ツキヒガイ	*Amusium japonicum japonicum*	Ⅰ－1－c
ウミギク科	Spondylidae	
メンガイ（の一種）	*Spondylus squamosus*	Ⅰ－2－a
イタボガキ科	Ostreidae	
オハグロガキ	*Saccostrea mordax*	Ⅰ－1－a
カキの一種		
ツキガイ科	Lucinidae	
ウラキツキガイ	*Codakia paytenorum*	Ⅱ－2－c
キクザルガイ科	Chamidae	
キクザル（の一種）	*Chama japonica*	Ⅵ
ザルガイ科	Cardiidae	
リュウキュウザル	*Regozara flavum*	Ⅱ－2－c
カワラガイ	*Fragum unedo*	Ⅱ－2－c
シャコガイ科	Tridacnidae	
ヒメジャコガイ	*Tridacna crocea*	Ⅰ－2－a
ヒレジャコガイ	*Tridacna squamosa*	Ⅰ－2－c
シラナミ	*Tridacna maxima*	Ⅰ－1－c
シラナミ類		
シャコガイ科不明		
チドリマスオ科	Mesodesmatidae	
イソハマグリ	*Atactodea striata*	Ⅰ－1－c
フジノハナガイ科	Donacidae	
リュウキュウナミノコ	*Latona faba*	Ⅱ－1－c
ニッコウガイ科	Tellinidae	
ニッコウガイ	*Tellinella virgata*	Ⅱ－2－c
サメザラ	*Scutarcopagia scobinata*	Ⅰ－2－c
リュウキュウシラトリ	*Quidnipagus palatam*	Ⅰ－2－a
シオサザナミ科	Psammobiidae	
マスオガイ	*Psammotaea elongata*	Ⅱ－1－c
リュウキュウマスオ	*Asaphis violascens*	Ⅱ－1－c
シジミ科	Corbiculidae	
シレナシジミ	*Geloina coaxans*	Ⅲ－0－c
マルスダレガイ科	Veneridae	
ヌノメガイ	*Periglypta puerpera*	Ⅱ－2－c
アラスジケマンガイ	*Gafrarium tumidum*	Ⅲ－1－c
ホソスジイナミガイ	*Gafrarium pectinatum*	Ⅱ－1－c
ユウカゲハマグリ	*Pitar citrinum*	Ⅱ－2－c
イオウハマグリ	*Pitar sulfreum*	Ⅱ－1－c
マルオミナエシ	*Liocancha castrensis*	Ⅰ－2－c
スダレハマグリ	*Katelysia japonica*	Ⅱ－1－c
ハマグリ	*Meretrix lusoria*	Ⅱ－2－c
ハマグリの一種		Ⅱ－2－c
オキシジミ	*Cyclina sinensis*	Ⅲ－1－c
棘皮動物門	Echinodermata	
ウニ綱	Echinoidea	
ナガウニ科	Echinometridae	
パイプウニ	*Heterocentrotus mammillatus*	

第 58 表　貝類遺体等種別一覧

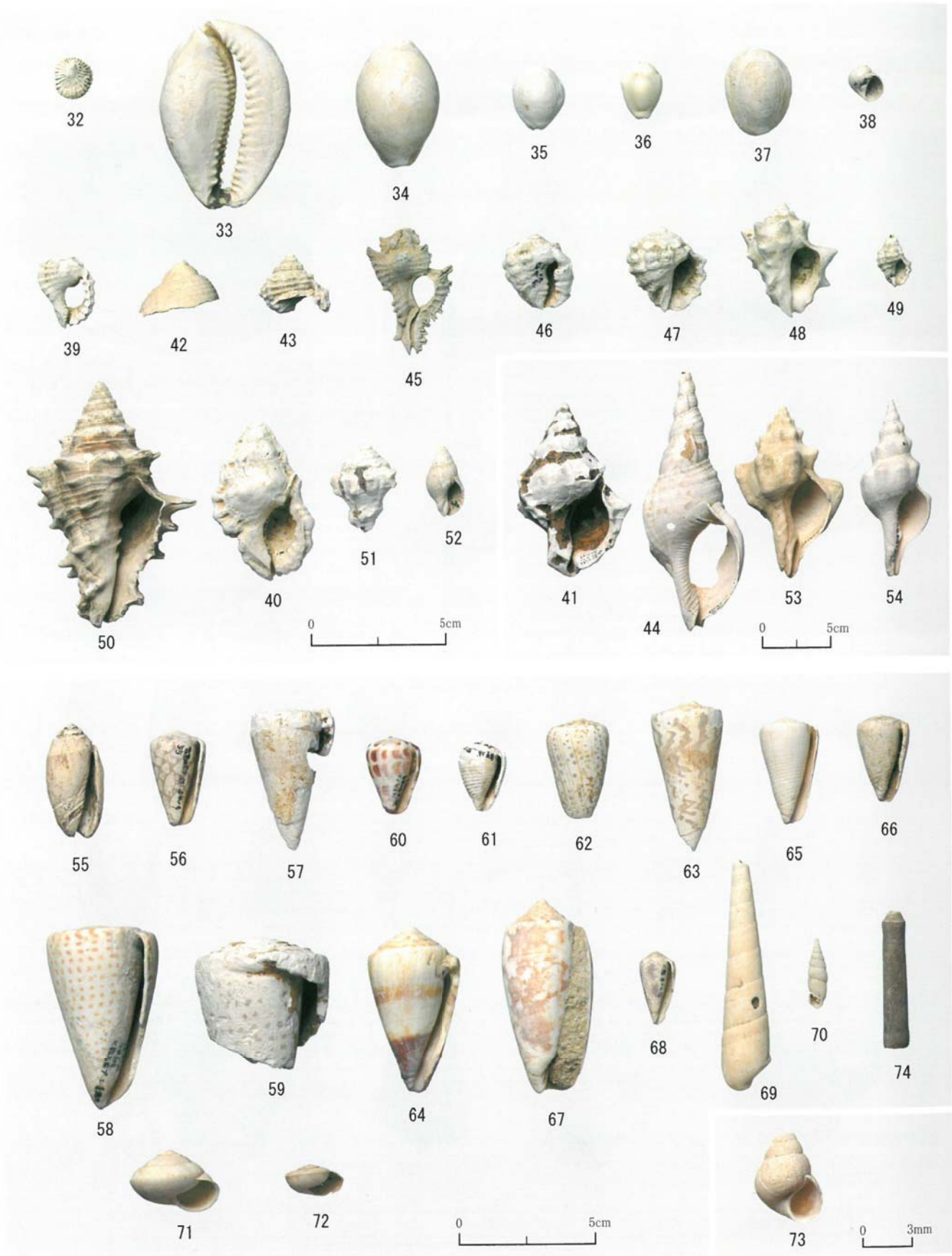
大区分	小区分	底質等
Ⅰ：外洋・サンゴ礁	0：潮間帯上部　（Ⅰ－ノッチ、Ⅲ－マングローブ）	
Ⅱ：内湾・転石域	1：潮間帯中・下部　2：亜潮間帯上縁部　（Ⅰではイノー）	a：岩盤 b：転石 c：岩礫底、砂泥底、砂底 d：マングローブ植物上 e：淡水の流入する礫底
Ⅲ：河口干潟・マングローブ域	3：干瀬　（Ⅰにのみ適応）　4：礁斜面およびその下部	
Ⅳ：淡水域	5：止水　6：流水	
Ⅴ：陸域	7：林内　8：林内・林縁部　9：林縁部　10：海浜部	
Ⅵ：その他	11：打ち上げ物　12：化石	

第 59 表　貝類の生息場所類型（黒住 1987 より作成）



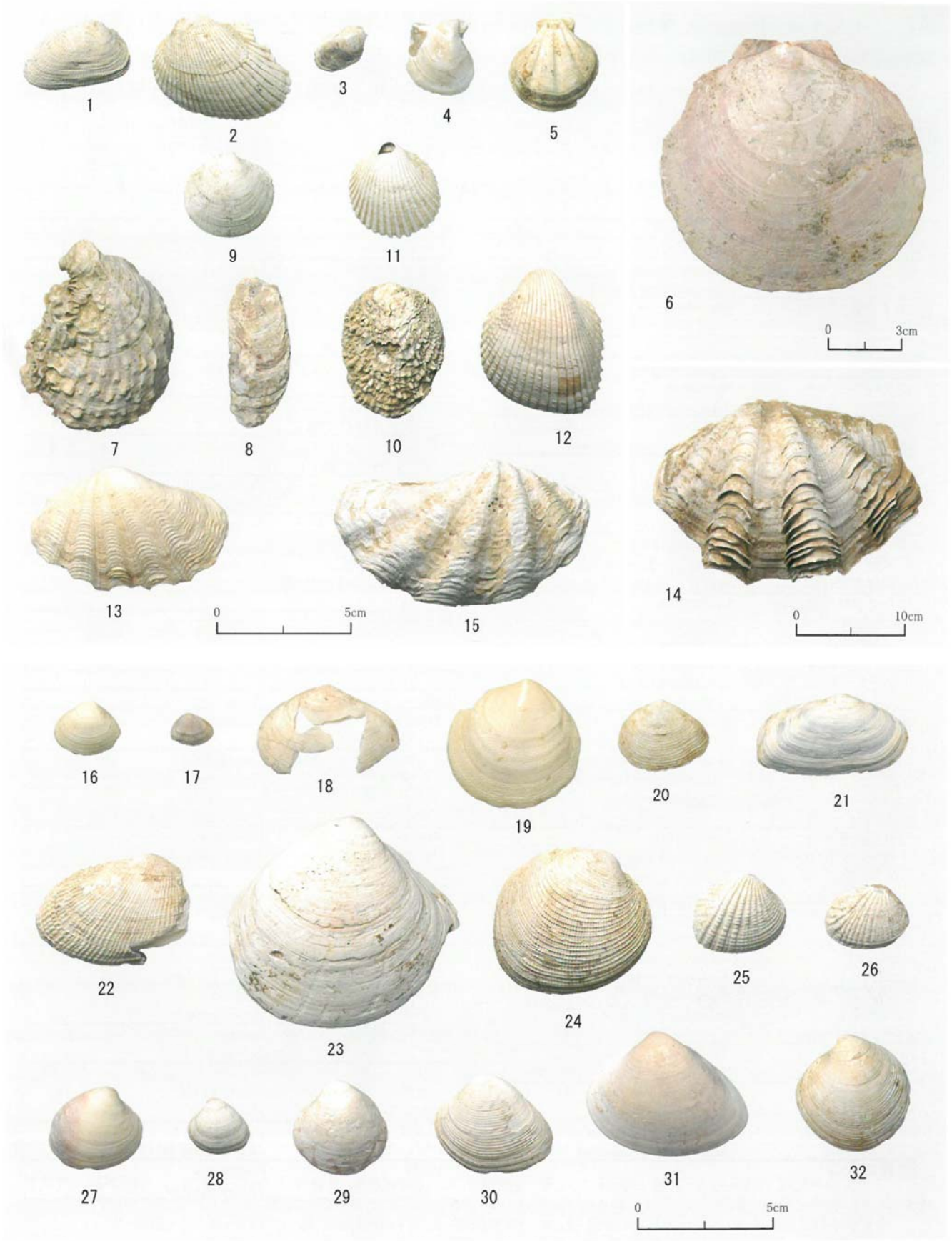
図版 135　貝類遺体 1

1. イボアナゴ　2. ニシキウズ　3. ムラサキウズ　4. ギンタカハマ　5. ベニシリタカ　6. サラサバティ　7. オキナワイシダタミ
8. リュウテン　9. ヤコウガイ　10. ヤコウガイの蓋　11. チョウセンサザエ　12. チョウセンサザエの蓋　13. カンギク　14. カンギクの蓋
15. マルアマオブネ　16. アマオブネガイ　17. ニシキアマオブネ　18. オキナワヤマタニシ　19. タイワンカワニナ　20. オニノツノガイ
21. コオニノツノガイ　22. カヤノミカニモリ　23. ウミニナカニモリ　24. クワノミカニモリ　25. イボウミニナ　26. カワアイ
27. センニンガイ　28. オハグロガイ　29. ネジマガキ　30. マガキガイ　31. スイジガイ



図版 136　貝類遺体 2

32. ｱﾂｷｸｽｽﾞﾒ　33. ﾊﾁｼﾞｮｳﾀﾞｶﾗ　34. ﾎｼｷﾇﾀ　35. ﾊﾅﾋﾞﾗﾀﾞｶﾗ　36. ｷｲﾛﾀﾞｶﾗ　37. ﾊﾅﾏﾙﾕｷ　38. ﾎｳｼｭﾉﾀﾏ
39. ｲﾜｶﾜｳﾈﾎﾞﾗ　40. ｵｷﾆｼ　41. ｵｵﾅﾙﾄﾎﾞﾗ　42. ｳｽﾞﾗｶﾞｲ　43. ﾌｼﾞﾂｶﾞｲ　44. ﾎﾗｶﾞｲ　45. ｶﾞﾝｾﾞｷﾎﾞﾗ
46. ﾑﾗｻｷｲｶﾞﾚｲｼ　47. ｱｶｲｶﾞﾚｲｼ　48. ﾂﾉﾚｲｼ　49. ｺｲﾜﾆｼ　50. ｵﾆｺﾌﾞｼｶﾞｲ　51. ｺｵﾆｺﾌﾞｼ　52. ｼﾏﾍﾞｯｺｳﾊﾞｲ
53. ｲﾄﾏｷﾎﾞﾗ　54. ﾅｶﾞｲﾄﾏｷﾎﾞﾗ　55. ｻﾂﾏﾋﾞﾅ　56. ｸﾛﾐﾅｼ　57. ﾐｶﾄﾞﾐﾅｼ　58. ｱﾝﾎﾞﾝｸﾛｻﾞﾒ　59. ｸﾛﾌﾓﾄﾞｷ
60. ﾏﾀﾞﾗｲﾓ　61. ｻﾔｶﾞﾀｲﾓ　62. ｺﾞﾏﾌｲﾓ　63. ｱｶｼﾏﾐﾅｼ　64. ﾔﾅｷﾞｼﾎﾞﾘｲﾓ　65. ﾔｾｲﾓ　66. ｷﾇｶﾂｷﾞｲﾓ　67. ﾆｼｷﾐﾅｼ
68. ｱｼﾞﾛｲﾓ　69. ﾀｹﾉｺｶﾞｲ　70. ﾂﾔｷﾞｾﾙｶﾞｲ　71. ｼｭﾘﾏｲﾏｲ　72. ﾊﾟﾝﾀﾞﾅﾏｲﾏｲ　73. ｳｽｲﾛｵｶﾁｸﾞｻ　74. ﾊﾟｲﾌﾟｳﾆ



図版 137　貝類遺体 3

1. エガイ　2. リュウキュウサルボウ　3. リュウキュウヒバリガイ　4. ミドリアオリ　5. リュウキュウキンチャク　6. ツキヒガイ　7. メンガイの一種
8. オハグロガキ　9. ウラキツキガイ　10. キクザルの一種　11. リュウキュウザル　12. カワラガイ　13. ヒメシャコガイ
14. ヒレシャコガイ　15. シラナミ　16. イソハマグリ　17. リュウキュウナミノコ　18. ニッコウガイ　19. サメザラ　20. リュウキュウシラトリ
21. マスオガイ　22. リュウキュウマスオ　23. シレナシジミ　24. ヌノメガイ　25. アラスジケマンガイ　26. ホソスジイナミガイ
27. ユウカゲハマグリ　28. イオウハマグリ　29. マルオミナエシ　30. スダレハマグリ　31. ハマグリ　32. オキシジミ

②脊椎動物遺体

脊椎動物遺体も貝類遺体と同様にピックアップ資料である。種の同定は当センター所蔵の現生標本や県内出土資料との比較により判断した。種名については樋泉岳二氏の成果（沖縄県埋文 2013b・2016）及び菅原広史氏の成果（沖縄県埋文 2010・2013c）などを参考にした。

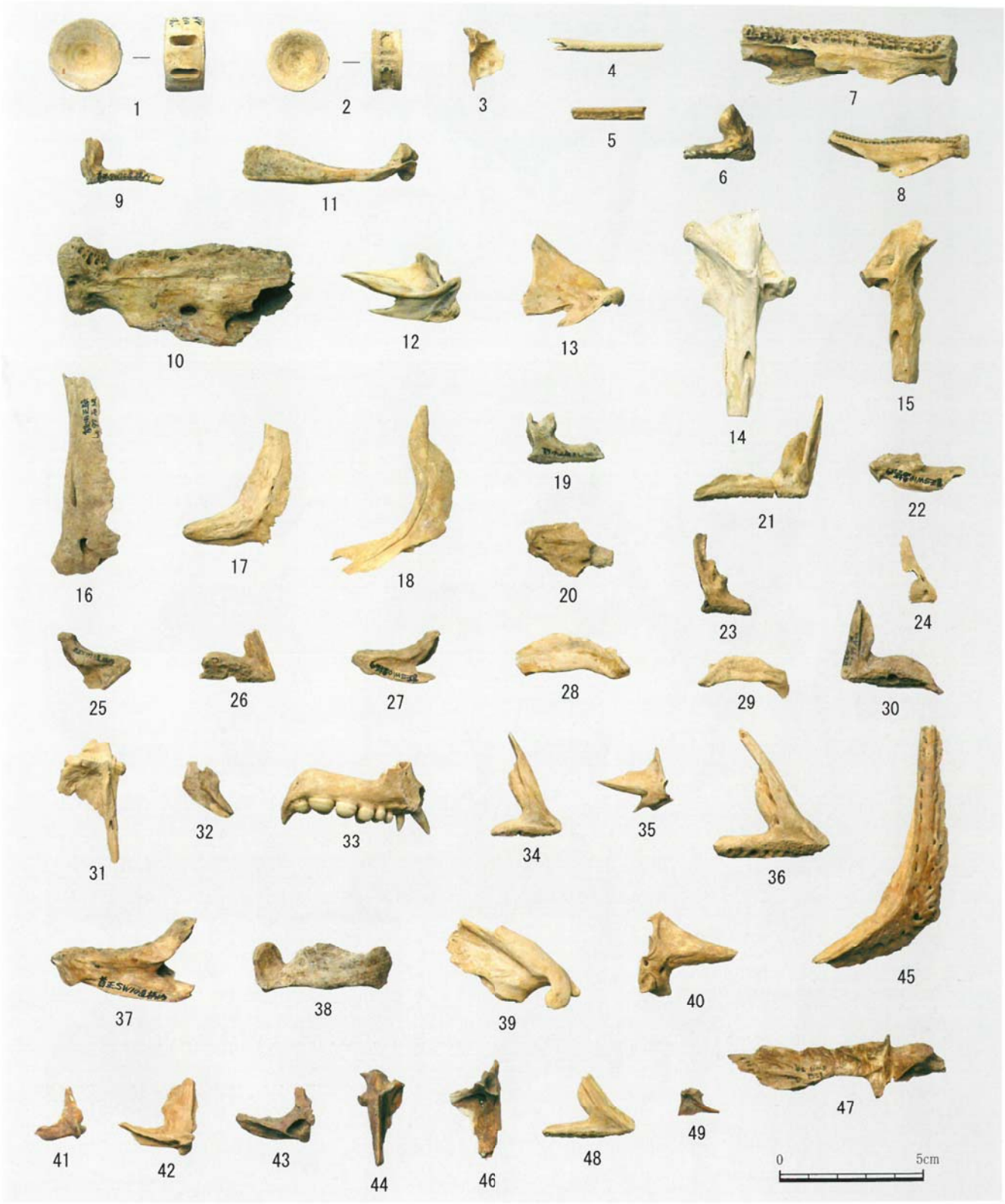
同定できた資料は軟骨魚綱２分類群・硬骨魚綱 44 分類群・爬虫類２分類群・鳥類５分類群・哺乳類８分類群の合計 61 分類群である（第 60・61 表）。

脊索動物門	Chordata
軟骨魚綱	Chondrichthyes
メジロザメ科	Carcharhinidae
メジロザメ	*Carcharhinus plumbeus*
エイ上目	Batoidea
エイの一種	
硬骨魚綱	Osteichthyes
ボラ科	Mugilidae
ボラ？	*Mugil cephalus cephalus?*
ダツ科	Belonidae
ダツ	*Strongylura anastomella*
ハタ科	Serranidae
ハタ科A	Serranidae A (cf. *Epinephelus*)
ハタ科B	Serranidae B (cf. *Plectropomus*)
ハタ科の一種	
アジ科	Carangidae
ブリ	*Seriola quinqueradiata*
イトヒキアジ	*Alectis ciliaris*
フエダイ科	Lutjanidae
ヒメフエダイ	*Lutjanus gibbus*
フエダイ科A	Lutjanidae A
フエダイ科B	Lutjanidae B
フエダイ科C	Lutjanidae C
フエダイ科の一種	
タイ科	Sparidae
ヘダイ	*Sparus sarba*
クロダイ	*Acanthopagrus schlegelii*
ミナミクロダイ	*Acanthopagrus sivicolus*
タイワンダイ	*Argyrops bleekeri*
タイ科の一種	
フエフキダイ科	Lethrinidae
ヨコシマクロダイ	*Monotaxis grandoculis*
アマミフエフキ	*Lethrinus miniatus*
イソフエフキ	*Lethrinus atkinsoni*
ハマフエフキ	*Lethrinus nebulosus*
ベラ科	Labridae
コブダイ	*Semicossyphus reticulatus*
タキベラ	*Bodianus perditio*
カンムリベラ	*Coris aygula*
ベラ科A	Labridae A
ベラ科の一種	
シマイサキ科	Teraponida
コトヒキ	*Terapon jarbua*
ブダイ科	Scaridae
イロブダイ	*Cetoscarus bicolor*
ナンヨウブダイ	*Chlorurus microrhinos*
ナガブダイ	*Scarus rubroviolaceus*

（右段に続く）

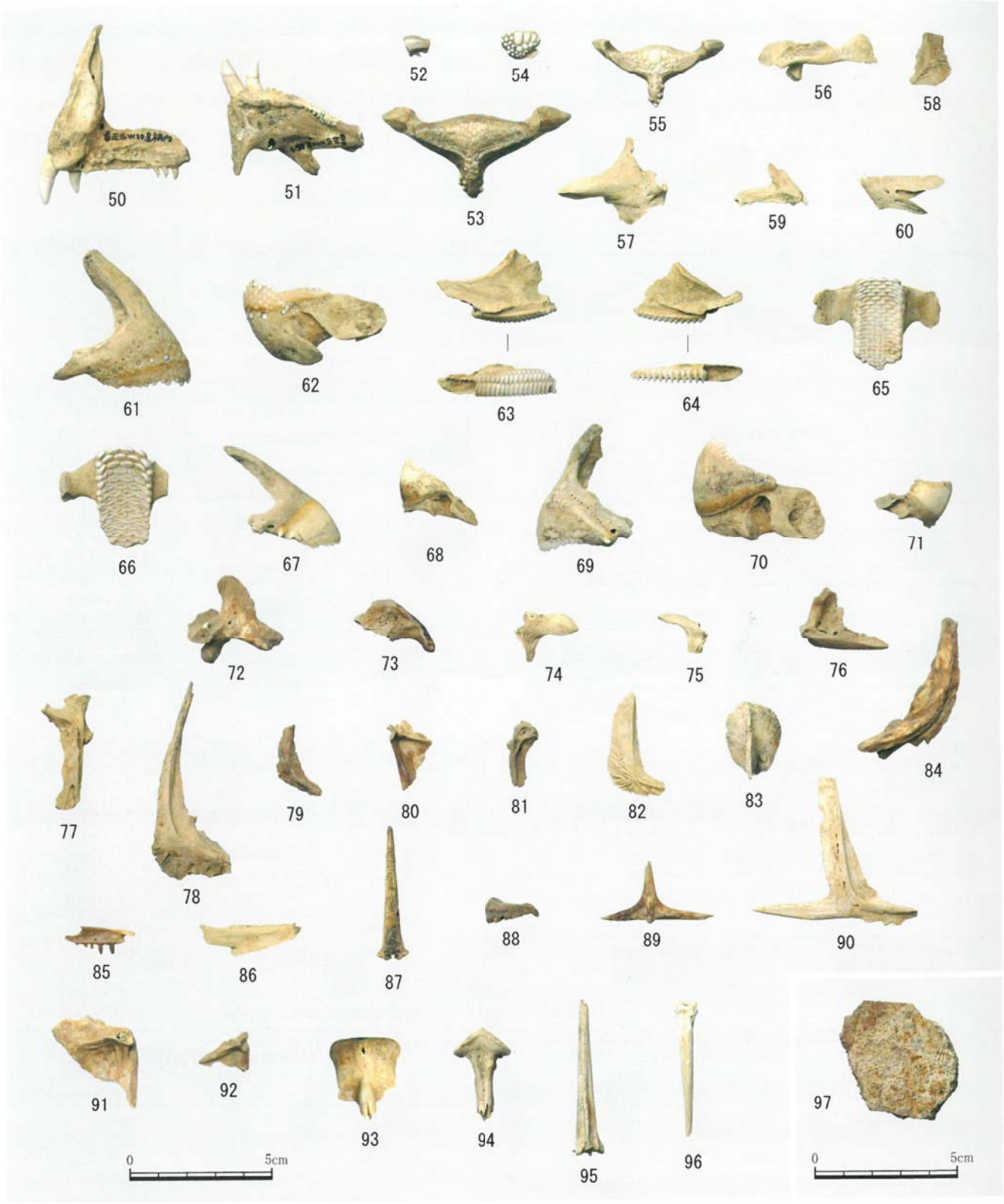
脊索動物門	Chordata
硬骨魚綱	Osteichthyes
ブダイ科（続き）	Scaridae
ブダイ科A	Scaridae A
ブダイ科B	Scaridae B
ブダイ科C	Scaridae C
ブダイ科の一種	
アイゴ科	Siganidae
アイゴ科の一種	
ニザダイ科	Acanthuridae
ニザダイ科の一種	
カマス科	Sphyraenidae
カマス科の一種	
カワハギ科	Monacanthidae
カワハギ	*Stephanolepis cirrhifer*
フグ科	Tetraodontidae
フグ科の一種	
ハリセンボン科	Diodontidae
ハリセンボン科の一種	
爬虫綱	Reptilia
ヘビ	Ophidia
ウミガメ	Cheloniidae
鳥綱	Aves
カモ科	Anatidae
カモ科の一種	
ハト科	Columbidae
キジバト？	*Streptopelia orientalis?*
アホウドリ科	Diomedeidae
アホウドリ？	*Phoebastria albatrus?*
キジ科	Phasianidae
ニワトリ	*Galus galus domesticus*
哺乳綱	Mammalia
ネズミ科	Muridae
ネズミ	*Mus musculus*
イヌ科	Canidae
イヌ	*Canis familiaris*
ウマ科	Equidae
ウマ	*Equus caballus*
イノシシ科	Suidae
イノシシ／ブタ	*Sus scrofa*
ウシ科	Bovidae
ヤギ	*Capra hircus*
ウシ	*Bos taurus*
ジュゴン科	Dugongidae
ジュゴン	*Dugong dugon*
ヒト科	Hominidae
ヒト	*Homo sapiens*

第 61 表　脊椎動物遺体種別一覧



図版 138　脊椎動物遺体 1

サカナ　**メジロザメ** 1. 脊椎骨　**エイ** 2. 脊椎骨　**ボラ科ボラ？** 3. 主鰓蓋骨　**ダツ** 4. 右・前上顎骨　5. 左・歯骨　**ハタ科A** 6. 左・前上顎骨　7・8. 左・歯骨　**ハタ科B** 9. 右・前上顎骨　10. 右・歯骨　**ハタ科** 11. 左・主上顎骨　12. 左・角骨　13. 右・方骨 14. 左・舌顎a　15. 右・舌顎　16. 左・前鰓蓋骨a　17. 左・前鰓蓋骨b　18. 左・擬鎖骨　**ブリ** 19. 右・前上顎骨　**イトヒキアジ** 20. 右・歯骨　**フエダイ科A** 21. 左・前上顎骨　**フエダイ科B** 22. 右・歯骨　**フエダイ科C** 23. 右・前上顎骨　**ヒメフエダイ** 24. 右・前鰓蓋骨　**ヘダイ** 25. 左・歯骨　**クロダイ** 26. 左・前上顎骨　27. 右・歯骨　28. 右・主上顎骨　29. 左・主上顎骨 **タイワンダイ** 30. 右・前上顎骨　**タイ科** 31. 左・舌顎　**ミナミクロダイ** 32. 右・前鰓蓋骨　**ヨコシマクロダイ** 33. 左・前上顎骨 **イソフエフキ** 34. 左・前上顎骨　35. 左・角骨　**ハマフエフキ** 36. 左・前上顎骨　37. 右・歯骨　38. 左・主上顎骨（キズあり） 39. 右・口蓋　40. 右・角骨　41. 右・方骨　42・43. 左・方骨　44. 右・舌顎　45. 左・前鰓蓋骨　46. 左・主鰓蓋骨　47. 副楔骨 **アマミフエフキ** 48. 左・前上顎骨　**コトヒキ** 49. 右・主鰓蓋骨c



図版 139　脊椎動物遺体 2

サカナ　**コブダイ**　50. 右・前上顎骨　51. 右・歯骨　52. 左・上咽頭骨　53. 下咽頭骨　**タキベラ**　54. 左・上咽頭骨　**ベラ科A**　55. 下咽頭骨　**ベラ科**　56. 左・主上顎骨　57. 左・角骨　58. 右・前鰓蓋骨i　**カンムリベラ**　59. 左・前上顎骨　60. 左・歯骨　**イロブダイ**　61. 右・前上顎骨　62. 左・歯骨　63. 左・上咽頭骨　**ナンヨウブダイ**　64. 右・上咽頭骨　65. 下咽頭骨　**ナガブダイ**　66. 下咽頭骨　**ブダイ科A**　67 右・前上顎骨　68. 左・歯骨　**ブダイ科B**　69. 左・前上顎骨 70. 左・歯骨　**ブダイ科C**　71. 右・歯骨　**ブダイ科**　72. 左・主上顎骨B　73. 右・口蓋　74. 右・角骨A　75. 左・角骨B　76. 左・方骨　77. 左・舌顎　78. 右・前鰓蓋骨f　79. 左・前鰓蓋骨　80. 右・主鰓蓋骨　**アイゴ科**　81. 右・舌顎f　**アイゴ属**　82. 右・前鰓蓋骨d　**ニザダイ科**　83. 鱗　**スズキ目**　84. 左・前鰓蓋骨　**カマス科**　85. 左・歯骨　86. 左・前上顎骨　**カワハギ類**　87. 背鰭棘　**フグの一種**　88. 左・前上顎骨　**ハリセンボン科**　89. 棘　**種不明**　90. 右・前鰓蓋骨a　91. 左・主鰓蓋骨a　92. 左・主鰓蓋骨b　93. 鋤骨　94. 鋤骨　95. 臀鰭血管間棘　96. 第2臀鰭棘

ウミガメ　**ウミガメ**　97. 肋骨板

図版 140　脊椎動物遺体 3

上：ニワトリ　1. 胸骨　2. 鎖骨　3. 右・烏口骨　4. 左・烏口骨　5. 左・肩甲骨　6. 右・上腕骨（キズあり）　7. 左・上腕骨　8. 左・橈骨　9. 右・尺骨　10. 右・中手骨　11. 右・大腿骨　12. 左・大腿骨　13. 右・脛骨　14. 左・脛骨　15. 左・中足骨　16. 右・中足骨

トリ　17. 左・尺骨　18. 右・上腕骨　19. 左・脛骨　20. 右・脛骨（カモ類）

下：ネズミ　1. 右・寛骨　2. 左・大腿骨　3. 左・脛骨　4. 尾椎

イヌ　5. 右・肩甲骨　6. 左・中足骨Ⅱ　7. 右・中足骨Ⅲ　8. 右・中手骨Ⅳ

図版 141　脊椎動物遺体 4

上：ジュゴン　1. 肋骨
　　ウ マ　2. 左・第3手根骨　3. 右・寛骨　4. 左・脛骨　5. 右・踵骨　6. 右・距骨　7. 左・基節骨　8. 右・中節骨
下：ヤ ギ　1. 左・上腕骨　2. 左・橈骨　3. 左・尺骨　4. 右・大腿骨　5. 左・大腿骨　6. 右・基節骨

図版 142　脊椎動物遺体 5

ウシ　1. 左・下顎骨 dm_3,dm_4,M_1　2. 環椎（キズあり）　3. 軸椎　4. 左・肩甲骨　5. 左・上腕骨　6. 左・橈骨＋尺骨　7. 右・尺骨　8. 右・橈側手根骨　9. 左・手根骨　10. 左・寛骨　11. 右・脛骨　12. 右・踵骨　13. 左・第4中心足根骨　14. 左・中足骨　15. 右・基節骨　16. 左・中節骨　17. 左・末節骨

図版 143　脊椎動物遺体 6

イノシシ／ブタ　1. 左・上顎骨 M^1 ～ M^3　2. 左・下顎骨 C　3. 環椎　4. 腰椎　5. 右・肩甲骨　6. 右・上腕骨　7. 左・上腕骨　8. 右・橈骨　9. 左・尺骨（キズあり）　10. 右・中手骨Ⅱ　11. 左・中手骨Ⅲ　12. 右・中手骨Ⅳ　13. 左・寛骨　14. 左・寛骨　15. 左・大腿骨（キズあり）　16. 左・大腿骨　17. 右・脛骨（キズあり）　18. 左・脛骨　19. 右・膝蓋骨　20. 左・踵骨　21. 左・距骨　22. 左・中足骨Ⅱ　23. 右・中足骨Ⅲ　24. 左・中足骨Ⅲ　25. 右・基節骨　26. 右・中節骨　27. 右・末節骨

第４章　総括

以上、昭和60・61年度に実施した首里城跡正殿地区の発掘調査成果について報告した。本章では今一度それらを整理するとともに、若干の考察と今後の課題を述べる。

1　遺構について

正殿建物（想定含む）の土台を構成する基壇石積み６基（Ⅱ～Ⅶ期基壇）と、その下層で確認された大和系瓦を多量に伴う包含層（Ⅰ期基壇）が、今回の調査で得られた最大の成果といえる。これらの発見により、当地区では少なくとも７回にわたって正殿建物（想定含む）の建て替えが行われ、しかも建て替えの度に基壇上面の範囲が西側に拡張していったことが判明した。

Ⅰ期基壇は一部の包含層で認定したため、建物の規模や基壇の有無は不明であるが、大和系瓦の出土状況から同瓦を葺いた建物の存在が推定される。15世紀中葉以前に位置づけられるこの建物は、現在資料整理中だが平成26年度に実施された継世門北地区の調査成果と関連する可能性もあり、最初期の首里城の姿を考えるうえで重要といえる。ちなみに、かつて首里城の正殿が南面し、美福門を正門としていたとの伝承があることは前述の通りだが、この説を検討するためにも、今回の発見は非常に興味深い。

Ⅱ～Ⅶ期の基壇については、正面に化粧石や階段が取り付くもの（Ⅱ期基壇・Ⅲ期基壇・Ⅴ期基壇・Ⅶ期基壇）と、雑石積みで仕上げているもの（Ⅳ期基壇・Ⅵ期基壇）に大別される。このうち、前者を基壇と判断することに異論はないと思われるが、後者は前述したように、形態的な特徴だと補強用の裏石積みや裏込めに類似しており、また基壇との推定に否定的な意見もみられる。しかし、Ⅱ～Ⅶ期基壇は全て南殿のⅠ～Ⅵ期基壇に接続することから、首里城の主要施設である正殿と南殿の関係も考慮した結果として、これらを基壇石積みに位置づけている。

各基壇の年代は、現在のところⅠ期基壇（15世紀中葉以前に遡る）・Ⅱ期基壇（15世紀中葉の火災で被熱）・Ⅶ期基壇（沖縄戦で焼失）の一部を除いて、いずれも明確には記していない。遺物の出土状況から年代を推定することは可能だが、発掘調査から資料整理及び報告書作成までの期間で、遺構の性格変更に伴い注記の読み替えが多数行われたため、ここでは概略を述べる。Ⅲ～Ⅵ期基壇のうち、Ⅲ期基壇が15世紀中葉～16世紀初頭、Ⅳ期基壇が16世紀初頭～17世紀後半、Ⅴ期基壇が17世紀後半～18世紀初頭と考えられ、Ⅵ期基壇は18世紀初頭以降に位置づけられるがⅦ期基壇との時期差は判然としない。この年代観は、安里進氏が提示した正殿基壇の変遷案（安里1996）にほぼ符号するものの、基壇の変遷と文献史料の内容が合致するか否かに関しては今後の課題である。

その他には、基壇上面の建物跡との関係が想定されるピット群、当該地区の平場造成に伴う土留め石積みの上部とみられる石列、主に生活ゴミの廃棄坑（方言名シーリ）と目される方形石組遺構などの近世までの遺構に加え、熊本鎮台沖縄分遣隊が構築したかわや跡や、沖縄戦時に米軍の砲撃で生じた爆弾破壊跡など、首里城が王城としての機能を失った近代以降の遺構も確認されている。これらも全て正殿の歴史的変遷を知るうえで重要な資料である。

2　遺物について

発掘調査で出土した遺物は、中国・タイ・ベトナム・朝鮮・日本・沖縄の各地で生産された陶磁器類をはじめとして、瓦及び塼・銭貨・煙管・玉類・円盤状製品・金属製品・石製品・骨製品・土製品・ガラス製品・自然遺

物など多種多様で、年代も 14 世紀～20 世紀と幅広い。この中には、かつて正殿があったという当該地区の特性を示すような遺物が多数みられるため、以下にそれらの資料を４点に絞って概説する。

最初に挙げられるのは被熱資料である。正殿が歴史上４度の火災に見舞われたことは前述の通りだが、特に最初の火災である志魯・布里の乱（1453 年）に由来すると考えられる遺物が、中国産陶磁器のうち青磁・白磁・青花などの中国産陶磁器を中心に確認されている。それ以降の火災に伴う遺物は判然としないが、金属製品の梵鐘片（第 139・140 図）は４度目の火災である沖縄戦で溶解したものである。

次に挙げられるのは茶道具である。文献史料によると、尚寧 21（1609）年に琉球を侵略した薩摩藩は茶の湯に力を入れており、琉球も特に 17 世紀後半には茶の湯を励行していた。本土産陶器の碗（第 67 図 64～73）・沖縄産無釉陶器の碗（第 78 図３）・石臼（第 164 図 72～74）などは年代的にも合致しており、文献史料の内容を裏付ける遺物として重要である。

３点目は琉球銭の存在である。今回の調査では大世通寶（初鋳 1454 年：第 132 図 100～104）と世高通寶（初鋳 1461 年：第 131 図 86～96、第 132 図 97～99）が確認されており、前者が５点、後者が 14 点出土している。これらは出土量が極端に少なく、首里城内他地区の調査でも発見されない場合が多い。そのような遺物が時期的にまとまった出土状況をみせることから、琉球銭の集積する場所または施設が正殿付近に存在した可能性も考えられる。

最後に４点目として挙げられるのが、瓦類や石製品などの建築部材である。このうち、瓦については大和系瓦と明朝系瓦がそれぞれ注目される。大和系瓦はⅠ期基壇の包含層から出土したもので、これまでも述べてきたように、15 世紀中葉以前の当該地区にあった瓦葺き建物の存在を示唆する遺物として重要である。他方、明朝系瓦は大半が尚質 13（1660）年の火災以降に使用されたと考えられ、膨大な出土量を誇るとともに役瓦などの種類もバラエティに富む。当該地区は県内で最も瓦の出土量が多い消費地遺跡でもあることから、今回の成果は琉球における瓦及び建築の研究に大きく寄与するものといえる。また石製品では、欄干の各種部位（第 152 図１～５、第 153～157 図、第 161 図 45～49）・礎石及び礎盤（第 158～160 図、第 161 図 43・44、第 162 図 50～53）・龍柱（第 162 図 55・56、第 163 図、図版 129）のような、当該地区の性格を示す特徴的な遺物が多数みられる。ちなみに龍柱については熊本鎮台沖縄分遣隊が切断した痕跡を残すものがあり、それを補修した金属製鎹も出土していることは前述した通りである。

３　今後の課題

昭和 59（1984）年度に実施した歓会門及び久慶門内側地域を嚆矢とする首里城跡の発掘調査は、平成 26（2014）年度で一応の区切りを迎えた。当初は沖縄開発庁の首里城城郭等復元整備事業に伴う発掘調査のみであったが、昭和 60（1985）・61（1986）年度の正殿地区を経て、昭和 62（1987）年度からは国営公園整備に先立つ発掘調査が始まり、平成３（1991）年度からは首里城周辺で県営公園整備に係る発掘調査も着手された。

首里城公園は、平成 30（2018）年度に国営部分の管理・運営を沖縄県に移管する方針であり、整備事業もそれに伴い平成 29（2017）年度での終了が予定されている。これまでの調査成果をまとめた報告書は、国営・県営部分を合計すると 30 冊以上に及んでいるが、事業の終了とは別に、首里城跡の調査成果を総合的に整理・検討する時期に来ていると思われる。これらの調査・研究が進展すれば、首里城の歴史や変遷がより明らかになることに繋がり、現在及び今後の首里城公園の整備・活用にも大きく寄与できるものと考えられる。今回の報告書がその一助となれば幸いである。

引用・参考文献

安芸毬子　2006「第３節　東大構内遺跡出土の土人形にみる一考察－工学部 14 号館地点の人形の様相と各期にみる成形技法－」『東京大学本郷構内の遺跡　工学部 14 号館地点』東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書７　東京大学埋蔵文化財調査室

安里進　1996「首里城正殿基壇の変遷」『首里城研究』No.2　首里城公園友の会

安里進　2013「首里王府の重要施設絵図調整事業」『首里城研究』No.15　首里城公園友の会

安里進・上原政昌・家田淳一　1987「播鉢編年からみた近世琉球窯業の展開」『名護博物館紀要・３　あじまぁ』名護博物館

新垣力　2003「沖縄出土の清朝陶磁」『紀要沖縄埋文研究』１　沖縄県立埋蔵文化財センター

新垣力　2008「沖縄における「地鎮め」の様相」『廣友会誌』第４号　廣友会

新垣力　2010「沖縄から出土する 17～19 世紀の貿易陶磁器」『海の道と考古学--インドシナ半島から日本へ--』高志書院

新垣力　2011「無釉陶器の成立と展開」『沖縄県立博物館・美術館×那覇市立壺屋焼物博物館　合同企画展　琉球陶器の来た道』沖縄県立博物館・美術館

新垣力　2012「遺跡出土の「柱状形煙管」からみた琉球の喫煙文化」『たばこと塩の博物館　研究紀要第 10 号　ＶＯＣと日蘭交流　ＶＯＣ遺跡の調査とたばこ』たばこと塩の博物館

新垣力　2013a「17 世紀前半～中葉の琉球陶器について－「初期無釉陶器」にみる薩摩焼の影響－」『鹿児島考古』第 43 号　鹿児島県考古学会

新垣力　2013b「首里城跡の考古学研究－近年の発掘調査成果を中心に－」『第６回鹿児島県考古学会・沖縄考古学会合同学会研究発表会資料集　鹿児島・沖縄考古学の最新動向』鹿児島県考古学会・沖縄考古学会

有銘倫子　2011「沖縄県内における遺跡出土硯」『南島考古』第 30 号　沖縄考古学会

池谷望子・内田晶子・高瀬恭子　2005『朝鮮王朝実録　琉球史料集成【訳注篇】』榕樹書林

石井龍太　2011「琉球諸島出土キセルの基礎的研究～琉球喫煙文化の研究～」『東京大学考古学研究室研究紀要』第 25 号　東京大学大学院人文社会系研究科・文学部考古学研究室

伊仙町教育委員会（編）　2005『カムィヤキ古窯跡群Ⅳ』伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書（12）

伊従勉　1997「首里城正殿唐破風の起源とその改修について：王権儀礼の舞台装置の誕生」『首里城研究』No.3　首里城公園友の会

伊従勉　2010「第五章　遺構からみる古琉球の首里城」『沖縄県史　各論編　第三巻　古琉球』沖縄県教育委員会

上田秀夫　1982「14～16 世紀の青磁椀の分類」『貿易陶磁研究』第２号　日本貿易陶磁研究会

上田秀夫　1991「16 世紀末から 17 世紀前半における中国製染付碗・皿の分類と編年への予察」『関西近世考古学研究』Ⅰ　関西近世考古学研究会

上原静　1986「グスク時代・近世出土の円盤状製品」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第 10 号　読谷村教育委員会

上原静　1989a「円盤状製品その後の資料」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第 13 号　読谷村教育委員会

上原静　1989b「首里城跡出土の貝殻」『月刊考古学ジャーナル』No.311　ニュー・サイエンス社

上原静　1990「首里城跡出土のブラシと湧泉」『文化課紀要』第６号　沖縄県教育委員会文化課

上原静　1997「首里城正殿跡から出土した相国寺巨鐘」『南島史学特論ノート』沖縄国際大学大学院南島史学特論Ⅰ受講生

上原静　2007「琉球列島出土の有孔盤状製品、骨製笵等について」『南島考古』第 26 号　多和田真淳先生生誕百年記念特集号　沖縄考古学会

上原静　2003「第４章　グスク時代」『沖縄県史　各論編　第二巻　考古』沖縄県教育委員会

上原静　2004「考古学からみた沖縄諸島の遊戯史」『グスク文化を考える　世界遺産国際シンポジウム〈東アジアの城郭遺跡を比較して〉の記録』新人物往来社

上原静　2011「琉球の塼と煉瓦」『南島考古』第 30 号　沖縄考古学会

上原静　2012「琉球諸島におけるグスク・琉球王国時代の礎石建物（１）－礎石－」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第 36 号　読谷村教育委員会

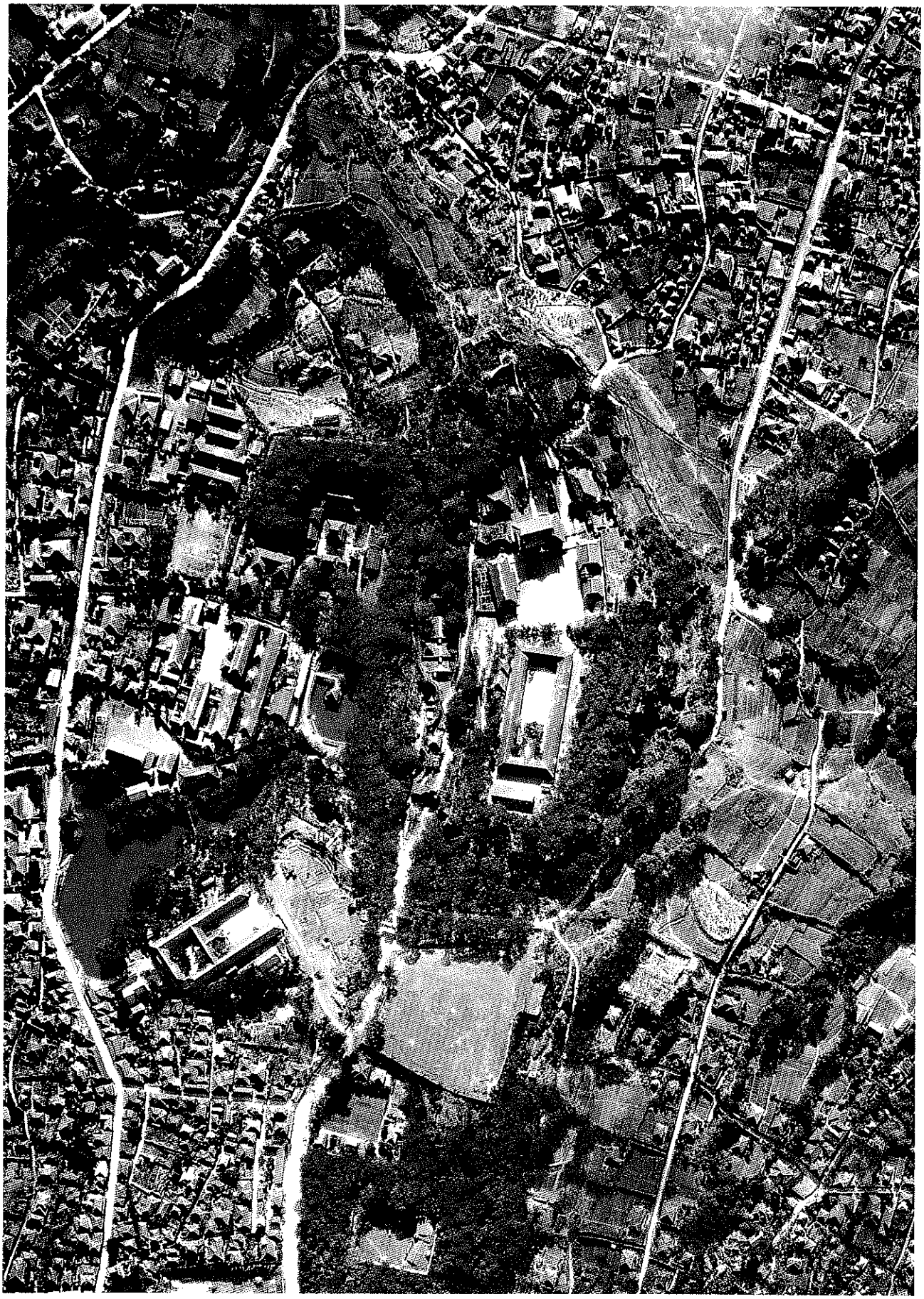
上原静　2013『琉球古瓦の研究』榕樹書林

上原静・平良和輝　2013「南島考古資料録（３）　近世・近代遺跡出土の文房具関連資料」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第 37 号　読谷村教育委員会

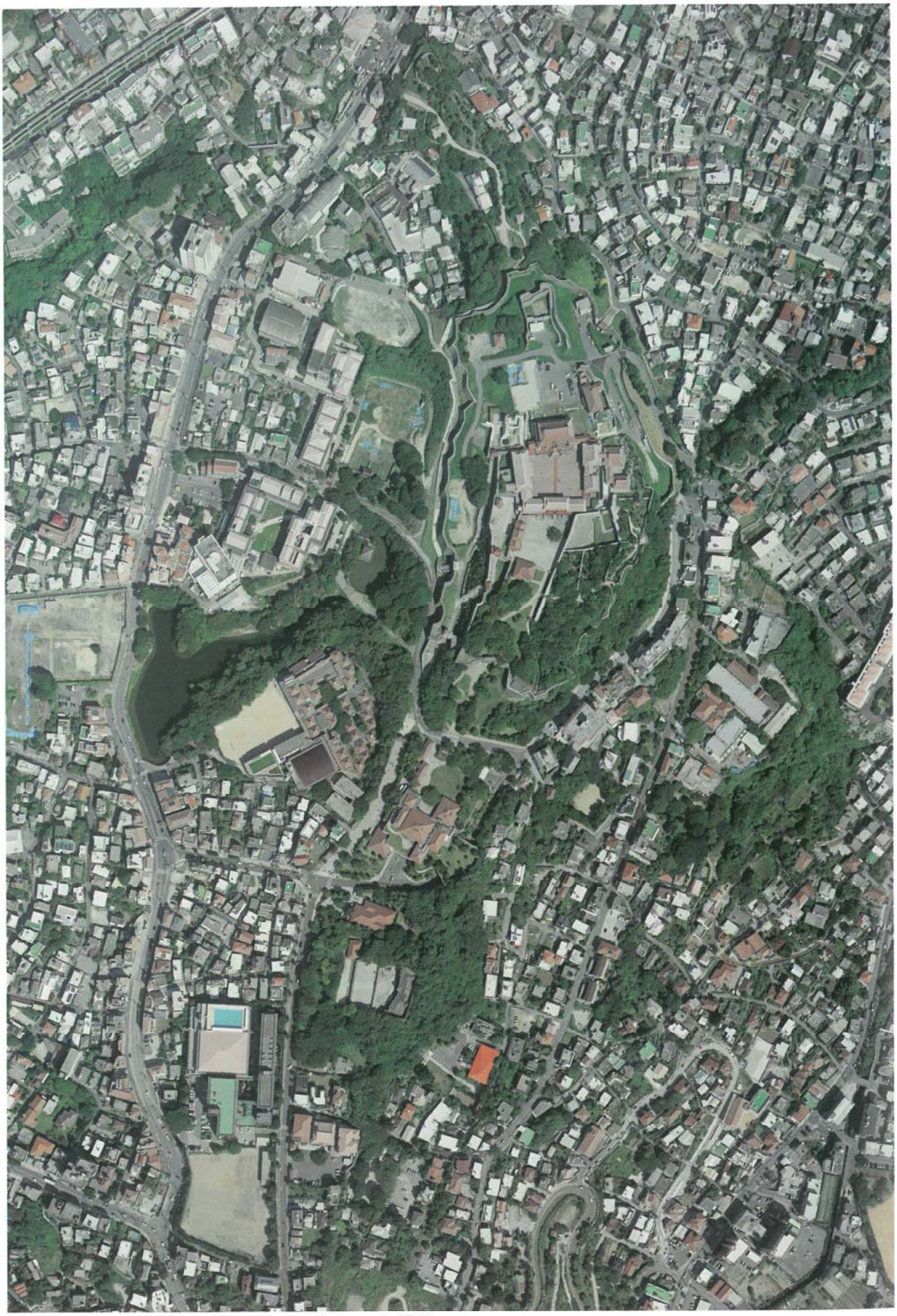
上原静・宮城綾乃　2007「南島考古資料録（2）　グスク時代の鉄鏃と骨鏃」『廣友会誌』第３号　廣友会
上原千明　2014「中近世における釘研究の現状と課題」『廣友会誌』第７号　廣友会
氏家宏・兼子尚知　2006「那覇及び沖縄市南部地域の地質」『地域地質調査報告（５万分の１地質図幅）』独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
内田晶子・高瀬恭子・池谷望子　2009『琉球弧叢書⑳　アジアの海の古琉球―東南アジア・朝鮮・中国―』榕樹書林
江戸遺跡研究会（編）　2001『図説　江戸考古学研究事典』柏書房
大堀皓平　2011「沖縄の遺跡から出土する石製硯について－沖縄県立埋蔵文化財センター所蔵資料より－」『南島考古』第 32 号　沖縄考古学会
沖縄県教育庁文化課（編）　1985『金石文－歴史資料調査報告書Ⅴ－』沖縄県文化財調査報告書第 69 集　沖縄県教育委員会
沖縄県教育庁文化課（編）　1986a『旧首里城正殿跡位置確認調査報告書』沖縄県教育委員会
沖縄県教育庁文化課（編）　1986b『昭和 60 年度　文化行政要覧』沖縄県教育委員会
沖縄県教育庁文化課（編）　1987『昭和 61 年度　文化行政要覧』沖縄県教育委員会
沖縄県教育庁文化課（編）　1992『首里城跡　首里城正殿跡の遺構調査』沖縄県文化財調査報告書第 107 集　沖縄県教育委員会
沖縄県教育庁文化課（編）　1995『首里城跡　南殿・北殿跡の遺構調査報告』同第 120 集　沖縄県教育委員会
沖縄県教育庁文化課（編）　1998a『首里城跡－京の内跡発掘調査報告書（１）－』同第 132 集　沖縄県教育委員会
沖縄県教育庁文化課（編）　1998b『首里城跡　御庭跡・奉神門跡の遺構調査報告』同第 133 集　沖縄県教育委員会
沖縄県教育庁文化課（編）　2011『沖縄のガラス・玉等製品関係資料調査報告書』同第 149 集　沖縄県教育委員会
沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2003『首里城跡－右掖門及び周辺地区発掘調査報告書－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 14 集
沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2005『首里城跡―二階殿地区発掘調査報告書―』同第 29 集
沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2006『首里城跡―御内原地区発掘調査報告書―』同第 34 集
沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2007a『首里城跡―御内原西地区発掘調査報告書―』同第 44 集
沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2007b『首里城跡―黄金御殿地区発掘調査報告書―』同第 45 集
沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2010『首里城跡―御内原北地区発掘調査報告書（１）－』同第 54 集
沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2011a『中城御殿跡－県営首里城公園　中城御殿跡発掘調査報告書（２）－』同第 58 集
沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2011b『平成 23 年度企画展　沖縄いしの考古学』
沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2012『中城御殿跡―県営首里城公園　中城御殿跡発掘調査報告書（３）－』同第 63 集
沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2013a『中城御殿跡－県営首里城公園　中城御殿跡発掘調査報告書（４）－』同第 67 集
沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2013b『首里城跡―淑順門西地区・奉神門埋甕地区発掘調査報告書－』同第 68 集
沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2013c『首里城跡―御内原北地区発掘調査報告書（２）－』同第 69 集
沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2014『首里城跡―淑順門東地区発掘調査報告書―』同第 72 集
沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2015『首里城跡－銭蔵地区発掘調査報告書－』同第 77 集
沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2016『首里城跡－銭蔵東地区発掘調査報告書－』同第 80 集
奥谷喬司（編著）　2000『日本近海産貝類図巻 Marine Mollusks in Japan』東海大学出版会
小野正敏　1982「15、16 世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究会』第２号　日本貿易陶磁研究会
加治順人　2000『沖縄の神社』ひるぎ社
桂辰哉　1995「琉球大学と首里城復元　文化財の保護に気を配る」『首里城復元期成会会報』第 14 号　首里城復元期成会
勝連町教育委員会（編）　1986『国指定史跡　勝連城跡　環境整備事業報告書Ⅰ』
亀井明徳　1985「明代華南彩釉陶をめぐる諸問題」『三上次男博士喜寿記念論文集　陶磁篇』平凡社
川根正教　2001「寛永通宝銅銭の様式分類」『出土銭貨研究会研究紀要　出土銭貨研究』出土銭貨研究会
関西近世陶磁史研究会（編）　2001『近世信楽焼をめぐって　研究集会資料集』
関西近世陶磁史研究会（編）　2003『近世後期における関西窯業の展開－国焼と京焼－　研究集会資料集』
関西近世陶磁史研究会（編）　2006『京焼の成立と展開－押小路、栗田口、御室－　研究集会資料集』
九州近世陶磁学会（編）　2000『九州陶磁の編年　九州近世陶磁学会 10 周年記念』

球陽研究会（編）　1974『沖縄文化史料集成５　球陽　読み下し編』角川書店
具志堅亮　2014「グスク土器の変遷」『琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究　研究論文集【第１集】琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』六一書房
久手堅憲夫　2000『南島文化叢書　22　首里の地名－その由来と縁起－』第一書房
久保智康　2010『日本の美術　第533号　琉球の金工』ぎょうせい
久保弘文・黒住耐二　1995『生態／検索図鑑　沖縄の海の貝・陸の貝』沖縄出版
黒住耐二　1987「３．遺跡出土貝類の生息場所類例化の試み」『石川市古我地原貝塚　本文編』沖縄県文化財調査報告書第84集　沖縄県教育委員会
財団法人沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集室（編）　2003a『沖縄県史ビジュアル版12　古琉球①　古地図にみる琉球』沖縄県教育委員会
財団法人沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集室（編）　2003b『歴代宝案編集参考資料７　『明実録』の琉球史料（二）』沖縄県教育委員会
財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター（編）　2007『平成19年度財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター企画展図録　窯跡出土の“近代陶磁”－瀬戸・美濃の近代１－』
佐賀県立九州陶磁文化館（編）　1998『平成10年度企画展　沖縄のやきもの－南海からの香り－』
桜井準也　2006『ガラス瓶の考古学』六一書房
史跡首里城跡整備委員会（編）　1988『史跡首里城跡整備基本構想』沖縄県教育委員会
島弘　2010「沖縄諸島出土の煙管について」『シンポジウム　ＶＯＣと日蘭交流－ＶＯＣ遺跡の調査と嗜好品－　発表要旨』たばこと塩の博物館
首里城研究グループ（編）　1997『首里城入門　その建築と歴史』ひるぎ社
首里城公園基本計画調査委員会（編）　1984『首里城公園基本計画調査報告書』沖縄県土木建築部
首里城公園友の会（編）　2003『首里城の復元～正殿復元の考え方・根拠を中心に～』財団法人海洋博覧会記念公園管理財団
新里貴之　2015「宮古諸島土器出現期の様相　グスク時代初期の土器資料の分類・年代観」『2015年度沖縄考古学会研究発表会資料集　いま、宮古の考古学が面白い！－無土器期からグスク時代への移り変わり－』沖縄考古学会
鈴木裕子　2015「出土資料からみた朝鮮陶磁　十六世紀以降を中心として」『根津美術館紀要　此君』第六号　根津美術館
瀬戸哲也　2009「南の境界・琉球の瓦質土器」『中近世土器の基礎研究』22　日本中世土器研究会
瀬戸哲也・仁王浩司・玉城靖・宮城弘樹・安座間充・松原哲志　2007「沖縄における貿易陶磁研究－14～16世紀を中心に－」『全国シンポジウム　中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～　補遺編』全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会
曽凡　2001『福建陶瓷考古概論』福建省地図出版社
平良啓　1994「「沖縄県首里旧城図」について」『首里城研究』No.1　首里城公園友の会
太宰府市教育委員会（編）　2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』太宰府市の文化財第49集
高良倉吉　1988「首里城正殿に関する建築史年譜」『沖縄県立博物館紀要』第14号　沖縄県立博物館
高良倉吉　1996「第四節　琉球王国成立期の首里城に関する覚書」『前近代における南西諸島と九州－その関係史的研究』多賀出版
田中克子　2001「博多遺跡群出土陶磁に見る福建古陶磁　（その一）博多出土の薄胎施釉陶器（茶入）」『博多研究会誌』第９号　博多研究会
知念隆博　2003「首里城跡出土銭貨について」『紀要沖縄埋文研究』１　沖縄県立埋蔵文化財センター
知念隆博　2004「清朝銭について」『紀要沖縄埋文研究』２　沖縄県立埋蔵文化財センター
陳建中　1999『徳化民窯青花』文物出版社
手塚直樹　1980「伊是名島の陶磁器」『伊是名ウフジカ遺跡発掘調査報告書』伊是名村文化財調査報告書第５集　伊是名村教育委員会
当真嗣一・上原静　1986「首里城正殿跡の調査」『月刊文化財』昭和61年２月号（No.269）　第一法規出版
当真嗣一・上原静　1987「首里城正殿跡の発掘調査」『紀要』第４号　沖縄県教育委員会文化課
当真嗣一・上原静　1988「51　沖縄県首里城正殿跡」『日本考古学年報39（1986年度版）』日本考古学協会
長濱健起　2006「首里城跡出土銭貨の銭種構成について」『紀要沖縄埋文研究』４　沖縄県立埋蔵文化財センター

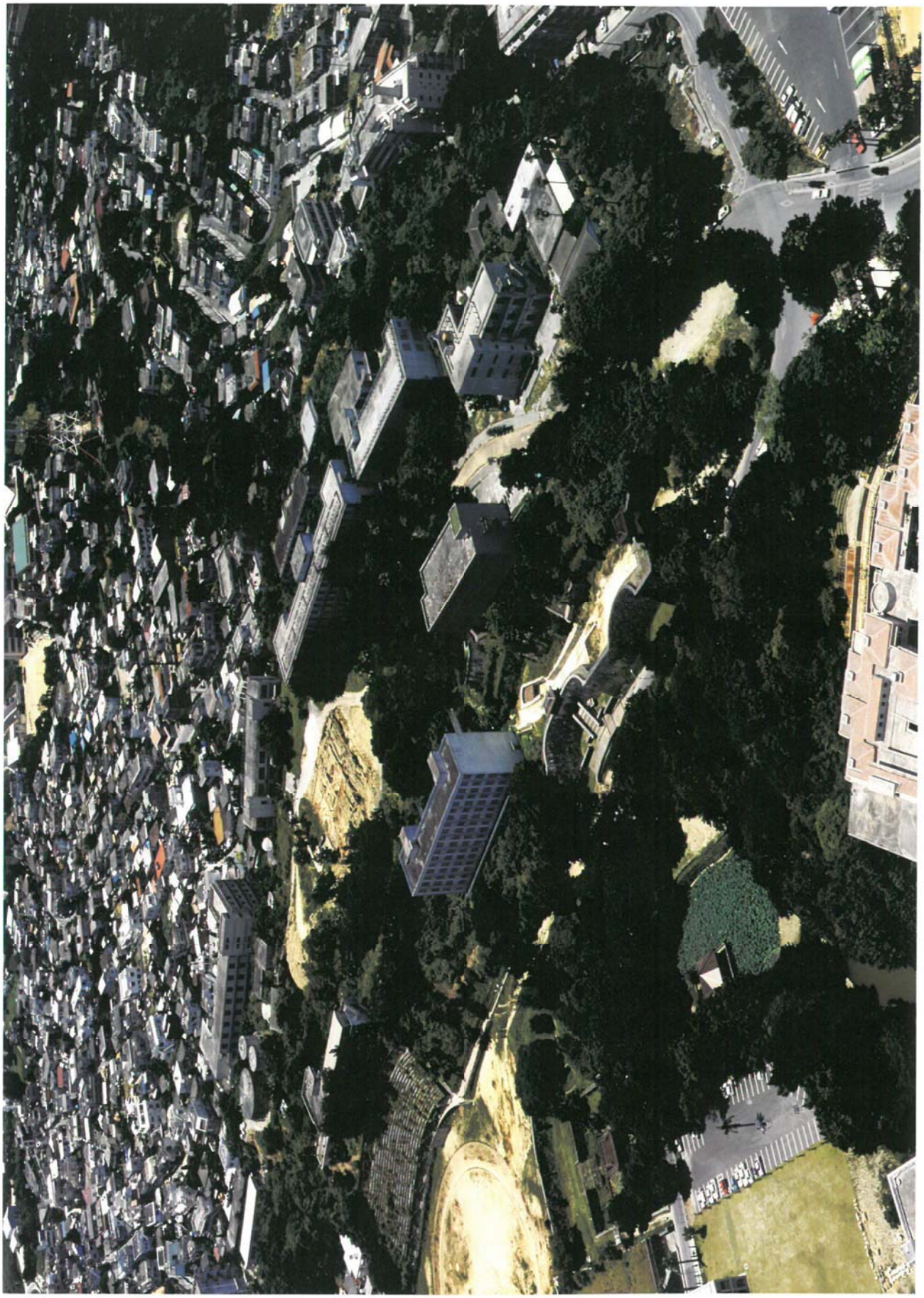
今帰仁村教育委員会（編）　1991『今帰仁城跡発掘調査報告Ⅱ』今帰仁村文化財調査報告書第14集
中坊徹次（編）　2000『日本産　魚類検索　全種の同定　第二版』東海大学出版会
西村昌也・西野範子　2005「ヴェトナム施釉陶器の技術・形態的視点からの分類と編年－10世紀から20世紀の碗皿資料を中心に－」『上智アジア学』第23号　上智大学アジア文化研究所
乗岡実　2005「備前」『全国シンポジウム　中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～　資料集』全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会
那覇市教育委員会文化課（編）　1992『壺屋古窯群Ⅰ』那覇市文化財調査報告書第23集　那覇市教育委員会
那覇市企画部市史編集室（編）　1982『那覇市史　資料篇第1巻7　家譜資料三』
原田禹雄（訳注）　2005『訳注　琉球國旧記』榕樹書林
福建省博物館（編）　1997『漳州窯　福建漳州地区明清窯址調査発掘報告之一』福建人民出版社
古川博恭・高里良政　1986「三、地形・地質」『那覇市歴史地図－文化財悉皆調査報告書－』那覇市教育委員会
法政大学沖縄文化研究所（編）　2014『沖縄研究資料　29　琉球沖縄本島取調書』
外間守善・波照間永吉（編）　1997『定本　琉球国由来記』角川書店
宮城栄治　1996「古都首里のまちづくりに向けて　歴史的変遷の検証－1（「首里市制10周年記念誌」に見える明治以降の変遷）」『首里城研究』No.2　首里城公園友の会
宮城弘樹　2008「琉球出土銭貨の研究」『出土銭貨』第28号　出土銭貨研究会
宮城弘樹・具志堅亮　2007「中世並行期における南西諸島の在地土器の様相」『廣友会誌』第3号　廣友会
三輪茂雄　1978『ものと人間の文化史　25　臼（うす）』法政大学出版局
向井亙　2003「タイ黒褐釉四耳壺の分類と年代」『貿易陶磁研究』第23号　日本貿易陶磁研究会
向井亙　2012「タイ陶磁器の編年研究」『金沢大学　文化資源学研究』第5号　金沢大学国際文化資源学研究センター
諸見友重（訳注）　2011『琉球弧叢書⑳　訳注　中山世鑑』榕樹書林
森毅　1995「一六・一七世紀における陶磁器の様相とその流通－大阪の資料を中心に－」『ヒストリア』第149号　大阪歴史学会
森田勉　1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究会』第2号　日本貿易陶磁研究会
森村健一　1995「福建省漳州窯系青花・五彩・瑠璃地の編年－いわゆる「福建・広東産青花」「スワトウ」「呉須手・赤絵」の窯跡陶片と日本の遺跡出土品の比較－」『大阪府埋蔵文化財協会研究紀要』3　大阪府埋蔵文化財協会
森本朝子　1994「博多遺跡群出土の天目」『唐物天目－福建省建窯出土天目と日本伝世の天目－』茶道資料館
森本朝子・片山まび　2000「博多出土の高麗・李朝陶磁の分類試案－生産地編年を視座として－」『博多研究会誌（法哈嚏）』第8号　博多研究会
藪田みゆき　2015「近世～近代遺跡出土歯ブラシ形骨加工品－植毛孔に着目した分類試案の提示と時期差の予察－」『同志社大学考古学シリーズXI　森浩一先生に学ぶ　森浩一先生追悼論集』同志社大学考古学シリーズ刊行会
山本正昭　2000「14、15世紀の礎石・基壇考」『高宮廣衛先生古稀記念論集　琉球・東アジアの人と文化（上巻）』高宮廣衛先生古稀記念論集刊行会
山本正昭　2004「泉州窯系磁器から見た琉明関係－消費地からの視点で－」『貿易陶磁研究』第24号　日本貿易陶磁研究会
山本正昭・上里隆史　2004「首里グスク出土の武具資料の一考察」『紀要沖縄埋文研究』2　沖縄県立埋蔵文化財センター
甦る首里城と復元編集委員会（編）　1993『首里城復元記念誌　甦る首里城　歴史と復元』首里城復元期成会
読谷村教育委員会（編）　1978『座喜味城跡　第3・4次遺構発掘調査』読谷村文化財調査報告書第4集　読谷村教育委員会
琉球大学二十周年記念誌編集委員会（編）　1970『琉球大学二十周年記念誌』琉球大学



図版 144　空中写真 1　　1945 年 4 月 2 日米軍撮影（CV20-103-63）
財団法人沖縄県文化振興会 公文書管理部 史料編集室所蔵



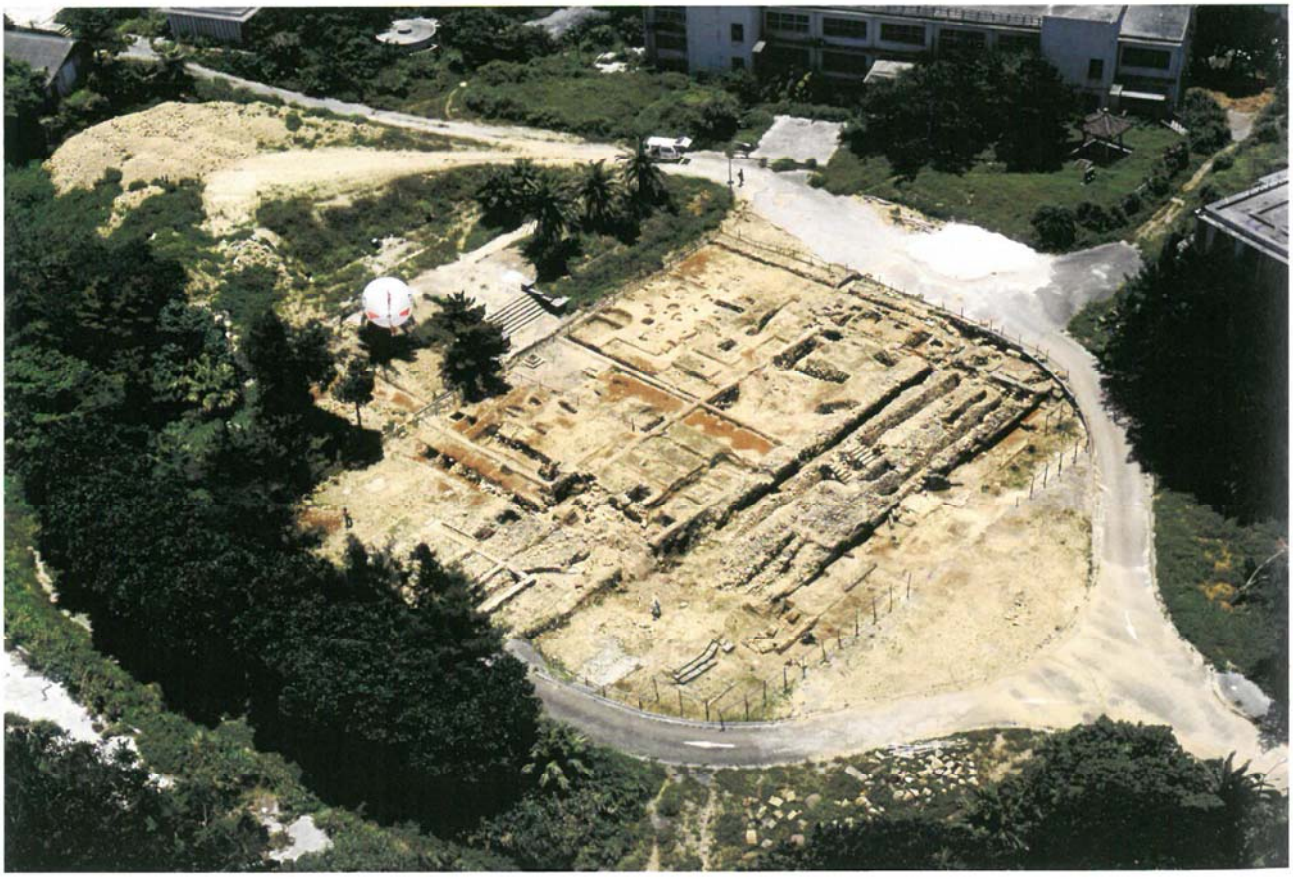
図版 145　空中写真 2　　国土地理院 2010 年撮影



図版 146　空中写真 3　　首里城跡全景（1986 年撮影・北から）

1

2



図版 147　空中写真 4　　1. 首里城跡全景（東から）　2. 正殿地区（北から）

1

2

3

図版 148　調査着手前状況 1

1. 龍潭から正殿地区を望む　2. 駐車場地域が正殿地区になる　3. 旧琉大構内案内図

1

2

3

図版 149　調査着手前状況 2

1. 着手前（調査区正面）　2. 着手前（調査区正面・北から）　3. 着手前（調査区正面・南東から）

図版 150　発掘調査状況 1　　調査区正面（西から）

図版 151　発掘調査状況 2　　Ⅱ～Ⅶ期基壇（南から）

図版 152　発掘調査状況 3　　Ⅱ～Ⅶ期基壇中央部分（西から）

1

2

図版 153　発掘調査状況 4　　1. 調査区西側（西から）　2. 調査区中央部（西から）

1

2

図版 154　発掘調査状況 5　　1. 調査区南西側　2. 調査区南西側

1

2

図版 155　発掘調査状況 6　　1. 調査区東側（東から）　2. 調査区北東側（西から）

1

2

図版 156　発掘調査状況 7　　1. 調査区南東側（西から）　2. 調査区南西側（西から）

1

2

3

図版 157　発掘調査状況 8　　1. Ⅶ期基壇南西隅　2. Ⅶ期基壇南西側階段　3. Ⅶ期基壇南西隅

1

2

3

図版 158　発掘調査状況 9　　1. Ⅶ期基壇正面　2. Ⅶ期基壇基礎状況　3. Ⅶ期基壇階段

1

2

3

図版 159　発掘調査状況 10　　1. Ⅶ期基壇北西隅　2. Ⅶ期基壇北西隅　3. Ⅶ期基壇階段正面

1

2

3

図版 160　発掘調査状況 11　　1. Ⅶ期基壇南西隅階段の塼敷　2. Ⅶ期基壇　3. Ⅶ期基壇

1

2

3

図版 161　発掘調査状況 12　　1. Ⅶ期基壇の裏に遺存するⅥ期基壇　2. Ⅵ期基壇　3. Ⅵ期基壇中央階段

1

2

3

図版 162　発掘調査状況 13　　1. Ⅵ期基壇北側　2. Ⅵ期基壇中央階段　3. Ⅵ期基壇中央階段

1

2

図版 163　発掘調査状況 14　　1. 中央階段の状況　2. Ⅴ期基壇南側（北から）

1

2

図版 164　発掘調査状況 15　　1. Ⅱ～Ⅶ期基壇（南から）　2. Ⅳ・Ⅴ期基壇中央部

1

2

図版 165　発掘調査状況 16　　1. Ⅱ～Ⅳ期基壇（南から）　2. Ⅱ～Ⅳ期基壇（西から）

1

2

図版 166　発掘調査状況 17　　1. Ⅲ期基壇中央階段　　2. Ⅲ期基壇中央階段側面

1

2

図版 167　発掘調査状況 18　　1. Ⅱ期基壇中央部　2. Ⅱ期基壇中央部（北から）

1

2

図版 168　発掘調査状況 19　　1. Ⅱ期基壇（南から）　2. Ⅶ期の石畳下に重なるⅡ期基壇

1

2

図版 169　発掘調査状況 20　　1. Ⅶ期南側階段とその下の翼状石垣　2. SP1 石列とその下のⅡ期基壇

図版 170　発掘調査状況 21　　Ⅰ期基壇と瓦層

1

2

図版 171　発掘調査状況 22　　1. 調査区中央～南側（北から）　2. Ⅳ～Ⅵ期基壇（北から）

1

2

図版 172　発掘調査状況 23　　1. 調査区南側（南から）　2. 調査区南側（南西から）

1

2

図版 173　発掘調査状況 24　　1. Ⅶ期南側渡り廊下礎石　2. Ⅶ期階段下の石積

1

2

図版 174　発掘調査状況 25　　1. Ⅶ期基壇内側に検出された石積　2. Ⅶ期基壇内に検出された礎石

1

2

図版 175　発掘調査状況 26　　1. 基壇南側で検出された礎石　2. 基壇南側で検出された階段踊り場

1

2

3

図版 176　発掘調査状況 27　　1. SP1，2（西から）　2. SP1北西壁面　3. SP1北壁面

1

2

図版 177　発掘調査状況 28　　1. SP1北壁面中央の切り石に刻印あり　2. SP1 北東壁面

1

2

図版 178　発掘調査状況 29　　1. SP3（南西から）　2. SP3（南東から）

1

2

図版 179　発掘調査状況 30　　1. SW1 東壁面　2. SW1 北壁面

1

2

3

図版 180　発掘調査状況 31　　1. SW2 西壁面　2. SW2 南西壁面　3. SW2 東壁面

1

2

図版 181　発掘調査状況 32　　1. SW3（北から）　2. SW3から導かれた溝（南から）

1

2

3

図版 182　発掘調査状況 33　　1. SW4 東壁面　2. SW4 南面と SP1 南壁面　3. SW4 南面と SP1 西壁面

1

2

図版 183　発掘調査状況 34　　1. SW5 と SP1　2. 溝遺構

1

2

図版 184　発掘調査状況 35　　1. SW3 の溝と SW9　2. SW8

1

2

図版 185　発掘調査状況 36　　1. SW6 北壁面　2. SW6 西壁面

1

2

図版 186　発掘調査状況 37　　1. SW7 北壁面　2. SW9 北壁面

1

2

図版 187　発掘調査状況 38　　1. SW10 北西壁面　2. SW10 南東壁面

1

2

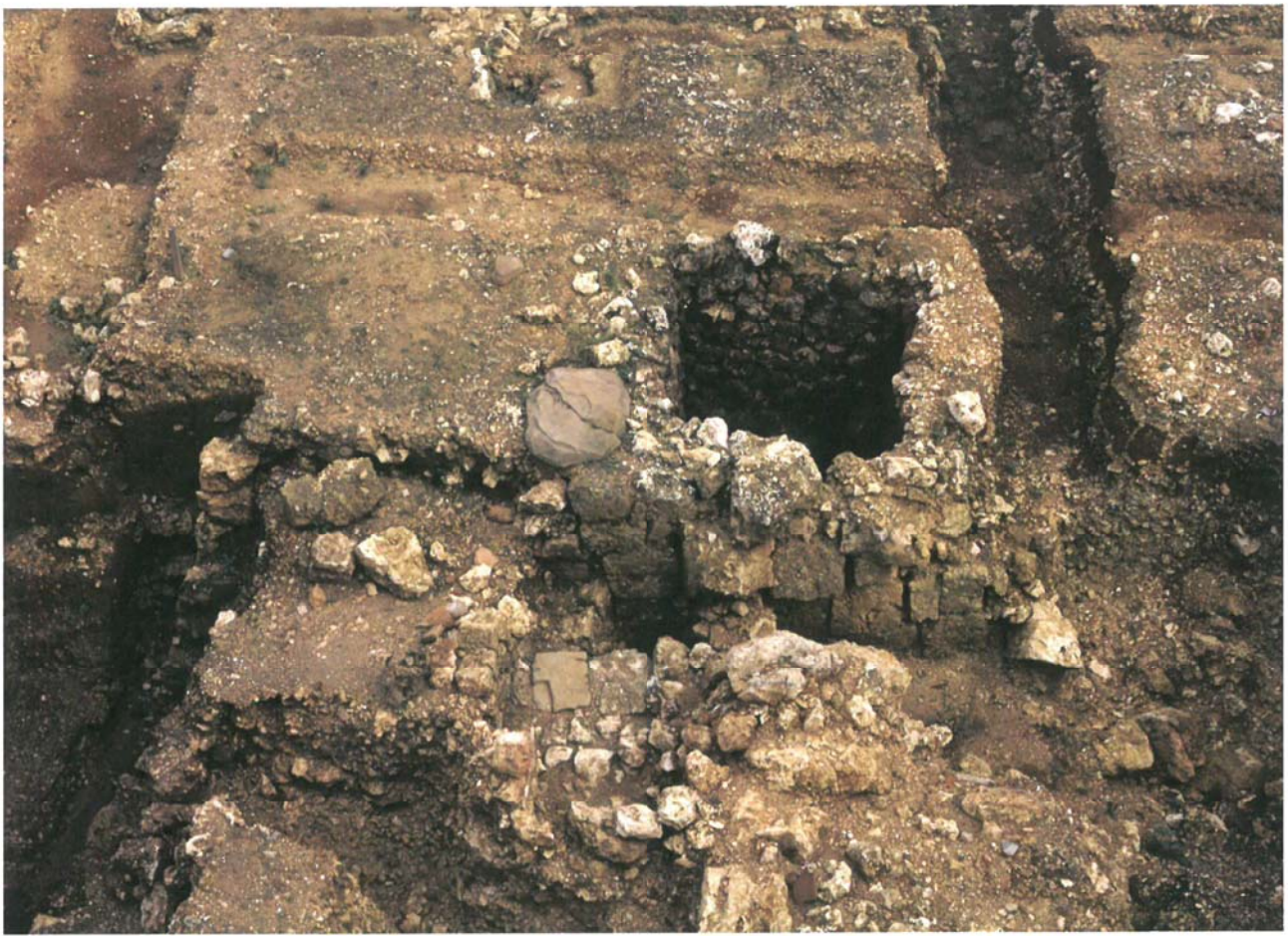
図版 188　発掘調査状況 39　　1. SW12 東壁面　2. SW12 南壁面

1

2

図版 189　発掘調査状況 40　　1. SW11 床面の青磁皿と勾玉　2. SW11 床面の根石状況・東面

図版 190　発掘調査状況 41　　SW13 と下位翼状石垣北壁面



1

2

図版 191　発掘調査状況 42　　1. SW12及びⅡ期基壇側面（中央部）・翼状石垣（左隅）
2. SW13の下位から検出された翼状石垣

1

2

図版 192　発掘調査状況 43　　1. 調査区北側　2. 調査区北側・翼状石垣

1

2

図版 193　発掘調査状況 44　　1. 調査区北側　2. 調査区北側・翼状石垣

図版 194　発掘調査状況 45　　蝋燭基礎遺構

1

2

3

図版 195　発掘調査状況 46　　1. 中央観察畦北面　2. 中央観察畦北面蝋燭基礎遺構断面
3. 中央観察畦北面蝋燭基礎遺構断面

1

2

図版 196　発掘調査状況 47　　1. 石列と赤土の分布状況　2. 石列下の状況

1

2

図版 197　発掘調査状況 48　　1. 赤土地域の石列　2. 瓦の堆積層

2

1

3

図版 198　発掘調査状況 49　　1. 石列の下部　2. 調査区東側の雨落溝　3. 井戸

1

2

3

図版 199　発掘調査状況 50　　1. 厠跡（南西から）　2. 厠跡（南東から）　3. 厠跡（北から）

1

2

3

図版 200　発掘調査状況 51　　1～3. 調査区東側（正殿跡後方）に展開する柱穴

図版 201　発掘調査状況 52　　調査区東側（南から）

1

2

3

図版 202　発掘調査状況 53　　1. 爆弾破壊跡④　2. 爆弾破壊跡⑤　3. 爆弾破壊跡③

報告書抄録

ふりがな	しゅりじょうあと
書名	首里城跡
副書名	正殿地区発掘調査報告書
シリーズ名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第82集
編著者名	新垣力・山本正昭・大堀皓平・亀島慎吾・新垣有一郎・上原靜・當眞嗣一
編集機関	沖縄県立埋蔵文化財センター
所在地	〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町上原193-7　TEL 098-835-8752　FAX 098-835-8754
発行年月日	2016年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
首里城跡（正殿地区）	沖縄県那覇市首里当蔵町3丁目1番	47201		26° 13′ 2″	127° 43′ 11″	19850725 ～ 19870331	1,350㎡	史跡首里城跡（正殿地区）遺構確認のための発掘調査

所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
首里城跡（正殿地区）	城跡	グスク時代～近代	基壇石積み、蝋燭地業、石列、方形石組遺構、かわや跡、ピット、遺物包含層	中国産・ベトナム産・タイ産・朝鮮産・本土産陶磁器及び土器、沖縄産陶器、須恵器、土器、瓦、塼、銭貨、煙管、玉類、円盤状製品、金属製品、石製品、骨製品、土製品、ガラス製品、自然遺物	7期に及ぶ正殿基壇の変遷を確認

要約

正殿建物の基壇を構成する包含層と石積みが複数検出されたため、正殿建物（想定含む）が少なくとも7回建て替えられたことが判明した。基壇は時期別にみるとⅠ～Ⅶ期に大別され、最も古いⅠ期基壇（大和系瓦が大量に出土する遺物包含層）は15世紀中葉以前に瓦葺き建物が存在した可能性を示唆するものである。その他、1453年に生じた「志魯・布里の乱」で被熱したと考えられるⅡ期基壇、正面中央に石階段が取り付けられたⅢ期基壇、全形は不明だが建物及び敷地が西側に拡張していく様相の窺えるⅣ～Ⅵ期基壇、沖縄戦で焼失した正殿が建てられていたⅦ期基壇がみられる。当該遺構の中には文献で確認できないものもあることから、首里城の中枢施設である正殿の変遷を辿るうえで非常に重要な資料といえる。また、これら以外にも熊本鎮台沖縄分遣隊の首里城駐留時（1879～1896年）に構築されたかわや跡、沖縄戦に伴う複数の爆弾破壊跡、戦後に建設された琉球大学施設の基礎など、首里城が王城としての機能を失った近代以降の歴史も垣間見ることができる。

遺物は城内の他地区と同様に多種多様な資料が得られている。中でも特筆すべきは、場所の特性を示すような遺物（火災等により被熱した遺物、17世紀代の茶道具、琉球銭、瓦類や石製品にみられる大量の建築部材）の多さが挙げられる。これらは当該地区にかつて存在した正殿建物の規模や構造を物語るだけでなく、正殿という施設の持つ性格の一端を示していると考えられ、遺構と同様に興味深い資料といえる。

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第82集

首　里　城　跡

―正殿地区発掘調査報告書―

発行年月日　平成28（2016）年3月31日
編集・発行　沖縄県立埋蔵文化財センター
〒903-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原193-7
TEL：098-835-8751・8752
印　　刷　有限会社　金城印刷
〒901-0305　沖縄県糸満市西崎町5-9-16

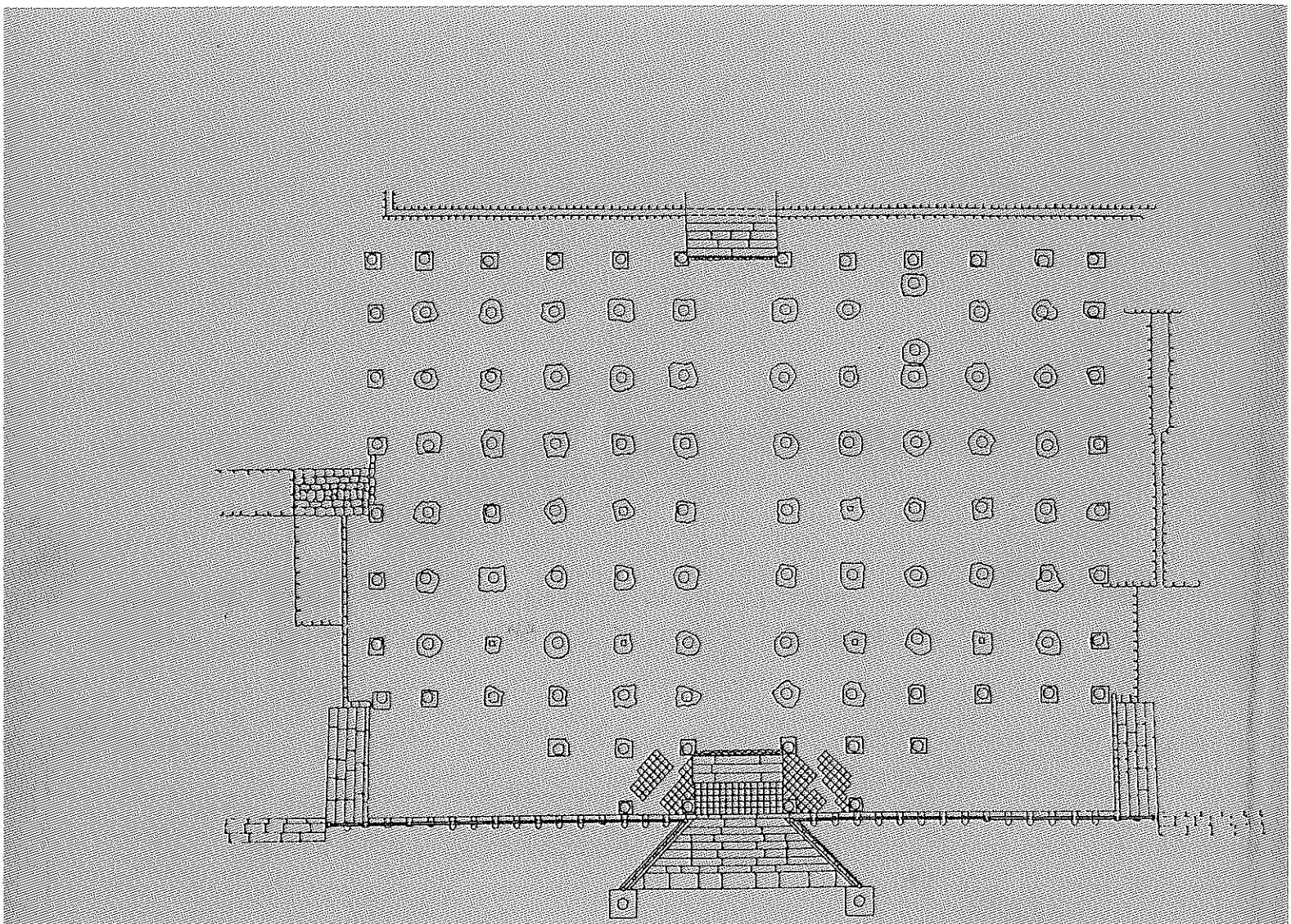


表　紙：正殿地区平面図
裏表紙：首里城正殿（沖縄神社拝殿）実測平面図　※文化庁所蔵

沖縄県立埋蔵文化財センター

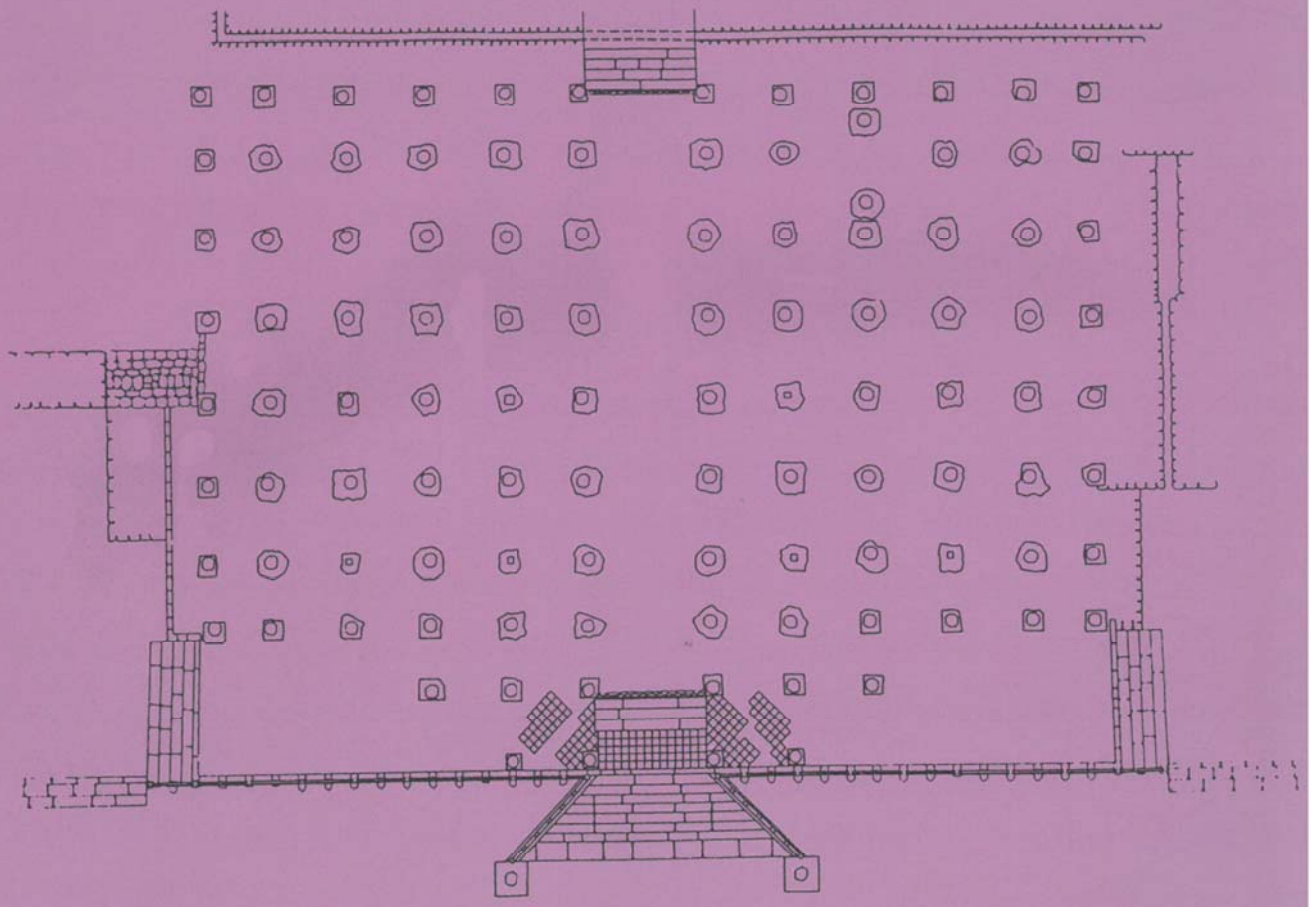


表　紙：正殿地区平面図
裏表紙：首里城正殿（沖縄神社拝殿）実測平面図　※文化庁所蔵

沖縄県立埋蔵文化財センター

第1表　青磁集計表

分類	碗																			
	A-1		A-1 有文	A-1 無文	A-2			A-3			A-3-a			A-3-b			B		B-1	
	口縁部	胴部	底部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	口縁部	底部	口縁部	胴部
個数	24	4	19	10	86	15	15	1	4	15	51	17	32	1	107	7	1	1	156	73

分類	碗																			
	B-1 有文		B-1 無文	B-2				B-3			B-3-a		B-3-b			C				
	口～底部	底部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	底部	口縁部	胴部	口～底部	口縁部	胴部	口～底部	口縁部	胴部	底部	
個数	1	12	15	1	40	12	12	1	2	28	72	6	3	61	18	1	30	33	19	

分類	碗										皿										
	D				その他			分類不明			A	A-1	A-2			B	B-1	B-1-a		B-1-b
	口～底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	胴部	底部	口縁部	口～底部	口縁部	底部	胴部	底部	口～底部	口縁部	口縁部
個数	1	20	2	4	5	6	3	35	528	58	11	1	5	11	68	19	16	1	4	117	37

分類	皿																			
	B-1-a か B-2-a	B-1-b か B-2-b	B-2-a		B-2-b	B-3				C-1			C-2			その他			分類不明	
	底部	底部	口～底部	口縁部	口縁部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	底部	口～底部	口縁部	底部	口～底部	口縁部	底部	胴部	底部
個数	3	5	1	15	4	1	4	1	1	2	55	9	2	11	6	1	17	1	11	111

分類	盤												壺							瓶		
	A			A-1-a		A-1-b	A-2	B			分類不明		A			B		分類不明		A		
	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	口縁部	口縁部	口～底部	口縁部	底部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部
個数	8	42	36	1	132	16	21	1	26	26	65	11	11	17	8	3	1	84	7	4	21	2

分類	瓶			鉢			蓋							小碗								
	B						A	A-1				A-2	B	A				B		C	分類不明	
	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	体部	端部	甲部	甲～端部	体部	甲～端部	端部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	底部	底部	口縁部	
個数	2	41	9	14	6	1	1	18	10	1	5	1	1	1	5	5	1	5	5	1	2	

分類	杯			擂鉢	小壺	水注		環	器台		香炉				型物		駒	器種不明		合計
	B	C									A		B							
	口～底部	口縁部	底部	口縁部	口縁部	口縁部	胴部	把手	口縁部	胴部	口～底部	口縁部	口～底部	口縁部	底部	口縁部	底部		胴部	底部	
個数	1	1	1	3	2	2	4	2	4	5	1	6	1	6	1	1	1	1	133	2	3075

第2表　青磁観察一覧①

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	分類	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第29図 図版1 1	碗	口縁部	他	― ― ―	鎬蓮弁の外反碗。口唇部はやや尖る。鎬の稜は不明瞭であるが膨らみは見られる。内外面共に明緑色釉で厚く施釉される。灰白色で堅緻。	東西トレンチ 東隅より 2番区石列内	出土地不明
第29図 図版1 2	碗	口縁部	A-1	17.3 － －	厚手の無文外反碗。内外面共に粗い貫入が見られ、明オリーブ灰色釉で厚く施釉される。素地は赤褐色でやや粗い。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第29図 図版1 3	碗	口縁部	A-1	21.1 － －	厚手の無鎬蓮弁文碗。口縁部は外反し、胴部は大きく膨らむ。外面胴部下半には無鎬蓮弁文が、内面にはヘラ描きの草文が描かれる。内外面共に明緑色釉で厚く施釉される。素地は灰白色で堅緻。	2層黒色土混り 赤土層K6 95 96	K6-95・96　Ⅱ層 （黒土混赤土層）
第29図 図版1 4	碗	口縁部	A-3-a	― ― ―	無文の玉縁口縁碗。全体的に薄手である。内外面共に暗オリーブ灰色釉を施釉される。素地は灰白色でやや粗い。器表面には小孔が見られる。	中央基本東西観察 畦ローラル造成層	中央観察畦？
第29図 図版1 5	碗	口縁部	A-2	17.3 － －	厚手の外反碗。外面胴部に文様が見られるが、不明瞭であるため文様構成は不明。内外面共に細かい貫入が見られる。内外面共に2次的に火を受けているため変色、砂粒が溶着している。明緑灰色釉を内外面に厚く施釉される。素地は褐色でやや粗い。	K9 K10 100 第基壇正面礫層中	K9・10-100 Ⅱ期基壇 正面礫層中
第29図 図版1 6	碗	口縁部	A-2	17.7 － －	蓮弁文碗。口縁部は外反する。やや細めの蓮弁文は鎬は無く、膨らみが見られる。オリーブ灰色釉を内外面共に厚く施釉される。素地は灰白色で堅緻。	K6 98　第2層 70～80	K6-98　Ⅱ層
第29図 図版1 7	碗	口縁部	A-2	15.8 － －	蓮弁文碗か。胴部に幅広の蓮弁文と思われる花弁が描かれる。その上部に2条一組の圏線も見られ、内面にはヘラ描きによる草花文が見られる。明オリーブ灰色釉が厚く施釉される。素地は灰白色で堅緻。	Ⅱ期基壇 北側石垣　覆土	Ⅱ期基壇 北側翼状　Ⅰ層
第29図 図版1 8	碗	口縁部	A-2	16.2 － －	口縁部が外反する。胴部は膨らみが見られる。外面胴部にヘラ描きの草花文が見られる。内外面共に明オリーブ灰色釉が施釉される。素地は灰白色で堅緻。	K6 98　第2層 70～80	K6-98　Ⅱ層
第29図 図版1 9	碗	口縁部	A-2	― ― ―	口縁部が外反する。外面胴部には簡略化したラマ式蓮弁文、内面胴部には草花文が見られる。内外面共に明緑色釉が施釉される。素地は灰白色で堅緻。	K8 103　表土	K8-103　表土
第29図 図版1 10	碗	底部	A-1 有文	－ － 8.0	かなり大振りの碗。内底面には幅広の圏線内に印花文、内外面胴部には草花文が見られる。内外面共に明オリーブ灰色釉が施釉される。外底面は雑な蛇の目釉剥ぎが見られる。素地は灰白色で堅緻。外底面に粘土塊が溶着する。	K2 99　第2層 0/20	K2-99　Ⅱ層
第29図 図版1 11	碗	底部	A-1 有文	－ － 7.15	高台は低く、胴部は厚手となる、やや大振りの碗。内底面には圏線内に印花文が見られる。内外面共に明緑灰色釉が施釉される。外底面は蛇の目釉剥ぎがなされる。素地は灰白色で堅緻。	第Ⅰ期基壇　北側 石垣の翼状の覆土	Ⅱ期基壇 北側翼状　Ⅰ層
第29図 図版1 12	碗	底部	A-1 有文	－ － 7.3	大振りな碗で胴下部が大きく広がる。内底面に印花文が見られる。内外面共に暗オリーブ色釉を薄く施釉する。外底面は蛇の目釉剥ぎが見られる。素地は褐色で粗い。	第3基壇と③'横 石垣の間	南踊り場　断割①
第29図 図版1 13	碗	底部	A-1 有文	－ － 7.4	大振りな碗で胴下部が大きく広がる。内底面には蓮華の印花文が見られる。外面胴部にも草花文と思われるヘラ描きの文様が見られる。明オリーブ灰色釉で厚く施釉される。外底面は雑な蛇の目釉剥ぎが見られる。素地は灰白色で堅緻。外底面に窯道具の輪トチンの一部が溶着している。	K4　トレンチ 東西基本トレンチ	K3-97・98 トレンチ3
第29図 図版1 14	碗	底部	A-1 有文	－ － 7.3	高台は厚く、畳付の幅も広い。厚手の碗。全面に2次的な火を受けており、器表面が変色、気泡が見られる。そのため内底面の文様は不明瞭である。外底面は円形に釉剥ぎが見られる。素地は灰白色で堅緻。外底面には粘土塊が溶着している。	Ⅴ期　南東側 石畳下層	Ⅶ期基壇　K0-100 石畳　下層
第29図 図版1 15	碗	底部	A-2	－ － 5.9	高台のつくりはやや粗い。高台外面下部は斜めに面取りされる。内底面には印花文が見られる。明オリーブ灰色釉で薄く施釉される。外底面は円形の釉剥ぎが見られる。素地は赤褐色で堅緻。外面器表には小孔が僅かに見られる。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第30図 図版2 16	碗	口縁部	A-3-a	20.1 － －	無文外反碗。口縁部は玉縁状に肥厚する。胴部は膨らみを有する。内外面共に暗オリーブ色釉を施釉している。素地は灰色でやや粗い。	L1　東西トレンチ 断割	中央観察畦②
第30図 図版2 17	碗	口縁部	A-3-a	18.0 － －	無文外反碗。口縁部は玉縁状に肥厚する。胴部は膨らみを有する。内外面共に素地はオリーブ灰色釉を施釉している。素地は灰白色で堅緻。	L0 94　下層断割 Ⅲ層	L0-94　Ⅲ層
第30図 図版2 18	碗	口縁部	A-3-a	14.5 － －	無文外反碗。口縁部は玉縁状に肥厚する。胴部は膨らみを有する。内外面共に暗オリーブ色釉を施釉している。素地は灰褐色でやや粗い。内外面共に細かい貫入が見られる。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第30図 図版2 19	碗	口縁部	A-3-b	16.7 － －	無文外反碗。口縁部は僅かに肥厚する。胴部は膨らみを有する。内外面共に明オリーブ灰色釉を施釉している。施釉は雑で口唇部の一部が露胎となる。素地は灰白色で堅緻。	SW17	L2-96　SW17
第30図 図版2 20	碗	口縁部	A-3-a	14.8 － －	薄手の無文外反碗。口縁部は玉縁状に肥厚する。内外面共にオリーブ灰色釉を施釉している。素地は灰色でやや粗い。器表面には小孔が多数、見られる。	遺構SW3	K2-96　SW3
第30図 図版2 21	碗	口縁部	A-3-b	15.2 － －	無文外反碗。外面胴部には回転轆轤成形痕が見られる。内外面共にオリーブ灰色釉を施釉している。素地は灰色でやや粗い。器表面には小孔が多数、見られる。内面には粘土塊が溶着する。	表　L0 104	L0-104　表採
第30図 図版2 22	碗	底部	A-3-a	－ － 6.75	高台外面下部は斜めに面取りされる。内底面には印文が見られる。内外面共にオリーブ灰色釉を雑に施釉している。畳付の一部から外底面にかけては露胎となる。内底面は円状に釉剥ぎされる。	L0 94　下層断割 第Ⅲ層	L0-94　Ⅲ層
第30図 図版2 23	碗	底部	A-3-a	－ － 6.45	高台はやや高く内傾し高台内の内刳りは浅い。畳付は水平に切られ、高台外面下部は斜めに面取りされる。内底面の露胎部には印花文が見られる。内外面共に明オリーブ灰色釉を施釉している。外面胴下部から外底面にかけて露胎となる。内底面は円形に釉剥ぎされる。素地は器表面には小孔が僅かに見られる。	中央畦　断割トレ 第Ⅲ層　東隅区	中央観察畦② Ⅲ層
第30図 図版2 24	碗	底部	A-3	－ － 5.4	高台は低く、高台内の内刳りは浅い。畳付は水平に切られ、幅は一定しない。内底面には印花文が見られる。内外面共に明オリーブ灰色釉を施釉している。外面胴下部から外底面にかけて露胎となる。素地は灰色で堅緻。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇

注「－」:計測不可

第2表　青磁観察一覧②

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	分類	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第30図 図版2 25	碗	底部	A-3-a	－ － 5.6	高台はやや高く内傾し高台内の内刳りは浅い。畳付は水平に切られ、高台外面下部は斜めに面取りされる。内外面共に明オリーブ灰色釉を施釉している。外面胴下部から外底面にかけて露胎となる。素地は褐色で堅緻。器表面には小孔が多数、見られる。	第3基壇と③'横 石垣の間	南踊り場　断割①
第30図 図版2 26	碗	底部	A-3-a	－ － 6.2	高台はやや高く内傾し高台内の内刳りは浅い。高台のつくりは雑で畳付の幅は一定ではなく、高台内面の成形が行われていない。文様は内底面に圏線が1条見られる。内外面共に暗オリーブ灰色釉を施釉している。高台外面下部から外底面にかけて露胎となる。素地は灰白色で堅緻。2次的に火を受けたため素地が黒く煤けている。	Ⅱ期基壇　北側 L3グリッド	Ⅱ期基壇 北側翼状　Ⅰ層
第30図 図版2 27	碗	底部	A-3-a	－ － 5.3	高台内の内繰りは浅い。2次的に火を受けているため、全体的に文様並びに釉調、胎土は不明瞭である。内底面は円形に釉剥ぎされる。外面胴下部に鉄の小片が溶着している。	表　K10 101	K10-101　表採
第30図 図版2 28	碗	底部	A-3	－ － 5.0	やや小ぶりな碗。高台は低く、薄い。胴下部は大きく膨らむ。畳付は一部、水平に切られるが、丸く収めるなど形状が一定していない。内外面共に暗オリーブ灰色釉を施釉している。高台外面下部から外底面にかけて露胎となる。素地は灰白色で堅緻。	中央畦　断面 断割トレンチ 東隅区	中央観察畦②
第30図 図版2 29	碗	底部	A-3-a	－ － 5.5	高台のつくりはかなり雑で、畳付に砂粒が多く溶着している。内底面は2次的に火を受けたため、気泡が多く見られる。内外面共に明緑色釉を施釉している。畳付から内底面にかけて露胎となる。素地は灰白色で堅緻。	K9 K10 100 第2基壇 正面礫層中	K9･10-100 Ⅱ期基壇 正面礫層中
第30図 図版2 30	碗	底部	A-3-a	－ － 6.0	高台は低く全体的につくりはかなり雑で、畳付の幅は一定ではない。内外面共に灰オリーブ色釉を雑に施釉する。内底面には凹凸が多く見られる。器表面には小孔が多く見られる。素地は褐色でやや粗く、大きい気泡が見られる。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第31図 図版3 31	碗	口縁部	B-1	― ― ―	直口口縁碗で外面口縁部直下に3条の圏線が見られ、斜位で画する。内面胴部にはヘラ描きの草花文が見られる。口縁端部が僅かに肥厚する。内外面共に灰オリーブ色釉を施釉する。素地は灰白色で堅緻。内外面共に貫入が見られる。	表土　L3 103	L3-103　表土
第31図 図版3 32	碗	口縁部	B-1	14.2 － －	直口口縁碗で外面口縁部直下にヘラ描きによる雷文帯が見られる。文様は他に外面胴部に草花文、内面口縁部直下に横位の曲線が見られる。内外面共に明緑色釉を施釉する。素地は灰白色で堅緻。	表土	表土
第31図 図版3 33	碗	口縁部	B-1	12.4 － －	直口口縁碗で外面口縁部直下にヘラ描きによる雷文帯が見られる。内外面胴部にヘラ描きによる草花文が見られる。内外面共に暗オリーブ灰色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で堅緻。	SW13	L0-96　SW13
第31図 図版3 34	碗	口縁部	B-1	― ― ―	直口口縁碗で口縁端部が僅かに肥厚する。口縁部直下に雷文が見られるが不鮮明であるが見られる。また、内外面胴部にヘラ描きによる草花文が見られる。内外面共にオリーブ灰色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で堅緻。	表　K1 95	K1-95　表採
第31図 図版3 35	碗	口縁部	B-1	― ― ―	直口口縁碗で口縁端部が僅かに肥厚する。外面口縁部直下にヘラ描きによる雷文帯が、内面胴部に草文が見られる。内外面共にオリーブ灰色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で堅緻。	表土　L4 100	L4-100　表土
第31図 図版3 36	碗	口縁部	B-1	― ― ―	直口口縁碗で口縁部直下にかなり略化した雷文帯が、外面胴部に蓮弁文と思われるヘラ描き文が見られる。内外面共にオリーブ灰色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で堅緻。	Ⅱ期基壇 前方土留石垣 南側翼状石垣内	Ⅱ期基壇?
第31図 図版3 37	碗	口縁部	B-1	13.2 － －	直口口縁碗で外面胴部に幅広の略化した蓮弁文が見られる。内外面共にオリーブ灰色釉を施釉しており、口縁部周辺には釉垂れが見られる。素地は灰白色でやや粗い。	Ⅳ期基壇 化粧石前	SP3
第31図 図版3 38	碗	口縁部	B-1	14.4 － －	直口口縁碗で外面胴部に片切り彫りの無縞蓮弁文が見られる。内外面共に明緑色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で堅緻。	撹乱	撹乱層
第31図 図版3 39	碗	口縁部	B-1	15.4 － －	口縁部がわずかに外反する碗で外面胴部に幅が狭く剣先の尖る片切り彫りの無縞蓮弁文が見られる。内外面共に粗い貫入が見られる。内外面共に明緑色釉を厚く施釉する。器表面には小孔が僅かに見られる。素地は灰白色で堅緻。	L0　東西トレンチ 断割　東隅最奥区	L0　不明
第31図 図版3 40	碗	口縁部	B-1	14.6 － －	直口口縁碗で外面胴部に線彫りの蓮弁文が見られる。蓮弁は僅かに膨らみを有する。内外面共に淡緑灰色釉を施釉する。器表面には小孔が僅かに見られる。素地は灰色で堅緻。	SW13	L0-96　SW13
第31図 図版3 41	碗	口縁部	B-1	― ― ―	口縁部がわずかに外反する碗で外面口縁部直下に2条一組の圏線と外面胴部に線彫りの無縞蓮弁文が見られる。内外面共に明緑色釉を施釉する。素地は灰白色で堅緻。	表土　K6 104	K6-104　表土
第31図 図版3 42	碗	口縁部	B-1	― ― ―	口縁部が玉縁状に肥厚する碗で外面胴部に片切り彫りの無縞蓮弁文が見られる。内面胴部にも草花文と思われる文様が見られる。内外面共に明緑色釉を施釉する。素地は灰白色で堅緻。	第Ⅰ期基壇の北側 翼状石垣の覆土	Ⅱ期基壇 北側翼状　Ⅰ層
第31図 図版3 43	碗	口縁部	B-1	― ― ―	直口口縁碗で外面胴部に片切り彫りの蓮弁文が見られる。内面胴部にも文様が見られるが構成は不明。器表面には小孔が僅かに見られる。内外面共に明オリーブ灰色釉を施釉する。素地は灰白色で堅緻。	SW3　覆土コーラル	K2-96　SW3
第31図 図版3 44	碗	口～底部	B-1 有文	20.2 10.6 8.4	大振りの直口口縁碗で胴部は大きく膨らむ。外面胴下部に蓮弁文とその上部に圏線が1条不明瞭ながら見られる。内底面には圏線内に印花文が見られる。内外面共にオリーブ灰色釉を雑に施釉する。高台内面の一部と外底面が露胎となる。素地は灰白色で堅緻。	表　K9 101	K9-101　表採
第32図 図版4 45	碗	口～底部	B-2	13.0 7.8 5.3	直口口縁碗で外面胴部には細弁間と弁先が対応しない蓮弁文が見られる。内底面に印花文がみられる。内外面共に明オリーブ灰色釉を雑に施釉する。内面高台下部から外底面にかけて露胎となる。外底面中央に釉が残る。素地は灰白色で堅緻。高台部分の焼成は不良で露胎部は褐色となる。	SW13　円下部	L0-96　SW13
第32図 図版4 46	碗	底部	B-2	－ － 5.8	直口口縁碗で外面胴部には片切り彫りによる細蓮弁文が見られる。内底面から内面胴部にかけては捻花文が見られる。内外面共に明緑色釉が施釉され、外底面は蛇の目状に釉剥ぎされ、高台外面の一部が露胎となる。輪トチンの痕跡が外底面の一部に残る。素地は灰白色で堅緻。	L1 98　撹乱	L1-98　撹乱層
第32図 図版4 47	碗	口縁部	B-2	－ － －	直口口縁碗で剣先の蓮弁文が見られる。弁幅は狭く、片切り彫りで描かれる。内面胴部には唐草文が描かれる。内外面共にオリーブ灰色釉を施釉する。素地は灰白色で堅緻。	第2基壇　前面	Ⅱ期基壇　前面
第32図 図版4 48	碗	口縁部	B-2	14.0 － －	直口口縁碗で外面胴部に線彫りによる簡略化した蓮弁文が見られる。内外面共に淡緑灰色釉を薄く施釉する。素地は灰白色で堅緻。	第74　柱穴	L1-93　柱穴74

注「－」:計測不可

第2表　青磁観察一覧③

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	分類	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第32図 図版4 49	碗	口縁部	B-2	15.7 － －	口縁部は僅かに肥厚し、胴部は膨らみが見られる。外面胴部には蓮弁文が見られ、蓮弁は膨らみを有する。外面共には貫入が見られる。。内外面共に暗オリーブ灰色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で堅緻。	K1 99　石組遺構内	K1-99　SW4
第32図 図版4 50	碗	口縁部	B-3-a	13.9 － －	直口口縁碗で外面胴部に線彫りの蓮弁文が見られる。2次的に火を受けているため、全体的に文様並びに釉調、胎土は不明瞭である。素地は灰色で粗い。焼成は一部不良。	K1 102 踊り場断割	南踊り場　断割④
第32図 図版4 51	碗	口縁部	B-3-a	13.1 － －	直口口縁碗で外面口縁部直下に3条の片切り彫りの文様が見られる。内外面共に明オリーブ灰色釉を施釉し、粗い貫入が見られる。素地は灰白色で堅緻。	L3　96　石灰岩碑	L3-96　石積？
第32図 図版4 52	碗	口縁部	B-3-a	16.0 － －	無文の直口口縁碗。内外面共に明オリーブ灰色釉を施釉する。粗い貫入が見られる。素地は灰白色で堅緻。	K6 10　灰褐色土層	K6　灰褐色土層？
第32図 図版4 53	碗	口縁部	B-3-a	13.6 － －	直口口縁碗で外面胴部にかなり簡略化した線彫りの蓮弁文が見られる。内面は黄褐色釉で施釉し、外面は2次的に火を受けているため不明瞭となる。施釉は雑で外面が一部露胎となる。素地は黄白色でやや粗い。	K1 102 踊り場断割	南踊り場　断割④
第32図 図版4 54	碗	口縁部	B-3-a	― ― ―	直口口縁碗で外面口縁部直下にヘラ描きによる雷文帯が見られる。内外面共に明オリーブ灰色釉を施釉し、細かい貫入が見られる。素地は灰白色で堅緻。	2期壇　正面部	Ⅲ期基壇
第32図 図版4 55	碗	口縁部	B-3-a	― ― ―	直口口縁碗で口縁部直下に圏線が1条、その下部に蓮弁文の弁先が見られる。内外面共に明緑色釉を施釉し、細かい貫入が見られる。素地は灰白色で堅緻。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第32図 図版4 56	碗	口縁部	B-3-a	― ― ―	直口口縁碗で胴部は膨らみを有する。外面胴部に弁先が二又になる無縞蓮弁文が見られる。内外面共に暗オリーブ色釉を施釉し、細かい貫入が見られる。素地は灰白色で堅緻。素地は灰白色でやや粗い。	石組遺構内 （井戸状）より X=103、Y=105付近	K0-99　SW4
第32図 図版4 57	碗	口～底部	B-3-b	14.0 7.4 5.6	直口口縁碗で外面胴部には細弁間と弁先が対応しない蓮弁文が見られる。内底面には片切り彫りの捻花文が見られる。内外面共に明緑色釉を施釉し、細かい貫入が見られる。内面高台下部から外底面にかけて露胎となる。素地は灰白色で堅緻。外面と高台には粘土塊が溶着している。	Ⅱ期基壇 前方土留石垣 南側翼状石垣内	Ⅱ期基壇?
第32図 図版4 58	碗	口～底部	B-3-b	14.0 7.4 5.2	直口口縁碗で外面胴部には細蓮弁文が見られる。内外面共にオリーブ灰色釉を施釉している。口縁部直下に釉垂れが見られ、高台内面下部から外底面にかけて露胎となる。畳付には粗砂粒が多く溶着する。外面には小孔が見られる。素地は灰白色でやや粗い。	Ⅱ期基壇 前方土留石垣 南側翼状石垣内	Ⅱ期基壇?
第32図 図版4 59	碗	口縁部	B-3-b	13.1 － －	直口口縁碗で外面胴部には弁先が無い細蓮弁文が見られる。内外面共に黄褐色釉を雑に薄く施釉する。器表面には小孔が大量に見られる。2次的に火を受けているため、器表面の一部が変色している。素地は黄白色でやや粗い。	K1 102 踊り場断割	南踊り場　断割④
第32図 図版4 60	碗	口～底部	B-3	13.5 6.1 4.6	無文の直口口縁碗で胴部は大きく膨らみ、器高が低い。2次的に火を受けているため、釉調は不明瞭である。高台外面下部から外底面にかけて露胎となる。素地は灰色でやや粗い。外底面にはやや大きい孔が見られる。	表　K6　98	K6-98　表採
第33図 図版5 61	碗	口縁部	C	11.7 － －	口縁部がわずかに外反し、口唇部が尖る。2次的に火を受けているため、釉調、文様は不明瞭である。素地は灰白色で堅緻。	第2層　K3　96	K3-96　Ⅱ層
第33図 図版5 62	碗	底部	C	－ － 4.4	高台はやや高く、畳付は水平に切られる小振りな碗。胴部は大きく膨らみを有する。全体的に器表面が2次的に火を受けて変色している。内外面共に明緑色が施釉される。素地は白色で堅緻。内外面共に細かい貫入が見られる。	第Ⅱ層　0/20 K4　99	K4-99　Ⅱ層
第33図 図版5 63	碗	口～底部	D	17.7 7.0～7.6 8.3	無文の直口口縁碗で胴部は僅かに膨らみを有する。口縁部はやや肥厚し、高台は低く、厚い。畳付は水平に切られ、幅は広い。高台内の内繰りは浅く、内底面にひび割れが見られる。内外面共に暗オリーブ灰色釉を施釉しており、外面高台下部から外底面にかけて露胎となる。内底面は蛇の目釉剥ぎされる。素地は褐色でやや粗い。	不明	出土地不明
第33図 図版5 64	碗	底部	B-2	－ － 5.8	蓮弁文碗。弁は膨らみを有する。外底面は印花文が見られる。高台のつくりは雑で厚みは一定ではない。内外面共に明緑色釉を施釉しているが、外面高台から外底面にかけて雑に施される。内底面には粘土塊がまとまって溶着している。内外面共に粗い貫入が見られる。	L1　東西トレンチ 断割　東隅最奥 石列区切内	L1　石列？
第33図 図版5 65	碗	底部	B-3	－ － 5.8	無文碗。高台下部は斜めに面取りされる。内外面共にオリーブ灰色釉を施釉しているが、高台周辺が露胎になるなど雑に施される。内面高台下部から外底面にかけて露胎となる。内底面は円形に釉剥ぎされる。外底面には粗砂粒が溶着している。外面に粗い貫入が見られる。素地は灰色でやや粗い。	第74　柱穴	L1-93　柱穴74
第33図 図版5 66	碗	底部	B-3	－ － 5.1	高台は低く、高台内の内刳りは浅い。高台下部は斜めに面取りされる。内外面共にオリーブ灰色釉を施釉している。高台外面下部から外底面にかけて露胎となる。素地は灰白色でやや粗い。器表面には小孔が僅かに見られる。	L0 97 SW13 井戸状石組外 東側グリッド	L0-97　SW13
第33図 図版5 67	碗	底部	B-3	－ － 6.2	蓮弁文碗。弁は膨らみを有する。外底面は圏線内に印花文が見られる。高台内の内刳りは浅い。畳付の幅は一定ではないことなど、つくりは粗い。内外面共に明緑色釉を施釉している。素地は灰白色で堅緻。高台を中心に器表面には煤が付着している。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第33図 図版5 68	碗	底部	B-3	－ － 5.7	蓮弁文碗。内外面共に灰オリーブ色釉を施釉している。内面高台下部から外底面まで露胎となる。素地は黄白色で堅緻。	東方トレンチ プレハブ後方 の試掘	出土地不明
第33図 図版5 69	碗	底部	B-3	－ － 5.0	高台は低く、高台下部は斜めに面取りされる。内底面は花文が描かれ、花芯部には不鮮明ながら字款が見られる。内外面共に暗オリーブ灰釉を施釉している。素地は黄白色でやや粗い。	K1 100　南階段の 踊り場　断割	南踊り場　断割②
第33図 図版5 70	碗	底部	不明	－ － 5.6	高台は低く、内傾している。畳付は水平に切られ、幅は一定ではない。高台内面に粘土塊が溶着する。内底面は圏線内に花弁四弁内に一文づつ篆書が刻まれたスタンプ文が見られる。内外面共に細かい貫入が見られる。素地は灰白色で堅緻。	K2 99　第2層 0/20	K2-99　Ⅱ層
第33図 図版5 71	碗	底部	不明	－ － 5.9	高台は低く、畳付は水平に切られ、幅は一定ではない。内底面には印花文が見られる。内外面共に暗オリーブ灰釉を施釉している。外底面は蛇の目釉剥ぎされる。外底面中央に粘土塊が溶着する。素地は灰白色で堅緻。全体的に粗い貫入が見られる。	SW13号　遺構内	L0-96　SW13
第33図 図版5 72	碗	底部	不明	－ － 6.2	高台内の内繰りはやや深く、高台断面は逆台形状でハの字状に開く。外面は青緑色釉を雑に施す。外面高台途中から外底面にかけて露胎となる。素地は灰白色で堅緻。全体的に細かい貫入が見られる。	第74　柱穴	L1-93　柱穴74

注「－」:計測不可

第2表　青磁観察一覧④

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	分類	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第33図 図版5 73	碗	底部	不明	－ － 6.8	高台は低く、内傾する。畳付の幅は一定ではない。外面高台に陽圏線が1条見られる。内外面共に暗オリーブ灰色釉を施す。内面高台途中から内底面にかけて露胎となる。素地は灰色で堅緻。	L1　東西トレンチ 断割　東隅最奥 石列区切内	L1　石列？
第33図 図版5 74	小碗	口～底部	A	7.4 4.0 3.4	口縁部は大きく外反し、胴部は膨らみを有する。高台は低く、厚い。内底面には文様が見られるが不明瞭である。内外面共にオリーブ灰色釉を施す。高台外面途中から内底面にかけて露胎となる。素地は灰白色で堅緻。	不明	出土地不明
第33図 図版5 75	小碗	口縁部	A	8.3 － －	口縁部は大きく外反し、玉縁状に肥厚する。胴部に2条一組の圏線とその下部に蓮弁文が見られる。内外面共に明緑色釉を施す。素地は灰白色で堅緻。	第2　K1 94	K1-94　Ⅱ層
第33図 図版5 76	小碗	口縁部	A	8.9 － －	口縁部は大きく外反する。外面口縁部直下に線彫りの雷文帯が見られる。内外面共に明緑色釉を施す。素地は灰白色で堅緻。	SW3のミゾ 遺構の覆土	K2-96　SW3
第33図 図版5 77	杯	口～底部	B	6.7 3.6 3.0	碁笥底の小杯。口縁部は内湾し、胴部は全体的に丸みを帯びる。内外面共に大粒の砂粒が溶着する。素地は灰白色で堅緻。	L0 94　下層断割 3層	L0-94　Ⅲ層
第33図 図版5 78	杯	口縁部	C	― ― ―	口縁部が外反するやや厚手の小杯で胴部は全体的に丸みを帯びる。内外面共に暗オリーブ灰色釉を施釉する。素地は灰色で高台近くのみ褐色となる。緻密。	K1　99 石組遺構内	K1-99　SW4
第33図 図版5 79	杯	底部	C	－ － 3.4	高台付杯。畳付は水平に切られる。外面は明緑色釉、高台内面はオリーブ灰色釉で雑に施釉する。素地は灰白色で堅緻。	不明	出土地不明
第34図 図版6 80	皿	口縁部	A-1	20.9 － －	口折れ皿で外面胴部に鏑蓮弁文が見られる。口折れ部には稜が明瞭に見られる。内外面共に明緑色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で堅緻。粗い貫入が内外面共に見られる。	第2　K6 93	K6-93　Ⅱ層
第34図 図版6 81	皿	口～底部	A-2	13.2 3.3 7.0	口縁部が大きく外反する。外面胴部には弁がやや膨らんだ無鏑蓮弁文と内底面には圏線内に印花文が見られる。内外面共に明オリーブ灰色釉が施釉され、外底面は蛇の目釉剥ぎされる。素地は褐色で堅緻。	第Ⅱ基壇	Ⅱ期基壇
第34図 図版6 82	皿	口～底部	A-2	13.3 3.8 6.8	口折れ皿で外面胴部には弁がやや膨らんだ片切り彫りの蓮弁文が見られる。内底面には陽圏線内に印花文が見られる。高台は低く、畳付の幅は一定していない。内外面共に明オリーブ灰色釉が施釉され、高台内面途中から外底面にかけて露胎となる。素地は灰白色で堅緻。	L3 96　石灰岩砕内	L3-96　石積？
第34図 図版6 83	皿	口～底部	A-2	13.8 5.0 5.6	口折れ皿で外面胴部に片切り彫りの無鏑蓮弁文が見られる。外底面から内面高台にかけて粘土塊が溶着する。暗オリーブ灰色釉を内外面共に施釉する。外底面のみ露胎となる。素地は灰白色で堅緻。細かい貫入が見られる。	SW13	L0-96　SW13
第34図 図版6 84	皿	口～底部	A-2	12.8 3.8 5.6	口折れ皿で外面胴部には弁が膨らんだ蓮弁文が見られる。高台は低く断面形は台形状になる。内底面は圏線内に文様が見られるが、不明瞭である。内外面にオリーブ灰色釉を施釉するが、高台は雑に施されており、器表面に凹凸が見られる。素地は灰色で堅緻。	L0 94　下層断割 第Ⅲ層	L0-94　Ⅲ層
第34図 図版6 85	皿	口～底部	A-2	12.8 4.4 5.6	厚手の口折れ皿。外面胴部に無鏑蓮弁文が見られる。内外面共に明緑色釉を厚く施釉する。畳付は露胎となる。素地は灰白色で緻密。	SW17	L2-96　SW17
第34図 図版6 86	皿	口縁部	A-2	― ― ―	口折れ皿。外面胴部には弁が膨らんだ蓮弁文が見られる。内外面共に明緑色釉を施釉する。素地は灰白色で緻密。	L0 97　石組埋土 褐色砂層	L0-97　SW15 （褐色砂層）
第34図 図版6 87	皿	口縁部	A-2	10.0 － －	薄手の口折れ皿。外面胴部には弁が膨らんだ扁平の蓮弁文が見られる。内外面共に淡い青緑色を施釉する。素地は灰白色で緻密。	SW13号　遺構内	L0-96　SW13
第34図 図版6 88	皿	口縁部	B-1-a	13.4 － －	やや厚手の腰折れ皿。胴部が膨らみを有する。胴部に圏線が1条見られる。内外面共に明緑色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で緻密。	第74　柱穴	L1-93　柱穴74
第34図 図版6 89	皿	口縁部	B-1-a	17.6 － －	やや薄手の無文の外反皿。内外面共に明緑色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で緻密。	第1号　SW3	K2-96　SW3
第34図 図版6 90	皿	口～底部	B-1-a	12.3 3.9 6.5	厚手の腰折れ皿。口縁部に浅い抉りが見られる。内外面胴部に縦位の沈線が密に配される。内底面は中央から放射状に沈線が延びる。内外面共に明緑色釉を厚く施しており、畳付から外底面にかけて露胎となる。素地は灰色で緻密。高台内の焼成は不良で素地が褐色となる。	L1　東西トレンチ 第3コーラル	L1　石列？
第34図 図版6 91	皿	口～底部	B-1-a	11.0 3.95 6.55	厚手の腰折れ皿。高台は低く、ハの字状に開く。内外面共に明緑灰色釉を施釉し、外底面を円状に釉剥ぎする。外面胴部には釉垂れが見られる。素地は灰白色で堅緻。	第3基壇と③'横 石垣の間	南踊り場　断割①
第34図 図版6 92	皿	口縁部	B-1-b	12.7 － －	腰折れ皿。口縁部は浅い抉りが見られる。内外面共に黄褐色釉を施釉する。器表面に小孔が僅かに見られる。素地は灰褐色でやや粗い。内外面共に粗い貫入が見られる。	第3基壇と③'横 石垣の間	南踊り場　断割①
第34図 図版6 93	皿	口縁部	B-1-b	15.0 － －	口縁部が玉縁状に肥厚する。内外面共にオリーブ灰色釉を施釉する。素地は灰色でやや粗い。内外面共に細かい貫入が見られる。	撹乱　L1・2 99	L1・2-99　撹乱層
第34図 図版6 94	皿	底部	B-1-a か B-2-a	－ － 6.8	腰折れ皿。腰部に不明瞭ながら稜が見られる。高台は厚く、内傾する。内底面には圏線が1条見られる。明オリーブ灰色釉を内外面共に施釉する。外底面の途中から露胎となる。素地は灰白色で堅緻。	4基壇南壁外側 上層	南踊り場　断割⑤
第35図 図版7 95	皿	口～底部	B-2-a	12.4 3.7 5.8	腰折れの稜花皿。腰部に不明瞭ながら稜が見られる。高台は低い。内面口縁部直下には口縁形態を縁取るように2条の沈線、内底面と内面胴部にはヘラ描きの草花文が見られる。内外面共に明緑色釉を施釉する。外底面は蛇の目釉剥ぎされる。外面胴部の一部が施釉されていない。素地は灰白色で堅緻。内外面共に貫入が見られる。畳付には粘土塊が溶着する。	SW11	K9-97　SW11
第35図 図版7 96	皿 （八角皿）	口～底部	B-3	15.8 3.6 7.5	腰折れの八角皿か。高台は低く、厚い。内面口縁部直下にヘラ描きの雷文帯とその下部に雲文、内底面には印花文が見られる。内外面共に明緑色釉を施釉する。外底面は円状に釉剥ぎする。素地は灰白色で堅緻。	第2　K5　97 ＋　第2　0～10	K5-97　Ⅱ層 ＋　Ⅱ層

注「－」:計測不可

第2表　青磁観察一覧⑤

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	分類	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第35図 図版7 97	皿	口～底部	C-1	15.6 4.3 9.5	外反皿。2次的に火を受けているため、全体的に文様並びに釉調、胎土は不明瞭である。外底面は蛇の目状に釉剥ぎされる。内外面共に粗い貫入が見られる。素地は灰白色で堅緻。	不明	出土地不明
第35図 図版7 98	皿	底部	C-1	－ － 7.6	高台は低く、断面形状は台形となる。内底面には2条の圏線と印花文が見られる。内外面共に明緑色釉が施釉される。外底面は基本露胎となるが、一部、釉が見られる。素地は灰白色で堅緻。	K1 99　石組遺構内	K1-99　SW4
第35図 図版7 99	皿	底部	C-1	－ － 7.7	高台は低く、内傾する。胴部は膨らみを有する。内底面には圏線と印花文が見られる。内外面共にオリーブ灰色釉を施釉する。外底面は蛇の目状に釉剥ぎされる。素地は灰白色で堅緻。内外面共に粗い貫入が見られる。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第35図 図版7 100	皿	口～底部	C-2	13.6 3.75 8.0	無文外反皿。口縁部が僅かに肥厚する。内外面共に明黄褐色釉が施釉される。外底面は雑に施釉され、露胎となる。素地は灰色で粗い。内外面共に細かい貫入が見られる。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第35図 図版7 101	皿	口縁部	C-2	15.8 － －	外反皿で口縁部が玉縁状となる。内外面共に淡い青緑色釉を薄く施釉する。内面口縁部周辺は釉垂れが見られる。素地は灰白色でやや粗い。器表面には小孔が僅かに見られる。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第35図 図版7 102	皿	底部	C-2	－ － 8.2	高台は低く、内傾する。内底面には陽圏線と印花文が見られる。内外面共にオリーブ灰色釉を薄く施釉する。外底面と畳付は雑に施釉され、露胎となる。素地は灰白色でやや粗い。	第Ⅳ期基壇 化粧石下の試掘	試掘1
第35図 図版7 103	皿	底部	不明	－ － 5.1	高台は低く、高台内の内刳りは浅い。高台下部は斜めに面取りされる。内底面には陽圏線と不明瞭であるが印花文が見られる。内外面共に明緑色釉を施釉する。外底面は雑に施釉され、露胎となる。素地は灰白色でやや粗い。　内底面には粗砂粒が溶着する。	K1 102 踊り場断割	南踊り場　断割④
第35図 図版7 104	皿	底部	不明	－ － 7.6	高台は低く、ハの字状に開く。内底面に文様が見られるが、全体構成は不明。内外面共に淡青緑色釉を施釉する。高台内面から外底面にかけて露胎となるが、施釉は雑。素地は灰白色で緻密。内外面共に粗い貫入が見られる。	SW17	L2-96　SW17
第35図 図版7 105	皿	底部	不明	－ － 6.3	高台が低く、厚い。器壁は全体的に厚い。成形が雑で器表面にはかなり凹凸が見られる。内外面共に暗オリーブ色釉を薄く施釉する。畳付から外底面にかけて露胎となるが雑に施釉される。素地は灰色でやや粗い。碗の可能性もあり。	第1号　SW3 石組構内	K2-96　SW3
第36図 図版8 106	盤	口縁部	A-2	21.5 － －	口折れの盤で、胴部には鎬蓮弁文がみられる。口折れ部には稜が明瞭に見られる。内外面共に淡青緑色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で堅緻。口縁部の一部には2次的に火を受けたことによって器表面が変色している。	第2基壇　前面	Ⅱ期基壇　前面
第36図 図版8 107	盤	口縁部	A-1-a	25.0 － －	口折れの盤で口縁端部の折り上げは緩やか。内面胴部には幅広の蓮弁文が見られる。内外面共に明緑色釉を施釉する。素地は灰白色で堅緻。内外面共に2重貫入が見られる。	南の踊り場　東	南踊り場Ⅰ層
第36図 図版8 108	盤	口縁部	A-1-a	25.2 － －	口折れの盤で口縁端部の折り上げは急。内面胴部には6本一組の丸彫りによる蓮弁文が密に見られる。内外面共に明緑色釉を施釉する。素地は灰白色でやや粗い。外面胴部の一部が露胎となる。	SW17	L2-96　SW17
第36図 図版8 109	盤	口縁部	A-1-a	23.8 － －	口折れの盤。外面胴上部に圏線、内面胴部に丸彫りによる蓮弁文が見られる。内外面共にオリーブ灰色釉を施釉する。素地は灰白色で堅緻。	第1号　SW3　石組	K2-96　SW3
第36図 図版8 110	盤	口縁部	A-1-a	24.7 － －	口折れの無文盤で口縁端部の折り上げは急。内外面共にオリーブ灰色釉を施釉する。素地は灰白色で堅緻。器表面には小孔が僅かに見られる。	第1　SW3 石組遺構	K2-96　SW3
第36図 図版8 111	盤	口～底部	A-1-a	41.8 7.4 25.2	口折れの盤で口縁端部の折り上げは見られるが、明確ではなく玉縁状に肥厚させる程度である。高台は厚く内傾する。外面胴下部と胴上部に圏線が一条づつ、内面胴部には幅広の蓮弁文が見られる。内外面共に暗オリーブ灰色釉が施釉される。器表面には小孔が見られる。内外面共に細かい貫入が見られる。素地は灰白色で堅緻。	K1 96　石組	K1-96　SW9
第36図 図版8 112	盤	口縁部	A-1-b	23.3 － －	薄手の口折れ盤で口縁端部の断面形は三角形状となる。口縁部は稜花状となり、縁取るようにヘラ描きの沈線が1条見られる。内面胴部には幅広の蓮弁文が見られる。内外面共に暗オリーブ灰色釉を施釉する。素地は灰白色で堅緻。	Ⅰ期基壇　北側 翼石垣の覆土	Ⅱ期基壇 北側翼状　Ⅰ層
第36図 図版8 113	盤	口縁部	A-1-b	－ － －	口折れの盤で口縁端部は肥厚し、僅かに折り上げは見られる。内面胴部に幅広の蓮弁文が見られる。口縁部は稜花状となり、縁取るようにヘラ描きの沈線が1条みられる。内外面共にオリーブ灰色釉を施釉する。素地は灰白色で一部、褐色となり、堅緻。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第36図 図版8 114	盤	口縁部	A-2	－ － －	平縁の口折れ盤。内外面共に暗オリーブ灰色釉を施釉する。素地は灰白色で堅緻。	4基壇南壁外側 上層	南踊り場　断割⑤
第36図 図版8 115	盤	口縁部	A-2	－ － －	平縁の口折れ盤。鍔部に波状文が見られる。内外面共に明緑色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で堅緻。器表面は2次的に火を受けたことによって一部、変色している。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第36図 図版8 116	盤	口縁部	A-2	－ － －	平縁で厚手の口折れ盤。鍔部に唐草文が見られる。。内外面共に明緑色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で一部褐色となり、堅緻。内外面共に粗い貫入が見られる。	K1 96　石組	K1-96　SW9
第37図 図版9 117	盤	口縁部	A-2	34.2 － －	平縁で厚手の口折れ盤。内面胴部にヘラ描きで唐草文が見られる。内外面共にオリーブ灰色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で堅緻。	中央畦　断割トレ 2層東隅	中央観察畦② Ⅱ層
第37図 図版9 118	盤	口縁部	B	23.2 － －	口縁部が僅かに外反する盤。口唇部に刻み目文、外面胴部に圏線と3本単位の丸彫りされた蓮弁文が見られる。内外面共に明緑色釉を施釉する。素地は灰白色で堅緻。	南の踊り場東 表土層	南踊り場　Ⅰ層
第37図 図版9 119	盤	口縁部	B	22.3 － －	直口口縁の盤。口縁端部が玉縁状に肥厚する。外面胴部に丸彫りによる蓮弁文が見られる。内外面共にオリーブ灰色釉を施釉する。素地は灰白色で堅緻。	L0 94　下層断割 第3層	L0-94　Ⅲ層
第37図 図版9 120	盤	口縁部	B	－ － －	直口口縁の盤。口縁端部がくの字状に僅かに外反する。外面胴部には膨らみを有する蓮弁文が見られ、内面胴部に草花文と思われるヘラ描きが見られる。内外面共に暗オリーブ灰色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で堅緻。	L0 97　石組埋土 褐色砂層	L0-97　SW15 （褐色砂層）
第37図 図版9 121	盤	底部	A	－ － 10.9	高台は低く、高台内の内刳りは浅い。内底面には圏線内に印花文が、内面胴部には幅広の蓮弁文が見られる。暗オリーブ灰色の釉が内外面共に厚く施釉される。外底面は蛇の目状に釉が施される。素地は灰褐色で堅緻。外底面には輪トチンの痕跡が残る。	SW17	L2-96　SW17

注「－」:計測不可

第2表　青磁観察一覧⑥

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	分類	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第37図 図版9 122	盤	底部	A	－ － 14.5	高台は低く、断面形状は台形となる。内面胴部に丸彫りの蓮弁文が見られる。素地は灰白色で一部灰褐色となり、堅緻。内外面共に粗い貫入が見られる。	L1 東西トレンチ 断割 東隅最奥 石列区切内	L1 石列？
第37図 図版9 123	盤	底部	A	－ － 18.0	高台は低く、内径する。大振りで底部中央がやや盛り上がる。外底面には蓮華の印花文、外面胴部には丸彫りの蓮弁文が見られる。内外面共に暗オリーブ灰色釉を施釉する。外底面は蛇の目状に釉が施される。素地は灰白色で堅緻。外底面には輪トチンの痕跡が残る。内外面共に粗い貫入が見られる。	L0 94 下層断割 Ⅲ層	L0-94 Ⅲ層
第37図 図版9 124	盤	底部	B	－ － 10.4	高台は低く、高台内の内刳りは浅い。全体的に器壁は厚い。内底面に菊花の印花文と内面胴部に丸彫りによる蓮弁文が密に見られる。内外面共に明緑色釉を施釉する。素地は灰白色でやや粗い。畳付から外底面にかけて露胎となる。	第3層	Ⅲ層
第37図 図版9 125	盤	底部	B	－ － 9.4	薄手の盤。内面胴部に丸彫りによる蓮弁文が密に見られる。内外面共に暗オリーブ灰色釉を施釉する。外底面の釉は薄く施釉する。素地は灰白色でやや粗い。内外面共に粗い貫入が見られる。	第1号 SW3 石組構内	K2-96 SW3
第38図 図版10 126	壺 (酒会壺)	口縁部	A	25.8 － －	口縁部は内傾し、肩部の張りは緩やかである。外面胴部には陽刻の草花文が見られる。内外面共にオリーブ灰色釉を厚く施釉する。口唇部のみ露胎となる。	表 K6-98	K6-98 表採
第38図 図版10 127	壺 (酒会壺)	底部	A	－ － 16.0	底部から胴部へ立ち上がりは緩やか。外面胴下部には膨らみを有した幅広の剣先蓮弁文が見られる。内外面共に明緑色釉を施釉しており、外面高台下部から畳付にかけて露胎となる。素地は灰白色で堅緻。内面には粗砂が溶着している。内外面共に粗い貫入が見られる。	SW3のミゾ 遺構の覆土	K2-96 SW3
第38図 図版10 128	壺 (酒会壺)	底部	A	－ － 15.5	底部から胴部へ立ち上がりは緩やか。内面には底部の一部が残る。外面胴下部に鎬蓮弁文が見られる。内外面共にオリーブ灰色釉を施釉する。外面高台下部から畳付にかけて露胎となる。素地は灰白色で堅緻。	表土 撹乱	撹乱
第38図 図版10 129	壺 (酒会壺)	胴部	A	― ― ―	胴下部で膨らみを有した蓮弁文が見られる。弁内に櫛描きの沈線文が刻まれる。外面は明緑色釉、内面は淡青緑色を施釉する。素地は灰白色で堅緻。内外面共にかなり粗い貫入が見られる。	2層 黒色土混り 赤土層 K6 97～99	K6-97～99 Ⅱ層 (黒土混赤土層)
第38図 図版10 130	小壺	口縁部	－	5.4 － －	胴部が丸みを有する小壺で口縁部は直口する。内外面共に暗オリーブ灰色を施釉し、口唇部のみ露胎となる。内外面共に粗い貫入が見られる。素地は灰色で堅緻。	中央爆弾跡 K6 96 撹乱	爆弾跡②
第38図 図版10 131	蓋	端部	A-1	－ － 26.7	掛かりの無い鍔付きの蓋。端部はやや上方に反る。オリーブ灰色釉を外面と鍔部全体を施釉する。鍔の下部は釉垂れが見られる。貫入は甲部は粗く、鍔部は細かい。	L0 東西トレンチ 東隅より2番区石列内	石列2･3内
第38図 図版10 132	蓋	甲～端部	A-1	27.0 － 16.7	酒会壺の蓋。平縁で甲部にはヘラ描きの唐草文が見られる。暗オリーブ灰色釉を甲部から鍔上部にかけてと内面に施釉する。掛かりはやや内傾する。素地は灰白色で堅緻。	石組遺構内 X100 Y110	K0-99 SW4
第38図 図版10 133	蓋 (酒会壺)	甲部	A-1	－ － 17.5	酒会壺の蓋。甲部にはヘラ描きの蓮弁文が見られる。甲内面中央に印花文が見られる。外面は明緑色釉を甲部全体に、内面は淡青緑色釉を掛かり近くまで施釉する。素地は灰白色で堅緻。内面は器表面に小孔が僅かに見られる。	表 K6 95	K6-95 表採
第38図 図版10 134	蓋	甲～端部	A-2	20.5 － －	端部は下方へ折り、甲頂部へは緩やかに立ち上がる。甲外部には片切り彫りの蓮弁文が見られる。内外面共に明オリーブ灰色釉を施釉する。端部には釉溜まりが見られる。内外面共に細かい貫入が見られる。素地は灰白色で、一部褐色となる。堅緻。	K6.K7.94 第2層 赤土	K6･7-94 Ⅱ層 (赤土層)
第39図 図版11 135	瓶	口縁部	A	― ― ―	口縁部は大きく外反する。口唇部は尖り、浅い抉りが見られる。口縁部直下には膨らみを有した蓮弁文が見られる。内外面共に明緑色釉を施釉する。内面は2次的に火を受けており、器表面が変色している。	第74 柱穴	L1-93 柱穴74
第39図 図版11 136	瓶 (長頸瓶)	胴部	A	― ― ―	撫で肩で胴下部が最大径となる長頸瓶。内面には頸部と胴部の継ぎ目と段差が見られる。肩部にラマ式蓮弁文、胴部に草花文が見られる。素地は灰白色で堅緻。内外面共に明緑色釉を施釉する。素地は黄白色で堅緻。内面には細かい貫入が見られる。	表 L6 92	L6-92 表採
第39図 図版11 137	瓶	口縁部	B	9.3 － －	口縁端部の断面が三角形状に肥厚し、掛かりになる。内外面共に淡青緑色釉を施釉する。素地は灰色で堅緻。内面は2次的に火を受けており、器表面が一部変色している。	第2層 0～20 K2 97	K2-97 Ⅱ層
第39図 図版11 138	瓶	胴部	B	― ― ―	胴上部か。外面には陽刻の三葉文が見られる。裏面の胎は凹凸が見られることから型押し文か。内外面共にはオリーブ灰色釉を施釉している。素地は灰白色で堅緻。2次的に火を受けており、器表面が一部変色している。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第39図 図版11 139	瓶	胴部	B	― ― ―	外面には陽刻の文様が見られるが全体構成は不明。裏面の胎は凹凸が見られることから型押し文か。内外面共には明緑色釉を施釉している。素地は灰白色で堅緻。2次的に火を受けており、器表面が一部変色している。	第Ⅰ期基壇 中央階段跡	Ⅱ期基壇
第39図 図版11 140	瓶	底部	B	－ － 6.3	外面胴部にヘラ描きの蓮弁文が見られる。蓮弁は膨らみを有する。高台は厚く、畳付の幅は広い。胴中部から急に立ち上がる。内底面には轆轤回転痕が見られる。外面は明オリーブ灰色釉で、内面は淡青緑色釉を施釉する。素地は灰白色で堅緻。畳付には離れ砂と思われる砂粒が溶着する。	Ⅰ期基壇 階段跡	Ⅱ期基壇
第39図 図版11 141	瓶	底部	B	－ － 4.8	高台は低く、ハの字状に大きく開く。畳付は丸く収める。器壁は厚い。2次的に火を受けており、器表面が全体的に変色している。また、外面には不純物も多く溶着している。内面と畳付が露胎となる。素地は黄白色で堅緻。	SW3 覆土コーラル	K2-96 SW3
第39図 図版11 142	環	把手	－	― ― ―	如意頭を象った装飾が附属する環で、水注等の把手か。全体的に暗オリーブ灰色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で堅緻。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第39図 図版11 143	環	把手	－	― ― ―	断面径が7㎜の環。全体的にオリーブ灰色釉を施釉するが釉調に斑が見られる。素地は灰白色で堅緻。	Ⅰ期基壇	Ⅰ期基壇
第39図 図版11 144	香炉	口～底部	A	― ― ―	口縁部が内側へL字状に折れる。胴上部から下部にかけてには幅広の陽圏線が7条、胴中部には方形の区画が見られる。三足高台と思われる。内外面共に暗オリーブ灰色釉を施釉する。2次的に火を受けており、器表面が全体的に変色している。素地は灰白色で堅緻。内外面共に粗い貫入が見られる。	第2 K5 98	K5-98 Ⅱ層
第39図 図版11 145	香炉	口～底部	B	6.6 5.3 －	三足香炉。直口口縁で胴部も直線状に移行する筒型。高台は唐草文を象った逆三角形状となる。胴部は2条一組の圏線が見られる。外面から内面口縁部直下にかけて明緑色釉を厚く施釉する。内面胴部は明オリーブ灰色釉を薄く施釉する。高台下部と内外底面は露胎となる。素地は灰白色で堅緻。	2層 黒色土混り 赤土層 K6 95 96	K-95･96 Ⅱ層 (黒土混赤土層)

注「－」:計測不可

第2表　青磁観察一覧⑦

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	分類	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第39図 図版11 146	香炉	口縁部	B	13.5 － －	筒形の香炉。口縁部は内側へL字状に折れる。内外面共にはオリーブ灰色釉を薄く施釉する。口縁部周辺の施釉は雑で一部、露胎となる。素地が灰白色で堅緻。内外面共に貫入が見られる。	石組遺構内 X100 Y110	K0-99　SW4
第39図 図版11 147	鉢	口縁部	－	22.8 － －	直口口縁の鉢で口縁部には小さな抉りが見られる。胴部は緩やかな膨らみを有する。内外面胴部には筮書きの文様が見られる。簡略化した唐草文か。内外面共に明緑色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で堅緻。外面にかなり粗い貫入が見られる。	第Ⅰ期基壇　北側 石垣の翼状覆土	Ⅱ期基壇 北側翼状　Ⅰ層
第39図 図版11 148	鉢	口縁部	－	－ － －	直口口縁の鉢。厚手で内外面の口縁部直下には筮書きの文様が見られる。簡略化した唐草文か。内外面共に明オリーブ灰色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で堅緻。	SW10	K4-95　SW10
第39図 図版11 149	鉢	口縁部	－	－ － －	輪花鉢か。口縁部は直口するが、口縁端部が内側へ僅かに肥厚する。また、小さな抉りが見られる。3本一組の沈線で格子状に区画し、その内部に梅花文が見られる。内外面共に明緑色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で堅緻。	Ⅱ期基壇 南側の翼状石垣内	Ⅱ期基壇?
第39図 図版11 150	器台	口縁部	－	27.2 － －	器台の口縁部。口縁部は外側へL字状に外反する。胴部は膨らみを有し、口縁部直下には直径1cmの円形透かしが見られる。内外面共に明オリーブ灰色釉を厚く施釉する。素地は灰白色で堅緻。	表　L2　99	L2-99　表採
第39図 図版11 151	器台	胴部	－	－ － －	器台の透かし周辺部部分。全体的に厚みがあり、猪の目状の透かしになると思われる。透かしを縁取るようにヘラ描きによる沈線が、またその上部に2条一組の圏線が見られる。内外面共に明オリーブ灰色釉を施釉する。素地は灰白色で堅緻。	表土	表土
第39図 図版11 152	擂鉢	口縁部	－	－ － －	口縁部が僅かに外反する擂鉢。口縁端部が玉縁状に肥厚する。内面胴部には擂り目が密に見られる。内外面共に明オリーブ灰色釉を施釉する。内面胴中部から露胎となる。素地は灰白色で堅緻。	表　L3　95	L3-95　表採
第39図 図版11 153	擂鉢	口縁部	－	－ － －	口縁部が外側へ大きく肥厚する。口縁断面が三角形状になり、口唇部は僅かに窪む。内外面共に黄褐色釉を施釉する。口唇部が一部露胎となる。素地は褐色でやや粗い。	中央観察畦 第4層　赤色混り 暗褐色土層	中央観察畦①　Ⅳ 層(暗褐色土層)
第39図 図版11 154	駒	－	－	－ － －	象棋の駒。「兵」が駒面に刻まれる。暗オリーブ色釉が側面にのみ施釉する。素地は灰白色で堅緻。	不明	出土地不明
第39図 図版11 155	型物	底部	－	－ － －	蓮華で柄から皿にかけての部分か。オリーブ灰色釉を全体的に施釉する。皿の下部のみ露胎となる。素地は灰白色で堅緻。	K7 95　撹乱	K7-95　撹乱層

注「－」:計測不可

第3表　白磁集計表

分類	碗														
	A	B	B-1		B-2			C	C-1			C-2			
	口縁部	胴部	口縁部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部
個数	1	13	1	1	22	6	3	1	2	4	2	1	4	1	1

分類	碗									小碗					
	D				E			分類不明		A				B	
	口～底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部
個数	4	8	10	1	17	4	2	2	9	1	1	1	1	1	7

分類	小碗					杯								皿	
	C			E	分類不明	A		B	C		不明			A	
	口縁部	胴部	底部	底部	口縁部	口～底部	底部	底部	口～底部	口縁部	口～底部	口縁部	底部	口縁部	胴部
個数	30	7	9	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	2	4

分類	皿																
	B			C-1				C-2			D			D-1			
	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部
個数	12	7	2	4	20	10	14	1	1	3	27	6	7	3	3	1	6

分類	皿										壺			瓶か壺	
	D-2			E			不明								
	口～底部	口縁部	底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	胴部	底部
個数	1	1	1	1	2	1	1	11	16	2	12	28	8	54	2

分類	瓶		鉢		器種不明			合計
			A	B				
	口縁部	底部	胴部	口縁部	口縁部	胴部	底部	
個数	2	4	1	1	4	35	7	519

第4表　白磁観察一覧①

単位：cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	分類	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第40図 図版12 1	碗	口縁部	A	－ － －	玉縁白磁碗の口縁部。口縁部はやや大きめの玉縁となる。口縁部直下に陽圏線が見られる。器表面に小孔が多く確認できる。素地は灰白色で堅緻。釉薬はやや黄色味を帯びた失透明釉が施される。	L1　98　撹乱	L1-98　撹乱層
第40図 図版12 2	碗	口縁部	B-1	－ － －	口縁部が僅かに外反する碗で、口縁外面直下が僅かに窪む。口縁部直下に、外面は陽圏線、内面には陰圏線がそれぞれ1条見られる。素地は灰白色で堅緻。釉薬は淡灰白色の透明釉が施される。	表　K6　98	K6-98　表採
第40図 図版12 3	碗	口縁部	B-2	15.8 － －	無文外反碗。器表面には僅かに小孔が確認できる。素地は灰白色で堅緻、黒色の粗粒子が混入する。釉薬は透明釉が施される。内外面共に粗い貫入が見られる。	L1　東西トレンチ 断割　東隅 石列区切内	L1　石列？
第40図 図版12 4	碗	底部	B-2	－ － 5.8	畳付を広く水平に成形しており、高台内の抉りは雑である。高台と胴部との境は段を有する。胴下部まで淡灰白色の透明釉が施され、器表面には小孔と胎土塊が溶着しているのが確認される。内底面には陰圏線と印花文が見られる。素地は灰白色で堅緻。	SW17	L2-96　SW17
第40図 図版12 5	碗	底部	C-1	－ － 3.9	高台畳付の幅が狭く、高台断面が逆三角形状になる。器表面に小孔が多く確認でき、また2次的に火を受けたと思われる痕跡が見られる。釉薬は透明釉が施される。素地は灰白色で堅緻。	表　K6　98	K6-98　表採
第40図 図版12 6	碗	底部	C-1	－ － 6.7	やや大振りの碗か。畳付は水平に切られており、高台下部は斜めに成形される。外底面中央はやや盛り上がる。また、内底面と胴部との間は段が見られる。釉薬はやや青みを有した透明釉が施される。内外面共に黒色の斑点が見られることから2次的に火を受けたと思われる。素地は灰白色で堅緻。	Ⅰ期基壇の北側 翼石垣の覆土	Ⅱ期基壇 北側翼状　Ⅰ層
第40図 図版12 7	碗	口～底部	C-2	14.2 6.3 5.2	薄手の無文外反碗。底部は低く内傾し、胴部は大きく膨らむ。器表面は大小の孔が見られる。釉薬は失透明釉が施される。素地は灰白色で堅緻。	表　L6　96	L6-96　表採
第40図 図版12 8	碗	口～底部	D	14.1 4.2 5.6	薄手の直口碗。胴部から口縁にかけて大きく開く。高台は低く、成形はかなり雑、高台内の内繰りは浅い。丸に「德」の印が内底面中央に押されている。透明釉が口縁部から胴下部まで施される。焼成はやや悪く、素地はやや粗く陶質に近い。	SW13　円下部	L0-96　SW13
第40図 図版12 9	碗	口～底部	D	13.2 4.5 5.8	薄手の直口碗。胴部から口縁にかけて大きく開く。高台は低く、成形はかなり雑、高台内の内繰りは浅い。外面には轆轤成形痕が明瞭に確認できる。内底面は低い段を有して窪みが見られる。透明釉が口縁部から胴下部まで施される。焼成はやや悪く、素地はやや粗く陶質に近い。	表　L2　95	L2-95　表採
第40図 図版12 10	碗	口縁部	E	－ － －	直口碗で口唇部内側が僅かに肥厚する。素地は灰白色で堅緻。釉薬は淡灰白色の透明釉が施される。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第40図 図版12 11	小碗	底部	E	－ － 4.2	小碗の高台か。高台径は小さく、高台内の内繰りは浅い。外底面から外面胴部にかけて銅成分を含んだ不純物が器表面に溶着しているのが確認できる。素地は灰白色で堅緻。釉薬は淡灰白色の透明釉が施される。畳付から外底面にかけては露胎となる。	石組遺構内 X100～Y110	K0-99　SW4
第40図 図版12 12	碗	口縁部	分類不明	13.6 － －	口縁部がくの字状に折れる外反碗。胴部はあまり膨らみが見られない。内面の器表に小孔が確認できる。釉薬は淡青白色の透明釉で素地は堅緻である。	表　L4　101	L4-101　表採
第40図 図版12 13	杯	口縁部	C	7.7 － －	小杯。口縁部は大きく外反し、胴部は膨らみを有する。内外面共に器表に小孔が確認できる。釉薬は淡灰白色の透明釉で素地は灰白色で堅緻。	第Ⅳ期基壇 石化粧石下部試掘	試掘1
第40図 図版12 14	杯 (八角杯)	口～底部	A	7.8 3.5 3.1	八角杯。高台はハの字に開き、成形が雑。腰部が折れる。外面には粗い貫入が見られる。釉薬は淡灰白色の透明釉が施される。外面胴下部から外底面にかけて露胎となる。素地は灰白色で堅緻。	SW17	L2-96　SW17
第40図 図版12 15	小碗	口～底部	A	7.5 3.0～3.1 3.3	小碗。口縁部は直口し、胴部は膨らみを有して高台へ移行する。高台の成形はかなり雑。全体的が2次的に火を受けているためか、釉薬が白色に変色している。素地は灰白色でやや粗く、焼成は陶質に近い。	不明	出土地不明
第40図 図版12 16	杯 (八角杯)	底部	A	－ － 4.1	八角杯。高台には4カ所の抉りが入る。高台のつくりは雑で、胴部下部で折れて口縁部へ立ち上がる。内底面に目跡と思われる粘度塊が溶着している。全体的が2次的に火を受けているためか、釉薬が白色に変色している。素地は灰白色でやや粗く、焼成は陶質に近い。	表土　L3　103	L3-103　表土
第40図 図版12 17	小碗	口～底部	B	9.5 4.5 3.5	型作りの小碗。胴下部で折れ、口縁部にかけて大きく外反する。全体的に薄手である。外底面には「大明成化年製」の字款が呉須によって描かれる。釉薬は透明釉で、畳付のみ露胎となる。素地は白色で堅地である。	不明	出土地不明
第40図 図版12 18	杯	底部	B	－ － 4.7	小杯。高台は低く胴部は直線状に開く。外底面に「福」の字款が呉須で描かれる。本土産磁器、肥前系か。釉薬は透明雄で、畳付から高台外面にかけて露胎となる。素地は白色で堅地である。	SW2遺構内	K2-97　SW2
第40図 図版12 19	杯	口縁部	C	7.3 － －	小杯。全体的に薄手で口縁部は外反する。釉薬は透明釉で、素地は白色かつ堅地である。	かわや	かわや跡
第40図 図版12 20	杯	口～底部	分類不明	4.2 3.0 1.8	口縁部が外反する型作りの小杯。外面胴部に陽刻で蓮弁が刻まれる。釉薬は失透明釉が全面的に施される。素地は白色で堅地である。	表土　K1　100	K1-100　表土
第40図 図版12 21	皿	口縁部	分類不明	15.5 － －	口折れの皿か。口縁端部がくの字に外反して鍔となる。釉薬は失透明釉が施される。素地は白色で堅地である。内外面共、器表に黒色の斑点と気泡が見られることから2次的に火を受けたと思われる。	表　K6　98	K6-98　表採
第40図 図版12 22	碗	口縁部	C	－ － －	外反碗で、口縁部外面下部に3条一組の圏線が見られる。釉薬は失透明釉が施される。素地は密で黒色粗粒子が僅かに見られる。	表　L1　96	L1-96　表採
第41図 図版13 23	皿	口縁部	A	14.8 － －	口縁部は外反し胴部は膨らみを有する皿。素地は灰白色で堅緻。釉薬は淡灰白色の透明釉が施される。胴下部は露胎となる。器表面に小孔が僅かに見られる。	K4トレンチ 東西基本トレンチ 第2層コーラル層	K3-97・98 トレンチ3　Ⅱ層 (コーラル層)
第41図 図版13 24	皿	口縁部	B	15.1 － －	腰折れの外反皿。口縁部は肥厚する。素地は灰白色で堅緻。釉薬は淡灰白色の透明釉が施される。	第2期基壇　前面	Ⅱ期基壇　前面

注「－」：計測不可

第4表　白磁観察一覧②

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	分類	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第41図 図版13 25	皿	口～底部	C-1	12.4 2.6 5.1	無文外反皿。高台は低く、畳付は水平に切られる。釉薬は淡灰白色の透明釉が施される。内底面は蛇の目釉薬剥ぎされ、外面は胴下部から外底面にかけて露胎となる。素地は灰白色で堅緻。	不明	出土地不明
第41図 図版13 26	皿	胴部	B	－ － －	腰折れの皿で、内外の器表面に黒色の斑点と気泡が見られることから2次的に火を受けたと思われる。釉薬は被熱により変色しており、素地は灰白色で堅緻。	表　K1　95	K1-95　表採
第41図 図版13 27	皿	底部	B	－ － 8.5	高台は厚く、低い。高台内の内刳りは浅く、畳付は水平となる。内底面には陽圏線が1条見られ、内面胴部に粘土塊が溶着する。内外面共に粗い貫入が見られる。釉薬は淡灰白色の透明釉が施され、素地は灰白色で堅緻。	第2　L0-95	L0-95　Ⅱ層
第41図 図版13 28	皿	底部	C-1	－ － 4.6	高台は厚く、低い。畳付は水平で幅広となる。胴部は大きく開き、口縁部へ移行する。内外の器表面には小孔が多く見られる。釉薬は淡灰白色の失透明釉が施され、外面は高台下部から外底面にかけて、内面は内底面が蛇の目釉剥ぎがなされる。施釉は雑で外面に釉垂れが見られる。素地は灰白色で堅緻。	SW3のミゾ 遺構の覆土	K2-96　SW3
第41図 図版13 29	皿	口～底部	C-1	7.6 1.6 3.4	高台に抉りが入る直口皿。成形は全体的に粗く、内底面には重ね焼きの際の目跡や剥がし痕が見られ、畳付は水平に成形されない。内外の器表面には小孔が多く見られる。透明釉を全体的に施釉し、素地は灰白色で堅緻。	K3　96　SW3 第3号石組遺構	K2-96　SW3
第41図 図版13 30	皿	口～底部	C-2	9.9 2.3 3.8	薄手の直口皿。高台は低く、つくりは雑。釉薬は透明釉を施し、外面胴下部から外底面にかけて露胎となる。口縁の一部が2次的に火を受けたためか、黒色に変色している。内外面にかなり粗い貫入が見られる。素地は灰白色で堅緻。	SW13遺構	L0-96　SW13
第41図 図版13 31	皿	口縁部	C-2	9.4 － －	口縁部が玉縁状に肥厚する外反皿。釉薬は透明釉を内面胴部に鑿施している。細かい貫入が一部内面に見られる。素地は灰白色でやや粗い。沖縄産の可能性もあり。	SW2遺構内	K2-97　SW2
第41図 図版13 32	皿	底部	C-2	－ － 3.7	碁笥底状の高台となる皿。釉薬は淡灰白色の透明釉を施す。内底面は円形に釉剥ぎされ、外面は胴下部から外底面にかけて露胎となる。素地は灰白色でやや粗い。	第74柱穴	L1-93　柱穴74
第41図 図版13 33	皿	口～底部	D-1	13.8 2.9 7.0	外反口縁の皿で全体的に薄手である。高台は低く内径する。外面には小孔が多く見られ、内底面に粗砂粒が溶着している。釉薬は失透明釉薬を施し、高台下部から畳付にかけて露胎となる。素地は白色で堅緻。	SW13　円下部	L0-96　SW13
第41図 図版13 34	皿	口～底部	D-2	19.1 3.3 12.3	無文の外反皿。高台は低く、高台内は浅い。釉薬は失透明釉が施され、高台下部から畳付にかけて内外面共に粗い貫入が見られる。	不明	出土地不明
第41図 図版13 35	皿	口縁部	E	－ － －	薄手の外反皿。口縁部は鍔状となり、稜花を象る。釉薬は淡青白色の透明釉が施され、素地は灰白色で堅緻。	SW2遺構内	K2-97　SW2
第41図 図版13 36	皿	胴部	E	－ － －	大振りの皿。内面には劃花文が全体的に見られる。釉薬は透明釉が施される。内外面共に粗砂粒や銅粒などが溶着している。素地は淡黄白色でやや粗い。	L1　97　表土	L1-97　表土
第41図 図版13 37	壺	口縁部	－	7.1 － －	短頸の小壺。口縁部は横方向に突出し、断面形は三角形状となる。肩はやや張る。釉薬は灰白色の失透明釉を施し、口唇部のみ露胎となる。内面は轆轤成形痕が明瞭に見られる。素地は灰白色で緻密。	第2　K2　96	K2-96　Ⅱ層
第41図 図版13 38	瓶か壺	胴部	－	－ － －	やや厚手の壺の胴下部か。釉薬は淡青白色の失透明釉で、外面下半部が露胎となる。素地は灰白色でやや粗い。内外の器表面には小孔が見られる。	表　L2　96	L2-96　表採
第41図 図版13 39	壺	底部	－	－ － 7.1	厚手の壺底部。高台は低く、高台内の内刳りは浅い。畳付は水平に切られるが、幅は一定ではない。素地は灰白色で堅緻。釉薬は透明釉を内面全体に、外面は胴下部まで施す。外面は2次的に火を受けたためか露胎部全体に煤が付着する。	第2　K4-98	K4-98　Ⅱ層
第41図 図版13 40	壺	底部	－	－ － 5.6	小壺の底部。全体的に薄手で、胴部下部から立ち上がりは急である。文様は外面胴下部に如意頭状の線彫り渦巻文を横位に連続させる。高台内面に微砂粒が溶着する。釉薬は淡青白色の透明釉を施す。高台下部から畳付にかけて露胎となる。素地は灰白色で堅緻。	撹乱　L1･2　99	L1･2-99　撹乱層
第41図 図版13 41	器種不明	底部	－	－ － －	箱形の小物か。施釉は雑で器表面は凹凸が見られる。釉薬は失透明釉で、底部は露胎となる。素地は灰白色でやや粗い。	表　K5	表採

注 「－」:計測不可

第5表　青花集計表

分　類	碗				小碗				皿			
	口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部
個　数	26	408	388	151	2	47	25	45	17	42	22	53

分　類	小皿				小杯				盤			瓶	
	口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部
個　数	1	3	3	2	3	2	1	4	2	4	4	1	8

分　類	瓶				梅瓶			壺			小壷	鉢		
	頚部	胴部	底部	蓋	口～底部	胴部	蓋	口縁部	胴部	底部	口縁部	口縁部	胴部	底部
個　数	3	125	12	1	1	1	1	1	159	6	1	3	9	1

分　類	瓶か壺	水注			酒会壺		器種不明			合　計
	胴部	注口	胴部	底部	口～底部	蓋	口縁部	胴部	底部	
個　数	215	1	3	1	1	2	1	58	1	1871

第6表　青花観察一覧①

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第42図 図版14 1	碗	口～ 底	14.8 6.7 5.8	景徳鎮窯系。小野B1群。外面－波涛文、見込み－捻り花文。口縁端部に鉄錆。外面下半、砂付着。	K3 96	K3-96　表採
第42図 図版14 2	碗	底	－ － 5.7	景徳鎮窯系。小野B1群。外面・見込み－花枝文。	表土	表土
第42図 図版14 3	碗	口	12.4 － －	景徳鎮窯系。小野B1群。外面－牡丹唐草文。	SW13　円下部	L0-96 SW13
第42図 図版14 4	碗	口	14.7 － －	景徳鎮窯系。小野B1群。外面－波涛文。	表　L2 96	L2-96　表採
第42図 図版14 5	碗	口	13.3 － －	景徳鎮窯系。小野B1群。	L4 99　表土	L4-99　表土
第42図 図版14 6	碗	口	14.4 － －	景徳鎮窯系。小野B1群。外面－梵字文。	L1 98　撹乱	L1-98　撹乱層
第42図 図版14 7	碗	口	12.2 － －	景徳鎮窯系。小野B1群。外面－唐草文。	K3 96　第3石組 遺構内	K2-96 SW3
第42図 図版14 8	碗	口	－ － －	景徳鎮窯系。小野B1群。輪花形。外面－花芯文。	表　K9 96	K9-96　表採
第42図 図版14 9	碗	口～ 底	15.2 6.9 5.4	景徳鎮窯系。小野B1群。外面－鳥梅文、見込み－梅枝文。	SW13	L0-96 SW13
第42図 図版14 10	碗	口	19.3 － －	景徳鎮窯系。小野B1群。外面－牡丹唐草文。内面－花菱文、唐草文。	SW13 L1　95　断割	L1-96 SW13断割
第42図 図版14 11	碗	口	13.6 － －	景徳鎮窯系。小野B1群。外面－大振りな草花文。呉須がやや薄い。	表　L2 95	L2-95　表採
第42図 図版14 12	碗	口	15.0 － －	景徳鎮窯系。沖縄C´類。鍔縁口縁。	表　L1 97	L1-97　表採
第43図 図版15 13	碗	底	－ － 5.7	景徳鎮窯系。沖縄C´類。見込み－獅子文？。ハ字状高台。	SW13	L0-96 SW13
第43図 図版15 14	碗	口～ 底	14.3 6.2 5.2	景徳鎮窯系。森B2群？外面－鳳凰花文？、内面－花菱文、見込み－花芯文。外底字款方形不明。ペンシルドローイング。	表　K0 96	K0-96　表採
第43図 図版15 15	碗	口～ 底	15.2 － －	景徳鎮窯系。森B2群？外面－鳥雲文？、内面－花菱文。ダミ塗り。	SW13	L0-96 SW13
第43図 図版15 16	碗	口～ 底	11.7 6.25 5.4	景徳鎮窯系。森B3群。外面－鳥文？、見込み－小ぶりな不明文。ダミ塗り、ペンシルドローイング。	SW13	L0-96 SW13
第43図 図版15 17	碗	口～ 底	9.2 4.8 4.3	景徳鎮窯系。森B3群。外面－鳥文？、見込み－小ぶりな不明文。ペンシルドローイング。高台砂付着。	Ⅰ期基壇の 北側石垣の覆土	Ⅱ期基壇 北側翼状　Ⅰ層
第43図 図版15 18	碗	口～ 底	10.2 5.5 5.0	景徳鎮窯系。森B3群。外面－花鳥風水文？、見込み－花芯文。ダミ塗り、ペンシルドローイング。外底字款、二重圏線内「上品隹器？」。	SW13	L0-96 SW13
第43図 図版15 19	碗	口～ 底	12.2 6.4 5.6	景徳鎮窯系。森B3群。外面－喜字文、見込み－卍文。ダミ塗り、ペンシルドローイング。	SW13	L0-96 SW13
第43図 図版15 20	碗	口	11.3 － －	景徳鎮窯系。森B3群。ダミ塗り、ペンシルドローイング。	表　K0 96	K0-96　表採

注 「－」:計測不可

第6表　青花観察一覧②

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第43図 図版15 21	碗	口	10.8 － －	景徳鎮窯系。森B3群。外面－花枝文。ペンシルドローイング。	表土	表土
第44図 図版16 22	碗	口	10.4 － －	景徳鎮窯系。森B3群。外面－花枝文。ペンシルドローイング。	SW13	L0-96 SW13
第44図 図版16 23	碗	底	－ － 5.6	景徳鎮窯系。森B3群。ダミ塗り、ペンシルドローイング。外底二重圏線。	表土　K1 100	K1-100　表土
第44図 図版16 24	碗	口	11.6 － －	景徳鎮窯系(清代)？直口。外面－花芯文。	北側壁面	Ⅱ期基壇 北側翼状　？
第44図 図版16 25	碗	口～ 底	9.85 5.4 4.0	景徳鎮窯系(清代)。直口。外面－梵字文、三角文。ダミ塗り、ペンシルドローイング。外底二重圏線。	SW13	L0-96 SW13
第44図 図版16 26	碗	口～ 底	12.2 6.2 5.2	景徳鎮窯系。小野B1群か。見込み－鳥文。	南踊り場 Ⅴ期基壇	Ⅶ期基壇 南踊り場
第44図 図版16 27	碗	底	－ － －	景徳鎮窯系。小野C群。外面－蕉葉文。	不明	出土地不明
第44図 図版16 28	碗	口～ 底	12.8 6.35 5.8	景徳鎮窯系。小野D群。胎土灰白色。外面－粗雑なアラベスク風文。	SW13	L0-96 SW13
第44図 図版16 29	碗	口	14.0 － －	景徳鎮窯系。小野D群。外面－アラベスク風文。	SW13　下部	L0-96　SW13
第44図 図版16 30	碗	口	12.0 － －	景徳鎮窯系。小野D群。呉須が滲む。	SW13	L0-96　SW13
第44図 図版16 31	碗	底	－ － 5.8	景徳鎮窯系。小野D群。見込み－やや粗雑な十字文。	K3 96 3号石組遺構内 SW3遺構	K2-96 SW3
第44図 図版16 32	碗	口～ 底	12.4 6.05 5.4	景徳鎮窯系(清代)？直口。外面・見込み－太目のタッチによる不明文。	表　K0 96	K0-96　表採
第44図 図版16 33	碗	口～ 底	－ 7.1 －	景徳鎮窯系。直口。外面・見込み－縁取りによる草花文。薄い呉須、ダミ塗り、ペンシルドローイング。	SW13	L0-96 SW13
第44図 図版16 34	碗	口	14.3 － －	景徳鎮窯系。直口。外面－渦文、牡丹唐草文。	Ⅳ期基壇 化粧石前プール	SP3
第44図 図版16 35	碗	口	13.4 － －	景徳鎮窯系。直口。外面－雷文、唐草文。内面－牡丹唐草文。繊細なタッチのダミ塗り、ペンシルドローイング。	SW1　遺構内	K2-98・99　SW1
第44図 図版16 36	碗	口	12.3 － －	景徳鎮窯系。直口。外面－魚文。ダミ塗り、ペンシルドローイング。	SW13　下部	L0-96　SW13
第44図 図版16 37	碗	口	13.8 － －	景徳鎮窯系。直口。ペンシルドローイング。	SW13	L0-96 SW13
第45図 図版17 38	碗	口	12.5 － －	景徳鎮窯系。直口。ダミ塗り、ペンシルドローイング。	SW13　下部	L0-96　SW13
第45図 図版17 39	碗	口	10.8 － －	景徳鎮窯系。直口。ダミ塗り、ペンシルドローイング。	L0 96　石組 遺構内下部	L0-96　SW13
第45図 図版17 40	碗	口	12.5 － －	景徳鎮窯系(清代)？直口。ダミ塗り。	北側壁面	Ⅱ期基壇 北側翼状　？

注 「－」:計測不可

第6表　青花観察一覧③

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第45図 図版17 41	碗	口	12.2 － －	景徳鎮窯系(清代)？直口。ペンシルドローイング。	北壁面	Ⅱ期基壇 北側翼状　？
第45図 図版17 42	小碗	口	8.0 － －	景徳鎮窯系。直口。筒形。ダミ塗り、ペンシルドローイング。	表　K10 92	K10-92　表採
第45図 図版17 43	小碗	口	8.0 － －	景徳鎮窯系。直口。ペンシルドローイング。	表	表採
第45図 図版17 44	碗	口	12.7 － －	景徳鎮窯系。直口。ダミ塗り。	表　L2 100	L2-100　表採
第45図 図版17 45	碗	底	－ － 6.8	景徳鎮窯系。小野B1群。外面・見込み－やや小ぶりの牡丹唐草文。	第Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第45図 図版17 46	碗	底	－ － 5.8	景徳鎮窯系。小野C群。外面－渦文、見込み－花芯文。	不明	出土地不明
第45図 図版17 47	碗	底	－ － 5.0	景徳鎮窯系。小野B1群か。高台内傾。見込み－蔓状の草花文？	表土	表土
第45図 図版17 48	碗	底	－ － 5.8	景徳鎮窯系。小野B1群か。外面－雷文、見込み－ラマ式蓮弁内に不明字？	L1　97 石列覆土	L1-97　石列？
第45図 図版17 49	碗	底	－ － 6.2	景徳鎮窯系。見込み－草文？	表　L1　96	L1-96　表採
第45図 図版17 50	碗	底	－ － 4.6	景徳鎮窯系。外面・見込み－草文？	L1 98	L1-98　表採
第45図 図版17 51	碗	底	－ － 4.0	景徳鎮窯系。外面・見込み－草文？	表　L1 97	L1-97　表採
第45図 図版17 52	碗	底	－ － 4.3	景徳鎮窯系。見込み－藻文。	表　L1 97	L1-97　表採
第45図 図版17 53	碗	底	－ － 7.0	景徳鎮窯系。見込み－花芯文。	L1 97　表土	L1-97　表土
第45図 図版17 54	碗	底	－ － 5.4	漳州窯系？外底無釉。胎土橙色。見込み－太く粗雑な花芯文。	不明	出土地不明
第45図 図版17 55	碗	底	－ － 5.8	景徳鎮窯系。外面－ラマ式蓮弁文、見込み－不明。	表　K9 98	K9-98　表採
第46図 図版18 56	碗	底	－ － 4.6	景徳鎮窯系。小野E群。外面－草花文、見込み－花弁文？。	K3　96　3号 石組遺構内 SW3遺構	K2-96 SW3
第46図 図版18 57	碗	底	－ － －	景徳鎮窯系。小野B1群？	第2　K9 92	K9-92　Ⅱ層
第46図 図版18 58	碗	底	－ － 6.6	景徳鎮窯系。小野B1群？	表　L0 95	L0-95　表採
第46図 図版18 59	碗	口～ 底	11.6 7.05～7.1 5.4	景徳鎮窯系。鍔縁口縁。いわゆる芙蓉手タイプ。被熱痕。見込みが61・52より広めと思われる。	第2　K4 K5 98 99	K4・5-98・99 Ⅱ層
第46図 図版18 60	碗	口	13.2 － －	景徳鎮窯系。鍔縁口縁。いわゆる芙蓉手タイプ。外面－風景文。文様は59より写実的。	SW13	L0-96 SW13

注 「－」:計測不可

第6表　青花観察一覧④

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第46図 図版18 61	碗	口	12.1 － －	景徳鎮窯系。鍔縁口縁。いわゆる芙蓉手タイプ。被熱痕。	第2　K4 98	K4-98　Ⅱ層
第46図 図版18 62	碗	底	－ － 4.9	景徳鎮窯系。鍔縁口縁、いわゆる芙蓉手タイプと思われる。被熱痕。	K5 97　撹乱層	K5-97　撹乱層
第46図 図版18 63	碗	口	－ － －	景徳鎮窯系。森B3群？外面－大振りの菊花文か。ダミ塗り。	L5 98　撹乱	L5-98　撹乱層
第46図 図版18 64	碗	底	－ － 6.1	景徳鎮窯系。森B3群？、63と同タイプか。見込み－大振りの菊花文。字款双魚文。ダミ塗り。	表　L3 101	L3-101　表採
第46図 図版18 65	碗	口～ 底	16.4 6.15 8.2	漳州窯系。胎土－灰白色、釉－灰色、底部より上半。外面－粗雑な横帯文。	表　K0 96	K0-96　表採
第46図 図版18 66	碗	口～ 底	15.0 5.7 6.3	漳州窯系。胎土－灰色、釉－灰白色、底部より上半。外面－粗雑な横帯文。	表　K0 96	K0-96　表採
第46図 図版18 67	碗	口～ 底	15.6 6.5 7.7	漳州窯系。胎土－黄灰色、釉－灰白色、底部より上半。外面－粗雑な横帯文。	表　K2 96	K2-96　表採
第46図 図版18 68	碗	口～ 底	14.4 5.0 5.8	景徳鎮窯系。直口。小野C群。外面・見込み－連点文。	表　L2 95	L2-95　表採
第46図 図版18 69	碗	口～ 底	15.1 6.1 6.8	漳州窯系。胎土－橙色、釉－灰色。圏線のみ。	表　L2 96	L2-96　表採
第46図 図版18 70	碗	口	15.4 － －	漳州窯系。胎土－灰白色、釉－灰色。	L0 97　石組埋土 褐色砂層	L0-97　SW15 （褐色砂層）
第46図 図版18 71	碗	口	14.6 － －	漳州窯系。胎土－灰白色、釉－灰色。外面－粗雑な横帯文。	SW13	L0-96 SW13
第46図 図版18 72	碗	口	12.4 － －	漳州窯系。胎土－灰白色、釉－灰色。外面－粗雑な横帯文。	SW13	L0-96 SW13
第46図 図版18 73	碗	口	13.0 － －	漳州窯系。胎土－灰白色、釉－灰色。外面－不明な十字状文。	井戸状石組遺構 外　東側グリット	L0-97　SW13？
第47図 図版19 74	碗	底	－ － 6.7	漳州窯系。胎土－灰白色、釉－灰色、底部より上半。外面－粗雑な横帯文。被熱痕？	表　K0 96	K0-96　表採
第47図 図版19 75	碗	底	－ － 6.6	漳州窯系。胎土－灰白色、釉－灰色、底部より上半。	SW13　円下部	L0-96　SW13
第47図 図版19 76	碗	口	14.3 － －	福建・広東系。端反。釉－底部より上半。口縁端部に鉄錆。	第2　K4 98	K4-98　Ⅱ層
第47図 図版19 77	碗	口	－ － －	福建・広東系。端反。	K96　柱内 石組遺構内	K2-96　SW9
第47図 図版19 78	碗	口	－ － －	福建・広東系。直口。釉－底部より上半。外面－大振りの花弁文。	L1 95(大)土坑内	L1-95　土坑1
第47図 図版19 79	碗	口	－ － －	福建・広東系。直口。	中央爆弾跡 K6 96　撹乱	爆弾跡②
第47図 図版19 80	碗	底	－ － 8.8	福建・広東系。見込み－蛇の目釉剥ぎ。	K4 97　撹乱	K4-97　撹乱層

注 「－」:計測不可

第6表　青花観察一覧⑤

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第47図 図版19 81	碗	口～ 底	12.8 5.7 6.6	徳化窯系。端反。外面－草花文。	表　K0 96	K0-96　表採
第47図 図版19 82	碗	口～ 底	12.4 5.45 6.5	景徳鎮窯系(清代)？端反。外面－鳳凰？龍？文。	表　K0 95	K0-95　表採
第47図 図版19 83	碗	口～ 底	15.3 6.1～6.3 7.7	徳化窯系。見込み－蛇の目釉剥ぎ。外面－円文。	表　K0 95	K0-95　表採
第47図 図版19 84	碗	口～ 底	14.2 6.2 5.9	漳州窯系。見込み－蛇の目釉剥ぎ。外面－不明文。	表　L2 96	L2-96　表採
第47図 図版19 85	碗	口	11.7 － －	徳化窯系。端反。外面－草花文。	かわや跡の 覆土中	かわや跡　Ⅰ層
第47図 図版19 86	碗	口	－ － －	景徳鎮窯系(清代)。端反。外面－雲？文。	表　L0 98	L0-98　表採
第47図 図版19 87	碗	口	－ － －	福建・広東系？鍔縁口縁。胎土－灰白色、釉－灰色。	表　L6 96	L6-96　表採
第47図 図版19 88	碗	口	－ － －	景徳鎮窯系(清代)。直口。外面－円文。	表　L4 100	L4-100　表採
第47図 図版19 89	碗	底	－ － －	徳化窯系。端反。外面－蛸唐草文。	表　L2 98	L2-98　表採
第47図 図版19 90	碗	底	－ － 6.6	徳化窯系。	L5 98　グリッド カワヤ跡の覆土	L5-98 かわや跡　覆土
第47図 図版19 91	碗	底	－ － 7.0	徳化窯系。見込み－蛇の目釉剥ぎ。高台砂付着。	表　L4 100	L4-100　表採
第47図 図版19 92	碗	口	－ － －	景徳鎮窯系(清代)。端反。外面－牡丹唐草文。	L1 98	L1-98　表採
第47図 図版19 93	碗	底	－ － 4.6	景徳鎮窯系。ペンシルドローイング。	第2　K6 97	K6-97　Ⅱ層
第47図 図版19 94	碗	底	－ － 6.2	徳化窯系。字款「王」？	北側壁面	Ⅱ期基壇 北側翼状　？
第47図 図版19 95	碗	底	－ － 6.1	景徳鎮窯系。	L1 98	L1-98　表採
第48図 図版20 96	小碗	口～ 底	9.4 5.1 3.9	景徳鎮窯系(明末清初？)。外面－風景人物文。字款「大明成化年製」。	出土地不明	出土地不明
第48図 図版20 97	小碗	口	6.6 － －	景徳鎮窯系。外面－雷文。	K9 K10 100 第2基壇 正面礫層中	K9・10-100 Ⅱ期基壇 正面礫層中
第48図 図版20 98	碗	底	－ － 4.6	景徳鎮窯系。	L0 96　石組 遺構内下部	L0-96　SW13
第48図 図版20 99	碗	底	－ － 4.0	景徳鎮窯系。小野B1群？底部凹む。	K3 96　第3 石組遺構内	K2-96 SW3
第48図 図版20 100	碗	底	－ － 4.4	景徳鎮窯系。字款「嘉靖？」。	第2層　L1 99	L1-99　Ⅱ層

注　「－」:計測不可

第6表　青花観察一覧⑥

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第48図 図版20 101	碗	底	― ― ―	景徳鎮窯系。字款「宣(徳)年(製)？」。ペンシルドローイング。ダミ塗り。	表土　L0 101	L0-101　表土
第48図 図版20 102	小杯	底	― ― 3.5	景徳鎮窯系？字款不明。	表　L3 104	L3-104　表採
第48図 図版20 103	碗	口	6.6 ― ―	景徳鎮窯系(清代)？直口。	L1 98	L1-98　表採
第48図 図版20 104	碗	底	― ― ―	景徳鎮窯系(清代)？	表土　L2 104	L2-104　表土
第48図 図版20 105	碗	底	― ― ―	景徳鎮窯系。ペンシルドローイング。ダミ塗り。	第2　K9 94	K9-94　Ⅱ層
第48図 図版20 106	碗	口	― ― ―	景徳鎮窯系(清代)？端反。外面－渦文。	第2　K5 92	K5-92　Ⅱ層
第48図 図版20 107	碗	口	― ― ―	景徳鎮窯系。	表土　L1 100	L1-100　表土
第48図 図版20 108	小碗	口～ 底	9.6 5.0～5.1 5.1	景徳鎮窯系(清代？)。ダミ塗り。	北側壁面	Ⅱ期基壇 北側翼状　？
第48図 図版20 109	小碗	底	― ― 5.2	景徳鎮窯系(清代)。ダミ塗り。	K3 96　石組 第2号遺構内 SW3	K2-96　SW3
第48図 図版20 110	小碗	口	― ― ―	景徳鎮窯系(清代)。ダミ塗り。	表　L4 100	L4-100　表採
第48図 図版20 111	小碗	口	6.6 ― ―	漳州窯系？胎土・釉－灰色。外面－花弁文。	表土　L1 101	L1-101　表土
第48図 図版20 112	小碗	口	― ― ―	景徳鎮窯系(清代)。外面－梵字文。	表　L3 96	L3-96　表採
第48図 図版20 113	小碗	底	― ― 4.5	景徳鎮窯系(清代)。外面－梵字文。字款不明4字。	表　L2 101	L2-101　表採
第48図 図版20 114	小碗	底	― ― 3.5	景徳鎮窯系(清代？)。外面・見込み－不明文。字款不明4字。	表　L5 98	L5-98　表採
第49図 図版21 115	小碗	底	― ― 5.7	景徳鎮窯系(清代？)。外面・見込み－不明文。字款不明1字。	北側壁面	Ⅱ期基壇 北側翼状　？
第49図 図版21 116	小碗	口	9.8 ― ―	景徳鎮窯系(清代？)。ペンシルドローイング。	表土　L1 104	L1-104　表土
第49図 図版21 117	小碗	底	― ― 4.5	景徳鎮窯系(清代？)。ペンシルドローイング。字款不明。	南側	Ⅶ期基壇 南踊り場　階段
第49図 図版21 118	小碗	底	― ― 3.9	景徳鎮窯系(清代？)。外面－蔓唐草文。字款不明1字。	南側	Ⅶ期基壇 南踊り場　階段
第49図 図版21 119	小碗	口	― ― ―	景徳鎮窯系(清代？)。ペンシルドローイング。	L1 98	L1-98　表採
第49図 図版21 120	小碗	底	― ― 4.2	景徳鎮窯系(清代？)。見込み－草文。字款不明1字。	表　K0 101	K0-101　表採

注 「―」:計測不可

第6表　青花観察一覧⑦

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第49図 図版21 121	小碗	底	ー ー 4.0	景徳鎮窯系(清代？)。見込みー草文。字款不明1字。	出土地不明	出土地不明
第49図 図版21 122	小碗	底	ー ー 5.5	徳化窯系。見込みー3点(∴)。字款不明1字。	北側壁面	Ⅱ期基壇 北側翼状　？
第49図 図版21 123	小碗	底	ー ー 4.1	景徳鎮窯系(清代)。ダミ塗り。	表土　L4 100	L4-100　表土
第49図 図版21 124	小碗	底	ー ー 2.7	景徳鎮窯系。見込みー花枝文。	表　L3 103	L3-103　表採
第49図 図版21 125	小杯	底	ー ー 2.1	景徳鎮窯系(清代)。字款不明1字。	SW13　下部	L0-96　SW13
第49図 図版21 126	小杯	口	ー ー ー	景徳鎮窯系(清代)。口縁端部鉄錆。	表　L1 102	L1-102　表採
第49図 図版21 127	小杯	底	ー ー 1.6	景徳鎮窯系(清代)。外面ー連点文。	表　K2 104	K2-104　表採
第49図 図版21 128	小杯	口～ 底	4.4 2.55 2.0	景徳鎮窯系(清代)。口縁端部鉄錆。高台砂付着。	表　L1 93	L1-93　表採
第49図 図版21 129	皿	口～ 底	11.9 2.6 7.0	景徳鎮窯系。小野B1群。外面ー唐草文。見込みー玉取獅子文。	SW13	L0-96 SW13
第49図 図版21 130	皿	口～ 底	13.3 2.4 8.2	景徳鎮窯系。小野E群。内面ー花菱文。	第2　K10 96	K10-96　Ⅱ層
第49図 図版21 131	皿	口～ 底	15.6 2.85 9.3	景徳鎮窯系。小野B1群。見込みー太いタッチの不明文。	K1　99　試掘 第Ⅰ層瓦礫層	K1-99　SP2
第49図 図版21 132	皿	底	ー ー 7.2	景徳鎮窯系。小野B1群。外面ー唐草文。見込みー波涛文。	Ⅱ期基壇 東方のミゾ	Ⅲ期基壇
第49図 図版21 133	皿	底	ー ー 8.2	景徳鎮窯系。小野B1群。見込みー草花文。	表　K5 98	K5-98　表採
第49図 図版21 134	皿	底	ー ー 11.1	景徳鎮窯系。小野B1群。見込みー玉取獅子文？呉須滲む。	第3基壇と③横 石垣の間	南踊り場　断割①
第49図 図版21 135	皿	口～ 底	9.8 2.4 2.6	景徳鎮窯系。小野C群。見込みー菊花文。	表　L0　100	L0-100　表採
第50図 図版22 136	皿	口～ 底	9.6 2.2 5.4	景徳鎮窯系。小野C群。	S60	出土地不明
第50図 図版22 137	皿	口	10.1 ー ー	景徳鎮窯系。小野C群。	表土	表土
第50図 図版22 138	皿	底	ー ー 3.4	景徳鎮窯系。小野C群。	表　K10 101	K10-101　表採
第50図 図版22 139	皿	口～ 底	8.0 1.7 5.2	景徳鎮窯系。小野C群。通例より小ぶりだが、底部は広い。内面に花弁状の凹みあり。底部砂付着。	不明	出土地不明
第50図 図版22 140	皿	底	ー ー 5.9	景徳鎮窯系。小野C群。通例よりも大振りで、外反口縁の可能性。	Ⅳ期基壇	Ⅵ期基壇

注 「ー」:計測不可

第6表　青花観察一覧⑧

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第50図 図版22 141	皿	口～ 底	11.8 3.5 5.5	景徳鎮窯系。上田A－Ⅲ類。外面－退化した唐草文、見込み－寿字文。底部に砂付着。	K3 96　3号 石組遺構内 SW3遺構	K2-96 SW3
第50図 図版22 142	皿	口～ 底	10.4 2.4 5.7	景徳鎮窯系。上田A－Ⅲ類。内面－花菱文、見込み－草花文。	SW13	L0-96 SW13
第50図 図版22 143	皿	口	10.7 － －	景徳鎮窯系。上田A－Ⅲ類。内面－退化した花菱文。	L0 98 第1コーラル	L0-98　Ⅰ層 (コーラル層)
第50図 図版22 144	皿	口～ 底	13.7 3.2～3.3 7.3	景徳鎮窯系。上田A－Ⅲ類。輪花形。内面－花弁文2段、見込み－風景文。	K0 96	K0-96　表採
第50図 図版22 145	皿	口	24.95 － －	漳州窯系？森F群粗製。胎土－橙色、釉－灰色。内面－粗雑な波涛文。	表　K4 96	K4-96　表採
第50図 図版22 146	皿	底	－ － 10.6	景徳鎮窯系。森F群。見込み－花鳥岩文。高台砂付着。	SW17	L2-96　SW17
第51図 図版23 147	皿	底	－ － 5.8	景徳鎮窯系。ダミ塗り。	北側壁面	Ⅱ期基壇 北側翼状　？
第51図 図版23 148	皿	底	－ － 9.9	景徳鎮窯系。ペンシルドローイング。ダミ塗り。	北側壁面	Ⅱ期基壇 北側翼状　？
第51図 図版23 149	皿	口	－ － －	徳化窯系。	表　L2 96	L2-96　表採
第51図 図版23 150	皿	底	－ － 7.2	景徳鎮窯系。ペンシルドローイング。ダミ塗り。高台砂付着。	表　L2 96	L2-96　表採
第51図 図版23 151	皿	底	－ － 6.1	景徳鎮窯系。ペンシルドローイング。ダミ塗り。字款不明1字。畳付鉄銹。	表　K0 95	K0-95　表採
第51図 図版23 152	皿	底	－ － 11.0	景徳鎮窯系(清代)？ダミ塗り。高台砂付着。	表　K0 96	K0-96　表採
第51図 図版23 153	皿	口～ 底	15.9 2.5 9.0	景徳鎮窯系(清代)？畳付鉄銹。	表土　L4 104	L4-104　表土
第51図 図版23 154	皿	口	15.4 － －	徳化窯系。	表　L5 98	L5-98　表採
第51図 図版23 155	小皿	底	－ － 5.45	徳化窯系。外底無釉。	L1 98　撹乱	L1-98　撹乱層
第51図 図版23 156	小皿	口	22.8 － －	景徳鎮窯系(清代)？被熱痕。	S60	出土地不明
第51図 図版23 157	盤	口	－ － －	景徳鎮窯系。いわゆる鍔皿。口縁－渦文。外面－花弁状の凹み。	石灰岩　K8 100	Ⅲ期基壇
第51図 図版23 158	瓶	底	－ － 3.7	景徳鎮窯系。高台が六角もしくは八角。被熱痕。	第2　K2 96	K2-96　Ⅱ層
第51図 図版23 159	鉢	口	－ － －	福建・広東系。	第2　K2 96	K2-96　Ⅱ層
第51図 図版23 160	鉢	底	－ － 12.6	福建・広東系。見込み蛇の目釉剥ぎ。	北側壁面	Ⅱ期基壇 北側翼状　？

注 「－」:計測不可

第6表　青花観察一覧⑨

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第51図 図版23 161	小壺	口	5.15 － －	景徳鎮窯系。外面－やや粗雑な牡丹唐草文。	表　L2 95	L2-95　表採
第51図 図版23 162	梅瓶	胴	－ － －	景徳鎮窯系。	K1 102 踊り場断割	南踊り場　断割④
第51図 図版23 163	瓶	口	6.0 － －	景徳鎮窯系。玉壺春瓶。	表　L4 101	L4-101　表採
第51図 図版23 164	瓶	口	5.4 － －	景徳鎮窯系。玉壺春瓶。	第2　K10 95	K10-95　Ⅱ層
第51図 図版23 165	小皿	口	－ － －	景徳鎮窯系。唐草文から元様式の可能性。ベタ底状の皿か。	SW13　上部	L0-96 SW13　上
第51図 図版23 166	瓶	頚	－ － －	景徳鎮窯系。玉壺春瓶。頚部－蕉葉文、胴部－ラマ式蓮弁文。	第2層　90-100	Ⅱ層
第52図 図版24 167	瓶	頚	－ － －	景徳鎮窯系。玉壺春瓶。頚部－花菱文。	SW2 K3 96	K2-97　SW2
第52図 図版24 168	瓶	頚	－ － －	景徳鎮窯系。玉壺春瓶。	SW13　円下部	L0-96　SW13
第52図 図版24 169	瓶	胴	－ － －	景徳鎮窯系。瓢形。	表土　L6 92	L6-92　表土
第52図 図版24 170	瓶	底	－ － 6.9	景徳鎮窯系。玉壺春瓶。胴部－牡丹唐草文、渦文。	SW13	L0-96 SW13
第52図 図版24 171	瓶	底	－ － 6.2	景徳鎮窯系(清代)？	L1 98　撹乱	L1-98　撹乱層
第52図 図版24 172	瓶	底	－ － 5.0	徳化窯系？	K1 96 石組遺構内	K1-96 SW9
第52図 図版24 173	瓶	底	－ － 5.4	景徳鎮窯系。外底無釉。	表　L2 95	L2-95　表採
第52図 図版24 174	水注	注口	－ － －	景徳鎮窯系。急須形か？被熱痕。	第2　K6 75	Ⅱ層
第52図 図版24 175	水注	胴	－ － －	景徳鎮窯系。胴部－牡丹唐草文。	第Ⅰ層 コーラル層 94 K9 K10	K9･10-94　Ⅰ層 (コーラル層)
第52図 図版24 176	水注	底	－ － 8.7	景徳鎮窯系。胴部－窓の表現に花枝文。外底砂付着。	K3　96　3号 石組遺構内 SW遺構	K2-96 SW3
第52図 図版24 177	鉢	口	－ － －	景徳鎮窯系。外面－波涛文。	表土　L1 102	L1-102　表土
第52図 図版24 178	酒会壺	蓋	庇　25.4 器高 9.5 袴　17.0 撮み 5.0	景徳鎮窯系。牡丹唐草文。	Ⅰ期基壇の畦	Ⅱ期基壇
第52図 図版24 179	酒会壺	口～ 底	19.8 32.85 18.7	景徳鎮窯系。口縁の唐草文から元様式の可能性あり。	Ⅰ期基壇の畦	Ⅱ期基壇
第53図 図版25 180	梅瓶	蓋	庇　8.8 器高 7.5 撮み 2.2	景徳鎮窯系。唐草文。	不明	出土地不明
第53図 図版25 181	梅瓶	口～ 底	5.2 32.9 11.8	景徳鎮窯系。人物風景文、ラマ式蓮弁文。	不明	出土地不明

注 「－」:計測不可

第7表　褐釉陶器集計表

分　類	大形壺				中形壺	小形壺		水注	急須	鉢		合　計
	口縁部	胴部～把手	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	口縁部	口縁部	底部	
個　数	251	5	10431	184	1	2	1	1	1	5	1	10883

第8表　褐釉陶器観察一覧

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第54図 図版26 1	大形壺	口	21.2 － －	沖縄分類5類。平口縁。無耳壺。	東方トレンチ プレハブ	出土地不明
第54図 図版26 2	大形壺	底	－ － 14.5	沖縄分類5類。上げ底。無耳壺。	L0 97 石組 埋土褐色砂層	L0-97 SW15 (褐色砂層)
第54図 図版26 3	大形壺	底	－ － 12.4	沖縄分類3類。上げ底。四耳壺。	L1 東西 トレンチ	L1 石列？
第54図 図版26 4	大形壺	口	13.5 － －	沖縄分類4類。口縁玉縁状。四耳壺。	表 L6 102	L6-102 表採
第54図 図版26 5	大形壺	胴	－ － －	沖縄分類3類。外面-線彫りで文様。四耳壺。	L0 東西 トレンチ東隅より 2番灰石列内	石列2・3内
第54図 図版26 6	大形壺	胴	－ － －	外面-叩き痕残る。無耳壺。	L3 96 石灰岩碑	L3-96 石積？
第55図 図版27 7	水注	口	13.2 － －	口縁部断面「T」字状。外面-把手の基部あり。	K2 99 SW1 石組遺構内	K2-98・99 SW1
第55図 図版27 8	大形壺	口	18.8 － －	沖縄分類1類。口縁部玉縁状。長頸多耳壺。	中央畦断面トレ 2層東隅	中央観察畦② Ⅱ層
第55図 図版27 9	大形壺	口	10.3 － －	沖縄分類3類。口縁部玉縁状。四耳壺。	L1 東西 トレンチ	L1 石列？
第55図 図版27 10	大形壺	口	11.8 － －	沖縄分類6類。口縁部断面「T」字状。無耳壺。	SW13	L0-96 SW13
第55図 図版27 11	大形壺	口	12.6 － －	沖縄分類3類。口縁部玉縁状。四耳壺。	L1 東西 トレンチ断割	中央観察畦②
第55図 図版27 12	大形壺	胴	－ － －	沖縄分類1類。幅広の縦耳が付く。長頸多耳壺。	SW17	L2-96 SW17
第55図 図版27 13	大形壺	底	－ － 10.8	沖縄分類3類。上げ底。四耳壺。	K5 95・96 第2層 黒褐色土層	K5-95・96 Ⅱ層 (黒褐色土層)
第55図 図版27 14	大形壺	底	－ － 10.5	沖縄分類3類。上げ底。四耳壺。	中央観察畦 第4層最下層	中央観察畦① Ⅳ層 (暗褐色土層)
第55図 図版27 15	大形壺	胴	－ － －	沖縄分類1類。外面-龍文貼り付け。長頸多耳壺。	L0 94 下層 断割 第3層	L0-94 Ⅲ層
第55図 図版27 16	中形壺	口	10.0 － －	薄胎施釉陶器。口縁玉縁状。大海茶入か。	L1 東西 トレンチ断割	中央観察畦②
第55図 図版27 17	小形壺	底	－ － 2.5	薄胎施釉陶器。肩衝茶入か。	表 L1 100	L1-100 表採

注 「－」:計測不可

第9表　無釉陶器集計表

分　類	鉢			急須		合　計
	口～底部	口縁部	胴部	口縁部	胴部	
個　数	1	6	4	2	1	14

第10表　無釉陶器観察一覧

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第55図 図版27 18	急須	胴	― ― ―	外面-棒状把手貼り付け。	L0　94　下層 断割　第3層	L0-94　Ⅲ層
第55図 図版27 19	急須	口	― ― ―	口縁部を内側に折り返して成形。中形壺の可能性あり。	K1　100 南石段の 踊り場断割	南踊り場 断割②
第55図 図版27 20	鉢	口～底	16.0 6.5 7.6	口縁部外面玉縁状。底部は縁辺が広がる。	表　L2　96	L2-96　表採
第55図 図版27 21	鉢	口	35.2 ― ―	直口口縁。口唇部に蓋受けの段。	表　K6　95	K6-95　表採

注 「―」:計測不可

第11表　その他の中国産陶磁器・土器集計表①（色絵）

分　類	碗			小碗	皿				小皿		盤	器種不明	合　計
	口縁部	胴部	底部	口縁部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	底部	口縁部	胴部	
個　数	7	5	3	2	1	1	1	3	1	2	1	1	28

第11表　その他の中国産陶磁器・土器集計表②（泉州窯系磁器）

分　類	皿			合　計
	A		B	
	口縁部	胴部	口縁部	
個　数	3	1	2	6

第11表　その他の中国産陶磁器・土器集計表③（瑠璃釉）

分　類	碗			小碗			皿	小杯		壺	
	口～底部	口縁部	底部	口縁部	胴部	底部	底部	口縁部	底部	胴部	底部
個　数	2	4	3	7	2	2	2	1	2	5	1

分　類	瓶			器種不明		合　計
	口縁部	胴部	底部	胴部	底部	
個　数	1	15	1	7	1	56

第11表　その他の中国産陶磁器・土器集計表④（褐釉染付）

分　類	碗			小碗		小杯			合　計
	口～底部	口縁部	底部	口縁部	底部	口縁部	胴部	底部	
個　数	2	6	2	3	1	3	2	2	21

第11表　その他の中国産陶磁器・土器集計表⑤（青磁染付）

分　類	碗	小碗		合　計
	底部	口～底部	口縁部	
個　数	2	1	2	5

第11表　その他の中国産陶磁器・土器集計表⑥（天目）

分　類	碗				合　計
	口～底部	口縁部	胴部	底部	
個　数	4	98	201	41	344

第11表　その他の中国産陶磁器・土器集計表⑦（三彩）

分　類	水注				盤		合　計
	口縁部	胴部	把手	底部	胴部	底部	
個　数	1	4	4	1	3	1	14

第11表　その他の中国産陶磁器・土器集計表⑧（緑釉）

分　類	皿	瓶	器種不明	合　計
	口縁部	胴部	胴部	
個　数	1	1	2	4

第11表　その他の中国産陶磁器・土器集計表⑨（銅緑釉）

分　類	壺				合　計
	口縁部	胴部	底部	蓋	
個　数	1	5	1	6	13

第11表　その他の中国産陶磁器・土器集計表⑩（翡翠釉）

分　類	壺	瓶	香炉		蓋	器種不明	合　計
	胴部	胴部	胴部	底部	摘み	胴部	
個　数	2	1	1	2	1	1	8

第11表　その他の中国産陶磁器・土器集計表⑪（鉄絵）

分　類	壷
	胴部
合　計	5

第11表　その他の中国産陶磁器・土器集計表⑫（土器）

分　類	板状製品			合　計
	蓋			
	口縁部	胴部	不明	
個　数	149	136	3	288

第11表　その他の中国産陶磁器・土器集計表⑬（法花）

分　類	壺
	胴部
合　計	1

第11表　その他の中国産陶磁器・土器集計表⑭（黒釉磁器）

分　類	皿
	口縁部
合　計	1

第12表　その他の中国産陶磁器・土器観察一覧①

単位:cm

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第56図 図版28 1	色絵	碗	口	11.8 ー ー	内・外面-上絵付けによる唐草文。	表　K0　96	K0-96　表採
第56図 図版28 2	色絵	碗	底	ー ー 4.6	外面・見込み-上絵付けによる花唐草文。	表土　K0　96	K0-96　表土
第56図 図版28 3	色絵	碗	口	ー ー ー	内・外面-上絵付けによる不明文様。	K0　K1　100 第2基壇 正面礫層中	K9・10-100 Ⅱ期基壇 正面礫層中
第56図 図版28 4	色絵	碗	口	ー ー ー	外面-上絵付けによる不明文様。	表　K3-96	K3-96　表採
第56図 図版28 5	色絵	碗	胴	ー ー ー	外面-上絵付けによる花文。	石灰岩 K8-100	Ⅲ期基壇
第56図 図版28 6	色絵	碗	口	11.0 ー ー	外面-上絵付けによる草花文+動物文か。	表土　L1-102	L1-102　表土
第56図 図版28 7	色絵	碗	底	ー ー 6.1	外面-上絵付けによる蓮弁文+花唐草文。	表土　L1-102	L1-102　表土
第56図 図版28 8	色絵	碗	口	11.2 ー ー	外面-上絵付けによる花文。	表土 K10-101	K10-101 表土
第56図 図版28 9	色絵	碗	胴	ー ー ー	外面-上絵付けによる斜格子文。	表　L0-94	L0-94　表採
第56図 図版28 10	色絵	碗	底	ー ー ー	外面-線刻による不明文様。	表土　L4-100	L4-100　表土
第56図 図版28 11	色絵	小碗	口	8.0 ー ー	外面-上絵付けによる不明文様。口唇部釉剥ぎ。	S60	出土地不明
第56図 図版28 12	色絵	皿	口～ 底	14.4 3.4 8.1	外面・見込み-上絵付けによる花唐草文。	表土　L1-98	L1-98　表土
第56図 図版28 13	色絵	皿	底	ー ー ー	外面・見込み-染付けと上絵付けによる文様。	L1　98　拡乱	L1-98 撹乱層
第56図 図版28 14	色絵	盤	口	24.0 ー ー	内面-上絵付けによる文様。	K8-99	K8-99　表採
第56図 図版28 15	色絵	小皿	底	ー ー 4.2	見込み-蛇の目釉剥ぎ。腰折れ。	かわや覆土	かわや跡 Ⅰ層
第56図 図版28 16	色絵	小皿	口	ー ー ー	内面-上絵付けによる不明文様。口唇部釉剥ぎ。	表土　L4-100	L4-100　表土
第56図 図版28 17	泉州磁器	皿	口	ー ー ー	A類端反口縁。灰オリーブ色釉を内面～外面胴上部に施釉。	SW17	L2-96　SW17
第56図 図版28 18	泉州磁器	皿	口	14.2 ー ー	B類内彎口縁。灰オリーブ色釉を内面～外面胴上部に施釉。	SW1遺構内	K2-98・99 SW1
第56図 図版28 19	瑠璃釉	碗	口～ 底	12.6 5.6 5.5	外面に瑠璃色釉、見込み・外底を透明釉で掛け分ける。	不明	出土地不明
第56図 図版28 20	瑠璃釉	碗	口～ 底	12.6 5.5 5.0	外面に瑠璃色釉、見込み・外底を透明釉で掛け分ける。見込みに二重圏線+魚文。	表　K1　94	K1-94　表採
第57図 図版29 21	瑠璃釉	碗	底	ー ー ー	外面に瑠璃色釉、見込み・外底を透明釉で掛け分ける。腰折れ。	L1　98　撹乱	L1-98 撹乱層

注 「ー」:計測不可

第12表　その他の中国産陶磁器・土器観察一覧②

単位:cm

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第57図 図版29 22	瑠璃釉	小碗	口	9.6 — —	外面に瑠璃色釉、内面を透明釉で掛け分ける。端反口縁。	L1　98	L1-98　表採
第57図 図版29 23	瑠璃釉	小碗	底	— — 3.7	外面に瑠璃色釉、見込み・外底を透明釉で掛け分ける。外底-銘款。	表　L0　97	L0-97　表採
第57図 図版29 24	瑠璃釉	小碗	口	— — —	外面に瑠璃色釉、内面を透明釉で掛け分ける。口唇部釉剥ぎ。	表土　L2　100	L2-100　表土
第57図 図版29 25	瑠璃釉	小碗	底	— — 4.5	外面～外底に瑠璃色釉、見込みを透明釉で掛け分ける。	表　L1　101	L1-101　表採
第57図 図版29 26	瑠璃釉	小杯	口	3.9 — —	外面に瑠璃色釉、内面を透明釉で掛け分ける。	表　K0-100	K0-100　表採
第57図 図版29 27	瑠璃釉	小杯	底	— — 2.0	外面～外底に瑠璃色釉、見込みを透明釉で掛け分ける。外底に砂付着。	南側　試掘1	試掘1
第57図 図版29 28	瑠璃釉	碗	底	— — —	見込み、外面に瑠璃色釉、外底を透明釉で掛け分ける。畳付釉剥ぎ。	第2　K4　93	K4-93　Ⅱ層
第57図 図版29 29	瑠璃釉	瓶	胴	— — —	外面に瑠璃色釉、内面を透明釉で掛け分ける。	L1　98　撹乱	L1-98 撹乱層
第57図 図版29 30	瑠璃釉	瓶	胴	— — —	外面に瑠璃色釉、内面を透明釉で掛け分ける。	L1　98　撹乱	L1-98 撹乱層
第57図 図版29 31	瑠璃釉	碗	底	— — 4.6	外面に瑠璃色釉、見込み・外底を透明釉で掛け分ける。畳付釉剥ぎ。	L4　99　表土	L4-99　表土
第57図 図版29 32	瑠璃釉	壺	底	— — 17.7	外面腰部まで瑠璃色釉を施す。平底。	第2　K2　94	K2-94　Ⅱ層
第57図 図版29 33	褐釉染付	小碗	口	— — —	外面に褐色釉、内面に透明釉を掛け分ける。外面-草花文。	第2　K4　98	K4-98　Ⅱ層
第57図 図版29 34	褐釉染付	小碗	底	— — 5.2	外面に褐色釉、内面、外底に透明釉を掛け分ける。外面-草花文。外底-二重圏線。	表　K0　96	K0-96　表採
第57図 図版29 35	褐釉染付	小杯	口	— — —	外面に褐色釉、内面に透明釉を掛け分ける。内面-二重圏線。	表　L4　101	L4-101　表採
第57図 図版29 36	褐釉染付	小杯	口	— — —	外面に褐色釉、内面に透明釉を掛け分ける。外面-草花文か。	不明	出土地不明
第57図 図版29 37	褐釉染付	小杯	底	— — 4.0	外面に褐色釉、内面、外底に透明釉を掛け分ける。外底-山水文。外底-二重圏線内に銘款。	表　L0-101	L0-101　表採
第57図 図版29 38	青磁染付	小碗	口～ 底	9.9 4.9 3.7	外面に青磁釉、内面・外底に透明釉を掛け分ける。見込み-捻花文、外底-銘款。	南側	Ⅶ期基壇 南踊り場 階段
第57図 図版29 39	天目	碗	口	10.9 — —	森本朝子分類Ⅷ類。「く」字状口縁。	L0　97　石組 埋土褐色砂層	L0-97　SW15 （褐色砂層）
第57図 図版29 40	天目	碗	口～ 底	12.2 6.0 4.8	森本朝子分類Ⅷ類。「く」字状口縁。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第57図 図版29 41	天目	碗	口～ 底	11.4 5.6 3.8	森本朝子分類Ⅷ類。「く」字状口縁。	表　L6　99	L6-99　表採
第57図 図版29 42	天目	碗	口	11.7 — —	森本朝子分類Ⅷ類。直口口縁。	第2　L0　95	L0-95　Ⅱ層

注　「—」:計測不可

第12表　その他の中国産陶磁器・土器観察一覧③

単位:cm

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第57図 図版29 43	天目	碗	底	― ― 5.3	森本朝子分類Ⅸ類。外底露胎。	第1号　SW3 石組構内	K2-96　SW3
第58図 図版30 44	三彩	水注	胴	― ― ―	外面-白化粧後に緑釉＋黄釉、鳥文？線刻。	SW13　内下部	L0-96　SW13
第58図 図版30 45	三彩	水注	胴	― ― ―	外面-白化粧後に緑釉＋黄釉、胴部に貼付。	表　L4　101	L4-101　表採
第58図 図版30 46	三彩	水注	把手	― ― ―	外面-白化粧後に緑釉。把手か	表　L6　96	L6-96　表採
第58図 図版30 47	三彩	水注	底	― ― ―	外面-白化粧後に緑釉。	表　L1　93	L1-93　表採
第58図 図版30 48	三彩	水注	口	4.4 ― ―	外面-緑釉＋黄釉、蓮弁文＋草花文か。肩部に把手。	Ⅰ期　首正 L0　97	Ⅰ期基壇
第58図 図版30 49	三彩	盤	底	― ― ―	外面-白化粧後に緑釉＋黄釉、草花文線刻。	表　L6　96	L6-96　表採
第58図 図版30 50	緑釉	皿	口	― ― ―	内・外面-白化粧後に緑釉。	表　L3　97	L3-97　表採
第58図 図版30 51	緑釉	瓶	胴	― ― ―	外面-緑釉、雲文＋草花文＋二重圏線を黒土で象嵌。	表　L1　95	L1-95　表採
第58図 図版30 52	銅緑釉	壺	蓋	16.0 15.0	外面-銅緑釉、蓮弁文。酒会壺の蓋か。	L0　97　SW13 井戸状石組 東側グリッド外	L0-97　SW13
第58図 図版30 53	銅緑釉	壺	口	16.6 ― ―	外面-銅緑釉。口唇部釉剥ぎ。	L0　97 井戸状石組 遺構外　東側	L0-97　SW13
第58図 図版30 54	銅緑釉	壺	底	― ― ―	高台際に圏線陽刻。	表　L5　91	L5-91　表採
第58図 図版30 55	翡翠釉	瓶	胴	― ― ―	外面-白化粧後に翡翠釉、文様を黒土で象嵌。	K10　98 石組遺構内	K10-98　SW12
第58図 図版30 56	翡翠釉	香炉	底	― ― 12.4	外面-白化粧後に翡翠釉。三足香炉。	不明	出土地不明
第58図 図版30 57	鉄絵	壺	胴	― ― ―	外面-白化粧後に草花文。内面-褐色釉。酒会壺か。	Ⅳ期基壇 化粧石前 プール遺構内	SP3
第58図 図版30 58	鉄絵	壺	胴	― ― ―	外面-白化粧後に草花文。内面-褐色釉。酒会壺か。	Ⅳ期基壇 化粧石前 プール遺構内	SP3
第58図 図版30 59	土器	板状 製品	口縁部	― ― ―	円盤状の板状製品。褐釉陶器の蓋か。	第Ⅳ期基壇 化粧石下 の試掘	試掘1

注 「―」:計測不可

第13表　タイ産陶磁器・土器集計表

分　類	褐釉陶器											
	壺											小壺
	A					B					分類不明	
	口縁部	胴～耳	耳	胴部	底部	口縁部	胴～耳	耳	胴部	底部	胴部	底部
個　数	106	7	4	1490	42	32	7	4	712	26	36	1

分　類	褐釉陶器		無釉陶器	鉄絵	半練土器				合　計
	瓶		壺	瓶	蓋			不明	
	胴部	底部	胴部	胴部	撮み～庇	口縁部	撮み	胴部	
個　数	7	5	1	1	3	35	7	8	2534

第14表　タイ産陶磁器・土器観察一覧①

単位:cm

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第59図 図版31 1	褐釉	壺	口	19.7 － －	A類:シーサッチャナライ窯産。口縁断面「T」字状。	K9 K10 100 2期基壇 正面礫層中	K9・10-100 Ⅱ期基壇 正面礫層中
第59図 図版31 2	褐釉	壺	口	22.1 － －	A類:シーサッチャナライ窯産。口縁断面「T」字状。	第2 K5 92	K5-92 Ⅱ層
第59図 図版31 3	褐釉	壺	口	21.3 － －	A類:シーサッチャナライ窯産。口縁断面「T」字状。	プレハブ東方 トレンチ	出土地不明
第59図 図版31 4	褐釉	壺	口	17.4 － －	A類:シーサッチャナライ窯産。口縁断面「T」字状。	第Ⅳ期基壇 化粧石下試掘 南より2番目穴	試掘2
第59図 図版31 5	褐釉	壺	胴	－ － －	A類:シーサッチャナライ窯産。横耳付き。	東方トレンチ プレハブ	出土地不明
第59図 図版31 6	褐釉	壺	胴	－ － －	A類:シーサッチャナライ窯産。耳部分。	第3 L0 94 下層断層	L0-94 Ⅲ層
第59図 図版31 7	褐釉	壺	口	18.9 － －	A類:シーサッチャナライ窯産。口縁断面玉縁状。	表 L2 96	L2-96 表採
第59図 図版31 8	褐釉	壺	口	18.0 － －	A類:シーサッチャナライ窯産。口縁断面玉縁状。	SW13 L1 95 断割	L1-96 SW13 断割
第59図 図版31 9	褐釉	壺	口	17.8 － －	A類:シーサッチャナライ窯産。口縁断面玉縁状。	Ⅳ期 北側翼状 石垣内	Ⅴ期基壇
第59図 図版31 10	褐釉	壺	胴	－ － －	A類:シーサッチャナライ窯産。横耳付き。	Ⅳ期基壇 化粧 石前プール	SP3
第59図 図版31 11	褐釉	壺	胴	－ － －	横耳付き。	表 K10 102	K10-102 表採
第59図 図版31 12	褐釉	壺	底	－ － 25.9	B類:メナムノイ窯産。底部に砂目付着。	Ⅳ期基壇 化粧石前プー ル遺構内	SP3
第60図 図版32 13	褐釉	壺	底	－ － 25.8	B類:メナムノイ窯産。	Ⅰ期基壇 の北側石垣翼 の覆土	Ⅱ期基壇 北 側翼状 Ⅰ層
第60図 図版32 14	褐釉	瓶	底	－ － 7.4	シーサッチャナライ窯産。褐釉を胴下部まで施釉。	SW13	L0-96 SW13
第60図 図版32 15	褐釉	瓶	底	－ － 8.5	シーサッチャナライ窯産。褐釉を胴下部まで施釉。	SW13内 下部	L0-96 SW13
第60図 図版32 16	褐釉	瓶	底	－ － 6.3	シーサッチャナライ窯産。	SW13内 下部	L0-96 SW13
第60図 図版32 17	褐釉	小壺	底	－ － 3.35	シーサッチャナライ窯産。褐釉を胴下部まで施釉。	表土 K2 102	K2-102 表土
第60図 図版32 18	無釉	壺	胴	－ － －	バンプーン窯産。外面に陽刻による文様。器壁厚い。	第2 L2 92 下層断割 トレンチ赤土	L2-92 Ⅱ層
第60図 図版32 19	半錬土器	蓋	撮～底	－ － 底 13.0	撮:宝珠形。	表 L5 96	L5-96 表採
第60図 図版32 20	半錬土器	蓋	撮～底	－ － 底 13.4	撮:宝珠形。	表土 L1 98 撹乱層	L1-98 表土

注 「－」:計測不可

第14表　タイ産陶磁器・土器観察一覧②

単位:cm

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第60図 図版32 21	半錬土器	蓋	撮～庇	― ― 庇 11.25	撮:宝珠形。	L1 98 撹乱層	L1-98 撹乱層
第60図 図版32 22	半錬土器	蓋	撮	― ― ―	撮:乳房状。	第2 L0 96	L0-96 Ⅱ層
第60図 図版32 23	半錬土器	蓋	撮	― ― ―	撮:乳房状。	K5 98 第2層 60-70	K5-98 Ⅱ層
第60図 図版32 24	鉄絵	瓶	胴	― ― ―	玉壺春瓶か。	SW13 内下部	L0-96 SW13

注 「―」:計測不可

第15表　ベトナム産陶磁器集計表

分　類	青磁	青花							
	碗	碗			壺		水注		瓶
	口縁部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	胴部	底部	胴部
個　数	1	3	1	1	1	1	1	1	1

分　類	色絵		鉄絵		合　計
	碗	壺	水注	器種不明	
	口縁部	胴部	胴部	底部	
個　数	3	1	2	1	18

第16表　ベトナム産陶磁器観察一覧

単位:cm

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第61図 図版33 25	青磁	碗	口	― ― ―	外面-鎬蓮弁文。	表土　撹乱	撹乱
第61図 図版33 26	鉄絵	水注	胴	― ― ―	外面-鉄絵で動物文。	第2層　黒色土混り赤土層 K6・97～99	K6-97～99　Ⅱ層 （黒土混赤土層）
第61図 図版33 27	鉄絵	不明	底	― ― ―	外面-圏線。置物の台座か。	第2　K6　98	K6-98　Ⅱ層
第61図 図版33 28	青花	碗	口	17.8 ― ―	西村・西野分類断面扁平形トチンB-2類。内外面-呉須と鉄絵で文様。	石組　X100 Y110	K0-99　SW4
第61図 図版33 29	青花	碗	口	― ― ―	西村・西野分類断面扁平形トチンB-2類。内外面-呉須と鉄絵で文様。	L1　98	L1-98　表採
第61図 図版33 30	青花	碗	底	― ― 6.8	西村・西野分類断面扁平形トチンB-2類。内外面-呉須と鉄絵で文様。	K2　95　No.3 石組遺構　SW3	K2-96　SW3
第61図 図版33 31	青花	水注	胴	― ― ―	外面-呉須で文様。型成形。龍形水柱か。	第2　K6　94	K6-94　Ⅱ層
第61図 図版33 32	青花	壺	口	2.75 ― ―	外面-呉須で蓮弁文。	表L2　95	L2-95　表採
第61図 図版33 33	色絵	壺	胴	― ― ―	外面-色絵で蓮弁文。	SW13	L0-96　SW13

注 「―」:計測不可

第17表　朝鮮産陶磁器集計表

分　類	青　磁									合　計
	碗		皿			碗か皿	瓶		器種不明	
	口縁部	底部	口～底部	口縁部	底部	胴部	胴部	底部	胴部	
個　数	23	2	1	7	1	28	1	1	2	66

※第62図・図版34№52（手塚氏報告資料）は集計に含まない。

第18表　朝鮮産陶磁器観察一覧

単位:cm

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第61図 図版33 34	青磁	碗	口	― ― ―	端反口縁。外面-白土象嵌で雷文。内面-白土象嵌で竹管文。	L1　東西トレンチ 断割	中央観察畦②
第61図 図版33 35	青磁	碗	口	― ― ―	直口口縁。外面-白土象嵌。内面-白土象嵌で草文。	L0-94　下層 断割　3層	L0-94　Ⅲ層
第61図 図版33 36	青磁	皿	口	24.4 ― ―	直口口縁。外面-白土象嵌で印花文。内面-白土と黒土の象嵌で鳥文か。見込み-白土象嵌で雷文+印花文。	SW17	L2-96　SW17
第61図 図版33 37	青磁	皿	口	26.2 ― ―	直口口縁。内外面-白土で象嵌。内面に雲文。	L0-94　下層 断割　3層	L0-94　Ⅲ層
第61図 図版33 38	青磁	皿	口	25.0 ― ―	直口口縁。外面-白土で象嵌。内面-白土と黒土の象嵌で波文。	SW17	L2-96　SW17
第61図 図版33 39	青磁	皿	口	― ― ―	直口口縁。内外面-白土で象嵌。	SW17	L2-96　SW17
第61図 図版33 40	青磁	皿	口	― ― ―	直口口縁。外面-白土象嵌で波文と印花文。内面-白土象嵌で波文+竹管文。	L0-94　下層 断割　3層	L0-94　Ⅲ層
第62図 図版34 41	青磁	皿	口	― ― ―	直口口縁。内外面-白土で象嵌。	SW13	L0-96　SW13
第62図 図版34 42	青磁	皿	口	― ― ―	直口口縁。内外面-白土で象嵌。	SW17	L2-96　SW17
第62図 図版34 43	青磁	皿	口～ 底	18.3 4.1 6.2	直口口縁。外面-白土象嵌で印花。見込み-白土象嵌で飛び鉋。黒土の象嵌あり。	L1　東西 断割トレンチ 第3コーラル	L1　中央観察畦？
第62図 図版34 44	青磁	碗か皿	胴	― ― ―	内外面-白土で象嵌。外面は雷文+波文か。	不明	出土地不明
第62図 図版34 45	青磁	碗か皿	胴	― ― ―	内外面-白土で象嵌。	L1　東西 断割トレンチ 東隅最奥石列	L1　中央観察畦？
第62図 図版34 46	青磁	碗か皿	胴	― ― ―	内外面-白土で象嵌。内面は竹管文。	L0　東西トレンチ 東隅最奥区	L0　石列1・2内
第62図 図版34 47	青磁	碗か皿	胴	― ― ―	内外面-白土で象嵌。内面は雲文。	SW17	L2-96　SW17
第62図 図版34 48	青磁	碗か皿	胴	― ― ―	外面-白土象嵌で蓮弁文。内面-白土象嵌で印花文。黒土の象嵌あり。	Ⅳ層 中央観察アゼ	中央観察畦① Ⅳ層 （暗褐色土層）
第62図 図版34 49	青磁	碗か皿	胴	― ― ―	内外面-白土で象嵌。	K6・7　94　第2層 赤土土層	K6・7-94　Ⅱ層 （赤土層）
第62図 図版34 50	青磁	皿	底	― ― 6.4	外面-白土で象嵌。見込み-白土象嵌で飛び鉋。黒土の象嵌あり。	第3層	Ⅲ層
第62図 図版34 51	青磁	碗	底	― ― 6.3	外面-白土象嵌で蓮弁文。内面-白土象嵌で印花文。黒土の象嵌あり。	L0　94　下層断割 第3層	L0-94　Ⅲ層
第62図 図版34 52	青磁	碗	底	― ― 6.6	外面・見込み-白土象嵌で蓮弁文。黒土象嵌あり。手塚直樹氏報告資料。	首里城正殿前	出土地不明
第62図 図版34 53	青磁	瓶	底	― ― 10.85	外面-白土で象嵌。外底-砂目付着。	K9　98　表土	K9-98　表土
第62図 図版34 54	青磁	瓶	胴	― ― ―	外面-白土象嵌で竹管文。	第3層	Ⅲ層

注 「―」:計測不可

第19表　本土産陶磁器集計表①（磁器）

分類	近世														
	染付														
	碗				小碗			皿				小杯		瓶	
	口～底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	底部	胴部	底部
個数	2	73	65	25	16	5	7	1	6	6	6	2	1	15	4

分類	近世												
	染付			青磁				色絵					
	蓋	袋物	器種不明	碗		瓶		碗	小碗	皿	瓶	蓋	器種不明
		胴部	胴部	口縁部	底部	胴部	底部	胴部	口縁部	胴部	口縁部		胴部
個数	6	3	12	1	1	5	1	6	1	1	1	2	2

分類	近代												
	碗				小碗				皿				小皿
	口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	底部
個数	12	302	156	139	52	383	273	169	23	85	40	94	1

分類	近代															
	小杯				鉢		瓶			急須			香炉			
	口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部
個数	14	30	5	25	1	1	7	43	7	17	6	8	1	11	4	6

分類	近代														
	蓋						水滴	筒物				筒物			
												段重			
	摘	摘～庇部	口～庇部	胴部	庇部	不明		口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	底部	
個数	6	4	2	2	19	8	24	1	11	2	14	2	2	3	

分類	近代						合計
	碍子	火入	器種不明				
		底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	
個数	53	1	3	30	82	12	2472

第19表　本土産陶磁器集計表②(陶器)

分　類	碗					碗？	小碗				皿		
	略完形	口～底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部
個　数	4	4	40	38	6	1	2	20	12	33	13	10	10

分　類	小皿		大皿			壺				小壺		擂鉢		
	口縁部	底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	口縁部	胴部	底部
個　数	2	2	1	6	2	1	6	53	1	2	2	6	3	2

分　類	急須				瓶				瓶か	鍋	蓋	袋物
	口縁部	注口	胴部	底部	口縁部	頸部	胴部	底部	底部	口縁部		胴部
個　数	2	3	7	4	4	1	18	3	2	5	5	12

分　類	筒物			人形	人形？	器種不明			合 計
	口縁部	胴部	底部			口縁部	胴部	底部	
個　数	3	5	1	2	1	8	146	19	533

第20表　本土産陶磁器観察一覧①

単位:cm

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第63図 図版35 1	磁器	碗	口～ 底部	15.7 7.4 6.4	染付。外面に雲龍文と圏線、内面に圏線、見込みに荒磯文。外底面に銘「・・明・・」。畳付は釉剥ぎ、砂付着。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅱ-2期(1650～1660年代)の雲龍見込荒磯文碗。	第2 K10 96	K10-96　Ⅱ層
第63図 図版35 2	磁器	碗	口～ 底部	14.85 5.9 6.5	染付。やや濁った色調。外面に雲龍文と圏線、内面に圏線、見込みに荒磯文。畳付は釉剥、砂付着。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅱ-2期(1650～1660年代)の雲龍見込荒磯文碗。	SW2 遺構内	K2-97　SW2
第63図 図版35 3	磁器	碗	口	13.7 － －	染付。外面に雲龍文と圏線、内面に圏線。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅱ-2期(1650～1660年代)の雲龍見込荒磯文碗。	表土 L1 101	L1-101　表土
第63図 図版35 4	磁器	碗	口	14.15 － －	染付。外面に簡略化された雲龍文と圏線、内面に圏線。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅲ期(1650～1680年代)の雲龍見込荒磯文碗。	表 L1 100	L1-100　表採
第63図 図版35 5	磁器	碗	口	8.75 － －	染付。外面に圏線。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅱ～Ⅲ期(17世紀後半)とみられる。	表 L4 101	L4-101　表採
第63図 図版35 6	磁器	碗	口	15.0 － －	染付。やや濁った色調。外面に圏線と雲龍文か、内面に圏線。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅲ期(1650～1680年代)とみられる。	石組遺構 X100 Y110	K0-99　SW4
第63図 図版35 7	磁器	碗	底部	－ － 5.9	染付。やや濁った色調。外面に圏線、見込みに花文と圏線。畳付釉剥ぎ、砂付着。肥前産。	表 L4 100	L4-100　表採
第63図 図版35 8	磁器	碗	底部	－ － 4.6	染付。やや濁った色調。見込みに不明文様と圏線。畳付釉剥ぎ、砂付着。肥前産。	表 L2 100	L2-100　表採
第63図 図版35 9	磁器	碗	底部	－ － 4.6	染付。濁った色調。外面に圏線、見込みに二重圏線。畳付釉剥ぎ。肥前(波佐見)産。	表 L1 97	L1-97　表採
第63図 図版35 10	磁器	碗	口縁部	11.2 － －	染付。やや濁った色調。外反碗。外面に圏線と山水文。肥前産でⅢ期(1650～1680年代)か。	表 L1 100	L1-100　表採
第63図 図版35 11	磁器	碗	口縁部	13.6 － －	染付。外面に雲龍文。肥前(波佐見)産で『九州陶磁の編年』Ⅳ期(1650～1680年代)の雲龍見込荒磯文碗。	表土	表土
第63図 図版35 12	磁器	碗	底部	－ － 4.3	染付。外面に不明文様と圏線。見込みは蛇の目状に釉剥ぎされ重ね焼き痕残る。外面畳付部も釉剥ぎ、砂付着。肥前産。	L6 95 表層	L6-95　表土
第63図 図版35 13	磁器	碗	口縁部	15.2 － －	染付。外面に二重圏線と草花文、内面に圏線。なお圏線は黒色強い。肥前産か。	第2 K10 96	K10-96　Ⅱ層
第64図 図版36 14	磁器	小碗	口縁部	12.0 － －	染付。外面に四方襷文、内面○×文。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅳ期(1690年代)以降か。	第2 L1 98	L1-98　Ⅱ層
第64図 図版36 15	磁器	小碗	口縁部	10.9 － －	染付の筒形碗。外面に雷文と圏線、縦方向の鎬状の削り。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅱ-1期(1610-1629年代)。	表 K10 96	K10-96　表採
第64図 図版36 16	磁器	小碗	口縁部	9.2 － －	染付。口縁部屈曲の天目碗。外面に圏線と鋸歯文、縦方向の鎬。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅱ-1期(1610-1630年代)。	表土 L2 96	L2-96　表土
第64図 図版36 17	磁器	小碗	口縁部	7.1 － －	染付。筒形碗。外面に圏線と花文、内面に圏線。肥前産。	L1 98 撹乱	L1-98 撹乱層
第64図 図版36 18	磁器	小碗	口縁部	7.1 － －	染付。筒形碗。口唇部は平坦に整形。外面に圏線と山水文か。肥前産。	表土 K3 103	K3-103　表土
第64図 図版36 19	磁器	小碗	口縁部	－ － －	染付。筒形碗。外面に山水文か。肥前産。	表 L6 96	L6-96　表採
第64図 図版36 20	磁器	小碗	口縁部	－ － －	染付。天目碗。外面に圏線と山水文。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅲ期(1650～1680年代)か。	不明	出土地不明

注「－」:計測不可

第20表　本土産陶磁器観察一覧②

単位:cm

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第64図 図版36 21	磁器	碗	底部	― ― 4.2	染付。筒形碗。外面に圏線と草花文？、見込みに二重圏線、外底面に「大明」銘。畳付釉剥ぎされ砂付着。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅱ～Ⅲ期(17世紀中～後葉)。	第2 K10 95	K10-95　Ⅱ層
第64図 図版36 22	磁器	碗	底部	― ― 3.75	染付。外面に草花文と圏線、高台に二重圏線。畳付は釉剥ぎされ砂付着。肥前産。	第2 K5 98	K5-98　Ⅱ層
第64図 図版36 23	磁器	小杯	口縁部	4.1 ― ―	染付。型造り。外面に鋸歯状の蓮弁文。被熱。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅲ期前葉(1750～1760年代)。	第2 K6 98	K6-98　Ⅱ層
第64図 図版36 24	磁器	皿	口～ 底部	14.4 3.0 6.75	染付。内面に花文、見込みは二重圏線とコンニャク印判による見込み五弁花文。見込みは蛇の目状に釉剥ぎ。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅳ期(1690～1780年代)。	L4 98	L4-98　表採
第64図 図版36 25	磁器	皿	底部	― ― 10.35	染付。外面に唐草文と圏線、内面に蛸唐草文、花菱文、環状松竹梅文。蛇の目凹形高台で、外底面に「‥化‥」銘。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅴ期(1780～1860年代)。	表土 K0 96	K0-96　表土
第64図 図版36 26	磁器	皿	底部	― ― 9.9	染付。内面に区画文、花菱文、太極文。蛇の目凹形高台。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅴ期(1780～1860年代)。	K1 102 踊り場　断割	南踊り場 断割④
第64図 図版36 27	磁器	皿	底部	― ― 7.4	染付。内面に窓絵文と濃み地に白抜きで草花文(内面図は180°　逆転されて掲載)。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅴ期(1780～1860年代)。	表 K10 101	K10-101 表採
第64図 図版36 28	磁器	小碗	口縁部	12.8 ― ―	染付。外面に丸状の唐草文、内面に丸状の蛸唐草文。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅳ期(1690～1780年代)。	表土 L2 104	L2-104　表土
第64図 図版36 29	磁器	蓋	庇部	― ― 庇　10.0	染付。外面に蛸唐草文、内面に四方襷文をともに素描きで施文。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅴ期(1780～1860年代)。	不明	出土地不明
第64図 図版36 30	磁器	蓋	庇部	― ― 庇　9.55	染付。外面に唐草文、内面に四方襷文と二重圏線を素描きで施文。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅳ～Ⅴ期(1690～1860年代)。	表 L0 100	L0-100　表採
第64図 図版36 31	磁器	瓶	胴部	― ― ―	染付。外面に草花文。外面のみ施釉。肥前産。残存部位不明のため、年代不明。	SW13円上部	L0-96 SW13上
第64図 図版36 32	磁器	瓶	底部	― ― 6.1	染付。外面に網目文と圏線。被熱により表面劣化。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅲ期(1650～1680年代)。	第2 K5 98	K5-98　Ⅱ層
第64図 図版36 33	磁器	瓶	底部	― ― 5.2	染付。外面に斜格子文？と圏線。内外面とも施釉し、外底部のみ釉剥ぎ。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅲ期(1650～1680年代)以降。	表土 K0 96	K0-96　表土
第65図 図版37 34	磁器	瓶	胴部	― ― ―	染付。油壺。外面に蛸唐草文。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅳ-2～Ⅴ期(1780～1860年代)。	表土 L2 101 102	L2-101・102 表土
第65図 図版37 35	磁器	瓶	底部	― ― 5.6	青磁。外面のみ施釉。畳付釉剥ぎ。肥前産とみられるが年代不明。	K96 柱内 石組遺構内	K2-96　SW9
第65図 図版37 36	磁器	蓋	摘～ 庇部	10.2 3.5 3.45	色絵磁器。摘部に「福」とみられる変形字銘、外面には「成化年製」とみられる変形字文と「乾」左側と「年」を組み合わせた変形字文、その他2つの不明文様。摘部唇部釉剥ぎ。肥前産なら18世紀後半から19世紀前半だが中国産の可能性もあり。	基礎石下 断割試掘 K0　100	南踊り場 断割②
第65図 図版37 37	磁器	蓋	摘	― ― 3.8	色絵磁器。摘部に不明のコンニャク印判、外面には青で如意頭文、黄で唐草文。摘部唇部釉剥ぎ。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅳ期(1690～1780年代)。	表 L2 104	L2-104　表採
第65図 図版37 38	磁器	瓶	口縁部	3.3 ― ―	色絵磁器。口唇部に黄の圏線、頸部に朱で鋸歯文、文様外は青緑で塗り埋め。肥前産で『九州陶磁の編年』Ⅲ期(1650～1680年代)以降。	K1 96 石組	K1-96　SW9
第65図 図版37 39	磁器	碗	口～ 底部	11.0 5.1 4.0	染付。外面竹文と圏線、内面は圏線とその中に崩れた唐草文。畳付釉剥ぎ。肥前産で近代。	L5 98 グリット カワヤの覆土	L5-98 かわや跡 覆土

注「―」:計測不可

第20表　本土産陶磁器観察一覧③

単位:cm

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第65図 図版37 40	磁器	碗	口～ 底部	10.6 5.5 4.4	型紙刷り。外面に青海波文地、菱形窓内に十字草花文、圏線。内面に瓔珞文、圏線、環状松竹梅文。畳付釉剥ぎ。砥部産で近代。	L0 97 SW13 井戸状石組 遺構外 東側ｸﾞﾘｯﾄ	L0-97　SW13
第65図 図版37 41	磁器	碗	口縁部	10.5 － －	型紙刷り。外面に点描文地、丸形窓内に「福」字文、花文。内面に瓔珞文、圏線。砥部産で近代。	かわや跡の 覆土中	かわや跡 Ⅰ層
第65図 図版37 42	磁器	碗	口縁部	10.05 － －	型紙刷り。外面は点描文地、窓内に人物文。内面に瓔珞文、圏線。砥部産で近代。	かわや覆土	かわや跡 Ⅰ層
第65図 図版37 43	磁器	碗	口縁部	9.5 － －	型紙刷り。外面は草花文、内面に瓔珞文。砥部産で近代。	第Ⅳ～Ⅴ期 基壇　北側翼状 石垣の覆土	Ⅴ～Ⅶ期 基壇？
第65図 図版37 44	磁器	碗	底部	－ － 4.4	型紙刷り。外面は青海波文・微塵唐草文地、窓内に花文。外底部に圏線。畳付釉剥ぎ。肥前産で近代。	第Ⅳ～Ⅴ期 基壇　北側翼状 石垣の覆土	Ⅴ～Ⅶ期 基壇？
第65図 図版37 45	磁器	碗	底部	－ － 3.6	型紙刷り。外面は窓内に青海波文と草花丸文、蓮弁文。畳付釉剥ぎ。肥前産で近代。	第Ⅳ～Ⅴ期 基壇　北側翼状 石垣の覆土	Ⅴ～Ⅶ期 基壇？
第65図 図版37 46	磁器	小碗	口～ 底部	8.4 4.8 3.6	ゴム判。外面は花文、斜格子文、圏線。畳付釉剥ぎで砂付着。瀬戸・美濃産で近代。	第74柱穴	L1-93 柱穴74
第65図 図版37 47	磁器	小碗	口～ 底部	8.6 5.0 3.2	ゴム判。外面は草花文と素描きの圏線。内面は四方襷文。畳付釉剥ぎ。瀬戸・美濃産で近代。	L5 98 グリット カワヤの跡 の覆土	L5-98 かわや跡 覆土
第65図 図版37 48	磁器	小碗	口～ 底部	8.4 4.6 3.15	ゴム判。外面に草花文と圏線。畳付釉剥ぎされ砂付着。瀬戸・美濃産で近代。	かわや覆土	かわや跡 Ⅰ層
第65図 図版37 49	磁器	小碗	口～ 底部	8.25 4.9 3.0	ゴム判。外面に色不明の菊花文と青色の不明文様。畳付釉剥ぎ。瀬戸・美濃産で近代。	第74柱穴	L1-93 柱穴74
第65図 図版37 50	磁器	小碗	口～ 底部	5.95 5.6 3.0	筒形碗。ゴム判。外面に氷裂文と花文。畳付釉剥ぎ。瀬戸美濃産で近代。	かわや覆土	かわや跡 Ⅰ層
第65図 図版37 51	磁器	小杯	口～ 底部	4.6 1.9 2.0	白磁。口唇部は玉縁状。畳付釉剥ぎ。瀬戸美濃産で近代か。	表土 L3 103	L3-103　表土
第65図 図版37 52	磁器	急須	口縁部	5.75 － －	染付。外面に手描きで草花文。蓋受部釉剥ぎ。肥前産で近代。	K1 石組内	K1-96　SW9
第65図 図版37 53	磁器	急須	底部	－ － 6.8	外面に手描きの圏線。碁笥底で釉剥ぎ。近代の製品だが産地不明。	L1 98	L1-98　表採
第65図 図版37 54	磁器	蓋	摘～ 庇部	－ 3.05 庇　7.9	染付。外面に草花文と二重圏線。内面庇部は釉剥ぎ。瀬戸美濃産で近代。	第74柱穴	L1-93　柱穴74
第66図 図版38 55	磁器	皿	口～ 底部	13.8 2.65 7.8	型紙刷り。内面に樹木文。畳付釉剥ぎ。瀬戸美濃産で近代。	第Ⅳ～Ⅴ期 基壇　北側翼状 石垣の覆土	Ⅴ～Ⅶ期 基壇？
第66図 図版38 56	磁器	皿	口～ 底部	10.95 2.0 6.1	白磁。型造り。畳付釉剥ぎ。瀬戸美濃産で近代。	かわや跡の 覆土中	かわや跡 Ⅰ層
第66図 図版38 57	磁器	皿	口～ 底部	11.15 2.12 6.5	型紙刷り。内面に水鳥文と枝葉文。口唇部に口錆、畳付釉剥ぎ。瀬戸美濃産で近代。	かわや覆土	かわや跡 Ⅰ層
第66図 図版38 58	磁器	皿	口～ 底部	27.45 3.9 16.4	大皿。型紙刷り。内面は松葉文地に窓絵竹・草花文、見込みは輪花と環状松竹梅文。外面は圏線と崩れた唐草文か。畳付釉剥ぎされ砂付着。瀬戸美濃産で近代。	かわや跡の 覆土中	かわや跡 Ⅰ層
第66図 図版38 59	磁器	鉢	底部	－ － 10.6	染付。外面は鳥と圏線、内面は二重圏線と見込み不明文様。見込みは蛇の目状に釉剥ぎ、畳付釉剥ぎされ、ともに重ね焼き痕残る。瀬戸美濃産か。近代。	L1 98 拡乱	L1-98　撹乱層

注「－」:計測不可

第20表　本土産陶磁器観察一覧④

単位:cm

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第66図 図版38 60	磁器	筒物	口～ 底部	11.55 7.75 8.5	型紙刷り。外面に山水図文と蓮弁文。畳付釉剥ぎ。瀬戸美濃産で近代。	表 L4 100	L4-100 表採
第66図 図版38 61	磁器	筒物	底部	― ― 10.1	型紙刷り。段重か。外面に不明文様。腰部釉剥ぎ。瀬戸美濃産で近代。	L1 98 撹乱	L1-98 撹乱層
第66図 図版38 62	磁器	火入	底部	― ― 10.5	型紙刷り。外面に散らし花文、蓮弁文、丸文。施釉は外面のみで底部露胎。畳付釉剥ぎし、その後施文。瀬戸美濃産で近代。	表 K0 95	K0-95 表採
第66図 図版38 63	磁器	瓶	底部	― ― 6.0	外面に手描きの圏線。施釉は外面のみで底部露胎。畳付釉剥ぎ。瀬戸美濃産で近代。	表 K1 102	K1-102 表採
第67図 図版39 64	陶器	碗	略完形	11.0 8.1 4.6	天目形。内面から外面胴上部まで鉄釉、胴下部は自然釉。底部露胎し、畳付釉剥ぎ。兜巾あり。肥前産で『九州陶器の編年』Ⅱ期(1610～1650年代)。	不明	出土地不明
第67図 図版39 65	陶器	碗	略完形	11.0 7.65 4.6	天目形。灰色緻密な胎土。内面から外面胴上部まで灰釉、胴下部は自然釉。畳付釉剥ぎ。肥前産で『九州陶器の編年』Ⅱ期(1610～1650年代)。	SW13	L0-96 SW13
第67図 図版39 66	陶器	碗	口～ 底部	14.35 7.2～7.45 5.5	半球形の碗。卵黄白色で軟質の胎土。灰釉を高台の一部を除き施釉。兜巾あり。被熱。肥前産で『九州陶器の編年』Ⅱ期(1610～1650年代)。	第Ⅱ層 10/20 K4 98 + 2層 K5 99 20/30	K4-98 Ⅱ層 + K5-99 Ⅱ層
第67図 図版39 67	陶器	碗	口～ 底部	12.5 6.5 5.15	半球形の碗。灰色で緻密の胎土。緑釉が施釉され、畳付から外底面が露胎。	北側側面	Ⅱ期基壇 北側翼状 ?
第67図 図版39 68	陶器	碗	底部	12.5 5.9 4.0	半球形の碗。卵黄白色で軟質の胎土。灰釉を高台の一部を除き施釉。兜巾あり。被熱。肥前産で『九州陶器の編年』Ⅱ期(1610～1650年代)。	L0 96 石組遺構内 下部	L0-96 SW13
第67図 図版39 69	陶器	碗	口縁部	12.7 ― ―	半球形の碗。卵黄白色で軟質の胎土。透明釉が施釉されるが、部分的に貫入あり。	SW1遺構内	K2-98･99 SW1
第67図 図版39 70	陶器	碗	口縁部	13.4 ― ―	半球形の碗。灰白色で緻密の胎土。灰釉を施釉。	北側側面	Ⅱ期基壇 北側翼状 ?
第67図 図版39 71	陶器	碗	口～ 底部	9.7 5.6 3.7	半球形の色絵陶器碗。卵黄白色で軟質の胎土。透明釉が施釉されるが、ほぼ全面に貫入あり。高台無釉。外面･見込みに金･緑で花唐草文を施文。関西系で18c頃。	表土 L2 98	L2-98 表土
第67図 図版39 72	陶器	碗	略完形	11.5 7.25 4.65	天目形の碗。灰色緻密な胎土。外底部を除き灰釉を施釉。畳付釉剥ぎ、砂目付着。兜巾あり。肥前産で『九州陶器の編年』Ⅱ期(1610～1650年代)。	不明	出土地不明
第67図 図版39 73	陶器	碗	略完形	10.7 7.4～7.6 3.9	天目形の碗。灰色緻密な胎土。全面に藁灰釉を施釉。畳付釉剥ぎ、砂目付着。兜巾あり。肥前産で『九州陶器の編年』Ⅱ期(1610～1651年代)。	SW17	L2-96 SW17
第67図 図版39 74	陶器	碗	胴部	― ― ―	天目形の碗。灰黒色で粗粒な胎土。内外面に刷毛目文。肥前産で『九州陶器の編年』Ⅱ期(1650～1690年代)。	表 L5 99	L5-99 表採
第67図 図版39 75	陶器	碗	口縁部	16.0 ― ―	半球形の碗。黄褐色で軟質な胎土。内外面とも灰釉を施釉。	SW13 円下部	L0-96 SW13
第67図 図版39 76	陶器	小碗	口縁部	9.8 ― ―	半球形の小碗。卵黄褐色で緻密な胎土。	表土 K0 100	K0-100 表土
第67図 図版39 77	陶器	小碗	底部	― ― 3.6	半球形の小碗。卵黄褐色で緻密な胎土。内外面とも自然釉を施釉だが、全面に貫入あり。外底部露胎で兜巾あり。畳付釉剥ぎ。関西系か。	表 K0 95	K0-95 表採
第67図 図版39 78	陶器	小碗	口～ 底部	9.0 3.45 3.3	半球形の小碗。灰色で緻密な胎土。内外面とも灰釉施釉、高台無釉。畳付釉剥ぎ、砂付着。	表 L4 102	L4-102 表採
第67図 図版39 79	陶器	小碗	口縁部	8.6 ― ―	半球形の小碗。黒灰色で緻密な胎土。内外面とも緑釉施釉。象嵌で圏線などを施文。肥前産で『九州陶器の編年』Ⅱ期(1650～1690年代)。	L5 99 撹乱	L5-99 撹乱層
第67図 図版39 80	陶器	小碗	底部	― ― 4.15	半球形の小碗。灰色で緻密な胎土。内外面とも緑釉施釉だが高台無釉。畳付釉剥ぎ、砂付着。縦位へ2条の条線。肥前産で『九州陶器の編年』Ⅱ期(1650～1690年代)。	L1 98 拡乱	L1-98 撹乱層

注 「―」:計測不可

第20表　本土産陶磁器観察一覧⑤

単位:cm

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第67図 図版39 81	陶器	小碗	口縁部	11.45 － －	口縁部が端反りする小碗。黄灰色で緻密な胎土。内外面とも鉄釉を施釉。	第3基壇と③'横 石垣の間	南踊り場 断割①
第67図 図版39 82	陶器	小碗	底部	－ － 4.1	筒形の小碗。黄灰色で緻密な胎土。内外面とも緑釉が施釉されるが、高台から外底面までは露胎。	L3　96 石灰岩碑内	L3-96　石積？
第68図 図版40 83	陶器	皿	底部	－ － 4.05	灰色で緻密な胎土。内外面とも灰釉が施釉されるが、外面胴下部から底部まで露胎。兜巾あり。肥前産で『九州陶器の編年』Ⅰ期(1580～1610年代)。	SW13　内下部	L0-96　SW13
第68図 図版40 84	陶器	皿	口縁部	13.6 － －	灰白色で緻密な胎土。内面に銅緑釉、外面上部は灰釉が施釉される。肥前産で『九州陶器の編年』Ⅲ期(1650～1690年代)。	表　L2　99	L2-99　表採
第68図 図版40 85	陶器	皿	底部	－ － 4.35	灰白色で緻密な胎土。内面に緑釉で見込みが蛇の目状に釉剥ぎ、外面上部は灰釉が施釉される。肥前産で『九州陶器の編年』Ⅲ期(1650～1691年代)。	表　L2　100	L2-100　表採
第68図 図版40 86	陶器	皿	底部	－ － 4.5	色絵陶器皿。卵黄褐色で軟質な胎土。透明釉で高台を除く全面を施釉、全面に貫入あり。赤と金で絵付け。文様は残存部位僅少のため不明。関西系。	表　K10　101	K10-101　表採
第68図 図版40 87	陶器	蓋	庇部	－ － 庇　15.2	灰色で粗粒の胎土。内面と外面胴上部まで灰釉。	L2　96	L2-96　表採
第68図 図版40 88	陶器	皿	口縁部	12.2 － －	折縁形の皿。灰色緻密な胎土。灰釉を施釉、外面胴下部、内面見込み部は露胎。	K9　97　石組	K9-97　SW11
第68図 図版40 89	陶器	皿	底部	－ － 4.6	卵黄褐色で軟質な胎土。貫入のある灰釉を施釉、外面胴下部、内面見込み部は露胎。見込みは凸状。兜巾あり。関西系か。	L0　97 石組埋土 褐色砂層	L0-97　SW15 (褐色砂層)
第68図 図版40 90	陶器	大皿	口縁部	－ － －	鍔縁形の皿。赤褐色粗粒の胎土。内外面に褐釉を施釉。肥前。	L1　98　撹乱	L1-98　撹乱層
第68図 図版40 91	陶器	大皿	胴部	－ － －	褐色粗粒の胎土。外面に鉄釉。内面に刷毛目文。肥前で『九州陶器の編年』Ⅳ期(1690～1780年代)。	L4　99　表土	L4-99　表土
第68図 図版40 92	陶器	擂鉢	口縁部	22.8 － －	口縁部に外帯。暗灰色で粗粒の胎土。表面は赤褐色。備前で4b～5期。	第2　K4　95	K4-95　Ⅱ層
第68図 図版40 93	陶器	鍋	口縁部	11.8 － －	赤褐色で軟質の胎土。全面に緑釉施釉。	表　L6　96	L6-96　表採
第68図 図版40 94	陶器	鍋	口縁部	13.9 － －	卵黄褐色で軟質な胎土。内外面に灰釉を施釉。口唇部のみ露胎。	表土　L4　101	L4-101　表土
第68図 図版40 95	陶器	壷	口縁部	11.35 － －	褐色緻密な胎土。外面と内面一部に褐釉を施釉。	表　L2　100	L2-100　表採
第68図 図版40 96	陶器	急須	注口部	－ － －	上手形の急須。褐色緻密な胎土。外面に褐釉を施釉。白土象嵌により施文。内面注口部に1孔。	表　L0　97	L0-97　表採
第68図 図版40 97	陶器	急須	底部	－ － 5.65	灰色で緻密な胎土。外面に灰釉を施釉されるが、底部露胎。白土象嵌により施文。	K0　100 基礎石下 断割試掘	南踊り場 断割②
第68図 図版40 98	陶器	急須	底部	－ － 4.8	灰色で緻密な胎土。外面に灰釉を施釉されるが、底部露胎。	表　L4　101	L4-101　表採
第68図 図版40 99	陶器	急須	注口部	－ － －	胴折形の急須もしくは土瓶。赤褐色でやや軟質な胎土。無釉。内面注口部に3孔。	表　L4　100	L4-100　表採
第68図 図版40 100	陶器	人形？	－	高さ　2.9 縦　2.6 横　2.9	狛犬の土人形。あるいは蓋の把手、瓶の耳部などか。表面は褐色だが、内面は白色で軟質な胎土。無釉。型作り。	第2　K5　95	K5-95　Ⅱ層

注 「－」:計測不可

第20表　本土産陶磁器観察一覧⑥

単位:cm

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第68図 図版40 101	陶器	人形	―	縦　3.15 横　3.3 厚 0.2～0.6	土人形の一部でおそらく太夫の右腕部とみられる。灰色で軟質な胎土。型作りで人間の腕と扇。扇に赤等の色付残る。	SW9　遺構内	K1-96　SW9
第69図 図版41 102	陶器	壷	口～ 底部	10.5 18.0 13.1 胴径 17.0	双耳壷。赤褐色で砂の多く混じる胎土。全面黒釉。内面に円形の叩き痕あり。底部に貝目残る。薩摩で17世紀前半頃か。	L0　97 石組埋土 褐色砂層	L0-97　SW15 （褐色砂層）
第69図 図版41 103	陶器	壷	口縁部	9.3 ― ―	黒灰色で砂粒の多く混じる胎土。外面に褐釉。	表　L1　94	L1-94　表採
第69図 図版41 104	陶器	壷	口縁部	16.3 ― ―	赤褐色で砂の多く混じる胎土。全面黒釉。口唇部に貝目残る。薩摩で17世紀頃か。	表　L0　95	L0-95　表採
第69図 図版41 105	陶器	壷	胴部	― ― ―	黒褐色で砂の多く混じる胎土。内外面とも褐釉。内面に円形の叩き痕あり。外面に貼付で縄目文。薩摩産。	表　L2　96	L2-96　表採
第69図 図版41 106	陶器	瓶	頸部	― ― ―	青磁。内外面とも施釉。圏線などの施文あり。	SW13	L0-96　SW13
第69図 図版41 107	陶器	瓶か	底部	― ― 6.65	小瓶か。薄手。灰色で軟質の胎土。外面に褐釉。内面と底部は露胎。平底部。	表　K0　96	K0-96　表採
第69図 図版41 108	陶器	瓶か	底部	― ― 5.9	小瓶か。赤褐色で軟質の胎土。見込みに自然釉。	L0　97 井戸状石組 遺構外東側	L0-97　SW13
第69図 図版41 109	陶器	壺	口縁部	6.3 ― ―	小壺か。灰色で砂の多く混じる胎土。外面に褐釉施釉。	SW2　K3　96	K2-97　SW2
第69図 図版41 110	陶器	壺	胴部	― ― 4.6	油壺。黄褐色で軟質の胎土。外面に灰釉。	L0　97 SW13　外 井戸状石組 東側グリット	L0-97　SW13
第69図 図版41 111	陶器	壺	胴部	― ― ―	小壺か。褐色で砂粒の多い胎土。外面に褐釉。	K3　96　SW2 第3号石組 遺構内	K2-97　SW2
第69図 図版41 112	陶器	器種 不明	口縁部	15.25 ― ―	灰色で軟質の胎土。内外面に赤色釉を塗布。	第2　L3　98	L3-93　Ⅱ層
第69図 図版41 113	陶器	瓶	口縁部	8.2 ― ―	白色緻密な胎土。白釉が前面に施される。近代。	表土　L2　101	L2-101　表土
第69図 図版41 114	陶器	瓶	口縁部	5.2 ― ―	短頸の瓶。赤褐色で軟質な胎土。外面は透明釉で全体に貫入。内面は白釉。近代。	表土	表土
第69図 図版41 115	陶器	碗？	口縁部	― ― ―	黄褐色で軟質な胎土。緑釉が内外面とも施される。外面口縁部が少し肥大。外面胴部に蓮弁文。近代。	表　L5　97	L5-97　表採
第69図 図版41 116	陶器	器種 不明	底部	― ― 6.0	黄褐色で軟質な胎土。透明釉が内外面とも施されるが、底部は露胎。外底部に「出雲」「大」印判あり。近代。	L0　97　SW13	L0-97　SW13

注 「―」:計測不可

第21表　沖縄産施釉陶器集計表

分類	碗											
	直口				外反				その他		分類不明	
	口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	胴部	底部
個　数	3	125	64	64	16	367	298	289	67	1	1	1

分類	小碗												
	天目形	直口				外反				角杯			
	口～底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部
個　数	1	15	111	3	7	1	76	3	3	5	31	9	30

分類	小碗			皿				大皿			小杯		
	その他												
	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	底部
個　数	1	34	122	39	307	48	328	21	22	7	1	2	6

分類	壺			鉢				角鉢		鍋				
	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	口～底部 (把手付)	口縁部 (把手)	口縁部	胴部	底部
個　数	15	82	29	2	89	51	18	3	2	10	1	36	18	11

分類	瓶					水注類		水注類					
								急須					
	口～底部	口縁部	胴～底部	胴部	底部	口縁部	胴～底部	口縁部	口縁部～把手	把手	注口	胴部	底部
個　数	1	9	1	39	10	2	2	73	16	40	44	276	154

分類	水注類								蓋					
	アンビン			酒注										
	把手	胴部	底部	口縁部	注口	胴～底部	胴部	底部	撮～底部	庇～底部	庇	撮	胴部	底部
個　数	15	7	1	7	2	3	76	23	7	54	73	18	9	8

分類	袋物			火鉢		火炉		火取			火入		灯明具		
	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	口縁部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	底部	口～底部	胴部	底部
個　数	2	162	4	21	1	16	1	29	19	15	5	1	2	1	2

分類	置物	碍子	器種不明			合　計
	口～底部	底部	口縁部	胴部	底部	
個　数	1	1	3	99	10	4261

第22表　沖縄産施釉陶器観察一覧①

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第70図 図版42 1	碗	口縁部 ～底部	12.8 5.5 6.1	灰釉を内外面ともに胴部まで施釉。内底に蛇の目状に釉を塗布。高台は角形で高台内に1条削りを施す。	L1　98　撹乱	L1-98　撹乱層
第70図 図版42 2	碗	口縁部	13.2 － －	灰釉を内外面ともに胴部まで施釉。外面には鉄釉により抽象化された草花文を施す。	L0　97 井戸状石組 遺構外東側	L0-97　SW13
第70図 図版42 3	碗	底部	－ － 6.0	腰部以下は露胎。高台は角形をなす。	表採	表採
第70図 図版42 4	碗	底部	－ － 5.5	灰釉を内底から高台脇まで施釉。一部釉薬が高台まで垂れる。内底は鉄釉による圏線が1条巡り、砂が付着。	表土　K0　96	K0-96　表土
第70図 図版42 5	碗	口縁部	12.3 － －	灰釉を全面施釉。口縁内側の釉が一部白く濁る。	K5　98　第Ⅰ層 60-70	K5-98　Ⅰ層
第70図 図版42 6	碗	口縁部 ～底部	14.3 6.5 6.3	鉄釉を総釉後、内底を蛇の目状に釉剥ぎ。再度、内外面ともに腰部まで施釉。畳付や内底にアルミナが付着。	K1　96 石組遺構内	K1-96　SW9
第70図 図版42 7	碗	口縁部 ～底部	13.2 6.05 6.2	鉄釉を施釉後、内底を蛇の目状に釉剥ぎ。再度、内外面ともに胴部まで施釉。高台や外底面が黒く煤ける。	L0　97 井戸状遺構	L0-97　SW13?
第70図 図版42 8	碗	口縁部 ～底部	14.0 6.0 6.8	白化粧を施し、透明釉で施釉。畳付のみ露胎。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。畳付や内底にアルミナが付着。器表面には気泡がみられる。	かわや跡の 覆土中	かわや跡　Ⅰ層
第70図 図版42 9	碗	口縁部 ～底部	12.7 5.9～6.0 6.1	白化粧を施し、透明釉で施釉。畳付のみ露胎。内底は蛇の目状に釉剥ぎされ、畳付や内底にはアルミナが付着。外面に呉須による巴文を3つ施す。高台周辺には化粧時ついたと考えられる指跡がみられる。	表　K0　96	K0-96　表採
第70図 図版42 10	碗	口縁部	12.8 － －	白釉で全面施釉。外面に呉須による施文。	第2　L3　99	L3-99　Ⅱ層
第70図 図版42 11	碗	口縁部	10.9 － －	白釉で全面施釉。外面に呉須による花文を施す。	表　L4　100	L4-100　表採
第70図 図版42 12	碗	底部	－ － 6.4	白化粧後、全面施釉。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。内外面ともに圏線が腰部に2条巡り、外面ではさらに草花文を施す。畳付や内底にアルミナが付着。	L1　98　撹乱	L1-98　撹乱層
第70図 図版42 13	碗	口縁部 ～底部	13.2 5.9 6.5	白釉を畳付を除いて総釉。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。外面は丸文や草花文を施す。内外面ともに粗い貫入。内底にはアルミナが付着。	K1　96 石組遺構内	K1-96　SW9
第70図 図版42 14	碗	口縁部	－ － －	白釉を全面施釉。内外面に粗い貫入。外面は草花文が施文されていたようだが、一部のみ朱色が残る。	L1　98　撹乱	L1-98　撹乱層
第70図 図版42 15	碗	底部	－ － 7.0	白釉を外底や畳付を除いて総釉。内底を蛇の目状に釉剥ぎ後、緑釉を施す。外面は13同様に丸文を施文し、その他器面を緑釉で施釉。畳付や内底にアルミナが付着。	L0　97 井戸状遺構 グリット外	L0-97　SW13?
第70図 図版42 16	碗	底部	－ － 7.1	白化粧後、内底から高台内まで施釉。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。外面は線彫りによる圏線・斜格子文を施文後、呉須と釉を施釉。畳付にアルミナが付着。	表　L4　101	L4-101　表採
第70図 図版42 17	碗	底部	－ － 6.5	白化粧後、畳付を除いて総釉。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。外面は呉須により花文を施す。	L1　98　撹乱	L1-98　撹乱層
第70図 図版42 18	碗	底部	－ － 5.6	白化粧後、畳付を除いて総釉。内底は蛇の目状に釉剥ぎし、銅緑釉で圏線を2条施す。外面は緑釉などによる丸文を施す。畳付や内底にアルミナが付着。	第2　L2　99	L2-99　Ⅱ層
第70図 図版42 19	碗	口縁部	12.7 － －	白釉を施釉後、内底を釉剥ぎ。口縁部に青色の釉を塗布。	表　K4　97	K4-97　表採
第70図 図版42 20	碗	口縁部 ～底部	12.0 5.5 5.3	灰釉を内底から外面胴部まで施釉。高台は角形をなし、畳付には砂が付着。	表　K5　98	K5-98　表採

注 「－」:計測不可

第22表　沖縄産施釉陶器観察一覧②

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第70図 図版42 21	碗	口縁部 ～底部	12.0 5.95 5.7	内底にのみ白化粧後、畳付を除いて黒褐釉を施釉。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。畳付にわずかにアルミナが付着。	表　K10　96	K10-96　表採
第71図 図版43 22	小碗	口縁部 ～底部	8.9 4.55 3.8	内底から口唇まで灰釉を施釉し、外面は黒褐釉で施釉。畳付・外底のみ露胎。	表土　K10　100	K10-100　表土
第71図 図版43 23	小碗	口縁部 ～底部	9.1 4.9 4.1	内底から口唇まで灰釉を施釉し、外面は黒褐釉で施釉。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。畳付・外底のみ露胎。	基礎石下断割 試掘 K0　100	南踊り場 断割②
第71図 図版43 24	小碗	口縁部 ～底部	9.2 4.9 3.8	灰釉を全面施釉。畳付にアルミナが付着。内外面に細かい貫入がみられる。	Ⅳ期基壇	Ⅵ期基壇
第71図 図版43 25	小碗	口縁部 ～底部	9.3 4.35 3.7	白釉を全面施釉。口縁部・外底のみ白化粧が施されない。外面腰部に指跡があり、透明釉が掛からないことから施釉時に生じたと考えられる。	南の踊り場　東	南踊り場　Ⅰ層
第71図 図版43 26	小碗	口縁部 ～底部	10.2 4.7 4.3	畳付を除いて灰釉を全面施釉。外面は呉須により巴文を施す。	南側	Ⅶ期期壇 南踊り場　階段
第71図 図版43 27	小碗	口縁部 ～底部	8.7 5.05 4.0	白釉を全面施釉。内底は緑釉による巴文を施す。内外面に粗い貫入。畳付や内底にアルミナが付着。	かわや跡	かわや跡
第71図 図版43 28	小碗	口縁部 ～底部	7.8 4.55 3.8	白釉を全面施釉。内底には呉須により「沖縄神ネ□」を施す。	表　K5　103	K5-103　表採
第71図 図版43 29	小碗	底部	－ － 3.3	白釉を全面施釉。畳付のみ露胎し、わずかにアルミナが付着。内底には呉須により花文を施す。	不明	出土地不明
第71図 図版43 30	小碗	口縁部 ～底部	8.8 4.1 4.2	白釉を全面施釉。畳付のみ露胎し、アルミナが付着。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。	第2　K2　93	K2-93　Ⅱ層
第71図 図版43 31	小碗	口縁部 ～底部	7.8 4.4 3.9	畳付を除いて白釉を全面施釉。外面を胴部と腰部で面取りしている。	K1　96 石組遺構内	K1-96　SW9
第71図 図版43 32	小碗	口縁部	9.3 － －	灰釉を全面施釉。口唇が小さな玉縁状をなす。	第2層　K3　97 土坑(南側)	K3-97　Ⅱ層
第71図 図版43 33	小碗	底部	－ － 3.7	白化粧後、内面には透明釉、外面には黒褐釉を施釉。畳付のみ露胎。	南側	Ⅶ期期壇 南踊り場　階段
第71図 図版43 34	小碗	口縁部 ～底部	9.6 4.55 3.1	黒褐釉を内底から胴部まで施釉。外底部がわずかに煤ける。	表　L2　96	L2-96　表採
第71図 図版43 35	小碗	底部	－ － 3.7	灰釉を全面施釉。畳付のみ露胎し、アルミナが付着。	不明	出土地不明
第71図 図版43 36	小碗	底部	－ － 3.8	内面のみ白化粧後、透明釉を施釉。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。外面は黒褐釉を施釉し、畳付のみ露胎。畳付にはアルミナが付着。	不明	出土地不明
第71図 図版43 37	小碗	底部	－ － 4.2	内面は灰釉を施釉し、内底を蛇の目状に釉剥ぎ。外面は鉄釉で施釉し、畳付のみ露胎。高台内には砂が付着。	表土	表土
第71図 図版43 38	小碗	底部	－ － 4.2	黒褐色釉を内底から腰部まで施釉。高台はハの字状にひらく。	不明	出土地不明
第71図 図版43 39	小杯	口縁部	3.5 － －	灰釉を総釉。口唇が小さな玉縁状をなす。	表　K0　100	K0-100　表採
第71図 図版43 40	小杯	底部	－ － 2.1	内底から外面腰部まで灰釉を施釉。底部はハの字状にひらく。	表　L4　101	L4-101　表採

注 「－」:計測不可

第22表　沖縄産施釉陶器観察一覧③

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第71図 図版43 41	小杯	底部	― ― 2.3	灰釉を内底から高台脇まで施釉。一部高台に釉がかかる。	表　L2　99	L2-99　表採
第71図 図版43 42	皿	口縁部 ～底部	14.1 4.0 6.4	灰釉を畳付以外に施釉。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。口縁部の釉が一部白く濁る。	表　K0　95	K0-95　表採
第71図 図版43 43	皿	口縁部	12.4 ― ―	灰釉を内底から外面腰部まで薄く施釉。	表土　L1　101	L1-101　表土
第71図 図版43 44	皿	口縁部	― ― ―	白釉を内外面に施釉。口唇は平坦に形成し、灰釉を施釉。口縁部は波状をなす。	K4　97 第2層　10-20	K4-97　Ⅱ層
第71図 図版43 45	皿	底部	― ― ―	白釉を全面施釉。畳付のみ露胎。内底を蛇の目状に釉剥ぎ。内底中央は呉須による圏線が2条巡る。内体面は2条の圏線および草花文を施す。	L5　98　グリット カワヤ跡覆土	L5-98 かわや跡　覆土
第72図 図版44 46	大皿	口縁部	22.2 ― ―	黒褐釉を全面施釉。内体面は轆轤痕が明瞭に残る。	表　K6　96	K6-96　表採
第72図 図版44 47	大皿	底部	― ― 11.1	外面のみ黒褐釉を施し、外底は高台に沿って釉がみられる。内面は白釉を施釉し、一部粘土が貼付。	表　K0　96	K0-96　表採
第72図 図版44 48	大皿	底部	― ― 11.6	鉄釉を高台外から畳付まで施釉。内底面は轆轤痕が明瞭に残り、釉薬が点々と垂れる。	第2　K9　93	K9-93　Ⅱ層
第72図 図版44 49	大皿	口縁部	― ― ―	灰釉を全面施釉。口唇部が玉縁状に肥厚する。内外面ともに細かい貫入がみられる。	表土　L4　100	L4-100　表土
第72図 図版44 50	鉢	口縁部	20.0 ― ―	黒褐釉を口唇部から外面に施し、一部白く濁り発色が悪い。内面は白釉を施釉。口縁部は波状をなす。	表　L4　100	L4-100　表採
第72図 図版44 51	鉢	口縁部	26.4 ― ―	黒褐釉を全面施釉。口縁部が鍔縁状をなす。	L0　97　遺構外 西グリッド	L0-97　不明
第72図 図版44 52	鉢	口縁部	27.0 ― ―	口縁部が鍔縁状をなし、その中央より内面は白釉、外面は黒褐釉を施釉。	不明	出土地不明
第72図 図版44 53	鉢	口縁部	15.4 ― ―	黒褐釉を全面施釉。外面は轆轤痕が明瞭に残る。	L1　98　撹乱	L1-98　撹乱層
第72図 図版44 54	鉢	口縁部	19.8 ― ―	内体面から外面口縁部にかけて灰釉を施釉。外体面は黒褐釉が施釉。	表　K0　95	K0-95　表採
第73図 図版45 55	鉢	口縁部 ～底部	18.5 10.1～ 10.2 9.1	灰釉を内底から高台脇にかけて施釉。内底は蛇の目状に釉剥ぎ。口縁部は波状をなし、釉が白く濁る。畳付にアルミナが付着。	表　L4　100	L4-100　表採
第73図 図版45 56	鉢	底部	― ― 6.2	灰釉を内体面から外面腰部にかけて施釉。一部釉薬が高台まで垂れる。畳付や内底面の一部で砂が付着。	表　L2　104	L2-104　表採
第73図 図版45 57	鉢	底部	― ― 9.6	内面は灰釉を施釉し、蛇の目状に釉剥ぎ。外面は黒褐釉を施釉し、高台のみ露胎。高台に小孔がみられ、高台外面から内面に向かって穿つ。内面で粘土がたまっており、完全に貫通はしていない。	K5　97 第2層　50-60	K5-97　Ⅱ層
第73図 図版45 58	鉢	底部	― ― 11.3	内面は白釉を施し、蛇の目状に釉剥ぎ。外面は黒褐釉を施釉し、畳付のみ露胎。高台は外面を斜位に削る。	L5　98　グリット カワヤ跡の覆土	L5-98 かわや跡　覆土
第73図 図版45 59	鍋	口縁部	16.6 ― ―	口縁部が鍔縁状をなし、鍔縁上面は露胎する。内外面ともに施釉され、内面は轆轤痕が明瞭に残る。	表　K8　96	K8-96　表採
第73図 図版45 60	鍋	口縁部	12.3 ― ―	口縁部は鍔縁状をなし、鍔縁上面は露胎する。内面は白釉を施す。外面は灰釉を施釉後、飴釉を所々に垂らす。	第Ⅳ-Ⅴ期 北側翼状石垣 の覆土	Ⅴ～Ⅶ期基壇？

注 「―」:計測不可

第22表　沖縄産施釉陶器観察一覧④

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第73図 図版45 61	鍋	口縁部 (把手)	17.0 — —	黒褐釉を外面および把手に施す。口縁部は鍔縁状をなし、鍔縁上面はアルミナが塗布。内面は露胎。	L0　97　表	L0-97　表土
第73図 図版45 62	壺	口縁部	11.25 — —	鉄釉を施釉後、黒褐釉を全面施釉。口縁上部のみ露胎。	2層　黒色土混 赤土層 K6　97～99	K6-97～99 Ⅱ層 (黒土混赤土層)
第73図 図版45 63	壺	口縁部	10.8 — —	黒褐釉を口縁部内面から外面にかけて施釉。内面は露胎するが、一部釉薬が垂れる。	表土	表土
第73図 図版45 64	壺	口縁部	12.0 — —	外面のみ黒褐釉を厚く施し、内面は透明釉を薄く施釉。	2層　黒色土混り 赤土層 K6　97～99	K6-97～99　Ⅱ層 (黒土混赤土層)
第73図 図版45 65	壺	底部	— — 10.8	黒褐釉を内底から外面腰部にかけて施釉。内底面は露胎。外底面は黒褐釉により、渦巻文を施文。	表土　L4　100	L4-100　表土
第73図 図版45 66	壺	底部	— — 11.6	黒褐釉を外面腰部まで施釉。内面は露胎するが、釉が点々と垂れる。外面腰部に指痕あり。	表　K0　100	K0-100　表土
第74図 図版46 67	水注類 (急須)	口縁部	6.0 — —	灰釉を内面口縁部の一部および外面口唇以下に施釉。外面は粗い貫入がみられる。	表　L4　101	L4-101　表採
第74図 図版46 68	水注類 (急須)	口縁部・ 把手	6.95 — —	内面口縁部を除いて総釉。三角形状の把手に直径7mmの孔を穿ち、周辺に線彫りによる曲線文を1条施す。	L0　97 井戸状遺構 外グリット	L0-97　SW13?
第74図 図版46 69	水注類 (急須)	口縁部・ 把手	5.8 — —	灰釉を内面口縁部および口唇を除いて総釉。外面は飴釉を点々と垂らす。三角形状の把手に直径7mmの孔を穿つ。	表　K0　95	K0-95　表採
第74図 図版46 70	水注類 (急須)	口縁部	— — —	灰釉を内面口縁部を除いて総釉。線彫りを施した後、緑釉を塗布。	L5　98　グリット	L5-98　表採
第74図 図版46 71	水注類 (急須)	口縁部	7.2 — —	白釉を内面一部および口唇以下に施釉。外面は線彫りによる圏線・斜沈線を施した後、呉須・飴釉・緑釉を流し掛ける。	表土　K1　100	K1-100　表土
第74図 図版46 72	水注類 (急須)	口縁部	5.6 — —	灰釉を外面口唇部以下に施釉。外面は線彫りによる2条1組の圏線・斜沈線・縦位沈線を施した後、文様部を黒土で象嵌する。	L0　97　SW13 井戸状石組 東側ｸﾞﾘｯﾄ外 ＋L4　98	L0-97　SW13 ＋ L4-98　表採
第74図 図版46 73	水注類 (急須)	口縁部	7.0 — —	内面口縁部から口唇を除いて総釉。外面は線彫りによる2条1組の圏線・菊花文・斜沈線を施した後、文様部を白土で象嵌する。	表　L4　100	L4-100　表採
第74図 図版46 74	水注類 (急須)	底部	— — 10.0	白釉を内面にのみ施釉。外面は呉須を胴部まで施す。内底は呉須を散らす。注口のためか胴部に孔が2つ穿たれ、周囲を線彫りによる斜沈線で囲む。	L4　99　表土	L4-99　表土
第74図 図版46 75	水注類 (急須)	底部	— — 9.0	白釉を外底を除いて総釉。内底は線彫りによる圏線を施す。外面は呉須・飴釉・緑釉を流し掛ける。	L1　97　第2層 褐色混礫土層	L1-97　Ⅱ層 (褐色混礫土層)
第74図 図版46 76	水注類 (急須)	底部	— — 6.0	黒褐釉を外面腰部に施釉。内面および外底は露胎する。	表　K0-100	K0-100　表採
第74図 図版46 77	水注類 (急須)	底部	— — 6.6	外底を除いて灰釉を総釉。外面は粗い貫入がみられる。内底は白釉が点々と垂れる。	K1　96 石組遺構内	K1-96　SW9
第74図 図版46 78	水注類 (急須)	注口	1.9 — 2.55	外面のみ黄褐色釉を施釉。急須と注口の接合部の孔は1つあり、直径9mmをはかる。注口は急須器面から丸みをつけて斜め上方へ立ち上がる。	不明	出土地不明
第74図 図版46 79	水注類 (急須)	注口	0.9 — 3.5	外面のみ黒色釉を施釉。急須と注口の接合部に直径5～10mmの孔を3つ穿つ。注口は急須器面から斜め上方に立ち上がる。	南側	Ⅶ期期壇 南踊り場　階段
第74図 図版46 80	水注類 (急須)	底部	— — 5.8	平底。内底は灰釉、外底は黒色釉を腰部まで厚く施釉。内底はわずかに砂が付着。外底は露胎し、中央に「□酒□」と施す。	L2　107 爆弾跡	爆弾跡④

注 「—」:計測不可

第22表　沖縄産施釉陶器観察一覧⑤

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第74図 図版46 81	水注類 (ｱﾝﾋﾞﾝ)	胴部	― ― ―	黒褐釉を内面口縁部を除いて総釉。外面は把手を1つ貼付し、その根元に釉を流し掛ける。	表土 L4 100	L4-100 表土
第74図 図版46 82	水注類 (ｱﾝﾋﾞﾝ)	把手	― ― ―	黒色釉を総釉。	L1 98 撹乱	L1-98 撹乱層
第75図 図版47 83	水注類 (酒注)	口縁部	5.3 ― ―	内外面ともに白釉を施釉後、呉須を流し掛ける。	表 L4 103	L4-103 表採
第75図 図版47 84	水注類 (酒注)	胴部～ 底部	― ― 6.4	外面胴部から高台脇にかけて白釉を施す。内面は露胎。外面は線彫りによる圏線や縦位沈線を施し、呉須や緑釉を塗布。	不明	出土地不明
第75図 図版47 85	水注類 (酒注)	底部	― ― 9.7	内面は黒褐釉、外面は白釉を施釉する。畳付から高台内のみ露胎。外面や外底の一部に呉須による施文。	表 K0 100	K0-100 表採
第75図 図版47 86	水注類 (酒注)	胴部	― ― ―	外面は白釉を施し、肩部には線彫りによる2本単位の沈線で多角形に文様を施す。直下に呉須により草花文を描き、飴釉や緑釉を流し掛ける。内面は露胎するが一部釉がみられる。	L5 98 グリット カワヤ跡の覆土	L5-98 かわや跡 覆土
第75図 図版47 87	水注類 (酒注)	胴部	― ― ―	外面は白釉を施し、線彫りによる圏線を2条巡らす。圏線には呉須を塗布。圏線より上部(口縁部側)は飴釉・緑釉を流し掛ける。内面は露胎。	第2 K8 96	K8-96 Ⅱ層
第75図 図版47 88	水注類 (酒注)	胴部～ 底部	― ― 7.65	白釉を外面のみ施すが、畳付は露胎。外面は線彫りによる圏線・格子文・縦位沈線・斜沈線を施した後、呉須と飴釉を流し掛ける。	第2 K9 93	K9-93 Ⅱ層
第75図 図版47 89	水注類 (酒注)	底部	― ― 7.4	内底から胴部にかけ白釉を施釉後、呉須を流し掛ける。高台以下は露胎。	表 L1 93	L1-93 表採
第75図 図版47 90	瓶	口縁部 ～底部	3.2 13.35 5.7	灰黒色釉を内面頸部から外面腰部にかけて施釉。外底は露胎。	不明	出土地不明
第75図 図版47 91	水注類	口縁部	3.6 ― ―	内外面ともに鉄釉を総釉。	L5 98 グリッド	L5-98 表採
第75図 図版47 92	水注類	口縁部	6.1 ― ―	内外面ともに緑釉を総釉。	第2 L3 98	L3-98 Ⅱ層
第75図 図版47 93	水注類	胴部～ 底部	― ― 5.0	外面は腰部まで黒褐色釉を施釉。一部釉が外底に付着する。内底は露胎。	表 L2 96	L2-96 表採
第75図 図版47 94	水注類	胴部～ 底部	― ― 8.7	外面のみ白釉を総釉する。外面は線彫りによる圏線を2条施した後、呉須を塗布。畳付のみ露胎し、一部アルミナが付着する。	表 L4 100	L4-100 表採
第75図 図版47 95	瓶	底部	― ― 4.6	外面は外底脇まで暗緑色釉を施釉。内面は露胎。	表 L1 101	L1-101 表採
第75図 図版47 96	瓶	胴部～ 底部	― ― 5.0	暗褐色釉を外底脇まで施す。内面は露胎。	表土 L1 101	L1-101 表土
第75図 図版47 97	瓶	胴部	― ― ―	外面は黒釉を総釉。内面は露胎。	K4-98	K4-98 表採
第75図 図版47 98	灯明具	口縁部 ～底部	5.0 4.3 3.3	内底から外底脇にかけて白釉を施釉。内外面ともに貫入がみられる。内面中央に直径約5mmの釘穴が穿たれる。外底は露胎。	第13 柱穴	K3-93 柱穴13
第75図 図版47 99	灯明具	口縁部 ～底部	4.7 4.6 4.5	内底から外底脇にかけて黒褐色釉を施釉。内面中央に直径約5mmの釘穴が穿たれる。外底は露胎し、砂が付着する。	K0-100	K0-100 表採
第76図 図版48 100	火炉	口縁部	24.0 ― ―	緑釉で総釉。鍔縁状に口縁を形成し、内面口縁部に突起を貼付。	不明	出土地不明

注 「―」:計測不可

第22表　沖縄産施釉陶器観察一覧⑥

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第76図 図版48 101	火炉	口縁部	14.8 ー ー	褐釉で総釉。内面口縁部に平面三角形状の突起がみられることから、本来は3つ突起を形成すると考えられる。外面口唇下に2条の沈線を施す。	表 L4 100	L4-100 表採
第76図 図版48 102	火炉	口縁部	24.0 ー ー	外面は口縁上面から緑釉や呉須を施すが、焼成により発色が悪く白く濁る。内面は露胎。	表 L4 101	L4-101 表採
第76図 図版48 103	火炉	口縁部	17.7 ー ー	暗褐色釉で総釉。内面口縁部に平面三角形状の突起を有する。	表 L4 100	L4-100 表採
第76図 図版48 104	火炉	口縁部	16.6 ー ー	褐釉を内面胴部から外面にかけて施釉。内面口縁部に平面三角形状の突起を貼付。胴部には獣面の耳を横位に貼付。	南側	Ⅶ期期壇 南踊り場 階段
第76図 図版48 105	火炉	底部	ー ー ー	黒褐色釉を内底から外面腰部にかけ施釉。	第2層 黒色土混り 赤土層 K6 97～99	K6-97～99 Ⅱ層 (黒土混赤土層)
第76図 図版48 106	火入	口縁部	9.15 ー ー	筒型の火入で暗褐色釉を口縁内面から外面にかけ施釉。	南踊り場	南踊り場 Ⅰ層
第76図 図版48 107	火入	口縁部	10.2 ー ー	筒型の火入で直線的に立ち上がる。銅緑釉を口縁内面から外面にかけて施釉。	L1 98 撹乱	L1-98 撹乱層
第76図 図版48 108	火入	口縁部	ー ー ー	筒型の火入で胴緑釉を口縁内面から外面に掛けて施釉。	表 L1 103	L1-103 表採
第76図 図版48 109	火入	口縁部	ー ー ー	黒色釉を総釉するが、口縁上面のみ露胎。外面口唇下に2条の沈線を巡らす。	Ⅱ層 10/30 K3 95	K3-95 Ⅱ層
第76図 図版48 110	火入	口縁部	ー ー ー	内外面に白釉を施すが、口唇部のみ露胎。外面は線彫りによる2本単位の圏線・縦位沈線・格子文を施した後、呉須や緑釉を流し掛ける。	表土 K0 100	K0-100 表土
第76図 図版48 111	火入	底部	ー ー 10.2	内湾する火入で白釉を外面胴部のみ施釉。内底および外底は露胎。	かわや跡の 覆土中	かわや跡 Ⅰ層
第77図 図版49 112	蓋	撮～底	庇 6.3 2.8 袴 4.9	急須の蓋。暗褐色釉を上面端部まで施釉。	表 K0 100	K0-100 表採
第77図 図版49 113	蓋	庇～底	庇 7.1 ー 袴 5.2	急須の蓋。暗緑釉を上面端部まで施釉。撮は欠損し、周辺に孔が2つ穿たれる。	K1 102 踊り場断割	南踊り場 断割④
第77図 図版49 114	蓋	庇～底	庇 7.6 ー 袴 6.3	急須の蓋。白釉を上面端部まで施釉。上面は黒象嵌状に丸文や沈線を施す。	K3 96 石組第2号 遺構内 SW3	K2-96 SW3
第77図 図版49 115	蓋	庇～底	庇 5.6 ー 袴 4.2	急須の蓋。緑釉を上面端部まで施釉。上面は線彫りによる3本単位の沈線や花文を施す。撮は欠損し、周辺に孔が1つ穿たれる。	表 K7 101	K7-101 表採
第77図 図版49 116	蓋	庇～底	6.2 2.9 4.6	急須の蓋。灰釉を上面端部まで施釉。上面は線彫りによる2本単位の圏線や草文を施した後、文様部を白土で象嵌する。	表 L4 98	L4-98 表採
第77図 図版49 117	蓋	庇～底	7.0 ー 4.2	急須の蓋。白釉を上面端部まで施釉。上面は線彫りによる2本単位の圏線・区画・斜沈線を施し、呉須・飴釉・緑釉を流し掛ける。撮は欠損し、周辺に孔が1つ穿たれる。	表土 L2 98	L2-98 表土
第77図 図版49 118	蓋	撮～底	庇 7.9 3.3 袴 5.7	急須の蓋。白化粧後、緑釉を上面端部まで施釉。上面は線彫りによる2本単位の圏線・丸文を施し、飴釉を流し掛ける。撮の周辺に孔が1つ穿たれる。	表 K0 100	K0-100 表採
第77図 図版49 119	蓋	撮～底	庇 5.9 1.6 袴 4.5	急須の蓋。白釉を上面端部まで施釉。呉須により撮は渦巻文、上面は端部まで波状文を施す。	不明	出土地不明
第77図 図版49 120	蓋	庇～底	庇 10.7 ー 袴 9.0	碗に対応する蓋か？白化粧を全面に施し、上面のみ端部まで透明釉を施釉。上面は線彫りによる2本単位の圏線・区画・斜沈線・格子文を施した後、呉須や緑釉を流し掛ける。	L4 99 表土	L4-99 表土

注 「ー」:計測不可

第22表　沖縄産施釉陶器観察一覧⑦

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第77図 図版49 121	蓋	撮～底	庇 11.3 3.6 袴 9.6	碗の蓋。白釉を上面端部まで施釉。上面は飴釉により6枚の花弁からなる花文を5つ施す。	表 K0 95	K0-95 表採
第77図 図版49 122	蓋	撮～底	庇 10.0 1.9 －	急須の蓋。黒褐色釉を上面端部まで施釉。上面に10条の沈線を施す。	不明	出土地不明
第77図 図版49 123	蓋	底部	庇 11.9 － －	急須の蓋。黒色釉を上面端部まで施釉。	第2 K4 98	K4-98 Ⅱ層
第77図 図版49 124	蓋	撮～底	庇 － 3.9 袴 8.2	壺の蓋。黒褐色釉を上面端部まで施釉し、蛇の目状に釉剥ぎする。上面端部周辺の露胎部にアルミナが付着。	表 L4 100	L4-100 表採
第77図 図版49 125	蓋	撮～底	18.5 5.9 8.4	摘み高台状の蓋。内面腰部から外面腰部にかけ灰釉を施釉。内底は轆轤痕が明瞭に残り、わずかに煤けるが外面は丁寧に器面調整を施す。	SW3 覆土 コーラル層	K2-96 SW3
第77図 図版49 126	蓋	庇～底	庇 11.0 － 袴 10.0	肩部がよく張る。上面端部まで白釉を施釉。呉須により絵付けする。	第74 柱穴	L1-93 柱穴74
第77図 図版49 127	蓋	庇～底	庇 9.4 － －	白釉を総釉。	L1 98	L1-98 表採

注 「－」:計測不可

第23表　沖縄産無釉陶器集計表

分類	碗				皿				大皿		
	口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	底部
個数	9	79	15	46	7	25	2	5	2	3	2

分類	鉢				擂鉢				急須		
	口～底部	口縁部	胴部	底部	口～底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部
個数	3	172	35	26	1	88	128	29	37	46	2

分類	瓶			角瓶			壺				小壺
	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	把手	胴部	底部	胴部
個数	30	229	40	2	6	2	115	1	1059	149	3

分類	火炉					蓋	甕				
	口～底部	口縁部	把手	胴部	底部		口～底部	口縁部	胴部	胴～底部	底部
個数	1	50	3	17	14	23	3	104	346	1	16

分類	壺か甕		小甕	厨子甕	灯明具			土管		筒物	
	胴部	底部	口縁部	胴部	口～底部	口縁部	底部	口縁部	胴部	口縁部	底部
個数	11	3	1	1	1	1	4	1	1	5	1

分類	タイル(陶製)	器種不明					合計
	口縁部	口～底部	口縁部	把手	胴部	底部	
個数	1	1	3	1	111	10	3133

第24表　沖縄産無釉陶器観察一覧①

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第78図 図版50 1	碗	口～底部	12.5 6.4 6.5	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部は丸縁で直口し、外面下半にロクロナデが強く残る。見込みには黒色釉が付着し、高台と見込みにサンゴ目の痕あり。初期沖縄産無釉陶器。	化粧石前プール	SP3
第78図 図版50 2	碗	口～底部	16.1 6.1～6.3 7.9	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部は丸縁で僅かに外反。外面下半にロクロナデが強く残る。見込みには飛沫状に黒色釉が付着しサンゴ目有り。高台は付け高台でロクロケズリで仕上げる。初期沖縄産無釉陶器。	K0 97 石組遺構内	K0-97 SW6
第78図 図版50 3	碗	口～底部	13.8 6.0 6.7	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部は丸縁でS字状に捻られている。高台は付け高台で、高台と見込みに自然釉とサンゴ目の痕あり。天目として使用か。初期沖縄産無釉陶器。	X100 Y110 石組井戸状 遺構内	K0-99 SW4
第78図 図版50 4	碗	口～底部	12.8 6.0 6.3	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部は丸縁で強く外反。外面には自然釉が薄くかかり内面は黒灰色を呈す。高台は付け高台で僅かに歪む。喜納焼か。	表 L2 96	L2-96 表採
第78図 図版50 5	碗	口縁部	14.2 － －	茶褐色で緻密な胎土。口縁部は丸縁で僅かに外反。初期沖縄産無釉陶器。	L0 97 石組埋土 褐色砂層	L0-97 SW15 （褐色砂層）
第78図 図版50 6	皿	口～底部	10.4 2.75 5.0	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部は丸縁で外反し底部は平底。外面には薄く鉄泥釉を施釉。燈明皿か。	SW13	L0-96 SW13
第78図 図版50 7	皿	口縁部	9.6 － －	暗灰色で緻密な胎土。口縁部は平坦で直口。燈明皿か。	第2基壇 前面	Ⅱ期基壇 前面
第78図 図版50 8	大皿	口～底部	27.6 4.4 16.6	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部は丸縁で外面底部以外に鉄泥釉を施釉。底部は全面的に剥離。初期沖縄産無釉陶器。	L0 97 石組埋土 褐色砂層	L0-97 SW15 （褐色砂層）
第78図 図版50 9	大皿	口縁部	23.0 － －	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部は外反し口唇端部が上方に僅かに尖る。全体的に鉄泥釉を施釉するが口縁部下部には施釉されず。初期沖縄産無釉陶器。	L0 97 SW13 井戸状石組遺構外 東側グリッド外	L0-97 SW13
第78図 図版50 10	大皿	底部	－ － 21.0	外面は橙褐色、内面は暗黄灰色を呈す緻密な胎土。内面は灰色を呈し内面底部には板ナデが一部みられる。高台は付け高台。	L0 97	L0-97 表採
第78図 図版50 11	大皿	底部	－ － 8.1	灰茶褐色で緻密な胎土。高台は付け高台で僅かに歪む。外底部に石灰とみられる白色物質が僅かに付着。	表 L0 95	L0-95 表採
第78図 図版50 12	大皿	口縁部	－ － －	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部は平坦で僅かに外反。全体的に鉄泥釉を施釉し、外面下半には二枚貝とみられる貝目の痕あり。初期沖縄産無釉陶器。	表土 L5 95	L5-95 表土
第79図 図版51 13	大皿	口～底部	30.9 6.1 17.5	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部は丸縁で外反し、外面全体と内面の一部に鉄泥釉を施釉。口縁部上面に貝目が残り、その部分は僅かに凹む。底部は歪み、他個体か窯道具とみられる跡がある。	表 L2 96	L2-96 表採
第79図 図版51 14	鉢	口～底部	12.8 9.7 10.2	暗茶褐色で緻密な胎土。口縁部は短く僅かに外反する。外面上半と内面の一部に鉄泥釉が施釉され、胴部に1条の沈線が巡る。	表 L2 96	L2-96 表採
第79図 図版51 15	鉢	口縁部	16.4 － －	暗茶褐色で緻密な胎土。口縁部は短く肥厚し、口縁部上面は平坦。肩部には一条の沈線が巡る。外面と内面上半に鉄泥釉が施釉され、肩部には黄灰色の釉を部分的に施釉。	SW2 遺構内	K2-97 SW2
第79図 図版51 16	鉢	口縁部	14.9 － －	赤褐色で緻密な胎土。口縁部は短く僅かに外反する。外面には塩釉が施釉され光沢あり。肩部には一条の沈線が巡る。	SW13	L0-96 SW13
第79図 図版51 17	鉢	口縁部	23.2 － －	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部は短い鍔状。外面上半には波状文が9条描かれる。	L0 97 表土	L0-97 表土
第79図 図版51 18	鉢	口縁部	15.2 － －	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部は肥厚し内湾。外面は高温に晒されたせいか荒い。内面の一部や破断面には石灰が少量付着。	表 K5 98	K5-98 表採
第80図 図版52 19	鉢	口縁部	25.7 － －	赤褐色で緻密な胎土。口縁部は丸縁で僅かに内湾。口縁部下部に一条の沈線と波状文4条、内面には「∴」の下に「一」が書かれた墨書あり。	L2 104 表土	L2-104 表土
第80図 図版52 20	鉢	底部	－ － 9.5	茶褐色で緻密な胎土。外面上半に波状文が5条描かれ、外面上半に鉄泥釉を施釉。	K9 K10 100 基壇正面の 上部礫層中	K9･10-100 Ⅱ期基壇正面 の上部礫層中
第80図 図版52 21	鉢	口縁部	－ － －	灰色で緻密な胎土。口縁部は強く外反し鍔状。口縁部上面に1条の沈線が巡り、外面下半には3条の沈線が巡る。口縁部上面と裏面全体に石灰が薄く付着。	第2 K4 98	K4-98 Ⅱ層
第80図 図版52 22	鉢	口縁部	31.0 － －	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部は強く外反して鍔状を呈し、外面全体に自然釉が薄くかかる。	かわや跡覆土中	かわや跡 Ⅰ層

注 「－」:計測不可

第24表　沖縄産無釉陶器観察一覧②

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第80図 図版52 23	擂鉢	口縁部	26.0 ー ー	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部は丸縁で、口縁部下部を屈曲させ2条の突帯を成形。全体に鉄泥釉を施釉。擂目(9本/1.8cm)。初期沖縄産無釉陶器。擂鉢編年Ⅰ式。	表　L2　96	L2-96　表採
第80図 図版52 24	擂鉢	口縁部	36.8 ー ー	茶褐色で緻密な胎土。口縁部は鍔縁で、口縁部下部に一条の突帯が巡る。全体に鉄泥釉を施釉。擂目(10本/2cm)。初期沖縄産無釉陶器。擂鉢編年Ⅱ式。	K1　96 石組遺構内	K1-96　SW9
第80図 図版52 25	擂鉢	口縁部	30.9 ー ー	橙褐色で緻密な胎土。口縁部は丸縁で鍔縁。擂目(12本/1.6cm)は密に入る。擂鉢編年Ⅳ式。	かわや跡の 覆土中	かわや跡　Ⅰ層
第81図 図版53 26	擂鉢	口～底部	27.5 12.9 11.2	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部は鍔縁で、口縁部下部に突帯が1条。口縁部の逆方向に自然釉が垂れた跡から伏せ焼きをしたとみられる。擂目(11本/1.6cm)。初期沖縄産無釉陶器。擂鉢編年Ⅱ式。	表　L2　96	L2-96　表採
第81図 図版53 27	擂鉢	底部	ー ー ー	橙褐色で緻密な胎土。脚付きの擂鉢で脚部には3方向から小孔が開く。外底面には櫛状工具により渦巻き状に沈線が入る。擂目(13本/3cm)は密にある。擂鉢編年Ⅳ式。	不明	出土地不明
第81図 図版53 28	擂鉢	底部	ー ー 11.1	橙褐色で緻密な胎土。外面下半から底部は板ナデ。擂目(25本/3cm)。擂鉢編年Ⅳ式。	L4　99　撹乱 (表土層)	L4-99　表土
第81図 図版53 29	急須	口縁部	9.6 ー ー	茶褐色で緻密な胎土。口縁部内面に受部を成形。外面に泥釉を施釉し、一部に黄白色釉を施釉。内面に火脹れとみられる凹凸が存在。初期沖縄産無釉陶器。	L0　97　石垣埋土 褐色砂層	L0-97　SW15 (褐色砂層)
第81図 図版53 30	急須	口縁部	6.6 ー ー	茶褐色で緻密な胎土。口縁部内面に受部を成形。外面に自然釉が薄くかかる。初期沖縄産無釉陶器。	石組遺構内 X100　Y110	K0-99　SW4
第81図 図版53 31	急須	胴部	ー ー ー	暗赤褐色で緻密な胎土。外内面の一部に石灰が付着。把手は貼付。	第Ⅳ・Ⅴ期基壇 北側翼状石垣 の覆土	Ⅴ～Ⅶ期 基壇？
第81図 図版53 32	瓶	口縁部	6.2 ー ー	赤褐色で緻密な胎土。口縁部は丸縁で口唇部は少し尖る。	L1　98　撹乱	L1-98　撹乱層
第81図 図版53 33	瓶	口縁部	5.3 ー ー	黒灰色で緻密な胎土。口縁部は僅かに膨らむ。表面にまばらに自然釉がかかる。初期沖縄産無釉陶器。	中央爆弾跡 K6　69　撹乱	爆弾跡②
第81図 図版53 34	瓶	底部	ー ー 5.4	暗赤褐色で緻密な胎土。全体的に分厚く、外底面の造りは非常に粗い。外面に半円状の沈線があるが意図不明。	表土　L5　98	L5-98　表土
第81図 図版53 35	瓶	底部	ー ー 7.3	明赤褐色で緻密な胎土。高台に2個の小孔が並んで存在。外面全体に茶褐色釉を施釉。	S60	出土地不明
第82図 図版54 36	角瓶	口縁部	8.3 ー ー	灰色で緻密な胎土。外面全面に算木文が施され、角の部分は後付け。表面には厚く自然釉が付着。初期沖縄産無釉陶器。	中央部　爆弾跡	爆弾跡②
第82図 図版54 37	角瓶	胴部	ー ー ー	暗灰褐色で緻密な胎土。外面に雷文を施し、角の部分は後付け。初期沖縄産無釉陶器。	K4　97　撹乱	K4-97　撹乱層
第82図 図版54 38	角瓶	底部	ー ー ー	黒褐色で緻密な胎土。外面に雷文を施し、角の部分は後付け。底部はナデで仕上げる。初期沖縄産無釉陶器。	第2　L4　99	L4-99　Ⅱ層
第82図 図版54 39	角瓶	胴部	ー ー ー	暗黒褐色で緻密な胎土。外面に雷文を施し、角の部分は後付け。初期沖縄産無釉陶器。	100トレンチ第2 段階の基壇正面 石積内その下	Ⅱ期基壇
第82図 図版54 40	角瓶	口縁部	ー ー ー	黒灰色で緻密な胎土。外面に雷文を施し、角の部分は後付け。初期沖縄産無釉陶器。	中央爆弾跡 K6　69　撹乱	爆弾跡②
第82図 図版54 41	壺	口縁部	15.6 ー ー	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部が大きく外反して肥厚し、口唇部は外を向く。	表　L2　104	L2-104　表採
第82図 図版54 42	壺	口縁部	17.6 ー ー	橙褐色で緻密な胎土。口縁部は逆L字状で頚部は直立。口縁部側面に沈線が一条巡る。	かわや跡 の覆土	かわや跡　Ⅰ層
第82図 図版54 43	壺	口縁部	17.0 ー ー	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部は逆L字状で、外面全体に鉄泥釉を施釉。口縁部下部に3条の沈線、肩部外面に縄目文を貼付。焼成時に付着したとみられる付着物2つあり。初期沖縄産無釉陶器。	表　K3　92	K3-92　表採
第82図 図版54 44	壺	口縁部	10.0 ー ー	黒灰色で緻密な胎土。口縁部は僅かに膨らむ。初期沖縄産無釉陶器。	K5　97　撹乱層	K5-97　撹乱層

注「ー」:計測不可

第24表　沖縄産無釉陶器観察一覧③

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第82図 図版54 45	壺	口縁部	6.6 － －	黒灰色で緻密な胎土。口縁部は三角形状。内面の器面はまだらに剥離。初期沖縄産無釉陶器。	K3　96　3号 石組遺構内 SW3遺構	K2-96　SW3
第82図 図版54 46	壺	口縁部	6.0 － －	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部上面は平坦で外面端部を引き出す。	L0　97 井戸状石組 東側グリッド外	L0-97　SW13
第82図 図版54 47	壺	口縁部	13.2 － －	暗茶褐色で緻密な胎土。口縁部は玉縁状に厚く肥厚。	表　L6　96	L6-96　表採
第82図 図版54 48	壺	底部	－ － 15.6	明赤褐色で砂粒を多く含む胎土。外面上半と内面全体にマンガン釉を施釉。底部の作りは粗い。	K6　98　第2層 70－80	K6-98　Ⅱ層
第83図 図版55 49	火炉	口縁部	18.6 － －	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁内側に平面三角形の突起を貼付し、全体的に泥釉が薄くかかる。初期沖縄産無釉陶器。	SW13　内下部	L0-96　SW13
第83図 図版55 50	火炉	口～底部	－ － －	暗茶褐色で緻密な胎土。口縁部は「く」の字に内湾し、胴部に横位に耳を貼付。全体的に火膨れし、底部の作りは粗く別個体の破片が融着。初期沖縄産無釉陶器。	表　L2　96	L2-96　表採
第83図 図版55 51	火炉	底部	－ － 11.3	暗茶褐色で緻密な胎土。底部外面に円柱状の脚を3点貼り付けたとみられ、脚の先はナデで仕上げる。初期沖縄産無釉陶器。	表　L2　96	L2-96　表採
第83図 図版55 52	蓋	口～底部	－ － －	黒褐色で緻密な胎土。円盤形でつまみは外面中央に粘土紐を貼り付けて成形。初期沖縄産無釉陶器。	K2　100　南石段 (基壇)の内側の 基壇石列	南踊り場 断割①
第83図 図版55 53	蓋	口～底部	庇 17.2 － －	黒褐色で緻密な胎土。円盤形で外面中央につまみを貼り付けた痕跡あり。内面にはサンゴの目跡が僅かに確認できる。初期沖縄産無釉陶器。	表　L5　96	L5-96　表採
第83図 図版55 54	蓋	口縁部	－ － －	暗茶褐色で緻密な胎土。庇と袴を持ち、袴の端は僅かに内湾。外面に自然釉がかかり焼成時の灰とみられる付着物あり。	L0　97　SW13 井戸状石組 東側グリッド外	L0-97　SW13
第83図 図版55 55	蓋	口縁部	庇 19.2 － －	暗茶褐色で緻密な胎土。外面中位がくびれ、沈線が1条巡る。自然釉が僅かにかかる。	表　L2　96	L2-96　表採
第83図 図版55 56	蓋	口縁部	撮 6.8 － －	暗茶褐色で緻密な胎土。高台付きの皿を伏せた形態。つまみは付け高台と同じ形態。初期沖縄産無釉陶器。	表　L2　96	L2-96　表採
第84図 図版56 57	甕	口縁部	79.4 － －	赤褐色で砂粒を多く含む胎土。口縁部は逆L字状で頸部に突帯を一条貼付。	4号甕	L1・2-93 4号甕
第84図 図版56 58	甕	口縁部	－ － －	暗赤褐色で砂粒を多く含む胎土。口縁部は貼付で、等間隔に指による押圧文を巡らし、外部下半に龍の一部(タテガミ？)を貼付。62と同一個体で、63・64も同一個体か。	表土　K10　103	K10-103　表土
第84図 図版56 59	甕	口縁部	62.6 － －	暗赤褐色で砂粒を多く含む胎土。口縁部は鍔状に強く引き出す。	L8　98　表	表採
第84図 図版56 60	甕	口縁部	－ － －	明赤褐色で緻密な胎土。口縁部は貼り付けて成形され、口唇部は僅かに内側に飛び出す。	K1　96 石組遺構内	K1-96　SW9
第84図 図版56 61	甕	口縁部	－ － －	暗赤褐色で緻密な胎土。口縁部は外側に折り返す。内外面全体に鉄泥釉を施釉。沖縄産初期無釉陶器。	SW13	L0-96　SW13
第84図 図版56 62	甕	胴部	－ － －	赤褐色で砂粒を多く含む胎土。龍の頭部を貼付。58と同一個体。63・64も同一個体か。	L4　100	L4-100　表採
第84図 図版56 63	甕	胴部	－ － －	赤褐色で砂粒を多く含む胎土。龍の胴部を貼付。58・62・64と同一個体か。	表　L0　98	L0-98　表採
第85図 図版56 64	甕	胴部	－ － －	赤褐色で砂粒を多く含む胎土。4本爪の龍の手を貼付。58・62・63と同一個体か。	K4　97　第2層 10-20	K4-97　Ⅱ層
第85図 図版56 65	甕	底部	－ － 20.7	赤褐色で緻密な胎土。内面全体に厚く石灰が付着。	4号カメ	L1・2-93 4号甕
第85図 図版56 66	甕	胴～底部	－ － 31.0	暗赤褐色で緻密な胎土。外面下半の一部に石灰付着。内面下半に厚く石灰が付着するが、内面底部には付着しない。内面の一部に銅錆、鉄錆付着。	1号甕	L0-92　1号甕

注 「－」:計測不可

第25表　陶質土器集計表

分類	皿		鍋						鍋か土瓶		土瓶				
	口縁部	底部	口～底部	口～胴部	口縁部	耳	胴部	底部	胴部	底部	口縁部	耳	注口	胴部	底部
個数	1	6	2	1	99	19	116	5	31	107	12	6	10	49	2

分類	鉢			火炉					蓋				
	口縁部	胴部	底部	口縁部	耳	胴部	底部	突起	口～底部	口縁部	撮み	胴部	底部
個数	32	8	9	54	17	90	27	2	8	133	44	35	1

分類	焙烙			竈		土管	七輪	土鈴	器種不明			合計
	口縁部	耳	胴部	口縁部	胴部	口縁部	口縁部		口縁部	胴部	底部	
個数	2	1	1	3	1	1	1	1	3	79	16	1035

第26表　陶質土器観察一覧

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第86図 図版57 1	鍋	口～胴部	20.3 — —	口縁部は「く」の字に折れ曲がり、口縁部外面に細い紐状の把手が付く。全体的にロクロナデが確認でき外面下半にロクロケズリ。外面胴部下半に広範囲にススが付着し、内面の一部に石灰付着。	K1　96　石組遺構内	K1-96　SW9
第86図 図版57 2	鍋	口縁部	— — —	口縁部外面に細い紐状の把手が付く。僅かに白色粒混入。	SW13　下部	L0-96　SW13
第86図 図版57 3	土瓶	口縁部	8.1 — —	口縁部は短く直立し、全体的に丁寧なロクロナデ。僅かに白色粒、雲母混入。	かわや覆土	かわや跡 Ⅰ層
第86図 図版57 4	土瓶	口縁部	— — —	口縁部は短く直立し、全体的に丁寧なロクロナデ。肩部に3条の浅い沈線。僅かに白色粒混入。	かわや跡 覆土中	かわや跡 Ⅰ層
第86図 図版57 5	土瓶	胴部	— — —	稜があり算玉型を呈する。外面下半はロクロケズリ。一部ス ス付着。	かわや跡 覆土中	かわや跡 Ⅰ層
第86図 図版57 6	土瓶	注口	— — —	内外面ロクロナデ。注口部は別作りで貼付。	表　K6　96	K6-96　表採
第86図 図版57 7	蓋	口～底部	庇19.1 5.45 撮み　6.95	鍋の蓋で高台付きの皿を伏せたような器形。全体的に丁寧なロクロナデ。僅かに白色粒、雲母混入。	L0　97　井戸状遺構外西グリット	L0-97　SW13?
第86図 図版57 8	蓋	口～底部	庇　8.6 3.35 袴　5.85 撮み 1.5	土瓶の蓋。庇と袴があり内外面をロクロナデするが外面は粗いナデ。袴はロクロで引き出したか。僅かに雲母混入。	K1　96　石組遺構内	K1-96　SW9
第86図 図版57 9	蓋	口縁部	— — —	土瓶の蓋。裏面に袴があるが非常に低い。全体的に丁寧なロクロナデ。僅かに白色粒混入。	表　L4　101	L4-101　表採
第86図 図版57 10	火炉	口縁部	13.0 — —	口縁部内面に受部を貼付。胴部側面に台形の把手を貼付し、外面には白化粧土掻き落としによる圏線が巡る。受部にスス付着。僅かに白色粒、雲母混入。	表土　L4　100	L4-100　表土
第86図 図版57 11	火炉	口縁部	24.5 — —	底部から筒状に立ち上がり、口縁部は「く」の字に強く内湾。外面には白化粧土掻き落としによる圏線が巡る。内面の一部にはスス付着。僅かに白色粒、雲母混入。	L0　97	L0-97　表採
第86図 図版57 12	火炉	底部	— — 12.8	高台は貼付で台形を呈する。外面には白化粧土掻き落としによる圏線が巡る。内面に黒色付着物あり。僅かに雲母混入。	かわや跡の覆土中	かわや跡 Ⅰ層
第86図 図版57 13	火炉	底部	— — 13.2	高台は貼付で台形を呈する。外面には白化粧土掻き落としによる圏線が巡る。外内面の一部に白化粧土が付着。僅かに雲母混入。	L0　97　SW13井戸状石組遺構外東側グリット	L0-97　SW13
第86図 図版57 14	鉢	口縁部	— — —	内外面ロクロナデ。口縁部は内湾し、口縁部下部には沈線が1条と波状文が5条巡る。	L0　97	L0-97　表採
第86図 図版57 15	鉢	底部	— — 10.0	内外面ロクロナデ。底部には糸切り痕が残る。僅かに雲母混入。	表土　K9　101	K9-101　表土
第86図 図版57 16	焙烙	口縁部	18.9 — —	全体的に丁寧なロクロナデ。口縁部は僅かに膨らむ。外面の一部にスス付着。僅かに赤色粒、雲母混入。	北側　壁面	Ⅱ期基壇 北側翼状　？

注　「—」:計測不可

第27表　瓦質土器集計表

分　類	沖縄産														
	壺	鉢		浅鉢	擂鉢	植木鉢		人形	筒物		火炉			風炉	器種不明
	口縁部	口縁部	胴部	口縁部	胴部	口縁部	胴部	胴部	口～底部	底部	口縁部	底部	脚	脚	胴部
個　数	1	1	2	1	3	1	1	2	1	2	11	2	1	1	17

分　類	本土産											合　計
	壺	鉢				擂鉢		火炉		風炉	器種不明	
	胴部	口縁部	胴部	底部	脚	胴部	底部	口縁部	底部	胴部	底部	
個　数	1	12	8	1	2	1	1	1	1	2	2	79

第28表　瓦質土器観察一覧

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	分類	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第87図 図版58 1	鉢	口	本土系	30.35 － －	色調(内外－橙色、断－浅黄色)。胎土精良。スタンプによる粗雑な花菱文。	表土層 K4　100	K4-100　表土
第87図 図版58 2	鉢	口	本土系	－ － －	色調(全て灰色)。胎土精良。スタンプによる菊花文と菱文。	K4　K5　96 第1コーラル	K4･5-96　Ⅰ層 (コーラル層)
第87図 図版58 3	鉢	口	本土系	－ － －	色調(内外－鈍黄橙色、断－灰黄)。胎土精良。スタンプによる菊花文。	K5　95　第Ⅰ層 コーラル層	K5-95　Ⅰ層 (コーラル層)
第87図 図版58 4	鉢	口	本土系	27.8 － －	色調(内外－灰色、断－淡黄色)。胎土粗砂混入。突帯で区画し、スタンプによる1より丁寧な花菱文。本土産。	表土　撹乱	撹乱
第87図 図版58 5	鉢	胴	本土系	－ － －	色調(全て灰黄色)。胎土赤色粒混入。スタンプによる菊花文。	中央畦断割トレ 2層　東隅	中央観察畦② Ⅱ層
第87図 図版58 6	鉢	胴	本土系	－ － －	色調(内外－橙色、断－灰黄色)。胎土精良。スタンプによる菊花文と輪花文。	K5　95　第Ⅰ層 コーラル層	K5-95　Ⅰ層 (コーラル層)
第87図 図版58 7	植木鉢	口	沖縄産	－ － －	色調(内外－灰色、断－灰黄色)。胎土精良。平面形は方形。外面貼付文か。内面板状ナデ痕が残る。	S60	出土地不明
第87図 図版58 8	植木鉢	胴	沖縄産	－ － －	色調(全て灰色)。胎土精良。貼付縄目状突帯。	K10　93　K11　93 第1コーラル	K10･11-93　Ⅰ層 (コーラル層)
第88図 図版59 9	擂鉢	底	本土系	－ － 19.3	色調(内外－黒色、断－灰色)。胎土細砂混入。擂目4本／1cm。外面ミガキ。	第2　中央観察畦	中央観察畦① Ⅱ層
第88図 図版59 10	擂鉢	胴	沖縄産	－ － －	色調(全て灰白色)。胎土精良。擂目5本／1.5cm。	L0　東西トレンチ 断割　東隅最奥 区	L0　不明
第88図 図版59 11	浅鉢	口	沖縄産	－ － －	色調(全て浅黄橙色)。胎土赤色粒混入。	L0　東西トレンチ 東隅より2番区 石列内	石列2･3内
第88図 図版59 12	風炉	脚	沖縄産	－ － －	色調(全て灰色)。胎土精良。内面板状ナデ痕が残る。	表　L3　97	L3-97　表採
第88図 図版59 13	鉢	脚	本土系	－ － －	色調(内外－橙色、断－灰色)。胎土精良。	第2層 K6　K7　94	K6･7-94　Ⅱ層
第88図 図版59 14	鉢	脚	本土系	－ － －	色調(内外－灰色、断－灰白色)。胎土精良。	K7･8･9　97 第1コーラル	表採
第88図 図版59 15	壺	口	本土系	－ － －	色調(全て橙色)。胎土精良。玉縁口縁。	L1　東西トレ 東隅区	中央観察畦②
第88図 図版59 16	風炉	胴	本土系	－ － 27.4	色調(内外－黒色、断－灰白色)。胎土細砂混入。胴部下端。突帯による区画内にスタンプによる花菱文、連弁文。本土産。	L0　東西第Ⅱ層 赤褐色土層	L0　不明
第89図 図版60 17	火炉	口	本土系	－ － －	色調(内外－橙色、断－黄灰色)。胎土赤色粒混入。18と類するか。平面方形。スタンプによる菊花文だが、2･3･5･6とは原体異なる。内面に粘土紐痕残る。	K7　91　第2層 中央畦断面	K7-91　中央観察 畦①　Ⅱ層 (黒土混赤土層)
第89図 図版60 18	火炉	脚	本土系	－ － －	色調(内外－橙色、断－黄灰色)。胎土赤色粒混入。17と類するか。平面方形。	南東隅(立上り) 一期基壇Ⅲ層 コーラル層	Ⅰ期基壇？
第89図 図版60 19	火炉	口	本土系	14.0 － －	色調(全て灰色)。胎土細砂混入。ローリング受ける。	第Ⅳ期基壇 化粧石下の試掘 南より2番目穴	試掘2
第89図 図版60 20	火炉	底	本土系	－ － 14.2	色調(全て灰白色)。胎土赤色粒混入。	第3層　下層断割 L6　94	Ⅲ層
第89図 図版60 21	火炉	口	本土系	－ 4.75 －	色調(内外－黒色、断－灰白色)。胎土細砂混入。	表土　L3　95 撹乱	L3-95　表土

注「－」:計測不可

第29表　カムィヤキ集計表

分　類	壺		器種不明	合　計
	口～底部	胴部	胴部	
個　数	1	1	6	8

第30表　カムィヤキ観察一覧

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第89図 図版60 22	壺	口縁～ 底部	9.4 14.0 8.5 胴径15.0	口縁外面から頚部にかけて、轆轤痕。肩～胴部部分に叩き痕。胴下半部は調整痕をナデ消し。全体的に厚い。内面には抑え痕が残る。(新里B類資料)	不明	出土地不明

注 「－」:計測不可

第31表　土器集計表

分　類	沖縄産							合　計
	鍋	壺or甕	深鉢	器種不明				
	胴部	頸部	口縁部	口縁部	頸部	胴部	底部	
個　数	1	1	1	8	1	129	15	156

第32表　土器観察一覧

単位:cm

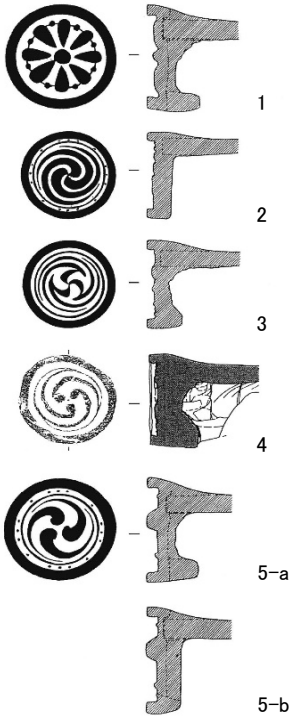
挿図番号 図版番号	器種	部位	分類	口径 器高 底径	観察事項	旧出土地	新出土地
第89図 図版60 23	深鉢	口縁部	貝塚 前期？	ー ー ー	頚部が屈曲し、屈曲部には指頭痕。口縁内部には工具を用いてのナデ調整あり。混入物が多い。貝塚時代前期の土器か？	L0　94　断割 第4層　最下層	L0-94　Ⅳ層
第89図 図版60 24	不明	口縁部	グスク?	ー ー ー	口縁部は僅かに肥厚。屈曲部から口唇部までが短い。口唇部は平坦にナデ調整。外面は工具を用いて調整、指ナデ部分もあり。内面は指ナデ調整、調整部に稜が残存。	L0　94　断割 第4層　最下層	L0-94　Ⅳ層
第89図 図版60 25	壺or甕	頸部	グスク	ー ー ー	頚部が屈曲し、屈曲部の内面には、調整により稜をもつ。口縁外面は工具を用いてナデ調整。口縁内面は指ナデ調整されるが、わずかに工具調整痕が残存。内面頚部以下は、指ナデ。	2層　黒色土 混り赤土層 K6-95･96	K6-95･96　Ⅱ層 (黒土混赤土層)
第89図 図版60 26	不明	頸部	宮古式 土器	ー ー ー	外面は黒色を呈し、磨き調整し、光沢がある。内面頚部上部は削り。頚部下はナデ調整。	SW13	L0-96　SW13
第89図 図版60 27	不明	胴部	宮古式 土器	ー ー ー	外面は黒色を呈し、磨き調整し、光沢がある。内面は丁寧にナデ調整されるが、一部に工具調整痕が残る。粘土紐接合部に白砂のラインが残る部分が一部分ある。	SW13	L0-96　SW13
第89図 図版60 28	不明	底部	グスク	ー ー 11.7	外底は未調整。外面腰部に工具調整痕。内面はナデ調整を行うが、粘土を引きずった痕跡が一部に残る。	中央畦　断割トレ 第Ⅲ層　東隅区	中央観察畦② Ⅲ層

注 「ー」:計測不可

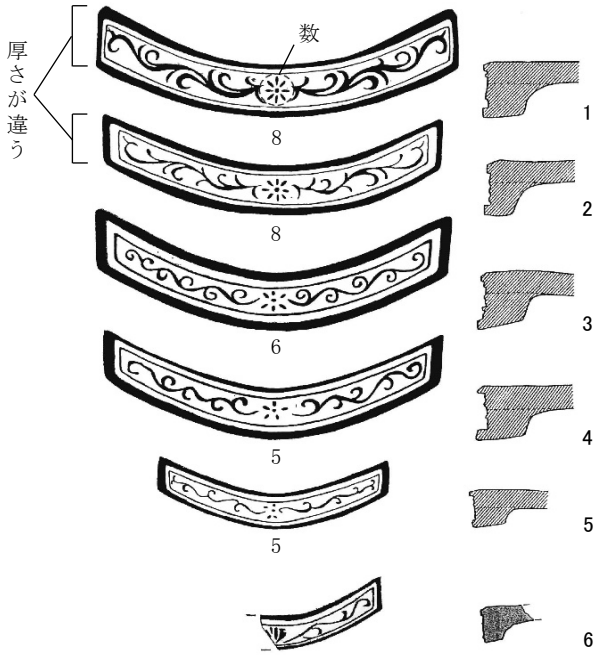
凡例（第33表 瓦集計表 大和瓦・明朝系役瓦）

大和系瓦

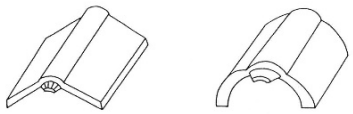
軒丸瓦



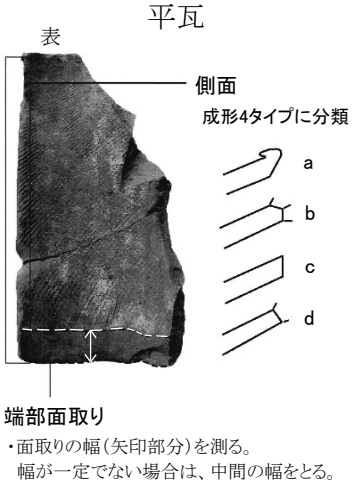
軒平瓦



雁振瓦

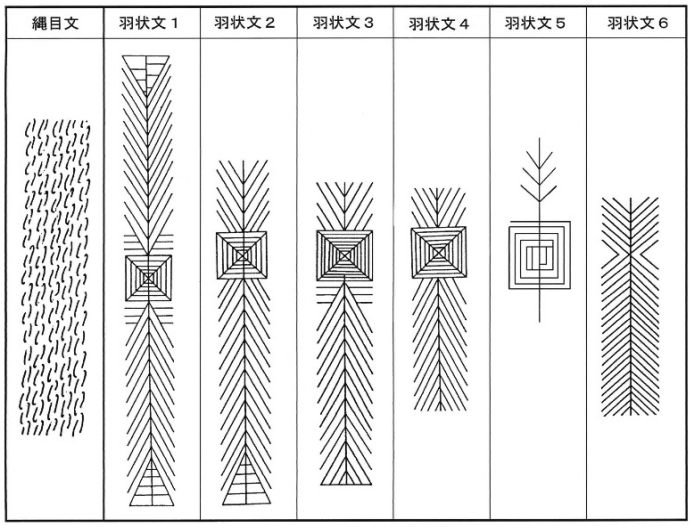


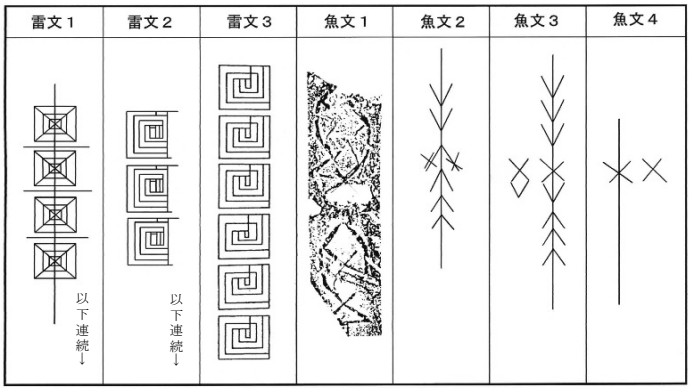
平瓦



・面取りの幅（矢印部分）を測る。
幅が一定でない場合は、中間の幅をとる。

丸瓦の文様分類





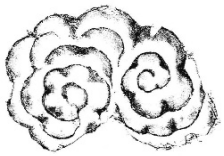
明朝系瓦

役瓦（雲形・花形） 拓本

雲形 1巻

雲形 1巻

雲形 2巻



雲形 2巻

雲形 2巻

雲形 3巻

第33表　瓦集計表①(高麗系瓦)

分類	軒丸瓦	軒平瓦	丸瓦										
	灰色	灰色	灰色						赤色				
	瓦当部片	瓦当部片	羽状文(細目)		羽状文(粗目)			文様不明	羽状文(細目)		羽状文(粗目)	文様不明	端部中央片
			玉縁欠落角1つ	筒部	玉縁欠落中央片	筒部	端部面取り5cm	筒部	玉縁欠落中央片	筒部	筒部	筒部	
個数	1	3	1	3	1	2	1	5	1	4	3	1	1

分類	平瓦										
	灰色										
	発酉年文	発酉年文＋羽状文(細目)	発酉年文＋羽状文(粗目)	大天片	大天片＋羽状文(粗目)	羽状文(細目)			羽状文(粗目)		
	筒部	筒部	筒部	筒部	筒部	広端角1つ	広端中央片	筒部	広端角1つ	広端中央片	筒部
個数	9	10	12	1	1	5	3	80	2	4	51

分類	平瓦										
	灰色							赤色			
	羽状文(粗目)							大天片	大天片＋羽状文(粗目)	格子文	格子文＋羽状文(粗目)
	狭端角1つ			狭端中央片				筒部	筒部	筒部	筒部
	狭端長さ2.2cm	狭端長さ3.5cm	狭端長さ4.0cm	狭端長さ1.8cm	狭端長さ3.0cm	狭端長さ4.7cm	狭端長さ計測不可				
個数	1	1	3	1	1	2	2	1	2	1	1

分類	平瓦									
	赤色						褐色			
	羽状文(粗目)		文様不明		広端角1つ	狭端角1つ	発酉年文	発酉年文＋羽状文(細目)	発酉年文＋羽状文(粗目)	格子文＋羽状文(粗目)
	狭端中央片	筒部	広端中央片	筒部		狭端長さ3.3cm	筒部	筒部	筒部	筒部
個数	1	14	1	16	2	4	1	1	2	1

分類	平瓦					有段式平瓦	合　計
	褐色					褐色	
	羽状文(細目)		羽状文(粗目)			羽状文(粗目)	
	広端中央片	狭端中央片 狭端長さ計測不可	広端中央片	筒部	狭端中央片 狭端長さ1.1cm		
個数	1	1	3	3	1	1	274

第33表　瓦集計表②（大和系瓦）

瓦の種類	色調	型式	部位	部位の計測値	筒部文様	刺網の縦幅値	残存状況	個数
雁振瓦	褐色	I型	平瓦部		羽状文			1
雁振瓦	褐色	I型	平瓦部		撫で消し不明			1
雁振瓦	褐色	II型	丸瓦部		重郭文			1
雁振瓦	褐色	II型	丸瓦部		羽状文			4
雁振瓦	褐色	II型	丸瓦部		撫で消し不明			3
雁振瓦	褐色	II型	平瓦部		羽状文			10
雁振瓦	褐色	II型	平瓦部		撫で消し不明			6
雁振瓦	褐色	II型	玉縁		羽状文			2
雁振瓦	灰色	I型	丸瓦部		縄目文			4
雁振瓦	灰色	I型	丸瓦部		羽状文			3
雁振瓦	灰色	I型	丸瓦部		撫で消し不明			2
雁振瓦	灰色	I型	平瓦部		羽状文			6
雁振瓦	灰色	I型	平瓦部		撫で消し不明			1
雁振瓦	灰色	I型	玉縁		羽状文			2
雁振瓦	灰色	II型	丸瓦部		羽状文			6
雁振瓦	灰色	II型	平瓦部		羽状文			11
雁振瓦	灰色	II型	平瓦部		撫で消し不明			21
雁振瓦	灰色	II型	玉縁		羽状文			1
軒丸	灰色	1						9
軒丸	灰色	5a						6
軒丸	灰色	不明						5
軒平	灰色	1						1
軒平	灰色	2						1
軒平	灰色	3						2
軒平	灰色	4						21
軒平	灰色	不明						9
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 5cm以上	羽状文（細）	刺網 不明	角1つ	1
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 5cm以上	羽状文（粗）	刺網 不明	中央片	1
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 5cm以上	縄目文	刺網 3.6～4.0	角1つ	1
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	羽状文（1か2）	刺網 3.1～3.5	角1つ	1
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	羽状文-4	刺網 2.6～3.0	角1つ	1
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	羽状文（細）	刺網 2.6～3.0	角2つ	2
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	羽状文（細）	刺網 2.6～3.0	角1つ	1
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	羽状文（細）	刺網 3.6～4.0	角2つ	1
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	羽状文（細）	刺網 不明	角1つ	3
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	羽状文（細）	刺網 不明	中央片	1
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	羽状文（粗）	刺網 2.1～2.5	角1つ	2
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	羽状文（粗）	刺網 2.6～3.0	角1つ	2
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	羽状文（粗）	刺網 2.6～3.0	角2つ	1
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	羽状文（粗）	刺網 3.1～3.5	角1つ	1
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	羽状文（粗）	刺網 3.1～3.5	角2つ	3
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	羽状文（粗）	刺網 3.6～4.0	角1つ	1
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	羽状文（粗）	刺網 不明	角1つ	2
丸瓦	灰色		玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	羽状文（粗）	刺網 不明	角2つ	2

瓦の種類	色調	部位	部位の計測値	筒部文様	刺網の縦幅値	残存状況	個数
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	縄目文	刺網 2.6～3.0	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	縄目文	刺網 3.6～4.0	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	縄目文	刺網 不明	角1つ	3
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	縄目文	刺網 不明	中央片	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	文様不明	刺網 2.1～2.5	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	文様不明	刺網 不明	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4～5cm	文様不明	刺網 不明	中央片	4
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文－1	刺網 3.1～3.5	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文－2	刺網 3.1～3.5	角2つ	2
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文－4	刺網 3.6～4.0	角2つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文－1～6にあてはまる	刺網 2.6～3.0	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（細）	刺網 1.6～2.0	角2つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（細）	刺網 2.1～2.5	角2つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（細）	刺網 2.1～2.5	中央片	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（細）	刺網 2.6～3.0	角2つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（細）	刺網 2.6～3.0	角1つ	4
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（細）	刺網 3.1～3.5	角2つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（細）	刺網 3.6～4.0	角1つ	☆ 2
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（細）	刺網 不明	角1つ	10
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（細）	刺網 不明	中央片	4
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（粗）	刺網 2.1～2.5	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（粗）	刺網 2.1～2.5	中央片	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（粗）	刺網 2.6～3.0	角2つ	2
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（粗）	刺網 2.6～3.0	角1つ	4
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（粗）	刺網 3.1～3.5	角2つ	3
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（粗）	刺網 3.1～3.5	角1つ	2
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（粗）	刺網 不明	角1つ	10
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	羽状文（粗）	刺網 不明	中央片	2
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	雷文-3	刺網 2.6～3.0	角2つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	雷文-3	刺網 不明	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	縄目文	刺網 2.6～3.0	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	不明（風化）	刺網 不明	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 4cm未満	不明（風化）	刺網 不明	中央片	4
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 計測不可	羽状文（細）	刺網 不明	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 計測不可	羽状文（粗）	刺網 2.1～2.5	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 計測不可	羽状文（粗）	刺網 2.6～3.0	中央片	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 計測不可	羽状文（粗）	刺網 不明	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 計測不可	不明（風化）	刺網 不明	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁有	玉縁長 計測不可	不明（風化）	刺網 不明	中央片	4
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文－2	刺網 不明	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（細）	刺網 2.1～2.5	角1つ	4
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（細）	刺網 2.1～2.5	中央片	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（細）	刺網 2.6～3.0	角1つ	4
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（細）	刺網 2.6～3.0	中央片	2
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（細）	刺網 3.1～3.5	角1つ	13
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（細）	刺網 3.1～3.5	中央片	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（細）	刺網 3.6～4.0	角1つ	3
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（細）	刺網 4.1～5.0	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（細）	刺網 4.1～5.0	中央片	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（細）	刺網 不明	角2つ	2
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（細）	刺網 不明	角1つ	10
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（細）	刺網 不明	中央片	12

瓦の種類	色調	部位	部位の計測値	筒部文様	刺網の縦幅値	残存状況	個数
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（粗）	刺網 1.6～2.0	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（粗）	刺網 2.1～2.5	角1つ	8
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（粗）	刺網 2.6～3.0	角2つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（粗）	刺網 2.6～3.0	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（粗）	刺網 2.6～3.0	中央片	3
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（粗）	刺網 3.1～3.5	角1つ	6
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（粗）	刺網 3.1～3.5	中央片	2
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（粗）	刺網 3.6～4.0	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（粗）	刺網 4.1～5.0	角1つ	4
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（粗）	刺網 不明	角2つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（粗）	刺網 不明	角1つ	7
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		羽状文（粗）	刺網 不明	中央片	11
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		雷文－2	刺網 2.1～2.5	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		雷文－3	刺網 3.1～3.5	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		雷文不明	刺網 不明	中央片	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		縄目文	刺網 2.1～2.5	中央片	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		縄目文	刺網 2.6～3.0	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		縄目文	刺網 3.1～3.5	角2つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		縄目文	刺網 3.6～4.0	角2つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		縄目文	刺網 3.6～4.0	角1つ	3
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		縄目文	刺網 4.1～5.0	角1つ	3
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		縄目文	刺網 計測不可	角1つ	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		縄目文	刺網 不明	角1つ	11
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		縄目文	刺網 不明	中央片	1
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		文様不明（風化）	刺網 2.1～2.5	角1つ	2
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		文様不明（風化）	刺網 2.6～3.0	角1つ	2
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		文様不明（風化）	刺網 不明	角1つ	7
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		文様不明（風化）	刺網 不明	中央片	7
丸瓦	灰色	玉縁部～筒部 玉縁欠落		破片			4
丸瓦	灰色	筒部		羽状文－2	刺網 2.1～2.5		1
丸瓦	灰色	筒部		羽状文－2	刺網 2.6～3.0		4
丸瓦	灰色	筒部		羽状文－2	刺網 3.1～3.5		1
丸瓦	灰色	筒部		羽状文－2	刺網 不可		3
丸瓦	灰色	筒部		羽状文－3	刺網 2.6～3.0		1
丸瓦	灰色	筒部		羽状文－3	刺網 不可		1
丸瓦	灰色	筒部		羽状文－4	刺網 3.1～3.5		1
丸瓦	灰色	筒部		羽状文－4	刺網 3.6～4.0		1
丸瓦	灰色	筒部		羽状文－4	刺網 不可		1
丸瓦	灰色	筒部		羽状文－4	刺網 不明		2
丸瓦	灰色	筒部		羽状文－6	刺網 不明		2
丸瓦	灰色	筒部		羽状文（細）	刺網 1.6～2.0		4
丸瓦	灰色	筒部		羽状文（細）	刺網 2.1～2.5		27
丸瓦	灰色	筒部		羽状文（細）	刺網 2.6～3.0		35
丸瓦	灰色	筒部		羽状文（細）	刺網 3.1～3.5		17
丸瓦	灰色	筒部		羽状文（細）	刺網 3.6～4.0		13
丸瓦	灰色	筒部		羽状文（細）	刺網 4.1～5.0		2
丸瓦	灰色	筒部		羽状文（細）	刺網 不可		58
丸瓦	灰色	筒部		羽状文（細）	刺網 不明		119

※（　）は、重量。重量の計測は、表土出土の筒部に関してのみ。　☆は、有孔を1点含む。

第33表　瓦集計表③（大和系瓦）

瓦の種類	丸瓦																																						
色調	灰色																																						
部位	筒部																							筒部〜端部															
筒部文様	羽状文(粗)							雷文−1	魚文−2	魚文−3	縄目文							文様不明(風化)						羽状文−1〜6	羽状文(細)														
	刺網							刺網	刺網	刺網	刺網							刺網						刺網	刺網														
刺網の縦幅値	1.6〜2.0	2.1〜2.5	2.6〜3.0	3.1〜3.5	3.6〜4.0	4.1〜5.0	不明	不明	不明	2.6〜3.0	2.1〜2.5	2.6〜3.0	3.1〜3.5	3.6〜4.0	4.1〜5.0	不可	不明	1.6〜2.0	2.1〜2.5	2.6〜3.0	3.1〜3.5	3.6〜4.0	不明	無し	2.1〜2.5				2.6〜3.0							3.1〜3.5	4.1〜5.0	計測不可	
面取り幅																								面取り幅	面取り幅				面取り幅							面取り幅	面取り幅	面取り幅	
部位の計測値																								計測不可	2.1〜3.0	4.1〜5.0	5.1〜6.0	6.1〜7.0	1.1〜2.0	2.1〜3.0	4.1.〜5.0	5.1〜6.0	6.1〜7.0	7.1以上	計測不可	5.1〜6.0	4.1〜5.0	6.1〜7.0	計測不可
残存状況																								角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角2つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ
個　数	7	25	28	29	11	3	42	1	1	1	2	11	5	3	1	33	33	3	8	16	19	2	67	1	1	1	2	1	1	1	1	4	8	1	3	1	1	1	12

瓦の種類	丸瓦																																								
色調	灰色																																								
部位	筒部〜端部																																								
筒部文様	羽状文(細)													羽状文(粗)																								雷文−1		雷文-不明	魚文−2
	刺網													刺網																								刺網		刺網	刺網
刺網の縦幅値	不明													1.6〜2.0	2.1〜2.5			2.6〜3.0			3.1〜3.5				3.6〜4.0	4.1〜5.0			不明									2.1〜2.5		2.1〜2.5	不明
面取り幅	面取り幅													面取り幅	面取り幅			面取り幅			面取り幅				面取り幅	面取り幅			面取り幅									面取り幅		面取り幅	面取り幅
部位の計測値	2.1〜3.0		3.1〜4.0		4.1〜5.0		5.1〜6.0		6.1〜7.0		7.1以上	不可		4.1〜5.0	2.1〜3.0	5.1〜6.0	6.1〜7.0	2.1〜3.0	5.1〜6.0	6.1〜7.0	2.1〜3.0		4.1〜5.0	5.1〜6.0	6.1〜7.0	5.1〜6.0	6.1〜7.0	7.1以上	2.1〜3.0	3.1〜4.0		4.1〜5.0	5.1〜6.0		6.1〜7.0	不可		4.1〜5.0	5.1〜6.0	6.1〜7.0	計測不可
残存状況	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角2つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	角1つ
個　数	1	1	4	3	2	3	6	2	5	1	1	7	2	1	1	1	1	2	2	1	1	1	2	2	2	1	2	1	1	1	2	2	2	1	4	8	2	1	1	1	1

瓦の種類	丸瓦																																													
色調	灰色																										褐色																			
部位	筒部〜端部																										玉縁部〜筒部																			
																											玉縁有																			
																											玉縁長　4cm未満																			
筒部文様	縄目文									文様不明(風化)																	羽状文(細)											羽状文(粗)						文様不明(風化)		
	刺網									刺網																	刺網											刺網				刺網		刺網		
刺網の縦幅値	2.1〜2.5	不明							不可	2.1〜2.5		2.6〜3.0	3.1〜3.5		不明												1.6〜2.0	2.1〜2.5	2.6〜3.0		3.1〜3.5		4.1〜5.0	不明		不明		2.6〜3.0	3.1〜3.5	3.6〜4.0	4.1〜5.0	不明		2.6〜3.0	不明	
面取り幅	面取り幅	面取り幅							面取り幅	面取り幅		面取り幅	面取り幅		面取り幅																															
部位の計測値	5.1〜6.0	3.1〜4.0	4.1〜5.0	5.1〜6.0	6.1〜7.0		計測不可		5.1〜6.0	6.1〜7.0	計測不可	5.1〜6.0	4.1〜5.0	6.1〜7.0	1.1〜2.0	2.1〜3.0		3.1〜4.0		4.1〜5.0		5.1〜6.0	6.1〜7.0		不可																					
残存状況	中央片	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角2つ	角1つ	角2つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	角2つ	角2つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片
個　数	1	1	2	4	3	1	5	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	2	4	5	2	1	3	1	5	8	1	3	1	3	1	3	2	8	1	2	1	6	2	1	2	1	8	1	1	1

※（　）は、重量。重量の計測は、表土出土の筒部に関してのみ。 ☆は、有孔を1点含む。

第33表　瓦集計表④（大和系瓦）

瓦の種類	丸瓦																			
色調	褐色																			
部位	玉縁部〜筒部																			
部位の計測値	玉縁有																			
	玉縁長 4〜5cm																玉縁長 5cm以上		玉縁長 計測不可	破片
筒部文様	羽状文(細)						羽状文(粗)						縄目文				羽状文(粗)	縄目文	羽状文(粗)	
	刺網						刺網						刺網				刺網	刺網	刺網	
刺網の縦幅値	2.1〜2.5	2.6〜3.0	3.1〜3.5		不明		2.1〜2.5	2.6〜3.0	3.1〜3.5		3.6〜4.0	不明	2.6〜3.0	3.6〜4.0	不明		3.1〜3.5	3.1〜3.5	2.1〜2.5	
残存状況	角1つ	角1つ	角2つ	角1つ	角1つ	中央片	角2つ	角2つ	角2つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	
個数	1	1	1	1	3	2	1	1	1	2	1	4	1	1	1	2	1	1	1	1

瓦の種類	丸瓦																								
色調	褐色																								
部位	玉縁部〜筒部																								
部位の計測値	玉縁欠落																								
筒部文様	雷文-2	雷文-3	羽状文(細)								羽状文(粗)									縄目文			文様不明（風化）		
	刺網	刺網	刺網								刺網									刺網			刺網		
刺網の縦幅値	2.6〜3.0	不明	2.1〜2.5	2.6〜3.0		3.1〜3.5		3.6〜4.0	不明		1.6〜2.0	2.1〜2.5		2.6〜3.0		3.1〜3.5	4.1〜5.0以上	不明		3.1〜3.5	不明		3.1〜3.5	不明	
残存状況	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片
個数	1	1	1	8	1	5	1	2	22	7	5	5	1	4	1	3	3	10	5	1	4	1	1	8	4

瓦の種類	丸瓦						
色調	褐色						
部位	筒部						
筒部文様	羽状文-2						
	刺網						
刺網の縦幅値	1.6〜2.0	2.1〜2.5	2.6〜3.0	3.1〜3.5	3.6〜4.0	4.1〜5.0	不明
個数	1	5	1	10	1	3	4

瓦の種類	丸瓦															
色調	褐色															
部位	筒部															
筒部文様	羽状文-4	羽状文(細)						羽状文(粗)							魚文-3	
	刺網	刺網						刺網							刺網	
刺網の縦幅値	3.6〜4.0	2.1〜2.5	2.6〜3.0	3.1〜3.5	3.6〜4.0	4.1〜5.0以上	不明	1.6〜2.0	2.1〜2.5	2.6〜3.0	3.1〜3.5	3.6〜4.0	4.1〜5.0以上	不明	2.1〜2.5	2.6〜3.0
個数	1	5	5	13	3	3	67	1	9	28	20	9	1	219	2	1

瓦の種類	丸瓦														
色調	褐色														
部位	筒部														
筒部文様	縄目文								文様不明（風化）						
	刺網								刺網						
刺網の縦幅値	0〜1.5	1.6〜2.0	2.1〜2.5	2.6〜3.0	3.1〜3.5	3.6〜4.0	4.1〜5.0以上	不明	1.6〜2.0	2.1〜2.5	2.6〜3.0	3.1〜3.5	3.6〜4.0	4.1〜5.0以上	不明
個数	1	1	2	1	3	1	1	19	1	9	6	4	1	1	98

瓦の種類	丸瓦									
色調	褐色									
部位	筒部〜端部									
筒部文様	羽状文-2				羽状文(細)					
	刺網				刺網					
刺網の縦幅値	3.1〜3.5	3.6〜4.0	4.1〜5.0以上		2.1〜2.5	2.6〜3.0	3.6〜4.0	4.1〜5.0以上		
部位の計測値	面取り幅	面取り幅	面取り幅		面取り幅	面取り幅	面取り幅	面取り幅		
	5.1〜6.0	3.1〜4.0	3.1〜4.0	計測不可	計測不可	6.1〜7.0	4.1〜5.0	4.1〜5.0	計測不可	
残存状況	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片
個数	1	1	1	1	1	2	1	1	4	1

瓦の種類	丸瓦																
色調	褐色																
部位	筒部〜端部																
筒部文様	羽状文(細)							羽状文(粗)									
	刺網							刺網									
刺網の縦幅値	不明							2.1〜2.5				2.6〜3.0					
部位の計測値	面取り幅							面取り幅				面取り幅					
	2.1〜3.0	4.1〜5.0	5.1〜6.0		6.1〜7.0	計測不可		3.1〜4.0	4.1〜5.0	5.1〜6.0		4.1〜5.0		5.1〜6.0	6.1〜7.0		7.1以上
残存状況	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ
個数	1	5	3	2	5	4	2	1	1	1	1	1	1	3	1	1	2

瓦の種類	丸瓦														
色調	褐色														
部位	筒部〜端部														
筒部文様	羽状文(粗)														
	刺網														
刺網の縦幅値	3.1〜3.5		3.6〜4.0	4.1〜5.0	不明										無し
部位の計測値	面取り幅		面取り幅	面取り幅	面取り幅										面取り幅
	4.1〜5.0	5.1〜6.0	4.1〜5.0	6.1〜7.0	2.1〜3.0	3.1〜4.0	4.1〜5.0		5.1〜6.0		6.1〜7.0		計測不可		4.1〜5.0
残存状況	角1つ	角1つ	角2つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片
個数	2	3	1	1	1	3	2	1	7	1	4	1	7	5	1

瓦の種類	丸瓦									
色調	褐色									
部位	筒部〜端部									
筒部文様	魚文−2		縄目文			文様不明（風化）				
	刺網		刺網			刺網				
刺網の縦幅値	不明		0〜1.5	3.1〜3.5	不明	2.1〜2.5	不明			
部位の計測値	面取り幅		面取り幅	面取り幅	面取り幅	面取り幅	面取り幅			
	4.1〜5.0	6.1〜7.0	5.1〜6.0	5.1〜6.0	3.1〜4.0	5.1〜6.0	4.1〜5.0	5.1〜6.0	計測不可	
残存状況	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片
個数	1	1	1	1	1	1	1	3	5	1

※（　）は、重量。重量の計測は、表土出土の筒部に関してのみ。 ☆は、有孔を1点含む。

第33表　瓦集計表⑤（大和系瓦）

瓦の種類	平瓦																																							
色調	灰色																																							
部位	広端部						筒部					狭端部																												
部位の計測値	側面 aタイプ	側面 bタイプ	側面 cタイプ	側面 dタイプ	側面 その他	側面 なし	側面 aタイプ	側面 bタイプ	側面 cタイプ	側面 dタイプ	側面なし 破片	側面 aタイプ				側面 bタイプ							側面 cタイプ							側面 dタイプ			側面 その他				側面なし			
筒部文様												端部成形				端部成形							端部成形							端部成形			端部成形				端部成形			
刺網の縦幅値												1.1～2.0	2.1～3.0	3.1～4.0	計測不可	1.1～2.0	2.1～3.0	3.1～4.0	4.1～5.0	5.1～6.0	6.1～7.0	計測不可	1.0以下	1.1～2.0	2.1～3.0	3.1～4.0	4.1～5.0	5.1～6.0	計測不可	1.1～2.0	2.1～3.0	計測不可	1.1～2.0	3.1～4.0	4.1～5.0	計測不可	1.0以下	1.1～2.0	2.1～3.0	3.1～4.0
残存状況	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片						角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	中央片	中央片	中央片
個数	11	234	62	30	11	326	68	884	76	16	1529（43.4kg）	1	5	3	1	29	77	57	28	6	1	4	1	12	33	23	2	2	1	3	1	1	1	1	2	1	1	28	118	98

瓦の種類	平瓦																																			
色調	灰色				褐色																															
部位	狭端部				広端部						筒部						狭端部																			
部位の計測値	側面なし				側面 aタイプ	側面 bタイプ	側面 cタイプ	側面 dタイプ	側面 その他	側面 なし	側面 aタイプ	側面 bタイプ	側面 cタイプ	側面 dタイプ	側面 その他	側面なし	側面 aタイプ				側面 bタイプ						側面 cタイプ						側面 dタイプ			
筒部文様	端部成形																端部成形				端部成形						端部成形						端部成形			
刺網の縦幅値	4.1～5.0	5.1～6.0	6.1～7.0	計測不可													1.1～2.0	2.1～3.0	3.1～4.0	4.1～5.0	1.1～2.0	2.1～3.0	3.1～4.0	4.1～5.0	5.1～6.0	計測不可	1.1～2.0	2.1～3.0	3.1～4.0	4.1～5.0	5.1～6.0	計測不可	1.1～2.0	2.1～3.0	3.1～4.0	4.1～5.0
残存状況	中央片	中央片	中央片	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片							角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ
個数	31	5	3	6	10	192	27	21	9	261	44	577	106	26	1	1021（12.68kg）	2	4	2	1	12	30	82	24	4	5	7	36	10	3	1	14	1	1	6	1

瓦の種類	平瓦													合計	重量合計
色調	褐色														
部位	狭端部														
部位の計測値	側面 その他				側面 タイプ不明										
筒部文様	端部成形				端部成形	端部成形									
刺網の縦幅値	1.1～2.0	2.1～3.0	3.1～4.0	4.1～5.0	不可	1.0以下	1.1～2.0	2.1～3.0	3.1～4.0	4.1～5.0	5.1～6.0	6.1～7.0	計測不可		
残存状況	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	中央片	中央片	中央片	中央片	中央片	中央片	中央片		
個数	3	2	4	2	1	1	☆　24	65	67	26	4	2	12	8664	(56.1kg)

※（　）は、重量。重量の計測は、表土出土の筒部に関してのみ。 ☆は、有孔を1点含む。

第33表　瓦集計表⑥（明朝系軒丸瓦）

色調 釉薬 接合材 分類	褐色(生焼色)		灰色																				
	釉薬無し		釉薬なし																				
	接合材無し		接合材無し												漆喰材								
	Ⅰ	不明	Ⅰ		Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ				Ⅴ			不明	Ⅰ	Ⅱ	Ⅳ		Ⅴ			Ⅵ	不明
	B	不明	A	C	A	A	A	B	C	D	A	B	不明	不明	A	A	C	D	A	B	C	不明	不明
個数	1	1	3	1	2	1	2	1	4	3	2	6	8	4	1	2	1	1	18	3	1	1	35

色調 釉薬 接合材 分類	灰色					赤色															
	釉薬なし				マンガン釉 (黒釉)	釉薬なし															
	セメント材				漆喰材	接合材無し							漆喰材								
	Ⅲ	Ⅴ		不明	Ⅴ	Ⅴ			Ⅵ			不明	Ⅴ			Ⅵ			Ⅶ	Ⅷ		不明
	A	A	B	不明	B	B	C	不明	A	B	不明	不明	B	C	不明	A	B	不明	B	A	B	不明
個数	2	1	2	2	1	1	1	2	3	6	3	18	2	25	9	18	11	12	1	6	5	51

色調 釉薬 接合材 分類	赤色																						
	釉薬なし							マンガン釉(黒釉)															
	セメント材							接合材無し							漆喰材								
	Ⅴ		Ⅵ			Ⅶ	Ⅷ	不明	Ⅳ	Ⅴ		Ⅵ		Ⅶ	不明	Ⅳ		Ⅴ			Ⅵ		
	B	C	A	B	不明	A	A	不明	E	C	不明	A	不明	A	不明	A	不明	B	C	不明	A	B	不明
個数	1	11	5	7	2	1	3	20	1	7	2	3	2	1	23	1	1	2	69	13	18	10	11

色調 釉薬 接合材 分類	赤色														合計
	マンガン釉(黒釉)														
	漆喰材				セメント材										
	Ⅶ	Ⅷ		不明	Ⅳ	Ⅴ		Ⅵ			Ⅶ	Ⅷ		不明	
	A	B	C	不明	A	C	不明	A	B	不明	A	B	C	不明	
個数	7	1	1	117	1	124	4	7	10	1	5	1	3	54	834

第33表　瓦集計表⑦（明朝系軒平瓦）

色調	灰色																				
釉薬	釉薬なし																				
接合材分類	接合材無し									漆喰材								セメント材			
	Ⅰ		Ⅱ			Ⅴ			不明	Ⅱ				Ⅴ			不明	Ⅱ	Ⅴ			不明
	A	B	A	B	D	A	B	不明	不明	A	B	C－1	C－2	A	B	不明	不明	A	A	B	B－1	不明
個数	3	1	4	2	2	4	3	3	13	1	1	1	1	3	12	20	9	1	2	4	1	1

色調	灰色					赤色															
釉薬	マンガン釉(黒釉)					釉薬なし															
接合材分類	接合材無し	漆喰材		セメント材		接合材無し					漆喰材					セメント材					
	Ⅴ	Ⅴ		Ⅴ	不明	Ⅱ	Ⅴ			不明	Ⅳ	Ⅴ			不明	Ⅲ	Ⅴ			不明	
	B	A	B	不明	不明	C－3	B	C	不明	不明	A	B	C	不明	不明	A	B	C	不明	不明	
個数	1	1	3	1	1	1	6	4	19	2	1	15	9	33	40	1	5	2	9	6	

色調	赤色															合計
釉薬	マンガン釉(黒釉)															
接合材分類	接合材無し			漆喰材		漆喰材					セメント材					
	Ⅴ		不明	Ⅱ	Ⅲ	Ⅴ				不明	Ⅴ				不明	
	B	不明	不明	B	A	A	B	C	不明	不明	A	B	C	不明	不明	
個数	17	40	10	1	6	2	81	19	176	68	1	30	4	34	20	761

第33表　瓦集計表⑧（明朝系丸瓦）

色調 釉薬 部位 面取り数 接合材	褐色（生焼色）																			灰色														
	マンガン釉（黒釉）		釉薬無し																	マンガン釉（黒釉）								釉薬無し						
	玉縁部欠落		玉縁部							玉縁部欠落				端部			筒部			玉縁部					玉縁部欠落		筒部	玉縁部						
			玉縁長 4cm未満（小）				玉縁長 5cm以上（大）							面取り有り 1cm～2cm未満		面取り無し				玉縁長 4cm未満（小）		玉縁長 4cm～5cm（中）		玉縁長 5cm以上（大）				玉縁長 4cm未満（小）						
			面取り二回	面取り不明		面取り不明	面取り一回	面取り不明	面取り不明											面取り一回	面取り不明	面取り不明		面取り一回				面取り一回					面取り二回	
	漆喰付着		接合材無し	漆喰付着		接合材無し	漆喰付着	漆喰付着	接合材無し	漆喰付着		セメント材付着	接合材無し	漆喰付着		漆喰付着	漆喰付着	接合材無し	（重量）	漆喰付着	漆喰付着	漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着	漆喰付着	セメント材付着	セメント材付着	漆喰付着			接合材無し		接合材無し	
	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ				中央片	中央片	中央片	中央片	角1つ	中央片	角1つ		角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片
個数	1	1	1	1	1	2	1	1	1	2	3	1	2	2	3	1	2	56	(1.0kg)	1	1	1	1	1	3	1	2	☆ 2	5	1	3	1	1	2

色調 釉薬 部位 面取り数 接合材	灰色																																													
	釉薬無し																																													
	玉縁部																																		玉縁部欠落							端部				
	玉縁長 4cm未満（小）				玉縁長 4cm～5cm（中）															玉縁長 5cm以上（大）																						面取り有り 1cm未満				
	面取り不明				面取り一回						面取り二回			面取り不明						面取り一回						面取り二回					面取り不明															
	漆喰付着	セメント材付着		接合材無し	漆喰付着			セメント材付着	接合材無し		漆喰付着		接合材無し	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着			セメント材付着	接合材無し	漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着			接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し
	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	角2つ	角1つ	角2つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	角2つ	角1つ	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片
個数	2	1	1	1	2	26	2	1	1	2	1	5	2	2	6	1	1	3	5	1	11	2	14	3	1	1	2	1	2	1	2	17	2	3	173	36	2	85	15	39	255	8	11	5	2	3

色調 釉薬 部位 面取り数 接合材	灰色																																赤色									
	釉薬無し																																マンガン釉（黒釉）									
	端部																												筒部				玉縁部									
	面取り有り 1cm～2cm未満						面取り有り 2cm～3cm未満							面取り有り 3cm～4cm未満					面取り有り 4cm～5cm未満	面取り有り 5cm～6cm未満		面取り無し						面取り不明					玉縁長 4cm未満（小）									
																																	面取り一回		面取り二回				面取り不明			
	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着		セメント材付着			接合材無し		漆喰付着		セメント材付着	接合材無し		セメント材付着	漆喰付着	接合材無し	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		接合材無し	漆喰付着	セメント材付着	接合材無し	（重量）	漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着	セメント材付着		
	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ					角1つ	角1つ	角2つ	角1つ	角1つ	中央片	中央片	角2つ	角1つ	中央片
個数	54	42	41	18	12	15	34	27	1	42	16	10	11	10	9	14	5	6	1	2	1	26	27	7	9	11	13	2	101	39	918	(102.8kg)	1	13	1	5	13	3	2	1	5	5

色調 釉薬 部位 面取り数 接合材	赤色																																																	
	マンガン釉（黒釉）																																																	
	玉縁部																																玉縁部欠落							端部										
	玉縁長 4cm～5cm（中）																	玉縁長 5cm以上（大）																						面取り有り 1cm未満					面取り有り 1cm～2cm未満					
	面取り一回						面取り二回					面取り不明						面取り一回					面取り二回						面取り不明																					
	漆喰付着			セメント材付着			漆喰付着		セメント材付着			漆喰付着			セメント材付着			漆喰付着		セメント材付着			漆喰付着			セメント材付着			漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着			接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着		セメント材付着			接合材無し
	角2つ	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	中央片
個数	1	14	1	4	21	10	15	8	10	96	18	1	6	11	2	12	27	14	1	1	16	2	1	11	9	6	89	25	3	5	4	33	275	31	2	826	30	34	2	36	58	251	157	6	112	83	1	277	173	4

※（　）は、重量。重量の計測は、表土出土の筒部に関してのみ。☆は、有孔を1点含む。

第33表　瓦集計表⑨（明朝系丸瓦）

色調 釉薬 部位 面取り数 接合材	赤色																																											
	マンガン釉（黒釉）																					無し																						
	端部																		筒部			玉縁部																						
	面取り有り 2cm〜3cm未満				面取り有り 3cm〜4cm未満			面取り有り 4cm〜5cm未満	面取り無し							面取り不明						玉縁長 4cm未満(小)											玉縁長 4cm〜5cm(中)											
																						面取り一回	面取り二回						面取り不明				面取り一回						面取り二回					
	漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着	セメント材付着		セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着			接合材無し		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着	セメント材付着	接合材無し	セメント材付着	漆喰付着			セメント材付着			漆喰付着		接合材無し		漆喰付着		セメント材付着			接合材無し	漆喰付着			セメント材付着		接合材無し
	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片				角1つ	角2つ	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片
個数	9	16	52	60	1	4	2	1	85	105	3	211	186	6	3	8	4	1	142	156	4	3	1	4	1	1	3	2	4	1	2	2	1	8	2	8	1	2	2	12	3	2	4	1

色調 釉薬 部位 面取り数 接合材	赤色																																																	
	無し																																																	
	玉縁部																				玉縁部欠落						端部																								
	玉縁長 4cm〜5cm(中)						玉縁長 5cm以上(大)																				面取り有り 1cm未満							面取り有り 1cm〜2cm未満						面取り有り 2cm〜3cm未満				面取り有り 3cm〜4cm未満					
	面取り不明						面取り一回				面取り二回					面取り不明																														
	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着		セメント材付着	接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着			セメント材付着			接合材無し	漆喰付着			セメント材付着		接合材無し	漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し
	角2つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角2つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片
個数	1	6	3	8	2	2	5	2	16	1	9	2	2	1	1	5	5	7	2	2	187	28	344	8	26	1476	1	16	17	3	68	49	1	1	55	40	112	43	4	8	12	15	2	2	1	1	1	1

色調 釉薬 部位 面取り数 接合材	赤色													赤褐色（陶磁器質）																								合計	重量合計
	無し													マンガン釉（黒釉）									無し																
	端部								筒部					玉縁部				玉縁部欠落				筒部	玉縁部欠落			端部									筒部					
	面取り有り 4cm〜5cm未満		面取り無し						面取り不明					玉縁長 4cm未満(小)												面取り有り 1cm未満	面取り有り 1cm〜2cm未満			面取り有り 2cm〜3cm未満		面取り無し							
														面取り一回		面取り不明																							
	漆喰付着	接合材無し	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着	漆喰付着	セメント材付着	接合材無し	（重量）	漆喰付着	接合材無し	漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着	接合材無し	漆喰付着	漆喰付着	セメント材付着	接合材無し	漆喰付着	漆喰付着		セメント材付着	漆喰付着	接合材無し	漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着	セメント材付着	接合材無し	（重量）		
	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ					角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片		角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ						
個数	2	1	85	44	153	5	4	4	1	47	60	5595	(643.5kg)	1	1	1	1	1	2	1	2	1	5	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	4	2	8	(0.7kg)	15053	(748kg)

※（　）は、重量。重量の計測は、表土出土の筒部に関してのみ。 ☆は、有孔を1点含む。

第33表　瓦集計表⑩（明朝系平瓦）

色調	褐色											灰色																		
釉薬	マンガン釉薬			釉薬無し				マンガン釉薬	釉薬無し		釉薬無し	筒部片（表土出土）	マンガン釉									釉薬無し									
部位	広端部							狭端部			筒部		広端部									広端部									
紐圧痕	浅い紐圧痕 横長さ1.1〜1.9cm	不明圧痕		不明圧痕				紐圧痕無し	紐圧痕無し				浅い紐圧痕 横長さ1.1〜1.9cm			深い紐圧痕 横長さ2.0cm以上	不明圧痕					浅い紐圧痕 横長さ1.1〜1.9cm									
	計測不可												圧痕と圧痕の距離 2.5〜3.0cm未満	圧痕と圧痕の距離 3.0〜3.5cm未満	圧痕と圧痕の距離 3.5〜4.0cm未満	圧痕と圧痕の距離 4.0〜4.5cm未満						圧痕と圧痕の距離 2.0〜2.5cm未満			圧痕と圧痕の距離 2.5〜3.0cm未満			圧痕と圧痕の距離 3.0〜3.5cm未満			
接合材	漆喰付着	漆喰付着	接合材無し	漆喰付着		接合材無し		接合材無し	漆喰付着	接合材無し	接合材無し		漆喰付着	漆喰付着	漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着		セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着	接合材無し
	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	中央片	角1つ	筒部片		角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片
個数	1	1	1	1	3	2	9	1	7	1	10	24 (1.5kg)	1	1	1	1	1	6	2	1	1	4	1	2	4	1	9	15	4	12	2

色調	灰色																																			
釉薬	釉薬無し																																			
部位	広端部																																			
紐圧痕	浅い紐圧痕 横長さ1.1〜1.9cm							浅い紐圧痕 横長さ2.0cm以上				深い紐圧痕 横長さ1.1〜1.9cm																								
	圧痕と圧痕の距離 3.5〜4.0cm未満				圧痕と圧痕の距離 4.0〜4.5cm未満		圧痕と圧痕の距離 4.5〜5.0cm未満	圧痕と圧痕の距離 3.0〜3.5cm未満	圧痕と圧痕の距離 3.5〜4.0cm未満		圧痕と圧痕の距離 4.0〜4.5cm未満	圧痕と圧痕の距離 2.0〜2.5cm未満					圧痕と圧痕の距離 2.5〜3.0cm未満					圧痕と圧痕の距離 3.0〜3.5cm未満							圧痕と圧痕の距離 3.5〜4.0cm未満							
接合材	漆喰付着			セメント材付着	漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着	セメント材付着	セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着			セメント材付着		接合材無し		漆喰付着			セメント材付着			接合材無し	
	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	角2つ	中央片	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片
個数	1	9	2	22	4	7	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	33	12	1	3	3	1	51	11	41	1	3	5	1	43	13	1	13	3	1	4

色調	灰色																																					
釉薬	釉薬無し																																					
部位	広端部																																					
紐圧痕	深い紐圧痕 横長さ1.1〜1.9cm								深い紐圧痕 横長さ2.0cm以上																								不明圧痕	不明圧痕					
	圧痕と圧痕の距離 4.0〜4.5cm未満					圧痕と圧痕の距離 計測不可			圧痕と圧痕の距離 2.0〜2.5cm未満	圧痕と圧痕の距離 2.5〜3.0cm未満		圧痕と圧痕の距離 3.0〜3.5cm未満					圧痕と圧痕の距離 3.5〜4.0cm未満							圧痕と圧痕の距離 4.0〜4.5cm未満				圧痕と圧痕の距離 4.5〜5.0cm未満		圧痕と圧痕の距離 計測不可		圧痕と圧痕の距離 計測不可						
接合材	漆喰付着		セメント材付着	接合材無し		漆喰付着	セメント材付着	接合材無し	漆喰付着	漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着		セメント材付着			接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着	漆喰付着	漆喰付着	接合材無し	漆喰付着	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	
	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	中央片	中央片	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片
個数	8	6	8	1	3	13	2	6	2	5	9	17	5	11	2	7	21	20	1	23	3	2	3	7	6	11	1	1	2	22	2	1	73	65	2	1	6	6

色調	灰色																																		
釉薬	釉薬無し				マンガン釉					釉薬無し						釉薬無し																	マンガン釉		
部位	広端部				狭端部					狭端部						狭端部																	筒部		
紐圧痕	紐圧痕無し				紐圧痕無し					浅い紐圧痕 横長さ1.1〜1.9cm	浅い紐圧痕 横長さ2.0cm以上	深い紐圧痕 横長さ1.1〜1.9cm				深い紐圧痕 横長さ1.1〜1.9cm					深い紐圧痕 2.0cm以上			紐圧痕無し											
										圧痕と圧痕の距離 4.0〜4.5cm未満	圧痕と圧痕の距離 2.5〜3.0cm未満	圧痕と圧痕の距離 2.5〜3.0cm未満				圧痕と圧痕の距離 3.0〜3.5cm未満			圧痕と圧痕の距離 3.5〜4.0cm未満	圧痕と圧痕の距離 4.0〜4.5cm未満	圧痕と圧痕の距離 3.5〜4.0cm未満	圧痕と圧痕の距離 4.0〜4.5cm未満													
接合材	漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着	漆喰付着	漆喰付着		セメント材付着	接合材無し	漆喰付着		セメント材付着	接合材無し	漆喰付着	漆喰付着	漆喰付着	セメント材	漆喰付着			セメント材付着			接合材無し			漆喰付着	セメント材付着	接合材無し
	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角2つ	角2つ	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	筒部片	筒部片	筒部片
個数	366	435	84	81	2	2	3	1	2	1	1	5	1	1	2	2	2	1	1	1	2	1	1	1	488	317	2	262	128	1	12	9	68	9	4

※（　）は、重量。重量の計測は、表土出土の筒部に関してのみ。

第33表　瓦集計表⑪（明朝系平瓦）

色調	灰色				赤色																																								
釉薬	釉薬無し				マンガン釉																																								
部位	筒部			筒部片（表土出土）	広端部																																								
紐圧痕					浅い紐圧痕　横長さ1.1～1.9cm																								浅い紐圧痕　横長さ2.0cm以上							深い紐圧痕　横長さ1.1～1.9cm								
圧痕と圧痕の距離					2.0～2.5cm未満		2.5～3.0cm未満						3.0～3.5cm未満						3.5～4.0cm未満					4.0～4.5cm未満				計測不可	3.0～3.5cm未満			3.5～4.0cm未満			4.0～4.5cm未満		2.0～2.5cm未満			2.5～3.0cm未満					
接合材	漆喰付着	セメント材付着	接合材無し		漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着		セメント材付着	接合材無し	漆喰付着	漆喰付着	セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着	漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着		接合材無し	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	
	筒部片	筒部片	筒部片		中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片
個数	274	13	90	2990（310.02kg）	3	1	13	7	6	6	4	1	54	15	41	14	4	4	17	13	7	6	6	4	2	7	1	1	1	7	1	3	1	2	1	2	5	2	1	15	16	6	11	4	1

色調	赤色																																								
釉薬	マンガン釉																																								
部位	広端部																																								
紐圧痕	深い紐圧痕　横長さ1.1～1.9cm																			深い紐圧痕　横長さ2.0cm以上																					
圧痕と圧痕の距離	3.0～3.5cm未満							3.5～4.0cm未満								4.0～4.5cm未満					2.0～2.5cm未満	2.5～3.0cm未満					3.0～3.5cm未満						3.5～4.0cm未満				4.0～4.5cm未満					
接合材	漆喰付着		セメント材付着			接合材無し		漆喰付着			セメント材付着			接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着	漆喰付着		セメント材付着	接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	
	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片
個数	55	23	1	31	27	5	5	1	28	7	2	17	12	4	4	9	5	12	2	3	1	4	2	7	3	1	29	4	20	1	3	2	24	21	24	9	9	6	11	1	1	1

色調	赤色																																							
釉薬	マンガン釉									釉薬無し																														
部位	広端部									広端部																														
紐圧痕	不明圧痕				紐圧痕無し					浅い紐圧痕　横長さ1.1～1.9cm																														浅い紐圧痕　横長さ2.0cm以上
圧痕と圧痕の距離										2.0～2.5cm未満				2.5～3.0cm未満							3.0～3.5cm未満						3.5～4.0cm未満					4.0～4.5cm未満					4.5～5.0cm未満			計測不可	2.5～3.0cm未満
接合材	漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着			セメント材付着		接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着	セメント材付着	接合材無し	漆喰付着	セメント材付着
	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	中央片	角1つ
個数	24	27	18	40	459	205	166	83	11	8	8	4	1	1	35	23	13	9	10	15	64	16	31	13	10	4	43	8	21	14	14	7	2	1	2	1	1	2	1	1	1

色調	赤色																																								
釉薬	釉薬無し																																								
部位	広端部																																								
紐圧痕	浅い紐圧痕　横長さ2.0cm以上									深い紐圧痕　横長さ1.1～1.9cm																											深い紐圧痕　横長さ2.0cm以上					
圧痕と圧痕の距離	3.0～3.5cm未満		3.5～4.0cm未満					4.0～4.5cm未満		2.0～2.5cm未満				2.5～3.0cm未満						3.0～3.5cm未満					3.5～4.0cm未満						4.0～4.5cm未満				4.5～5.0cm未満		2.0～2.5cm未満	2.5～3.0cm未満				
接合材	漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着	接合材無し		漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し
	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片
個数	6	9	7	2	1	1	2	5	1	4	1	1	2	29	18	12	11	6	9	34	39	37	32	11	43	29	14	16	22	7	9	6	131	7	1	5	1	10	4	7	2	1

※（　）は、重量。重量の計測は、表土出土の筒部に関してのみ。

第33表　瓦集計表⑫（明朝系平瓦）

色調	赤色																																								
釉薬	釉薬無し																																	マンガン釉			釉薬無し			筒部片（表土出土）
部位	広端部																																	筒部			筒部			
紐圧痕	深い紐圧痕　横長さ2.0cm以上																					不明圧痕						紐圧痕無し												
圧痕と圧痕の距離	3.0〜3.5cm未満						3.5〜4.0cm未満						4.0〜4.5cm未満						4.5〜5.0cm未満																					
接合材	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し		漆喰付着	セメント材付着	接合材無し	漆喰付着	セメント材付着	接合材無し	
	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	筒部片	筒部片	筒部片	筒部片	筒部片	筒部片	
個数	62	14	43	7	1	1	41	10	19	28	29	3	15	5	23	12	1	2	2	1	1	4	80	87	35	22	2	6	744	941	185	209	43	17	429	233	18	281	63	69	12427　（1219.4kg）

色調	赤色																																
釉薬	マンガン釉																										釉薬無し					
部位	狭端部																										狭端部					
紐圧痕	浅い紐圧痕　横長さ1.1〜1.9cm							深い紐圧痕　横長さ1.1〜1.9cm									深い紐圧痕　横長さ2.0cm以上						紐圧痕無し					浅い紐圧痕　横長さ1.1〜1.9cm					浅い紐圧痕 横長さ2.0cm以上
圧痕と圧痕の距離	2.0〜2.5cm未満		2.5〜3.0cm未満		3.0〜3.5cm未満	3.5〜4.0cm未満	4.0〜4.5cm未満	2.0〜2.5cm未満			2.5〜3.0cm未満		3.0〜3.5cm未満			3.5〜4.0cm未満	2.5〜3.0cm未満		3.0〜3.5cm未満		3.5〜4.0cm未満							2.0〜2.5cm未満	2.5〜3.0cm未満		3.0〜3.5cm未満	6.5cm	2.5〜3.0cm未満
接合材	セメント材付着		セメント材付着		セメント材付着	セメント材付着	漆喰付着	漆喰付着	セメント材付着		漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着	セメント材付着		接合材無し	漆喰付着	セメント材付着	セメント材付着		セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着			接合材無し	漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着	漆喰付着	漆喰付着
	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	中央片	中央片	中央片
個数	1	1	3	4	7	2	1	3	1	7	3	21	2	26	7	2	2	3	9	1	1	4	714	417	6	807	520	1	2	1	1	1	1

色調	赤色														赤褐色															
釉薬	釉薬無し														マンガン釉薬						釉薬なし									
部位	狭端部														広端部						広端部									
紐圧痕	深い紐圧痕　横長さ1.1〜1.9cm							深い紐圧痕　横長さ2.0cm以上		紐圧痕無し					深い紐圧痕 横長さ1.1〜1.9cm			不明圧痕			浅い紐圧痕 横長さ1.1〜1.9cm			浅い紐圧痕 横長さ2.0cm以上	深い紐圧痕 横長さ1.1〜1.9cm					
圧痕と圧痕の距離	1.5cm	2.5〜3.0cm未満	3.0〜3.5cm未満					2.5〜3.0cm未満	3.0〜3.5cm未満						2.5〜3.0cm未満	3.0〜3.5cm未満					2.5〜3.0cm未満		3.0〜3.5cm未満	4.0〜4.5cm未満	2.0〜2.5cm未満	3.0〜3.5cm未満				4.0〜4.5cm未満
接合材	セメント材付着	セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着	漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着		接合材無し	漆喰付着	接合材無し	接合材無し	漆喰付着	接合材無し	漆喰付着		セメント材付着	接合材無し	接合材無し
	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	中央片	角1つ	角1つ
個数	2	3	3	1	8	6	1	1	1	469	430	318	323	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1

色調	赤褐色																		大和風撫で																		
																			赤色																		
釉薬	釉薬なし					マンガン釉薬	釉薬無し						マンガン釉		釉薬無し			筒部片（表土出土）	マンガン釉																		
部位	広端部					狭端部	狭端部						筒部		筒部				広端部																		
紐圧痕	深い紐圧痕 横長さ2.0cm以上		不明圧痕			紐圧痕無し	深い紐圧痕 横長さ1.1〜1.9cm	紐圧痕無し											浅い紐圧痕　横長さ1.1〜1.9cm																		
圧痕と圧痕の距離	2.0〜2.5cm未満	3.0〜3.5cm未満					2.0〜2.5cm未満												2.0〜2.5cm未満			2.5〜3.0cm未満					3.0〜3.5cm未満						3.5〜4.0cm未満				4.0〜4.5cm未満
接合材	漆喰付着	漆喰付着	漆喰付着		セメント材付着	漆喰付着	漆喰付着	漆喰付着		セメント材付着	接合材無し		漆喰付着	接合材無し	漆喰付着	セメント材付着	接合材無し		漆喰付着		セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着			漆喰付着		セメント材付着			接合材無し	漆喰付着		セメント材付着		セメント材付着
	中央片	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	筒部片	筒部片	筒部片	筒部片	筒部片		角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片
個数	1	1	22	13	1	2	1	36	16	2	1	2	8	1	8	3	9	43　（4.3kg）	1	1	2	7	2	1	8	1	31	12	1	7	2	1	1	2	2	1	1

※（　）は、重量。重量の計測は、表土出土の筒部に関してのみ。

第33表　瓦集計表⑬（明朝系平瓦）

色調	大和風撫で																																								
	赤色																																								
釉薬	マンガン釉																														釉薬無し										
部位	広端部																														広端部										
紐圧痕	浅い紐圧痕 横長さ2.0cm以上		深い紐圧痕 横長さ1.1～1.9cm														深い紐圧痕　横長さ2.0cm以上											圧痕不明				浅い紐圧痕　横長さ1.1～1.9cm									
	圧痕と圧痕の距離 3.0～3.5cm未満		圧痕と圧痕の距離 2.0～2.5cm未満			圧痕と圧痕の距離 2.5～3.0cm未満			圧痕と圧痕の距離 3.0～3.5cm未満				圧痕と圧痕の距離 3.5～4.0cm未満				圧痕と圧痕の距離 2.5～3.0cm未満		圧痕と圧痕の距離 3.0～3.5cm未満				圧痕と圧痕の距離 3.5～4.0cm未満				圧痕と圧痕の距離 4.0～4.5cm未満					圧痕と圧痕の距離 2.0～2.5cm未満	圧痕と圧痕の距離 2.5～3.0cm未満				圧痕と圧痕の距離 3.0～3.5cm未満				
接合材	漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着		漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着		セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着	漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し
	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ
個数	2	1	4	1	3	8	7	2	60	6	18	3	7	4	5	1	2	1	10	1	1	4	2	2	5	1	1	13	91	41	21	2	19	2	5	8	38	1	9	34	1

色調	大和風撫で																																										
	赤色																																										
釉薬	釉薬無し																																										
部位	広端部																																										
紐圧痕	浅い紐圧痕　横長さ1.1～1.9cm						浅い紐圧痕　横長さ2.0cm以上					深い紐圧痕　横長さ1.1～1.9cm																		深い紐圧痕　横長さ2.0cm以上									圧痕不明			
	圧痕と圧痕の距離 3.5～4.0cm未満				計測不可		圧痕と圧痕の距離 3.0～3.5cm未満			圧痕と圧痕の距離 3.5～4.0cm未満	圧痕と圧痕の距離 4.0～4.5cm未満	圧痕と圧痕の距離 2.0～2.5cm未満			圧痕と圧痕の距離 2.5～3.0cm未満				圧痕と圧痕の距離 3.0～3.5cm未満					圧痕と圧痕の距離 3.5～4.0cm未満				圧痕と圧痕の距離 4.0～4.5cm未満			圧痕と圧痕の距離 2.5～3.0cm未満		圧痕と圧痕の距離 3.0～3.5cm未満			圧痕と圧痕の距離 3.5～4.0cm未満							
接合材	漆喰付着		セメント材付着		漆喰材着	セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着	漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着	セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着	セメント材付着		漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着	セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着		漆喰付着		セメント材付着	
	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	角1つ	角1つ	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片
個数	10	4	3	3	1	1	3	2	1	1	1	1	2	5	37	5	11	12	70	18	26	17	1	14	1	9	7	1	1	1	5	3	13	5	1	2	7	2	3	266	283	49	25

色調	大和風撫で																									大和風撫で以外 合計	大和風撫で 合計	総合計
	赤色																								灰色			
釉薬	マンガン釉										釉薬無し							マンガン釉			釉薬無し			筒部片 （表土出土）	マンガン釉			
部位	狭端部										狭端部							筒部			筒部				筒部			
紐圧痕	深い圧痕　横長さ1.1～1.9cm			深い圧痕 横長さ2.0cm以上	紐圧痕無し						浅い紐圧痕 横長さ1.1～1.9cm	深い圧痕 横長さ1.1～1.9cm	紐圧痕無し															
	圧痕と圧痕の距離 2.5～3.0cm未満	圧痕と圧痕の距離 3.0～3.5cm未満	圧痕と圧痕の距離 3.5～4.0cm未満	圧痕と圧痕の距離 3.0～3.5cm未満							圧痕と圧痕の距離 2.5～3.0cm未満	圧痕と圧痕の距離 3.0～3.5cm未満																
接合材	セメント材付着	漆喰付着	漆喰付着	セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着			接合材無し	セメント材付着	セメント材付着	漆喰付着		セメント材付着		接合材無し	漆喰付着	セメント材付着	無し	漆喰付着	セメント材付着	無し		セメント材付着			
	角1つ	中央片	中央片	角1つ	角1つ	中央片	角2つ	角1つ	中央片	中央片	中央片	中央片	角1つ	中央片	角1つ	中央片	角1つ	筒部片	筒部片	筒部片	筒部片	筒部片	筒部片		筒部片			
個数	2	1	1	1	204	60	2	278	225	1	1	1	81	1	141	93	1	46	1	2	3	2	3	2282 （273.9kg）	5	29804	4902	34706

※（　）は、重量。重量の計測は、表土出土の筒部に関してのみ。

重量合計　（1809.1kg）

第33表　瓦集計表⑭（明朝系役瓦）

分類 色調 釉薬 接合材 大きさなど	雲形													
	灰色				赤色									
	釉薬なし				釉薬なし				マンガン釉（黒釉）					
	漆喰材		セメント材		漆喰材		セメント材		漆喰材					
	大形品		大形品	不明品（破損大）	大形品	不明品（破損大）	中形品	小形品	中形品		小形品		不明品（破損大）	
	2巻	不明	不明	不明	不明	不明	不明	1巻	3巻	3巻	不明	2巻	3巻	不明
個　数	1	1	1	1	1	4	1	1	1	1	2	2	2	14

分類 色調 釉薬 接合材 大きさなど	雲形						花形			L字瓦		飾瓦花形	
	赤色						褐色（生焼色）	灰色	赤色	灰色		赤色	灰色
	マンガン釉（黒釉）									釉薬なし		マンガン釉（黒釉）	釉薬なし
	セメント材									接合材無し	漆喰材		
	大形品		小形品			不明品（破損大）				大きさ・巻数・形状不明		漆喰材	
	1巻	不明	1巻	2巻	3巻	不明							
個　数	1	14	3	2	9	27	1	1	1	2	3	1	1

分類 色調 釉薬 接合材 大きさなど	龍頭部		役瓦	大形丸瓦	合　計
	赤色	灰色	灰色	赤色	
	釉薬なし		釉薬なし	マンガン釉（黒釉）	
	漆喰材		漆喰材	漆喰材	
個　数	1	1	1	1	103

第34表　瓦観察一覧①

挿図番号 図版番号	造瓦 系統	種類	部位	分類	色調	観察事項	旧出土地	新出土地
第92図 図版61 1	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅰ-A	灰色	瓦当上半部の資料。珠文が小さく多い。兎の耳状の花弁がみられる。	不明	出土地不明
第92図 図版61 2	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅰ-B	褐色	瓦当面を残す破片。丸瓦部がはずれている。褐色。瓦当裏には縦方向の指撫で跡が明瞭。	不明	出土地不明
第92図 図版61 3	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅰ-C	灰色	瓦当を三分の二ほどを留める資料。灰色。顎は破損しているが、裏面全体に指撫でが大きく残る。	表　L1　98	L1-98　表採
第92図 図版61 4	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅲ-A	灰色	瓦当面の剥離が著しく進んでいる。珠文や僅かにみられる兎の耳状の花弁から5に類似する文様である。灰色瓦当面は撫で整形が極めて明瞭である。瓦当径約15㎝。器壁の厚み1.7㎝である。	S60	出土地不明
第92図 図版61 5	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅲ-A	灰色	本資料も細かい瓦当破片である。灰色。珠文が大きく、少ない点が特徴。さらに花弁の表現が線になる。	表土　K5　103	K5-103　表土
第92図 図版61 6	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅱ-A	灰色	正視型の花文様で、菊状を呈する。瓦当部の細片。瓦当裏は撫で整形。器壁の厚み1.7㎝。	L　97	出土地不明
第92図 図版61 7	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅳ-A	灰色	瓦当部細片。文様は牡丹。全体に扁平になる。花弁は三山状に円く表現される。裏面は撫で整形。	S60	出土地不明
第92図 図版61 8	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅳ-A	灰色	花弁の一部のみを残す瓦当細片。三山状の花弁を呈する。	S60	出土地不明
第92図 図版61 9	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅳ-E	赤色	外区がはずれ、中の瓦当面のみを残した資料。文様は全体に扁平になる。花弁は二山状の表現になる。瓦当裏の成形は指撫でが行われ、やや凹凸面をなしている。	表　K10　102	K10-102　表採
第92図 図版61 10	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅳ-C	灰色	瓦当面はほぼ完全で、丸瓦の頂部が残る資料である。文様面はかなり扁平化して文様自体も薄い。先に紹介した文様同様に花弁は二山形状を呈している。瓦当裏は指撫で成形のため凹凸を呈している。瓦当径14.5㎝。	不明	出土地不明
第92図 図版61 11	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅳ-C	灰色	花文様分部のみを残して大きく破損した瓦当資料。花弁が二山形状を呈する花文様。	K0　97	K0-97　表採
第92図 図版61 12	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅳ-D	灰色	瓦当を欠落するものの、丸瓦の接合が残り、全体の状況を押さえることが出来る資料である。顎部分が正面に向かい反り返る。文様は具象的で、また、三山状の花弁があり、華やかな印象をみせる。瓦当径14.2㎝。	SW13　内下部	L0-96　SW13
第93図 図版62 13	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅳ-B	灰色	上記の文様類型と同じであるが、文様全体の扁平化と花文様の簡略がみられる。花弁は二山状で、花芯も輪郭が曖昧である。瓦当径15.8㎝。	K0　97 石組遺構内	K0-97　SW6
第93図 図版62 14	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅴ-A	灰色	ほぼ全体観のわかる軒瓦資料である。僅かに側面と玉縁側が欠損。瓦当面と丸瓦との接合角度は100度である。瓦当裏の撫では明瞭になる。瓦当文様は牡丹文。珠文は14個付されている。瓦当径15.0㎝。漆喰の付着がある。	K5-97　Ⅱ層	K5-97　Ⅱ層
第93図 図版62 15	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅴ-B	灰色	器面の風化がみられる瓦当破片。文様は牡丹文。瓦当裏は撫でによる指痕が残る。瓦当径15.0㎝。	不明	出土地不明
第93図 図版62 16	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅴ-A	灰色	牡丹文様の瓦当破片である。文様は比較的鮮明。珠文は14個である。瓦当裏には成形時の指撫で痕が残る。瓦当径15.0㎝。	表　K8　102	K8-102　表採
第93図 図版62 17	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅴ-B	灰色	文様を僅かに残す瓦当小片である。文様は牡丹文様。	表　K10　102	K10-102　表採
第93図 図版62 18	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅴ-B	赤色	瓦当頂部を欠いた資料。瓦当裏面は粗く整形痕が顕著に残る。瓦当断面は凸レンズ状を呈する。文様は牡丹。瓦当径14.5㎝。漆喰の付着を認める。	表　K0　100	K0-100　表採
第93図 図版62 19	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅴ-C	赤色	瓦当の成形および文様などが丁寧な作りである。牡丹の花弁は二山状。瓦当裏面の撫で整形も平滑。断面は四角形に近く扁平である。瓦当径15.0㎝。瓦当面、裏ともにマンガン釉を塗付する。	L1-102　表採	L1-102　表採
第93図 図版62 20	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅴ-C	赤色	瓦当顎の整形は断面が台形状になる。文様面である瓦当面がきれいである。文様そのものも鮮明。花弁は二山状。瓦当裏面の撫で整形も平滑。瓦当断面が台形を呈する。瓦当径15.5㎝。瓦当面、裏ともにマンガン釉を塗付する。セメント付着。	S60	出土地不明
第93図 図版62 21	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅵ-A	赤色	顎周辺を大きく欠落した瓦当部資料。瓦当面は厚くマンガンを塗布したため黒色になる。裏面の撫では粗く、荒れている。顎部は欠落しているが、断面形状から凸レンズ形が推定される。瓦当径14.6㎝。	第62　柱穴	K9-93　柱穴62
第94図 図版63 22	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅵ-A	赤色	瓦当面はほぼ完全に残る。瓦当面と丸瓦との接合角度は113度である。瓦当径14.7㎝。漆喰およびセメントの付着あり。瓦当断面は稚拙ながら台形を呈する。瓦当裏は指撫で痕が粗く残る。マンガン釉薬を塗布する。	K1-100　表採	K1-100　表採
第94図 図版63 23	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅵ-A	赤色	瓦当の顎分部を欠落した軒丸瓦資料。瓦当面と丸瓦との接合角度は90度である。瓦当径15.0㎝。瓦当裏面の整形は粗く、回転して撫でをした痕跡が明瞭に残る。漆喰の付着あり。	不明	出土地不明
第94図 図版63 24	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅶ-A	赤色	瓦当面の断面が凸レンズ形をなす。瓦当面の文様は凹凸が明瞭で花文様が鮮明。瓦当裏は指撫で痕がそのまま残され、粗面になる。瓦当径15.2㎝。セメントの付着あり。製作段階で瓦当の天地が逆転している可能性がある。	L1　98	L1-98　表採
第94図 図版63 25	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅶ-A	赤色	著しく厚く造形した牡丹文様で、外縁より高く盛り上がるのが特長。瓦当径15.5㎝。保存状況にもよるが漆喰が破損面含めて付着している。マンガン釉を施す。	L1　102	L1-102　表採

第34表　瓦観察一覧②

挿図番号 図版番号	造瓦 系統	種類	部位	分類	色調	観察事項	旧出土地	新出土地
第94図 図版63 26	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅷ-A	赤色	軒丸瓦を縦断したような破損資料で、瓦当面と丸瓦との接合角度が90度をなす。瓦当面の文様は内側面に表現したタイプで、陰陽2タイプ存在することがわかる。本タイプは陰文様になる。瓦当裏面は指撫での痕跡が顕著。丸瓦部の長軸長さ24.0cmである。木ハンを使用していることが横傷痕から理解される。	第62　柱穴	K9-93　柱穴62
第94図 図版63 27	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅷ-B	赤色	瓦当文様は鮮明。裏面の撫で整形も良好で著しい凹凸はみられない。顎部分も断面が台形に成形する。瓦当径約14.5㎝。	不明	出土地不明
第94図 図版63 28	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅶ-A	赤色	軒丸瓦の細片であるが、瓦当面と丸瓦との接合角度が90度を確認できる資料である。瓦当面の文様は肉厚で鮮明。器面にはセメントやマンガン釉の付着痕がみられる。	不明	出土地不明
第94図 図版63 29	明朝系	軒丸瓦	瓦当部	Ⅷ-C	赤色	大形の軒丸瓦である。瓦当面と丸瓦との接合角度はほぼ90度である。瓦当面の文様は鮮明。瓦当裏面の成形も丁寧で、顎断面は台形になる。マンガン釉薬を使用。瓦当径18.0㎝。外区幅1.9cm。漆喰が側面に付着している。軒先に付く役瓦の1種である可能性が高い。	不明	出土地不明
第95図 図版64 30	明朝系	軒平瓦	瓦当部	Ⅰ-A	灰色	瓦当中央部破片。厚手成形。平瓦の凹面部分には強い横撫で成形痕が残る。瓦当裏には横撫でと縦撫で痕が明瞭。	表　L4　100	L4-100　表採
第95図 図版64 31	明朝系	軒平瓦	瓦当部	Ⅰ-B	灰色	瓦当の右隅部分の破片。厚手成形。平瓦の凹面部分には桶板紐圧痕がみられる。器面は風化が進むが、瓦当文様の葉は確認される。	S60	出土地不明
第95図 図版64 32	明朝系	軒平瓦	瓦当部	Ⅱ-B	灰色	瓦当の右隅部分の破片。厚手成形。平瓦の凹面部分の造形は粗い。瓦当面の剥離がみられるが、写実的な葉文様が確認される。	X100　Y100 石組井戸状遺構内	K0-99　SW4
第95図 図版64 33	明朝系	軒平瓦	瓦当部	Ⅱ-C-3	赤色	瓦当の左隅部分の破片。厚手成形。瓦当裏は横撫でが顕著にみられる。文様は葉のキザミが明瞭な種類である。	表　K0　96	K0-96　表採
第95図 図版64 34	明朝系	軒平瓦	瓦当部	Ⅱ-D	灰色	右側の部分を欠くが、それ以上に左側面のよく残った資料である。外周に向かい薄くなる。瓦当面には木ハンを使用した痕跡がみられる。文様全体に彫り深く、鮮明。漆喰の付着痕がみられる。	不明	出土地不明
第95図 図版64 35	明朝系	軒平瓦	瓦当部	Ⅱ-A	灰色	瓦当面全体に残る資料で、平瓦部分は欠落する。厚手成形。瓦当裏は横撫で。文様は全体に平板である。	L0-96　SW13	L0-96　SW13
第95図 図版64 36	明朝系	軒平瓦	瓦当部	Ⅴ-A	灰色	厚手成形。瓦当の右隅部分を僅かに欠いた資料。文様全体は鮮明。瓦当の厚みは外周部で極端に薄くなる。裏面は粗い横撫でが行われている。	L1-98　撹乱層	L1-98　撹乱層
第95図 図版64 37	明朝系	軒平瓦	瓦当部	Ⅴ-B-1	灰色	瓦当中央部破片。厚手成形。平瓦の凹面部分には桶板痕や綴り紐圧痕が残る。瓦当裏には横撫でが明瞭。	不明	出土地不明
第95図 図版64 38	明朝系	軒平瓦	瓦当部	Ⅴ-A	赤色	瓦当の左隅部分を僅かに欠いた瓦当資料。瓦当成形が薄手成形。花芯は四角でその下の実状文様はやや同心円的な文様を描く。	第2　K5　94	K5-94　Ⅱ層
第96図 図版64 39	明朝系	軒平瓦	瓦当部	Ⅴ-A	灰色	ほぼ全体を残す瓦当資料。漆喰の付着あり。瓦当は風化が進む。瓦当裏面には横撫で痕がみられる。平瓦の凹面には桶板紐圧痕の窪みがそのまま残されている。	南第3柱穴	K4-94　柱穴3
第96図 図版64 40	明朝系	軒平瓦	瓦当部	Ⅴ-A	赤色	顎の一端を欠くもののほぼ完形の瓦当面。瓦当の厚みは均一。漆喰の付着あり。平瓦部の桶板紐綴り圧痕はそのまま残されている。	不明	出土地不明
第96図 図版64 41	明朝系	軒平瓦	瓦当部	Ⅴ-C	赤色	瓦当裏は横撫で整形痕が明瞭で、指の凹凸が残る。瓦当の厚みは外縁に薄くなる。平瓦部の桶板紐綴り圧痕は粘土で埋められている。	不明	出土地不明
第96図 図版64 42	明朝系	軒平瓦	瓦当部	Ⅴ-B	赤色	瓦当表面と裏面に黒色のマンガン釉を施す。木ハンを使用している。瓦当の厚みは外縁に薄く成形。漆喰付着あり。瓦当裏には横撫での凹凸が残る。平瓦部の桶板紐綴り圧痕はそのまま窪みを残す。	表　K10　99	K10-99　表採
第96図 図版64 43	明朝系	軒平瓦	瓦当部	Ⅴ-B	赤色	瓦当表面と裏面に黒色のマンガン釉を施す。瓦当裏は横撫で痕あり。厚みあり。	不明	出土地不明
第96図 図版64 44	明朝系	軒平瓦	瓦当部	Ⅳ-A	赤色	瓦当の一部片で、左隅の葉文部分を残す。漆喰を一部に付着する。	S60	出土地不明
第97図 図版64 45	明朝系	丸瓦	玉縁部 ～端部	－	灰色	玉縁長さ5．5㎝。器面には漆喰、セメントの付着あり。玉縁裏の面取りは一回。筒部端の面取りは極めて薄くなされる。幅は約2.0㎝。器壁の厚み2.0㎝。	不明	出土地不明
第97図 図版64 46	明朝系	丸瓦	玉縁部	－	灰色	玉縁長さ5．4㎝。玉縁側の破片資料。器壁の厚み1.9㎝。	SW13 遺構周辺	L0-96　SW13
第97図 図版64 47	明朝系	丸瓦	玉縁部	－	灰色	玉縁側の破片資料。側面は平坦に成形。軒丸瓦の丸瓦破片である。釘孔直径約1.8㎝。玉縁長さ4.0㎝と短い。器壁の厚み1.9㎝。	K0　97 石組遺構内	K0-97　SW6
第97図 図版64 48	明朝系	丸瓦	玉縁部	－	灰色	玉縁側の破片。玉縁裏の面取りは長く一回。筒部の凸面は撫でがあるが、弱いものである。玉縁長さ4.6㎝。器壁の厚み2.4㎝。	K0　97 石組遺構内	K0-97　SW6
第97図 図版65 49	明朝系	丸瓦	玉縁部 ～端部	－	赤色	筒部全体にマンガン釉を施す。外周にセメントの付着あり。玉縁長さ約5.0㎝。筒部凹面の端部は面取りはなく、ややめくれる様に広くなる。玉縁裏の面取りは二回行われる。器壁の厚み1.9㎝。	K5-98　Ⅱ層	K5-98　Ⅱ層
第97図 図版65 50	明朝系	丸瓦	玉縁部 ～端部	－	赤色	玉縁長さ4.5㎝。玉縁裏の面取り一回。筒部凹面の端部は幅約1.0㎝の面取りあり。漆喰の付着がある。	不明	出土地不明
第98図 図版65 51	明朝系	丸瓦	玉縁部 ～端部	－	赤色	玉縁裏の面取りは一回、玉縁長さ約5.0㎝。筒部凹面の端部は約1㎝幅の面取りあり。漆喰付着あり。	K4-97　Ⅱ層	K4-97　Ⅱ層

第34表　瓦観察一覧③

挿図番号 図版番号	造瓦 系統	種類	部位	分類	色調	観察事項	旧出土地	新出土地
第98図 図版65 52	明朝系	丸瓦	端部	－	赤色	大形の丸瓦筒部破片。凹面端部の面取りは薄く約4.5cmと幅広く行われている。凸面の表面は撫で成形されている。漆喰の付着は認められない。	SP2　遺構 K1　95 赤土プール断割	K1-99　SP2
第98図 図版65 53	明朝系	平瓦	広端部～ 狭端部	－	灰色	台形を呈する一つの角を欠いた平瓦資料。凹面には桶板紐綴り圧痕や桶板そのものの短冊形になった状況が写されている。平瓦の器壁の厚み1.6cm。	L0　97　SW13 石組井戸状　遺構	L0-97　SW13
第98図 図版65 54	明朝系	平瓦	広端部～ 狭端部	－	灰色	ほぼ完全形の平瓦。平面形が台形。両側に一部丸瓦の重ね部分が残っている。漆喰の付着あり。器壁の厚み1.4cm。	L0　東西トレンチ 第2層　赤褐	L0　不明
第98図 図版65 55	明朝系	平瓦	広端部～ 狭端部	－	赤色	ほぼ完全形の平瓦。凹面に桶板紐綴り圧痕の窪みが7個並ぶ。また、両側には丸瓦の重ね痕がみられる。凸面の両側には撫で整形時の指撫で痕が凹線として残る。器壁の厚み1.6cm。	不明	出土地不明
第98図 図版65 56	明朝系	平瓦	広端部～ 狭端部	－	赤色	僅かに狭端側の角を欠いた平瓦。凹面には桶板綴り紐圧痕が6個並んでいる。また、丸瓦の重ね部分が灰色として両側に残る。器壁の厚み1.5cm。	不明	出土地不明
第98図 図版65 57	明朝系	平瓦	筒部	－	赤色	平瓦の筒部破片。凹面側に布の縫い目痕が数条残る資料である。	表　K9　104	K9-104　表採
第99図 図版66 58	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	完全形。手づくね成形で、尾が曲線を描く。渦は右巻きである。側面には漆喰に食い込んだ0.6cmの深さがみられる。器壁の厚み3.2cm。	撹乱　L1　98	L1-98　撹乱層
第99図 図版66 59	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	完全形。手づくね成形で、尾が曲線を描く。渦は右巻きである。側面には漆喰に食い込んだ0.6cmの深さがみられる。器壁の厚み3.3cm。	不明	出土地不明
第99図 図版66 60	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	完全形。手づくね成形で、尾が曲線を描く。渦は左巻きである。側面には漆喰に食い込んだ0.6cmの深さがみられる。器壁の厚み4.0cm。	表土　L3　103	L3-103　表土
第99図 図版66 61	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	完全形。手づくね成形で、尾が曲線を描く。渦は左巻きである。側面には漆喰に食い込んだ0.5cmの深さがみられる。器壁の厚み3.2cm。	K5-102　表土	K5-102　表土
第99図 図版66 62	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	完全形。手づくね成形で、尾が直線を描く。漆喰に食い込んだ0.7cmの深さがみられる。器壁の厚み3.3cm。	S60	出土地不明
第99図 図版66 63	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	完全形。手づくね成形で、尾が直線を描く。漆喰に食い込んだ0.5cmの深さがみられる。器壁の厚み3.1cm。	L0　99	L0-99　表採
第99図 図版66 64	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	完全形。手づくね成形で、尾が直線を描く。漆喰に食い込んだ0.5cmの深さがみられる。器壁の厚み3.6cm。	不明	出土地不明
第100図 図版67 65	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	尾部が欠落。手づくね成形。漆喰に食い込んだ0.6cmの深さがみられる。器壁の厚み2.2cm。	表　L0　100	L0-100　表採
第100図 図版67 66	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	完全形。手づくね成形で、尾が直線を描く。漆喰に食い込んだ0.4cmの深さがみられる。器壁の厚み3.6cm。	第1コーラル K9　94	K9-94　Ⅰ層 （コーラル層）
第100図 図版67 67	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	尾部が欠落。手づくね成形。漆喰に食い込んだ0.6cmの深さがみられる。器壁の厚み3.7cm。	S60	出土地不明
第100図 図版67 68	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	完全形。手づくね成形で、尾は直線を描く。側面には漆喰に食い込んだ0.5cmの深さがみられる。器壁の厚み3.2cm。	不明	出土地不明
第100図 図版67 69	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	完全形。手づくね成形で、側面には漆喰に食い込んだ0.7cmの深さがみられる。器壁の厚み3.2cm。	L1　98　撹乱層	L1-98　撹乱層
第100図 図版67 70	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	完全形。手づくね成形で、尾が直線を描く。漆喰に食い込んだ0.3cmの深さがみられる。器壁の厚み3.7cm。	S60	出土地不明
第100図 図版67 71	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	完全形。手づくね成形。表面の線表現は凹凸が反転している。漆喰に食い込んだ0.7cmの深さがみられる。器壁の厚み4.0cm。	第2　L4　97	L4-97　Ⅱ層
第101図 図版68 72	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	完全形。手づくね成形で、尾が曲線を描く。側面には漆喰に食い込んだ0.8cmの深さがみられる。器壁の厚み3.6cm。	K0　100　表土	K0-100　表土
第101図 図版68 73	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	尾部が欠落。手づくね成形。側面には漆喰に食い込んだ0.9cmの深さがみられる。器壁の厚み3.6cm。	かわや	かわや跡
第101図 図版68 74	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	資料の半分を欠落。表面の線表現は凹凸が反転している。側面には漆喰に食い込んだ1.2cmの深さがみられる。器壁の厚み3.2cm。	第2　K3　95	K3-95　Ⅱ層
第101図 図版68 75	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	資料の半分以上を欠落。線は高く細く隆起させている。側面には漆喰に食い込んだ0.5cmの深さがみられる。器壁の厚み3.0cm。	撹乱　+　S60	撹乱層　+ 出土地不明
第101図 図版68 76	明朝系	役瓦	－	雲形	赤色	完全形。線は太く、厚く表現する。尾は曲線を描く。側面には漆喰に食い込んだ1.3cmの深さがみられる。器壁の厚み5.5cm。	不明	出土地不明
第101図 図版68 77	明朝系	役瓦	－	雲形	灰色	尾の部分を欠落する。側面には漆喰に食い込んだ1.8cmの深さがみられる。また、針金どめの留め部分が2カ所に成形され、針金も残った状態で出土した。器壁の厚み4.8cm。	不明	出土地不明
第101図 図版68 78	明朝系	役瓦	－	花形	赤色	牡丹の花。花芯や花びらが丁寧に成形され、線や円で刻されている。側面には漆喰に食い込んだ6.6cmの深さがみられる。縦15.0cm、横18.5cm、器壁の厚み5.5cm。	不明	出土地不明
第101図 図版68 79	明朝系	役瓦	－	花形	灰色	78と同様の牡丹の花資料である。ただし、表面の風化がすすみ、線描は消えかかっている。側面には漆喰に食い込んだ0.9cmの深さがみられる。縦11.0cm、横17.6cm、器壁の厚み3.9cm。	第62　柱穴	K9-93　柱穴62

第34表　瓦観察一覧④

挿図番号 図版番号	造瓦 系統	種類	部位	分類	色調	観察事項	旧出土地	新出土地
第102図 図版69 80	明朝系	役瓦	－	龍頭部	赤色	龍頭部に付く鶏冠状になるもので、先端が尖る部分が3カ所造形されている。ただし、これは部分片で他にいくつあるのか、形状などについても明らかではない。全体に漆喰に付着が認められる。	L4 99 撹乱(表土層)	L4-99 表土
第102図 図版69 81	明朝系	役瓦	－	飾瓦花形	灰色	茎状の棒と小葉の造形が認められることから、先に紹介した花形と関連するものと推測される。裏面には漆喰の付着がある。	不明	出土地不明
第102図 図版69 82	明朝系	役瓦	－	飾瓦花形	赤色	造形的には先の小葉が付くものと同じもので、同一個体か、もしくは同様の茎をなすものとみられる。一部に漆喰の付着を認める。	不明	出土地不明
第102図 図版69 83	明朝系	役瓦	－	龍頭部	灰色	角や突起の一部を造形するもので、破片のため全体は明らかでない。焼成は良好。器壁の厚み2.1cm。	Ⅱ期基壇 南側壁	Ⅱ期基壇?
第102図 図版69 84	明朝系	役瓦	－	役瓦	灰色	残存形態がL状の丸瓦系資料である。ただし、破損のため全体観は明らかにしがたい。表面に漆喰の付着を認める。器壁の厚み1.5cm。	第Ⅱ K3 93	K3-93 Ⅱ層
第102図 図版69 85	明朝系	役瓦	－	大形丸瓦	赤色	丸瓦の破片であるが、湾曲が著しく大きい。隅先飾り瓦の丸瓦部分片であろうか。凸面には漆喰の使用を明瞭にとどめている。器壁の厚み1.8cm。	不明	出土地不明
第102図 図版69 86	大和系	軒丸瓦	瓦当部	5a	灰色	玉縁分部を大きく欠いた資料である。瓦当には三つ巴の左巴文があり、外区には3＋1の珠文がみられる。瓦当面の最大厚みは4.5cm。顎は厚みをもち筒状になる。瓦当面と丸瓦の接合は丸瓦端部を絞り込む形で接合され、丸瓦の径が細くなっている。	中央観察畦②	中央観察畦②
第102図 図版69 87	大和系	軒丸瓦	瓦当部	1	灰色	瓦当の文様は蓮状の文が施される。花弁の間に珠文があり、線で連結されている。瓦当面の最大厚みは3.7cm。顎は筒状になり、瓦当面に対し、丸瓦の径が小さいため絞り込まれた形で接合され、丸瓦の径が細くなっている。	不明	出土地不明
第102図 図版69 88	大和系	軒丸瓦	瓦当部	5a	灰色	瓦当部の細片である。文様は巴文。文様は平坦で厚みがなく、先の巴文軒瓦資料とは異なる。	撹乱	撹乱層
第103図 図版70 89	大和系	軒平瓦	瓦当部	1	灰色	瓦当面に白砂粒子が多数付着し当初の面をよく残す。唐草文が厚みがあり立体的な線になる。中心飾りの花文は蓮弁が8数ある。顎の長さは2cm。指撫での調整をしている。平瓦の凹面と瓦当との境には短い面取りがなされている。	不明	出土地不明
第103図 図版70 90	大和系	軒平瓦	瓦当部	3	灰色	瓦当面に白砂粒子が多数付着し当初の面をよく残す。唐草文の線は細く、一本線的になる。中心飾りの花文は蓮弁が6枚ある。顎部には竹状の丸文が多数押しつけられる。顎の長さは3cm。指撫での調整をしている。平瓦の凹面と瓦当との境には短い面取りがなされている。	L1 東西 断割トレンチ	L1 中央観察畦？
第103図 図版70 91	大和系	軒平瓦	瓦当部	2	灰色	瓦当の右隅部分の破片。蔓の端部の状況がみられる。巻上げ形になり、一つ蔓の芽が描かれる。顎の長さ1.5cm。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？
第103図 図版70 92	大和系	軒平瓦	瓦当部	4	灰色	中心飾りの花弁が5枚の資料。左側に展開する蔓は4点。表面には白砂粒子の付着をみる。顎の長さ1.5cm。平瓦部と瓦当部の境に面取りを認められる。顎は指撫で。	L1 東西断割トレ ＋ Ⅱ期基壇 北側石垣の裏土	L1 中央観察畦？ ＋ Ⅱ期基壇 北側裏状 I 層
第103図 図版70 93	大和系	軒平瓦	瓦当部	4	灰色	中心飾りの花弁が5枚の資料。左側に展開する蔓の数は4点。表面には白砂粒子の付着をみる。顎の長さ2.0cm。平瓦部と瓦当部の境に面取りを認められる。顎は指撫で。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？
第103図 図版70 94	大和系	雁振瓦	平瓦部	Ⅱ型	褐色	玉縁は欠落している。凸面側表面に羽状文様、凹面には縦位の指撫で整形痕が走る。器壁の厚み2.9cm。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？
第103図 図版70 95	大和系	雁振瓦	平瓦部	Ⅱ型	褐色	玉縁は欠落し、本来の大きさは不明。器壁の厚み3.0cm。	L1 東西 断割トレンチ	L1 中央観察畦？
第104図 図版71 96	大和系	雁振瓦	平瓦部	Ⅰ型	褐色	平瓦部の裏面に刺し網状の紐圧痕が認められる。紐間隔は3.0cm。器壁の厚み1.8cm。	中央観察畦 東西軸 第4層 暗褐色土層	中央観察畦① Ⅳ層(暗褐色土層)
第104図 図版71 97	大和系	雁振瓦	平瓦部	Ⅱ型	灰色	平瓦部と丸瓦部の残る端部資料で、両部分とも湾曲する。凸面の羽状叩き目は鮮明。丸瓦分部の凹面には縦位の指撫でが鮮明に残されている。端部にも面取りも行われている。器壁の厚み2.2cm。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？
第104図 図版71 98	大和系	雁振瓦	平瓦部	Ⅱ型	灰色	赤味進行している。平瓦部は大きく湾曲する。凸面表面には羽状叩き文様がある。凹面には縦位の指撫で整形の凹線が明瞭に残る。器壁の厚み1.9cm。	L1 東西 断割トレンチ	L1 中央観察畦？
第104図 図版71 99	大和系	雁振瓦	丸瓦部	Ⅱ型	褐色	前資料と同様に赤味がかなり進行。平瓦部は大きく湾曲する。凸面表面には羽状叩き文様がある。凹面には縦位の指撫で整形の凹線が明瞭に残る。器壁の厚み2.3cm。	K2 99 石組 井戸状遺構	K2-98･99 SW1
第104図 図版71 100	大和系	雁振瓦	平瓦部	Ⅱ型	灰色	胎土中央が灰色をおびる。平瓦部は大きく湾曲する。器壁の厚み2.8cm。	B-1	出土地不明
第104図 図版71 101	大和系	雁振瓦	玉縁部	Ⅱ型	灰色	平瓦部は大きく湾曲する。凸面の羽状叩き目が鮮明に残る。器壁の厚み2.4cm。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？
第104図 図版71 102	大和系	雁振瓦	玉縁部	Ⅰ型	灰色	平瓦部と丸瓦部の残る端部資料で、凸面の雨状叩き目は鮮明。丸瓦分部の凹面には縦位の指撫でが鮮明に残されている。端部にも面取りも行われている。器壁の厚み2.3cm。	L1 東西 断割トレンチ	L1 中央観察畦？
第105図 図版72 103	大和系	雁振瓦	平瓦部	Ⅰ型	灰色	平瓦部は平坦になる。裏(凹面)側には刺し網状の紐圧痕がみられる。器壁の厚み1.8cm。	中央観察畦 東西軸 第4層 暗褐色土層	中央観察畦① Ⅳ層(暗褐色土層)
第105図 図版72 104	大和系	雁振瓦	玉縁部	Ⅰ型	灰色	玉縁の長さ3.5cm。器壁の厚み2.5cm。	SWⅡ期瓦層	L0-96 SW13?

第34表　瓦観察一覧⑤

挿図番号 図版番号	造瓦 系統	種類	部位	分類	色調	観察事項	旧出土地	新出土地
第105図 図版72 105	大和系	雁振瓦	丸瓦部	Ⅱ型	褐色	赤味進行している。平瓦部は大きく湾曲する。凸面表面には羽状叩き文様がある。凹面には縦位の指撫で整形の凹線が明瞭に残る。器壁の厚み2.5cm。	B　Ⅰ壁　南側	出土地不明
第105図 図版72 106	大和系	雁振瓦	丸瓦部	Ⅱ型	褐色	赤味進行している。平瓦部は大きく湾曲する。凸面表面には羽状叩き文様がある。凹面には縦位の指撫で整形の凹線が明瞭に残る。器壁の厚み2.6cm。	K0･K1　120-121 覆土	出土地不明
第105図 図版72 107	大和系	平瓦	広端部	c	褐色	凹面では右角資料。器壁の厚み2.1cm。	L1　東西トレ　東隅区	中央観察畦②
第105図 図版72 108	大和系	平瓦	広端部	d	褐色	凹面では右角資料。器壁の厚み2.2cm。	L1　東西 断割トレンチ	L1　中央観察畦？
第105図 図版72 109	大和系	平瓦	狭端部	-	灰色	器壁の厚み1.8cm。魚文様あり。	L1　東西 断割トレンチ	L1　中央観察畦？
第105図 図版72 110	大和系	平瓦	狭端部	-	褐色	1.4cmの孔が穿たれる。器壁の厚み1.6cm。	L1　東西断割トレ	L1　中央観察畦？
第106図 図版73 111	大和系	平瓦	広端部	d	褐色	凹面では左角資料。器壁の厚み1.5cm。	L1　東西断割トレ 東隅区	中央観察畦②
第106図 図版73 112	大和系	平瓦	狭端部	b	褐色	端部に面取り有り、幅4cm。表面に白砂粒子が付着する。胎土中央は黒色。器壁の厚み1.8cm。	L1　東西断割トレ 東隅区	中央観察畦②
第106図 図版73 113	大和系	平瓦	狭端部	b	灰色	端部に面取り有り、幅4.1cm。表面に白砂粒子が付着する。胎土中央は黒色。器壁の厚み2.2cm。	L1　東西断割トレ	L1　中央観察畦？
第106図 図版73 114	大和系	平瓦	完全形 二分一	b	灰色	端部に面取り有り、幅4cm。凸面側に縦位の指撫で痕が数条みられる。表面に白砂粒子が付着する。胎土中央は黒色。器壁の厚み2.1cm。全長38.0cm。	不明	出土地不明
第106図 図版73 115	大和系	平瓦	広端部	b	灰色	端部に面取り有り、幅2cm。表面に白砂粒子が付着する。胎土中央は黒色。器壁の厚み1.5cm。	L1　東西断割トレ	L1　中央観察畦？
第106図 図版73 116	大和系	平瓦	広端部	c	灰色	凹面では左角資料。器壁の厚み2.5cm。	L1　東西断割トレ	L1　中央観察畦？
第106図 図版73 117	大和系	平瓦	広端部	a	褐色	凹面では左角資料。器壁の厚み1.9cm。	L1　東西断割トレ 東隅部	中央観察畦②
第107図 図版74 118	大和系	平瓦	広端部	b	灰色	凹面では右角資料。器壁の厚み1.9cm。	L1　東西断割トレ	L1　中央観察畦？
第107図 図版74 119	大和系	平瓦	広端部	b	灰色	凹面では右角資料。器壁の厚み2.1cm	L0　96　第3層 コーラル粘土層	L0-96　Ⅲ層 (コーラル層)
第107図 図版74 120	大和系	丸瓦	玉縁部	雷文 3	灰色	側面側が一部残る。文様は玉縁側端部ということもあり、鮮明である。縦紐圧痕の間隔は2.5cm。器壁の厚み1.6cm。	Ⅱ期基壇の 北側石垣の覆土	Ⅱ期基壇 北側翼状　Ⅰ層
第107図 図版74 121	大和系	丸瓦	玉縁部	雷文 3	灰色	端部側を欠いた丸瓦資料である。文様は筒部側は不明瞭になる。撫でが強くなされていることによる。凹面の紐圧痕は不明瞭である。器壁の厚み1.5cm。	L1　東西断割トレ	L1　中央観察畦？
第107図 図版74 122	大和系	丸瓦	筒部	魚文 2	灰色	端部側の細片で、端部面取り幅は計測できない。	L1　東西トレ　東隅区	中央観察畦②
第107図 図版74 123	大和系	丸瓦	端部	魚文 2	褐色	側面から端部の資料。端部の面取り幅4.7cm、器壁厚み1.6cm。	L1　東西 断割トレンチ	L1　中央観察畦？
第107図 図版74 124	大和系	丸瓦	端部	魚文 2	灰色	側面から端部の資料。端部面取りの幅6cm。	K2　100 南石段(基壇)の 内側の基壇石列	南踊り場　断割①
第107図 図版74 125	大和系	丸瓦	筒部	魚文 3	灰色	側面側が残る。器壁の厚み2.1cm。	SW13　Ⅱ期瓦層	L0-96　SW13
第107図 図版74 126	大和系	丸瓦	端部	雷文 1	灰色	端部の面取り幅5cm。紐圧痕の横糸の間隔は2cm。色調は灰色を呈するが、胎土は黒色を帯びる。	L1　東西断割トレ 東隅区	中央観察畦②
第107図 図版74 127	大和系	丸瓦	玉縁部	羽状文 粗い	灰色	行基式の丸瓦破片である。凸面上端側に鮮明に文様が残る。凹面には布目がみられる。	L1　東西断割トレ	L1　中央観察畦？
第108図 図版75 128	大和系	丸瓦	端部	雷文 1	灰色	筒部凸面の文様は撫で仕上げのため鮮明でない。凹面の側面面取りがみられる。また、紐圧痕も確認された。色調は表面は褐色をおびるが胎土は黒色を呈する。器壁の厚み2cm。	L1　東西断割トレ	L1　中央観察畦？
第108図 図版75 129	大和系	丸瓦	筒部	雷文 1	灰色	筒部凸面の文様は鮮明。凹面側の紐圧痕もシャープである。縦紐の間隔は2cm。器壁の厚み1.6cm。	L1　東西 断割トレンチ	L1　中央観察畦？
第108図 図版75 130	大和系	丸瓦	端部	魚文 2	褐色	側面の面取り仕上げが丁寧。凹面の紐圧痕は細くある。器壁の厚み1.8cm。	L1　東西トレ　東隅区	中央観察畦②
第108図 図版75 131	大和系	丸瓦	玉縁部	羽状文 1～6	灰色	端部側の叩き文様は鮮明にみられる。凹面の紐圧痕は横紐間隔が2.4cmとなる。器壁の厚み2cm。	中央観察畦　Ⅱ層 暗褐色土層	中央観察畦① Ⅱ層(暗褐色土層)
第108図 図版75 132	大和系	丸瓦	端部	羽状文 1～6	灰色	風化が進行しているため、全体に不鮮明。器壁の厚み1.3cm。凹面に魚文様がみられる。	Ⅱ基壇の 北側石垣の覆土	Ⅱ期基壇 北側翼状　Ⅰ層

第34表　瓦観察一覧⑥

挿図番号 図版番号	造瓦 系統	種類	部位	分類	色調	観察事項	旧出土地	新出土地
第108図 図版75 133	大和系	丸瓦	玉縁部	羽状文 2	灰色	端部側を欠いた丸瓦資料である。文様は筒部側は不明瞭になる。撫でが強くなされていることによる。凹面の紐圧痕は縦の間隔2.8cm、横の間隔2cmである。器壁の厚み1.8cm。玉縁の長さ3cm。	L1 東西 断割トレンチ	L1 中央観察畦？
第108図 図版75 134	大和系	丸瓦	筒部	羽状文 2	灰色	両側面を残す資料。器壁の厚み1.6cm。	L1 東西 断割トレンチ	L1 中央観察畦？
第109図 図版76 135	大和系	丸瓦	玉縁部	羽状文 2	灰色	端部から側面の状況を残す資料。凸面には摩滅が進んでいるが羽状打捺文がみられる。凹面には右上から左下方向に粘土糸きり痕が条痕としてみられる。凹面に端部から2.5cmの部分に横位の細い紐圧痕が確認される。玉縁の長さ3.5cm。器壁の厚み2.2cm。	L1 東西トレンチ 第3層コーラル層	L1 石列？
第109図 図版76 136	大和系	丸瓦	筒部	羽状文 2	灰色	器壁の厚み1.6cm。	L1 東西断割 東隅	中央観察畦②
第109図 図版76 137	大和系	丸瓦	玉縁部	羽状文 粗い	灰色	玉縁側の細片。筒部の凸面側に鮮明な文様を残す。器壁の厚み1.7cm。	L0 96 第Ⅰコーラル	L0-96 Ⅰ層 (コーラル層)
第109図 図版76 138	大和系	丸瓦	端部	羽状文 粗い	褐色	丸瓦の端部側資料である。凹面の紐圧痕は縦紐間隔2.5cm、横紐間隔3.5cm。端部面取り幅6.2cm。器壁の厚み1.3cm。	Ⅱ期基壇の 北側石垣の覆土	Ⅱ期基壇 北側翼状 Ⅰ層
第109図 図版76 139	大和系	丸瓦	端部	羽状文 粗い	灰色	丸瓦の端部側資料である。凹面の紐圧痕は縦紐間隔3.0cm、横紐間隔4.2cm。端部面取り幅7.2cm。器壁の厚み1.7cm。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？
第109図 図版76 140	大和系	丸瓦	端部	羽状文 粗い	灰色	丸瓦の端部側資料である。端部面取り幅4.2cm。器壁の厚み2cm。	L1 東西 断割トレンチ	L1 中央観察畦？
第110図 図版77 141	大和系	丸瓦	端部	羽状文 粗い	灰色	丸瓦の端部側資料である。端部面取り幅6cm。器壁の厚み2.1cm。全体に褐色味の強い灰色瓦であるが、胎土は明瞭な黒色である。	L1 東西 断割トレンチ	L1 中央観察畦？
第110図 図版77 142	大和系	丸瓦	端部	羽状文 粗い	褐色	丸瓦の端部側資料である。端部面取り幅4.5cm。器壁の厚み1.6cm。全体に褐色味の強い灰色瓦であるが、胎土は明瞭な黒色である。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？
第110図 図版77 143	大和系	丸瓦	玉縁部	羽状文 粗い	灰色	側面を残す資料。面取り仕上げ。凹面の紐圧痕、縦紐の間隔2cm、横紐の間隔2.5cm。玉縁の長さ3cm。器壁の厚み1.4cm。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？
第110図 図版77 144	大和系	丸瓦	玉縁部	羽状文 粗い	褐色	凹面の紐圧痕、縦紐の間隔3cm、横紐の間隔4cm。玉縁の長さ4cm。器壁の厚み1.8cm。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？
第110図 図版77 145	大和系	丸瓦	玉縁部	羽状文 粗い	褐色	玉縁の長さ4cm。凹面の紐圧痕、縦紐の間隔2.5cm、横紐の間隔2.5cm。器壁の厚み1.8cm。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？
第110図 図版77 146	大和系	丸瓦	玉縁部	羽状文 粗い	灰色	凹面の紐圧痕、縦紐の間隔2.5cm、横紐の間隔2.2cm。玉縁の長さ4cm。器壁の厚み2.1cm。	L1 東西断割 トレンチ 第3層 コーラル層	L1 中央観察畦？
第110図 図版77 147	大和系	丸瓦	玉縁部	羽状文 細かい	灰色	筒部凹面の紐圧痕は玉縁裏まで鮮明に及んでいる。縦紐の間隔2.5cm、横紐の間隔3cm。玉縁の長さ4cm。器壁の厚み2.1cm。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？
第110図 図版77 148	大和系	丸瓦	玉縁部	羽状文 細かい	灰色	玉縁の長さ4.5cm。凹面の紐圧痕、縦紐の間隔2cm、横紐の間隔2.2cm。器壁の厚み2cm。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？
第111図 図版78 149	大和系	丸瓦	玉縁部	羽状文 粗い	灰色	筒部凹面の紐圧痕は玉縁裏まで鮮明に及んでいる。端部を欠いた丸瓦資料である。玉縁長さ4cm。筒部幅10.7cm。	表採	表採
第111図 図版78 150	大和系	丸瓦	玉縁部 ～端部	羽状文 粗い	灰色	全体の形を残している資料で、僅かに筒部端の一カ所を欠いているのみ。丸瓦の全長42.4cm。玉縁長さ4.5cm。筒部幅24cm。	不明	出土地不明
第111図 図版78 151	大和系	丸瓦	玉縁部	羽状文 4	灰色	玉縁側の筒部資料である。玉縁の長さ4cm。凹面の紐圧痕、縦紐の間隔2cm、横紐の間隔2.5cm。器壁の厚み1.7cm。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？
第111図 図版78 152	大和系	丸瓦	玉縁部	羽状文 4	灰色	端部側を欠落した丸瓦資料である。玉縁の長さ4cm。凹面の紐圧痕、縦紐の間隔2cm、横紐の間隔3.5cm。器壁の厚み1.8cm。胎土中央が灰色を呈する。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？
第112図 図版79 153	大和系	丸瓦	筒部	羽状文 4	灰色	玉縁側と端部を欠落。凹面の紐圧痕、縦紐の間隔2.5cm、横紐の間隔3cm。器壁の厚み1.9cm。	L1 東西 断割トレンチ	L1 中央観察畦？
第112図 図版79 154	大和系	丸瓦	筒部	羽状文 6	灰色	側面を残す破片。二回の面取りを残す。凹面の紐圧痕、縦紐の間隔1.3cm、横紐の間隔3cm。器壁の厚み1.9cm。胎土中央が灰色。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？
第112図 図版79 155	大和系	丸瓦	筒部	羽状文 6	灰色	側面を残す破片。二回の面取りを残す。凹面の紐圧痕、縦紐の間隔3cm、横紐の間隔3.5cm。器壁の厚み1.6cm。胎土中央が灰色。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？
第112図 図版79 156	大和系	丸瓦	玉縁部	羽状文 細かい	灰色	両側面を残す資料。器壁の厚み2.2cm。玉縁の長さ3.5cm。筒部には破損はしているが、孔が確認される。孔径1.2cm。凹面の紐圧痕は縦紐の間隔2cm、横紐の間隔3cm。	Ⅱ期基壇の 北側石垣覆土	Ⅱ期基壇 北側翼状 Ⅰ層
第112図 図版79 157	大和系	丸瓦	玉縁部	羽状文 細かい	灰色	両側面を残す資料。器壁の厚み1.8cm。玉縁の長さ3cm。凹面の紐圧痕、縦紐の間隔1.7cm、横紐の間隔2cm。胎土中央が灰色。	L1 東西 断割トレンチ	L1 中央観察畦？
第112図 図版79 158	大和系	丸瓦	端部	縄目文	褐色	端部幅5.5cm。側面部資料。面取りがなされている。器壁の厚み1.6cm。	不明	出土地不明
第112図 図版79 159	大和系	丸瓦	端部	縄目文	灰色	端部幅5.5cm。側面部資料。器壁の厚み1.3cm。	L1 東西断割トレ	L1 中央観察畦？

第34表　瓦観察一覧⑦

挿図番号 図版番号	造瓦 系統	種類	部位	分類	色調	観察事項	旧出土地	新出土地
第112図 図版79 160	大和系	丸瓦	端部	縄目文	灰色	端部幅5.8cm。側面部資料。器壁の厚み1.7cm。	L1　東西断割トレ	L1　中央観察畦？
第113図 図版80 161	大和系	丸瓦	玉縁部	縄目文	灰色	玉縁の形状を知る資料。玉縁裏にも網状の紐圧痕が及ぶ。器壁の厚み1.9cm。	L1　東西 断割トレンチ	L1　中央観察畦？
第113図 図版80 162	大和系	丸瓦	玉縁部	縄目文	灰色	一方の側面部を残す。面取りがなされる。縄目叩きは筒部の中央に向かい撫で整形が強いのか薄くなる。刺し網の縦間の幅が4cmと幅広い。器壁の厚み1.7cm。	L1　東西断割	L1　中央観察畦？
第113図 図版80 163	大和系	丸瓦	玉縁部	縄目文	灰色	両側面を残す資料。器壁の厚み1.9cm。	L1　東西 断割トレンチ	L1　中央観察畦？
第113図 図版80 164	大和系	丸瓦	玉縁部	縄目文	灰色	玉縁と端部を欠いた資料。筒部中央は撫で整形で縄目文様が薄くなる。凹面側には明瞭な刺し網状の紐圧痕が残る。ほぼ四角で、横紐間は3cmである。器壁の厚み1.8cm。	L1　東西 断割トレンチ	L1　中央観察畦？
第113図 図版80 165	高麗瓦	軒丸瓦	瓦当部	―	灰色	瓦当面には平面形が蕚節形の蓮弁の一部と、圏線に囲まれた囲繞する丸い珠文が確認される。瓦当裏は平面をなす。器面は著しく風化し、摩滅が認められる。	不明	出土地不明
第113図 図版80 166	高麗瓦	軒平瓦	瓦当部	―	灰色	瓦当面に蓮華文様とその周辺にのびる蔓がみられる。瓦当裏には平瓦の破壊された部分が観察される。裏面の撫で整形は良好。器壁の厚み2.4cm。	中央観察畦 第2層　暗褐色土層	中央観察畦① Ⅱ層(暗褐色土層)
第113図 図版80 167	高麗瓦	軒平瓦	瓦当部	―	灰色	瓦当面の破片で、蓮華文様の一部と顎部分に水平に描かれた線文の一部を残している。瓦当裏面は平面をなす。器壁の厚み2.1cm。	中央観察畦 第2層　暗褐色土層	中央観察畦① Ⅱ層(暗褐色土層)
第113図 図版80 168	高麗瓦	軒平瓦	瓦当部	―	灰色	166、167と同様の蓮華文様が残る瓦当資料。瓦当裏面は平面に整形。器面の風化が進んでいる。	中央観察畦 第4層　最下層	中央観察畦① Ⅳ層(暗褐色土層)
第113図 図版80 169	高麗瓦	丸瓦	玉縁部	羽状文 細目	灰色	玉縁側の資料で、玉縁端部は欠落、筒部も大きく損している、凸面の羽状叩き文様は撫で整形のため文様は消えかかっている。焼成時のひび割れが観察できる。器壁の厚み2.4cm。	不明	出土地不明
第113図 図版80 170	高麗瓦	丸瓦	玉縁部	羽状文 粗目	灰色	僅かに玉縁と筒部が残る資料。凸面には羽状文様がみられる。器壁の厚み2cm。	表　L1　104	L1-104　表採
第113図 図版80 171	高麗瓦	丸瓦	端部	羽状文 粗目	灰色	器面全体に風化がすすむ。僅かに凸面に羽状文様が残る。器壁の厚み1.8cm。	中央観察畦 第Ⅳ層　暗褐色土層	中央観察畦① Ⅳ層(暗褐色土層)
第114図 図版81 172	高麗瓦	丸瓦	筒部	不明	灰色	筒部破片で、側面が僅かに残る。器壁の厚み1.3cm。	不明	出土地不明
第114図 図版81 173	高麗瓦	平瓦	筒部	癸酉年文片 羽状文 粗目	灰色	凸面側に癸酉年文様と羽状打捺文がみられる破片である。器壁の厚み2.3cm。	K7　91　第2層 中央畦　断面	K7-91 中央観察畦① Ⅱ層(黒土混赤土層)
第114図 図版81 174	高麗瓦	平瓦	筒部	癸酉年文片	灰色	凸面側に銘を書きこむ枠が残る破片である。器壁の厚み1.2cm。	第Ⅳ層 中央観察畦　暗褐色土	中央観察畦① Ⅳ層(暗褐色土層)
第114図 図版81 175	高麗瓦	平瓦	筒部	癸酉年文片 羽状文 粗目	灰色	側面の一部を残す資料で、凸面側には微かに残る羽状打捺文が観察できる。離型材の白砂粒が付着。器壁の厚み1.6cm。	L0　東西　断割 トレンチ　東より4番区 石灰岩礫混り土層　Ⅲ層	L0-94　断割　Ⅲ層 (石灰岩礫混じり層)
第114図 図版81 176	高麗瓦	平瓦	筒部	癸酉年文片 羽状文 粗目	灰色	羽状文様が残る。器壁の厚み1.7cm。	中央観察畦 第Ⅱ層　暗褐色土層	中央観察畦① Ⅱ層(暗褐色土層)
第114図 図版81 177	高麗瓦	平瓦	筒部	癸酉年文片 羽状文 粗目	灰色	焼き膨れのある破片である。羽状文様がみられる。器壁の厚み3.5cm。	第53　柱穴	K7-94　柱穴53
第114図 図版81 178	高麗瓦	平瓦	筒部	癸酉年文片 羽状文 粗目	灰色	凸面には摩滅が進んでいるが羽状打捺文がみられる。凹面には右上から左下方向に粘土糸きり痕が条痕としてみられる。	中央観察 第2層　暗褐色土層	中央観察畦① Ⅱ層(暗褐色土層)
第114図 図版81 179	高麗瓦	平瓦	筒部	羽状文 細目	灰色	凸面側に羽状打捺文がみられる破片である。器壁の厚み1.6cm。	中央観察畦 第2層　暗褐色土層	中央観察畦① Ⅱ層(暗褐色土層)
第114図 図版81 180	高麗瓦	平瓦	筒部	格子文片 羽状文 粗目	褐色	側面の一部を残す資料で、凸面側には細かい目の羽状打捺文が観察できる。離型材の白砂粒が付着。器壁の厚み1.6cm。	Ⅱ期基壇 北側石垣の覆土	Ⅱ期基壇 北側翼状　Ⅰ層
第114図 図版81 181	高麗瓦	有段式 平瓦	筒部	羽状文 粗目	褐色	僅かに接合部の段部を残す。筒部は厚く2.4cm。凸面には羽状捺文が明瞭にみられる。	不明	出土地不明
第114図 図版81 182	高麗瓦	平瓦	筒部	大天片	灰色	凸面側に大天文様と羽状打捺文がみられる破片である。器壁の厚み2cm。	S60	出土地不明
第114図 図版81 183	明朝系	丸瓦	玉縁部	―	赤色	玉縁長さ5.5cm。器面にマンガン釉と僅かに漆喰の付着がみられる。撫で整形が明瞭に残る。「＼＼」記号あり。器壁の厚み1.4cm。	K10　L0　99 第2層　10-30	K10・L0-99　Ⅱ層
第114図 図版81 184	明朝系	丸瓦	玉縁部	―	赤色	玉縁長さ4cm。玉縁側の破片資料。器面にマンガン釉と漆喰の付着がみられる。凹面に不明記号あり。器壁の厚み1.5cm。	S60	出土地不明
第114図 図版81 185	明朝系	丸瓦	玉縁部	―	赤色	玉縁側の破片資料。凹面にマンガン釉と漆喰の付着が僅かにみられる。「×」記号あり。器壁の厚み1.2cm。	表土　K0　102	K0-102　表土
第115図 図版82 186	明朝系	平瓦	狭端部	―	赤色	平瓦の狭端部破片。「□」記号あり。撫で整形が明瞭。器壁の厚み1.1cm。	不明	出土地不明

第34表　瓦観察一覧⑧

挿図番号 図版番号	造瓦 系統	種類	部位	分類	色調	観察事項	旧出土地	新出土地
第115図 図版82 187	明朝系	平瓦	筒部	—	赤色	平瓦の筒部資料。並列して2条交差する沈線がみられる。器壁の厚み1.3cm。	不明	出土地不明
第115図 図版82 188	明朝系	平瓦	狭端部	—	赤色	角1つを残す平瓦の狭端部破片。格子状の沈線がみられる。撫で整形が明瞭。器壁の厚み1.2cm。	表　L2　98	L2−98　表採
第115図 図版82 189	明朝系	平瓦	狭端部	—	赤色	平瓦の狭端部破片。僅かに漆喰が付着する。不明沈線あり。器壁の厚み1.6cm。	L4　98	L4−98　表採
第115図 図版82 190	明朝系	平瓦	筒部	—	赤色	平瓦の筒部破片。沈線が縦位に複数みられる。わずかに漆喰が付着する。器壁の厚み1.4cm。	S60	出土地不明
第115図 図版82 191	明朝系	平瓦	筒部	—	赤色	平瓦の筒部破片。交差する沈線がみられる。凹面に漆喰が付着する。器壁の厚み1.4cm。	表土　L2,3,4 102　103	表土
第115図 図版82 192	明朝系	平瓦	筒部	—	赤色	平瓦の筒部破片。凹面にマンガン釉が付着する。器面に記号あり。器壁の厚み1.7cm。	表土　L2　103	L2−103　表土
第115図 図版82 193	明朝系	平瓦	筒部	—	赤色	平瓦の筒部破片。マンガン釉の付着がみられる。器面に「當山?」と銘が刻まれている。器壁の厚み1.6cm。	S60	出土地不明
第115図 図版82 194	明朝系	平瓦	筒部	—	赤色	平瓦の筒部破片。マンガン釉の付着が僅かにみられる。器面に墨書きで文字が表記されている。器壁の厚み1.2cm	K5　94 第2層　10−20	K5−94　Ⅱ層
第115図 図版82 195	明朝系	役瓦	—	L字瓦	灰色	残存形態がL状の丸瓦系資料である。ただし、破損のため全体観は明らかにしがたい。器壁の厚み2.1cm。	S60	出土地不明

第35表　塼集計表

色調	赤色																																																	
接合材	漆喰材																																																	
分類	分類 Ⅰ			分類 Ⅱ	分類 Ⅲ																													分類 Ⅳ																
部位	A	C	不明	角無し	Aa					Ab					Ba			Bb		Ca		Cb			Da	Db		ABa		ABb		A					Ba		Bb				Ca		Cb			Da
	角2	角無し	完形		完形	角1	角2	角3	角無し	完形	角1	角2	角3	角無し	角1	角2	角無し	角1	角無し	角1	角2	角1	角2	角無し	角2	角1	角2	角1	角無し	角1	角無し	完形	角1	角2	角3	角無し	角2	角無し	完形	角1	角2	角無し	完形	角2	完形	角2	角無し	角2
個数	1	2	1	2	3	95	10	1	25	2	35	10	1	12	23	2	5	9	2	1	3	2	1	1	4	1	4	273	429	77	80	4	2	15	1	7	5	2	2	4	4	2	3	5	1	4	1	1

色調	赤色																																														
接合材	漆喰材											接合材無し																																			
分類	分類 Ⅳ						分類 Ⅴ(煉瓦)					分類 Ⅰ						分類 Ⅱ	分類 Ⅲ																									分類 Ⅳ			
部位	Db	不明a		不明b			完形	角1	角2	角3	角無し	A		B	C	不明		角無し	Aa					Ab				Ba			Bb			Ca			ABa			ABb		不明a		不明b	
	角無し	角1	角無し	完形	角1	角無し						角1	角無し	角1	角無し	角1	角無し		完形	角1	角2	角3	角無し	完形	角1	角2	角無し	角1	角2	角無し	角1	角2	角無し	角1	角2	角無し	角1	角2	角無し	角1	角無し	角1	角無し	角1	角無し
個数	1	99	134	1	105	154	1	17	4	1	12	1	1	1	2	1	3	3	10	36	11	2	23	2	38	5	7	27	2	13	13	1	4	1	1	3	170	2	323	60	115	2	2	3	9

色調	赤色			灰色																																										
接合材	接合材無し			漆喰材																																										
分類	分類 Ⅴ(煉瓦)			分類 Ⅰ					分類 Ⅱ		分類 Ⅲ																													分類 Ⅳ							
部位	角1	角2	角無し	A	B	C			角1	角無し	Aa				Ab					Ba				Bb				Ca		Cb		Da		Db		ABa		ABb		A	Ba			Bb			Ca
				角1	角1	角1	角2	角無し			完形	角1	角2	角無し	完形	角1	角2	角3	角無し	完形	角1	角2	角無し	完形	角1	角2	角無し	角1	角2	角1	角2	角1	角2	角1	角2	角1	角無し	角1	角無し	完形	完形	角2	角無し	完形	角1	角2	角3
個数	11	1	6	1	1	2	1	1	5	5	2	14	3	4	1	51	5	2	7	1	16	3	7	2	11	5	10	2	11	3	2	4	6	1	4	101	135	122	182	1	1	3	2	1	2	3	1

色調	灰色																																						合計
接合材	漆喰材									接合材無し																													
分類	分類 Ⅳ									分類 Ⅰ			分類 Ⅱ		分類 Ⅲ																				分類 Ⅳ				
部位	Cb					不明a		不明b		A	B		角1	角無し	Aa					Ab			Ba				Bb				ABa		ABb		Bb	不明a		不明b	
	完形	角1	角2	角3	角無し	角1	角無し	角1	角無し	角無し	角1	角無し			完形	角1	角2	角3	角無し	角1	角2	角無し	完形	角1	角2	角無し	完形	角1	角2	角無し	角1	角無し	角1	角無し	角1	角1	角無し	角無し	
個数	1	1	3	1	2	41	32	35	45	2	3	3	7	24	8	39	6	3	21	85	17	11	3	14	2	7	1	36	6	10	163	309	229	436	1	1	2	6	4987

第36表　塼観察一覧①

挿図番号 図版番号	色調	接合材	残存状況	分類	観察事項	旧出土地	新出土地
第116図 図版83 1	赤色	無し	角1	Ⅰ-A	厚さ5.5cm、突起部厚さ、4.2cm、蓋状。下面にL字状突起を有する。	Ⅱ期基壇 北側石垣の覆土	Ⅱ期基壇 北側翼状　Ⅰ層
第116図 図版83 2	灰色	漆喰 有り	角1	Ⅰ-B	上面長21.2cm、下面長19.0cm、全体の厚さ9.9cm。T字状突起を有する。	K7　94・95 第1層 コーラル層	K7-94・95 Ⅰ層 (コーラル層)
第116図 図版83 3	赤色	無し	角1	Ⅰ-B	厚さ4.9cm、突起部厚さ2.9cm。側面に段、下面にL字突起を有する。	不明	出土地不明
第116図 図版83 4	灰色	無し	角1	Ⅰ-B	厚さ9.5cm、突起部厚さ1.2cm。下面に突起を有する。	不明	出土地不明
第116図 図版83 5	灰色	無し	角1	Ⅰ-B	上面長23.4cm、下面長22.5cm、厚さ9.0cm、突起部厚さ5.8cm。側面に段、突起を有する。	表土 K8 103	K8-103　表土
第117図 図版84 6	灰色	漆喰 有り	角2	Ⅰ-C	ほぼ完形。厚さ5.3cm、突起部厚さ2.5cm。側面に段、下面に突起を有する。	不明	出土地不明
第117図 図版84 7	灰色	無し	角1	Ⅱ	厚さ3.1cm、突起部厚さ1.2cm。側面に段、下面に突起を有する。	SW13　下部	L0-96　SW13
第117図 図版84 8	灰色	漆喰 有り	角無し	Ⅱ	厚さ3.3cm、突起部厚さ、3.3cm。側面に段、下面に突起を有する。	4基壇 南壁外側　上層	南踊り場 断割⑤
第117図 図版84 9	灰色	漆喰 有り	角無し	Ⅱ	厚さ3.1cm、突起部厚さ3.1cm。側面に段、下面にL字状の突起を有する。	G-2	出土地不明
第117図 図版84 10	灰色	漆喰 有り	完形	Ⅲ-Ab	上面長27.0cm、下面長26.9cm、厚さ4.6cm。調整が丁寧で上下面の誤差が少ない。上面には石灰質の薄膜が、側面に漆喰が付着する。	不明	出土地不明
第117図 図版84 11	灰色	無し	角2	Ⅲ-Ab	上面長25.5cm、下面長24.8cm、厚さ6.5cm。上面・側面にわずかな石灰質の薄膜が付着する。調整は良好。	Ⅳ期基壇 北側翼状石垣内	Ⅴ期基壇
第118図 図版85 12	赤色	漆喰 有り	角2	Ⅲ-Ab	上面長25.5cm、下面長24.8cm、厚さ4.2cm。上面にわずかな石灰質の薄膜が付着する。調整はやや粗い。	L0　97 Ⅰ期基壇の 北側面	Ⅱ期基壇 北側翼状　Ⅰ層
第118図 図版85 13	灰色	漆喰 有り	完形	Ⅲ-Aa	上面長25.0cm、下面長24.0cm、厚さ3.6cm。全体にわずかな石灰質の薄膜が付着する。調整は良好。	Ⅴ期基壇 南踊り場	Ⅶ期基壇 踊り場
第118図 図版85 14	灰色	漆喰 有り	角2	Ⅲ-Aa	上面長24.0cm、下面長23.5cm、厚さ3.1cm。上面・下面に石灰質の薄膜が付着。調整は良好。	K1　98 石組遺構内	K1-98　SW5
第118図 図版85 15	赤色	漆喰 有り	完形	Ⅲ-Aa	上面長24.5cm、下面長23.5cm、厚さ3.2cm。調整はやや粗い。	中央観察畦 東西軸　第Ⅳ層 暗褐色土層	中央観察畦① Ⅳ層 (暗褐色土層)
第118図 図版85 16	灰色	漆喰 有り	完形	Ⅲ-Bb	上面長22.5cm、下面長22.0cm、厚さ4.5cm。上面に石灰質の薄膜が付着。調整は良好。〇大 のスタンプあり。	不明	出土地不明
第118図 図版85 17	赤色	無し	角1	Ⅲ-Bb	上面長23.4cm、下面長22.5cm、厚さ3.3cm。上面・下面に石灰質の薄膜が付着。調整は良好。	SW13　下部	L0-96　SW13
第118図 図版85 18	灰色	無し	完形	Ⅲ-Ba	上面長23.5cm、下面長22.5cm、厚さ3.4cm。下面に石灰質の薄膜が付着。調整は良好。側面にヘラ記号「×」。	不明	出土地不明
第118図 図版85 19	赤色	漆喰 有り	角2	Ⅲ-Ba	上面長22.5cm、下面長22.0cm、厚さ3.1cm。下面にわずかな石灰質の薄膜が付着。調整は良好。側面にヘラ記号「//」。	表土 L5 97	L5-97　表土
第119図 図版86 20	赤色	無し	角2	Ⅲ-Ca	上面長25.2cm、下面長25.0cm、厚さ3.9cm。調整は良好。	Ⅳ期基壇 化粧石前プール 遺構内	SP3

注 「－」:計測不可

第36表　塼観察一覧②

挿図番号 図版番号	色調	接合材	残存状況	分類	観察事項	旧出土地	新出土地
第119図 図版86 21	灰色	漆喰 有り	角2	Ⅲ-Cb	上面長24.5、下面長23.8cm、厚さ4.4cm。全体に漆喰が付着しており、間に漆喰を挟む。割加工。調整はやや粗い。	正面部	出土地不明
第119図 図版86 22	赤色	無し	角1	Ⅲ-Ca	上面長15.5cm、下面長13.6cm、厚さ3.6cm。漆喰の付着がみられない。側面の調整がやや粗い。	第2 L3 97	L3-97 Ⅱ層
第119図 図版86 23	灰色	漆喰 有り	角2	Ⅲ-Db	上面長25.0cm、下面長24.7cm、厚さ3.6cm。全体に漆喰がが付着する。調整はやや粗い。	52号 穴	K7-94 柱穴52
第119図 図版86 24	赤色	漆喰 有り	完形	Ⅳ-A	縦長さ31.0cm、横長さ11.0cm、厚さ4.3cm。表面の縦位に漆喰が、裏面に薄く石灰質の薄膜が付着。調整はやや粗い。	不明	出土地不明
第119図 図版86 25	赤色	漆喰 有り	角2	Ⅳ-Ba	縦長さ22.0cm、横長さ16.5cm、厚さ3.3cm。表面に厚く漆喰が付着する。調整は粗い。	不明	出土地不明
第120図 図版87 26	赤色	漆喰 有り	完形	Ⅳ-Bb	縦長さ33.0cm、横長さ17.0cm、厚さ4.4cm。全体に漆喰が付着するが、一方の側面には漆喰が付着しない。調整は良好。	不明	出土地不明
第120図 図版87 27	灰色	漆喰 有り	完形	Ⅳ-A	縦長さ24.0cm、横長さ12.0cm、厚さ3.4cm。全体に漆喰が付着する。調整はやや粗い。	表土	表土
第120図 図版87 28	灰色	漆喰 有り	完形	Ⅳ-Ba	縦長さ29.0cm、横長さ16.5cm、厚さ3.8cm。全体に漆喰が付着するが、一方の側面には漆喰が付着しない。調整は良好。	表 L1 102	L1-102 表採
第120図 図版87 29	灰色	漆喰 有り	完形	Ⅳ-Bb	縦長さ33.5cm、横長さ16.5cm、厚さ3.7cm。全体に漆喰が付着する。調整はやや粗い。	表土 K10 101	K10-101 表土
第120図 図版87 30	赤色	漆喰 有り	完形	Ⅳ-Ca	縦長さ34.0cm、横長さ21.5cm、厚さ3.8cm。器面の半分に漆喰が付着する。調整は良好。	正面部	出土地不明
第120図 図版87 31	赤色	漆喰 有り	完形	Ⅳ-Ca	縦長さ34.0cm、横長さ18.0cm、厚さ3.5cm。表面の一つの側面と裏面全体に漆喰が付着する。調整は良好。	不明	出土地不明
第121図 図版88 32	赤色	漆喰 有り	完形	Ⅳ-Ca	縦長さ29.5cm、横長さ18.5cm、厚さ3.1cm。表面の一つの側面と裏面全体に漆喰が付着する。調整は良好。	不明	出土地不明
第121図 図版88 33	灰色	漆喰 有り	完形	Ⅳ-Cb	縦長さ32.0cm、横長さ21.5m、厚さ4.1cm。表面の一つの側面と裏面全体に漆喰が付着する。調整はやや粗い。	不明	出土地不明
第121図 図版88 34	灰色	漆喰 有り	角2	Ⅳ-Cb	縦長さ26.0cm、横長さ22.5cm、厚さ4.0cm。全体に漆喰が付着する。調整はやや粗い。	不明	出土地不明
第121図 図版88 35	赤色	漆喰 有り	完形	Ⅳ-Cb	縦長さ32.0cm、横長さ18.0cm、厚さ4.3cm。全体に石灰質の薄膜とマンガン釉が付着する。調整は良好。	表土 K4 103	K4-103 表土
第122図 図版89 36	赤色	漆喰 有り	角2	Ⅳ-Da	縦長さ18.0cm、横長さ22.0cm、厚さ3.0cm。全体に漆喰とわずかにマンガン釉が付着する。調整は良好。	不明	出土地不明
第122図 図版89 37	赤色	漆喰 有り	角無し	Ⅳ-Db	縦長さ19.0cm、横長さ20.0cm、厚さ4.0cm。全体に漆喰とわずかにマンガン釉が付着する。調整は良好。	表土 L0 100	L0-100 表土
第122図 図版89 38	赤色	漆喰 有り	完形	Ⅰ-不明	縦長さ22.0cm、横長さ11.0cm、厚さ6.0cm。煉瓦。わずかに石灰質の薄膜が付着する。調整は良好。	表 L3 92	L3-92 表採

注 「－」:計測不可

第37表　銭貨集計表

時代	前漢	新	唐			前蜀	後周	北宋									
銭種	四銖半両 三分銭	貨泉	乾元重寶	開元通寶		光天元寶	周通元寶	太平通寶		淳化元寶		咸平元寶		祥符通寶		祥符元寶	
	完形	完形	破片	完形	破片	破片	完形	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片
個数	1	1	1	8	15	1	1	1	3	2	3	2	3	4	2	2	3

時代	北宋														
銭種	祥符元寶 or 通寶	天禧通寶	天聖元寶		明道元豊	景祐元寶	皇宋通寶		至和元寶	至和通寶	嘉・元寶	嘉祐通寶		治平元寶	
	破片	完形	完形	破片	破片	破片	完形	破片	完形	破片	完形	完形	破片	完形	破片
個数	1	2	3	15	1	1	3	18	1	2	1	1	5	2	5

時代	北宋																
銭種	熙寧元寶		熙寧元寶 (折二)	元豊通寶		元豊通寶 (折二)		元豊通寶 or 元・通寶	元祐通寶		紹聖元寶		元符通寶		聖宋元寶		大観通寶	政和通寶	
	完形	破片	完形	完形	破片	完形	破片	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	破片	完形	破片
個数	16	11	1	14	15	1	3	1	10	12	2	2	2	2	2	4	9	4	15

時代	北宋		南宋						元	明					
銭種	政和通寶 (折二)	宣和通寶	淳熙元寶	紹熙元寶	開禧通寶	嘉定通寶	皇宋元寶	景定元寶	至大通寶	大中通寶		洪武通寶		洪武通寶 (折二)	
	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片
個数	1	1	1	1	1	4	1	1	1	1	2	45	23	1	2

時代	明			清			琉球			輪銭	無文銭		不明銭		付着銭	付着銭 (無文銭)
銭種	永楽通寶		宣徳通寶	康熙通寶	乾隆通寶	道光通寶	大世通寶	世高通寶								
	完形	破片	完形	完形	破片	完形	完形	完形	破片	完形	完形	破片	完形	破片		
個数	28	12	1	1	1	1	5	13	1	4	19	11	33	206	27	4

時代	江戸							明治							大正			
銭種	寛永通宝							10年	17年	20年	23年	31年(1898)		一銭	半銭	3年	5年	8年	9年
	1期		2期		3期		新	二銭	半銭	半銭	五銭	一銭				十銭	一銭	一銭	一銭
	完形	破片	完形	破片	完形	破片	破片	完形	完形	完形	完形	完形		完形	完形	完形	完形	完形	完形
個数	14	2	3	2	14	1	2	1	1	1	1	1		2	2	1	1	1	2

時代	大正										昭和							
銭種	10年			11年	12年	13年	14年	年代不明	十銭	一銭	7年	10年	11年	13年	14年		15年	
	十銭	五銭	一銭	五銭	一銭	一銭	十銭	一銭			一銭	一銭	一銭	一銭	五銭	十銭	十銭	一銭
	完形	完形	完形	完形	完形	完形	完形	完形	完形	完形	完形	完形	完形	完形	完形	完形	完形	完形
個数	3	1	2	1	1	1	1	1	3	10	1	2	1	1	1	1	1	1

時代	昭和							満州国 大同3年	米国	合計
銭種	16年		17年		16・18年	五銭 (アルミニウム貨)	一銭	五分 白銅貨	1セント	
	一銭 (アルミニウム貨)	一銭	五銭	五銭 (アルミニウム貨)	五銭 (アルミニウム貨)					
	完形	完形	完形	完形	完形	完形	完形	完形	完形	
個数	1	9	1	1	1	2	3	1	5	802

第38表　銭貨観察一覧①

単位:㎜、g

挿図番号 図版番号	銭貨名	初鋳年代	法量				残存	旧出土地	新出土地
			銭径	孔径	銭厚	重量			
第125図 図版90 1	四銖半両 三分銭	前漢B.C.175 年	24.02	8.41	1.17	2.30	完形	Ⅱ期基壇前面100トレンチ 第2段階の基壇 正面石積内その下	Ⅱ期基壇
第125図 図版90 2	貨泉	新A.D.14年	23.00	6.93	1.78	2.92	完形	遺構No.2 Ⅱ期基壇化粧石前	Ⅲ期基壇
第125図 図版90 3	開元通寶	－	24.48	6.44	1.39	3.52	完形	Ⅱ期基壇　化粧石前	Ⅲ期基壇
第125図 図版90 4	開元通寶	－	24.38	6.55	1.23	3.34	完形	石灰岩　K6 101	Ⅳ期基壇
第125図 図版90 5	開元通寶	－	25.29	6.66	1.28	2.22	破片	表土　K1 K2 92	K1･2-92　表土
第125図 図版90 6	開元通寶	－	24.20	7.08	0.96	2.92	完形	表土　K6 103⑨	K6-103　表土
第125図 図版90 7	開元通寶	唐845年	25.64	6.25	1.85	4.13	完形	No.2　Ⅱ期基壇 正面部⑰	Ⅲ期基壇
第125図 図版90 8	光天元寶	前蜀918年	23.55	6.59	1.04	2.07	破片	第2層　20cm　K6 93	K6-93　Ⅱ層
第125図 図版90 9	周通元寶	後周955年	24.97	6.39	1.06	3.15	完形	表土　K2 92･93⑬	K2-92･93　表土
第125図 図版90 10	太平通寶	北宋976年	24.55	5.75	1.21	3.32	完形	遺構No.2 Ⅱ期基壇化粧石前⑬	Ⅲ期基壇
第125図 図版90 11	淳化元寶	北宋990年	25.05	5.81	1.42	3.85	完形	遺構No.1 Ⅱ期基壇化粧石前⑤	Ⅲ期基壇
第125図 図版90 12	咸平元寶	北宋998年	24.69	5.56	1.46	3.93	完形	Ⅱ期基壇　化粧石前	Ⅲ期基壇
第125図 図版90 13	咸平元寶	－	24.83	5.89	1.15	2.98	完形	遺構No.1 Ⅱ期基壇化粧石前③	Ⅲ期基壇
第126図 図版91 14	祥符通寶	北宋1009年	26.33	5.50	1.23	3.85	完形	遺構No.1 Ⅱ期基壇化粧石前⑥	Ⅲ期基壇
第126図 図版91 15	祥符元寶	北宋1009年	25.66	6.02	1.39	3.33	完形	Ⅱ期基壇　化粧石前	Ⅲ期基壇
第126図 図版91 16	祥符元寶	－	26.03	6.20	1.43	4.08	完形	Ⅱ期基壇　正面部	Ⅲ期基壇
第126図 図版91 17	天禧通寶	北宋1017年	25.76	5.85	1.45	3.25	完形	撹乱層	撹乱層
第126図 図版91 18	天聖元寶	北宋1023年	24.83	6.67	1.30	3.26	完形	第Ⅱ層　⑦　0-10　K6　95	K6-95　Ⅱ層
第126図 図版91 19	天聖元寶	－	25.78	7.14	1.63	4.13	完形	表土　K4 101⑩	K4-101　表土
第126図 図版91 20	景祐元寶	北宋1034年	25.36	7.25	0.98	2.03	破片	表土　K1 K2 92	K1･2-92　表土
第126図 図版91 21	皇宋通寶	－	25.10	6.49	1.51	3.98	完形	石灰岩　K6 101	Ⅳ期基壇
第126図 図版91 22	皇宋通寶	北宋1038年	24.80	5.71	1.16	3.05	完形	No.8　表土	表土
第126図 図版91 23	至和通寶	北宋1054年	－	6.78	1.22	1.87	破片	表土　K1 K2 92	K1･2-92　表土

注「－」:計測不可

第38表　銭貨観察一覧②

単位:㎜、g

挿図番号 図版番号	銭貨名	初鋳年代	法量				残存	旧出土地	新出土地
			銭径	孔径	銭厚	重量			
第126図 図版91 24	嘉祐通寶	北宋1056年	25.02	7.10	1.27	3.16	完形	遺構No.5　Ⅲ期基壇前面 K9 K10 100　第2基壇	Ⅳ期基壇
第126図 図版91 25	治平元寶	北宋1064年	24.74	6.31	1.43	3.77	完形	Ⅴ期基壇前面100トレンチ 第2階段9基壇正面 石板内その下	Ⅱ期基壇
第126図 図版91 26	治平元寶	－	－	－	1.22	1.49	破片	表土　No14	表土
第126図 図版91 27	熙寧元寶	北宋1068年	25.33	6.47	1.30	3.78	完形	Ⅱ期基壇　東方のミゾ	Ⅲ期基壇
第127図 図版92 28	熙寧元寶	－	24.17	5.90	1.65	4.55	完形	表土　K7 99	K7-99　表土
第127図 図版92 29	熙寧元寶	－	23.99	6.30	1.22	2.94	完形	遺構No.2 Ⅱ期基壇化粧石前	Ⅲ期基壇
第127図 図版92 30	熙寧元寶	－	23.82	6.24	1.33	3.05	完形	撹乱層	撹乱層
第127図 図版92 31	熙寧元寶 折二	－	31.72	8.02	1.22	6.13	完形	第Ⅱ層① 10-20　K3 93	K3-93　Ⅱ層
第127図 図版92 32	元豊通寶	－	24.91	6.45	1.50	4.58	完形	遺構No.3　Ⅲ期基壇前面 K9 K10 100　第2基壇正面 礫層中	K9･10-100 Ⅱ期基壇 正面礫層中
第127図 図版92 33	元豊通寶	北宋1078年	24.82	6.58	1.34	3.53	完形	No.9-3.4　表土	表土
第127図 図版92 34	元豊通寶	－	24.76	5.87	1.41	4.41	完形	C観察トレ	中央観察トレンチ3 礫層
第127図 図版92 35	元豊通寶 折二	－	28.30	6.75	1.77	7.67	完形	かわや跡の覆土中	かわや跡　Ⅰ層
第127図 図版92 36	元祐通寶	－	23.90	5.02	1.72	4.76	完形	遺構No1 Ⅱ期基壇化粧石前⑨	Ⅲ期基壇
第127図 図版92 37	元祐通寶	北宋1086年	25.43	5.46	1.21	3.85	完形	Ⅱ期基壇　化粧石前	Ⅲ期基壇
第127図 図版92 38	元祐通寶	－	24.97	6.63	1.73	4.24	完形	テストピットK8　100 石灰岩塊層	Ⅲ期基壇
第127図 図版92 39	元祐通寶	－	25.19	5.77	1.62	4.24	完形	Ⅱ期基壇　正面部	Ⅲ期基壇
第127図 図版92 40	紹聖元寶	－	－	6.32	1.35	1.58	破片	表土　K1 96	K1-96　表土
第127図 図版92 41	紹聖元寶	北宋1094年	－	5.66	1.29	2.09	破片	K10 94 土拡　50cm	K10-94　土坑5
第128図 図版93 42	元符通寶	－	24.14	6.58	1.53	3.75	完形	K2 92.93　表土	K2-92･93　表土
第128図 図版93 43	元符通寶	北宋1098年	25.05	6.65	1.26	3.54	完形	No.12　表土	表土
第128図 図版93 44	聖宋元寶	北宋1101年	24.24	6.57	1.20	3.75	完形	中央断割畦 K7 91　第2層	中央観察畦②　Ⅱ層
第128図 図版93 45	大観通寶	北宋1107年	24.81	5.93	1.41	2.96	破片	K2 92 93　表土	K2-92･93　表土
第128図 図版93 46	政和通寶	－	24.71	5.91	1.32	3.31	完形	表土　K6 101	K6-101　表土

注 「－」:計測不可

第38表　銭貨観察一覧③

単位:㎜、g

挿図番号 図版番号	銭貨名	初鋳年代	法量				残存	旧出土地	新出土地
			銭径	孔径	銭厚	重量			
第128図 図版93 47	政和通寶	北宋1111年	24.27	5.67	1.37	3.57	完形	39号 柱穴	K2-91･92 柱穴39
第128図 図版93 48	政和通寶 折二	－	－	－	1.57	2.98	破片	Ⅰ期基壇畦 51号 柱穴39	K7-93 柱穴51
第128図 図版93 49	宣和通寶	北宋1119年	－	－	1.23	1.15	破片	表土 L1 102	L1-102 表土
第128図 図版93 50	紹熙元寶	南宋1190年	－	5.89	1.31	2.14	破片	表土 K1 K2 92	K1･2-92 表土
第128図 図版93 51	淳熙元寶	南宋1174年	24.43	6.06	1.28	2.34	破片	No.15 表土	表土
第128図 図版93 52	開禧通寶	南宋1205年	－	－	1.19	1.54	破片	第Ⅱ層⑨ 20cm K6 93	K6-93 Ⅱ層
第128図 図版93 53	嘉定通寶	南宋1208年	－	－	1.20	2.19	破片	表土 K1 K2 92	K1･2-92 表土
第128図 図版93 54	皇宋元寶	南宋1253年	－	5.52	1.34	2.00	破片	表土 K3 92⑯	K3-92 表土
第128図 図版93 55	景定通寶	南宋1260年	24.78	6.55	1.17	2.27	破片	表土 K1 K2 92	K1･2-92 表土
第129図 図版94 56	至大通寶	元1310年	－	4.77	2.30	3.54	破片	遺構No.3 Ⅲ期基壇前面 K9 K10 100 第2基壇 正面礫層中㉕	K9･10-100 Ⅱ期基壇 正面礫層中
第129図 図版94 57	大中通寶	明1361年	25.06	5.33	1.60	4.06	完形	表土 K5 99⑧	K5-99 表土
第129図 図版94 58	洪武通寶	－	22.65	5.13	1.62	3.69	完形	表土 L2 102	L2-102 表土
第129図 図版94 59	洪武通寶	－	23.37	5.77	1.86	4.01	完形	(Ⅲ期基壇前面)K9 K10 第Ⅱ基壇 正面礫層中	K9･10-100 Ⅱ期基壇 正面礫層中
第129図 図版94 60	洪武通寶	－	23.27	5.54	1.59	3.45	完形	撹乱層	撹乱層
第129図 図版94 61	洪武通寶	－	24.08	5.80	1.68	4.11	完形	テストピットK8 100 石灰岩塊層	Ⅲ期基壇
第129図 図版94 62	洪武通寶	－	23.16	5.55	2.15	3.66	完形	Ⅱ期基壇 化粧石前	Ⅲ期基壇
第129図 図版94 63	洪武通寶	－	23.72	5.37	1.58	4.03	完形	テストピットK8 100 石灰岩塊層	Ⅲ期基壇
第129図 図版94 64	洪武通寶	－	23.73	5.36	1.84	4.15	完形	Ⅱ期基壇 化粧石前	Ⅲ期基壇
第129図 図版94 65	洪武通寶	－	22.49	4.08	1.74	3.50	完形	Ⅱ期基壇前面100トレンチ 第2段階の基壇 石積のその下	Ⅱ期基壇
第129図 図版94 66	洪武通寶	－	21.33	4.11	1.74	2.94	完形	Ⅱ期基壇前面100トレンチ 第2段階の基壇 正面石積内その下	Ⅱ期基壇
第129図 図版94 67	洪武通寶	－	23.14	6.43	1.68	3.91	完形	Ⅱ期基壇 正面部	Ⅲ期基壇
第129図 図版94 68	洪武通寶 折二	－	29.57	5.80	2.13	8.48	完形	中央部爆弾跡	爆弾跡②
第130図 図版95 69	洪武通寶 折二	－	－	－	1.66	4.41	破片	表土層 K3-92	K3-92 表土

注 「－」:計測不可

第38表　銭貨観察一覧④

単位:㎜、g

挿図番号 図版番号	銭貨名	初鋳年代	法量				残存	旧出土地	新出土地
			銭径	孔径	銭厚	重量			
第130図 図版95 70	洪武通寶 折二	-	-	-	1.79	3.89	破片	L0-1.98 撹乱層	L0･1-98 撹乱層
第130図 図版95 71	洪武通寶	-	-	-	2.13	2.07	破片	(Ⅲ期基壇 前面) K9 K10 100 第2基壇 正面礫層中	K9･10-100 Ⅱ期基壇 正面礫層中
第130図 図版95 72	洪武通寶	-	-	-	2.03	1.02	破片	表土 K1 96	K1-96 表土
第130図 図版95 73	永楽通寶	-	25.61	5.06	1.26	3.33	完形	遺構No.1 Ⅱ期基壇 化粧石前①	Ⅲ期基壇
第130図 図版95 74	永楽通寶	-	25.95	5.02	1.25	3.83	完形	第Ⅱ層② 0-20 K4 97	K4-97 Ⅱ層
第130図 図版95 75	永楽通寶	-	24.92	5.13	1.34	3.77	完形	表土 L2 102	L2-102 表土
第130図 図版95 76	永楽通寶	-	25.45	5.03	1.67	4.76	完形	石灰岩礫層 K8 100 (Ⅲ期基壇)	Ⅲ期基壇
第130図 図版95 77	永楽通寶	-	25.89	4.82	1.57	4.19	完形	Ⅰ期基壇 階段畦	Ⅱ期基壇
第130図 図版95 78	永楽通寶	-	25.53	4.63	1.92	6.23	完形	Ⅱ期基壇 化粧石前	Ⅲ期基壇
第130図 図版95 79	永楽通寶	明1408年	24.91	4.98	2.01	5.34	完形	No.17 表土	表土
第130図 図版95 80	永楽通寶	-	25.58	4.70	1.78	4.34	完形	Ⅱ期基壇 正面部	Ⅲ期基壇
第130図 図版95 81	永楽通寶	-	-	5.40	1.20	2.90	完形	第Ⅱ層 0/10 K9.95	K9-95 Ⅱ層
第130図 図版95 82	宣徳通寶	明1433年	24.99	4.40	1.61	3.62	完形	遺構No.3 Ⅱ期基壇 正面部⑲	Ⅲ期基壇
第131図 図版96 83	康熙通寶	清1662年	21.17	4.63	1.06	1.95	完形	表土 K0 98⑫	K0-98 表土
第131図 図版96 84	乾隆通寶	清1736年	23.31	5.40	0.97	1.74	破片	表土 K2 96	K2-96 表土
第131図 図版96 85	道光通寶	清1821年	21.88	5.19	1.84	3.44	完形	第Ⅱ層④ 10-20 K2 93	K2-93 Ⅱ層
第131図 図版96 86	世高通寶	-	23.00	4.92	1.09	2.57	完形	Ⅱ期基壇 化粧石前	Ⅲ期基壇
第131図 図版96 87	世高通寶	-	23.66	4.49	1.45	4.23	完形	遺構No.1 Ⅱ期基壇 化粧石前②	Ⅲ期基壇
第131図 図版96 88	世高通寶	-	22.56	4.34	1.20	2.74	完形	Ⅱ期基壇 正面部	Ⅲ期基壇
第131図 図版96 89	世高通寶	琉球1461年	23.27	4.49	2.79	5.95	完形	No.3 石組遺構 SW3	K2-96 SW3
第131図 図版96 90	世高通寶	-	23.22	3.76	1.73	3.12	完形	Ⅱ期基壇 正面部	Ⅲ期基壇
第131図 図版96 91	世高通寶	-	23.50	4.60	1.49	4.28	完形	Ⅱ期基壇 正面部	Ⅲ期基壇
第131図 図版96 92	世高通寶	-	24.18	4.13	2.09	4.12	完形	Ⅱ期基壇 正面部	Ⅲ期基壇

注 「－」:計測不可

第38表　銭貨観察一覧⑤

単位:㎜、g

挿図番号 図版番号	銭貨名	初鋳年代	法量				残存	旧出土地	新出土地
			銭径	孔径	銭厚	重量			
第131図 図版96 93	世高通寶	-	24.04	4.64	1.40	3.43	完形	Ⅱ期基壇　正面部	Ⅲ期基壇
第131図 図版96 94	世高通寶	-	23.44	4.06	1.24	2.76	完形	Ⅱ期基壇　正面部	Ⅲ期基壇
第131図 図版96 95	世高通寶	-	23.94	4.20	2.06	5.13	完形	Ⅱ期基壇　正面部	Ⅲ期基壇
第131図 図版96 96	世高通寶	-	23.38	3.95	1.49	3.29	完形	Ⅱ期基壇　正面部	Ⅲ期基壇
第132図 図版97 97	世高通寶	-	23.18	4.20	1.50	2.68	完形	Ⅱ期基壇　正面部	Ⅲ期基壇
第132図 図版97 98	世高通寶	-	23.90	4.63	0.99	2.18	完形	Ⅱ期基壇　正面部	Ⅲ期基壇
第132図 図版97 99	世高通寶	-	22.74	3.95	1.24	2.28	破片	Ⅱ期基壇　化粧石前	Ⅲ期基壇
第132図 図版97 100	大世通寶	-	23.85	5.05	1.81	5.14	完形	Ⅱ期基壇　化粧石前	Ⅲ期基壇
第132図 図版97 101	大世通寶	琉球1454年	23.66	5.14	1.65	4.49	完形	No.1 Ⅱ期基壇　化粧石前⑧	Ⅲ期基壇
第132図 図版97 102	大世通寶	-	23.90	5.54	1.32	4.03	完形	Ⅱ期基壇　正面部	Ⅲ期基壇
第132図 図版97 103	大世通寶	-	23.99	4.60	1.68	4.26	完形	Ⅱ期基壇　正面部	Ⅲ期基壇
第132図 図版97 104	大世通寶	-	23.71	4.60	1.50	3.50	完形	Ⅱ期基壇　正面部	Ⅲ期基壇
第132図 図版7 105	寛永通寶 1期	-	25.68	5.50	1.70	3.97	完形	撹乱層	撹乱層
第132図 図版97 106	寛永通寶 1期	-	25.17	5.36	1.40	4.50	完形	L1 98　撹乱層	L1-98　撹乱層
第132図 図版97 107	寛永通寶 1期	-	24.90	5.21	1.61	4.05	完形	No.18-2　表土	表土
第132図 図版97 108	寛永通寶 1期	-	23.22	5.14	1.30	3.59	完形	中央部爆弾跡	爆弾跡②
第132図 図版97 109	寛永通寶 2期	-	25.20	5.31	1.55	4.26	完形	表土　L2 103	L2-103　表土
第133図 図版98 110	寛永通寶 2期	-	24.71	5.68	1.21	3.16	完形	表土　K5 103　③	K5-103　表土
第133図 図版98 111	寛永通寶 2期	-	25.62	4.96	1.92	4.43	完形	L1 98　撹乱層	L1-98　撹乱層
第133図 図版98 112	寛永通寶 3期	-	23.21	6.37	1.06	2.30	完形	No.18-6　表土	表土
第133図 図版98 113	寛永通寶 3期	-	25.57	5.53	1.22	3.71	完形	No.18　表土	表土
第133図 図版98 114	寛永通寶 3期	-	22.65	6.20	0.90	2.07	完形	No.18　表土	表土
第133図 図版98 115	寛永通寶 3期	-	22.95	6.73	1.04	2.37	完形	基壇前面100トレンチ 第2階段基壇正面 石板内その下	Ⅱ期基壇

注 「－」:計測不可

第38表　銭貨観察一覧⑥

単位:㎜、g

挿図番号 図版番号	銭貨名	初鋳年代	法量				残存	旧出土地	新出土地
			銭径	孔径	銭厚	重量			
第133図 図版98 116	無文銭	-	22.57	6.50	1.48	2.51	完形	撹乱層	撹乱層
第133図 図版98 117	無文銭	-	21.74	6.71	1.14	2.30	完形	Ⅱ期基壇　正面部	Ⅲ期基壇
第133図 図版98 118	無文銭	-	20.44	7.17	0.81	1.45	完形	No.21-1　表土	表土
第133図 図版98 119	無文銭	-	17.44	8.19	0.65	0.65	完形	K9 100	K9-100　表採
第133図 図版98 120	無文銭	-	15.05	8.56	0.63	0.39	完形	第2層　50～60 K6 97	K6-97　Ⅱ層
第133図 図版98 121	輪銭	-	10.60	6.25	0.74	0.16	完形	SW9　遺構内	K1-96　SW9
第133図 図版98 122	輪銭	-	10.89	7.38	0.56	0.13	完形	SW9　遺構内	K1-96　SW9
第133図 図版98 123	輪銭	-	8.03	5.03	0.45	0.04	完形	表土　L4 101	L4-101　表土
第133図 図版98 124	半銭	明治20年	22.28	-	1.07	3.33	完形	表土　L1 97	L1-97　表土
第134図 図版99 125	一銭	明治31年	28.00	-	1.53	6.56	完形	表土層　K4-97	K4-97　表土
第134図 図版99 126	二銭	明治10年	31.82	-	2.34	13.29	完形	L1 98　撹乱層	L1-98　撹乱層
第134図 図版99 127	五銭 (菊5銭白銅貨)	明治23年	20.54	-	1.84	4.38	完形	L0 97 SW13 井戸状遺構外 東側グリット	L0-97　SW13
第134図 図版99 128	一銭	大正13年	23.05	-	1.42	3.71	完形	Ⅴ期基壇　南踊り場	Ⅶ期基壇　踊り場
第134図 図版99 129	五銭	大正10年	19.21	3.64	1.35	2.61	完形	表土　K6 101	K6-101　表土
第134図 図版99 130	十銭	大正10年	23.32	-	1.39	3.65	完形	表土　K6 101	K6-101　表土
第134図 図版99 131	十銭	大正10年	22.07	5.00	1.26	2.91	完形	L0 99 砲弾による撹乱層	L0-99　爆弾跡④
第134図 図版99 132	一銭	昭和7年	23.32	-	1.43	3.65	完形	No.19-5	出土地不明
第134図 図版99 133	一銭	昭和16年 (アルミニウム貨)	16.10	-	1.60	0.65	完形	表土　K5 103	K5-103　表土
第134図 図版99 134	五銭	昭和14年	19.21	3.82	1.50	2.66	完形	表土　L2 101	L2-101　表土
第134図 図版99 135	五銭	昭和17年	19.10	-	1.63	1.03	完形	表土　L2 102	L2-102　表土
第134図 図版99 136	十銭	昭和14年	22.18	4.30	1.74	3.93	完形	L1 102　撹乱	L1-102　撹乱層
第134図 図版99 137	5分白銅貨	大満州国大同3年	20.08	-	1.37	3.38	完形	表土　L4 100	L4-100　表土
第134図 図版99 138	1セント	-	19.02	-	1.36	2.99	完形	表土　K2 103	K2-103　表土

注 「－」:計測不可

第39表　煙管集計表

分　類	羅宇煙管											
	雁首											
	円筒形未成品		面取り		面取り火皿のみ		指圧パイプ形	丸形				
	瓦転用	瓦質	沖無		沖無		沖無	沖施			中国産？	
			黒褐	赤褐色	黒褐	赤褐色	黒褐	透明釉	緑釉	瑠璃釉	透明釉	瑠璃釉
個　数	1	1	20	9	2	1	1	7	7	2	1	1

分　類	羅宇煙管											
	雁首					吸口						
	丸形火皿のみ	古泉編年Ⅲ・Ⅳ	古泉編年Ⅳ	古泉編年Ⅴ	古泉編年Ⅵ	太形						
	沖施					沖施				染付（本土産肥前）	中国産？	
	自然釉					灰釉	黄釉	透明釉	緑釉		瑠璃釉	
個　数	1	1	1	3	1	1	1	5	6	1	1	

分　類	羅宇煙管					延べ煙管	合　計
	吸口						
	古泉編年Ⅳ	古泉編年Ⅴ	古泉編年Ⅵ	古泉編年Ⅳ～Ⅵ	分類不明 金属製	金属製	
個　数	1	3	2	1	1	2	85

第40表　煙管観察一覧

単位:cm、g、()は残存長

挿図番号 図版番号	材質	分類	部位	法量								重量	観察事項	旧出土地	新出土地
				全長	高さ 幅	火皿径		接続部径		吸口					
						外	内	外	内	外	内				
第135図 図版100 1	瓦	円筒形	雁首	−	3.90 2.65	−	−	−	−	−	−	31.66	灰瓦を転用、一面に布目痕残。加工:方柱状に加工、全面研磨。円筒形煙管雁首の未成品。沖縄産。	Ⅳ期基壇 化粧石前プール 遺構内	SP 3
第135図 図版100 2	瓦質	円筒形	雁首	−	3.85 2.65	−	−	−	−	−	−	26.29	沖縄産瓦質製品を転用、一部に器面残。加工:下面に切断面残、それ以外の各面研磨、線条痕残。円筒形煙管雁首の未成品。	SW3	K2−96　SW3
第135図 図版100 3	沖無 (黒褐)	面取り	雁首	3.30	−	(1.45)	1.00	1.45	1.05	−	−	5.74	面取り加工。	不明	出土地不明
第135図 図版100 4	沖無 (黒褐)	面取り	雁首	3.75	−	1.90	1.45	1.15	0.85	−	−	7.85	火皿内面に煤付着。	不明	出土地不明
第135図 図版100 5	沖無 (黒褐)	面取り	雁首	4.45	−	1.75	1.40	1.50	0.95	−	−	10.69	部分的に線条痕残。火皿底面に煤付着。	第2 L4 99	L4−99　Ⅱ層
第135図 図版100 6	沖無 (黒褐)	面取り	雁首	4.40	−	1.75	1.25	1.45	0.95	−	−	11.01	火皿底面に煤付着。	第2 L2 98	L2−98　Ⅱ層
第135図 図版100 7	沖無 (赤褐)	面取り	雁首	3.15	−	1.50	1.05	1.50	0.85	−	−	6.83	火皿外縁部に煤付着、首部火皿側に僅かな凹み。	L4 97	L4−97　表採
第135図 図版100 8	沖無 (赤褐)	面取り	雁首	3.40	−	1.65	1.05	(1.40)	(0.90)	−	−	5.18	火皿外縁部に煤付着、火皿上面・羅宇接合部変色。	表 L6 96	L6−96　表採
第135図 図版100 9	沖無 (赤褐)	面取り	雁首	(4.00)	−	1.50	1.10	−	−	−	−	4.94	火皿上面変色。	K1 96 石組 遺構内	K1−96　SW9
第135図 図版100 10	沖無 (黒褐)	—	雁首	4.75	−	2.75	1.20	1.90	0.85	−	−	27.80	首部両側面に指頭痕。	第2 K8 99	K8−99　Ⅱ層
第135図 図版100 11	沖施 (透明 釉)	太形	吸口	3.40	−	−	−	1.40	1.05	0.60	0.40	7.35	胎土:灰白色。口付先端部のみ変色。	第74 柱穴	L1−93 柱穴74
第135図 図版100 12	沖施 (黄釉)	太形	吸口	2.10	−	−	−	1.25	0.80	0.70	0.20	2.33	胎土:灰白色。	表L5 95	L5−95　表採
第135図 図版100 13	沖施 (透明 釉)	丸形	雁首	(2.55)	−	1.25	1.00	−	−	−	−	3.38	胎土:灰白色黒色粒まばら。火皿内面に煤付着。	K1　石組内	K1−96　SW9
第135図 図版100 14	沖施 (透明 釉)	太形	吸口	3.10	−	−	−	1.70	1.10	0.65	0.40	4.50	小口部釉剥ぎ、胎土:灰白色黒色粒まばら。火皿内面に煤付着。	L0　99 井戸状遺構外 西グリット	L0−99　SW13?
第135図 図版100 15	沖施 (緑釉)	丸形	雁首	2.70	−	1.30	1.10	1.40	1.05	−	−	4.65	小口部釉剥ぎ、胎土:灰白色黒色粒まばら。火皿内面に煤付着。	K1 96	K1−96　表採
第135図 図版100 16	沖施 (緑釉)	太形	吸口	2.60	−	−	−	1.40	0.85	0.55	0.35	2.87	小口部釉剥ぎ、胎土:灰白色黒色粒まばら。小口部有段。	L5　98　グリット	L5−98　表採
第135図 図版100 17	沖施 (瑠璃 釉)	丸形	雁首	2.40	−	1.20	1.05	1.25	0.90	−	−	3.38	斑点状の装飾あり、胎土:灰白色。沖縄産か。	不明	出土地不明
第135図 図版100 18	中施？ (瑠璃 釉)	太形	吸口	−	−	−	−	−	−	0.60	0.35	0.63	小口部釉剥ぎ、胎土:灰白色。小口部片と口付部片。	表 L2 97	L2−97　表採
第135図 図版100 19	中施？ (透明 釉)	丸形	雁首	(3.05)	−	−	−	−	−	(1.10)	(0.80)	2.52	全面白釉、胎土灰白色。半割。	SW13 下部	L0−96　SW13
第135図 図版100 20	銅	古泉 Ⅴ類	雁首	4.85	−	1.00	0.80	0.90	0.70	−	−	12.86	鍛造、火皿部溶着、側面に溶着の線残。首部火皿側に灰落としによる大きな凹みあり。	C観察トレ	中央観察 トレンチ3 礫層
第135図 図版100 21	銅	古泉 Ⅴ類	吸口	5.85	−	−	−	1.00	0.80	0.60	0.45	7.25	鍛造。	表土層 L5 98	L5−98　表土

注「−」:計測不可

第41表　煙管の形状・素材別数量一覧

形状			素材	瓦質・瓦転用	中国産？	本土産染付	沖施	沖無	銅	合計
羅宇煙管	雁首	非金属製	円筒形	2						2
			面取り					32		32
			丸形		2		17			19
			指圧パイプ形					1		1
			小計	2	2	0	17	33	0	54
		金属製	古泉編年Ⅲ・Ⅳ						1	1
			古泉編年Ⅳ						1	1
			古泉編年Ⅴ						3	3
			古泉編年Ⅵ						1	1
			小計	0	0	0	0	0	6	6
	吸口	非金属製	太形		1	1	13			15
		金属製	古泉編年Ⅳ						1	1
			古泉編年Ⅴ						3	3
			古泉編年Ⅵ						2	2
			古泉編年Ⅳ～Ⅵ						1	1
			分類不明						1	1
			小計	0	0	0	0	0	8	8
延べ煙管		金属製							2	2
合計				2	3	1	30	33	16	85

第42表　玉類集計表

分　類	勾玉						棗玉	数珠玉		数珠玉？	玉
	丁字頭	勾玉				未成品					
	ガラス製	結晶質石灰岩製	翡翠製	ガラス製		蝋石？製	水晶製	水晶製	ガラス製	ガラス製	
	灰白	灰白	濃緑	青	水	薄黄緑	半透明	半透明	半透明	半透明	水
個　数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2

分　類	小玉																
	水晶製	ガラス製									ガラス製？	ガラス製					
	Ⅰ類	Ⅰ類									Ⅰ類	Ⅱ類					
	半透明	青	水	紺	赤	黄	黒	白	緑	不明	黄	青	水	赤	黄	黒	白
個　数	2	28	28	2	14	15	2	1	21	1	1	30	130	6	4	1	3

分　類	小玉													器種不明	合　計
	ガラス製														
	Ⅱ類		Ⅲ類		Ⅳ類			Ⅴ類							
	緑	不明	青	水	緑	青	水	青	水	黄	黒	半透明	緑		
個　数	25	1	12	18	2	1	11	2	11	1	1	1	2	1	391

第43表　玉類観察一覧

単位:㎜、g

挿図番号 図版番号	器種	色	外径 内径 高さ	重量	観察事項	旧出土地	新出土地
第136図 図版101 1	勾玉	灰白色	- 4.5×5.5 17.0	30.00	素材:ガラス製。頭部3条、くびれ部1条の刻線あり(丁字頭)。頭部穿孔は片側方向主体。整形精緻。	K9 97 Grit 第2層 0-20 石組内	K9-97 SW11
第136図 図版101 2	勾玉	灰白色	- - 14.0	11.00	素材:結晶質石灰岩。頭部欠損。整形精緻。	K2 95 No,3 石組遺構 SW3	K2-96 SW3
第136図 図版101 3	勾玉	濃緑色	- 1.0 5.5	1.80	素材:翡翠。小形。頭部は両面より穿孔。整形精緻。	No.3 石組 SW3	K2-96 SW3
第136図 図版101 4	勾玉	薄黄緑色	- 3.5 16.0	6.60	素材:蛸石か。頭頂部のみ残存。両面より穿孔も貫通に達せず、未成品の可能性あり。整形精緻も研磨の痕跡残。	第2 K8 96	K8-96 Ⅱ層
図版101 5	数珠玉？	半透明	22.4 2.9 14.4	9.10	素材:ガラス。レンズ状に整形され中心に稜あり。中心部に製作時の軸棒の孔残る。表面極めて平滑。	K3 96 第3 石組遺構内	K2-96 SW3
図版101 6	数珠玉？	半透明	10.4 2.2 12.3	2.00	素材:ガラス。棗玉状に整形。中心部に製作時の軸棒の孔残る。表面極めて平滑。	Ⅳ期基壇 化粧石前ブール 遺構内	SP3
図版101 7	小玉 Ⅰ類	半透明	7.1 1.7 7.2	0.50	素材:水晶。断面形はほぼ正円。中心部に両面からの穿孔あり。表面平滑。内面は無数にひび割れ。	No.3 石組 SW3	K2-96 SW3
図101版 8	小玉 Ⅰ類	黄色	10.4 3.2 10.3	1.20	素材:ガラス。黄色に塗装も部分的に剥落し、半透明の素材面露出。塗装剥落部に螺旋状の筋が残。	Ⅱ期基壇 化粧石前	Ⅲ期基壇
図版101 9	小玉 Ⅰ類	黄色	9.7 1.9 9.2	1.20	素材:ガラス？。黄色に塗装もほぼ剥落し、黒灰色の素材面露出。螺旋状の筋明瞭。	Ⅱ期基壇 化粧石前	Ⅲ期基壇
図版101 10	小玉 Ⅰ類	赤色	5.4 1.0 5.0	0.10	素材:ガラス。表面平滑で螺旋状の筋はほとんど確認できない。	表土 L0 100	L0-100 表土
図版101 11	小玉 Ⅰ類	青色	8.0 2.9 5.7	0.40	素材:ガラス。螺旋状の筋はほとんど確認できない。	K2-98 第一層	K2-98 Ⅰ層
図版101 12	小玉 Ⅰ類	白色	8.3 3.3 6.3	0.40	素材:ガラス。白色の塗装も一部剥落し、半透明の素材面が露出。螺旋状の筋明瞭。	表土 L3 104	L3-104 表土
図版101 13	小玉 Ⅰ類	紺色	6.0 2.6 5.1	0.20	素材:色ガラス。側面3カ所に凹みを作出し、渦巻状に整形した透明ガラスを充填。	表土 K9 100	K9-100 表土
図版101 14	小玉 Ⅰ類	紺色	5.4 1.9 4.3	0.10	素材:色ガラス。表面は微細な発泡痕が残る。螺旋状の筋が確認でき、特に中央部は凸状に肥大。	K6 99	K6-99 表採
図版101 15	小玉 Ⅰ類	緑色	4.6 1.5 2.9	0.10	素材:色ガラス。表面は平滑で、螺旋状の筋は確認されない。	南側	Ⅶ期基壇 南踊り場 階段
図版101 16	小玉 Ⅰ類	緑色	4.2 1.6 2.7	0.08	素材:色ガラス。整った形状だが、片側の穿孔面は平坦。螺旋状の筋明瞭。	K3 96 第3 石組遺構内	K2-96 SW3
図版101 17	小玉 Ⅱ類	水色	2.9 1.1 2.2	0.01	素材:ガラス。水色に塗装。表面には発泡痕があり、白色の素材面が露出。	K2 98 第Ⅰ層	K2-98 Ⅰ層
図版101 18	小玉 Ⅱ類	水色	2.3 1.0 1.5	0.01	素材:ガラス。表面平滑で、螺旋状の筋明瞭。	K2 98 第Ⅰ層	K2-98 Ⅰ層
図版101 19	小玉 Ⅲ類	水色	2.6 1.0 1.9	0.01	素材:ガラス。表面平滑。製作時の螺旋状に積み重ねたガラス紐の跡が明瞭に残る。	K2 98 第Ⅰ層	K2-98 Ⅰ層
図版101 20	小玉 Ⅲ類	水色	3.5 1.3 3.0	0.06	素材:ガラス。表面平滑。製作時の螺旋状に積み重ねたガラス紐の跡が明瞭に残る。	K2 98 第Ⅰ層	K2-98 Ⅰ層
図版101 21	小玉 Ⅲ類	青色	2.4 1.4 1.5	0.01	素材:ガラス。表面平滑。製作時の螺旋状に積み重ねたガラス紐の跡が明瞭に残る。	K2 98 第Ⅰ層	K2-98 Ⅰ層

注 「－」:計測不可

※Ⅰ類:ほぼ円形を呈するもの　Ⅱ類:扁平系を呈するもの　Ⅲ類:2つ以上の玉がコイル状に連なっているもの
Ⅳ類:被熱により複数の玉が溶着しているもの　Ⅴ類:被熱により変形しているもの

第44表　円盤状製品集計表

分　類	中国産陶磁器					中国産土器	本土産施釉陶器	タイ産褐釉陶器	
	中国産青磁	中国産白磁	中国産青花	中国産施釉陶器？	中国産褐釉陶器			タイ産褐釉陶器（シーサッチャナライ）	タイ産褐釉陶器（メナムノイ）
個　数	8	1	3	1	53	2	1	5	2

分　類	沖縄産陶器	瓦		ガラス	細粒砂岩	合　計
	沖縄産無釉陶器	明朝系瓦（灰）	明朝系瓦（赤）			
個　数	5	5	9	1	1	97

第46表　円盤状製品観察一覧

単位:㎜、g

挿図番号 図版番号	分類	法量				素材	観察事項	旧出土地	新出土地
		縦	横	厚さ	重量				
第137図 図版102 1	cc	18.0	19.3	4.8	2.1	中国産、青磁、 胴部、清代	略円形、内外面両方より剥離、一部旧破損時面が残。	表 K7 101	K7-101　表採
第137図 図版102 2	cc	30.0	30.3	4.3	6.0	中国産、青磁、 胴部、明代	略方形、主に外面より剥離、一部旧破損時面が残。	L1　東西トレンチ 東隅石列区切内	L1　石列？
第137図 図版102 3	cc	25.0	32.0	14.7	20.0	中国産、青磁、 大形品胴部、明代	略方形、主に外面より剥離、剥離面少、一部旧破損時面が残。	L0　97　井戸状 石組遺構外東側	L0-97　SW13
第137図 図版102 4	cc	52.0	50.5	13.0	64.7	中国産、青磁、底部	略円形、内外面両方より全周を剥離。	4基壇南壁外側 上層	南踊り場　断割⑤
第137図 図版102 5	cw	43.3	45.0	12.4	28.5	中国産(福建)、白磁、 底部	略円形、主に外面より全周を剥離。	K0 97 石組遺構内	K0-97　SW6
第137図 図版102 6	cbu	26.0	25.0	3.9	3.4	中国産(徳化)、青花、 胴部、清代	略円形、主に外面より全周を剥離。	表土 K0 103	K0-103　表土
第137図 図版102 7	cbu	16.5	16.0	4.5	1.3	中国産(徳化)、青花、 胴部、清代	略円形、主に外面より全周を剥離。	SW13号 遺構内	L0-96　SW13
第137図 図版102 8	cbu	13.4	14.0	3.0	0.8	中国産(徳化)、青花、 胴部、清代	略円形、内外面より全周を剥離。	L1 98	L1-98　表採
第137図 図版102 9	cbr	23.0	22.0	8.0	5.5	中国産、褐釉、 胴部、明代	略円形、内外面より全周を剥離。	SP2	K1-99　SP2
第138図 図版103 10	cbr	28.7	33.0	8.4	12.0	中国産、褐釉、 胴部、明代	略円形、内外面より全周を剥離。	第Ⅳ期基壇 化粧石下試掘	試掘1
第138図 図版103 11	cbr	28.3	31.2	7.6	10.0	中国産、褐釉、 胴部、明代	略円形、内外面より全周を剥離。	SW13号 遺構内	L0-96　SW13
第138図 図版103 12	cbr	40.5	38.0	9.4	17.9	中国産、褐釉、 胴部、明代	略円形、内外面より全周を剥離。	表 K10 102	K10-102　表採
第138図 図版103 13	cbr	55.0	53.5	9.0	37.0	中国産、褐釉、 胴部、明代	略円形、内外面より全周を剥離。	表 K3 92	K3-92　表採
第138図 図版103 14	cp	39.0	40.6	7.4	15.0	中国産、土器、蓋、明代	略円形、主に外面より一部を剥離。側面一部に蓋縁辺、転用以前の破損面残。	K1 102 舞り場断割	南踊り場　断割④
第138図 図版103 15	cp	39.0	41.0	10.0	17.0	中国産、土器、蓋、明代	略円形、側面研磨。	0～20　K2 97	K2-97　Ⅱ層
第138図 図版103 16	tbs	38.0	40.0	12.0	26.0	タイ産(シーサッチャナライ)、褐釉、胴部、 15～16c	略方形、主に内面より剥離。側面一部に転用以前の破損面残。	第3基壇と③'横 石垣の間南カベ側 下層	南踊り場 断割①　下層
第138図 図版103 17	tbs	31.0	34.0	10.0	11.0	タイ産(シーサッチャナライ)、褐釉、胴部、 15～16c	略円形、主に内面より剥離。側面一部に転用以前の破損面残。	Ⅳ期基壇化粧石前 プール	SP3
第138図 図版103 18	tbm	28.0	28.0	10.0	12.5	タイ産(メナムノイ)、褐 釉、胴部、15c	略円形、主に内面より剥離。側面一部に転用以前の破損面残。	不明	出土地不明
第138図 図版103 19	gt	27.6	28.1	14.9	12.0	沖縄産、灰色瓦、近世	略円形、全面研磨。	L1 98 撹乱層	L1-98　撹乱層
第138図 図版103 20	rt	50.2	53.9	17.4	54.5	沖縄産、褐色瓦、 近世近代	略方形、主に内面より剥離。側面一部に転用以前の破損面残。	南舞り場　表土	南踊り場　Ⅰ層
第138図 図版103 21	rt	70.5	73.5	12.6	74.0	沖縄産、褐色瓦、 近世近代	略円形、主に外面より剥離。側面一部に転用以前の破損面残。	表土 L0 97	L0-97　表土
第138図 図版103 22	rt	35.6	34.0	12.0	17.0	沖縄産、赤色瓦、 近世近代	略円形、主に内面より剥離。側面一部に転用以前の破損面残。	表土 K10 103	K10-103　表土
第138図 図版103 23	rt	51.4	53.6	11.8	38.0	沖縄産、赤色瓦、 近世近代	略円形、主に外面より剥離。側面一部に転用以前の破損面残。	かわや跡の覆土	かわや跡　Ⅰ層
第138図 図版103 24	oe	35.0	35.0	11.5	21.0	沖縄産、無釉陶器、 胴部、近世近代	略円形、内外面より剥離。側面一部に転用以前の破損面残。	表 L5 96	L5-96　表採
第138図 図版103 25	oe	48.5	50.0	8.0	31.0	沖縄産、無釉陶器、 胴部、近世近代	略円形、主に外面より剥離。側面一部に転用以前の破損面残。	表土 L6 93	L6-93　表土
第138図 図版103 26	oe	61.0	64.5	12.0	68.0	沖縄産、無釉陶器、 胴部、近世近代	略円形、主に内面より剥離。側面一部に転用以前の破損面残。	L2 107 爆弾跡	爆弾跡④
第138図 図版103 27	gr	19.5	17.0	5.0	3.0	ガラス、胴部、近現代	略三角形、主に内面より全面剥離。	不明	出土地不明
第138図 図版103 28	cg?	36.0	30.0	7.5	14.5	中国産？、施釉、明代？	略円形、内外面より剥離。側面一部に転用以前の破損面残。	2期基壇正面部	Ⅲ期基壇

第47表　金属製品集計表

分　類	個 数
梵鐘	163
銅釘　角釘頭がL字	17
銅釘　角釘頭が平坦四角	9
銅釘　角釘頭が円形	102
銅釘	23
銅釘？　リングに近いタイプ	1
銅釘　座がついているタイプ	3
銅釘　現代釘(丸)	43
釘　破損品(タイプ分類不能)	18
鋲と座(完形)	6
座※	21
リング	18
鎹	2
取手状金具類	13
文様　板状飾り金具※	53
文様　板状コーナー部飾り金具※	15
板状柱状部飾り金具	15
板状無文金具類　(カット有り)※	321
調度品錠鍵金具類	4
板状製品　(八双金物の一部等)	36
小札	103
甲冑の一部	63
鎖帷子	33
半管状製品　(ヨロイの縁金具)	54
笠鞣	3
刀の鍔・切羽	5
刀	1
鏃	3
銅弾	3
銅鏡	1
銅器	3
銅製印	1
ジーファー(かんざし)	8
角棒状製品	12
銅線・針金	64
球状薬莢	1
砲弾破片	1007
現代　錠	10
現代ボルト・ネジ	9
現代ボタン	10
板状無文金具類(ブリキ)	69
現代その他現代製品	46
鉄滓	17
不明銅塊(焼け)	57
龍の髯	2
不明製品	23
小　計	2491

分　類					個 数
鉄釘	角釘	Ⅰ類	A　(20～24cm)		905
			B　(16～19.5cm)		1321
			C　(15cm)		482
			D　(12～13cm)		365
			E　(10～11cm)		163
			F　(7～8cm)		107
			G　(6cm)		73
			G'　(4cm)		41
		Ⅱ類	カット A		17
			カット B		37
			カット C		24
			カット D		54
			カット E		126
			カット F		103
			カット F'　(7～8cm 細)		3
			カット G		50
			カット G'		16
		Ⅲ類	極太 A		1
			極太 B		1
			極太 C		2
			極太 D		3
			極太 G		1
		Ⅳ類	L字釘		7
		その他			10
		不 明			1555
	洋釘				5404
	有孔釘	Aタイプ			5
		Bタイプ			20
	鎹	A　(10cm)		角	13
				丸	62
		B　(13cm)		角	17
				丸	2
		C　(16cm)		角	23
				丸	6
		D　(21cm)		角	6
				丸	1
		不明			21
小　計					11047
鉄筋・鉄片					514
現代金具					205
爆弾・破片					1424
鉄塊					25
はりがね					178
鉄クズ					150
小　計					2496
合　計					16034

※ ヨロイの飾り金具も含む

第48表　金属製品観察一覧①

挿図番号 図版番号	種類	旧出土地	新出土地
第141図 図版1041	梵鐘破片	不明	出土地不明
第141図 図版1042	梵鐘破片	不明	出土地不明
第141図 図版1043	梵鐘破片	不明	出土地不明
第141図 図版1044	梵鐘破片	不明	出土地不明
第141図 図版1045	梵鐘破片	第2層　70～80　K5　98	K5-98　Ⅱ層
第141図 図版1056	梵鐘破片	不明	出土地不明
第141図 図版1057	梵鐘破片	不明	出土地不明
第141図 図版1058	梵鐘破片	不明	出土地不明
第141図 図版1059	梵鐘破片	不明	出土地不明

第48表　金属製品観察一覧②

単位：cm、g

挿図番号 図版番号	種類	縦	横	厚さ	重量	観察事項	旧出土地	新出土地
第141図 図版106 10	釘	7.50	0.70	0.65	15.61	頭部は幅1.52cm、厚さ0.4cm。頭部は円形で扁平となる。頭部は六角形、先端部近くは四角形の断面形状となる。	L1 93 表土	L1-93　表土
第141図 図版106 11	釘	6.00	0.39	0.35	5.47	頭部は幅0.8cm、厚さ0.39cm。丸釘。首部から先端部にかけては四角形の断面形状となる。	K10　103　表土	K10-103　表土
第141図 図版106 12	釘	4.22	0.70	0.65	12.21	頭部は幅1.85cm、厚さ0.4cm。頭部は円形で扁平となる。首部から先端部にかけては八角形の断面形状となる。	表土　K5　96	K5-96　表土
第141図 図版106 13	釘	5.92	0.45	0.40	10.43	頭部は幅0.7cm、厚さ0.65cm。頭部から先端部近くまで漸次、細くなり、先端部で尖る。全体的に四角形の断面形状となる。	K2　95　表土層	K2-95　表土
第141図 図版106 14	釘	4.10	0.20	0.20	1.66	頭部は幅0.55cm、厚さ0.25cm。頭部は半球状となる。全体的に四角形の断面形状となる。	第Ⅱ層	Ⅱ層
第141図 図版106 15	釘	3.39	0.30	0.29	2.47	頭部は幅0.5cm、厚さ0.4cm。頭部は片側に張り出す。全体的に四角形の断面形状となる。	L2 101 表土	L2-101　表土
第141図 図版106 16	釘	2.30	0.15	0.15	0.47	頭部は幅0.3cm、厚さ0.1cm。頭部は半球状となる。全体的に四角形の断面形状となる。先端部は潰れる。	不明	出土地不明
第141図 図版106 17	有孔釘	2.25	0.45	0.25	2.02	頭部は幅1.10cm、厚さ0.39cm。孔は縦0.7cm、横0.39cm。先端部を環状に変形させた棒状の製品。断面形状は四角形になる。	L2 96 表土	L2-96　表土
第141図 図版106 18	有孔釘	2.95	0.30	0.39	3.94	頭部は幅1.15cm、厚さ0.65cm。孔は縦0.75cm、横0.7cm。有環の鉄製品。留め具か。	K0 98 表土	K0-98　表土
第141図 図版106 19	鋲	3.40	4.15	3.30	16.07	孔は縦1.9cm、横2cm。環状製品と環を止めた金具が錆化により接着する。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第141図 図版106 20	鋲	4.25	2.60	0.40	7.06	花の部分は、縦2.15cm、横2.2cm。L字状の釘に花弁を象った笠が付く。釘は胴部に段を有し、四角形の断面形状となる。	表土 K0 100	K0-100　表土
第141図 図版106 21	不明	2.05	2.35	0.10	1.80	孔径は0.15cm。孔が1カ所見られる銅板。僅かに曲面を有する。	K5 97 撹乱層	K5-97　撹乱層
第141図 図版106 22	不明	1.60	2.45	0.05	1.85	両端部を丸く収める細長の銅板で、一部が大きく曲り欠損する。	表土層 K3 97	K3-97　表土
第141図 図版106 23	取っ手	5.00	0.90	0.60	31.34	針金は、縦1.7cm、横3.2cm、厚さ0.45cm。調度品等に附属する銅製の取っ手の一部と取っ手を留める有環の鉄で錆化が進み、接着している。	L0 107 爆弾跡	爆弾跡④
第141図 図版106 24	取っ手	4.52	8.70	0.40	16.94	有孔金具の長さは、右、縦2.2cm、横0.3cm。左は、縦2.3cm、横0.3cm。銅製の取っ手とそれを留めるする有環の鋲が両端に付く。持ち手の断面形状は八角形となる。	L1 100 表土	L1-100　表土
第141図 図版106 25	取っ手	7.19	10.91	0.70	63.12	銅製の取っ手。断面形は円形で、持ち手には窪みを有し、左右対称となる。	L0 100 表土	L0-100　表土
第141図 図版106 26	取っ手	8.10	3.60	0.90	80.52	銅製の取っ手。端部には有環の鋲が付く。取っ手の両端部は鋲と接続させるため、やや細くなり蕨手状に湾曲する。全形は左右対称となる。	不明	出土地不明
第141図 図版106 27	笠と鋲	4.60	4.60	－	10.42	笠と鋲。鋲は有環で先端は二又に分かれ、折り返す。笠は大振りで、板状。輪郭は輪花状となる。裏面には端部に外側へ放射状に沈線が見られる。	不明	出土地不明
第141図 図版106 28	鎹	10.15	0.50	0.25	13.30	断面形が長方形状となる、やや小型の鎹。両端部は尖る。	表土 L4 100	L4-100　表土
第141図 図版106 29	飾り金具	2.05	7.05	0.09	7.78	孔径は0.2cm～0.25cm。端部が如意頭形となる無文の飾り金具。鋲留め用の小孔が端部に3カ所、中央に2カ所に見られる。	K5 97 撹乱層	K5-97　撹乱層
第141図 図版106 30	飾り金具	4.65	3.70	0.15	14.79	孔径は0.2cm。櫃などの調度品の飾り金具。端部は幅広の如意頭形となり、3か所の円孔が見られる。もう一方の端部は直線状となり、直角に折れることから、角に付く金具と思われる。また、差込口と思われる楕円形の孔が見られる。	K5 97 表土層	K5-97　表土
第141図 図版106 31	飾り金具	2.40	9.10	0.15	24.01	孔径は0.2cm。櫃の隅小縁に付く飾り金具。端部は三つ雲状に縁どられ、もう一方の端部は直線状となる。隅部に取りつけるために断面形状がL字状となる。両端部に小孔が2か所ずつ見られる。表面に毛彫りによる蓮華唐草文が見られ、空閑部に魚々子を充填する。魚々子はあまり密ではなく、隙間も見られる。また魚々子同士が切り合い見られる。魚々子が唐草文に切られていることから、彫金は魚々子打ちが先行していることが分かる。	K3 97 第2層 0～20	K3-97　Ⅱ層
第141図 図版106 32	飾り金具	6.35	6.60	－	36.07	孔径は0.2cm～0.25cm。釘は、縦5.2cm、横0.75cmで、頭幅は1.8cm、厚さは0.95。釘孔は縦1.2cm、横1.15cm。櫃もしくは建物の飾り金具か。平面形が三角形状であることから隅部に取りつく金具と思われる。蕨手状の透かしが2カ所、小孔が7カ所見られる。大型の環状留め具が附属しており、先端部は二又に分かれ、折り返す。	K6 96 撹乱 中央爆弾跡	爆弾跡②
第141図 図版106 33	飾り金具	5.20	4.60	0.40	33.48	孔径は0.15cm。櫃の鍵金具。端部は幅広の如意頭形となり、3か所の円孔が見られる。中央には鍵穴と思われる、円と長方形を組み合せた孔が見られる。表面には撮みが側面には長方形状の孔とその内部に板状の部品が差し込まれている。裏面には鍵の内部機構と思われる、円柱の突起が付く板状の部品が附属している。	K5 97 表土層	K5-97　表土
第141図 図版106 34	不明	2.60	20.70	0.55	334.23	孔径（真ん中）は0.5cm。ベルト状の板状製品で端部周辺には孔が4カ所見られ、各々に丸釘が附属する。もとはL字状の製品であったと思われる。	2層 70～80 K5 98	K5-98　Ⅱ層

注「－」：計測不可

第48表　金属製品観察一覧③

単位：cm、g

挿図番号 図版番号	種類	縦	横	厚さ	重量	観察事項	旧出土地	新出土地
第142図 図版107 35	飾り金具	8.25	24.71	0.10	154.02	二又に分かれた飾り金具で、中央部が折れることから角部に取り付く勾欄等に付く金具か。縁に沿って等間隔に円孔が見られる。端部は魚尾状となり、猪目透かしが見られる。表面には蹴り彫りの蓮華唐草文が見られ、空閑部に魚々子を充填する。また深く刻まれていない魚々子も見られ「C」字状になるものも見られる。魚々子はあまり密ではなく、隙間も見られる。また魚々子同士の切り合いが見られる。魚々子が線彫りにより切られていないため、唐草文を彫金した後に魚々子を充填させたと思われる。	K4 97 Ⅱ層	K4-97　Ⅱ層
第142図 図版107 36	飾り金具	11.20	10.00	0.90	243.56	孔径は0.35cm。ハート孔は、縦1.15cm、横1.15cm。調度品の脚部に付く飾り金具。4面見られ、各面に9カ所の円孔が見られる。また、猪目透かしが見られる面が1面のみ見られる。下部は魚尾状になり、上部は直線状となる。また一部に別の銅製品が溶着している。この製品は2次的にかなり火を受けているため、火脹れが著しく、ほとんど原形を留めていない。	K10 L1 99 第Ⅱ層 0-20	Ⅱ層
第142図 図版107 37	飾り金具	20.50	13.80	0.1/0.15	106.65	孔径は0.15cm～0.3cm。ハート孔は、縦0.75cm、横1cm。扉または櫃の角部に付く飾り金具。側面には5カ所、正面には6ヶ所の円孔が見られる。。L字状で中央に蓮華文、中央から端部にかけて唐草文が毛彫りされる。外側の角は丸く収め、内側は雲文状に縁取られる。2カ所の端正な猪目透かしが見られる。魚々子は規則的に打たれておらず、密に見られるが、隙間を有する。また深く刻まれていない魚々子も見られ。「C」字状になるものも多く見られる。2か所に笠鋲が取りつく。	L1 98 第Ⅰ層	L1-98　Ⅰ層
第142図 図版107 38	鏡	2.60	45.45	1.80	1921.65	正殿前の大龍柱を上下に繋いでいた青銅製の鏡。1890年代に大龍柱が切断されて以降に設置された鏡。表面には滑り止め用の横溝が縦に並ぶ。先端部は平坦に仕上げている。	正面	出土地不明
第143図 図版108 39	兜	12.60	25.75	高さ 12.60	1816.07	兜の鉢と鎖帷子。鉢は末広がりの矧ぎ板を重ね合わせて構成される。裾には鎖帷子が附属する。鎖帷子は南蛮鎖。錆化が進み、変形が著しい。	Ⅰ期基壇 中央階段跡	Ⅱ期基壇
第143図 図版108 40	兜	8.70	10.30	0.60	84.30	兜の鉢の一部。末広がりの矧ぎ板を重ね合わせて構成される。	不明	出土地不明
第143図 図版108 41	八双金物、小札	2.05	5.90	0.15	17.15	孔径は0.2cm～0.45cm。八双金物と小札が2次的に火を受けたため溶着する。小札の札尻は平坦で、2列に縦に孔が並ぶ。孔径は区々である。八双金物は被熱により大きく変形しており、端部が魚尾状で猪目透かしが見られ、花形の座金具が附属する以外に詳細は分からない。	不明	出土地不明
第143図 図版108 42	鎧（小札）	1.85	5.45	0.10	7.69	孔径は0.45cm～0.6cm。ハート孔は、縦0.7cm、横0.25cm。無文の八双金物。表面は鍍金され、円孔が2カ所並び、端部近くに猪目透かしが見られる。端部は魚尾状となり、もう一方は直角に折れることから、隅部に取り付く八双金物。横断面は弧状となる。	C壁観察トレ	中央観察トレンチ3 礫層
第143図 図版108 43	笄金物か	2.00	8.70	0.10	13.83	孔径は0.1cm～0.8cm。表面が鍍金された笄金物か。菊唐草の透かし彫りで、端部は折り曲げる。横断面は弧状となる。	L2 96 表土	L2-96　表土
第143図 図版108 44	鎧（小札）	1.50	5.70	0.10	5.40	釘の頭幅は0.8cm、厚さ0.05cm、縦0.8cm、横0.25cm。孔径は0.4cm、ハート孔は縦0.5cm、横0.4cm。表面は鍍金され、円孔が2カ所並び、端部近くにやや歪な猪目透かしが見られる。片端のみ魚尾状となる。丸笠の鋲が附属し笠部は鍍金され、先端部は二又に分かれる。表面には毛彫りの蓮華文が見られ、魚々子は横位に縦列打ちされ、隙間は見られない。	右掖門接続 石垣D壁沿	出土地不明
第143図 図版108 45	飾り金具	1.50	11.35	0.10	10.96	釘の頭幅は0.3cm、厚さ0.05cm、縦0.55cm、横0.15cm。孔径は0.15cm。調度品等の板状飾り金具。表面には毛彫りの唐草文が見られる。魚々子は規則的に打たれておらず、密に見られるが、隙間を有する。唐草文が魚々子を切っていることから、彫金は魚々子打ちが先行していることが分かる。円孔が4カ所見られ、うち1カ所に笠鋲が附属する。	K3 97 表土	K3-97　表土
第143図 図版108 46	八幡座	6.40	5.50	0.55	30.28	兜鉢の天辺の穴に付く八幡座と矧ぎ板の一部。菊座と円孔の留め具。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第143図 図版108 47	取っ手	1.80	2.50	－	4.28	花の部分は、縦1.6cm、横1.7cm。把手（輪か部）の幅は、縦2.1cm、横1.7cm、厚さ0.25cm。環と環座。環の断面形は円形で、環座は菊花を象る。留め具の頭部は扁平な球状で先端は二又に分かれる。	K5 97 第Ⅱ層	K5-97　表土
第143図 図版108 48	障子板	9.82	5.80	0.25	61.90	孔径は0.45cm。障子板で後方部分が欠損する。肩上との接続部に鋲留めの円孔が見られる。2次的に火を受けており、表面に銅塊が溶着する。	Ⅱ期基壇	Ⅱ期基壇
第144図 図版109 49	胸板	9.60	22.65	0.30	265.45	孔径は縦0.1cm～0.6cm、横0.15cm～0.55cm。胸板に八双金物が錆化により接着している。肩上の紐を通す孔が左右に2か所、見ることができる。また上面両端部が上方に突出する。左右と上部の縁に沿って覆輪が取りつく。八双金物の草花文が見られるが不明瞭。鋲の頭部は千鳥様の形状となる。	不明	出土地不明
第144図 図版109 50	冠板	11.65	10.40	0.45	122.52	孔径は0.25cm～0.55cm。冠板。縁に沿って覆輪が取りつく。端部が上方へ突出する。肩上の紐を通す孔が2か所、見られる。横断面は弧状に湾曲する。	不明	出土地不明
第144図 図版109 51	不明	6.70	8.65	0.10	48.64	板状の製品で、上下に4本の浅い筋が入る。断面形状は弧状に湾曲し、凹部に鋲の二又に分かれた先端が取りつく。	不明	出土地不明
第144図 図版109 52	矧ぎ板か	4.55	4.20	0.35	18.90	兜の鉢を構成する矧ぎ板の一部か。端部を重ねあわせており、小孔が1カ所見られる。	右掖門接続 石垣D壁沿	出土地不明
第144図 図版109 53	鐙	9.45	5.60	0.20	38.98	孔径は0.2cm～0.45cm。孔は、縦0.5cm、横0.45cm。板状の製品。断面形状は弧状に湾曲する。凸部は2次的に火を受けており、火脹れが著しい。また、孔も見られるが、錆化による破損の可能性もある。	不明	出土地不明
第144図 図版109 54	不明	3.70	4.00	0.30	6.67	三枚の板状製品が接着する。	不明	出土地不明
第144図 図版109 55	矧ぎ板か	10.25	14.15	0.55	130.02	孔径は0.15cm～0.45cm。板状製品で5カ所の円孔が見られる。兜の鉢を構成する矧ぎ板の一部か。	不明	出土地不明
第144図 図版109 56	矧ぎ板か	6.40	8.45	0.30	42.20	孔径は0.1cm～0.2cm。板状製品で2カ所の円孔が見られる。断面形状は弧状に湾曲する。兜の鉢を構成する矧ぎ板の一部か。	不明	出土地不明

注「－」：計測不可

第48表　金属製品観察一覧④

単位:cm、g

挿図番号 図版番号	種類	縦	横	厚さ	重量	観察事項	旧出土地	新出土地
第144図 図版109 57	壺板か	3.35	3.55	0.10/0.35	6.02	縁取りが見られる板状製品。端部に孔が見られ、鉄鎖が附属する。壺板の一部か。	不明	出土地不明
第144図 図版109 58	不明	13.60	11.25	0.70	179.74	孔径は0.3cm。板状製品で円孔が列状に並んで見られる。端部が一部、L字状に折れる。	不明	出土地不明
第145図 図版110 59	鎖帷子	2.80	3.40	0.15/0.40	7.15	鎖帷子。2次的に火を受けており、一部がかなり変形、変色している。南蛮鎖。	不明	出土地不明
第145図 図版110 60	鎖帷子	3.90	5.95	0.2/0.75	18.82	鎖帷子。2次的に火を受けており、一部が変形、変色している。南蛮鎖。	不明	出土地不明
第145図 図版110 61	鎖帷子	3.35	2.65	0.80	12.99	鎖帷子。2次的に火を受けており、一部が変形、変色している。南蛮鎖。	不明	出土地不明
第145図 図版110 62	鎖帷子	3.25	4.30	0.25/0.85	9.28	鎖帷子。2次的に火を受けており、全体的にかなり変形、変色している。南蛮鎖。	不明	出土地不明
第145図 図版110 63	小札	7.75	6.70	1.05	66.84	札頭が斜めになる伊予札で7枚が錆化により溶着している。14カ所の円孔が見られ、2列に並ぶ。札は相互の孔が重なるように溶着している。	不明	出土地不明
第145図 図版110 64	小札	8.70	8.35	0.15/1.10	78.89	孔径は0.15cm～0.3cm。札頭が斜めになり、端部が肥厚する碁石頭の伊予札で11枚が錆化により溶着している。札は相互の孔が重なるように溶着している。	不明	出土地不明
第145図 図版110 65	小札	3.65	2.65	0.20	5.48	孔径は0.15cm～0.4cm。札幅がやや広い小札。円孔が7カ所見られる。	右掖門接続 石垣D壁沿	出土地不明
第145図 図版110 66	小札	5.50	2.65	0.30	12.33	孔径は0.05cm～0.15cm。札尻は平行する。円孔は10カ所見られる。やや厚みを有する。	右掖門接続 石垣D壁沿	出土地不明
第145図 図版110 67	小札	4.05	2.70	0.15	6.04	孔径は0.15cm～0.25cm。札尻は平行する。円孔は6カ所見られる。	右掖門接続 石垣D壁沿	出土地不明
第145図 図版110 68	小札	4.10	2.65	0.20	7.94	孔径は0.05cm～0.2cm。札尻は平行する。円孔は3カ所見られる。	右掖門接続 石垣D壁沿	出土地不明
第145図 図版110 69	小札	6.70	1.85	0.25	10.20	孔径は0.1cm～0.35cm。札頭が斜めになる小札。円孔は12カ所見られる。	不明	出土地不明
第145図 図版110 70	小札	6.15	1.95	0.40	8.89	孔径は0.05cm～0.3cm。札尻は平行し、札頭が斜めになる碁石頭の小札。円孔は13カ所見られる。札頭側の5孔のみ孔径が大きい。	不明	出土地不明
第145図 図版110 71	小札	6.50	2.25	0.30	14.37	孔径は0.1cm～0.25cm。札尻は平行し、札頭は円弧状の膨らみが2つ連続する矢筈頭の小札。確認できる円孔は8カ所。	右掖門接続 石垣D壁沿	出土地不明
第145図 図版110 72	小札	6.85	2.15	0.50	15.70	孔径は0.15cm～0.25cm。。札尻は平行し、札頭が斜めになる碁石頭の小札。	右掖門接続 石垣D壁沿	出土地不明
第145図 図版110 73	小札	6.30	1.90	0.40	9.98	孔径は0.05cm～0.35cm。札尻は平行し、札頭が斜めになる小札。円孔は11カ所確認でき、札頭側の孔径が大きい。	不明	出土地不明
第145図 図版110 74	小札	5.85	1.90	0.45	10.18	孔径は0.05cm～0.25cm。札尻は平行し、札頭が斜めになる小札。円孔は13カ所確認できる。表面に塗布された漆の一部が残る。	不明	出土地不明
第145図 図版110 75	小札	6.35	2.05	0.30	12.11	孔径は0.15cm～0.2cm。札頭が斜めになる小札。円孔は2カ所確認できる。	右掖門接続 石垣D壁沿	出土地不明
第145図 図版110 76	小札	5.15	1.85	0.45	9.91	孔径は0.15cm～0.5cm。札頭が斜めになる小札。円孔は7カ所確認できる。	不明	出土地不明
第145図 図版110 77	小札	4.35	1.90	0.30	5.21	孔径は0.15cm～0.35cm。札頭が斜めになる小札。円孔は7カ所確認できる。	不明	出土地不明
第145図 図版110 78	小札	2.40	1.80	0.20	2.00	孔径は0.35cm～0.4cm。札頭が斜めになる薄手の小札。円孔は5カ所確認できる。	不明	出土地不明
第145図 図版110 79	小札	2.80	1.95	0.20	3.64	孔径は0.15cm。札頭が斜めになる薄手の小札。円孔は4カ所確認できる。	右掖門接続 石垣D壁沿	出土地不明
第145図 図版110 80	小札	3.00	2.00	0.30	4.12	孔径は0.1cm～0.2cm。円孔は5カ所確認できる。	不明	出土地不明
第145図 図版110 81	小札	3.75	1.75	0.25	3.81	孔径は0.15cm～0.25cm。札尻は平行し、円孔は10カ所確認できる。	不明	出土地不明
第145図 図版110 82	小札	3.35	2.05	0.25	4.99	孔径は0.05cm～0.25cm。円孔は4カ所確認できる。	不明	出土地不明
第145図 図版110 83	小札	2.50	1.70	0.15	1.97	孔径は0.2cm～0.3cm。札尻は平行する薄手の小札。円孔は6カ所確認できる。	不明	出土地不明

注「－」:計測不可

第48表　金属製品観察一覧⑤

単位：cm、g

挿図番号 図版番号	種類	縦	横	厚さ	重量	観察事項	旧出土地	新出土地
第146図 図版111 84	切羽	3.95	2.15	0.35	11.28	茎孔は縦2.4cm、横0.65cm。外形は楕円形状で中央に台形状の孔が見られる。外側に向けて厚みが増す。	L2 102 表土	L2-102　表土
第146図 図版111 85	不明	3.80	4.05	0.30	18.47	茎孔は縦2.05cm、横0.45cm。外形は木瓜状で中央に扁平な楕円形状の孔が見られる	L0 98 撹乱層	L0-98　撹乱層
第146図 図版111 86	切羽	5.50	2.90	0.35	13.07	板状製品で方形の孔が1カ所見られる。	L0 100 表土	L0-100　表土
第146図 図版111 87	切羽	3.20	1.85	0.30	6.63	木瓜形の切羽の一部。	表土 K1 K2 94	K1･2-94　表土
第146図 図版111 88	刀の鍔	7.10	4.25	0.30	52.95	外形が木瓜形の鍔。縁は肥厚し、中央に長方形状の孔が見られる。猪目透かしが2カ所あり、その間に花形の透かしが見られる。猪目の形はやや歪になる。	K3 94 断割トレンチ 第Ⅰ・Ⅱ層	K3-94 断割トレンチ 第Ⅰ・Ⅱ層？
第146図 図版111 89	鍔	6.55	7.15	0.55	40.16	外形が木瓜形の鍔。縁は肥厚する。猪目透かしが2カ所見られる。	不明	出土地不明
第146図 図版111 90	刀	30.70	3.30	0.80	320.74	薙刀などの長柄武器の刀身。鎬が入り切っ先は反りが見られる。柄の近くは大きく屈曲しており、茎は欠損している。	不明	出土地不明
第146図 図版111 91	銅鏡	7.35	11.65	0.20/0.90	155.65	鋳造和鏡。台形縁で背面には圏線と内区と外区は共に陽刻の菊花文が密に、かつ不規則に見られる。全体的に欠損や歪みが著しい。	K1 96 表土	K1-96　表土
第146図 図版111 92	壺の頸部	4.80	－	0.20	117.17	中国産の青銅製品。筒状で上下端は肥厚し、立ち上がりは直である。外面は4段の雷文帯で全て埋められる。損傷による歪みが見られる。銅製瓶や香炉の一部か。	K4-97　Ⅱ層	K4-97　Ⅱ層
第146図 図版111 93	銅器	3.75	3.15	0.10/0.40	16.41	中国産で大型銅製品の一部か。饕餮文の一部と思われる渦文とその近くに雷文帯が見られる。	L1 98 撹乱	L1-98　撹乱層
第146図 図版111 94	銅製印	1.90	1.10	1.05	5.88	小型の銅製印。印面は印相体で銘が彫り込まれる。鈕は方柱状で指で摘まめるように反りがあり、上部に横方向の孔が見られる。	K6 98　Ⅰ層	K6-98　Ⅰ層
第146図 図版111 95	銅器	－	－	－	41.73	銅鏡の縁辺部。かなり大振りな台形縁。側面に銅塊が溶着する。	K5-97 Ⅱ層	K5-97　Ⅱ層
第146図 図版111 96	鏃	9.55	1.10	0.85	36.99	鉄鏃。断面形は方形で鎬が明瞭に見られる。先端は平入り状となる。茎の大半は欠損している。	不明	出土地不明
第146図 図版111 97	鏃か	4.30	0.40	0.40	2.11	棒状の鉄製品。断面形は円形となる。鏃の茎か。	不明	出土地不明
第146図 図版111 98	鏃か	3.05	0.55	0.55	1.32	棒状の鉄製品。断面形は円形となる。鏃の茎か。	不明	出土地不明
第146図 図版111 99	不明	5.50	0.20	0.20	1.36	頭部は幅0.6cm、孔は縦0.5cm、横0.3cm。頭部が環状となる棒状の銅製品。断面形は円形となる。	第1号　SW3 石組遺構内	K2-96　SW3
第146図 図版111 100	不明	6.45	0.20/0.40	0.15	0.81	孔は縦0.3cm、横0.25cm。頭部に円孔があり、端部は小匙状となる銅製品。断面形は円形となる。	Ⅱ期基壇 化粧石前	Ⅲ期基壇
第146図 図版111 101	留め具か	2.20	0.25	0.25	1.95	頭部は縦0.65cm、横1.1cm、厚さ0.35cm。銅製の留め具か。胴部の断面形は円形で、頭部は分銅状となる。	表土 L4 100	L4-100　表土

注「－」：計測不可

第48表　金属製品観察一覧⑥(鉄釘)

単位:cm、g

挿図番号 図版番号	種類	分類	頭部幅 頭部厚	縦 横 厚さ	重量	旧出土地	新出土地
第147図 図版112 102	角釘 Ⅰ類	A	1.15 1.70	20.70 1.00 1.00	106.17	L1 98 表土	L1-98 表土
第147図 図版112 103	角釘 Ⅰ類	A	1.20 1.70	20.20 0.90 0.90	108.45	表土 K8-103	K8-103 表土
第147図 図版112 104	角釘 Ⅰ類	B	1.20 1.70	17.50 0.80 0.90	84.58	L1-100 撹乱層	L1-100 撹乱層
第147図 図版112 105	角釘 Ⅰ類	B	1.20 1.65	17.20 0.85 0.85	85.50	撹乱層 L1 102	L1-102 撹乱層
第147図 図版112 106	角釘 Ⅰ類	C	1.10 1.65	15.20 1.00 0.90	76.64	L1 100 撹乱層	L1-100 撹乱層
第147図 図版112 107	角釘 Ⅰ類	C	1.15 1.65	14.75 0.90 0.85	69.62	表土 L1 100	L1-100 表土
第147図 図版112 108	角釘 Ⅰ類	D	1.10 1.45	12.80 1.10 0.75	54.69	第2層 K6 98	K6-98 Ⅱ層
第147図 図版112 109	角釘 Ⅰ類	D	0.90 1.30	12.10 0.90 0.70	41.11	K10-101 表土	K10-101 表土
第147図 図版112 110	角釘 Ⅰ類	E	1.00 1.25	10.95 0.90 0.70	40.79	表土 L0 101	L0-101 表土
第147図 図版112 111	角釘 Ⅰ類	E	1.10 1.35	9.40 0.85 0.80	42.68	表土層 K6 98	K6-98 表土
第147図 図版112 112	角釘 Ⅰ類	F	1.45 1.10	6.65 0.60 0.65	9.64	表土 K3-103	K3-103 表土
第147図 図版112 113	角釘 Ⅰ類	F	1.00 0.60	7.15 0.50 0.45	5.72	L5 98 カワヤの覆土	L5-98 かわや跡 覆土
第147図 図版112 114	角釘 Ⅰ類	G	1.20 1.15	4.85 0.50 0.50	6.02	表土層	表土
第147図 図版112 115	角釘 Ⅰ類	G	0.85 0.90	4.90 0.60 0.55	3.28	表土層	表土
第147図 図版112 116	角釘 Ⅱ類	カットB	1.45 1.65	18.40 1.20 1.30	136.83	表土 K4 104	K4-104 表土
第147図 図版112 117	角釘 Ⅱ類	カットB	―	19.1 0.95 0.90	81.52	表土 K6 98	K6-98 表土
第147図 図版112 118	角釘 Ⅱ類	カットC	―	15.50 0.90 0.90	82.05	表土 L1 100	L1-100 表土
第147図 図版112 119	角釘 Ⅱ類	カットC	―	15.10 1.00 1.00	87.69	表土 K0 100	K0-100 表土
第147図 図版112 120	角釘 Ⅱ類	カットC	1.45 0.95	14.70 0.70 0.55	30.80	L4 100 表土	L4-100 表土
第148図 図版113 121	角釘 Ⅱ類	カットD	1.50 1.40	12.85 1.20 1.05	86.81	K5 97 表土	K5-97 表土
第148図 図版113 122	角釘 Ⅱ類	カットD	―	11.70 1.05 0.80	31.30	K9-104 表土	K9-104 表土
第148図 図版113 123	角釘 Ⅱ類	カットD	1.20 0.60	11.50 0.75 0.50	25.18	表土 L0 102	L0-102 表土
第148図 図版113 124	角釘 Ⅱ類	カットE	―	9.95 0.70 0.40	13.42	表土 L1 102	L1-102 表土

注 「―」:計測不可

第48表　金属製品観察一覧⑦(鉄釘)

単位:cm、g

挿図番号 図版番号	種類	分類	頭部幅 頭部厚	縦 横 厚さ	重量	旧出土地	新出土地
第148図 図版113 125	角釘 Ⅱ類	カットE	1.35 0.85	9.30 0.90 0.80	31.83	表土 L4 100	L4-100 表土
第148図 図版113 126	角釘 Ⅱ類	カットF	―	7.10 0.65 0.55	11.88	撹乱	撹乱層
第148図 図版113 127	角釘 Ⅱ類	カットF	―	8.30 0.55 0.45	9.54	表土 K4-98	K4-98 表土
第148図 図版113 128	角釘 Ⅱ類	カットG	―	5.50 0.45 0.35	4.32	L2-97 表土層	L2-97 表土
第148図 図版113 129	角釘 Ⅱ類	カットG	1.00 0.60	6.00 0.50 0.45	6.07	表土 3	表土
第148図 図版113 130	角釘 Ⅱ類	カットF	1.35 1.10	7.60 0.60 0.65	13.19	L2-100 表土	L2-100 表土
第148図 図版113 131	角釘 Ⅱ類	カットF	0.95 0.50	6.95 0.55 0.40	6.64	表土 L2 101	L2-101 表土
第148図 図版113 132	角釘 Ⅱ類	カットG'	0.65 0.35	4.35 0.45 0.45	3.05	石灰岩礫層 №66	出土地不明
第148図 図版113 133	角釘 Ⅱ類	カットG'	0.75 0.65	4.05 0.65 0.60	3.85	石灰岩礫層 №67	出土地不明
第148図 図版113 134	角釘 Ⅱ類	カットG'	0.40 0.30	3.80 0.45 0.30	1.54	石灰岩礫層 №64	出土地不明
第148図 図版113 135	角釘 Ⅱ類	カットG'	0.95 0.55	4.10 0.85 0.65	2.62	石灰岩礫層 №65	出土地不明
第148図 図版113 136	角釘 Ⅲ類	極太D	1.75 1.85	13.90 1.45 1.15	102.33	表土 L1 102	L1-102 表土
第148図 図版113 137	角釘 Ⅲ類	極太D	1.85 1.55	13.95 1.40 1.20	133.21	表土 K10-103	K10-103 表土
第148図 図版113 138	角釘 Ⅲ類	極太D	2.30 2.30	12.80 1.40 1.20	128.37	表土 L1 102	L1-102 表土
第148図 図版113 139	角釘 Ⅲ類	極太C	2.15 1.90	14.40 1.10 1.00	142.79	表土 L3 101	L3-101 表土
第148図 図版113 140	角釘 Ⅲ類	極太G	2.90 2.05	6.45 1.50 1.10	42.74	第2層 60～70 K5 98	K5-98 Ⅱ層
第148図 図版113 141	角釘	その他	―	11.10 1.45 0.95	76.30	L4-93 表土	L4-93 表土
第148図 図版113 142	角釘	その他	1.40 0.55	7.25 1.15 0.55	24.14	表土 L0 102	L0-102 表土
第148図 図版113 143	角釘	その他	1.25 0.55	7.00 1.15 0.55	21.50	第2層 K5-99 0/20	K5-99 Ⅱ層
第148図 図版113 144	角釘	その他	1.25 0.40	7.25 0.95 0.40	15.97	表土 K6 96	K6-96 表土
第148図 図版113 145	角釘	その他	1.35 0.60	6.80 1.15 0.55	20.04	表土 L0 100	L0-100 表土
第149図 図版114 146	角釘	不明	―	8.90 0.70 0.79	23.27	表土 L4 102	L4-102 表土
第149図 図版114 147	角釘	不明	1.30 1.80	6.10 1.15 0.95	24.92	表土 K10 101	K10-101 表土

注 「―」:計測不可

第48表　金属製品観察一覧⑧(鉄釘)

単位:cm、g

挿図番号 図版番号	種類	分類	頭部幅 頭部厚	縦 横 厚さ	重量	旧出土地	新出土地
第149図 図版114 148	角釘	不明	―	13.20 1.00 1.00	55.20	石敷 K0 96	K0-96　Ⅰ層
第149図 図版114 149	角釘	不明	―	12.25 0.95 1.05	49.66	表土 K10 101	K10-101　表土
第149図 図版114 150	角釘	不明	―	5.75 0.60 0.70	8.25	表土 K0 103	K0-103　表土
第149図 図版114 151	洋釘	―	0.90 0.15	10.20 0.45 0.45	11.95	K6-98 第2層 80/90	K6-98　Ⅱ層
第149図 図版114 152	洋釘	―	0.85 0.45	7.80 0.45 0.45	5.44	K6-98 第2層 80/90	K6-98　Ⅱ層
第149図 図版114 153	洋釘	―	1.10 0.25	9.60 0.50 0.50	11.51	K6-98 第2層 80/90	K6-98　Ⅱ層
第149図 図版114 154	洋釘	―	0.95 0.30	10.40 0.45 0.45	11.47	K6-98 第2層 80/90	K6-98　Ⅱ層
第149図 図版114 155	洋釘	―	0.85 0.35	7.95 0.40 0.40	5.57	K6-98 第2層 80/90	K6-98　Ⅱ層
第149図 図版114 156	洋釘	―	1.80 0.55	7.15 1.05 1.05	35.20	表土 K5 103	K5-103　表土
第149図 図版114 157	角釘 Ⅳ類	―	―	18.60 1.05 0.80	82.15	L2 102 表土層	L2-102　表土
第149図 図版114 158	角釘 Ⅳ類	―	―	13.85 0.95 0.80	124.29	L1-98 拡乱	L1-98　撹乱層
第149図 図版114 159	鎹	A(角)	―	10.20 0.80 0.90	36.54	第2層 0/20	Ⅱ層
第149図 図版114 160	鎹	A(角)	―	10.10 0.60 0.75	22.82	第2層 0/20 K4-98	K4-98　Ⅱ層
第149図 図版114 161	鎹	B(角)	―	13.05 1.05 1.05	86.59	第2層 K5-98 0-20	K5-98　Ⅱ層
第149図 図版114 162	鎹	B(角)	―	12.65 0.15/1.00 1.05	91.12	第2層	Ⅱ層
第149図 図版114 163	鎹	C(角)	―	15.05 0.25/1.00 1.05	114.00	第2層 10～60 K8 96	K8-96　Ⅱ層
第149図 図版114 164	鎹	C(角)	―	15.65 0.05/0.95 0.90	101.08	第2層 40/50 K4 97	K4-97　Ⅱ層
第150図 図版115 165	鎹	C(角)	―	16.00 0.05/0.85 0.90	114.48	K3-97 第2層	K3-97　Ⅱ層
第150図 図版115 166	鎹	C(角)	―	15.65 0.15/0.85 0.85	70.08	K3-95 第2層	K3-95　Ⅱ層
第150図 図版115 167	鎹	不明	―	15.8 0.20/1.00 1.00	90.90	K7-92 第2層	K7-92　Ⅱ層
第150図 図版115 168	鎹	B(角)	―	15.30 0.10/0.90 0.90	114.43	L2-99 第2層	L2-99　Ⅱ層
第150図 図版115 169	鎹	A(角)	―	10.40 0.05/0.85 0.85	49.95	第2層 K4-97	K4-97　Ⅱ層
第150図 図版115 170	鎹	A(角)	―	10.45 0.05/1.00 0.95	54.41	K5-97 第2層	K5-97　Ⅱ層

注 「―」:計測不可

第48表　金属製品観察一覧⑨(鉄釘)

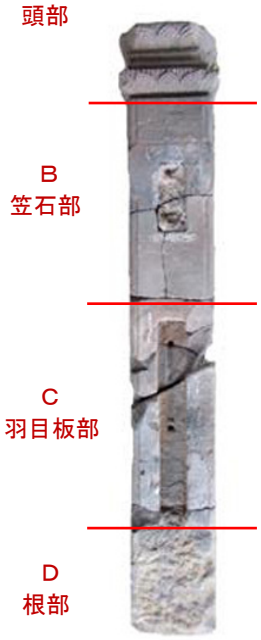
単位:cm、g

挿図番号 図版番号	種類	分類	頭部幅 頭部厚	縦 横 厚さ	重量	旧出土地	新出土地
第150図 図版115 171	有孔釘	A	1.40 0.45	7.90 1.00 0.70	16.43	L0-102 表土	L0-102 表土
第150図 図版115 172	有孔釘	A	1.45 0.65	7.80 1.05 0.65	23.66	L1-101 表土	L1-101 表土
第150図 図版115 173	有孔釘	A	1.45 0.50	7.70 1.05 0.50	20.47	L2-100 表土	L2-100 表土
第150図 図版115 174	有孔釘	B	3.05 0.90	10.40 0.95 0.85	64.13	L4-100 表土	L4-100 表土
第150図 図版115 175	有孔釘	A	1.75 0.35	5.90 0.55 0.30	4.42	K4-97 第2層	K4-97 Ⅱ層
第150図 図版115 176	有孔釘	B	3.50 1.20	12.80 1.15 1.20	110.17	K4-100 表土	K4-100 表土
第150図 図版115 177	有孔釘	B	3.20 0.90	12.35 0.95 0.85	59.40	K4-100 表土	K4-100 表土
第151図 図版116 178	現代金具	-	—	10.75 1.50 0.40	16.31	K4-97 第2層	K4-97 Ⅱ層
第151図 図版116 179	現代金具 + 有孔釘	B	有孔釘: 1.65/0.60 現代金具: -	有孔釘: 4.70/1.10/0.95 現代金具: 11.05/1.45/0.60	34.38	K4～5-95 第2層 0/10	K4･5-95 Ⅱ層
第151図 図版116 180	有孔釘	B	2.50 1.70	6.10 1.00 1.65	57.69	K10-101 表土	K10-101 表土
第151図 図版116 181	有孔釘	B	2.85 0.95	9.05 1.05 0.85	64.11	L0-98 撹乱層	L0-98 撹乱層
第151図 図版116 182	有孔釘	B	3.00 1.10	9.20 0.95 1.10	66.78	L1-101 表土	L1-101 表土
第151図 図版116 183	有孔釘	B	2.65 0.80	9.65 0.40 0.75	32.39	撹乱層	撹乱層
第151図 図版116 184	有孔釘	B	3.15 1.15	10.30 1.10 1.00	64.98	L1-102 表土	L1-102 表土
第151図 図版116 185	有孔釘 + 銅線	B	—	10.80/10.60 - -	285.27	L0-99 第2層 50/60	L0-99 Ⅱ層
第151図 図版116 186	有孔釘	B	3.20 1.75	7.60 1.30 1.70	127.25	L0-102 表土	L0-102 表土

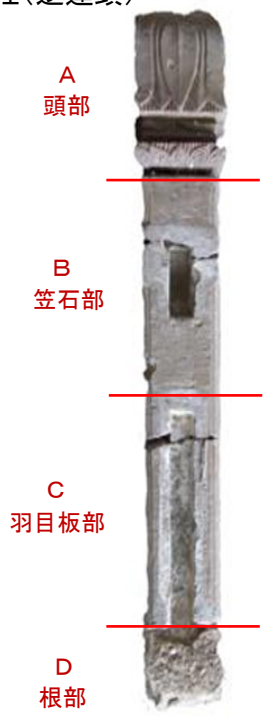
注 「－」:計測不可

凡例（第49表 石製品集計表①の高欄残存部位）

親柱（獅子頭）



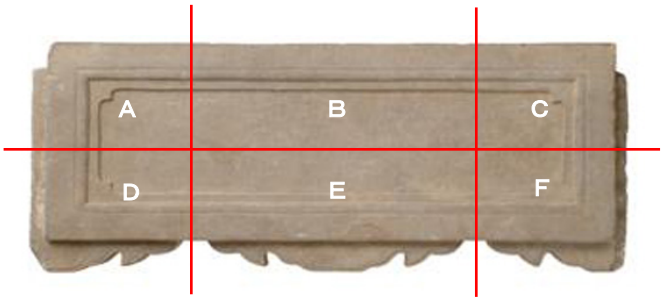
親柱（逆蓮頭）



束柱

笠石

羽目板



部分不明⇒G

地覆石

持送り石

第49表　石製品集計表①（石造物）

種類 部位 石材	高欄																															
	親柱（獅子頭）				親柱（逆蓮頭）				親柱（獅子頭もしくは逆蓮頭）	親柱									東柱						柱（種別不明）		羽目板					
	A	AB	A～C	A～D	完形	A～C	A		A	A		A？		B		BC	D	D？	完形		略完形	A	AB	B	胴部	根部	完形	略完形	A～F	ABDE	AB	B
	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	溶結凝灰岩	細粒砂岩	細粒砂岩	琉球石灰岩	琉球石灰岩	漆喰	細粒砂岩	溶結凝灰岩	細粒砂岩	琉球石灰岩	琉球石灰岩	細粒砂岩	溶結凝灰岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	溶結凝灰岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩
個数	4	2	2	1	1	1	5	1	7	13	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	2	14	3	1	64	20	4	1	4	1	2	17

種類 部位 石材	高欄																笠石								地覆石							
	羽目板																完形	略完形	A		B		A～B		完形	略完形	A		B			A～B
	BE	C	CF	D	E	EF	F	AかC		BかE	DかF		AかCか DかF	DかE かF	G																	
	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	溶結凝灰岩	細粒砂岩	細粒砂岩	溶結凝灰岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	溶結凝灰岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	溶結凝灰岩	細粒砂岩	溶結凝灰岩	細粒砂岩	溶結凝灰岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	琉球石灰岩	細粒砂岩	溶結凝灰岩	琉球石灰岩	細粒砂岩
個数	2	2	1	6	14	1	2	2	1	3	2	1	13	24	65	1	1	1	3	5	17	7	5	1	6	4	3	1	14	2	1	4

種類 部位 石材	高欄									高欄（階段）															礎石				礎石？	礎盤				礎石か礎盤
	笠石か地覆石		持送り石			器種不明		親柱（獅子頭）	束柱	羽目板									笠石		地覆石	A			B				A		C	属不明	
	A	B	完形	A	B	破片		A	AB	A	BCDF	C	CF	D	AかC	DかF	AかCか DかF	A～B	B	略完形	完形	破片		完形	破片	破片	破片	完形	破片		破片	破片	破片
	細粒砂岩	細粒砂岩	琉球石灰岩	琉球石灰岩	琉球石灰岩	細粒砂岩	溶結凝灰岩	溶結凝灰岩	溶結凝灰岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	溶結凝灰岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	琉球石灰岩	細粒砂岩	細粒砂岩	琉球石灰岩	花岡閃緑岩	細粒砂岩	細粒砂岩	輝緑岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩
個数	13	34	1	47	10	2	7	1	1	1	1	3	1	2	1	3	2	1	2	1	36	47	1	3	3	8	2	2	8	1	6	7	10

種類 部位 石材	龍柱								小龍柱	龍柱？	石柱？	柱？	石碑？	不明石造物					不明			合計
	鬣	角	爪	掌	頬髯	上部龍柱胴体部		尾	胴体部（上下不明）	胴体部	鬣	破片	破片	破片	破片（模様有り）	完形	破片	残核？	破片	破片（面有り）	破片	破片	
	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	溶結凝灰岩	細粒砂岩	溶結凝灰岩	細粒砂岩	琉球石灰岩	細粒砂岩	琉球石灰岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	細粒砂岩	琉球石灰岩	細粒砂岩	細粒砂岩	溶結凝灰岩	
個数	1	2	1	1	1	6	2	1	1	2	2	1	2	2	7	2	8	1	16	467	1544	24	2758

※礎石A：規格形　小形の四方形、四方形薄いタイプ・厚いタイプ、四方形御膳形、円形御膳形
　礎石B：自然礫形　自然の大形円礫（岩塊）
　礎盤A：ソロバン玉形　上部、下部
　礎盤B：円形・円盤形
　礎盤C：ソロバン玉形（下部）の装飾部

※第163図・図版128№61の龍の髯は第47表金属製品集計表に含まれる。

※図版129№70の龍の髯は第47表金属製品集計表に含まれる。

第49表　石製品集計表②

分　類	硯						硯？	
	赤色頁岩製	赤色頁岩製（赤間硯）	粘板岩製	凝灰岩製	頁岩製	頁岩製（高島硯？）	赤色頁岩製	粘板岩製
個　数	14	7	11	4	3	3	1	3

分　類	石臼			石臼？	文鎮	碁石			
	赤色頁岩製	凝灰岩製	輝石安山岩製	細粒砂岩製	粘板岩製	ガラス製	粘板岩製	珪質頁岩製？	貝製
個　数	2	1	1	1	1	8	2	1	1

分　類	碁石？			駒	駒？	石筆	砥石				砥石？
	メノウ製	閃緑岩製	土製	施釉陶器製	緑色岩製	蝋石製	粘板岩製	凝灰岩製	頁岩製	砂岩製	砂岩製
個　数	1	1	1	2	1	2	6	1	12	1	1

分　類	磨製石斧	敲石	凹石	石盤	石盤？	不明石器片		不明石製品		スクレイパー
	輝緑岩製	細粒砂岩製	砂岩	粘板岩製	粘板岩製	緑色岩製	輝緑岩	不明火成岩	不明	砂岩
個　数	1	1	1	8	2	1	1	1	1	1

分　類	火打石？	玉器				石球			合　計
	チャート製	結晶質石灰岩製	翡翠製	蝋石製	石材不明	細粒砂岩製	琉球石灰岩	サンゴ石	
個　数	1	1	2	1	1	12	1	3	133

※碁石と駒は石製以外の資料も含む。

※第165図№.90・図版131№.99の銅弾は第47表金属製品集計表に含まれる。

※第165図№.91・図版131№.100の土弾は第53表土製品集計表に含まれる。

第49表　石製品集計表③(石材)

分　類	石材												
	翡翠	水晶	石英	緑色 千板岩	古生代 石灰岩	結晶片岩	軟玉	砂岩	砂岩 (県外)	片岩	頁岩	緑色岩	泥岩
個　数	4	1	1	11	4	4	1	43	1	22	3	7	3

分　類	石材			玉砂利					合　計
	粘板岩	細粒砂岩 (自然面有)	不明	砂岩	粘板岩	頁岩	緑色岩	不明	
個　数	10	55	16	17	3	2	2	4	214

第50表　石製品観察一覧①

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位／分類	残存長 残存幅 厚さ	観察事項	旧出土地	新出土地
第152図 図版117 1	高欄	羽目板	32.6 71.0 7.4	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。片側側面欠損。装飾:下面雲形。側面に柱接合のための凸部有、漆喰付着。表面風化のためかやや暗褐色を呈する。	K? 103	出土地不明
第152図 図版117 2	高欄	羽目板	32.5 78.3 7.2	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。完形。装飾:下面雲形。側面に柱接合のための凸部有、漆喰付着。	不明	出土地不明
第152図 図版117 3	高欄	羽目板	32.5 73.5 7.0	石材:溶結凝灰岩か。両端欠損。装飾:下面雲形。加工時の痕跡顕著。	不明	出土地不明
第152図 図版117 4	高欄 (階段)	羽目板	34.2 51.0 7.7	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。部分的に欠損。湾曲、階段部分の部材か。下面雲形。側面に柱接合のための凸部有。	不明	出土地不明
第152図 図版117 5	高欄	羽目板	14.9 11.5 4.4	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。下端部の一部のみ。下面雲形。	不明	出土地不明
第152図 図版117 6	石碑？	—	13.1 9.9 6.6	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。下部の一部のみ。背面に敲打痕残。背面に花文、正面には文字が陰刻「…薄斂、…平象、…喜眉」	S60	出土地不明
第153図 図版118 7	高欄	親柱	96.6 14.7 12.6	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。完形。方形、頭部は逆蓮頭+蓮弁文。側面に笠石・羽目板のほぞ穴有。ほぞ穴と下端部に漆喰付着。	不明	出土地不明
第153図 図版118 8	高欄	親柱	83.3 15.0 12.3	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。下部欠損。方形、頭部は逆蓮頭+蓮弁文。側面に笠石・羽目板のほぞ穴有。ほぞ穴に漆喰付着。	不明	出土地不明
第153図 図版118 9	高欄	親柱	23.5 15.4 14.0	石材:溶結凝灰岩？。頭部のみ残。逆蓮頭。	正面部	出土地不明
第153図 図版118 10	高欄	親柱	23.6 14.4 14.8	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。頭部のみ残。蓮弁文+唐草文。片側側面のみ漆喰付着。	不明	出土地不明
第154図 図版119 11	高欄	親柱	34.2 14.8 12.4	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。下部欠損。装飾:座獅子+蓮弁文+蓮弁文。笠石のほぞ穴残。	不明	出土地不明
第154図 図版119 12	高欄	親柱	88.2 14.8 12.5	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。座獅子のみ欠損。装飾:座獅子+蓮弁文+蓮弁文。笠石・羽目板のほぞ穴残、羽目板側は2段。ほぞ穴付近に漆喰付着。	不明	出土地不明
第154図 図版119 13	高欄	束柱	66.0 26.0 19.6	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。完形。握蓮部に葉脈文。羽目板のほぞ穴残。下端部に漆喰付着。	不明	出土地不明
第155図 図版120 14	高欄	束柱	60.2 24.6 19.4	石材:溶結凝灰岩？完形。握蓮部に葉脈文。羽目板のほぞ穴残。下端部に漆喰付着。	正面部	出土地不明
第155図 図版120 15	高欄	束石握蓮	21.6 30.3 23.1	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。完形。下部は柱と結合のため凸形。	不明	出土地不明
第155図 図版120 16	高欄	束石握蓮	20.6 27.1 15.0	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。一部欠損。下部は柱と結合のため凸形。凸部は敲打痕残。	不明	出土地不明
第155図 図版120 17	高欄	束石握蓮	23.4 – 10.8	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。右半欠損。下部は柱と結合のため凸形。凸部は漆喰付着。	K1 99?	出土地不明
第155図 図版120 18	高欄	束石握蓮	23.05 11.9 11.95	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。中央部のみ残。下部は柱と結合のため凸形。凸部は漆喰付着。	K0-97 石組遺構内	K0-97 SW6

注 「－」:計測不可、( ):推定

第50表　石製品観察一覧②

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位／分類	残存長 残存幅 厚さ	観察事項	旧出土地	新出土地
第156図 図版121 19	高欄	笠石	12.4 164.3 12.6	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。完形。平面形方形、側面形T字。親柱接合部は凸形。	不明	出土地不明
第156図 図版121 20	高欄	笠石	12.5 122.2 12.8	石材:溶結凝灰岩。両端欠損。平面形方形、側面形T字。親柱接合部は凸形。	不明	出土地不明
第156図 図版121 21	高欄 (階段)	笠石	11.9 130.6 12.8	石材:溶結凝灰岩。片側端部欠損。平面形方形、側面形T字。親柱接合部は凸形。片側側縁湾曲により階段部と推定。	表土？	表土
第156図 図版121 22	高欄	地覆石	9.15 75.7 12.6	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。略完形。方形。両端部に漆喰付着。全面略研磨。	不明	出土地不明
第156図 図版121 23	高欄	地覆石	9.7 76.5 13.0	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。略完形。方形。両端部に漆喰付着。全面略研磨。	不明	出土地不明
第157図 図版122 24	高欄	持送り石	30.8 64.0 24.8	石材:琉球石灰岩。表面に石切時の痕跡残。表裏に渦巻文陰刻。繰形波形。上部に親柱の基部残。	不明	出土地不明
第157図 図版122 25	高欄	束柱	19.6 16.7 –	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。破片。表面に敲打痕。側面2箇所にほぞ穴有り。円柱部か。	K10 92 2層 褐色土層	K10-92 Ⅱ層
第157図 図版122 26	高欄？	不明	14.0 13.1 12.15	石材:細粒砂岩。接着のための漆喰付着。装飾なし。	SW1遺構内	K2-98･99 SW1
第157図 図版122 27	高欄？	不明	22.2 13.5 10.0	石材:細粒砂岩。接着のための漆喰付着、同目的で鉄芯が刺さる。装飾なし。	不明	出土地不明
第157図 図版122 28	高欄	親柱頭部？	20.5 20.0 19.45	材質:漆喰。下端欠損。隅丸の円筒形。部位不明だが形状からは親柱頭部に似る。	正面部？	出土地不明
第158図 図版123 29	礎石	—	37.0 36.5 15.0	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。平面形方形に加工、表面磨面だが加工痕残。上面中央に方形の柱痕跡あり。	不明	出土地不明
第158図 図版123 30	礎石	—	27.0 27.5 18.2	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。平面形方形に加工、表面磨面。上面中央に方形の柱痕跡あり。	不明	出土地不明
第158図 図版123 31	礎石	—	38.0 38.0 10.6	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。平面形方形に加工、表面磨面。上面中央に円形の凹みあり。上面中央に八角形の柱痕跡あり。	正面部	出土地不明
第158図 図版123 32	礎石	—	45.4 44.3 24.0	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。平面形方形に加工、表面磨面。上面中央に方形の凹みあり。上面中央に方形の痕跡あり。	不明	出土地不明
第158図 図版123 33	礎石	—	30.0 42.2 22.7	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。平面形方形に加工、表面磨面。上面中央に方形の凹み僅かにあり。上面に円形の柱痕跡あり。	不明	出土地不明
第159図 図版124 34	礎石	—	39.3 39.3 17.0	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。平面形方形に加工、側面磨面。上面中央のみ加工痕残。上面中央に方形の柱痕跡あり。下面四隅に方形の脚あり。	不明	出土地不明
第159図 図版124 35	礎石	—	52.0 51.0 15.5	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。平面形方形に加工、表面磨面。上面中央に円形の凹みあり、漆喰が埋まる。上面に円形の柱痕跡あり、部分的に漆喰が付着。	不明	出土地不明
第159図 図版124 36	礎石	—	52.0 51.0 16.0	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。平面形方形に加工、表面磨面。上面中央に円形の凹みあり、漆喰が埋まる。上面に円形の柱痕跡あり、部分的に漆喰が付着。	不明	出土地不明

注 「－」:計測不可、( ):推定

第50表　石製品観察一覧③

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位／分類	残存長 残存幅 厚さ	観察事項	旧出土地	新出土地
第159図 図版124 37	礎石	—	51.0 51.5 21.5	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。平面形方形に加工、表面磨面。上面中央に円形の凹みあり。上面に円形の柱痕跡あり、この部分のみ加工痕残。	不明	出土地不明
第159図 図版124 38	礎石	—	37.0 38.0 14.8	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。平面形方形に加工、表面磨面。上面中央に方形の凹みあり。上面中央に方形に漆喰付着、柱痕跡か。上面中央に十字の変色部あり。	不明	出土地不明
第160図 図版125 39	礎石	—	42.0 48.1 25.5	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)、風化素材利用のためか多孔質。平面形方形に加工、表面磨面。上面中央に方形の凹みあり。上面に円形の柱痕跡あり。	不明	出土地不明
第160図 図版125 40	礎石	—	45.5 46.0 23.0	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。平面形方形に加工、表面磨面。上面中央に方形の凹みあり。上面に円形の柱痕跡あり。	不明	出土地不明
第160図 図版125 41	礎石	—	45.0 44.0 25.0	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)、風化素材利用のためか多孔質。平面形方形に加工、側面磨面。上面2角部に方形の凹みあり。	不明	出土地不明
第160図 図版125 42	礎石	—	51.1 52.5 19.6	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。板状の自然礫を利用。側面打剥整形により略円形。上面に円形の柱痕跡あり。	不明	出土地不明
第161図 図版126 43	礎石	—	51.5 51.0 15.0	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。円形の自然礫を上面平坦に加工、加工痕残。上面に方形の柱痕跡あり。下面には十字状の突起あり。	不明	出土地不明
第161図 図版126 44	礎石	—	90.5 83.0 33.0	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。自然礫を利用。中央部に平坦面。上面に柱痕跡あり。	不明	出土地不明
第161図 図版126 45	礎盤 (下)	装飾部	8.5 8.1 3.5	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。陽刻により連弁彫刻。礎盤より剥落。	表　K2　102	K2-102　表採
第161図 図版126 46	礎盤 (下)	装飾部	6.7 6.25 1.8	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。陽刻により連弁彫刻。礎盤より剥落。	不明	出土地不明
第161図 図版126 47	礎盤 (下)	装飾部	5.0 8.7 1.65	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。陽刻により連弁彫刻。礎盤より剥落。	S60	出土地不明
第161図 図版126 48	礎盤 (下)	装飾部	5.5 8.2 2.1	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。陽刻により連弁彫刻。礎盤より剥落。	表採	表採
第161図 図版126 49	礎盤 (下)	装飾部	7.1 10.0 1.25	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。陽刻により連弁彫刻。礎盤より剥落。	S60	出土地不明
第162図 図版127 50	礎盤 (上)	—	最大径 42.4 高さ 17.8	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。表面磨面。上面中央に方柱形の突起有、下面中央に円形の凹み。これら凹凸のみ加工痕残。下面に銘「一番」。	表　L0　100	L0-100　表採
第162図 図版127 51	礎盤 (上)	—	最大径 (47.0) 高さ 24.0	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。平面形円形に加工、側面磨面。上面欠損。下面には加工痕残。	不明	出土地不明
第162図 図版127 52	礎盤 (上)	—	最大径 (41.2) 高さ 15.8	石材:輝緑岩。破片。表面磨面。中央部にほぞ穴有。	SW1	K2-98･99　SW1
第162図 図版127 53	礎盤 (上)	—	最大径 (38.7) 高さ 22.3	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。表面磨面。上面中央に円形の凹み、下面中央に円柱形の突起有。これら凹凸のみ加工痕残。	不明	出土地不明
第162図 図版127 54	不明	—	24.9 21.8 12.0	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。方形に整形、表面磨面。両側中央部に凹部。側面に刻銘「奉行」「首美城領主」。	不明	出土地不明

注 「－」:計測不可、( ):推定

第50表　石製品観察一覧④

単位:cm

挿図番号 図版番号	器種	部位／分類	残存長 残存幅 厚さ	観察事項	旧出土地	新出土地
第162図 図版127 55	龍柱 (上)	掌	12.2 7.5 5.25	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。表面に細かい鱗を陽刻。掌部の剥落片か。	不明	出土地不明
第162図 図版127 56	龍柱 (上)	角	10.2 6.7 5.4	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。突起上に整形され、表面は研磨。形状より角部か。	不明	出土地不明
第163図 図版128 57	龍柱 (上)	胴体部	40.9 34.9 25.5	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)、表面風化のため変色。顎髭、腹板、前脚、胴部鱗を陽刻。側面下部にほぞ穴有り。古写真より下部龍柱との固定用の鎹の固定孔か。これら特徴より大龍柱胴部。	不明	出土地不明
第163図 図版128 58	龍柱 (下)	尾部	34.5 30.7 14.7	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。龍鱗等を陽刻。古写真より下部龍柱の尾の巻き付け部片か。	不明	出土地不明
第163図 図版128 59	龍柱 (上)	胴体部	49.0 20.0 27.0	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。顎髭、服板、鱗、火焔を陽刻。古写真より上部龍柱の胴体部破片。	不明	出土地不明
第163図 図版128 60	龍柱 (上)	爪	17.2 6.2 5.8	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。表面磨面。古写真より上部龍柱の爪部片。	不明	出土地不明
第163図 図版128 61	龍の髯	触覚髯	全長 約170	素材:鉄。基部に漆喰付着、固定用か。形状より触覚髯。 ※集計は金属製品に含まれる。	不明	出土地不明
図版129 62	龍柱 (上)	胴体部	7.8 4.4 2.7	石材:溶結凝灰岩。鱗を陽刻。	表　K1　102	K1-102　表採
図版129 63	龍柱 (上)	胴体部	8.3 7.6 3.6	石材:溶結凝灰岩。鱗・背鰭を陽刻。	表　L1　102	L1-102　表採
図版129 64	龍柱 (上)	胴体部	28.6 16.9 10.4	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。龍鱗等を陽刻。	正面部	出土地不明
図版129 65	龍柱 (上)	鬣	9.2 6.5 2.9	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。古写真より鬣の破片。	表　L2　102	L2-102　表採
図版129 66	龍柱 (上)	角部	10.6 3.7 3.9	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。表面研磨。形状より角部か。	表土 L1　102	L1-102　表土
図版129 67	龍柱 (上)	髯	8.4 9.0 5.8	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。髪を陽刻。形状より頬髯の破片か。	Ⅳ基壇化 粧石前プール	SP3
図版129 68	龍柱 (上)	胴体部	23.8 22.4 13.2	石材:細粒砂岩(ニービヌフニ)。鱗を陽刻。	L2　107 爆弾跡	爆弾跡④
図版129 69	龍柱	胴体部	6.3 7.0 5.4	石材:溶結凝灰岩。龍鱗を陽刻。胴体部片。	表土 K5　103	K5-103　表土
図版129 70	龍の髯	触覚髯	全長 63.5	素材:鉄。基部欠損。 ※集計は金属製品に含まれる。	不明	出土地不明

注 「－」:計測不可、( ):推定

第50表　石製品観察一覧⑤

単位:cm、g

挿図番号 図版番号	種類	材質	残存長 残存幅 厚さ	重量	観察事項	旧出土地	新出土地
第164図 62 図版130 71	硯	赤色頁岩	5.7 6.1 1.8	93.83	陸部欠損。製作痕跡:全周に研磨による線条痕。使用痕跡:池部に墨付着。	表　K0　96	K0-96　表採
第164図 63 図版130 72	硯	頁岩	7.1 7.2 2.0	182.81	池部欠損。製作痕跡:全周に研磨による線条痕。使用痕跡:陸部中央に凹み。銘:背面に片切彫による銘残るが、残存極小で内容不明。	表　L4　101	L4-101　表採
第164図 64 図版130 73	硯	粘板岩	13.9 7.9 2.15	510.40	略完形。製作痕跡:全周に研磨による線条痕。銘:背面に使用者とみられる氏名の釘書「岩井キエ」。石材・銘より本土産、近代。	第2　L3　96	L3-96　Ⅱ層
第164図 65 図版130 74	硯	粘板岩	12.2 6.45 1.65	258.50	略完形。製作痕跡:全周に研磨による線条痕。石材より本土産か。	K5　96　第1層	K5-96　Ⅰ層
第164図 66 図版130 75	硯	粘板岩	12.2 5.9 1.6	222.43	略完形。製作痕跡:全周に研磨による線条痕、陸部中央部に使用による磨面。使用痕跡:陸部下部に短軸方向に連続した刻線、池部に墨付着。銘:背面に使用者とみられる氏名の釘書「渡口真精」。石材・銘より本土産、近代。	不明	出土地不明
第164図 67 図版130 76	硯	凝灰岩	3.4 5.49 2.35	37.95	池部破片。製作痕跡:池部隅に研磨による線条痕。石材より本土産。	L0　L1　98 撹乱層	L0･1-98 撹乱層
第164図 68 図版130 77	硯	凝灰岩	4.0 6.0 2.35	34.68	池部破片。製作痕跡:全周に研磨による線条痕。石材より本土産。	かわや覆土	かわや跡 Ⅰ層
第図164 69 図版130 78	硯 (高島硯か)	頁岩	12.6 5.8 1.2	202.95	池部上端欠損。製作痕跡:全周に研磨による線条痕、黒色に塗色。使用痕跡:陸部中央に使用による凹み、凹部に墨付着。銘:背面に釘書、不鮮明のため内容不明。石材より本土産。	表　K1　101	K1-101　表採
第図164 70 図版130 79	硯 (赤間硯)	赤色頁岩	5.9 5.2 1.55	74.71	池部欠損。製作痕跡:全周に研磨による線条痕。使用痕跡:陸部中央に使用による凹み有、凹部内に刻み、墨付着。銘:背面に「赤間関」片切彫、使用者とみられる氏名の釘書「…康方」。石材・銘より幕末頃の赤間硯。	不明	出土地不明
第図164 71 図版130 80	文鎮	粘板岩	2.95 13.39 1.8	149.19	完形。製作痕跡:全周に研磨による線条痕、黒色に塗色。使用痕跡:部分的に塗色消失。一面に自然面残、同面に他の石材付着。	不明	出土地不明
第図164 72 図版130 81	石臼 (茶臼)	輝石安山岩	22.1 31.4 8.4	4.84 (kg)	下臼部の破片。推定径19.2cm、高さ9.0cm。残存部位より主溝推定8分画、副溝15条。加工痕:底面が加工時のノミ痕残、臼部外周・皿部に滑面。使用痕:主溝・副溝とも摩滅。	不明	出土地不明
第図164 73 図版130 82	石臼 (茶臼)	凝灰岩	24.7 14.9 8.0	4.32 (kg)	下臼部の破片。推定径16.4cm、高さ12.6cm。残存部位より主溝推定8分画、副溝は8条だが不規則。加工痕:底面が加工時のノミ痕残、臼部外周・皿部に滑面。使用痕:主溝・副溝とも摩滅。	不明	出土地不明
第図164 74 図版130 83	石臼	赤色頁岩	口径　37.2 ー ー	312.83	下臼の受け皿部片か。製作痕跡:外面・底部ノミ痕、内面研磨による線条痕あり。	第62　柱穴	K9-93　柱穴62
第図165 75 図版131 84	碁石	ガラス (黒色)	1.65 1.5 0.7	2.06	完形。製作痕跡:下面に切断痕。使用痕跡:なし。鏡餅型(上原分類)。	不明	出土地不明
第図165 76 図版131 85	駒	施釉陶器	2.0 2.05 0.7	4.22	完形。製作痕跡:前面及び下面縁辺に研磨による線条痕、背面に黒色の塗色残。使用痕跡:背面を除き塗色消失。鏡餅型(上原分類)。	表土	表土
第図165 77 図版131 86	碁石？	メノウ	1.75 2.0 0.8	4.08	完形。製作痕跡:なし。使用痕跡:なし。自然礫(上原分類)。	表土	表土
第図165 78 図版131 87	碁石？	閃緑岩	1.6 1.75 0.4	1.78	完形。製作痕跡:表面に研磨による線条痕あり。使用痕跡:なし。レンズ型(上原分類)。駒の可能性もあり。	K3　96　SW2 第2　石組 遺構内	K2-97　SW2
第図165 79 図版131 88	碁石	粘板岩	2.15 2.2 0.6	3.74	完形。製作痕跡:表面に研磨による線条痕あり。使用痕跡:なし。レンズ型(上原分類)。	表土　L1　102	L1-102　表土

注 「ー」:計測不可

第50表　石製品観察一覧⑥

単位:cm、g

挿図番号 図版番号	種類	材質	残存長 残存幅 厚さ	重量	観察事項	旧出土地	新出土地
第図165 80 図版131 89	碁石？	土製	2.0 2.0 0.7	3.02	完形。製作痕跡:表面に研磨による線条痕あり。使用痕跡:片側表面中央部に僅かに滑面化した凹み、指痕？自然礫(上原分類)。駒の可能性もあり。	SW9　遺構内	K1-96　SW9
第図165 81 図版131 90	駒？	緑色岩 (県外産)	4.0 3.9 2.9	57.14	完形。製作痕跡:全周に磨面。使用痕跡:片側表面中央部に僅かに滑面化した凹み。	第2　K6　98	K6-98　Ⅱ層
第図165 82 図版131 91	玉器	結晶質 石灰岩	5.7 1.95 1.35	8.54	破片。製作痕跡:全面磨面、指間のみ粗磨面。使用痕跡:なし。鳥の足部か？	K1　96	K1-96　表採
第図165 83 図版131 92	玉器	蛸石	2.4 0.7 0.15	0.28	下端欠損。製作痕跡:全周に研磨に伴う微細な線条痕。使用痕:なし。表裏面に長軸方向の線2条陰刻。	不明	出土地不明
第図165 84 図版131 93	玉器	翡翠	1.5 2.2 1.8	5.61	破片。製作痕跡:全周に削り痕、多面体形に面取り。使用痕跡:なし。	不明	出土地不明
第図165 85 図版131 94	玉器	翡翠	2.75 2.95 1.25	10.46	碗もしくは盤。胴部片。製作痕跡:全周に磨面及び微細な研磨による線条痕。使用痕:なし。	表　L2　99	L2-99　表採
第図165 86 図版131 95	玉器	不明	3.0 5.1 1.25	19.80	破片。製作痕跡:前面磨面、背面ノミ痕残。使用痕跡:なし。装飾:草花文肉彫。背面ノミ痕より別製品へのはめ込み式の装飾部品か？	不明	出土地不明
第図165 87 図版131 96	石筆	蛸石	4.9 0.6 0.6	3.20	上部欠損。製作痕跡:削り・研磨により身部面取り。使用痕跡:なし。	表土　L4　102	L4-102　表土
第図165 88 図版131 97	石球	細粒砂岩 (ニービヌフニ)	5.85 5.9 5.3	245.24	完形。製作痕跡:全周にノミ痕及び敲打痕。一部のみ平坦に粗研磨。使用痕:なし。	4基壇南壁 外側上部	南踊り場 断割⑤
第図165 89 図版131 98	石球	細粒砂岩 (ニービヌフニ)	7.0 7.05 6.6	421.81	完形。製作痕跡:全周に敲打痕。使用痕:なし。	K2　100　南石段(基壇)の内側の基段石列	南踊り場 断割①
第図165 90 図版131 99	弾	銅製	2.5 2.55 2.65	68.23	完形。製作痕跡:中央部一箇所に突起。切断痕？使用痕:なし。 ※集計は金属製品に含まれる。	第2基壇	Ⅱ期基壇
第図165 91 図版131 100	弾	土製	2.4 2.48 2.5	14.89	完形。製作痕跡:なし。使用痕跡:煤付着。下面に平坦面あり。 ※集計は土製品に含まれる。	表土　L3　92	L3-92　表土

注 「－」:計測不可

第51表　骨製品集計表

分　類	ボタン	歯ブラシ	骨ベラ	不明 (ボタン？)	合　計
個　数	3	2	2	1	8

第52表　骨製品観察一覧

単位:cm、g

挿図番号 図版番号	種類	材質	法量				観察事項	旧出土地	新出土地
			縦	横	厚さ	重量			
第166図 図版132 1	不明 (ボタン？)	不明	2.15	2.15	0.25	1.43	完形。製作痕跡:内面にケズリ痕、凹み、外面ミガキ。使用痕:なし。	かわや跡の 覆土中	かわや跡　Ⅰ層
第166図 図版132 2	歯ブラシ	ウシ？	4.45	1.15	0.35	2.24	柄部欠損。製作痕跡:植毛のための穿孔、研磨。使用痕:なし。	南側	Ⅶ期基壇 南踊り場 階段
第166図 図版132 3	歯ブラシ	ウシ？	8.35	0.80	0.70	5.29	ブラシ部欠損。製作痕跡:植毛のための穿孔、基部穿孔、研磨。使用痕:基部孔に鋲残。銘:「オハヨー」。	L0　98　撹乱	L0-98　撹乱層
第166図 図版132 4	骨ベラ	ウシ？	10.10	1.90	0.60	10.40	製作痕跡:全面研磨、基部穿孔。使用痕跡:利部先端欠損。釘書:表「ヨナバル　○」裏「マツル」。	南側	Ⅶ期基壇 南踊り場 階段
第166図 図版132 5	骨ベラ	ウシ？	6.20	1.45	0.55	6.58	利部欠損。製作痕跡:全面研磨、基部穿孔。横幅は1.00㎝～1.45㎝～1.80㎝。	L5　98　撹乱	L5-98　撹乱層

第53表　土製品集計表

分　類	建材			羽口	土弾	ミニチュア 土製品	不明 土製品	器種不明	合　計
	モルタル	漆喰	瓦質						
個　数	7	7	3	1	1	1	1	1	22

第54表　土製品観察一覧

単位:cm、g

挿図番号 図版番号	種類	材質	素地	法量				観察事項	旧出土地	新出土地
				縦	横	厚さ	重量			
第167図 図版133 1	器種不明	土製	にぶい黄褐色、泥質、白色粒まばら	3.45	1.35	0.90	5.80	下端欠損。方形に面取り、全面ミガキ、表裏中央部に凹み。器種不明。	K1-96	K1-96　表採
第167図 図版133 2	建材	瓦質	明赤褐色、瓦質、石灰岩粒多量	9.40	10.45	5.50	316.53	下・右側面欠損、残存面はいずれも平坦面。詳細不明。	K3　96　SW2 石組遺構内 （井戸状）	K2-97　SW2
第167図 図版133 3	建材	モルタル	—	10.30	7.10	2.60	179.68	正面及び下面を除く側面は磨面、特に正面顕著。焼成後正面から穿孔。器種不明。	表土　L1　100	L1-100　表土
第167図 図版133 4	ミニチュア 土製品	土製	淡黄色、泥質	1.50	1.70	0.25	0.72	半欠。型合わせ。正面・側面に自然釉。底部露胎。本土産(関西か)、近世。	SW4遺構内	K0・1-99　SW4

第55表　ガラス製品集計表

器種分類	ガラス瓶					化学用品	器種不明	合　計
	薬瓶	栓	蓋	インクボトル	ボトル	管		
個　数	6	4	1	2	1	4	3	21

第56表　ガラス製品観察一覧

単位:cm、g

挿図番号 図版番号	器種	縦 横 厚さ	重量	観察事項	旧出土地	新出土地
第168図 図版134 1	栓	2.90 幅　1.05 外径　2.30	8.69	淡緑色、栓部は端部に向かって細化、型成形。近現代。	不明	出土地不明
第168図 図版134 2	インクボトル	3.95 5.35 幅　4.35 －	43.88	淡緑色。型成形、長軸方向で溶着。外径2.2cm、内径1.3cm。近現代。	L1　98　撹乱	L1-98　撹乱層
第168図 図版134 3	薬瓶	6.30 2.30 1.00	10.93	透明。口部細口スクリューキャップ。型成形、長軸方向で溶着。口径0.9cm。近現代。	不明	出土地不明
第168図 図版134 4	薬瓶	4.10 2.80 1.00	4.84	透明。口部欠損。型成形、長軸方向で溶着。口径0.10cm。近現代。	不明	出土地不明
第168図 図版134 5	蓋	4.20 3.80 －	23.56	透明。型成形。化粧瓶蓋。最大幅は3.8cm。近現代。	不明	出土地不明
第168図 図版134 6	栓	5.25 棒状径　0.60 円径　小1.80 円径　大2.35	27.68	型成形。瓢箪状だが器種等不明。	SW1　遺構内	K2-98・99　SW1

注 「－」:計測不可

第57表　貝類遺体等集計表①（巻貝）

網名	腹足綱																																																								
科名	ミミガイ科			ニシキウズ科																		サザエ科																					アマオブネガイ科									ヤマタニシ科			トウガタカワニナ科		
種名	イボアナゴ			ニシキウズ			ムラサキウズ			ギンタカハマ			ベニシリタカ			サラサバティ			オキナワイシダタミ			リュウテン			ヤコウガイ			ヤコウガイの蓋			チョウセンサザエ			チョウセンサザエの蓋			カンギク			カンギクの蓋			マルアマオブネ			アマオブネガイ			ニシキアマオブネ			オキナワヤマタニシ			タイワンカワニナ		
生息地	Ⅰ-2-a			Ⅰ-2-a			Ⅰ-3-a			Ⅰ-4-a			Ⅰ-4-a			Ⅰ-4-a			Ⅱ-1-b			Ⅰ-4-b			Ⅰ-4-a			Ⅰ-4-a			Ⅰ-3-a			Ⅰ-3-a			Ⅱ-1-b			Ⅱ-1-b			Ⅱ-1-b			Ⅰ-1-b			Ⅰ-1-c			Ⅴ-8			Ⅳ-6		
	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
合　計	0	0	1	7	1	7	3	0	3	1	2	14	1	0	0	25	33	63	2	0	1	1	0	0	9	125	774	625	144	235	159	61	69	109	0	5	365	285	27	6	0	0	10	0	7	4	0	0	2	0	0	26	5	11	1	0	0
最小個体数	1			8			3			3			1			58			2			1			134			769			220			109			650			6			10			4			2			31			1		

網名	腹足綱																																																								
科名	オニノツノガイ科															ウミニナ科			フトヘナタリ科						ソデボラ科															スズメガイ科			タカラガイ科														
種名	オニノツノガイ			コオニノツノガイ			カヤノミカニモリ			ウミニナカニモリ（イワカニモリ）			クワノミカニモリ			イボウミニナ			カワアイ			センニンガイ			オハグロガイ			ネジマガキ			マガキガイ			スイジガイ			ソデボラ科不明			アツキクスズメ			ハチジョウダカラ			ホシキヌタ			ハナビラダカラ			キイロダカラ			ハナマルユキ		
生息地	Ⅰ-2-c			Ⅰ-2-c			Ⅰ-1-b			Ⅱ-1-b			Ⅰ-1-a			Ⅲ-1-c			Ⅲ-1-c			Ⅲ-0-c			Ⅱ-2-c			Ⅰ-2-c			Ⅰ-2-c			Ⅰ-2-c						Ⅰ-3-a			Ⅰ-1-a			Ⅰ-2-a			Ⅰ-1-a			Ⅰ-1-a			Ⅰ-3-a		
	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
合　計	10	13	1	1	0	0	6	0	0	714	181	7	142	86	2	1	2	0	8	0	0	2	0	0	141	2	0	1	0	0	127	139	6	0	2	1	0	1	21	1	0	0	0	1	0	4	0	2	29	2	3	1	0	0	8	16	22
最小個体数	23			1			6			895			228			3			8			2			143			1			266			2			1			1			1			4			31			1			24		

網名	腹足綱																																																							
科名	タカラガイ科			タマガイ科			オキニシ科									ヤツシロガイ科			フジツガイ科						アッキガイ科															オニコブシガイ科						エゾバイ科			イトマキボラ科								
種名	タカラガイ科不明			ホウシュノタマ			イワカワウネボラ			オキニシ			オオナルトボラ			ウズラガイ			フジツガイ			ホラガイ			ガンゼキボラ			ムラサキイガレイシ			アカイガレイシ			ツノレイシ			コイワニシ			オニコブシガイ			コオニコブシ			シマベッコウバイ			イトマキボラ			ナガイトマキボラ			チトセボラ		
生息地				Ⅱ-1-c			Ⅰ-2-a			Ⅰ-3-a			Ⅰ-1-a			Ⅰ-1-c			Ⅰ-2-a			Ⅰ-4-a			Ⅰ-2-a			Ⅰ-3-a			Ⅰ-1-a			Ⅰ-3-a			Ⅱ-1-a			Ⅰ-3-a			Ⅰ-2-a			Ⅱ-1-c			Ⅰ-2-a			Ⅰ-2-a			Ⅰ-1-a		
	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
合　計	0	0	5	3	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	1	1	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	4	0	0	2	0	0	1	0	0	2	1	1	25	0	1	7	1	3	4	1	2	0	0	1
最小個体数	1			3			1			1			1			1			1			2			1			1			1			4			2			1			3			25			8			5			1		

網名	腹足綱																																																							
科名	マクラガイ科			イモガイ科																																										タケノコガイ科			キセルガイ科			アフリカマイマイ科			ナンバンマイマイ科		
種名	サツマビナ			クロミナシ			ミカドミナシ			アンボンクロザメ			クロフモドキ			マダライモ			サヤガタイモ			ゴマフイモ			アカシマミナシ			ヤナギシボリイモ			ヤセイモ			キヌカツギイモ			ニシキミナシ			アジロイモ			イモガイ科不明			タケノコガイ			ツヤギセルガイ			アフリカマイマイ			シュリマイマイ		
生息地	Ⅰ-2-a			Ⅱ-2-c			Ⅰ-2-c			Ⅰ-2-c			Ⅰ-2-c			Ⅰ-1-a			Ⅰ-1-a			Ⅰ-2-c			Ⅰ-1-c			Ⅰ-2-a			Ⅰ-2-a			Ⅰ-2-a			Ⅰ-1-c			Ⅱ-2-c						Ⅰ-2-c			Ⅴ-8			Ⅴ-9			Ⅴ-8		
	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
合　計	2	0	0	2	0	0	3	0	0	2	0	0	0	1	2	7	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	2	1	0	2	1	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	5	3	1	0	0	2	0	2	0	0	3	1	0	0
最小個体数	2			2			3			2			1			7			2			1			1			3			3			1			1			1			5			1			2			1			1		

網名	腹足綱						ウニ綱			巻貝不明			合　計		
科名	オナジマイマイ科			カワザンショウガイ科			ナガウニ科								
種名	パンダナマイマイ			ウスイロオカチグサ			パイプウニ								
生息地	Ⅴ-9			Ⅳ-6											
	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
合　計	1	0	0	70	28	8	0	0	3	0	4	11	2708	1147	1331
最小個体数	1			98			1			4			3861		

※ 個体数は完形と殻頂を足した数。

第57表　貝類遺体等集計表②（二枚貝）

網名	二枚貝網																															
科名	フネガイ科								イガイ科					ウグイスガイ科						イタヤガイ科												
種名	エガイ					リュウキュウサルボウ				リュウキュウヒバリガイ				ミドリアオリ					クロチョウガイ					リュウキュウキンチャク					ツキヒガイ？				
生息地																																
	Ⅰ-1-a					Ⅱ-2-c				Ⅰ-1-a				Ⅰ-1-a					Ⅰ-1-a					Ⅰ-1-c					Ⅰ-1-c				
	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片
	左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右	
合　計	3	1	2	1	3	2	1	1	0	1	0	0	0	0	1	1	4	1	1	3	0	0	0	0	18	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
最小個体数	5					3					1					5					1					1					1				

網名	二枚貝網																															
科名	ウミギク科					イタボガキ科								ツキガイ科					キクザルガイ科					ザルガイ科									
種名	メンガイ(の一種)					オハグロガキ				カキの一種				ウラキツキガイ					キクザル(の一種)					リュウキュウザル					カワラガイ				
生息地																																
	Ⅰ-2-a					Ⅰ-1-a								Ⅱ-2-c					Ⅵ					Ⅱ-2-c					Ⅱ-2-c				
	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片
	左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右	
合　計	4	2	3	0	13	0	1	0	0	0	10	2	0	0	9	73	60	14	9	16	0	1	0	0	0	3	1	0	1	6	4	5	2	3	1
最小個体数	7					1					10					87					1					3					8				

網名	二枚貝網																															
科名	シャコガイ科																				チドリマスオ科					フジノハナガイ科							
種名	ヒメシャコガイ					ヒレシャコガイ					オオシラナミ(シラナミ)					シラナミ類					シャコガイ科不明					イソハマグリ					リュウキュウナミノコ				
生息地																																
	Ⅰ-2-a					Ⅰ-2-c					Ⅰ-1-c															Ⅰ-1-c					Ⅱ-1-c				
	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片
	左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右	
合　計	6	6	1	0	4	23	18	15	11	121	2	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	1	5	98	85	38	27	4	1	0	0	0	0
最小個体数	7					38					2					1					1					136					1				

網名	二枚貝網																															
科名	ニッコウガイ科													シオサザナミ科							シジミ科					マルスダレガイ科							
種名	ニッコウガイ					サメザラ					リュウキュウシラトリ					マスオガイ					リュウキュウマスオ					シレナシジミ					ヌノメガイ				
生息地																																
	Ⅱ-2-c					Ⅰ-2-c					Ⅰ-2-a					Ⅱ-1-c					Ⅱ-1-c					Ⅲ-0-c					Ⅱ-2-c				
	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片
	左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右	
合　計	0	0	1	0	0	0	1	1	0	3	1	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	7	0	0	9	9	7	6	0	10
最小個体数	1					1					1					1					2					7					15				

網名	二枚貝網																															
科名	マルスダレガイ科																															
種名	アラスジケマンガイ					ホソスジイナミガイ					ユウカゲハマグリ					イオウハマグリ					マルオミナエシ					スダレハマグリ					ハマグリの一種				
生息地																																
	Ⅲ-1-c					Ⅱ-1-c					Ⅱ-2-c					Ⅱ-1-c					Ⅰ-2-c					Ⅱ-1-c					Ⅱ-2-c				
	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片
	左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右	
合　計	1408	1327	484	541	433	36	27	9	3	2	3	4	3	4	1	11	4	0	4	0	1	0	0	0	0	10	8	5	10	19	0	0	1	0	2
最小個体数	1892					45					8					11					1					18					1				

網名	二枚貝網								二枚貝不明					合　計				
科名	マルスダレガイ科																	
種名	ハマグリ					オキシジミ												
生息地																		
	Ⅱ-2-c					Ⅲ-1-c												
	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片
	左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右		左	右	左	右	
合　計	42	55	82	68	159	11	15	1	4	4	2	2	0	0	18	1767	1647	672	689	873
最小個体数	124					19					2					2469				

第60表　脊椎動物遺体集計表①（魚類）

目・科・種名・部位							個　数	
メジロザメ目	メジロザメ科	メジロザメ	脊椎骨					6
エイ目	科不明	エイの一種	脊椎骨					10
ボラ目	ボラ科	ボラ？	主鰓蓋骨		R	L	1	
ダツ目	ダツ科	ダツ	前上顎骨		R	L	1	1
			歯骨		R	L		1
スズキ目	ハタ科	A	前上顎骨		R	L		2
			歯骨		R	L	5	5
		B	前上顎骨		R	L	4	
			歯骨		R	L	3	
		ハタ科の一種	主上顎骨		R	L	13	8
			角骨		R	L	5	8
			方骨		R	L	3	6
			舌顎	a	R	L		1
			舌顎		R	L	2	9
			前鰓蓋骨	a	R	L	1	1
				b	R	L	5	7
			前鰓蓋骨		R	L		1
			主鰓蓋骨		R	L	1	1
			擬鎖骨		R	L	9	9
			鋤骨					1
	アジ科	ブリ	前上顎骨		R	L	1	
		イトヒキアジ類	歯骨		R	L	1	
	フエダイ科	ヒメフエダイ	前鰓蓋骨		R	L	1	
		A	前上顎骨		R	L	1	1
		B	前上顎骨		R	L		2
			歯骨		R	L	2	
		C	前上顎骨		R	L	1	
		フエダイ科の一種	舌顎		R	L	3	2
	タイ科	ヘダイ	前上顎骨		R	L	1	
			歯骨		R	L		1
		クロダイ	前上顎骨		R	L	2	5
			歯骨		R	L	4	3
			主上顎骨		R	L	3	4
		ミナミクロダイ	前上顎骨		R	L		1
			前鰓蓋骨		R	L	1	
		タイワンダイ	前上顎骨		R	L	1	
			前鰓蓋骨		R	L	1	
		タイ科の一種	主上顎骨		R	L	1	
			舌顎		R	L		1
	フエフキダイ科	ヨコシマクロダイ	前上顎骨		R	L	1	2
			前鰓蓋骨		R	L	1	
		アマミフエフキ	前上顎骨		R	L		1
			舌顎	b	R	L		3
			舌顎		R	L	1	
		イソフエフキ	前上顎骨		R	L	3	5
			角骨		R	L		2
		ハマフエフキ	前上顎骨		R	L	27	16
			歯骨		R	L	11	10
			主上顎骨		R	L	18	13+③
			口蓋		R	L	16	12
			角骨		R	L	15	14
			方骨	a	R	L	5	2
				b	R	L	12	9
				c	R	L	4	3
			方骨		R	L	1	2
			舌顎		R	L	13	10
			前鰓蓋骨		R	L	12	16
			主鰓蓋骨		R	L	6	4
			副楔骨					10
	シマイサキ科	コトヒキ	主鰓蓋骨	c	R	L	1	1

第60表　脊椎動物遺体集計表②（魚類）

目・科・種名・部位							個　数	
スズキ目	ベラ科	コブダイ	前上顎骨		R	L	17	8
			歯骨		R	L	2	3
			上咽頭骨		R	L		1
			下咽頭骨					6
		タキベラ	上咽頭骨		R	L		1
		カンムリベラ	前上顎骨		R	L	1	3
			歯骨		R	L		1
		A	下咽頭骨					2
		ベラ科の一種	前上顎骨		R	L	1	
			歯骨		R	L	1	3
			主上顎骨		R	L	5	8
			角骨		R	L	8	8
			前鰓蓋骨	i	R	L	1	
	ブダイ科	イロブダイ	前上顎骨		R	L	4	2
			歯骨		R	L		1
			上咽頭骨		R	L	1	1
		ナンヨウブダイ	上咽頭骨		R	L	4	4
			下咽頭骨					4
		ナガブダイ	上咽頭骨		R	L		1
			下咽頭骨					9
		A	前上顎骨		R	L	7+①	4
			歯骨		R	L		4
		B	前上顎骨		R	L	8	7
			歯骨		R	L	12	6
		C	歯骨		R	L	1	2
		ブダイ科の一種	主上顎骨	A	R	L	4	3
				B	R	L	9	4
			主上顎骨		R	L	1	1
			口蓋	a	R	L		2
				b	R	L		1
			口蓋		R	L	5	2
			角骨	A	R	L	8	4
				B	R	L	6	14
			角骨		R	L	1	
			方骨		R	L	6	2
			舌顎		R	L	6	7
			前鰓蓋骨	f	R	L	1	
			前鰓蓋骨		R	L	4	6
			主鰓蓋骨		R	L	7	8
	ブダイ科？		主上顎骨		R	L		2
			前鰓蓋骨	c	R	L	1	
	アイゴ科	アイゴ科の一種	舌顎	f	R	L	1	
			前鰓蓋骨	d	R	L	1	
			擬鎖骨		R	L		1
	ニザダイ科	ニザダイ科の一種	主鰓蓋骨		R	L	1	
			鱗					10
	カマス科	カマス科の一種	前上顎骨		R	L		1
			歯骨		R	L		2
	スズキ目		前鰓蓋骨		R	L		1
フグ目	カワハギ科	カワハギ類	背鰭棘					2
	フグ科	フグの一種	前上顎骨		R	L		1
	ハリセンボン科	ハリセンボン科の一種	棘					5
科・種不明			口蓋	b	R	L	8	1
			方骨		R	L		1
			舌顎	a	R	L	1	1
				c	R	L		1
				d	R	L	2	

第60表　脊椎動物遺体集計表③（魚類）

目・科・種名・部位					個　数	
科・種不明	前鰓蓋骨	a	R	L	1	
		e	R	L	2	
		f	R	L		1
		g	R	L	1	
	主鰓蓋骨	a	R	L	1	2
		b	R	L	2	1
	主鰓蓋骨		R	L	2	
	上咽頭骨		R	L	1	3
	擬鎖骨		R	L		1
	鋤骨					6+①
	背鰭棘					7
	臀鰭血管間棘					22
	第2臀鰭棘					19
	脊椎骨					795+③
	尾椎					28
合　計						1677

注　○:キズあり

第60表　脊椎動物遺体集計表④（ウミガメ）

種　類	部　位	個　数
ウミガメ	肋骨板	1
		1
		1
		1
		1
		2
	指骨	1

第60表　脊椎動物遺体集計表⑤（ニワトリ）

部　位		右	左	不明
鎖骨		0	0	1
烏口骨	完存	1	2	0
	近位端	1	2	0
	近位部～遠位端	0	1	0
	遠位端	1	0	0
椎体	胸椎	0	0	1
肩甲骨	近位端	0	1+①	0
胸骨		0	0	1
上腕骨	完存	①	1	0
	両骨端はずれ	0	{1}	0
	近位端	3	1	0
	近位部	0	2	0
	近位部～遠位端	1	0	0
	近位部～遠位部	1	1	0
	近位部～骨体	0	1	0
	骨体	3	2	0
	骨体～遠位部	0	2	0
	骨体～遠位端	5	4+②	0
	遠位部	1	2+①	0
	遠位端	4	2	0
橈骨	完存	0	1	0
	近位端～遠位部	0	1	0
	骨体	3	0	0
	骨体～遠位端	1	2	0
	遠位端	3	1	0
尺骨	完存	1	0	0
	近位端	1	1	0
	近位端～骨体	1	0	0
	近位部	0	1	0
	近位部～遠位部	0	1	0
	近位部～遠位端	1	0	0
	近位部～骨体	0	1	0
	骨体	4	4	0
	骨体～遠位端	2	7	0
	遠位端	1	0	0
中手骨	近位端	1	0	0
大腿骨	完存	1	1	0
	近位端	2	1+①	0
	近位端～骨体	5+③	2	0
	近位端～遠位部	0	2	0
	近位部	3	0	0
	近位部～遠位部	2	1	0
	近位部～骨体	2	1	0
	骨体	3	3	0
	骨体～遠位部	2	2	0
	骨体～遠位端	3	1	0
	遠位部	1	0	0
	遠位端	0	1+②	0

部　位		右	左	不明
脛骨	完存	0	1	0
	近位端	①	0	0
	近位端～骨体	2	4	0
	近位端～遠位部	1	1	0
	近位部～骨体	1	0	0
	近位部～遠位部	1	0	0
	近位部～遠位端	1	0	0
	骨体	10	10	0
	骨体～遠位部	5	1	0
	骨体～遠位端	5	4+①	0
	遠位部	0	2	0
	遠位端	1	6+①	0
中足骨	近位端	1	2	0
	近位端～骨体	0	3	0
	近位部	1	0	0
	骨体	3+(♂1)	3+(♀1)	0
	遠位部	2	0	0
	遠位端	2	2	0
	破片	1	0	0
合　計		107	109	3

※ ○:キズあり、(♀):メス、(♂):オス、{　}:幼

第60表　脊椎動物遺体集計表⑥(トリ)

種　類	部　位	右/左	残存部位	個　数
カモ類？	上腕骨	右	近位部～骨体	1
	脛骨	右	骨体	1
キジバトか	尺骨	右	完形	1
アホウドリ？	橈骨	右	骨体	1
トリ	上顎骨	－	－	1
				1
	上腕骨	左	近位端～遠位部	1
		右	近位端～骨体	1
		右	骨体	①
	尺骨	左	近位部～遠位端	1
		左	骨体	1
		左	遠位端	1
	脛骨	左	骨体	1
		左	骨体～遠位部	1

※　○:キズあり

第60表　脊椎動物遺体集計表⑦（ネズミ）

部　位	残存部位	右/左	個　数
寛骨	完形	右	1
大腿骨	近位端～遠位骨端はずれ	左	1
脛骨	完形	左	1
	両骨端はずれ	右	1
尾椎		―	1

第60表　脊椎動物遺体集計表⑧（イヌ）

部　位	右/左	残存部位	個　数
肩甲骨	右	遠位端	1
橈骨	左	近位部	1
中手骨Ⅲ	右	完形	1
中手骨Ⅳ	右	完形	1
中足骨Ⅱ	左	近位端	1
中足骨Ⅲ	右	完形	1

第60表　脊椎動物遺体集計表⑨（ジュゴン）

部 位	個 数
肋骨	1
	1
	2
	1
歯	2

第60表　脊椎動物遺体集計表⑩（ウマ）

部　位		右	左	不明
下顎骨	M_3	1	0	0
肋骨	破片	0	0	2
肩甲骨	破片	1	0	0
肩甲骨？	破片	0	1	0
橈骨	骨体	0	1	0
手根骨	第3	0	1	0
寛骨	腸骨部～臼部	1	0	0
	臼部	1	0	0
	坐骨	0	1	0
大腿骨	近位骨端のみ	2	0	0
	遠位部	1	0	0
	破片	2	0	0
脛骨	近位端	0	1	0
	近位部	0	1	0
	遠位端	0	2	0
距骨		2	1	0
踵骨	完形	1	0	0
	近位端～遠位部	1	0	0
中手骨	骨端のみ	①	0	0
基節骨		1	1	0
中節骨		1	0	0
部位不明	破片	0	0	1
合　計		16	10	3

注　○:キズあり

第60表　脊椎動物遺体集計表⑪（ヤギ）

部　位	右/左	残存部位	個　数
下顎骨	左	—	1
上腕骨	左	遠位端	1
橈骨	左	近位端	1
	左	遠位部	1
	左	遠位端	1
尺骨	左	近位端	1
大腿骨	右	近位部～遠位部	1
	左	近位端～遠位部	1
基節骨	右	完形	1

第60表　脊椎動物遺体集計表⑫（ウシ歯）

部　位	右/左	残存部位	個　数
上顎骨	右	dm^4	1
		M^2	1
	左	dm^3	1
		dm^4	1
			1
		P^2	1
		P^3	1
		M^2	1
		M^3	1
			1
下顎骨	右	I	2
		P_2	1
		P_3	1
		M_2	1
			1
	左	I	2
		dm_3,dm_4,M_1	1
		M_1	1
		M_2	1
		M_3	1
			1
	不明	歯	2

第60表　脊椎動物遺体集計表⑬（ウシ）

部　位		右	左	不明
頭骨	側頭骨	0	1	0
下顎骨	下顎骨	2	1	0
	筋突起	1	0	0
	破片	1	0	0
椎体	環椎	0	0	①
	軸椎	0	0	2
	頸椎	0	0	2+②
	胸椎	0	0	8
	胸椎　棘突起	0	0	1
	腰椎	0	0	2
	椎体	0	0	3
肋骨	近位～	0	0	2
	肋骨	0	0	6+③
	軟骨	0	0	3+(5)
	破片	0	0	①
肩甲骨	臼部	0	1	0
	近位端	1	0	0
	骨体	3	1	0
	遠位部	0	1	0
	破片	4+①	3	0
上腕骨	近位骨端のみ	1	0	0
	遠位部	4	3	0
	遠位骨端のみ	0	1	0
	破片	3+①	2	0
橈骨	近位端	1	0	0
	近位端～骨体	1	0	0
	近位部	1	0	0
	骨体	0	1+①	0
	遠位骨端のみ	0	1	0
橈骨+尺骨	近位部	0	1	0
尺骨	近位骨端はずれ～遠位部	1	0	0
	近位端～骨体	1	0	0
	近位部～遠位部	1	0	0
	破片	2	0	0
橈側手根骨	完存	1	0	0
手根骨	完存	0	2	0
中手骨	近位端～骨体	0	1	0
	骨体	1	0	0
	破片	0	0	1
寛骨	腸骨部	0	1	0
	臼部	2	4	0
	破片	1	3	0
大腿骨	近位骨端のみ	1	2	0
	近位骨端はずれ	0	1	0
	近位端	1	0	0
	骨体	2	0	0
	遠位部	0	2	0
	遠位端	1	0	0
	破片	1+①	7	2

部　位		右	左	不明
脛骨	近位骨端のみ	1	1	0
	近位部	1	2+①	0
	骨体	{1}	0	0
	骨体～遠位部	0	3	0
	遠位部	2	0	0
	遠位骨端はずれ	1	0	0
	破片	4	7	1
踵骨		2	0	0
足根骨	第4中心	0	2	0
中足骨	近位端	1	0	0
	近位端～遠位部	0	2	0
	骨体	0	2	0
	遠位端	1	0	0
	破片	1	3	3+①
基節骨		5	4	0
中節骨	完存	0	4	0
	遠位端	0	1	0
末節骨		0	1	0
部位不明	破片	0	0	6+①
合　計		62	74	56

注（）:破片、○:キズあり、{}:幼

第60表　脊椎動物遺体集計表⑭（ウマかウシ）

部　位	右/左	残存部位	個　数
頭骨片			1
肩甲骨	左	破片	1
大腿骨	左右不明	遠位骨端のみ	1

第60表　脊椎動物遺体集計表⑮（イノシシ／ブタ歯）

部　位	右/左	残存部位	個　数
上顎骨	左	$M^{1\sim3}$	1
	右	M^{2}	1
	左	M^{3}	1
下顎骨	左	I_{2}	1
	左	C	1

第60表　脊椎動物遺体集計表⑯（イノシシ／ブタ）

部位		右	左	不明
頭骨	側頭骨	1	1	0
上顎骨		1	1	0
下顎	下顎骨	1	1	0
	筋突起	0	1	0
椎体	環椎	0	0	2
	頸椎	0	0	1
	胸椎	0	0	5
	腰椎	0	0	5
	椎体	0	0	8
	仙骨	0	0	2
	破片	0	0	3
肋骨	肋骨	15+②	14+①	0
肩甲骨	骨体	5	8	0
	骨体～遠位部	0	1	0
	遠位端	2	4	0
上腕骨	近位端	1	1	0
	近位骨端はずれ	1	0	0
	近位骨端はずれ～遠位部	0	1	0
	近位部～骨体	0	1	0
	骨体	2	4	0
	骨体～遠位部	0	①	0
	遠位部	1	1	0
	遠位端	2	2	0
	破片	4	2	0
橈骨	近位端	1	0	0
	近位端～骨体	0	1	0
	近位端～遠位骨端はずれ	1	1	0
	近位骨端はずれ	1	0	0
	近位部～骨体	0	2	0
	骨体	0	2+①	0
	骨体～遠位端	1	0	0
	遠位骨端はずれ	0	1	0
橈骨・骨体＋尺骨・骨体		0	1	0
尺骨	近位骨端はずれ	0	1	0
	近位骨端はずれ～骨体	0	①	0
	近位部～遠位部	①	0	0
	骨体	2	2	0
中手骨	Ⅱ	6	2	0
	Ⅲ	1+①	7+①	0
	Ⅳ	5	6	0
	Ⅴ	1	1	0

部位		右	左	不明
寛骨	腸骨部	5	0	0
	臼部	2	2	0
	臼部～坐骨	0	1	0
	坐骨	1	0	0
	骨体	1	3	①
大腿骨	近位骨端はずれ	0	①	0
	近位骨端はずれ～骨体	1	0	0
	近位部～骨体	1	0	0
	近位部～遠位部	1	0	0
	骨体	3	4	0
	骨体～遠位部	1	0	0
	骨体～遠位骨端はずれ	0	1	0
	遠位部	0	1	0
	遠位骨端はずれ	1	0	0
	遠位骨端のみ	1	1	0
	破片	2	0	1
膝蓋骨		1	0	0
脛骨	近位端骨端欠	0	①	0
	近位部	0	1	0
	近位部～骨体	1	0	0
	骨体	5	2+①	0
	骨体～遠位部	①	0	0
	骨体～遠位端	1	0	0
	遠位骨端はずれ	0	1	0
	遠位端	①	2	0
	破片	0	1	0
腓骨	遠位骨端のみ	0	1	0
距骨		0	1	0
踵骨		6	2	0
中手・中足骨		6	4	3
中足骨	Ⅱ	1	5	0
	Ⅲ	4	1	0
	Ⅳ	3	1	0
基節骨		4	4	0
中節骨		1	0	0
末節骨		2	1	0
部位不明		0	0	1
合　計		116	118	32

注　○:キズあり

第60表　脊椎動物遺体集計表⑰（ヒト）

部　位	個　数
歯	1

第60表　脊椎動物遺体集計表⑱（ヘビ）

部　位	個　数
脊椎骨	43
肋骨	76

第60表　脊椎動物遺体集計表⑲（種不明）

部　位	個　数
尾椎	1
部位不明	1